



# KOBE CITY HOSPITAL BULLETIN

Vol. 53, 2014

Kobe City Hospital Organization

## 神戸市立病院紀要

平成26年 第53巻

神戸市立医療センター中央市民病院  
神戸市立医療センター西市民病院  
西神戸医療センター  
先端医療センター

地方独立行政法人 神戸市民病院機構

# KOBE CITY HOSPITAL BULLETIN

An Annual Review of  
Medical Science and Practice

Kobe City Hospital Organization

## EDITORIAL BOARD

Takashi Ishihara, M.D., Chairman

Yasushi Naito, M.D.

Mutsushi Kawakita, M.D.

Yutaka Furukawa, M.D.

Akira Harada, M.D.

Hiromi Tomioka, M.D.

Tatsuya Horikawa, M.D.

Kousaku Matsubara, M.D.

Hisako Hashimoto, M.D.

# 巻頭の辞

神戸市立病院紀要第53巻が発行の運びとなりました。すでに半世紀を超える長きにわたって継続していることは多くの方々のご尽力のたまものと敬意を表します。

ここ数年、初期研修医採用試験に携わっています。受験申込用紙には医師を目指した理由を記載する欄がありますが、ほとんどの受験生が「人を助けることができる」、「病気の人の力になることができる」ことをあげています。「そんなものは受験のテクニックの基本ですよ」と言ってしまうと身も蓋もないのですが、この動機は医療者としての最も基本的な存在意義を示しているものと考えています。

さて、平成25～26年度にかけて医学・医療の分野で論文不正が話題になりました。1つはバルサルタンの臨床研究におけるデータの不正操作です。製薬メーカーの社員が研究に関与してデータに操作を加えて不正な結論を誘導したものであり、当事者の逮捕にまで至っています。製薬会社は大きな利益を上げましたが、利益相反の点からも問題とされ、今後の臨床研究における企業との関係において、倫理面でのさらなる透明性の確保が求められるところと考えます。もう1つはSTAP細胞の問題が注目を浴びました。Natureに掲載された論文の主題であるSTAP現象の有無については、他の研究者による多くの追試が不成功に終わっていること、また、論文の万能性の証拠となる細胞の画像や、DNA解析画像の不適切な扱いなどの点が、Webを使った所謂「ソーシャル査読」などから明らかになり、ついには論文取り下げに至りました。バイオ研究は世界的な競争があり、常に成果が求められ、特許取得が要求され、将来の臨床応用に向けた広い視野が必要とされるなど、非常に厳しい研究環境にあると言われています。そのような環境下、専門家が分担して行われた研究でしたが、証明が不十分であり、STAP現象は仮説に戻っています。平成26年8月時点では、発表者自身による追試が計画されており、結果が待たれるところです。

本誌には、市民病院群や先端医療センターで、この1年間に行われた数多くの研究成果がまとめられています。いずれも職員の努力の結晶であり非常に貴重なものです。今後も医療者として、初心を忘れることなく、医学研究の根本にある目的を大切にして、また、市関連病院の職員としての市民に対する立場を自覚して、診療に、研究に、また教育に努力を重ねていくことが重要と考えます。

西神戸医療センター

院長 深谷 隆

# 目 次

## I. 総 説

- I. 1 原発性アルドステロン症 (PA) 診療アップデート  
……………先端医療センター病院長／東京医科歯科大学名誉教授 平 田 結喜緒…………… 1
- I. 2 情報システム院内開発10年間の取組みと実際  
……………神戸市立医療センター中央市民病院 医療情報部 樋 口 弘 実 他…………… 13

## II. 原 著

- II. 1 腎細胞癌に対するスニチニブ服用中の甲状腺機能に関する検討  
神戸市立医療センター中央市民病院 糖尿病・内分泌内科 数 馬 まりこ 他…………… 29
- II. 2 導出右側胸部誘導・背部誘導心電図の精度に関する評価  
— 標準 12 誘導心電図で左室肥大所見を有する症例での評価 —  
……………神戸市立医療センター中央市民病院 臨床検査技術部 川 井 順 一 他…………… 33
- II. 3 当院における禁煙外来の展開-開設への取り組みと約6年間の治療成績  
……………神戸市立医療センター西市民病院 呼吸器内科 富 岡 洋 海 他…………… 41

## III. 症例報告

- III. 1 リンパ節腫大を主訴とし遺伝子解析により診断された原発不明悪性黒色腫  
……………西神戸医療センター 免疫血液内科 田 坂 佳 資 他…………… 53

## IV. CPC 報告

- IV. 1 CPC報告 (2013年4月～2014年3月) (中央市民病院) ……………… 59
- IV. 2 CPC報告 (2013年4月～2014年3月) (西市民病院) ……………… 81

## V. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

### (1) 笠原ガン治療研究事業

- V. 1 移植後40日までのトロンボモジュリンの上昇が移植後早期死亡の予測因子となり得るか  
Can thrombomodulin be a predictor for mortality at 1 year after Hematopoietic stem cell transplantation?  
……………中央市民病院 血液内科 竹 田 淳 恵…………… 85
- V. 2 骨髄異形成症候群における核型の変化が生存に与える影響  
……………中央市民病院 血液内科 竹 田 淳 恵…………… 85
- V. 3 高齢者急性骨髄性白血病における同種造血幹細胞移植の有用性に関する検討  
……………中央市民病院 血液内科 長 畑 洋 佑…………… 86
- V. 4 多施設共同第II相臨床試験  
大腸癌肝転移切除後患者を対象としたカペシタビンとオキサリプラチン併用補助化学療法  
(XELOX) の忍容性試験  
Hepatectomy + XELOX for Liver Metastasis of Colorectal Cancer.  
……………中央市民病院 腫瘍内科 佐 竹 悠 良…………… 89

V. 5	進行再発膵臓癌においてKRAS遺伝子変異の有無は予後予測・効果予測因子となるか .....中央市民病院 腫瘍内科 佐竹悠良 他.....	90
V. 6	大型化された酸化再生セルローズ・合成吸収性防止材（インターシードXL <sup>®</sup> ）の有用性 .....中央市民病院 産婦人科 北正人 他.....	92
V. 7	吊り上げ式傍大動脈リンパ節廓清手術と開腹骨盤手術との併用（Hybrid手術）の試み .....中央市民病院 産婦人科 北正人 他.....	94
V. 8	抗がん剤による角膜および涙道障害の実態調査 .....中央市民病院 眼科 山田理香.....	96
V. 9	上部消化管同時性・異時性11重癌の一例 .....中央市民病院 頭頸部外科 篠原尚吾 他.....	98
V. 10	中咽頭がんにおける治療前FDG-PET検査の有用性 .....中央市民病院 頭頸部外科 菊池正弘.....	100
V. 11	拡散強調画像を用いた耳下腺腫瘍術前診断アルゴリズムの妥当性の検討 .....中央市民病院 頭頸部外科 菊池正弘.....	100
V. 12	当院で治療を行った口腔・咽頭癌患者に対する、フラッシング反応のアンケート調査と 重複癌発生率に関する研究 .....中央市民病院 頭頸部外科 原田博之 他.....	101
V. 13	当院における下咽頭癌の放射線治療成績 .....中央市民病院 放射線治療科 小坂恭弘 他.....	102
V. 14	救急外来で診断された悪性腫瘍 .....中央市民病院 救命救急センター 水大介.....	103
(2)	松本アレルギー疾患研究事業	
V. 15	アレルギー診療における抗原診断の有用性 .....中央市民病院 小児科 岡藤郁夫 他.....	104
VI.	病院別診療科別論文発表及び学会報告数 .....	105
VII.	論文発表	
VII. 1	中央市民病院 .....	107
VII. 2	西市民病院 .....	133
VII. 3	西神戸医療センター .....	137
VII. 4	先端医療センター .....	143
VIII.	学会報告	
VIII. 1	中央市民病院 .....	149
VIII. 2	西市民病院 .....	256
VIII. 3	西神戸医療センター .....	269
VIII. 4	先端医療センター .....	293

I. 総

説

# I. 総説

## I. 1 原発性アルドステロン症 (PA) 診療アップデート

平田 結喜緒

先端医療センター病院長／東京医科歯科大学名誉教授

### 要旨

代表的な内分泌性高血圧である原発性アルドステロン症 (PA) は副腎皮質からのアルドステロンの自律的な過剰分泌に基づく病態である。これまで高血圧の中でPAの頻度は低い (~1%以下) とされてきたが、最近では最も頻度が高い (3-10%) 2次性高血圧とされ、注目を集めている。近年画像検査の普及による副腎偶発腫の発見や内分泌検査で血中レニン・アルドステロンの測定が容易に行われるようになり、PAが発見される機会が増加している。またPA診療のガイドラインも策定され、一般医家にPAがcommon diseaseであることが広く認識されるようになった。過剰分泌されたアルドステロンによる心血管障害の発症を防止するためにもPAの早期診断、早期治療が重要な臨床的課題である。

本稿ではPAの成因として最近発見され注目されているイオンチャネル・ポンプの遺伝子変異を紹介し、次いでPA診療のアップデートを現行の診療ガイドラインに沿って、スクリーニング、機能確認検査、局在・病型診断、治療の選択の順に解説し、PAの診断法や治療法の現状と課題を概説し、最後にPAの臓器障害発症のメカニズムにリスクホルモンとしてのアルドステロンの重要性を解説する。

キーワード：原発性アルドステロン症 (PA)、アルドステロン産生腺腫 (APA)、特発性アルドステロン症 (IHA)、イオンチャネル・ポンプ遺伝子異常、診療ガイドライン、副腎静脈サンプリング (AVS)、心血管リスクホルモン  
(神戸市立病院紀要 53: 1-11, 2014)

## Primary aldosteronism:clinical practice update

Yukio Hirata

Director, Institute of Biomedical Research and Innovation Hospital, Kobe, Japan

Professor Emeritus, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan

### Abstract

Primary aldosteronism (PA), a typical endocrine hypertension, is characterized by disorder caused by an autonomous and excessive secretion of aldosterone from the adrenal cortex. Recently, PA has been recognized to be more prevalent (3-10%) among patients with hypertension than previously thought ( $\leq 1\%$ ). PA is frequently discovered as an adrenal incidentaloma by the imaging modalities and renin/aldosterone measurements by the routine endocrine tests currently available. Furthermore, the recently published clinical practice guidelines for the management of PA recommended that general clinicians recognize PA as a common disease. Thus it is a mandatory clinical task to diagnose and treat PA at the early stage to prevent aldosterone-induced cardiovascular injury.

In this review, I discuss on the genetic mutations of several ion channels/pumps recently identified in PA, then screening, confirmatory tests, localization・subtype diagnosis, and treatment of choice in PA patients according to the clinical guidelines, the current status and role of these guidelines, and finally the importance of aldosterone as a risk hormone for the development of PA-related cardiovascular injury.

Key words: primary aldosteronism (PA), aldosterone-producing adenoma (APA), idiopathic hyperaldosteronism (IHA), ion channel/pumps gene mutations, clinical practice guideline, adrenal vein sampling (AVS), cardiovascular risk hormone

(Kobe City Hosp Bull 53: 1-11, 2014)

はじめに

原発性アルドステロン症 (primary aldosteronism:PA) は治癒可能な2次性高血圧の代表的疾患である。副腎からアルドステロンが自律的に過剰分泌される結果、高血圧や低K血症をきたす。従来高血圧の原因としてPAの占める割合は比較的稀 (~1%以下) と考えられてきた。しかし最近ではその頻度が高い (3-10%) ことが明らかとなり、一般診療におけるPAの重要性が認識されるようになった。本邦での高血圧患者は約4000万人と推定されるので、少なくとも120万人ものPA患者が潜在していることになる。近年画像検査の普及による副腎偶発腫の発見や内分泌検査で血中レニン活性 (PRA) や血漿アルドステロン濃度 (PAC) の測定が容易に行われるようになり、PAが発見される機会が増加している。これには2008年米国内分泌学会 (AES) からPAの診療ガイドラインが発表され<sup>1)</sup>、本邦でも日本高血圧学会や日本内分泌学会から同様のガイドラインが発表されて、PAの存在が実地医家に広く認識されるようになったことが大きい。

本稿ではPAの病態、成因に関するホットトピックを紹介し、本邦での現行のPA診療ガイドラインに沿って診断法や治療法の現状と課題、更には今後期待される新たな診断法や治療法の展望を概説し、最後にリスクホルモンとしてのアルドステロンの意義を解説する。

## I. 原発性アルドステロン症 (PA) の病態

PAとは副腎球状層 (ZG) からミネラルコルチコイドであるアルドステロンが自律的で過剰に分泌されることにより、遠位尿細管でのNa再吸収亢進により高血圧 (容量依存性)、K、H<sup>+</sup>排泄やHCO<sub>3</sub><sup>-</sup>再吸収の亢進により低K血症や代謝性アルカローシスをきたす病態である。他にも筋力低下・麻痺、テタニー、多尿、耐糖能異常などの症状が出現する。1965年、ミシガン大学Connにより最初に報告されたことからConn症候群とも呼ばれる。PAにはいくつかの病型があるが、大部分は片側性のアルドステロン産生腺腫 (APA) および両側副腎過形成の特発性アルドステロン症 (IHA) である。稀に片側性に原発性副腎過形成 (PAH)、多発性微小結節 (UMN)、副腎癌、また両側性にグルココルチコイド奏功性アルドステロン症 (GRA) と呼ばれる家族性アルドステロン症 (FH I型) がある。片側性APAと診断できれば手術で腫瘍を取り除くことにより、治癒可能な2次性高血圧であることから、日常診療で高血圧患者を扱う一般臨床医にとってもPAの診断と治療は重要といえる。

## II. PAの成因についてのホットトピクス

最近PA、特にアルドステロン産生腺腫 (APA) において次々とイオンチャネルやイオンポンプの遺伝

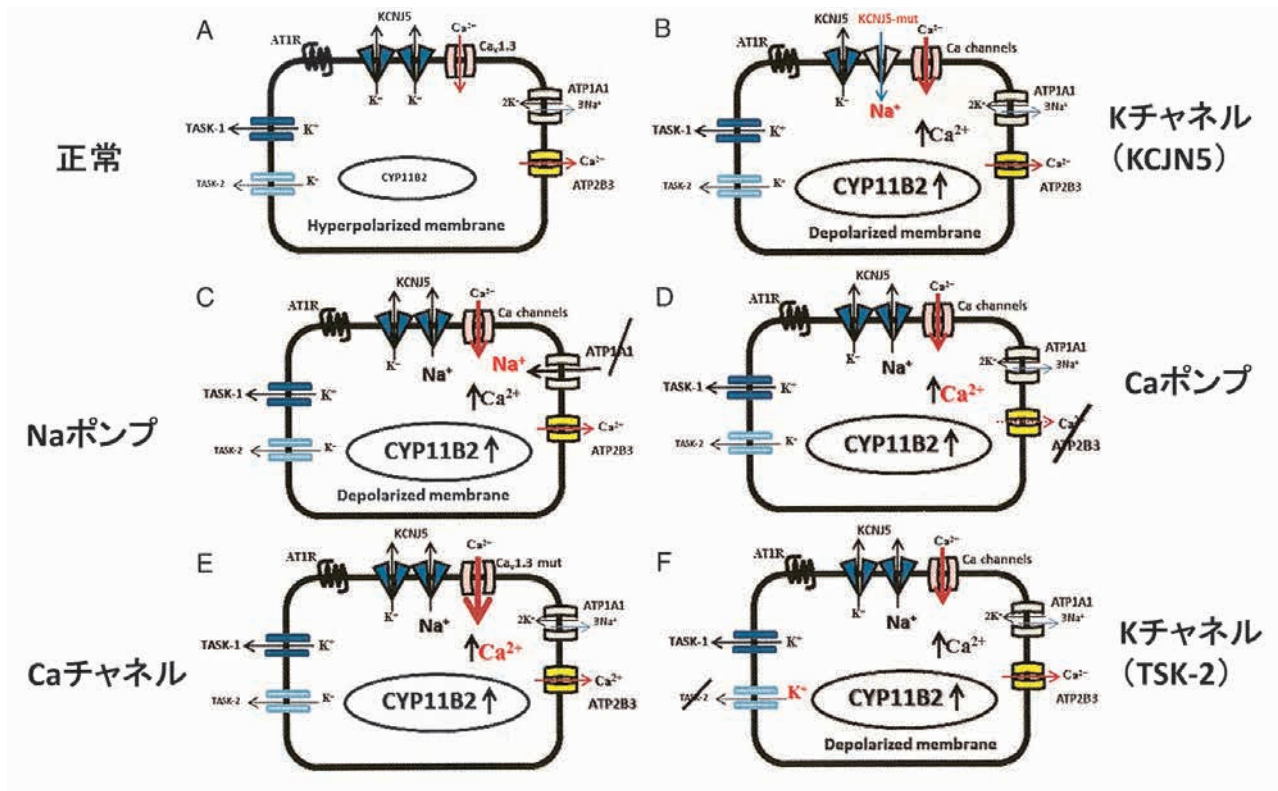


図1. APAでのイオンチャネル・ポンプの遺伝子変異<sup>2)</sup>



子変異が発見され注目されている(図1)<sup>2)</sup>。LiftonのグループはAPAにおけるKチャンネル(KCNJ5)の遺伝子変異を初めて明らかにした<sup>3)</sup>。副腎球状層(ZG)細胞のKチャンネル変異によってK選択性が消失すると、脱分極となり電依存性Caチャンネルを介したCa流入が増加し、恒常的に細胞内Ca濃度が増加することによって、アルドステロン合成・分泌の亢進や細胞増殖が促進する機序が想定されている。KCNJ5変異はAPAで高頻度(34-65%)に認められ、PACが高値の若い女性のPA患者に多い<sup>4)</sup>。次いでAPAでのNaポンプ(ATP1A1)やCaポンプ(ATP2B3)の遺伝子変異も頻度は低い(7%)が明らかにされ<sup>5)</sup>、男性で重症PA患者に多い。更にはCaチャンネル(CACNA1D)の遺伝子変異<sup>6)</sup>やKチャンネル(TASK-1)遺伝子の発現低下<sup>7)</sup>も報告されている。いずれもZG細胞でのチャンネルやポンプ異常により共通して細胞内Ca濃度が増加する結果としてアルドステロンの過剰分泌が生じると考えられるが、ZGでの体細胞変異の分子機構や細胞増殖異常(過形成、腺腫)との関連性は不明であり、その解明は今後の課題である。

一方ステロイド合成酵素の特異的抗体を用いた組織病理学的研究によってPAの病型分類に新たな概念が注目されている。従来から免染に汎用されるアルドステロン合成酵素(CYP11B2)特異的抗体が無いために、APAやIHAの組織病理診断は間接的な方法で行われてきた。NishimotoらはCYP11B2特異的抗体を用いて正常人のZGにアルドステロン産生細胞群(APCC)が存在することを初めて報告した<sup>8)</sup>。AVSで片側病変や両

側病変と診断されたPA患者で摘出副腎組織中に多発性APCCが存在する<sup>9)</sup>。多発性APCCがIHA, 結節性過形成, APAへと進展するかが今後解明すべき課題である。

時計遺伝子であるCry欠損マウスは食塩感受性高血圧で、レニン抑制、アルドステロン高値でIHAによるPAモデル動物であること、副腎ZGにはステロイド合成酵素の3β-hydroxysteroid dehydrogenase(HSD3B)が過剰発現していること、が報告された<sup>10)</sup>。HSD3Bには複数のアイソフォームが存在するが、ヒトでは1型(皮膚、胎盤)と2型(睾丸、卵巣)があり、HSD3Bアイソフォーム(I, II)に対する特異的抗体を用いて免染で組織病理学的に健常人およびPA患者(IHA, APA)でのHSD3Bアイソフォームの発現様式を解析すると、正常副腎では1型は主にZG, 2型は主に副腎束状層(ZF)に発現し、PA患者のIHAではZGに1型が過剰発現し、APAでは2型が過剰発現していた<sup>11)</sup>。またAPAの付随副腎で正常と考えられるZGには1型・2型ともに発現が低下し、ネガティブフィードバックによるものと推定される。このようなHSD3Bアイソフォームの発現様式の違いがPAの病型形成に直接関与するのは今後解明すべき課題である。

### Ⅲ. PA診療のアップデート

2014年に「高血圧治療ガイドライン2014(JSH2014)」が改訂され、PA診療の手順も若干変更された<sup>12)</sup>。PA診療ではスクリーニング、機能確認検査、病型・局在診断、治療法の選択といった一連のアルゴリズムが基本的なステップとなっている(図2)。まず高血圧患

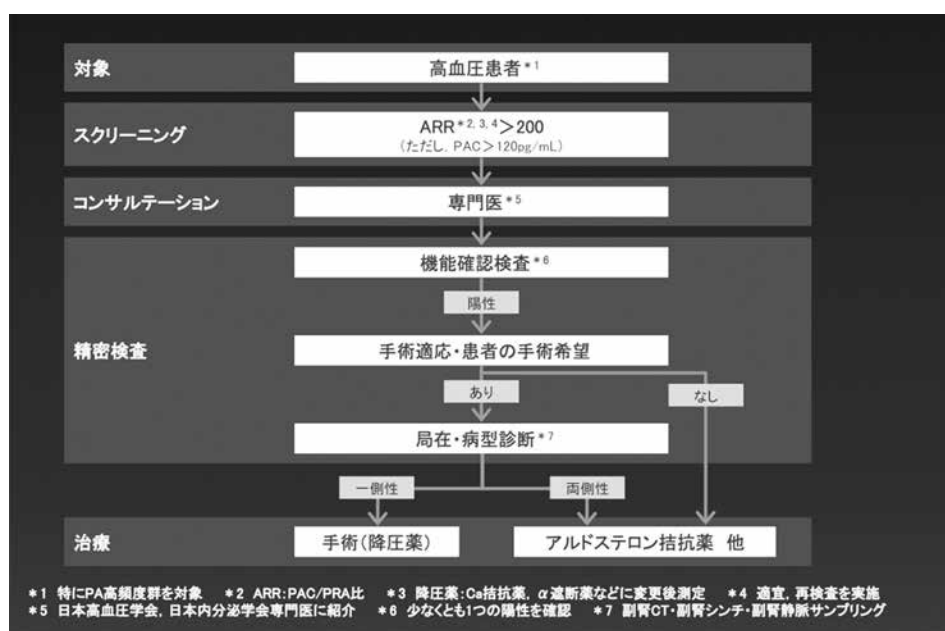


図2. PA診療の手順<sup>12)</sup>

者を対象にアルドステロン/レニン比 (ARR) による PA のスクリーニング、アルドステロンの自律的な過剰分泌の確認検査、副腎病変が片側性か両側性の局在診断、すなわちアルドステロン産生腺腫 (APA) か特発性アルドステロン症 (IHA) の病型診断、そして外科手術 (APA) か薬物治療 (IHA) かの治療方針を選択する。

### 1. スクリーニングの対象者

すべての高血圧患者で PA のスクリーニングを行うのが望ましいが、費用対効果や医療経済の問題がある。したがってスクリーニングは PA が高頻度に見られる高血圧患者 (ハイリスク群)、すなわち①低 K 血症 (利尿薬誘発性も含む) 合併、②若年性 ( $\leq 40$  歳)、③Ⅱ度以上 (中等度・重症)、③治療抵抗性 (降圧薬  $\geq 3$  剤)、④副腎偶発腫合併、⑤若年で脳血管障害合併、で推奨される。

### 2. スクリーニング方法

血漿アルドステロン濃度 (PAC : pg/ml) と血漿レニン活性 (PRA : ng/ml/hr) または活性レニン濃度 (ARC : pg/ml) の比、つまりアルドステロン/レニン比 (ARR : PRA を用いた場合  $\geq 200$ , ARC を用いた場合  $\geq 40$ ) および PAC ( $\geq 120$ ) をスクリーニングに用いる。ARR は分母のレニンの低値が大きく影響し、ARR 高値だけでは偽陽性が多くなるため、今回の改訂では PAC 高値を加えて特異性を高めている。しかしレニン・アルドステロンの測定法には以下のような課題もある。

PAC の測定は一般にラジオイムノアッセイ (RIA) により測定しているが、最近では非アイソトープ法によるイムノアッセイが主流となってきている<sup>13)</sup>。現在本邦では 2 種類のアルドステロン RIA キット、スパック-S (TFB) および DPC (三菱化学メディエンス)、が汎用されている。両者の間には良好な相関関係があり互換性があるものの、低濃度では変動係数が大きく、またアルドステロン標準品も統一されていないため、異なるアッセイ系で測定された PAC の絶対値の比較は困難である。また RIA に用いる抗体はポリクローナル抗体であるため将来的には枯渇することが予想される。最近長く頻用されてきた最も感度の良いバソプレシン RIA キット (三菱化学メディエンス) の抗体が枯渇したために販売中止となった。現在これに匹敵する代替キットが見当たらず、国内はもとより国際的にも 'バソプレシン危機' と呼ぶべき事態となっている。特に本邦では中枢性尿崩症の診断基準の項目に血

中バソプレシン濃度が採用されているため、その見直しに迫られている。したがって将来的にはイムノアッセイよりも精度・特異性が優れた高速液体クロマトグラフィー質量分析装置 (HPLC-MS/MS) を用いた PAC の測定が望まれる。検体の前処置、検体数の処理能力、コストなどの課題があるが、オンラインで自動化した HPLC-MS/MS 装置であれば 1 検体が 8 分で測定できる<sup>14)</sup>。

現在血中レニン測定は殆どの施設が PRA を用いている。PRA はあくまでレニンの酵素活性、すなわち基質のアンジオテンシノーゲンからアンジオテンシン I (AI) を生成する活性である。1 時間当たり血漿 1 ml 中で生成された AI (ng) を RIA で測定した単位 (ng/ml/hr) で表している。したがって検体はレニンが活性化されないように採血後直ちに氷冷容器に入れ、4℃で遠沈して、血漿を測定まで -20℃に保存する必要がある。また反応開始前 (ブランク) と開始後の AI を 2 回測定し、反応時間と温度も一定に設定する必要がある。一方、イムノアッセイで活性レニンを直接測定した ARC は PRA と違い、氷冷採血や冷凍保存の必要もなく、測定も簡便で時間も早い利点がある。しかし PA スクリーニングにおける ARC と PRA を比較した成績では、両者の精度はほぼ同じである<sup>15)</sup>。特に低濃度領域の ARC の基礎値はカプトリル刺激後よりも精度が低くなることから、現在の ARC 測定キットは PRA を凌駕するものではない。今後より低濃度の ARC 測定が可能な測定系の確立が望まれる。いずれにせよ将来はレニン・アルドステロンともに標準化された測定法を用いて国際的にも統一された数値の設定が必要である。

### 3. 採血条件

レニン・アルドステロン採血に当たり、原則として「早朝空腹時、最低 30 分の安静臥床後」といった厳密な条件下での採血が推奨されている。しかし多忙な診療の現場ではこのような条件は必ずしも当てはまらない。多忙な外来診療では少なくとも「15-30 分の安静座位後」の採血条件が現実的である。また降圧薬はレニン・アルドステロンに大きく影響するため (表 1)、未治療や 2 週間休薬して採血するのが望ましい。しかし降圧治療による血圧管理を最優先すべきであり、レニン・アルドステロンに影響が少ないとされる Ca 拮抗薬や  $\alpha$  遮断薬に変更して採血することが推奨される。特にアルドステロン拮抗薬 (スピノロラクトン、エブネロン) を使用した場合、長い休薬期間 (4-8 週)

を要するので注意を要する。いずれにせよ降圧薬による影響が除外できなければ、休薬あるいは代替薬に変更して再検すべきである。

#### 4. 機能確認検査

PA診療ガイドラインではスクリーニング陽性例にPAの確認検査を実施することが推奨されている。しかし推奨する確認検査法は複数あり、各検査法の優先度、組合せ、カットオフ値など必ずしも統一されていない。本邦では今回のJSH2014改訂<sup>12)</sup>で①カプトリル

試験 (ARR $\geq$ 200)、②フロセミド立位試験 (PRA $\leq$ 2)、③生食負荷試験 (PAC $\geq$ 60)、④経口食塩負荷試験 (一日尿中アルドステロン排泄 $\geq$ 8 $\mu$ g)、の4種類の確認検査 (表2) のうち、「少なくとも一種類の陽性を確認する」としている。一種類が陰性の場合、必要に応じて別の種類の追加検査を検討することが推奨される。

このように複数の検査法があるのはPAの成因が多様なため、アルドステロン分泌の自律性の程度 (アンジオテンシン非依存性) が様々であり、また一部

	PAC	PRA	ARR
ACE阻害薬/ARB	↓	↑↑	↓*1
$\beta$ 遮断薬	↓	↓↓	↑*2
直接的レニン阻害薬	↓	↓↓	↑*2
Ca拮抗薬	→~↓	↑	↓*1,3
アルドステロン拮抗薬 サイアザイド系利尿薬	↑	↑↑	↓*1

\*1 偽陰性の可能性  
\*2 偽陽性の可能性  
\*3 ACE阻害薬, ARBと比較して影響は軽度

表1. PAC, PRAおよびARRに及ぼす各種降圧薬の影響<sup>12)</sup>

	方法	陽性判定基準	副作用
カプトプリル試験	カプトプリル50mg 経口投与	ARR(60分または90分) $\geq$ 200*1	血圧低下
フロセミド立位試験	フロセミド40mg静注・2時間立位	PRA <sub>max</sub> $\leq$ 2.0ng/mL/時	起立性低血圧, 血清K低下
生理食塩水負荷試験	生食2L/4時間点滴静注	PAC(4時間) $\geq$ 60pg/mL	血圧上昇, 血清K低下 心・腎機能低下例は実施しない
経口食塩負荷試験	外来にて24時間蓄尿*2	尿中アルドステロン $\geq$ 8 $\mu$ g/日 (ただし, 尿中Na $\geq$ 170mEq/日*3)	血圧上昇, 心不全

\*1 PAC単位:pg/mLで計算 \*2 入院では食塩10-12g/日, 3日間摂取後 \*3 食塩負荷が十分なことを確認

表2. 機能確認検査の種類と概要<sup>12)</sup>

ACTHやKも影響するためといえる。機能検査の基本的な原理はアルドステロン分泌の自律性を証明することである。たとえばCushing症候群ではネガティブフィードバックを利用したデキサメタゾン抑制試験のような簡便で統一した確認検査法がある。欧米では容量負荷試験（生食負荷、フルオロコルチゾン・食塩負荷、経口食塩負荷など）によるアルドステロン分泌抑制の欠如の証明がPAの確認のゴールドスタンダード検査として汎用されている。しかし本邦では検査の煩雑さ、患者への負担と副作用、精度の点であり用いられない。事実、成瀬らは確認検査（①-③）のうちカプトリル試験とフロセミド立位試験の陽性率はほぼ同じで生食負荷試験よりも高く、スクリーニングで典型的な陽性例（ARR $\geq$ 1000またはPAC $\geq$ 250）では確認検査も省略可能と報告している<sup>16)</sup>。カプトリル試験は、経口薬で比較的短時間（60-90分）で終了でき、外来でも実施可能なため本邦では汎用されている。正常ではACE阻害により減少したアンジオテンシンIIがネガティブフィードバックを介してPRAを増加させ、同時にPACを低下させることから、判定にARRだけでなくPACのカットオフ値も設定すれば、より精度が高くなると予測される。今後これら複数の確認検査法を多施設で実施・比較し、最も優れた確認検査に統一されるべきであろう。

## 5. 局在・病型診断

確認検査が陽性であれば、PAと診断され、次いで局在診断、すなわち片側性（APA）と両側性（IHA）の病型診断を行う。本邦のガイドラインではPAの局在・病型診断として画像検査のCT（3mmスライス、造影）、アドステロール副腎シンチグラフィおよび副腎静脈サンプリング（AVS）が推奨される。副腎CTを用いた画像診断にて腫瘍の存在を確認するが、通常腫瘍（APA）は片側性である。しかし腫瘍径が小さい（<10mm）ためCTでは約半数でしか確認できず、また非機能性腫瘍の評価も困難である。一方副腎シンチグラフィは機能性腫瘍の判定には有用だが、腫瘍径が大きく（ $\geq$ 10mm）なければ検出できない。したがって正確にPAの局在・病型診断が可能な検査が必要となる。

### （1）副腎静脈サンプリング（AVS）

現在、選択的AVSはPAの片側性（APA）・両側性（IHA）の局在・病型診断のゴールドスタンダード試験となっている。AESや本邦のPA診療ガイドラインではAPAで手術を希望する患者ではAVSによって局在・病型診断

をすることが強く推奨されている。事実、CTでのPAの正診率（53%）<sup>17)</sup>、またCTとAVSの一致率（54%）<sup>18)</sup>といずれも約半数にとどまり、画像診断だけでAPAと診断すると高い誤診率（25-50%）になると警告している。

AVSは右副腎静脈が直接下大静脈（IVC）へ流入するため、技術的に右副腎静脈へのカテーテル挿入が難しいことが知られている。そこでAVSの成否判定の指標には副腎静脈/末梢血のコルチゾール比selectivity index（SI）が、また局在判定にはストレスや分岐部からの血液希釈の影響を是正するためにアルドステロンをコルチゾールで補正したlateralized ratio（LR）、contralateral ratio（CR）、ipsilateral ratio（IR）、PACの絶対値、などいくつかの指標が用いられている（表3）。

AVS成功のSI判定基準のカットオフ値は①ACTH刺激前：SI $\geq$ 2 ②ACTH刺激後：SI $\geq$ 3、が用いられる。また片側性の局在判定基準のカットオフ値は①ACTH刺激前：LR $\geq$ 2、CR<1あるいはIR $\geq$ 2.5、②ACTH刺激後：LR $\geq$ 4あるいはPAC $\geq$ 14000pg/ml、が用いられている。欧州（特にイタリア）ではACTH刺激はカテーテル挿入の成否にSIが用いられるが、局在診断には主にACTH非刺激時のLIやCRが用いられている。一方米国（特にMayo クリニック）では局在診断に主にACTH刺激後のLIが、また本邦（特に横浜労災病院）では主にACTH刺激後のPACが用いられている。それぞれの判定基準のカットオフ値は施設により異なり、またその判定結果も必ずしも全てが一致するとは限らないため、AVSの結果は総合的に判断する。アルドステロンの過剰分泌が片側性であればAPA、両側性であればIHAと病型診断される。

A. カテーテル挿入成功の判定	
Selectivity Index (SI) : 副腎静脈F / 下大静脈F	
判定基準: ACTH刺激 (-) : SI $\geq$ 2	
ACTH刺激 (+) : SI $\geq$ 3~5	
B. 片側局在の判定	
判定基準	
ACTH刺激 (+)	
1	LR $\geq$ 4 (片側) (Youngら)
	LR : 3~4 (片側 / 両側)
	LR $\leq$ 3 (両側)
2	PAC $\geq$ 14000 pg/ml (大村ら)
ACTH刺激 (-)	
3	LR $\geq$ 2 (Rossiら)
4	CR < 1 (Rossiら)
5	IR $\geq$ 2.5 (Gordonら)
lateralized ratio (LR) = (高値側PAC/F比) / (低値側PAC/F比)	
contralateral ratio (CR) = (低値側PAC/F比) / (下大静脈PAC/F比)	
ipsilateral ratio (IR) = (高値側PAC/F比) / (下大静脈PAC/F比)	

表3. 副腎静脈サンプリング(AVS)の判定基準(カットオフ値)

AVSにはいくつかの問題点が欧州内分泌学会から指摘されている<sup>19)</sup>。①手技の難易度が高い（特に右副腎へのカテーテル挿入の不成功）、②実施方法が標準

化されていない（両側同時・連続片側カテーテル、ACTH投与の有無と投与方法・用量、局在の判定基準）、③合併症（副腎静脈破裂）、④医療費（費用対効果）、⑤限られた資源（実施可能な施設と熟練した放射線科医）、などである。そこで世界中のAVS実施可能な20施設の専門家が集まりAVS国際研究（AVIS）<sup>20</sup>で討論すると、PA患者で系統的にAVS実施しているのは77%（10-100%）とかなり幅が大きく、またACTH刺激試験は副腎静脈へのカテーテル挿入の成否の判定の目的で約半数の施設でしか使用されていない。そこでAVS実施に関するExpert Consensus Statementが発表され<sup>21</sup>、特に手術で高血圧/低K血症の長期治療を希望する患者であれば全例でAVSを施行すべきとしている。ただし巨大腫瘍（ $\geq 4$  cm）で副腎癌の疑いの手術適応症例や全身麻酔不可、高齢者で重症の合併症、家族性アルドステロン症などの手術非適応例はAVS不要である。いずれにせよ現時点では患者の手術適応の有無、手術希望の有無を確認したうえでAVS実施の適否を選択し、AVSに習熟した専門施設での実施が推奨される。

## （2）AVS代替検査法

AVSは侵襲的検査で、技術的課題も大きく、熟練した専門施設も限られていることから手術適応があり、手術を希望するすべてのPA患者にAVSを実施することは現実的とはいえない。そこでAVSを回避して局在・病型診断ができる手段が模索されている。

### a) 臨床的予知因子

AVSで局在診断し手術でAPAと確認したPA患者は全て若年で典型的な臨床症状（ $PAC \geq 150$  pg/ml,  $K \leq 3.5$  mEq/l, フロセミド立位試験でPRAの抑制、CTで片側腺腫）を示したことから必ずしもAVSが必要でないことを我々の施設から以前報告した<sup>22</sup>。同様に典型的なPA患者（年齢 $\leq 40$ 歳およびCTでの腫瘍径 $\geq 10$ mm）で低K血症（ $\leq 3.5$  mEq/l）またeGFR（ $\geq 100$ ）といった臨床的予知スコアを用いればAVSを回避できるとの報告がある<sup>23</sup>。Mayoクリニックでは40歳以下でCTで片側病変を示す典型的なPA患者は非機能性腺腫よりもAPAであり、AVSをスキップして直接手術する選択肢を提示している。

### b) 新たな生化学マーカー

血中副甲状腺ホルモン（PTH）<sup>24</sup>、AT1受容体自己抗体（AT1AA）<sup>25</sup>、ハイブリッドステロイド<sup>26</sup>、などが報告されている。

①PA患者でiPTHが増加（ $\geq 80$  pg/ml）しておれば

APAの可能性が高く、AVSで局在診断すべき適応としている（感度74%、特異度82%）<sup>24</sup>。しかしiPTHがAPAで増加する機序は不明であり、副甲状腺機能亢進症でPAの頻度が高いという報告もない。

②悪性高血圧や前子癇患者血中で見つかったAT1AAはアンジオテンシン様アゴニスト作用を持つことから心血管や腎障害に関与する可能性が示唆されていた。高血圧やPA患者の血中AT1AA力価が正常血圧者より高く、また血圧値が同じでもAPA患者はIHA患者より血中AT1AAが2倍高値と報告されている<sup>25</sup>。AT1AAが副腎からのアルドステロン分泌促進作用を持つ可能性があるが、副腎組織（特に腺腫）のAT1自己抗原のエピトームがどのように提示され免疫反応が生じるのか、術後に抗体が消失するのか、またこの抗体が副腎球状層に対してアルドステロン分泌と細胞増殖の促進作用を有するのか、など今後解明すべき課題である。

③18-hydroxycortisol（18-OHF）、18-oxocortisol（18-oxoF）、18-hydroxycorticosteroid（18-OHB）などのハイブリッドステロイドは家族性アルドステロン症（FH）I型であるグルココルチコイド奏功性アルドステロン症（GRA）で多量に分泌されるためGRAの診断には有用である。MulateroらはAVSを実施したPA患者でELISAで血中、尿中のハイブリッドステロイドを測定し、PA患者の血中18-OHBおよび尿中18-OHF、18-oxoFは高血圧患者や健常人よりも高値で、APAはIHAよりも増加していた<sup>23</sup>。そこでARR陽性群（ $\geq 400$ ）のPAの診断の手順に尿中18-OHF排泄量（ $\mu$ g/日）を新たなバイオマーカーとして提唱している。すなわち尿中18-OHF排泄量が130 $\mu$ g以下ならAPAを除外、130以上510以下なら機能確認検査を、510以上なら遺伝子検査でGRAを除外、副腎CTを実施して片側腫瘍があればAVSを経ずに手術、両側腫瘍であればAVSを実施する、というものである。AVS回避のための補助的検査といえるが、多施設での更なる検証と18-OHF測定法の標準化が必要である

### c) 新規画像診断法

AVSの代替検査法としては非侵襲的で機能的画像診断法による局在・病型診断が望まれる。本邦ではこれまで長きにわたりPAの機能的画像診断に<sup>131</sup>Iアドステロール副腎シンチグラフィが使用されてきた。しかしアドステロール副腎シンチグラフィは長期にデサメタゾン抑制下で実施する必要がある、また腫瘍径が2 cm以下では検出能力が乏しいことから、欧米ではもはや使用されなくなった。代わってヨーロッパでは

ステロイド合成酵素である $11\beta$ -hydroxylase(CYP11B1)とアルドステロン合成酵素(CYP11B2)の特異的阻害薬であるメトミデート(metomidate)をトレーサー( $^{11}\text{C-Met}$ )にしてPET-CTを用いて副腎腫瘍の局在診断の研究・開発が進んでいる。最近英国ケンブリッジ大学からAVSで局在診断したPA患者を対象に $^{11}\text{C-Met}$  PET-CTを施行、局在診断におけるPET-CTの有用性を報告している<sup>27)</sup>。デキサメタゾン(2 mg x 3日間)を前投与してトレーサー投与45分後の最大標準化摂取値(SUVmax)は非投与に比べて、腫瘍/正常副腎比を約25%増加させ、1 cm以下の腫瘍も描出でき、腫瘍がcoldかhotかの鑑別も可能であった。SUVmaxはAPA(21.7)、IHA(17.9)、正常副腎(13.8)でAPAの局在診断が可能であった。SUVmaxの腫瘍/正常副腎比のカットオフ値(1.25:1)で感度(76%)、特異度(87%)、また腫瘍SUVmaxが17以上であれば特異度100%であった。しかし両側のAPA、対側副腎のhot病変、いずれかの副腎の抑制(SUVmax<10)、などでは評価が困難であり、またPET装置やトレーサー作製にかかる高額な医療費も問題となるであろう。今後CYP11B2選択的リガンドが開発されれば、PET-CTやSPECTを用いた機能的画像検査法は非侵襲的で簡便であることから、PAの精度の高い局在・病型診断として現行のAVSの代替検査になりうるものと期待される。

## 6. 治療法の選択

PAの局在・病型診断で副腎病変が片側性(APA)であれば、原則的には手術に腫瘍摘出術が第一選択である。しかし患者が手術を希望しない、あるいは合併症などの理由で手術ができない場合、薬物治療を行う。また副腎病変が両側性(IHA)であれば薬物療法が第一選択である。

### (1) 手術療法

手術は腹腔鏡下副腎摘除術が標準的治療である。APA以外の正常副腎を温存する観点から、腹腔鏡下副腎部分切除術、CTガイド下穿刺注入療法(酢酸、エタノール)、凍結治療、ラジオ波治療などの手技が報告されている。しかし多数例での長期的な有効性と安全性についての検討や多施設での副腎摘除術との成績の比較といった検討が必要である。

### (2) 薬物療法

PAの薬物治療の第一選択はアルドステロン受容体拮抗薬(MRA)でスピノラクトン(SRL)、エプレノ

レノン(EPL)が用いられる。SPLはMR以外に男性ホルモン受容体やプロゲステロン受容体にも作用するために女性化乳房、ED(男性)、月経異常(女性)といった副作用がある。しかしEPLはMR選択的拮抗薬であるためこのような副作用を示さない。MRAは低K血症を是正するが、慢性腎臓病(CKD)患者では腎機能低下や高K血症をきたすので注意が必要である。MRAで十分に血圧がコントロールできない場合は他の降圧薬(特にCa拮抗薬)を併用する。

現在開発されている新規薬物に①アルドステロン合成酵素阻害薬(ASI)、②非ステロイド性MRA、③カルシウム拮抗薬(CCB)、などがある。

①LCI699(Novartis)は経口可能なCYP11B阻害薬として開発され、PAに対する臨床の有効性が報告された<sup>28)</sup>。PA患者にLCI699を経口で4週間投与すると、アルドステロンは著明に低下(70-80%)、血清Kの上昇、収縮期血圧の低下がみられ、安全性と有効性を初めて実証(first-in-class)したPOC研究である。LCI699の抑制作用はCYP11B1よりCYP11B2に選択性(約3倍)が高く、強力な阻害効果(IC50:~nM)と持続性を示す。本薬剤の短期投与で低K血症は迅速に是正したものの、降圧効果は僅かであり、他の降圧薬の併用による血圧のコントロールが必要になる。しかも本剤を高用量で長期的に投与した場合、アルドステロンだけでなくコルチゾールも低下して副腎不全に陥るリスクがある。事実、Cushing病患者にLCI699を高用量で長期的投与した最近のPOC研究で、コルチゾールが正常化すると報告されている<sup>29)</sup>。したがってアルドステロン合成のみを阻害して、コルチゾール合成に全く影響しないCYP11B2選択的阻害薬の開発が望まれるところである。いずれにせよASIの登場はPA治療における外科的治療やMRAの代替療法になる可能性があり、今後の研究の進展に期待がもたれる。

②従来のMRAには高K血症や腎機能低下をきたすリスクがあるため、その副作用の少ない非ステロイド性MRA(Bay 94-886)が開発され、現在心不全や糖尿病性腎症で臨床試験(ARTS)が実施されており、その結果が待たれる。

③Dihydropyridine(DHP)誘導体のCCBは電位依存性Caチャンネルを介してアルドステロン分泌を抑制することが知られている。最近広く臨床的に使用されているいくつかのDPH誘導体にミネラルコルチコイド受容体(MR)を介したアルドステロン作用の阻害効果の報告がある<sup>30)</sup>。DPH誘導体のMR結合能とアルドステロン作用の阻害能はnimodipineとfelodipineが最も

強く、amlodipineが最も弱い阻害活性を示し、DHPとMRAが共通してMRのリガンド結合部位(LBD)にドッキングすることが分子モデリング解析からも明らかとなった。現在臨床で使用されるCCBの血中濃度はMR活性阻害濃度よりも低いことから、CCBの作用の一部にMR活性の阻害作用を介しているかは不明である。今後の新規降圧薬の開発にCCB活性とMR阻害活性を併せ持つDHP誘導体の構造設計が有用と考えられる。PA患者の薬物治療ではMRAのみでは降圧コントロールが十分でないために、実臨床では切れ味のよいCCBが追加されることが多い。CCB活性とMR活性阻害を併せたdual効果を有する新規降圧薬の登場に期待がもたれる。

#### IV. リスクホルモンとしてのアルドステロン

従来からPAを代表とする低レニン性容量依存性高血圧症では心筋梗塞や脳梗塞のような心血管合併症が少ないとされていた。しかし最近の多くの臨床研究によってPA患者の心血管合併症の頻度は本態性高血圧患者と比べて多いことが明らかとなってきた。このようにPA患者で心血管障害が合併しやすい原因として、高血圧に加えて、アルドステロンが腎作用以外に心血管系への直接作用（腎外作用）によることが最近の動物実験や臨床研究から明らかになってきた。アルドステロンは血圧を介さないで、直接血管内皮に作用して、血管の炎症や血管周囲の線維化を誘導し（“アルドステロン誘導性血管炎”）、心血管障害が進行して

脳、心臓、腎といった主要臓器障害をきたす。これにはアルドステロンが血管内皮細胞のMRを活性化する結果、ACEの賦活化による局所アンジオテンシン産生やNADPH oxidaseの活性化による酸化ストレスの増大が関与している（図3）<sup>31)</sup>。事実、PA患者では血流依存性血管拡張反応（FMD）が低下しており、PACとは負の相関を示すことから、ヒトでもアルドステロンによる内皮由来NO産生の選択的障害、すなわち血管内皮機能障害、が存在する<sup>32)</sup>。このようにアルドステロンは腎臓以外に心血管系にも作用する「心血管リスクホルモン」といえる。全身性ならびに局所性レニン・アンジオテンシン系（RAS）を阻害するACE阻害薬やARBはアンジオテンシンIIの合成や作用を阻害することにより臓器保護作用を持つことが知られている。しかし長期的にRAS阻害薬を使用するとアルドステロン分泌が逆に増加する“エスケープ”現象を起こすことが知られている（“aldosterone breakthrough”）。したがって臓器障害を阻止するにはアンジオテンシンだけでなくアルドステロンの作用も阻害することが必要となってくる。事実、慢性重症心不全患者に対するSPL効果（RALES研究）<sup>33)</sup>、急性心筋梗塞患者に対するEPL効果（EPHESUS研究）<sup>34)</sup>、軽症心不全患者に対するEPL効果（EMPHASIS-HF研究）<sup>35)</sup>といった大規模臨床試験によるMRAの生命予後の有用性が証明されている。

一方PA患者で手術および薬物治療による長期予後に違いがあるか否かは明らかではない。イタリアからは

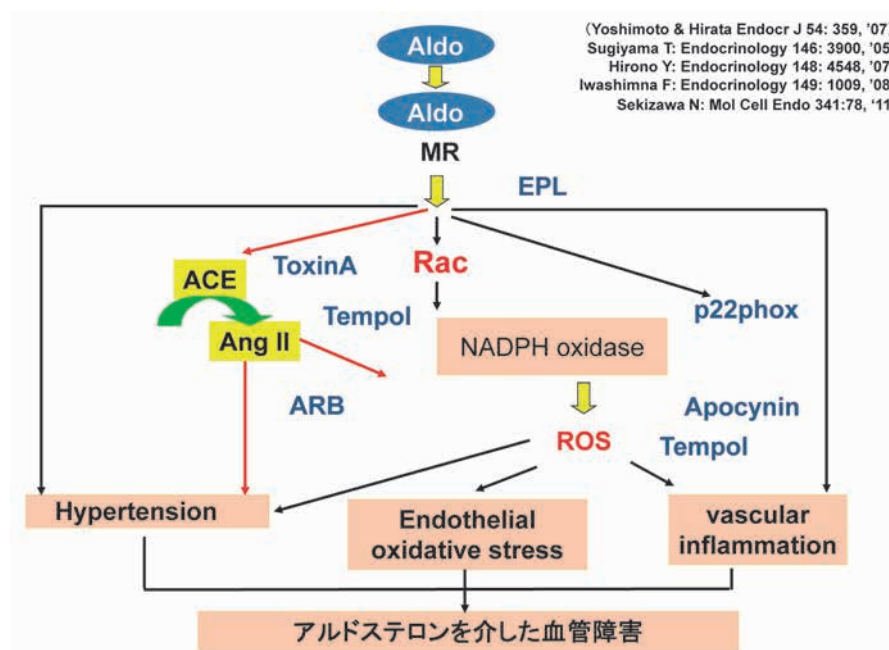


図3. 心血管リスクホルモンとしてのアルドステロンの役割(まとめ)

PA患者で手術群と薬物 (SPL) 群の間には心血管合併症 (心筋梗塞、脳卒中、血行再建術、持続性不整脈) の発生率に差がない<sup>36)</sup>、また両群間で4年後の左室容量の減少に差がない<sup>37)</sup>、との報告がある。本邦でも両治療法による長期予後に及ぼす効果の比較が必要である。

#### おわりに

PAの成因として最近APAで発見されたいくつかのチャンネル・イオンの遺伝子変異が注目されている。PA診療ガイドラインは一般医家に対してPAがcommon diseaseであることを啓発できた意義は大きい。PA診療のアップデートを現行のガイドラインに沿って、スクリーニング、機能確認検査、局在・病型診断、治療の選択の順で、現在の課題と今後の展望を解説した。またPAでの臓器障害発症のメカニズムにリスクホルモンとしてのアルドステロンの重要性を我々の研究成果を中心に解説した。

#### 文 献

- 1) Funder JW, Carey RM, Fardella C, et al : Case detection, diagnosis, and treatment of patients with primary aldosteronism: an endocrine society clinical practice guideline. *J Clin Endocrinol Metab* 93 : 3266 – 3281, 2008
- 2) Gomez-Sanchez CE : Channels and pumps in aldosterone-producing adenomas. *J Clin Endocrinol Metab* 99 : 1152 – 1156, 2014
- 3) Choi M, Scholl UI, Yue P, et al : K<sup>+</sup> channel mutations in adrenal aldosterone-producing adenomas and hereditary hypertension. *Science* 331 : 768 – 772, 2011
- 4) Mulatero P, Monticone S, Rainey WE, et al : Role of KCNJ5 in familial and sporadic primary aldosteronism. *Nature Rev Endocrinol* 9 : 104 – 112, 2013
- 5) Beuschlein F, Boulkroun S, Osswald A, et al : Somatic mutations in ATP1A1 and ATP2B3 lead to aldosterone-producing adenomas and secondary hypertension. *Nature Genet* 45 : 440 – 444, 2013
- 6) Azizan EA, Poulsen H, Tuluc P, et al : Somatic mutations in ATP1A1 and CACNA1D underlie a common subtype of adrenal hypertension. *Nature Genet* 45 : 1055 – 1060, 2013
- 7) Lenzini L, Caroccia B, Campos AG, et al : Lower expression of the TWIK-related acid-sensitive K<sup>+</sup> channel 2 (TASK-2) gene is a hallmark of aldosterone-producing adenoma causing human primary aldosteronism. *J Clin Endocrinol Metab* 99 : E674 – 682, 2014
- 8) Nishimoto K, Nakagawa K, Li D, et al : Adrenocortical zonation in humans under normal and pathological conditions. *J Clin Endocrinol Metab* 95 : 2296 – 2305, 2010
- 9) Nanba K, Tsuiki M, Sawai K, et al : Histopathological diagnosis of primary aldosteronism using CYP11B2 immunohistochemistry. *J Clin Endocrinol Metab* 98 : 1567 – 1574, 2013
- 10) Doi M, Takahashi Y, Komatsu R, et al : Salt-sensitive hypertension in circadian clock-deficient Cry-null mice involves dysregulated adrenal Hsd3b6. *Nature Med* 16 : 67 – 74, 2010
- 11) Doi M, Satoh F, Maekawa T, et al : Isoform-specific monoclonal antibodies against 3 $\beta$ -hydroxysteroid dehydrogenase/isomerase family provide markers for subclassification of human primary aldosteronism. *J Clin Endocrinol Metab* 99 : E257 – 262, 2014
- 12) 日本高血圧学会 : 高血圧治療ガイドライン2014 (JSH2014), 日本高血圧学会高血圧治療ガイドライン作成委員会 編集, 120, 2014
- 13) Schirpenbach C, Seiler L, Maser-Gluth C, et al : Automated chemiluminescence-immunoassay for aldosterone during dynamic testing: comparison to radioimmunoassays with and without extraction steps. *Clin Chem* 52 : 1749 – 1755, 2006
- 14) Taylor PJ, Cooper DP, Gordon RD, et al : Measurement of aldosterone in human plasma by semiautomated HPLC-tandem mass spectrometry. *Clin Chem* 55 : 1155 – 1162, 2009
- 15) Rossi GP, Barisa M, Belfiore A, et al : The aldosterone-renin ratio based on the plasma renin activity and the direct renin assay for diagnosing aldosterone-producing adenoma. *J Hypertens* 28 : 1892 – 1899, 2010
- 16) Nanba K, Tamanaha T, Nakao K, et al : Confirmatory testing in primary aldosteronism. *J Clin Endocrinol Metab* 97 : 1688 – 1694, 2012
- 17) Young WF, Stanson AW, Thompson GB, et al : Role for adrenal venous sampling in primary aldosteronism. *Surgery* 136 : 1227 – 1235, 2004
- 18) Nwariaku FE, Miller BS, Auchus R, et al : Primary



- hyperaldosteronism: effect of adrenal vein sampling on surgical outcome. *Arch Surg* 141 : 497 – 502, 2006
- 19) Stewart PM, Allolio B : Adrenal vein sampling for primary aldosteronism: time for a reality check. *Clin Endocrinol* 72 : 146 – 148, 2010
  - 20) Rossi GP, Barisa M, Allolio B, et al : The Adrenal Vein Sampling International Study (AVIS) for identifying the major subtypes of primary aldosteronism. *J Clin Endocrinol Metab* 97 : 1606 – 1614, 2012
  - 21) Rossi GP, Auchus RJ, Brown M, et al : An expert consensus statement on use of adrenal vein sampling for the subtyping of primary aldosteronism. *Hypertension* 63 : 151 – 160, 2014
  - 22) Minami I, Yoshimoto T, Hirono Y, et al : Diagnostic accuracy of adrenal venous sampling in comparison with other parameters in primary aldosteronism. *Endocr J* 55 : 839 – 846, 2008
  - 23) Küpers EM, Amar L, Raynaud A, et al : A clinical prediction score to diagnose unilateral primary aldosteronism. *J Clin Endocrinol Metab* 97 : 3530 – 3537, 2012
  - 24) Rossi GP, Ragazzo F, Seccia TM, et al : Hyperparathyroidism can be useful in the identification of primary aldosteronism due to aldosterone-producing adenoma. *Hypertension* 60 : 431 – 436, 2012
  - 25) Rossitto G, Regolisti G, Rossi E, et al : Elevation of angiotensin-II type-1-receptor autoantibodies titer in primary aldosteronism as a result of aldosterone-producing adenoma. *Hypertension* 61 : 526 – 533, 2013
  - 26) Mulatero P, di Cella SM, Monticone S, et al : 18-hydroxycorticosterone, 18-hydroxycortisol, and 18-oxocortisol in the diagnosis of primary aldosteronism and its subtypes. *J Clin Endocrinol Metab* 97 : 881 – 889, 2012
  - 27) Burton TJ, Mackenzie IS, Balan K, et al : Evaluation of the sensitivity and specificity of <sup>11</sup>C-metomidate positron emission tomography (PET)-CT for lateralizing aldosterone secretion by Conn's adenomas. *J Clin Endocrinol Metab* 97 : 100 – 109, 2012
  - 28) Amar L, Azizi M, Menard J, et al : Aldosterone synthase inhibition with LCI699: a proof-of-concept study in patients with primary aldosteronism. *Hypertension* 56 : 831 – 838, 2010
  - 29) Bertagana X, Pivonello R, Fleseriu M, et al : LCI699, a potent 11  $\beta$  -hydroxylase inhibitor, normalizes urinary cortisol in patients with Cushing's disease: results from a multicenter, proof-of-concept study. *J Clin Endocrinol Metab* 99 : 1375 – 1383, 2014
  - 30) Dietz JD, Du S, Bolten CW, et al : A number of marketed dihydropyridine calcium channel blockers have mineralocorticoid receptor antagonist activity. *Hypertension* 51 : 742 – 748, 2008
  - 31) Yoshimoto T, Hirata Y : Aldosterone as a cardiovascular risk hormone. *Endocr J* 54 : 359 – 370, 2007
  - 32) Tsuchiya K, Yoshimoto T, Hirata Y : Endothelial dysfunction is related to aldosterone excess and raised blood pressure. *Endocr J* 56 : 553 – 559, 2009
  - 33) Pitt B, Zannad F, Remme WJ, et al : The effect of spironolactone on morbidity and mortality in patients with severe heart failure. randomized aldactone evaluation study investigators. *New Engl J Med* 341 : 709 – 717, 1999
  - 34) Pitt B, Remme W, Zannad F, et al : Eplerenone, a selective aldosterone blocker, in patients with left ventricular dysfunction after myocardial infarction. *New Engl J Med* 348 : 1309 – 1321, 2003
  - 35) Zannad F, McMurray JJ, Krum H, et al : Eplerenone in patients with systolic heart failure and mild symptoms. *New Engl J Med* 364 : 11 – 21, 2011
  - 36) Catena C, Colussi G, Nadalini E, et al : Cardiovascular outcomes in patients with primary aldosteronism after treatment. *Arch Intern Med* 168 : 80 – 85, 2008
  - 37) Catena C, Colussi G, Lapenna R, et al : Long-term cardiac effects of adrenalectomy or mineralocorticoid antagonists in patients with primary aldosteronism. *Hypertension* 50 : 911 – 918, 2007



# I. 総 説

## I. 2 情報システム院内開発10年間の取組みと実際

樋口 弘実 小野 真敬 橋田 智史

伊藤 浩樹 加藤 健司

神戸市立医療センター中央市民病院 医療情報部

### 要 旨

当院においては、2001年に「病院総合情報システム」を構築し、2001年10月から病棟オーダーリングシステム、2002年3月から外来オーダーリングシステムを本格稼働させた。さらに2011年の新築移転時に電子カルテシステムを導入した。

こうした医療情報システムの拡充が進む中で各部署からシステム部門に対し様々なシステム化要望が寄せられるようになった。

我々は、こうした要望に対応するため、院内職員による情報システムの院内開発に2004年から着手し2014年で10年を経過した。この間、様々な工夫を講じながら130件を超えるシステムを構築してきた。

これら院内開発により、業務の効率化、医療安全、業務支援等に多くの成果を上げてきたが、スタッフ、メンテナンス、外部委託との関係など課題・問題点も存在する。こうした課題・問題点を解決しながら今後とも院内開発ニーズに対応をしていく必要がある。

キーワード：医療情報システム、院内開発、外部委託、データ連携、データウェアハウス

(神戸市立病院紀要 53：13-27, 2014)

### Development of in-house medical information systems – experience between 2004 and 2014 –

Hiromi Higuchi, Mahiro Ono, Tomofumi Hashida, Hiroki Ito, Kenji Kato

Medical Information Division, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan

### Abstract

In our hospital, we established the Hospital Information System in 2001. We started full-scale operation of the ward ordering system in October 2001 and the outpatient ordering system in March 2002. Furthermore, we introduced the electronic health record system during the inauguration of our new building in 2011. With the expansion of the medical information system, the demand of each department for specialized medical systems has increased. These demands include improvements of medical information systems such as departmental and electronic health record systems. However, these demands are not few and affect the day-to-day operations in our medical institution. Ten years have passed since we started the development of in-house systems for our hospital staff in 2004. During these 10 years between 2004 and 2014 we have promoted the continuing development of the in-house systems, this paper considers the issues and problems we have faced in the process. In addition, we present future prospective directions of the development of in-house medical systems.

Key words : In-house medical information system, Outsourcing, Data linkage, Data warehouse

(Kobe City Hosp Bull 53：13-27, 2014)

はじめに

当院（神戸市立医療センター中央市民病院）においては、1990年に病棟オーダーリングシステムを導入し、各種オーダーリングシステムを順次稼働させてきた。また「患者サービスの向上」、「病院機能の効率化」、「診療支援」、「高水準の情報システム」を目指して「病院総合情報システム」を構築し、2001年10月から病棟オーダーリングシステム、2002年3月から外来オーダーリングシステムを本格稼働させた。さらに、2011年の現在地への新築移転（本稿では新病院という）を契機に電子カルテシステムを導入するとともに、従来の手作業ないし紙伝票などで行っていたほとんどの部門についてもシステムを導入して機械化することによりこれらの業務の効率化を図るとともに、電子カルテ・オーダーリングシステムや医事会計システムと情報連携を実現した。

こうした医療情報システムの拡充が進む中で、院内の各部署から医療情報システムの運用管理を担当するシステム部門（事務局医事課総合情報係、平成25年4月から情報企画課に変更）に対し様々なシステム化要望が寄せられるようになった。これらには、電子カルテシステム等医療情報システムの改善要望から簡単な事務処理ツールに及ぶ様々なものがある。基幹システムや部門システムといったベンダー製の医療情報シ

ステムの改善要望については費用の問題はあるものの、ベンダーによるシステム改修で対応できるが、それ以外の要望に関しては別途対応を考える必要がある。しかも医療現場の要望の背景には日常の業務の中で、なんとかしてほしいという切実なものが少なくない。我々は、院内のこれらのニーズに何とか対応していきたいという姿勢で臨んできた。

我々が、院内職員による情報システムの自家開発（本稿では「院内開発」と呼称する）に2004年から着手し始めてから2014年でちょうど10年を経過した。院内開発という手法にはメリットの反面、解決すべき課題があるが、我々はそのことを認識したうえで、現場のニーズに応えるため最大限の努力を払ってきた。

10年の節目を迎えるに際し、本稿では我々が進めてきた院内開発の実績を振り返ることで、医療現場において院内開発が果たしてきた役割を確認し、その課題・問題点と今後の方向性について考察を加える。

I. 背景

1. 当院における医療情報システムの変遷

当院における医療情報システムの変遷を図1に示す。当院は、1981年3月に中央区加納町1丁目からポートアイランドに新築移転した（本稿において「旧

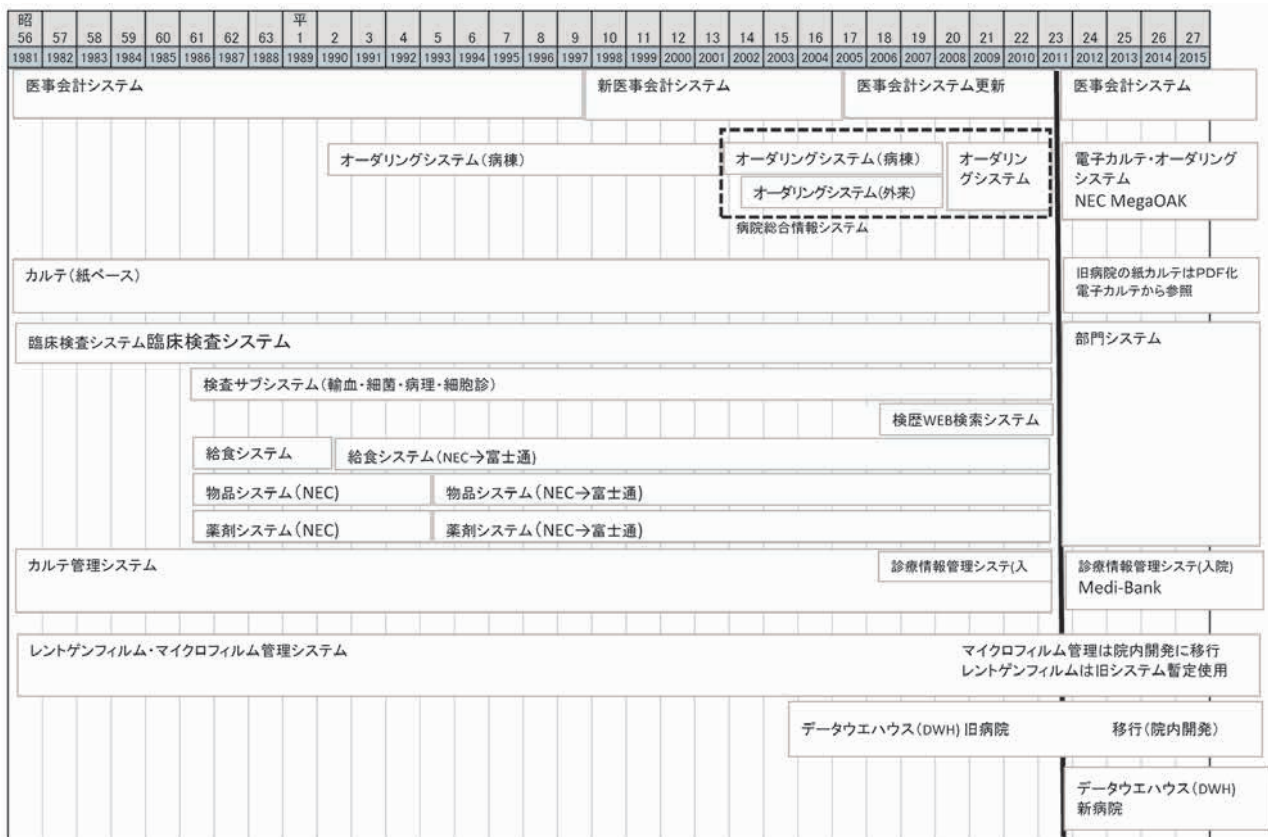


図1. 当院の医療情報システムの変遷

病院」という)。移転時から医事会計システム、臨床検査システム、カルテ管理システム、レントゲンフィルム・マイクロフィルム管理システムを稼働させ、以降、1986年に検査サブシステム、給食、物品、薬剤の各部門システムを導入した。1990年には病棟オーダリングシステムを導入し、順次各種オーダシステムを稼働させた。また「患者サービスの向上」、「病院機能の効率化」、「診療支援」、「高水準の情報システム」を目指して「病院総合情報システム」を構築し、2001年10月から病棟オーダリングシステム、2002年3月から外来オーダリングシステムを本格稼働させた。

また、2003年11月には患者基本情報、処方、注射、検査、病名、給食、入院基本、検査結果等のオーダーデータ及び会計データを蓄積するデータウェアハウス(DWH)を導入した。このことにより診療情報の検索、分析が可能となり、診療支援、経営支援、臨床研究に活用できる基盤が整備された。

その後、システム更新に際し、2005年に医事会計システムのUNIXサーバ化、2008年にオーダリングシステムのUNIXサーバ化を図った。さらに、2011年の新病院移転を契機に電子カルテシステムを導入するとともに、ほとんどの部門のシステム化と電子カルテとの連携を実現した。

## 2. システム部門の役割と変化

当院のシステム部門は、事務局医事課総合情報係(2013年4月から情報企画課)が担当し、オーダリングシステム等医療情報システムの運用管理を担ってきた。2001年のオーダリングシステム稼働当初からレスポンス問題やシステム障害等が相次いだ。種々の対策を講じることで2008年には安定稼働を実現した。

また、システムの運用管理の面については、1981年からシステム監視、日次・月次処理、データバックアップ等のコンピュータのオペレーション業務を外部委託する一方、診療報酬改定、医事会計・オーダリングシステム・部門システム(検査、放射線、薬剤、給食)の開発・レベルアップ・管理、システムの障害対応、端末周辺機器管理やネットワーク管理、端末操作や障害時の利用者サポート、新任転任医師看護師等の操作研修、職員OA研修などシステム全般の運用管理を職員で対応してきた。

2003年からは、運用管理の一元化とアウトソーシングの一層の推進を図るため、従前のオペレーション業務に加え、①24時間365日の常駐化(従来は土曜7:00～日曜22:00及び休日はオペレータ不在で職員がポケ

ベル対応)、②端末操作・障害問合せ対応、端末操作研修等、③ネットワークの一時切り分け対応などにも委託業務を拡大し運用管理の一括委託を行った。

委託業務拡大に伴う委託費の増嵩に対しては職員の減員で対応したが、システム運用管理の一括委託化により運用管理面で職員が日常的に関わる必要性が減少した。

3. 院内各部署・部門からのシステム化要望への対応  
システムの開発局面から運用局面に移行するなかで、医療安全への対応や制度変更、院内の運用変更に対応するためオーダリングシステム等の基幹システムや部門システムの改善(レベルアップ)の必要性が生じてきたが、これらの要望については、予算の制約もあるため、院内に設置された「医療情報部会」においてリスクマネジメント、操作利便性、業務改善等の観点から優先度を勘案し実施すべきものが決定された。

基幹システム、部門システムへの要望のほかに、院内各所に配置されたMINK端末(当院では病院総合情報システムのことを、Medical Information Network system of Kobe city general hospitalの頭文字から「MINK」と呼称し各端末のことを「MINK端末」と称している)を活用して、情報共有化、業務の効率化、省力化、経費削減を目的とするシステム化要望がシステム部門に寄せられるようになった。

システム運用管理の一括委託を契機に、2003年からシステム部門の職員で対応できる範囲で徐々に院内開発によるシステム化を開始した。院内からのニーズに対応するには病院業務及び医療情報システムに通じるとともに、高度な情報処理能力が必要となるが、業務を通じて研究・開発するなかで職員のICT技術のスキルアップを図り、データベース、開発言語、ネットワーク等において必要な技術を習得しながら院内開発を進めた。

## II. システム院内開発の実績

### 1. 旧病院における院内開発(2004年～2011年)

当初は、院内開発の初期段階であり、各部門における個別業務のシステム化から開発を始めた。DWH等の他システムとデータ連携できる環境が整備されてからは、検査結果、病名、DPCデータ等自動取得の仕組みを取り入れてシステムを構築してきた。院内開発の手法として、二つの異なる方法を活用した。一つは、開発言語にMicrosoft Access、Visual Basicを使用してユーザーインターフェイスに優れたシステムを構築

するとともに、他方、WEBブラウザを使用するのに適しているシステムについては、開発言語にHTML、Java Script, PHP等を使用してWEBブラウザのInternet Explorer上で稼働する（WEBベース）のシステムを構築した。

旧病院における院内開発ツールのうち主なものは次の通りである。（その他の院内開発ツールについては表1（1番～39番）を参照）

①看護部超過勤務管理システム

2003年4月現在912床の病床を有する当院では、約800人の看護師が勤務していた。この看護師の超過勤務については従来、紙伝票に記入されたものを毎月、パンチ入力していたが、内容のチェックに多大な時間を要していた。

これを日々の勤務時間を各看護師が入力し、これを

表1. 主な院内開発実績（2004～2014）

No	院内開発システム名	診療支援	症例研究等	医療安全	業務管理	業務支援	業務効率化	情報共有	法令順守	システム管理
1	看護部超過勤務管理システム						○			
2	看護部人事管理システム						○			
3	看護部タクシーチケット承認システム						○			
4	患者様の声集計システム						○			
5	救急システム					○	○	○		
6	インシデントレポートシステム			○			○	○		
7	紹介患者システム	○					○			
8	手術室管理システム		○			○	○	○		
9	脳卒中地域連携パス						○	○		
10	文書作成ツール	○								
11	新型インフルエンザ管理システム	○	○				○			
12	糖尿病データベース	○	○				○			
13	産婦人科台帳	○	○				○			
14	心臓血管外科SSIシステム	○	○				○			
15	PEG導入患者管理システム	○				○	○			
16	11階東業務分担表					○	○			
17	SSIサーベイランス		○				○			
18	CAPD外来		○				○			
19	特定生物由来製品			○		○	○			
20	入院基本料添付資料作成システム					○	○			
21	出勤状況報告書作成ツール						○			
22	入院診療録オーデジットシステム					○	○			
23	脳卒中入院台帳データベース		○				○			
24	脳神経外科データベース		○				○			
25	ABLATIONデータベース		○				○			
26	DVDカルテPDF化自動処理システム	○					○			○
27	看護部病院見学会WEB申込システム					○	○			
28	看護部院内研修WEB申込システム					○	○			
29	病名DPC・WEB検索システム					○	○			
30	DPC試算システム					○	○			
31	DPC分析ツール		○							○
32	未収金督促状発行システム					○	○			
33	MINIK文書検索システム					○	○			
34	検査結果自動収集システム						○			
35	看護必要度システム（暫定版）					○				
36	DPC様式1ADL入力確認システム				○	○	○			
37	SPC・カルテPDF化管理システム					○	○			○
38	資源配布自動化ツール						○			○
39	継続看護					○	○	○		
40	HIVデータベース		○				○			
41	B型肝炎検査結果						○			
42	ME機器管理			○		○	○			
43	PEG依頼	○				○	○			
44	RSTデータベース	○	○			○	○			
45	アナフィラキシー			○		○	○			
46	アレサーチ	○		○		○	○			
47	せん妄ケアチーム依頼					○	○			
48	データ抽出用ツール		○				○			
49	ドクターカー出勤報告書		○				○			
50	マイクロフィルム管理					○	○			
51	ランダマイゼーション					○	○			
52	外科学会入力用					○	○			
53	外来予約患者確認ツール	○				○	○			
54	還付命令				○		○			
55	間質性肺炎					○	○			
56	救急CPAデータベース		○							
57	救急ER症例登録台帳		○							
58	救急RRS起動基準		○							
59	救急トリアージ		○			○				
60	救急緊急度判定支援システム	○				○				

No	院内開発システム名	診療支援	症例研究等	医療安全	業務管理	業務支援	業務効率化	情報共有	法令順守	システム管理
61	救急受持ち患者調べ	○				○				
62	呼吸器内科入院台帳	○	○				○			
63	高次脳機能評価	○	○				○			
64	手術データ抽出ツール		○							
65	消化器内科入院台帳	○	○				○			
66	消化器内科内視鏡診断等各種アンケート						○			
67	症例調査総括表		○							
68	心臓カテーテル室申込	○				○	○	○		
69	心臓ペースメーカー	○					○			
70	身体合併症患者数						○			
71	成長曲線	○								
72	電子カルテオーデイトシステム					○	○			
73	入院患者担当調べ					○	○			
74	認識障害者数調査						○			
75	年末年始データ抽出						○			
76	脳外科デイスার্ジャリ申込	○				○	○			
77	脳卒中入院台帳	○	○				○			
78	泌尿器スーテント調べ	○				○	○			
79	返書管理帳票出力ツール					○	○			
80	輸血患者管理			○		○	○			
81	B型肝炎データベース（作成中）	○	○				○			
82	C型肝炎データベース（作成中）	○	○				○			
83	医事指摘返還（作成中）					○	○			
84	救急車情報（作成中）	○				○	○			
85	研修・講習管理ツール（作成中）					○	○			
86	iPAD褥瘡回診システム	○				○	○			
87	カンファレンス記録台帳システム	○					○			
88	クリニカルパス公開申請承認システム	○					○			
89	レジメンオーダーのある患者のB型肝炎検査結果出力ツール	○		○						
90	核医学計画表（作成中）					○	○			
91	入院患者担当医一覧表					○	○			
92	先端および低侵襲連携_PET-MR検査予約					○	○			
93	リハビリオーダー者、病名開始日、発症日確認ツール					○	○			
94	低侵襲予約情報等確認ツール					○	○			
95	セキュアプライムアクセスログ解析システム						○			○
96	ゴナックス投与患者のPSA値経過等出力ツール	○								
97	職員感染症検査結果登録システム			○			○			
98	静脈血栓塞栓症加算のための確認ツール					○	○		○	
99	化学療法実施状況出力ツール					○	○		○	
100	乳腺外科アセスメントシート	○	○				○			
101	心臓リハビリテーションサマリー	○					○			
102	変更要望WEBシステム【学術系】					○		○		
103	研究業績データベースシステム【学術系】		○				○	○		
104	検査案内ツール					○	○			
105	病床利用状況確認ツール					○	○			
106	ネームラベル印刷ツール					○	○			
107	レジメン一覧印刷ツール			○	○					
108	紹介患者システムツール					○	○			
109	悪性腫瘍指導科チェックツール					○	○		○	
110	褥瘡カンファレンスツール	○					○			
111	緩和ケアカンファレンスツール	○					○			
112	カルテビューア修正用ツール					○				
113	外来中央処置室ベッドマップ及びスケジュール					○	○			
114	外来化学療法スケジュール					○	○			
115	デイスার্ジャリスケジュール					○	○			
116	旧病院DWH移行ツール		○							○
117	返書未作成一覧（作成中）					○	○			
118	クリニカルパス点検ツール					○	○			
119	電子カルテログ解析					○			○	○
120	診察記事検索ツール		○							
121	E P I N E T入力票（開発中）						○			
122	紹介患者来院状況	○					○			
123	診療科別・病棟別・入院患者集計						○			
124	病棟別・入院患者集計						○			
125	病棟別転出情報						○			
126	未実施検索					○	○			
127	入院連絡表					○	○			
128	褥瘡対策に関する診療計画・褥瘡看護計画点検票					○	○		○	
129	病棟別せん妄・転倒転落集計					○	○			
130	病棟別せん妄・転倒転落集計（全病棟）					○	○			
131	高額療養費多数該当チェックツール					○	○		○	
132	D P C最終承認点検ツール					○	○		○	
133	栄養管理計画点検ツール					○	○			
134	病名整理票発行ツール					○	○		○	
135	外来終了時間調査ツール						○			
136	職員インフルエンザ感染状況							○		
	合計	36	31	9	10	62	116	9	8	7

病棟師長が確認のうえ承認することにより、超過勤務時間のチェックと集計及び給与計算用のデータ作成を自動的に行うシステムを作成した。

#### ②看護部人事管理システム

約800人の看護師の人事管理については、紙ベースの台帳に基づいて行われていた。このため、勤務期間での対象者の抽出等を手作業で行うため非効率であった。

看護師の学歴、職歴、配属歴等の人事情報を登録・管理する人事管理システムを作成した。これにより、人事管理上必要な情報が適宜出力でき、転記作業がなくなった。

#### ③看護部タクシーチケット承認システム

看護師が公共交通機関のない深夜に帰宅する場合、タクシーを利用しているが、この使用状況について看護部で点検を行っていた。

タクシーチケットを使用した看護師各人が使用実績を入力することにより、チケットの使用状況の把握と勤務時間との照合チェックを自動的に行うシステムを作成した。

#### ④救急システム

当院は、神戸地域の基幹病院として市民の生命と健康を守るため24時間体制での救急医療を担っている。連日多くの救急患者を受け入れているが、旧病院では救急部門にオーダーリングシステムは導入されておらず、すべて紙カルテを中心とする紙ベースで運営されていた。

そのため、救急受付から診察終了までを管理することにより、医療スタッフ間の情報共有とデータの後利用が可能とするシステムを院内開発で構築した。これにより救急業務の改善を図り、また救急受診患者さんの家族からの問い合わせにも対しても、システムから瞬時に情報を得ることで迅速な対応が可能とする。また救急待ち時間調査等、様々な統計にも対応可能とする。

#### ⑤インシデントレポートシステム

従来、紙ベースでの提出となっていたインシデントレポートをMINK端末からインシデント情報を入力する方式に変更した。システム化により、インシデント情報の共有化を図る。

#### ⑥紹介患者システム

紹介患者の受け入れ状況を管理するシステムで、紹

介患者の受入状況をデータベース化することにより業務の効率化と、後述の文書作成ツール（診療情報提供書）とデータ連携する。

#### ⑦手術室管理システム

手術室運用計画の作成・調整のため従来の紙ベースの手術依頼を各診療科がMINK端末から入力する方式に変更した。システム化によりスケジュール調整の利便性が図られ、各診療科が各手術室の空き状況をMINK端末で確認できる。

また先日付の手術申込が可能のため、将来の手術のメモとしても利用可能であり、また手術データの取出し機能も有し2次利用に使用可能とする。

#### ⑧脳卒中地域連携パス

脳卒中地域連携パスにおける帳票作成をMINK端末上で行うシステムで、システム化により異なる職種間での情報の共有化を図る。

#### ⑨看護職員病院見学会WEB申込みシステム

看護職員募集の一環として毎年、病院見学会を開催しているが、従前は広報紙、ホームページ等で公表し、受付は主に電話対応としていたため、電話対応に看護部スタッフの手がとられ、特に開催日直前には多くの電話申込みが集中した。このため、ホームページでの公表と同時に、ホームページから直接申込みできる仕組みを構築した。

見学希望者はホームページから申込みできることから、電話対応では平日・勤務時間内にしか申込みできなかったのが、曜日、時間を問わず可能となった。申込み情報は、院内のデータベースに格納されるため、申込み状況がリアルタイムで確認できるとともに、開催日に用意する見学者一覧も自動作成できる。

#### ⑩退院サマリ作成ツール（文書作成ツール）

診療科により個別の方法で作成されていた退院サマリについて、様式の統一化を図るとともに、紙カルテの併用を行わない新病院でのカルテ運用を踏まえて、新病院移行後の診療が円滑に行えるよう、旧病院において作成する退院サマリをデータベース上で行えるようにした。システム化にあたっては、処方（特に退院時処方）、検査結果、DPC情報等の既存の診療情報とデータ連携させることにより、入力の二度手間を極力回避するとともに、蓄積されたデータベースのデータを、新病院の退院サマリ作成システム（図2）に移行



退院サマリー産婦人科

産婦人科

2014/08/26 (金)

患者ID: 氏名: 年齢: 63才 女性 性別: 650- 患者住所: 兵庫県 神戸市 中央区

診断病名: ① ② ③ ④

入院歴: 手術歴: 手術日: 手術名: 手術コード: 手術法: 手術分科: 手術時間: 手術室: 手術日: 手術名: 手術コード: 手術法: 手術分科: 手術時間: 手術室: 手術日: 手術名: 手術コード: 手術法: 手術分科: 手術時間: 手術室:

手術情報: ① ② ③

診察情報: ① ② ③

処置・治療: ① ② ③

テキストの中で[Enter]を押すと改行します。文字サイズ変更 → 大 中 小

図2. 退院サマリー作成システム

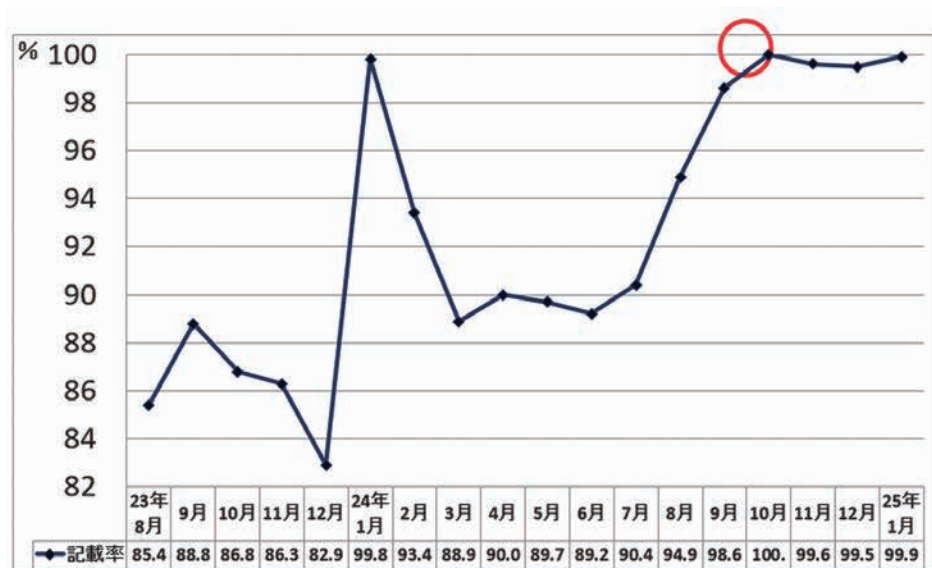


図3. 退院サマリー記載率の推移

させることで新病院における診療支援に資することを期した。

このシステム化により、旧病院における退院サマリーの様式が統一化されるとともに、入力された情報はそのまま新病院における診療情報管理システム (Medi-Bank) に移行でき、旧病院、新病院を通じた情報活用が可能となった。(新病院への移行件数77,650件)

#### ⑪退院サマリー未作成状況表示システム

診療録管理体制加算の施設基準で退院サマリーの作成が必須条件であり、病院機能評価においては退院後2週間以内100%作成が望ましいとされている。しかし、

当院においては2週間以内に作成できていない退院サマリーが多数に上っており、この改善が課題となっていた。100%に近づける工夫の一つとして、医療スタッフが普段目にするMINK端末の初画面に、サマリーの未作成状況を各診療科別に集計値を表示するシステムを作成した。未作成の医師の氏名も閲覧できるようにした。

この仕組みにより、2週間以内未作成数も減少傾向に向かい、新病院に移転した2012年9月からは、2週間以内未作成医師の名前も表示するようにした。この仕組みに、担当副院長、診療情報管理室スタッフ等の積極的な働きかけが相まって、2012年10月から100%を達成できている (図3)。

## ⑫外来サマリ作成システム

2011年7月に予定されていた新病院移転後は、電子カルテを導入する一方、旧病院で作成された紙カルテは併用せず、すべての紙カルテをPDF化し電子カルテから参照する運用となるため、特に迅速な対応が求められる外来診療において旧病院の外来カルテを診療に支障なく参照できる仕組みが求められた。患者単位に編綴された外来カルテのPDF化を診療科別に作成するとともに、外来カルテのサマリ情報を旧病院での外来診療の早い段階からデータベースに登録し、新病院の電子カルテからこの外来サマリを参照できるシステムを構築した。

新病院移転後の電子カルテからこの外来サマリを容易に参照することで、ページ数の多いPDF化された外来カルテから必要な記事を探す必要がなくなり、円滑な外来診療の一助となった。当初、新病院での参照のみを予定していたが、新病院移転後、外来サマリへの書き込み可能とするよう要望があったため、記事の追加ができるよう改修した。

(新病院への移行件数38,741件)

## ⑬DVD化紙カルテのPDF化ツール

当院は、1981年以降、入院、外来カルテとも保存年限を経過したものはマイクロフィルム化し原本の紙カルテは焼却処分してきた。1994年退院（入院カルテ）または最終来院（外来カルテ）分から2001年退院（入院カルテ）または最終来院（外来カルテ）分までの紙カルテについてはマイクロ化に加えてDVD化（TIFF画像）しオートチェンジャーに格納し専用のビューで検索できるシステムを導入した。新病院移転後の電子カルテ化に向けて2002年退院または最終来院分からはDVDではなくPDF化しMINK端末から参照できるシステムに変更した。すでにDVD化された1994年から2001年退院または最終来院分の8年間のカルテについても、PDFに変換することとし、暗号化された約1400万のTIFF画像を、暗号解除→カルテ1冊単位に編集→PDF変換という一連の作業を自動化するツールを作成し24時間体制で8か月間を要しデータ変換を完了した。これにより電子カルテから参照できる旧病院カルテの範囲が約20年分に拡大できた。

## 2. 新病院移転後における院内開発(2011年～2014年)

新病院においては電子カルテを導入するとともにほぼすべての部門システムを導入した。併せてDWHを導入し電子カルテ、医事会計、退院サマリ、各種レ

ポート、地域連携等の情報を蓄積するとともに旧病院のDWHも院内開発で移行させた。

このことにより院内開発システムで連携できる情報量が格段に拡大した。新病院移転後は、必要な情報をDWH等から自動取得する機能を最大限に活用しながら院内開発を進めている。

新病院移転後の院内開発ツールのうち主なものは次の通りである。（その他の院内開発ツールについては表1（40番～136番）を参照）

### ①呼吸器内科入院台帳

呼吸器内科の入院台帳のデータベース。電子カルテのデータより、呼吸器内科入院の患者の入院・転科・退院の移動データや患者属性情報や検査結果等を自動取得（図4、図5）するとともに、診療科での管理項目を登録することにより、カンファレンスリスト、LC症例一覧・エクスポート等が自動出力できる。

### ②ME機器管理

ME機器の3点チェックの情報をDWHの入退院情報や電子カルテのオーダ情報を参照して病棟別や患者別にME機器の使用状況を表示するシステムで、これにより3点チェックの実施状況、各患者への使用状況が一覧的に把握できるとともに、ME機器の適正配置のための判断材料とすることが可能となった（図6）。

### ③アレサーチ

入院患者、外来予約患者の薬剤アレルギー情報を取得し、薬剤禁忌、造影剤禁忌、アレルギーの有る患者を抽出・表示するツール。薬剤師が患者の薬剤アレルギーを迅速に把握でき処方等のチェックに活用している。

### ④外来予約患者確認ツール

外来予約患者について、DWHから病名、併科受診情報、直近の入退院情報、在宅指導管理状況等を参照・表示させるとともに必要な情報が登録できるツール。診察日前にこのツールを使用して情報を把握し当日の外来看護師への申し送りに活用している。

### ⑤心臓カテーテル室申込

手術部門システム上、手術室扱いにならないためシステムでスケジュール管理ができないことから、心臓カテーテル室のスケジュール管理のツールを独自に作成した。患者属性等DWHから情報を取得することにより入力の手間を省いた。システム化により心臓カテーテル室の申込から申込状況の確認、計画表の印刷



図4. 呼吸器内科入院台帳 (MENU)

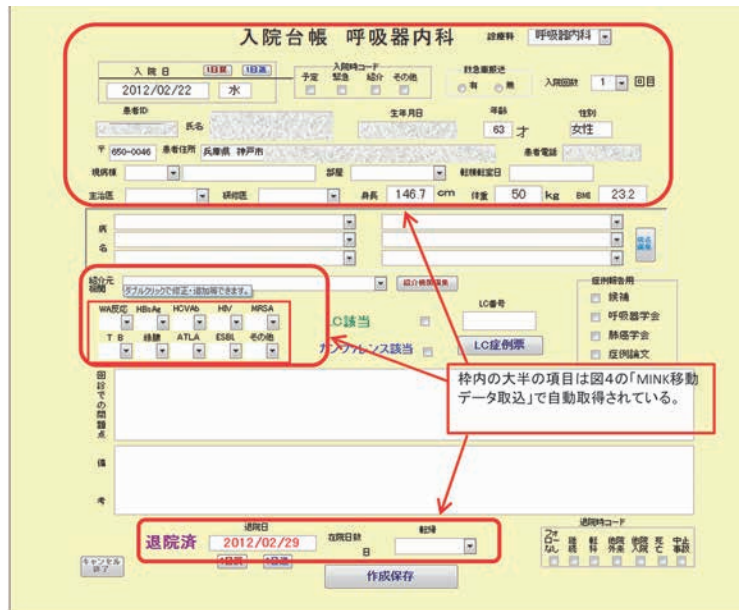


図5. 呼吸器内科入院台帳 (入力)

病棟	患者名	性別	年齢	自 別 床 番	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
2014/09/29	入院	7	人																																		
2014/09/29	退院																																				

図6. ME機器管理

等ができる。

⑥ 心臓ペースメーカー

ペースメーカー使用患者をペースメーカー等で継続的にフォローするために必要な情報を格納するデータベース。電子カルテのスマートテンプレートのデータやDWHから情報を自動取得する。

⑦ MINK端末初画面

当院に導入されたNEC製の電子カルテ端末の標準画面ではデスクトップに表示された「院内ポータル」のボタンをクリックしてポータル画面を起動する仕組みであった。MINK端末を活用して院内スタッフへの情報発信や情報共有ができるようMINK端末起動時に自動的に初画面を表示し、「院内ポータル」もこの画面から起動できる仕組みとした。

この初画面に、当院の基本理念、基本方針を掲示するとともに、院内ポータル起動のほか、外来診療担当医一覧表、PHS番号表、電子カルテマニュアル等を参照するボタンを設けた。また、退院調整依頼状況、サマリ未作成状況、救急救命センター空床状況等院内スタッフへの注意喚起の画面も表示できるようにした(図7)。

⑧ 外来予約一覧MINK障害対応用

新病院移転後、電子カルテシステムの障害が頻発した。電子カルテ障害により紙ベースでの運用になった場合に、患者を受付から診察室、会計まで誘導する手

段として紙ベースの受診票を発行する仕組みを構築した。初画面に起動ボタンを設け、障害発生直前までの外来患者の状況をDWHから取得して予約患者一覧を表示し簡単に受診票が出力できるようにした。受診票には保険情報、他科受診状況も表示した。幸いこのシステムを使用する大規模な障害は発生していないが、この仕組みを活用して、病名整理票発行、外来終了時間調査など外来予約患者にかかるツールを作成している。

⑨ 外来中央処置室ベッドマップ及びスケジューラ

中央処置室より依頼。中央処置室のベッド及び椅子の使用状況(患者および担当看護師)をマップ表示、および予定~実施までをスケジュール表示するツール。

⑩ 外来化学療法スケジューラ

外来化学療法より依頼。外来化学療法の予定~実施までをスケジュール表示するツール。

⑪ デイサージャリスケジューラ

デイサージャリより依頼。デイサージャリの予定~実施までをスケジュール表示するツール。

⑫ 研究業績データベース

病院職員の学会発表、論文掲載、著書を登録、一覧化、参照するシステム。これまで研究業績については、WORD文書での提出とされておりデータベース化できていなかった。データベース化し研究業績を蓄積することにより従前のWORD文書の自動作成を行



図7. MINK初画面

うほか、将来ホームページで研究業績を掲載するシステム基盤が整備された。

### ⑬ iPad褥瘡回診システム

褥瘡患者に対する回診で使用するシステム。回診中に、iPadで患者の診療情報を参照し、褥瘡状態を付属のカメラで撮影するシステム。手元で患者の診療情報を参照しながら褥瘡の回診を行い、且つ画像も撮ることができる。

### ⑭ カンファレンス記録台帳システム

カンファレンス開催時に、カンファレンス日時、参加者、対象患者等を登録するシステム。記録台帳として使用されている。

このシステムを導入したことにより、各患者に対して電子カルテに登録する内容はカンファレンスで話し合われた内容に限定できる。

### ⑮ 先端および低侵襲連携PET-MR検査予約

先端医療センター病院、低侵襲がん医療センター病院へPET-CT、MR、CTの検査を依頼するときに依頼票を発行するためのシステム。病院連携の手段として使われている。

### ⑯ 褥瘡対策に関する診療計画・褥瘡看護計画点検表

診療報酬改定で入院患者すべてに褥瘡対策に関する

診療計画の作成が入院基本料の算定要件となり作成状況をチェックする必要がある。電子カルテの患者一人一人の診察記事を確認するしか方法がなく膨大な時間を要する上に漏れを防ぐことが困難であった。そのため、全入院患者の褥瘡対策に関する診療計画の作成状況を確認でき、さらにその評価に基づいた看護計画が立案・実施・修正ができていたかを点検するツールを作成した。

### ⑰ 栄養管理計画チェックツール

特別な栄養管理が必要なものについては、栄養管理計画書の作成が入院基本料の算定要件となっているが、これを漏れなく作成するため、すべての入院患者について、入院診療計画書での特別の栄養計画の要否のチェックと栄養管理計画書の作成状況を点検するツールを作成した。点検結果をエクセルに出力する機能も付加した。これにより点検作業の手間を大幅に減少するとともに作成率100%実現に役立てた。

## Ⅲ. 院内開発での工夫

### 1. 院内開発環境の整備

院内開発を行うためには、専用サーバの整備、DWH等医療情報システムとのデータ連携、開発・運用環境の整備を行う必要があり、当院では以下に述べる工夫を行った(図8)。

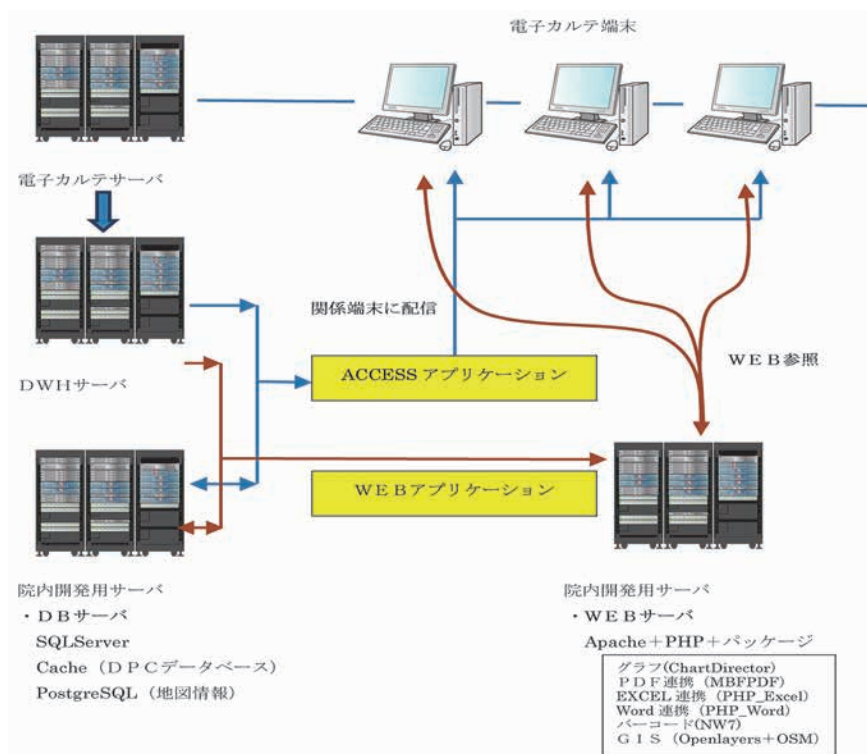


図8. 当院の院内開発環境

### (1) データベース・サーバの導入

院内開発ツールの中には、DWH等医療情報システムから必要な情報を抽出し参照する機能で目的を達するものも少なくないが、大半のツールは診療科データベースにみられるように必要なデータを格納する仕組みが不可欠である。

このため、データベース・サーバを導入した。2014年9月現在で稼働中のサーバは4台である。データベース・ソフトとしては、基本的にはMicrosoft社のSQL Serverを使用し、数千万単位の大規模のレコードを扱うデータベースについては、InterSystems社のCacheを、また地図情報(GIS)を格納するデータベースについては、オープンソースのPostgreSQLを導入するなど格納するデータの内容・容量によって使い分けられている。

### (2) WEBサーバの導入

WEBベースの院内開発ツールを稼働させるためのWEBサーバを導入した。2014年9月現在で稼働中のサーバは、上述のデータベース・サーバとの兼用で4台である。WEBサーバソフトとしては、Apache HTTP Serverを使用するとともにWEBページを動的(ユーザーの操作に応じて画面を描画すること、例えばキーワードを入力し検索した結果を画面表示する等)に処理するためにスクリプト言語としてPHPを使用し、PHPのパッケージとしてグラフ、PDF連携、WORD連携、EXCEL連携、バーコード連携といったパッケージを導入している。

### (3) 開発・運用環境の整備

MINK端末上で稼働させる院内開発ツール(端末ベースのツール)については、Microsoft社のACCESSを使用して利用者の操作性に優れたツールを開発しMINK端末で稼働できる形式に変換して各MINK端末に配信している。ツールの配信には院内開発した自動配信ツールを活用している。

また、端末ベースのツールでACCESSを使用しないものについては、Microsoft社のVisual Studioを使用し開発言語VBでアプリケーションを作成し必要な端末に配信している。

WEBベースの院内開発ツールについては、本番用のWEBサーバに登録することでMINK端末から利用可能となり配信の必要はない。

## 2. 医療情報システムとの連携

当院における院内開発の特徴として、病院の医療情報システムとデータ連携することで医療情報システムの保有している情報を最大限に活用したシステムを構築していることが挙げられる。2次利用のために構築されているDWHは当然のこととして、退院サマリ/診療情報管理システム(Medi-Bank)の情報(退院サマリ、病名、がん登録、病理、各診療科管理項目、紹介・逆紹介、医療相談等)、診断書作成支援システム(Medi-Support-Plus)の情報(各種文書情報)のほか、会計、保険、循環器・放射線・内視鏡・生理検査・産科レポート等といった部門システムの情報も参照して院内開発ツールを作成している。なおデータ連携の方法は、ODBC接続\*を行っている。

このデータ連携により、診療科データベース等で症例を登録する場合に、電子カルテ等を参照しながら手入力することなくデータを自動的に取得できている。

#### \* ODBC接続

Open DataBase Connectivityの略。データベースにアクセスするためのソフトウェアの標準仕様でMicrosoft社によって提唱され1992年に発表された。

Oracle、SQL Serverなど各データベースにODBCドライバというソフトウェアが提供されており、ユーザーはアクセスしたいデータベース名とログイン情報(ID、パスワード)をODBCに設定するだけで接続先のデータベースがどのようなデータベース管理システムに管理されているか意識することなくアクセスできる。

## 3. 独自データベースの構築

### (1) 院内開発ツール用データベースの構築

DWH等の情報を検索・表示にとどまらずデータの登録・更新が必要なツールについては、そのデータを格納するデータベースが必要であり、データベース・サーバにツール用のデータベースを作成した。

また、DWH等の情報を検索・表示するツールであっても、①インデックスが設定されていないデータを参照する場合レスポンスに時間を要し結果DWH等のシステムに大きな負荷をかけるもの、②ツールを使用する都度、集計を行うより集計結果を保有し、ツールではこの集計結果を参照するのが望ましいもの等がある。このようなケースへの対応として中間データベースを設け、この中間データベースにツールで使用するデータを定時的(1時間毎など)にDWH等から抽出して格納する仕組みを構築した。

## (2) データ蓄積用データベースの構築

データ蓄積用データベースとして、主に下記のデータベースを構築した。いずれも大容量データを扱うので、データベース・ソフトには大容量データに対応しやすいCacheを使用した。

### ① DPCデータの蓄積

厚生労働省に提出した各月の様式1、Dファイル、入院・外来のEファイル、Fファイル、EF統合ファイルといったDPCデータを蓄積するデータベースを構築した。調査対象病院となった2007年からのデータを蓄積しておりレコード数の合計は2014年9月現在で1億7千万件を超えている。

DPCデータには、診療録情報からオーダ情報、会計情報等豊富な情報から構成されており、院内開発ツールで参照するほか医事業務、情報検索業務等で活用されている。

### ② 会計データの蓄積

医事会計システムの会計データについては、経営情報システムに蓄積されているが、このデータを使って医事課が分析するには、インデックスが頻回に検索するカラム（フィールド）に設定されていない等のため使いにくくなっている。このため、医事会計システムから算定情報、保険情報を日次または月次に取り込み独自のデータベースを構築した。よく使用する検索フィールドにはくまなくインデックスを設定しレスポンスよくデータ抽出が可能となっている。医事課においてはこのデータベースを活用して日々の会計業務の点検を行いレセプト請求での査定回避を図っている。また院内開発ツールでも診療行為の抽出や集計に活用している。2011年7月からのデータを蓄積しており2014年9月現在で4千万件を超えている。

### ③ カルテ記事データの蓄積

2011年7月の電子カルテ化以降のカルテ記事を電子カルテから抽出して独自のデータベースに蓄積している。大容量データに対応できるようデータベース・ソフトにはCacheを使用し記事内容にもインデックスを設定し迅速な検索を可能とした。このデータベースを使うことで記事の検索・抽出が容易にでき、目的の症例を探すのに役立っている。2011年7月からのデータを蓄積しており2014年9月現在で1千万件を超えている。

### ④ 重症度コメントデータベースの蓄積

各病棟に入院中の患者の、せん妄や転倒転落危険患者の状況を把握するため、電子カルテの重症度コメントの情報を抽出し、重症度コメントデータベースに蓄積している。このデータベースの情報を参照することでせん妄や転倒転落危険患者の状況は容易に把握できるようになった。2011年7月からのデータを蓄積しており2014年9月現在で5万件を超えている。

### ⑤ 電子カルテ・アクセスログの蓄積

電子カルテ自体にもログ記録の検索機能があるが、①端末を指定しての検索ができないこと、②DWHに蓄積されないのでログ解析するには電子カルテのデータベースにアクセスする必要があり電子カルテへの負荷要因となりうることから、独自のデータベースを構築し電子カルテ・アクセスログを自動的に蓄積している。このことにより特定端末の利用状況の把握ができ、また電子カルテへの影響を考慮することなくログ解析が可能となった。2011年7月からのデータを蓄積しており2014年9月現在で8千万件を超えている。

## 4. 開発手法での工夫

システムの開発を行う場合、一般的に①設計→②製作→③テスト→④本番稼働といった工程を経る。システム設計は、発注者が作成した仕様書に基づいて行う。システム構築を外部委託する場合は、詳細な仕様書を作成して発注する必要がある、また発注後の仕様変更は契約金額の増を伴う。当院での院内開発では要望元に詳細な仕様書の作成は求めず、要望内容を聴取しながら大まかなシステム構成を構想し、ユーザーの立場にたって具体的な仕組みを提案し、ユーザーと一緒に試行錯誤しながらシステム設計と製作を行う手法（一般的に「プロトタイプ手法」と言われている）を採用している。システム稼働後も運用上問題が生じた場合、柔軟・迅速に対応でき院内開発のメリットを生かした開発手法となっている。

## IV. 考 察

### 1. 院内開発のメリットと課題・問題点

ここでは、我々が10年間にわたり院内開発に取り組んできた実践のなかで得られた経験から、院内開発で実現できたメリットと我々が直面した課題・問題点を振り返ることで、院内開発の今後の方向を展望したい。

## (1) 院内開発で実現できたメリットと果たしてきた役割

上述のものを含め主な院内開発システムの一覧を表1に掲げた。システムの内容別に○印を付しているがシステム化のニーズが多岐にわたってことを示している。これらのシステム化によって実現できたことが院内開発のメリットであり果たしてきた役割であるといえる。

### ① 業務の効率化

最も件数の多いニーズであり、システム化することにより従来、手作業で行っていた業務が、DWH等の医療情報システムからデータを自動取得することにより、または院内開発システムから帳票を自動作成するなど業務の効率化が図られた。後述の、診療支援、業務支援、医療安全等の業務をシステム化する場合においてもデータ入力、情報の参照をDWH等とのデータ連携により自動化できた部分において業務の効率化も合わせて実現できている。

### ② 診療支援・症例研究等

各診療科からの要望に基づく診療支援ないし症例研究のためのデータベースを数多く院内開発で構築してきた。システム化以前は、各診療科においてファイルメーカーでデータ登録していたものも、電子カルテ等を参照しながらデータを転記する手間を要した。転記の手間を省き正確なデータを登録するためDWHの診療データを取り込む仕組みのデータベースを構築し、診療または症例研究等に役立っている。

### ③ 医療安全の確保

電子カルテ等の情報を患者横断的にデータ収集し、医療安全上チェックすべき内容を一覽的に把握する仕組みを構築することにより、インシデントの発生予防等に貢献している。

### ④ 業務の管理

診療録に記載が必須の事項、保険請求上の作成が義務付けられている文書など、業務が適正に処理されているかを点検する場合に、従前は患者単位に電子カルテを開き該当の有無を判断しながら点検を要していたものを、電子カルテに登録された内容を自動的に参照し、点検票を出力するなど業務のチェックが容易となった。

### ⑤ 業務支援

各部門・部署において、従前は紙ベースないし手作業で行っていた業務をシステム化することにより合理化が図れた。この場合も患者属性等をDWHとデータ連携することで効率化も実現できている。

### ⑥ 情報共有

診療支援、医療安全、業務管理、業務支援のための開発したシステムが院内のMINK端末で利用でき関係職種が参照できることにより情報の共有化が図られた。

### ⑦ 保険診療等法令遵守

各種点検ツールをシステム化したことにより、遵守すべき事項が満足されているかチェックでき保険診療等法令遵守に貢献できている。

こうしたニーズに応じたメリットを実現できたという直接的効果にとどまらず、開発を外委託した場合に比べてコスト面の抑制と開発期間の短期化といった間接的効果がある。この間接的効果を客観的に計測するには委託業者等による見積りと比較する必要があるが、多数の院内開発システムの外注経費を見積もることは困難である。また、院内開発を担当する病院職員も専任ではなく他の業務を処理するなかでシステム開発を行ってきたので実質的に要した経費を直ちに積算することも困難であるが、毎年度、電子カルテシステム等の改善に要する経費と大半のシステム改修が2か月以上の開発期間を要している実態を考慮したとき、院内開発にはコストの抑制効果があると考えられる。

## (2) 院内開発にかかる課題・問題点

院内開発を進める上では課題・問題点も少なくない。我々が実践のなかで直面した課題・問題点を以下に示す。

### ① スタッフに関わる課題・問題点

院内のニーズに的確に対応するためには、院内開発を担当するスタッフに関わる問題がある。1つ目はスタッフの配置の問題、2つ目はスタッフのスキルの問題、3つ目はスタッフ間の知識・技術の承継の問題である。

院内開発により、外部委託では実現できないメリットを発揮できることからシステム部門に院内開発のための要員を配置する意味は少なくないと考えられる。人数については院内開発ニーズの動向、後述のスキルや知識・技術の承継の問題等を考慮しながら適切な配置が必要である。



スタッフのスキルについては、院内開発のためには病院業務の熟知、電子カルテ等医療情報システムへの精通、システム構築に必要な知識・技術（データベース、開発言語、WEB作成技術等）と言った幅広い専門知識が求められる。我々は10年以上にわたって病院のシステム部門を担当するなかでこうしたスキルを向上させてきた。短期間でこうした専門知識を獲得することは難しいので長期的観点からスタッフのスキル向上策を考えていく必要がある。

3つ目の知識・技術の承継の問題であるが、上述のスキルを発揮して開発してきた多数のシステム・ツールについてスタッフ間で円滑に承継していく必要がある。この問題を解決しないとスタッフに世代交代があった場合、システムの維持・管理・改修ができず病院業務に支障をきたすことになる。1つ目のスタッフ配置の問題と併せて知識・技術の承継が円滑にできるよう適切に対応していく必要がある。

## ② 院内開発システムのメンテナンスに関わる課題・問題点

システムを構築した場合、病院の運用変更や業務改善、制度改正などに対応してシステムのメンテナンスを行う必要がある。これらの変更が一度に集中すると限られたスタッフでは対応が難しくなることを考慮しておく必要がある。我々の経験からは、基幹システムのベンダーが富士通からNECに変更となったことに伴い、院内開発システムからデータ連携している参照先が全面的に変更になったため大幅なシステム改修を迫られた。

今後ともデータ連携の院内開発システムは増加すると考えられるので、現在検討中の次期電子カルテ等システムの中で、ベンダーが変更しても長期的利用が可能なDWHの整備が求められる。また、システム更新後、支障なく院内開発システムが稼働できるよう十分な改修期間を確保する必要がある。

## ③ 外部委託と院内開発

外部委託を選択するか院内開発でいくかの問題については、院内開発に比べて外部委託が有利な場合には積極的に外部委託化すべきと考えられる。反面、仕様書作成、入札発注、システム構築という外部委託の方法では対応できないシステムについては院内開発を選択するのがそのメリットを発揮できると考える。我々が対応してきた院内開発ニーズは、ベンダーのパッケージのカスタマイズでの対応になじまず、また、期

間的に余裕もなく、システム化のためのニーズの整理も不完全で直ちに外部委託できるものではなかった。

## ④ 電子カルテシステム等の機能として検討されるべきもの

我々が、院内のニーズに対応してシステム化するなかで感じているのが、電子カルテシステムが、紙カルテの延長としての位置づけもあってもか、システムが患者単位に成り立っていて、電子カルテを使ってそれぞれの業務に携わっているスタッフ側からの「仕事の管理」の視点が弱い、ないし欠落しているということである。

たとえば、法令、療担規則上あるいは医療安全上の要件の有無、退院サマリの期限内作成、DPC承認などを医師単位、あるいは組織単位に管理する機能は、本来電子カルテシステム側に備わるべき機能ではないかと考える。システム化された業務はシステムを活用しないと管理できない。システムを活用できないと一人一人の電子カルテの記事を確認しながら手作業で点検するという膨大な労力を強いることになる。

医師単位のポータル機能を検討している電子カルテベンダーもあるようであるが、医師単位だけでなく業務を管理する組織単位（診療科、病棟、部門など）にも必要な機能と思われる。今後のシステム更新にあたってはこうした視点の検討を期待したい。

## 2. 院内開発の今後の方向

院内開発という手法は、上述してきたとおり病院の現場からの様々なシステム化ニーズに迅速かつユーザーの立場に立ったきめ細やかな対応を実現でき、またコスト削減効果というメリットがある反面、スタッフやメンテナンス、外部委託との関係などで幾つかの課題・問題点を抱えている。しかし、課題・問題点を回避するため院内開発を行わないという選択は、現場の声に耳を塞ぐことになりシステム部門の責任を果たしたとは言えない。

病院業務をシステム面から支える役割を担っているシステム部門としては、院内開発にかかる課題・問題点を認識したうえで、法人本部をはじめ関係部署の理解と協力を得ながらこれらの課題・問題点の解決に努力を払うことにより、今後とも院内の院内開発ニーズに最大限の対応をしていく使命を有していると考えられる。



II. 原

著

## II. 原 著

### II. 1 腎細胞癌に対するスニチニブ服用中の甲状腺機能に関する検討

数馬 まりこ<sup>1)</sup> 森野 隆広<sup>1)</sup> 岩倉 敏夫<sup>1)</sup> 松岡 直樹<sup>1)</sup>  
小林 宏正<sup>1)</sup> 辻 晃仁<sup>2)</sup> 川喜田 睦司<sup>3)</sup> 石原 隆<sup>1)</sup>

神戸市立医療センター中央市民病院 <sup>1)</sup> 糖尿病・内分泌内科、<sup>2)</sup> 腫瘍内科、<sup>3)</sup> 泌尿器科

#### 要 旨

【目的】分子標的薬であるスニチニブは近年甲状腺機能に多彩な影響を及ぼすことが報告されている。そこで、当院でのスニチニブ使用症例での甲状腺機能の変動に関して後向きに検討した。【対象】2008年8月から2011年12月にスニチニブを処方されていた腎細胞癌転移例28例中、適切な甲状腺機能評価が可能であった19名を対象とした。【方法】甲状腺機能検査と機能異常の発症確認日を調査した。【結果】甲状腺機能正常1名。潜在性機能低下症6名、FT4  $1.14 \pm 0.21$  ng/dl, FT3  $2.85 \pm 0.25$  pg/ml, TSH  $11.6 \pm 8.1$   $\mu$ U/ml、発症確認日はスニチニブ投与開始後  $158 \pm 100$  日 (6–261日)。機能低下症10名、FT4  $0.83 \pm 0.17$  ng/dl, FT3  $2.08 \pm 0.26$  pg/ml, TSH  $94.2 \pm 61.5$   $\mu$ U/ml、発症確認日は  $194 \pm 170$  日 (14–547日)。一過性中毒症9名、FT4  $2.74 \pm 0.84$  ng/dl, FT3  $5.86 \pm 2.84$  pg/ml, TSH  $0.07 \pm 0.10$   $\mu$ U/ml、発症確認日は  $101 \pm 93$  日 (21–338日)。その中で、中毒症後に潜在性を含めた機能低下症合併7名であった。【結論】スニチニブ投与症例では甲状腺機能異常を来すことが多く、定期的な評価が必要である。

キーワード：スニチニブ、甲状腺機能低下、甲状腺中毒症

(神戸市立病院紀要 53：29–32, 2014)

### Thyroid dysfunction caused by sunitinib during chemotherapy for renal cell carcinoma

Mariko Kazuma<sup>1)</sup>, Takahiro Morino<sup>1)</sup>, Toshio Iwakura<sup>1)</sup>, Naoki Matsuoka<sup>1)</sup>, Masahiro Kobayashi<sup>1)</sup>,  
Mutsushi Kawakita<sup>2)</sup>, Akihito Tsuji<sup>3)</sup>, Takashi Ishihara<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> Departments of Diabetes and Endocrinology, <sup>2)</sup> Urology, <sup>3)</sup> Medical Oncology,  
Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan

#### Abstract

Objective: Recently, sunitinib, an oral molecular-targeted drug, has been reported for its diverse effects on thyroid function. Hence, we retrospectively analyzed the effects of sunitinib on thyroid function.

Patients and Methods: Between August 2008 and December 2011, 28 patients with renal cell carcinoma received sunitinib therapy in our hospital. After excluding 5 patients with thyroid dysfunction before sunitinib administration and 4 patients who had not been evaluated for thyroid function, 19 patients were finally included. Thyroid function and the interval between the onset of dysfunction and start of sunitinib intake were retrospectively surveyed using the patients' medical records.

Results: One patient showed euthyroidism. Six patients developed latent hypothyroidism; (free thyroxine [FT4]  $1.14 \pm 0.21$  ng/dl; free triiodothyronine [FT3]  $2.85 \pm 0.25$  pg/ml; and thyroid stimulating hormone [TSH]  $11.6 \pm 8.1$   $\mu$ U/ml). The mean onset of dysfunction was  $158 \pm 100$  days after medication (range, 6–261 days). Ten patients had hypothyroidism (FT4  $0.83 \pm 0.17$  ng/dl; FT3  $2.08 \pm 0.26$  pg/ml; and TSH  $94.2 \pm 61.5$   $\mu$ U/ml). The mean duration was  $194 \pm 170$  days (range, 14–547 days). Nine patients manifested transient thyrotoxicosis (FT4  $2.74 \pm 0.84$  ng/dl; FT3  $5.86 \pm 2.84$  pg/ml; and TSH  $0.07 \pm 0.10$   $\mu$ U/ml). The mean interval was  $101 \pm 93$  days (21–338 days). Seven patients reported latent hypothyroidism or hypothyroidism after thyrotoxicosis.

Conclusion: Routine thyroid function tests are recommended for patients treated with sunitinib.

Key words : sunitinib, hypothyroidism, thyrotoxicosis

(Kobe City Hosp Bull 53：29–32, 2014)

## I. 背景

スニチニブ（商品名：スーテント<sup>®</sup>）は特定の受容体型チロシンキナーゼにおけるシグナル伝達を選択的に遮断するマルチターゲットの経口チロシンキナーゼ阻害薬であり、VEGFR-1~3、PDGFR  $\alpha/\beta$ 、c-KIT、RET、CSF1R、FLT3などをターゲットとする<sup>1)</sup>。米国食品医薬品局（FDA）では2006年1月に、また本邦では2008年6月に認可され、腎細胞癌根治切除不能または転移例およびイマチニブ抵抗性の消化管間質腫瘍（GIST）の治療薬として広く使用されている。

当初、スニチニブの副作用として倦怠感の報告はあるものの甲状腺機能との関連は考慮されていなかったが、近年甲状腺機能低下症の報告がなされている。潜在性を含めた甲状腺機能低下症の頻度は、前向き研究で36~46%<sup>2,3)</sup>、後ろ向き研究では53~85%<sup>4-6)</sup>となっている。

当院においても2008年8月から腎細胞癌転移例に対してスニチニブが使用されている。これらの症例においてスニチニブが甲状腺機能に与える影響について後ろ向きに検討を行った。

## II. 対象

2008年8月から2011年12月までの41ヶ月間において、腎細胞癌転移例でスニチニブを処方されていた症例は28名であり、男性18名・女性10名、平均年齢73.7歳であった。その中で、スニチニブ投与前にインター

フェロンやソラフェニブで甲状腺機能低下症をきたしていた5名、および甲状腺機能評価をしていなかった4名を除外し、19名に関して検討を行った。検討可能例では1-2ヶ月に1度甲状腺機能は評価されていた。

## III. 方法

研究対象期間の甲状腺機能検査（FT4、FT3、TSH、TgAb、TPOAb）の結果、スニチニブ投与開始から甲状腺機能異常の発症確認日までの日数を調査した。また、機能低下例ではレボサイロキシン補充状況を調査した。潜在性甲状腺機能低下症の定義はFT4・FT3ともに正常かつTSH高値、甲状腺機能低下症の定義はFT4・FT3いずれか低値かつTSH高値であり、機能判定には最も悪化した時点の成績を採用した。

使用キットの正常域はFT4 0.90-1.70 ng/dl、FT3 2.30-4.00 pg/ml、TSH0.5-5.0 $\mu$ U/ml、TgAb <0.3 U/ml、TPOAb <0.3 U/mlである。

## IV. 結果

対象者19名を甲状腺機能別に分類すると、甲状腺機能正常1名、潜在性甲状腺機能低下症6名、甲状腺機能低下症10名、一過性甲状腺中毒症9名、（中毒症後に潜在性を含めた甲状腺機能低下症に陥った合併例7名）であった。結果をTable 1にまとめた。

	latent hypothyroidism	hypothyroidism	thyrotoxicosis
N	6	10	9
FT4 (ng/dl)	1.14 $\pm$ 0.21	0.83 $\pm$ 0.17	2.74 $\pm$ 0.84
FT3 (pg/ml)	2.85 $\pm$ 0.25	2.08 $\pm$ 0.26	5.86 $\pm$ 2.84
TSH ( $\mu$ U/ml)	11.6 $\pm$ 8.1	94.2 $\pm$ 61.5	0.07 $\pm$ 0.10
confirmed onset days			
mean $\pm$ SD	158 $\pm$ 100	194 $\pm$ 170	101 $\pm$ 93
range	6-261	14-547	21-338

Table 1 Thyroid dysfunctions

### 1. 潜在性甲状腺機能低下例

潜在性甲状腺機能低下をきたした患者は6名であり、最も悪化した時点の成績はFT4  $1.14 \pm 0.21$  (平均 $\pm$ SD) ng/dl, FT3  $2.85 \pm 0.25$  pg/ml, TSH  $11.6 \pm 8.1$   $\mu$ U/mlであった。また、潜在性甲状腺機能低下症発症確認日はスニチニブ投与開始後  $158 \pm 100$  日 (範囲6-261日) であり、ばらつきを認めた。

### 2. 甲状腺機能低下例

甲状腺機能低下をきたした患者は10名であり、FT4  $0.83 \pm 0.17$  ng/dl, FT3  $2.08 \pm 0.26$  pg/ml, TSH  $94.2 \pm 61.5$   $\mu$ U/mlであった。FT4, FT3の低下に比してTSHが著しく高値であった。また、甲状腺機能低下症発症確認日は  $194 \pm 170$  日 (14-547日) とばらつきを認めたが、100日前後が多かった。10名中7名にレボサイロキシンが補充されていて、投与量は25 $\mu$ g/日 2名、50 $\mu$ g/日 4名、100 $\mu$ g/日 1名であった。

また、潜在性甲状腺機能低下例と甲状腺機能低下例16名のうち5名でTgAb, TPOAbが測定されていたが、1名のみで陽性であった。

### 3. 一過性甲状腺中毒症例

一過性甲状腺中毒症をきたした患者は9名であり、FT4  $2.74 \pm 0.84$  ng/dl, FT3  $5.86 \pm 2.84$  pg/ml, TSH  $0.07 \pm 0.10$   $\mu$ U/mlであり、FT4/FT3は高値であった。一過性甲状腺中毒症発症確認日は  $101 \pm 93$  日 (21-338日) とばらつきを認めたが、70日前後が多かった。9名の中毒症の経過は、2名が甲状腺機能正常化 (1名はスニチニブ中止後、1名は他の分子標的薬に変更後) したが、5名が甲状腺機能低下症・2名が潜在性甲状腺機能低下症を呈した。

## V. 考 察

本検討では対象19名中18名 (94.7%) と高頻度に甲状腺機能異常を認め、甲状腺機能低下症から一過性甲状腺中毒症まで多彩な影響が認められた。倦怠感・疲労感・むくみ・便秘などの甲状腺機能低下症による症状は悪性腫瘍やその治療に伴う症状と似ているため鑑別が困難になる場合も多く、定期的な甲状腺機能検査が必要と思われる。また、甲状腺機能異常の発症時期については、TSH上昇に関してスニチニブ投与10週後～数年後と幅広く認めたとの報告がある<sup>7)</sup>。本検討でもばらつきがあったが、1～3週後に甲状腺機能異常をきたしていた症例もあり、スニチニブ投与早期から甲状腺機能の評価が必要であると考えられる。

スニチニブはVEGF (血管内皮細胞増殖因子) をはじめとする受容体チロシンキナーゼ (RTK) のシグナル伝達経路を遮断する薬剤である。甲状腺は非常に血流が豊富な臓器であり、ラットではあるがスニチニブを投与した際に甲状腺で毛細血管の退縮が認められ、さらにラットや人においてCTおよび超音波で甲状腺サイズの低下も確認されていて<sup>2,7,8)</sup>、スニチニブによる甲状腺機能異常の機序としては主にVEGFの障害が考えられている。しかし、スニチニブ投与中に甲状腺へのヨウ素の取り込み低下の報告もあり、毛細血管の退縮以外の要因の関与も考えられている<sup>4,9,10)</sup>。さらに、末梢でT4からT3への代謝 (5'-脱ヨード酵素活性) を低下すると報告があり<sup>2)</sup>、貯蔵庫であるT4に比し生理活性のあるT3がより低下する。ただし、生理活性がないrT3の増加はなくlowT3症候群とは異なる病態である。下垂体でも同様の機序によりT4に比しT3が低値になることで、TSHは著明高値を呈すると考えられる。さらに、ペルオキシダーゼ活性の抑制、Na-Iシンポーター機能の抑制などの機序を介して、甲状腺ホルモン産生を低下する可能性も考えられている。

一方、本検討でも甲状腺機能低下症例でTgAb, TPOAb陽性の頻度が低く、同様の報告が多く<sup>6,9)</sup>、免疫異常が原因の可能性は低いと考えられる。さらに、免疫疾患は女性に多いが本症は男女差を認めないこと、ラットの研究で病理学的に炎症所見を呈さない<sup>7)</sup> ことも、免疫異常が関与していないことの根拠として挙げられる。

甲状腺中毒症は9名全例一過性であり、中毒症後2名が甲状腺機能正常化した。5名が甲状腺機能低下症・2名が潜在性甲状腺機能低下症へ陥った。中毒症時のFT4/FT3は高値であり、バセドウ病でなく一過性 (破壊性) を示唆する成績であった。一般に、一過性甲状腺中毒症の原因としては橋本病患者に発症する無痛性甲状腺炎と亜急性甲状腺炎が主な原因であるが、本症では両疾患とも否定的である。本症の機序としては、甲状腺が縮小する過程で一時的に甲状腺ホルモンが破壊性に血中に放出され一過性中毒症を呈した後、長期的には甲状腺機能の低下状態に陥るのではないかと推測される。

スニチニブによる他の内分泌機能異常の報告は少なく、甲状腺に特異的に作用すると考えられているが、少数例ではあるが、筆者らが測定したACTH, Cortisolにおいても異常を呈する例もあり、今後検討を要する課題である。

## VI. 結 論

スニチニブは高頻度に甲状腺機能に多彩な影響を及ぼすため、投与症例では投与開始早期からの甲状腺機能の定期的な評価が必要である。

## 文 献

- 1) Ivy SP, Wick JY, Kaufman BM : An overview of small-molecule inhibitors of VEGFR signaling. *Nat Rev Clin Oncol* 10 : 569–579, 2009
- 2) Desai J, Yassa L, Maequsee E, et al : Hypothyroidism after sunitinib treatment for patients with gastrointestinal stromal tumors. *Ann Intern Med* 145 : 660–664, 2006
- 3) Mannavola D, Coco P, Vannucchi G, et al : A novel tyrosine-kinase selective inhibitor, sunitinib, induces transient hypothyroidism by blocking iodine uptake. *J Clin Endocrinol Metab* 92 : 3531–3534, 2007
- 4) Rini BI, Tamaskar I, Shaheen P, et al : Hypothyroidism in patients with metastatic renal cell carcinoma treated with sunitinib. *J Natl Cancer Inst* 99 : 81–83, 2007
- 5) Wong E, Rosen LS, Mulay M, et al : Sunitinib induces hypothyroidism in advanced cancer patients and may inhibit thyroid peroxidase activity. *Thyroid* 17 : 351–355, 2007
- 6) Wolter P, Stefan C, Decallonne B, et al : The clinical implications of sunitinib-induced hypothyroidism: a prospective evaluation. *Br J Cancer* 99 : 448–454, 2008
- 7) Kappers MH, van Esch JH, Smedts FM, et al : Sunitinib-induced hypothyroidism is due to induction of type 3 deiodinase activity and thyroidal capillary regression. *J Clin Endocrinol Metab* 96 : 3087–3094, 2011
- 8) Shinohara N, Takahashi M, Kamishima T, et al : The incidence and mechanism of sunitinib-induced thyroid atrophy in patients with metastatic renal cell carcinoma. *Br J Cancer* 104 : 241–247, 2011
- 9) Grossmann M, Premaratne E, Desai J, et al : Thyrotoxicosis during sunitinib treatment for renal cell carcinoma. *Clin Endocrinol (Oxf)* 69 : 669–672, 2008
- 10) Salem AK, Fenton MS, Marion KM, et al : Effect of sunitinib on growth and function of FRTL-5 thyroid cells. *Thyroid* 18 : 631–635, 2008

## II. 原 著

### II. 2 導出右側胸部誘導・背部誘導心電図の精度に関する評価

#### — 標準12誘導心電図で左室肥大所見を有する症例での評価 —

川井 順一<sup>1)</sup> 岡田 大司<sup>2)</sup> 野村 菜美子<sup>1)</sup>  
 箕輪 和士<sup>1)</sup> 古川 裕<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 神戸市立医療センター中央市民病院 臨床検査技術部

<sup>2)</sup> 鳥根大学医学部内科学講座第四

<sup>3)</sup> 神戸市立医療センター中央市民病院 循環器内科

#### 要 旨

右室梗塞や左室後壁梗塞症例において、右側胸部誘導および背部誘導心電図の有用性の報告はあるが、記録の煩雑などで日常診療では行われない。本研究では、左室肥大の26症例において、12誘導心電図から導出された右側胸部誘導および背部誘導心電図の精度の評価を行った。導出心電図と実記録の間で、P波、QRS波、T波の波幅と波高、QT時間およびT波形状を比較した結果、右側胸部誘導と背部誘導のV7では、全計測値で有意差を認めず、強い相関を示した。また、T波形状の一致率は100%であった。一方、背部誘導のV8、V9のQRSの波高とV9のT波の波高では、相関係数は他より低く中等度～弱い相関であった。V9のT波形状は26例中2例が不一致であった。以上より、導出心電図は実記録と比較し、右側胸部誘導と背部誘導のV7では同様の評価が可能であるが、背部誘導のV8、V9では波高やT波の形状が乖離することがある。

キーワード：導出心電図、右側胸部誘導、背部誘導、左室肥大

(神戸市立病院紀要 53 : 33 - 39, 2014)

### Accuracy of synthesized right chest/back lead-electrocardiogram in clinical use of left ventricular hypertrophy

Junichi Kawai<sup>1)</sup>, Taiji Okada<sup>2)</sup>, Namiko Nomura<sup>1)</sup>, Kazushi Minowa<sup>1)</sup>, Yutaka Furukawa<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> Department of Clinical Laboratory, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan

<sup>2)</sup> The Fourth Department of Internal Medicine, Shimane Medical University, Shimane, Japan

<sup>3)</sup> Department of Cardiology, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan

#### Abstract

The present study aimed to evaluate the accuracy of synthesized electrocardiogram (ECG) with right chest leads (V3R-V5R) and back leads (V7-V9) derived from standard 12-lead ECG in patients with left ventricular hypertrophy (LVH). The synthesized ECG was mathematically derived from standard 12-lead ECG and compared with the actual recorded ECG in 26 patients with LVH. P wave width/amplitude, QRS wave width/amplitude, T wave amplitude, and QT interval were measured. The ECG variables were compared between the synthesized and the actual recorded ECGs. T wave morphology was also evaluated. All the ECG variables in V3R-V5R and V7 were almost identical between the synthesized and actual recorded ECGs. A strong correlation with respect to each ECG variable was observed. T wave morphology coincided in all the 26 patients. However, correlations between the synthesized and the actual recorded ECGs in the QRS wave amplitude in V8 and V9 and in the T wave amplitude in V9 were relatively weak. The T wave morphology in V9 differed in 2 of the 26 patients. Synthesized 18-lead ECG may provide accurate ECG waves in V3R-V5R and V7. However, the QRS wave amplitude in V8, V9, and T wave amplitude and the morphology in V9 should be carefully interpreted.

Key words : Synthesized electrocardiogram (ECG), Right chest leads (V3R-V5R), Back leads (V7-V9), Left ventricular hypertrophy (LVH)

(Kobe City Hosp Bull 53 : 33 - 39, 2014)



## I. 背景

標準12誘導心電図は日常診療で広く利用されているが、標準12誘導心電図では心臓の右室側や左室後壁側での病変を捉えることは容易ではない。心臓の右室側や左室後壁側での病変を捉えるためには右側胸部誘導および背部誘導を記録する必要があるが、日常検査で記録するには煩雑であり時間を要する。近年開発された導出18誘導心電図を用いれば、標準12誘導心電図を記録するだけで得られた心電図波形データをもとに演算処理をして、右側胸部誘導（V3R～V5R）および背部誘導（V7～V9）の6誘導の波形を導出して、瞬時に表示することが可能である（図1）。しかしながら、導出18誘導心電図について、臨床例による精度や問題点についての報告は少ない。

## II. 目的

本研究の目的は、導出18誘導心電図の精度を実記録した右側胸部誘導および背部誘導心電図と比較することによって評価することである。本研究では、各波の波幅、波高、T波形状についての精度評価を容易にするため、標準12誘導心電図において波幅、波高の数値が大きく、左室ストレインパターンなどT波形状の変化を示す左室肥大所見を呈する症例での解析を行った。

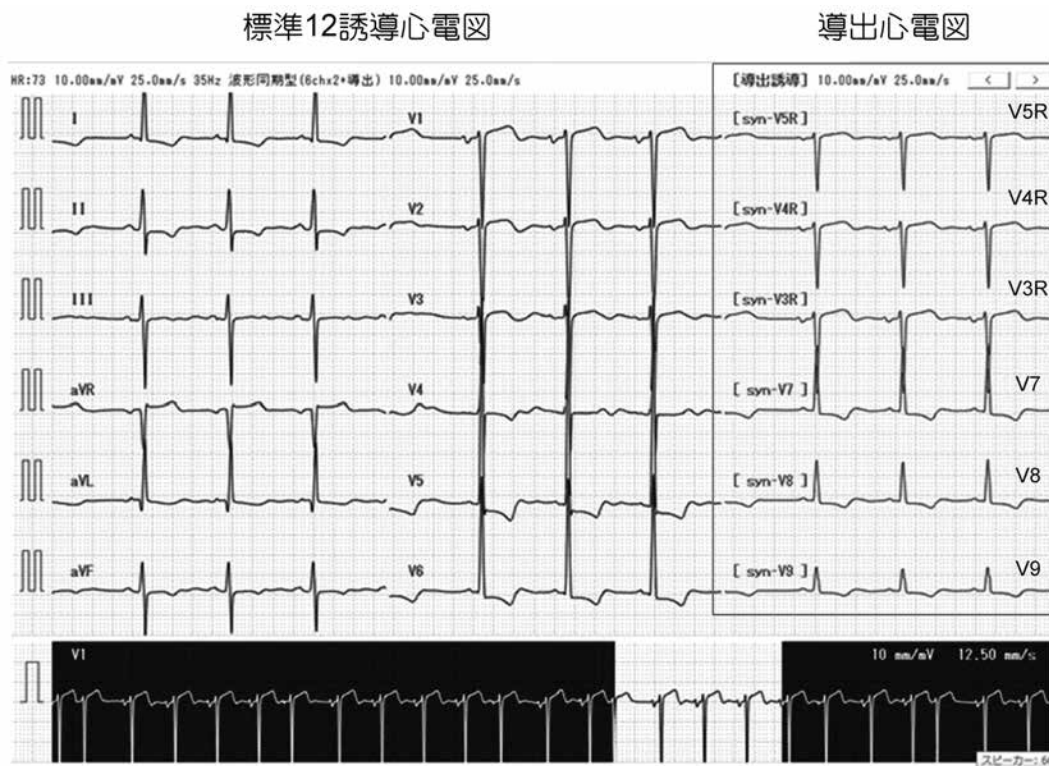
## III. 対象

対象は、洞調律を有する26例（男性16名、女性10名、平均年齢 $67 \pm 10$ 歳）であった。症例の内訳は、高血圧症10例、慢性腎不全8例、糖尿病6例、肥大型心筋症1例、大動脈狭窄症1例であった。

また、標準12誘導心電図で左室肥大所見（V6誘導R波の波高 $\geq 25$ mm）を呈する症例において、導出18誘導心電図による右側胸部誘導（V3R～V5R）のいずれかの誘導で1mm以上のST上昇の症例+胸部誘導でストレインパターン（+）が3例、導出18誘導心電図による背部誘導（V7～V9）で0.5～1.0mm以上のST低下+胸部誘導でストレインパターン（+）の症例が16例、導出18誘導心電図による背部誘導で0.5～1.0mm以上のST低下+胸部誘導でストレインパターン（-）の症例が7例であった。なお、本検討では、心房細動などの不整脈例やペースメーカー挿入例は除外した。

## IV. 方法

使用した心電計は日本光電社製ECG-1550であり、電極は胸部誘導では吸着電極、四肢誘導ではファストクリップを用いて、標準12誘導心電図を記録した。導出心電図は、記録した標準12誘導心電図の波



実際の導出18誘導心電図の表示例である。左図に示した標準12誘導心電図と右図の四角枠で囲んだ右側胸部誘導（V3R～V5R）および背部誘導（V7～V9）の追加6誘導が表示される。

図1 導出18誘導心電図

形データを生理検査部門システム（Prime Vita PRM-3000 ver.02-17 P 3；日本光電社製）に転送し、生理検査部門システムに組み込まれた導出誘導の表示法を用いて標準12誘導心電図波形データをもとに演算処理によって得られた右側胸部誘導（V3R～V5R）および背部誘導（V7～V9）を表示させた。実記録心電図は、標準12誘導心電図を記録した後、図2に示した方法で電極の付け替えをして右側胸部誘導および背部誘導<sup>1)</sup>の心電図記録を行なった。右側胸部誘導（V3R～V5R）の記録は、被検者の標準12誘導心電図を記録したときと同様の体位で電極の付け替えを行った。背部誘導は、電極をシール電極（福田電子社製 CARBONRODE II）に交換し、被検者に座位になってもらった状態で電極を装着した後、体位の影響を除外するために再び仰臥位になってもらって心電図の記録を行った。

以上の方法で得られた導出心電図と実記録心電図について、P波（波幅、波高）、QRS波（波幅、波高）、T波（波高、形状）、QT時間について計測し、比較検討を行なった。T波の形状は、陽性（+）、陰性（-）、陽性+陰性（+-）、陰性+陽性（-+）、flatの5つのパターンで評価し、比較検討を行なった。

## V. 統計処理

導出誘導心電図と実記録心電図の各計測項目の平均値±標準偏差を算出した。それらのデータの比較検討において、有意差検定はStudent's paired t-testによって $P<0.05$ をもって「有意差あり」とした。相関関係は、Pearsonの積率相関係数を用いて評価した。T波形状については、5つのパターンでの一致率を算出して比較検討を行った。

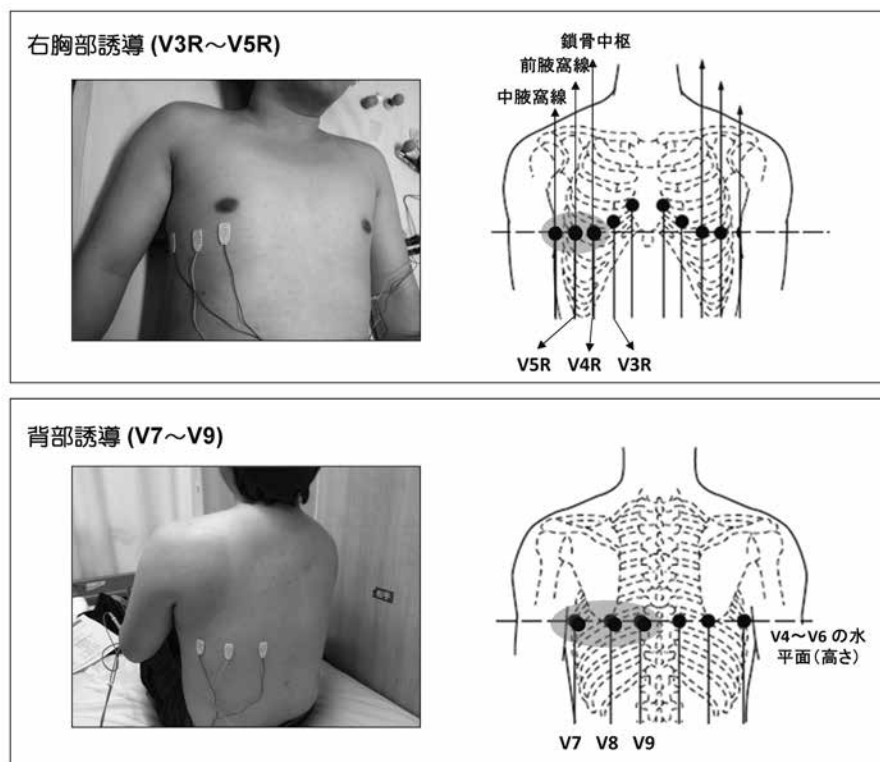
## VI. 結果

### 1. 右側胸部誘導（V3R～V5R）

実記録心電図と導出心電図の比較において、波幅および波高では、V3R～V5Rのすべての計測値において有意差は認めなかった（表1）。相関関係については、すべての誘導で有意な相関が認められ、相関係数が0.840～0.996と強い相関が認められた（表2）。T波形状については、V3R～V5Rのすべての誘導において100%の一致を示した。

### 2. 背部誘導（V7～V9）

実記録心電図と導出心電図の比較において、波幅では、V7～V9のすべての計測値において有意差は認めなかった（表3）。波高では、V7はすべての計測



上図：右側胸部誘導（V3R～V5R）の実際の記録方法

下図：背部誘導（V7～V9）の実際の記録方法

図2 右側胸部誘導（V3R～V5R）および背部誘導（V7～V9）の実記録の方法

値に有意差を認めなかったが、V8、V9のT波の波高には有意差が認められた(表3)。相関関係については、すべての誘導で有意な相関が認められたが、V8、V9のQRS波の波高で相関係数が0.557、0.399、V9のT波の波高で相関係数が0.548と中等度～弱い相関であった(表2)。また、実記録心電図に比べて導

出心電図のほうが高い傾向であった。V9のT波形状は、26例中24例が一致し、2例(8%)が不一致であった。不一致例では、いずれも実記録では、(-)が導出心電図では(-+)と変化していた。その他の誘導でのT波形状は、すべて一致(100%)していた。

		V3R	P value	V4R	P value	V5R	P value
P波幅(ms)	実記録心電図	100.96±17.64	0.9873	99.50±18.75	0.9942	101.27±16.06	0.5675
	導出心電図	101.04±17.02		99.54±19.33		98.23±15.52	
P波高(mV)	実記録心電図	0.113±0.066	0.4847	0.086±0.043	0.3591	0.074±0.032	0.0839
	導出心電図	0.101±0.058		0.075±0.040		0.058±0.030	
QRS波幅(ms)	実記録心電図	93.88±15.27	0.9336	91.88±15.39	0.7005	87.35±14.05	0.8678
	導出心電図	93.54±14.55		90.23±15.44		86.69±14.12	
QRS波高(mV)	実記録心電図	1.31±0.56	0.7340	0.87±0.38	0.9735	0.61±0.27	0.4941
	導出心電図	1.25±0.52		0.87±0.40		0.67±0.34	
T波高(mV)	実記録心電図	0.242±0.19	0.7707	0.169±0.11	0.5546	0.134±0.09	0.6496
	導出心電図	0.257±0.19		0.188±0.11		0.145±0.09	
QT間隔(ms)	実記録心電図	391.58±35.93	0.8911	388.00±38.72	0.7770	384.04±40.26	0.9058
	導出心電図	388.38±38.10		384.92±39.19		382.69±41.33	

表1 右側胸部誘導(V3R～V5R)による実記録と導出誘導の計測値(平均値±標準偏差)

	V3R	V4R	V5R	V7	V8	V9
P波幅	0.959	0.954	0.840	0.922	0.870	0.901
P波高	0.943	0.902	0.897	0.911	0.861	0.764
QRS波幅	0.955	0.970	0.935	0.871	0.913	0.942
QRS波高	0.970	0.961	0.959	0.719	0.557	0.399
T波高	0.995	0.968	0.973	0.873	0.610	0.548
QT間隔	0.982	0.961	0.967	0.987	0.983	0.881

表2 右側胸部誘導(V3R～V5R)および背部誘導(V7～V9)による実記録と導出誘導の相関係数

		V7	P value	V8	P value	V9	P value
P波幅(ms)	実記録心電図	96.62±18.26	0.9873	93.68±16.40	0.7829	86.12±14.65	0.5877
	導出心電図	96.69±16.06		95.12±14.96		89.12±13.81	
P波高(mV)	実記録心電図	0.065±0.024	0.6329	0.061±0.024	0.1509	0.054±0.023	0.0749
	導出心電図	0.062±0.023		0.051±0.018		0.044±0.015	
QRS波幅(ms)	実記録心電図	86.81±13.74	0.4806	88.15±11.34	0.3962	90.38±13.04	0.6268
	導出心電図	83.96±15.11		85.42±11.66		88.54±14.15	
QRS波高(mV)	実記録心電図	1.09±0.36	0.0732	0.88±0.27	0.0844	0.68±0.21	0.0535
	導出心電図	1.34±0.57		1.06±0.44		0.85±0.40	
T波高(mV)	実記録心電図	0.168±0.08	0.1453	0.127±0.06	0.0159	0.080±0.06	0.0073
	導出心電図	0.200±0.08		0.176±0.08		0.128±0.07	
QT間隔(ms)	実記録心電図	400.92±49.43	0.9051	394.50±50.06	0.9626	382.08±44.36	0.4683
	導出心電図	399.27±50.13		393.85±50.05		391.81±51.39	

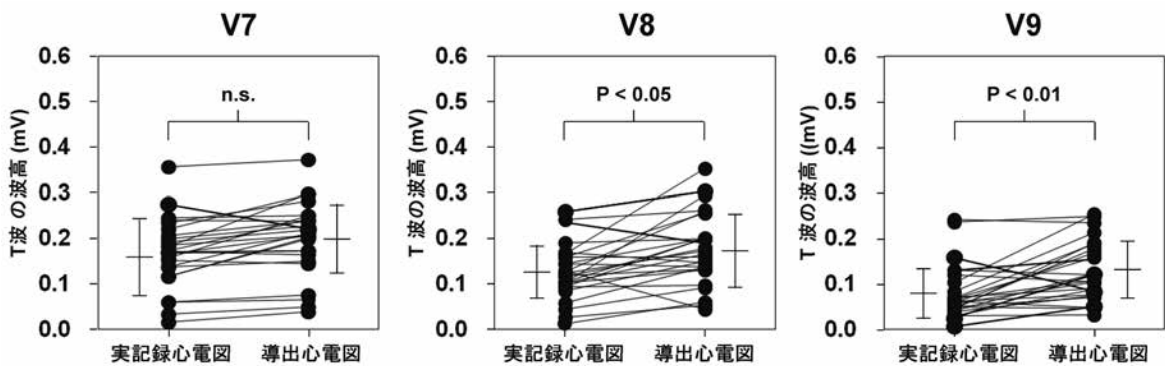
表3 背部誘導(V7～V9)による実記録と導出誘導の計測値(平均値±標準偏差)

## Ⅶ. 考 察

標準12誘導心電図は日常診療で広く利用されているが、標準12誘導心電図では心臓の右室側や左室後壁側での病変を捉えることは容易ではない。日本循環器学会から報告された「急性心筋梗塞の診療に関するガイドライン」では、急性下壁梗塞では右側胸部誘導の記録が右室梗塞の合併の有無の診断に有用であるとしている<sup>1-2)</sup>。また、純左室後壁梗塞では、左室後壁のST上昇の対側性変化としてV1～V4誘導でST低下のみを認めることがあり、このような場合には背部誘導(V7～V9)の記録が診断に有用であるとしている(図3)<sup>2-4)</sup>。しかし、右側胸部誘導(V3R～V5R)では電極を付け替える必要があり、また背部誘導(V7～V9)では背部に電極を付けるために体位を変えて電極を付け替える必要があるため、計測に時間を有するとともに、手技が煩雑であるといった問題点があった<sup>5)</sup>。

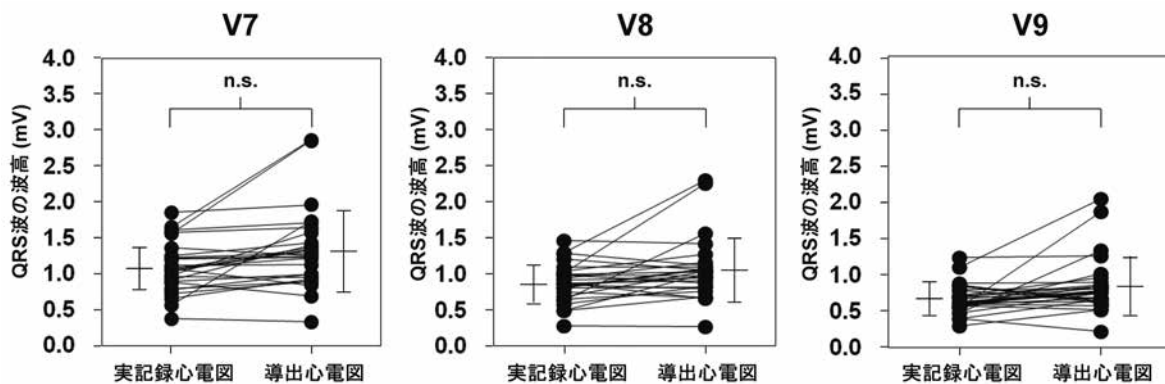
近年、開発された導出18誘導心電図は、標準12誘導心電図から得られた心電図波形データをもとに演算処理によって右側胸部誘導(V3R～V5R)および背部誘導(V7～V9)の6誘導の波形を瞬時に導出する方法である。この方法を用いれば、日常検査で電極を

付け替えることや体位を変えるなどの煩雑な手技を伴うことなく、右側胸部誘導(V3R～V5R)および背部誘導(V7～V9)の6誘導の心電図波形を瞬時に表示することが可能である。しかし、導出18誘導心電図について、虚血性心疾患以外での臨床例による精度や問題点についての報告は現在のところほとんどない。そこで、今回われわれは、標準12誘導心電図で左室肥大所見を呈する洞調律症例を対象に導出18誘導心電図の精度を検討した。本研究の結果では、右側胸部誘導(V3R～V5R)における実記録と導出誘導の比較について、V3R～V5Rの波高、波幅では、すべての誘導で有意差は認められず、また有意な相関が認められ、それらは強い相関を示した。さらに、T波形状も、すべての誘導において100%一致した。これらの結果から、右側胸部誘導(V3R～V5R)においては、導出心電図によって波高、波幅ともに導出誘導では実記録心電図と同様の心電図波形が得られることが示唆される。背部誘導(V7～V9)における実記録心電図と導出心電図の比較では、波幅に関して、すべての誘導で有意差は認められず、また有意な相関が認められ、それらは中等度～強い相関を示した。波高に関



実記録心電図に比べて導出心電図のほうが25%以上高い症例が認められる。V8、V9では、導出心電図のほうが実記録心電図より有意に高値を示している。

図3 T波の波高での実記録心電図と導出心電図の比較



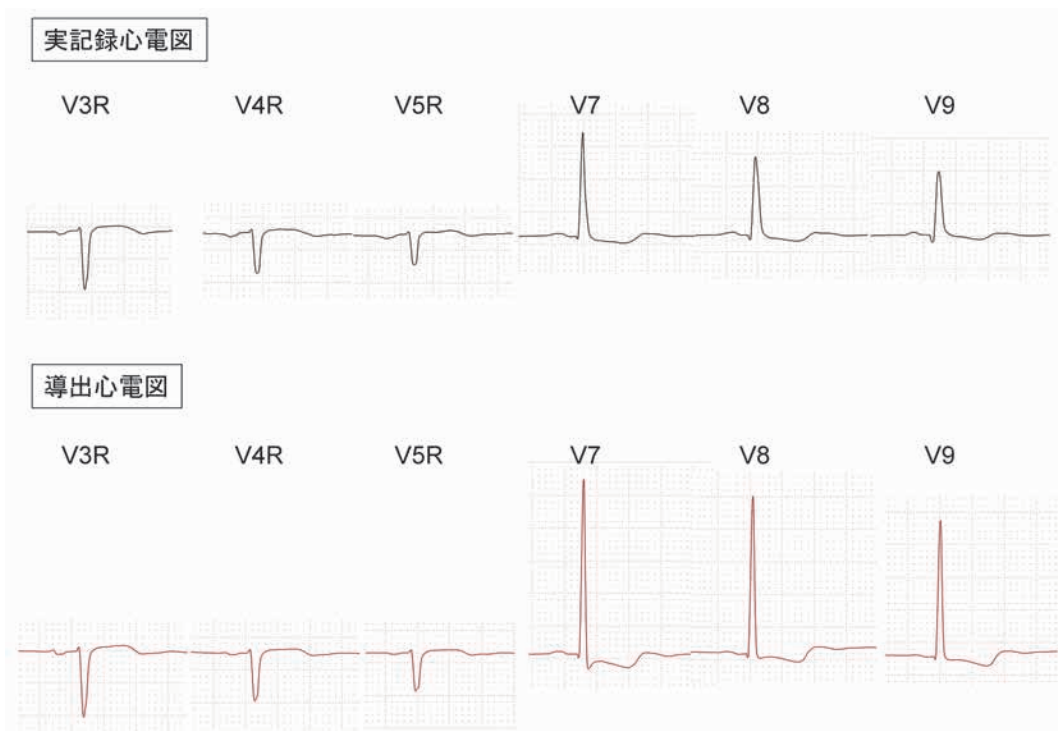
いずれの誘導においても有意差は認めなかったが、実記録に比べて導出誘導の方が25%以上高い症例が認められる。

図4 QRS波の波高での実記録心電図と導出心電図の比較

しては、V7はすべての計測値に有意差を認めなかったが、V8、V9のT波の波高に有意差が認められ、また有意な相関が認められたが、V8、V9のQRS波の波高、V9のT波の波高に関する相関係数は他より低く中等度～弱い相関であり、実記録心電図に比べて導出心電図のほうが高い傾向であった。また、実例を図3、4に示したように、QRS波、T波の波高では、実記録心電図に比べて導出心電図のほうが著明（25%以上）に高値を示した症例が26例中3例存在した。実際の心電図波形を比較してみても、実記録心電図に比べて導出心電図のほうがT波の波高が高い症例（図5）やQRS波とT波の波高がともに高い症例（図6）が認められた。加藤ら<sup>6)</sup>は、胸痛を訴えた左室後壁側または右室側を含む急性心筋梗塞患者30症例を対象に実記録心電図と導出心電図による右側胸部誘導と背部誘導を比較検討した。その結果、P波、QRS波、T波、QT時間のすべてにおいて相関係数が0.65以上の中等度～強い相関が認められたと報告している。しかし、今回のわれわれの検討においては、背部誘導での実記録心電図と導出心電図によるV8とV9でのQRS波とT波の

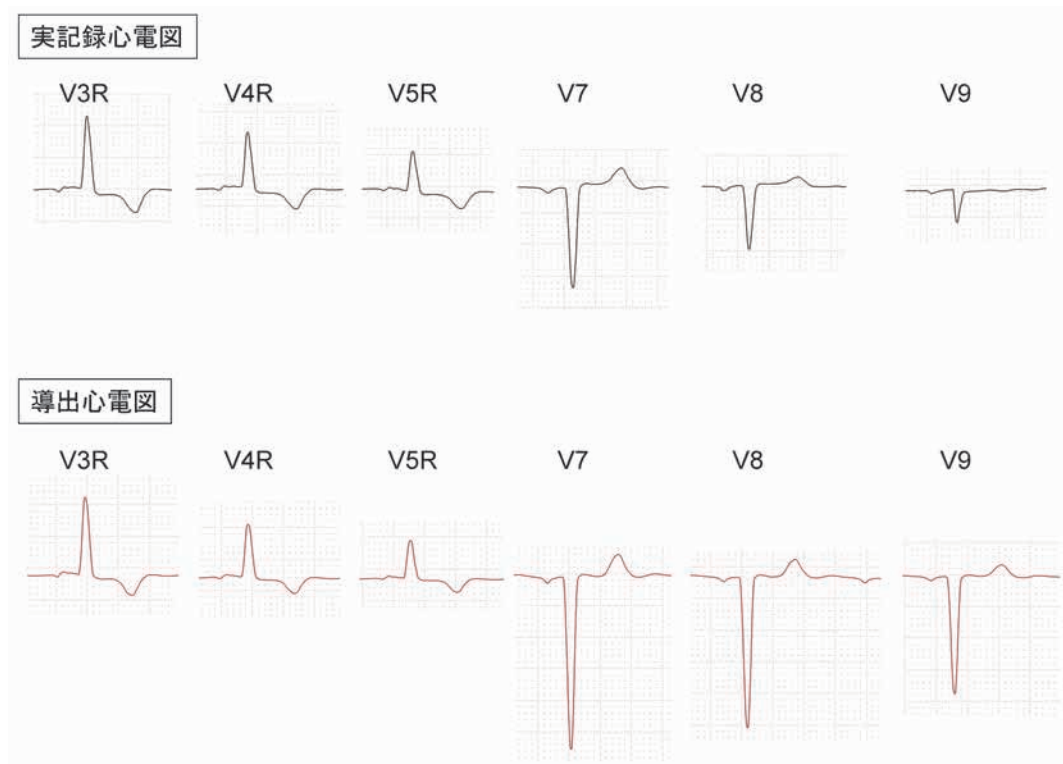
波高では有意な相関は認められたが、相関係数が0.56以下と中等度～弱い相関であった。この原因として、背部誘導の実記録心電図では背部に電極を付けるために体位を変えて電極を付け替えるため、検者によって電極を付ける位置にずれが生じて実記録と導出誘導に差が生じた可能性が考えられた。また、背部誘導の実記録心電図では体位の影響を除外するためにシール電極を使用したがる、違う種類の電極をしたことによって実記録と導出誘導に差が生じた可能性も考えられた。以上のことから、電極を付ける位置の違いや、異なった種類の電極を使用することによって心電図波形が受ける影響については、今後詳細な検討が必要である。

今回の検討における問題点として、対象が26例と少数例での検討であることが挙げられる。今後症例数を増やしてより詳細な検討が必要と考える。また、今回の検討では虚血性心疾患以外で心電図波形の精度を評価しやすいことから標準12誘導心電図で左室肥大所見を呈する症例に絞って検討したが、後壁梗塞や右室梗塞、また脚ブロックなど様々な症例について同様の結果が得られるかに関しては、さらに検討が必要である。



実記録心電図に比べて導出心電図の方が、QRS波の波高が高くなっている症例である。

図5 実記録心電図と導出心電図の波形の比較（例1）



実記録心電図に比べて導出心電図の方が、QRS波とT波の波高がともに高くなっている症例である。

図6 実記録心電図と導出心電図の波形の比較（例2）

## VIII. 結 語

標準12誘導心電図で特徴的な波形（高電位のR波、ストレインパターン）を有する左室肥大所見を呈する症例で実記録心電図と導出心電図の比較検討をした。右側胸部誘導（V3R～V5R）では、波幅、波高ともに有意差はみられず、また有意な相関が認められ、それらは強い相関を示したことから、導出心電図により実記録心電図と同様の評価が可能である。背部誘導（V7～V9）では、波幅は導出心電図により実記録心電図と同様の評価が可能である。しかし、V8、V9のQRS波、T波の波高は、有意な相関は認められたものの中等度～弱い相関であった。また、実記録心電図に比べて導出心電図の方が高い傾向があり、また8%と少ないがT波形状が乖離する症例も認められることから、導出18誘導心電図による心電図診断を行う際には注意を要する。

## 文 献

- 1) 高野照夫, 小川 聡, 笠貫 宏, 他: 循環器病の診断と治療に関するガイドライン (2006-2007年度合同研究班報告) 急性心筋梗塞 (ST上昇型) の診療に関するガイドライン. *Circ J* 72, Suppl IV: 1347-1442, 2008
- 2) 山科 章, 上嶋健治, 木村一雄, 他: 循環器病の診断と治療に関するガイドライン (2007-2008年度合同研究班報告) 冠動脈病変の非侵襲的診断法に関するガイドライン. *Circ J* 73, Suppl III: 1019-1089, 2009
- 3) Matetzky S, Freimark D, Chouraqui P, et al: Significance of ST segment elevation in posterior chest leads (V7 to V9) in patients with acute inferior myocardial infarction: application for thrombolytic therapy. *J Am Coll Cardiol* 31: 506-511, 1998
- 4) Chia BL, Tan HC, Yip JW, et al: Electrocardiographic pattern in posterior chest leads (V7, V8, V9) in normal subjects. *Am J Cardiol* 85: 911-912, 2000
- 5) Agarwal JB, Khaw K, Aurignac F, et al: Importance of posterior chest leads in patients with suspected myocardial infarction, but nondiagnostic, routine 12-lead electrocardiogram. *Am J Cardiol* 83: 323-326, 1999
- 6) Katoh T, Ueno A, Tanaka K, et al: Clinical Significance of Synthesized posterior right-sided chest lead electrocardiograms in patients with acute chest pain. *J Nippon Med Sch* 78: 22-29, 2011



## II. 原 著

### II. 3 当院における禁煙外来の展開-開設への取り組みと約6年間の治療成績

富岡 洋海<sup>1)</sup> 関谷 怜奈<sup>1)</sup> 金田 俊彦<sup>1)</sup> 木田 陽子<sup>1)</sup>  
西尾 智尋<sup>1)</sup> 中村 武寛<sup>2)</sup> 石本 学司<sup>3)</sup> 板垣 紀子<sup>4)</sup>

神戸市立医療センター西市民病院 <sup>1)</sup> 呼吸器内科、<sup>2)</sup> 糖尿病・内分泌内科、<sup>3)</sup> 薬剤部、<sup>4)</sup> 看護部

#### 要 旨

当院における禁煙外来開設から6年8ヶ月間の治療成績を報告する。開設前のアンケート調査（平成19年1月実施、入院・外来患者各169人・645人が回答）では、当時、当院受診患者の少なくとも約15%は現喫煙者で、約25%は敷地内全面禁煙に反対であった。同年8月、病院敷地内全面禁煙を実施し、禁煙外来を開設した。以後、平成26年3月までにニコチン依存症管理料を算定したのべ606例について検討した。男/女=377例/229例、平均年齢58±13歳、ブリンクマン指数868.0±540.9、初回呼気CO濃度15.3±11.1ppm、基礎疾患では、精神疾患（29.5%）、高血圧（18.2%）、糖尿病（17.3%）、心血管疾患（16.7%）などが多く、初回処方薬はバレニクリン237例、ニコチンパッチ369例で、309例（51.0%）が計5回の禁煙プログラムを完遂し、うち207例（67.0%）が禁煙に成功した。

キーワード：禁煙、ニコチン依存症、禁煙外来、禁煙補助薬

（神戸市立病院紀要 53：41-52, 2014）

### Smoking cessation therapy at Kobe City Medical Center West Hospital — Six-years' experience since the establishment of the smoking cessation clinic —

Hiromi Tomioka<sup>1)</sup>, Reina Sekiya<sup>1)</sup>, Toshihiko Kaneda<sup>1)</sup>, Yoko Kida<sup>1)</sup>, Chihiro Nishio<sup>1)</sup>,  
Takehiro Nakamura<sup>2)</sup>, Gakuji Ishimoto<sup>3)</sup>, Noriko Itagaki<sup>4)</sup>

Department of <sup>1)</sup> Respiratory Medicine, <sup>2)</sup> Diabetes and Endocrinology, <sup>3)</sup> Pharmacy,  
and <sup>4)</sup> Nursing, Kobe City Medical Center West Hospital, Kobe, Japan

#### Abstract

We describe our 6 years' experience with smoking cessation therapy at Kobe City Medical Center West Hospital. According to a questionnaire survey of hospitalized patients (n=169) and outpatients (n=645) that was conducted in January 2007, approximately 25% of patients were not in favor of the full-scale smoking cessation program conducted in our hospital. In August 2007, after careful preparations, we implemented the full-scale smoking cessation program in our hospital and established a smoking cessation clinic. Between August 2007 and March 2014, 606 patients with nicotine dependence participated in a 3-month smoking cessation program that was covered by the Japanese medical insurance system. The participants consisted of 377 men and 229 women whose age was 58±13 years (mean±SD). The Brinkman Index score was 868.0±540.9, and the exhaled CO level was 15.3±11.1 ppm. The underlying diseases included mental disorders (29.5%), hypertension (18.2%), diabetes (17.3%), and cardiovascular diseases (16.7%). The initial prescriptions was transdermal nicotine patches in 369 subjects and varenicline in 237 subjects. Of the 606 participants, 309 (51.0%) completed the program, among whom 207 (67.0%) succeeded in smoking cessation.

Key words : Cigarette smoking, Smoking cessation therapy, Smoking cessation clinic, Nicotine dependence

（Kobe City Hosp Bull 53：41-52, 2014）



はじめに

喫煙は、肺癌をはじめとする様々な癌、COPD、気管支喘息、間質性肺炎などの呼吸器疾患や脳血管障害、心血管疾患など、様々な疾患の原因、増悪因子である<sup>1-5)</sup>。欧米のみならず、わが国での疫学研究によっても、生涯喫煙する人は、全く喫煙しない人に比べ、約10年寿命が短いことが報告されている<sup>6-8)</sup>。現在、わが国を含む177カ国が批准している世界保健機構たばこ規制枠組み条約（WHO Framework Convention on Tobacco Control）は、喫煙の重大な有害性と、その予防の早急な必要性を唱っている。WHOによれば、タバコは毎年、約600万人の命を奪い、5000億ドル以上の経済損出を生じているとされる<sup>9)</sup>。喫煙の本質はニコチン依存症という病気であるため、禁煙は容易に達成できるものではなく、科学的根拠に基づいた禁煙治療が必要である。

当院が位置する神戸市長田区、兵庫区の神戸市西市街地域には喫煙者が多く、地域の中核病院として当院が禁煙指導に果たす役割は大きい。その一方で、禁煙の推進には様々な困難も予想される。このような中、当院は、病院全体での禁煙推進を掲げ、平成19年8月、病院敷地内全面禁煙を実施し、保険診療での禁煙外来を開設、以後、6年以上にわたり、のべ600人以上の喫煙者に禁煙治療を行ってきた。本論文では、これまでの当院における禁煙外来の展開とその治療成績について報告する。

## I 禁煙対策推進委員会の設立

平成14年に制定、公布された「健康増進法」の第五章には、「受動喫煙の防止」として、「学校、病院、その他の多数の者が利用する施設を管理する者は、これらを利用する者について、受動喫煙（室内又はこれに準ずる環境において、他人のたばこの煙を吸わされることをいう）を防止するために必要な処置を講ずるように努めなければならない。」と述べられている。さらに、やめられない喫煙の実態はニコチン依存症として、平成18年4月より禁煙治療が保険診療となり、ニコチン依存症管理料が新設された。この算定の施設基準として、保険医療機関の敷地内が禁煙であることが必要とされている。しかし、当時、当院敷地内には2箇所、それぞれ職員用、患者用（図1）の喫煙所があり、基準を満たせず、保険診療での禁煙治療は不可能であった。そこで、以下を目的とした禁煙対策推進委員会が院内で設立された。

1. 健康増進法に基づき、病院敷地内禁煙を実施し、病

院および地域における喫煙による健康被害を防止する。

2. 保険診療による禁煙外来を開設し、禁煙を希望される方々の支援を行う。
3. 病院敷地内禁煙実施後の問題点への対応を行う



図1 救急外来入口にあった喫煙所（平成19年3月撮影）

## II 当院受診患者の喫煙状況についての調査

禁煙対策推進委員会では、当院受診患者の喫煙状況を把握するため、当院患者サービス向上委員会が毎年実施している患者満足度調査に、喫煙に関する項目を入れ、平成19年1月に調査を実施し、入院患者169人、外来患者645人から回答を得た。

まず、当院における敷地内全面禁煙については、「是非実施すべき」と回答した人が入院患者で35.5%、外来患者で45.5%、「現状で良い」と回答した人が入院患者で26.0%、外来患者で24.7%と、約1/4は敷地内全面禁煙には賛同されなかった（図2a）。次に、喫煙状況について、「吸っている」との回答は入院患者14.5%、外来患者17.5%であった（図2b）。この現喫煙者について、禁煙についての意識調査を質問したところ（入院患者27人、外来患者113人より回答）、「今すぐ禁煙したい」、「禁煙したいが今すぐではない」、「禁煙する気は全くない」が、入院患者でそれぞれ、22.3%、51.9%、25.9%、外来患者でそれぞれ24.8%、52.2%、31.9%と、喫煙者の約3割は禁煙の意志が全くないという結果であった。

さらに、病院敷地内での喫煙状況を実態調査するため、委員会のメンバー（呼吸器内科医師、事務員）が、「禁煙パトロール」として病院敷地内の見回りを開始した。平成19年3月7日に行ったパトロールの記録を図3に示すが、病院敷地内・その周辺の数箇所ですまっていたタバコの吸い殻を発見している。「禁煙パトロール」では、それらを回収し、病院敷地内の美化活動を行うことで、敷地内全面禁煙の実施に向けたPRとした。

平成19年1月実施患者満足度調査アンケート結果

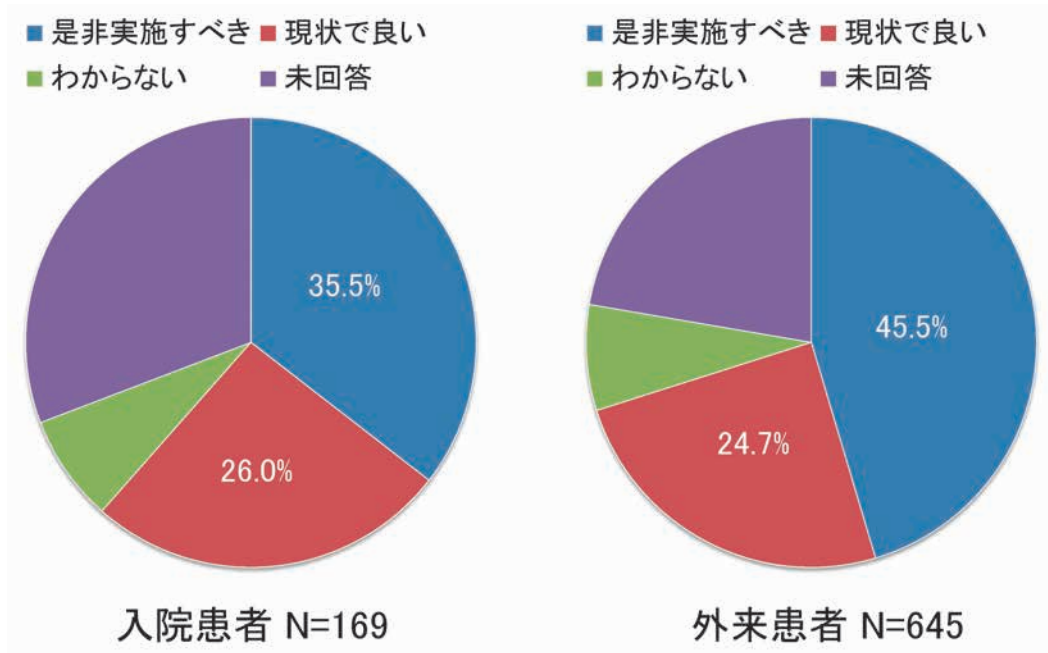


図2a 「当院における敷地内全面禁煙について」

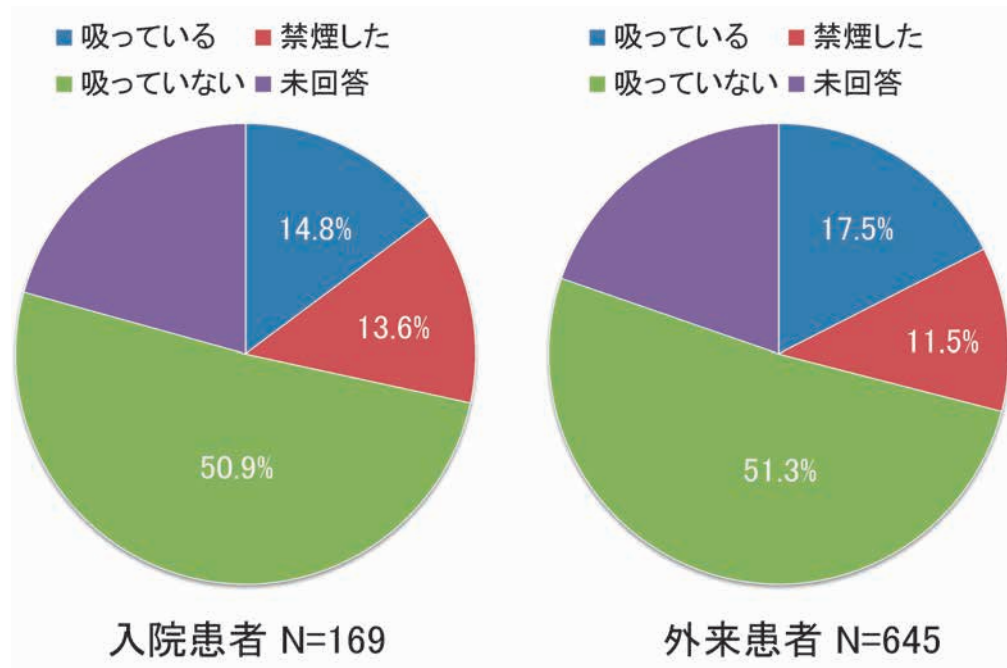


図2b 「喫煙状況について」

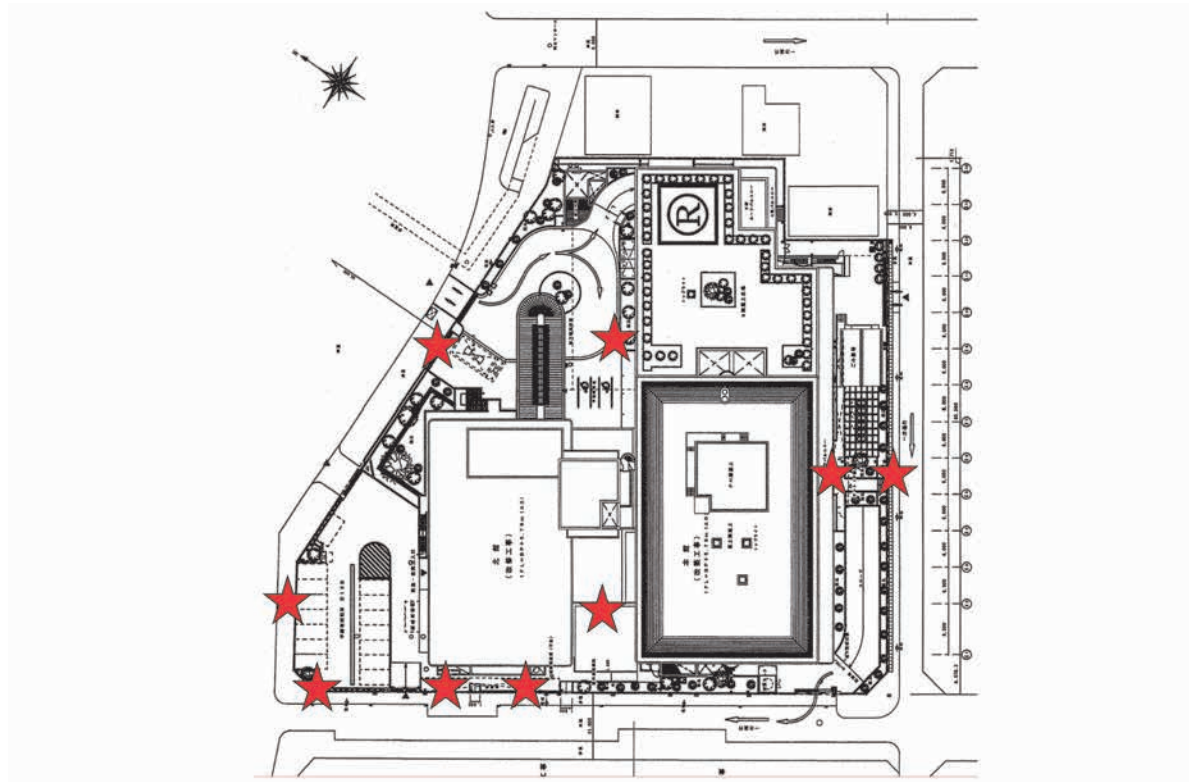


図3 「禁煙パトロール」でタバコの吸い殻を発見した場所 (★)

### Ⅲ 施設内全面禁煙の実施

禁煙対策推進委員会により、病院敷地内全面禁煙実施、その後の禁煙外来開設のタイムスケジュールが設定された。実施前には、その理解を得るべく、病院広報誌においてPRを行い<sup>10)</sup>、また、病院職員に対しても、院長名（当時織野彬雄院長）で文書通達を行い、協力を呼びかけた。タバコによる健康被害に関する院内掲示ポスター（図4）を作成し、掲示を行った。患者用入院案内パンフレットにも敷地内全面禁煙のチラシを入れ、「タバコの持ち込み禁止」を明示した。敷地内全面禁煙実施についての院内放送を開始し、病院入り口路面にも、敷地内禁煙の掲示を行った。



図4 タバコによる健康被害に関する院内掲示ポスター

このような準備を経て、平成19年8月1日、職員用喫煙所の撤去に続き、救急外来入口にあった患者用喫煙所の撤去が行われた（図5）。病院敷地内全面禁煙実施後にも、病院敷地周囲にタバコの吸い殻が増えていないかを調査するため、「禁煙パトロール」を継続し、タバコの吸い殻の回収を行い（図6）、院内放送でもさらなる協力を呼びかけた。



図5 救急外来入口にあった喫煙所の撤去作業（平成19年8月撮影）



図6 病院施設内全面禁煙実施後に行った「禁煙パトロール」で回収されたタバコの吸い殻  
(平成19年8月2日撮影)

#### IV 禁煙外来の開始

敷地内全面禁煙の実施により、ニコチン依存症管理料算定の施設基準を満たし、平成19年8月禁煙外来が開設された。禁煙外来は毎週水曜日午後12時に設け、水曜日に受診できない患者には、呼吸器内科外来でも対応した。「禁煙のための標準手順書」<sup>11)</sup>に従い、計12週にわたる計5回の禁煙診療を行っている。その対象患者は、以下のとおりである。

- ① 直ちに禁煙することを希望している。
- ② ニコチン依存症に係るスクリーニングテスト (TDS)<sup>12)</sup> が5点以上となりニコチン依存症と診断されている。
- ③ ブリンクマン指数(=1日の喫煙本数×喫煙年数)が200以上であること。
- ④ 禁煙治療を受けることを文書により同意していること。

初回受診日には、医師が、問診票にて年齢、性別、喫煙状況、基礎疾患・既往歴などを調査し、TDSを行い、禁煙理由の確認、禁煙補助薬(バレニクリン(チャンピックス®)またはニコチンパッチ(ニコチネルTTS®))の選択、禁煙開始日を決定し、禁煙補助薬を処方した。また、肺機能検査(スパイロメトリ)と健康関連QOL調査(St. George Respiratory Questionnaire 日本語版<sup>13)</sup>使用)も行っている。薬剤師は禁煙補助薬の使用方法ならびに副作用について説明し、看護師が呼気一酸化炭素(CO)濃度を測定し、禁煙につい

でのアドバイスを行っている。禁煙補助薬はそれぞれの添付文書を基本とした処方を行った。なお、バレニクリンは平成20年5月より保険適応となっている。禁煙2週～12週までの受診日には、まず、看護師が呼気CO濃度を測定し、禁煙状況の確認と相談を行い、次に担当医師が、呼気CO濃度測定結果の説明、禁煙状況の確認、禁煙指導、禁煙補助薬の処方を行った。薬剤師の副作用があれば、薬剤師が適宜対応した。禁煙の確認は、来院時の呼気CO濃度(≤10ppm)測定で行った。禁煙ができていれば賞賛し、できていなければ患者の努力を認め、再チャレンジを勧めた。禁煙成功の定義は、計12週にわたる禁煙診療を完遂し、自己申告により第4回(8週)～最終回(12週)の期間に全く喫煙していないことと、呼気CO濃度(≤10ppm)で確認できた者である。12週目まで受診した患者では、初回時と同様に肺機能検査と健康関連QOL調査を行い、禁煙成功者には「卒煙証書」を渡し、担当医師、看護師、事務員らの拍手で、その努力を讃えている。

#### V 禁煙教室の開始

禁煙外来の開設に併せ、広く禁煙に関心を持ってもらう目的で禁煙教室も開設した。広報「こうべ」、院内広報・ポスター、ホームページなどで広報を行い、入院・外来患者、地域住民、院内職員を対象とし、参加費無料で、月に一回(現在は第3木曜日午後3時から)、約1時間開催している。呼吸器内科医師、薬剤師、外来看護師から、たばこによる健康被害、禁煙補助薬、禁煙のこつ、などについてわかりやすく解説し(図7)、参加者には、「たばこ依存度テスト(TDS)」、スモーカーライザーでの呼気CO濃度測定を行い、各受講者へのアドバイス、また、希望者には「禁煙宣言書」を渡し、当院禁煙外来の案内も行っている。



図7 禁煙教室の様子

## VI 禁煙外来の治療成績

当院における禁煙外来開設から平成26年3月まで（6年8ヶ月間）にニコチン依存症管理料を算定した患者のべ606例（性別：男/女=377/229、年齢：23-90歳、平均（±標準偏差）58±13歳）について解析を行った。なお、本報告は、神戸市立医療センター西市民病院倫理審査委員会にて承認を得た研究<sup>14)</sup>計画の一部であり、個人が特定できないよう配慮して統計処理を行った。

### 1) 患者数の推移

各年（2007年は4ヶ月間、2014年は3ヶ月間のみ）

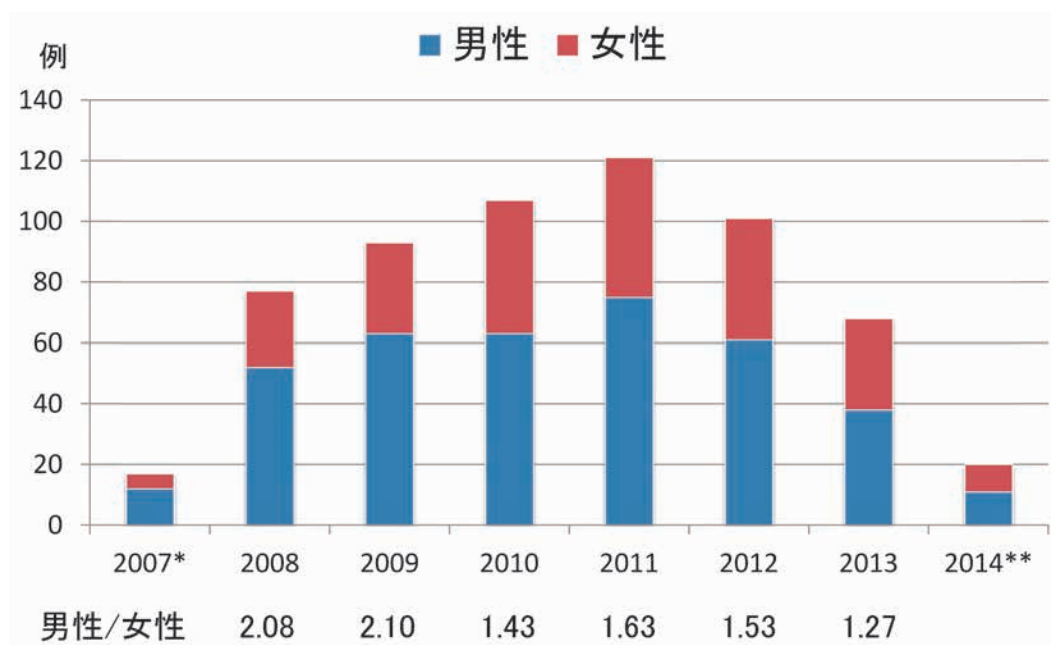


図8 ニコチン依存症管理料算定患者数の推移（\*2007年は4ヶ月間、\*\*2014年は3ヶ月間）

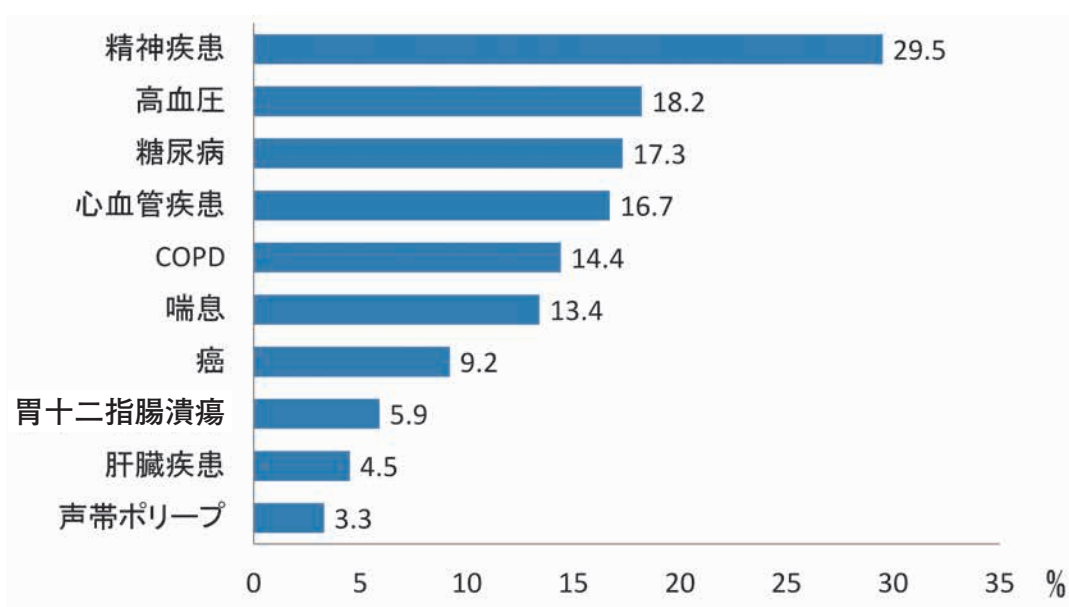


図9 ニコチン依存症管理料算定患者の基礎疾患・既往歴

の算定患者数を図8に示す。平成23年（2011年）をピークに算定患者数は減少傾向にあるが、男女比をみると、女性の割合が次第に増加してきている。

### 2) 基礎疾患・既往歴

算定患者の基礎疾患・既往歴について、最も多かったのは精神疾患で179例（29.5%）、ついで、高血圧111例（18.2%）、糖尿病105例（17.3%）、心血管疾患101例（16.7%）、などであった（図9）。

3) 禁煙指導プログラム導入時検査成績 (表1)

ブリンクマン指数は $868.0 \pm 540.9$  (最高5000) で、初回呼気CO濃度は $15.3 \pm 11.1$ ppm(最高100ppm)であった。肺機能検査では、 $\%FEV_1$ が $77.1 \pm 19.9\%$ と低下を認めた。

4) 禁煙指導プログラムの経過 (図10)

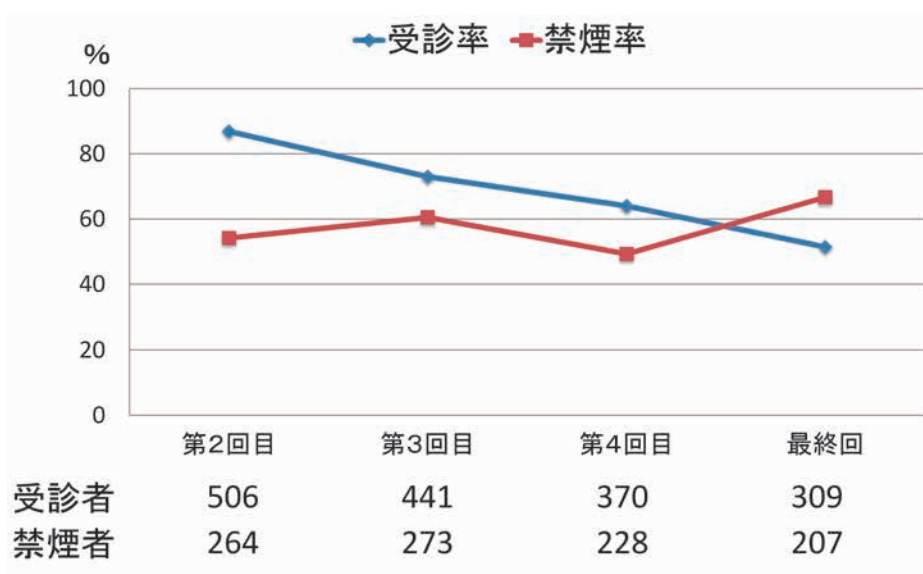
初回禁煙補助薬としてバレニクリンが237例、ニコチンパッチが369例に処方された。禁煙指導プログラ

ムの受診率は回を追うごとに低下し、計5回の同プログラムを完遂した患者はのべ606例中309例 (51.0%) で、そのうち禁煙に成功した患者は207例 (67.0%) であった。なお、第3回目まで受診し、以降受診しなかった72例のうち、第3回目受診時に禁煙していた者は37例、喫煙していた者は35例で、禁煙率51.4%、同様に、第4回目まで受診し、最終回に受診しなかった62例のうち、第4回目受診時に禁煙していた者は22例、喫煙していた者は40例で、禁煙率35.5%であった。

	平均±SD	範囲
Body mass index*	23.1±4.3	13.8-43.3
喫煙年数 (年)	36.0±13.2	3-70
ブリンクマン指数	868.0±540.9	200-5000
TDS スコア	7.8±1.6	5-10
呼気 CO 濃度 (ppm)**	15.3±11.1	0-100
肺機能検査		
FVC(L)*	2.8±0.9	0.49-5.42
%FVC(%)*	83.9±17.0	23.5-132.3
FEV <sub>1</sub> (L)***	2.1±0.8	0.43-4.89
%FEV <sub>1</sub> (%)***	77.1±19.9	18.1-123.7
1秒率(%)**	75.1±11.8	22.8-100.0

\*N=602, \*\*N=603, \*\*\*N=600

表1 禁煙プログラム導入時における検査成績 (N=606)



受診率=その回の受診者数/606

喫煙率=その回の受診者で禁煙していた患者数/その回の受診者数

図10 禁煙指導プログラムの経過 (各回の受診率と禁煙率)

### 5) 禁煙指導プログラム完遂例における検討

禁煙指導プログラム完遂例のうち、禁煙成功群207例と喫煙継続（禁煙失敗）群102例との間で、患者背景・初回パラメータの比較検討を行った。なお、これらの初回治療薬としてバレニクリン、ニコチンパッチが処方されたのはそれぞれ126例、183例であったが、副作用や患者の希望により、それぞれ7例、6例がもう一方の薬剤に変更されていた。禁煙成功群は、喫煙継続群と比較し、高齢で、喫煙年数が長く、呼気CO濃度が低く、また、精神疾患を有する頻度が有意に低い結果であった（表2）（カイ2乗検定、*t*検定またはMann - Whitney検定）。禁煙補助薬に関しては、禁煙成功率に差を認めなかった。さらに、この単変量解析の結果より、年齢、喫煙年数、呼気CO濃度、精神疾患、心血管疾患（*p*<0.10）を独立変数としたロジスティック回帰分析を行い、禁煙成功予測因子とし

て、呼気CO濃度と精神疾患が有意な因子であることが判明した（表3）。また、図11には、主な基礎疾患別の禁煙成功率を示すが、精神疾患を有する患者では、51.1%と最も低い結果であった。図12には、禁煙成功群と喫煙継続群の呼気CO濃度の変化を示す。禁煙成功群のみならず、喫煙継続群においても呼気CO濃度は低下を認め、最終回の中央値は7 ppmと禁煙域に入っていた。禁煙成功群、喫煙継続群における呼気CO濃度の低下（初回測定値との比較）は、それぞれ、 $-10.3 \pm 7.7$  (95%信頼区間  $-11.4, -9.3$ ) ppm、 $-8.9 \pm 10.9$  (同  $-11.1, -6.7$ ) ppmと、有意な低下を認めた。なお、各年ごとの計5回の禁煙指導プログラムの完遂率は、45.5%（平成20年）～55.4%（平成23年）、また、完遂者における禁煙成功率は、62.0%（平成22年）～73.1%（平成23年）であり、年を追っての特徴的な傾向は認めなかった（データ呈示せず）。

	禁煙成功 (N=207)	喫煙継続 (N=102)	P 値
男性	141 (68.1%)	63 (61.8%)	0.270
年齢	62.9 ± 11.4	57.1 ± 12.6	<0.0001
喫煙年数（年）	40.5 ± 12.4	35.0 ± 12.6	0.0003
ブリンクマン指数	892.7 ± 562.7	851.7 ± 538.2	0.542
TDS スコア	7.7 ± 1.6	7.7 ± 1.6	0.628
呼気 CO 濃度	12.1 ± 8.0	18.2 ± 10.4	<0.0001
Body mass index	23.2 ± 4.1	22.9 ± 4.9	0.499
%FVC (%)	82.0 ± 18.2*	84.7 ± 15.3**	0.205
%FEV <sub>1</sub> (%)	74.7 ± 19.9*	77.3 ± 20.6**	0.288
1 秒率 (%)	73.9 ± 11.7*	74.5 ± 14.0**	0.727
バレニクリン処方	92 (44.4%)	40 (39.2%)	0.381
基礎疾患・既往歴			
精神疾患	46 (22.2%)	44 (43.1%)	0.0002
糖尿病	39 (18.8%)	18 (17.7%)	0.799
心血管疾患	51 (24.6%)	16 (15.7%)	0.067
COPD	37 (17.9%)	19 (18.6%)	0.872
喘息	27 (13.0%)	15 (14.7%)	0.690
癌	20 (9.7%)	8 (7.8%)	0.596

\*N=206, \*\*N=101

表2 禁煙プログラム終了時の喫煙状態と初回受診時パラメータ

	オッズ比	95%信頼区間	P 値
年齢 (歳)	1.00	0.96, 1.04	0.941
喫煙年数 (年)	1.01	0.98, 1.05	0.492
呼気 CO 濃度 (ppm)	0.94	0.91, 0.96	<0.0001
精神疾患あり	0.46	0.26, 0.82	0.009
心血管疾患あり	1.68	0.87, 3.41	0.125

表3 禁煙成功予測因子に関する多変量解析

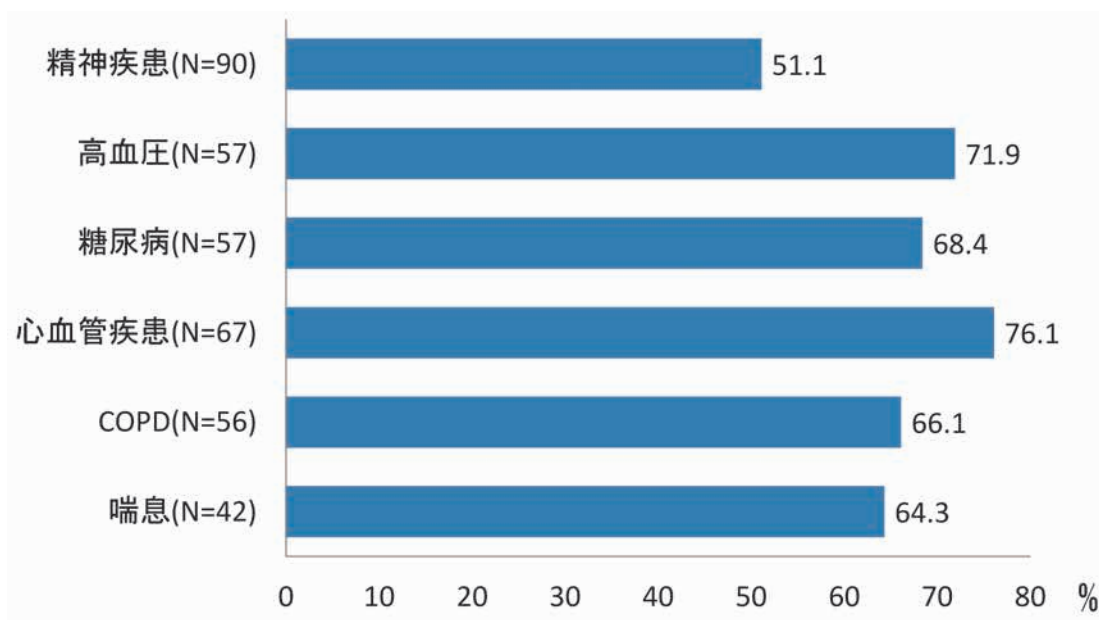


図11 禁煙指導プログラム完遂例における主な基礎疾患別の禁煙成功率

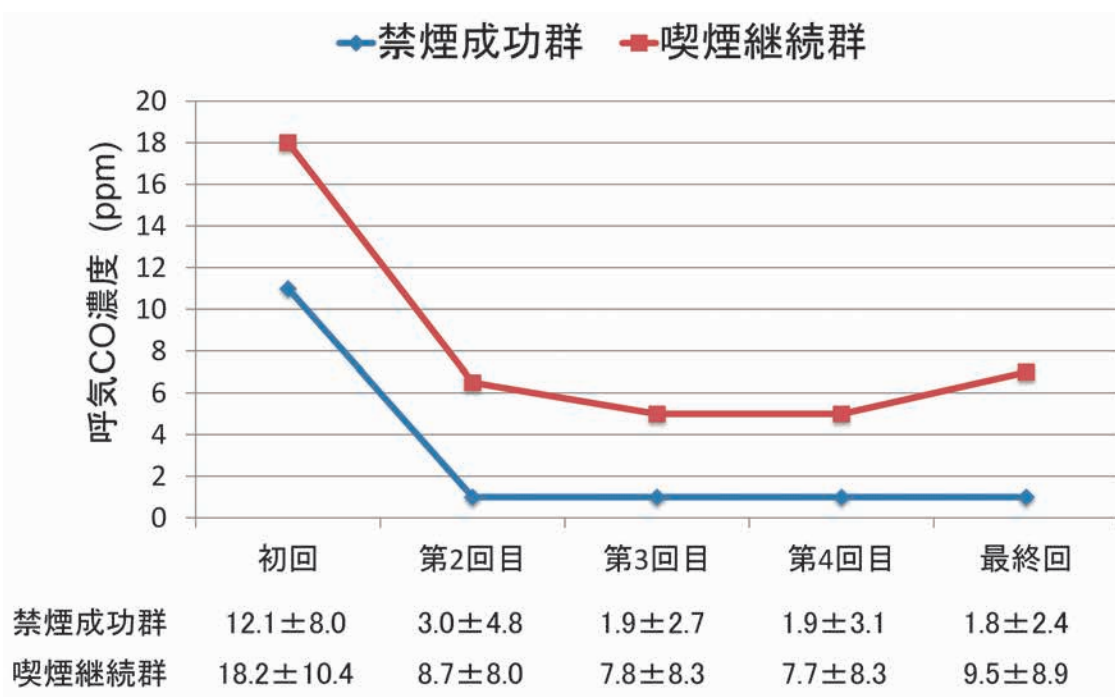


図12 禁煙成功群・喫煙継続群の呼気CO濃度 (中央値) の変化



## Ⅶ 考 察

当院における禁煙外来の開設から6年8ヶ月間の治療成績を報告した。これまでの実績を振り返り、今後の課題について考察する。

喫煙者が多い当地域における禁煙の推進には、当初、困難も予想された。禁煙外来開設前の患者アンケート調査結果に示された通り、当時、当院を受診する患者の約15%は現喫煙者であり、喫煙状況について未回答が約20%あった点を考慮すると、喫煙率はより高いものであったと推定される。また、アンケート回答者の約1/4は敷地内全面禁煙に反対であった。このような困難な状況の中で、多職種（現喫煙者も含む）から構成される禁煙対策推進委員会を立ち上げ、敷地内全面禁煙の実施について準備を行った。その結果、敷地内全面禁煙を成功させ、保険診療での禁煙外来を開設することができた。さらに、当地域では禁煙外来受診者も少ないのではないかと憂慮されたが、禁煙教室などでのPRも行った結果、約6年間にのべ600人以上の喫煙者に禁煙治療を行うことができた。当地域住民の喫煙率やたばこ消費に関するデータはないものの、禁煙外来算定患者数の推移が、開設後より順調に増加し、4年後の平成23年をピークに減少に転じている経過は、当院が地域の禁煙推進に一定の成果を上げた結果であるとも考えられる。なお、この算定患者数がピークとなった平成23年の前年、平成22年10月1日に、タバコの値上げが実施されており、今後、さらなるタバコの値上げが実施されれば、禁煙外来受診患者数の再増加につながることも期待される。また、経年的に女性受診者の割合が増加している点も注目される。わが国における喫煙率の推移を見ると、成人男性の喫煙率は減少し続けているのに対し、成人女性の平均喫煙率は10.5%で、ピーク時（昭和41年）より漸減しているものの、ほぼ横ばいとなっている<sup>15)</sup>。よって、相対的な女性喫煙者の増加を反映した結果と考えられ、引き続き、女性喫煙者にも禁煙を勧めていきたい。

当院の禁煙外来の特徴として挙げられるのは、まず、精神疾患を有する患者が多い点である。基礎疾患・既往歴の中では最も頻度が高く、禁煙外来受診算定患者の約3割が精神疾患を有していた。精神障害者は喫煙率が高く、また、喫煙本数も多く、禁煙しにくい<sup>16,17)</sup>とされており、実際、今回の検討でも、精神疾患を有する患者の禁煙成功率は、51.1%と低い結果であった。当院の禁煙外来には、当院または地域の精神神経科・心療内科で治療中の喫煙者が受診してきてい

る。このような場合、禁煙後にうつ症状が出現する場合があること、また、精神症状の悪化の可能性があること、禁煙後に薬剤血中濃度が上昇し、薬剤副作用の出現があること<sup>18)</sup>、などに注意が必要である。そのため、当院禁煙外来では、精神障害者が受診した場合には、精神科疾患治療中の医療機関に診療情報提供を行い、注意喚起を促し、協力をお願いしている。

次に、治療成績に関して、当院禁煙外来における禁煙成功率は、禁煙プログラム完遂者で67.0%であった。添付文書による禁煙補助薬別の治療成績では、ニコチンパッチで52.3%<sup>19)</sup>、バレニクリンで55.5%～65.4%<sup>20)</sup>となっている。当院の禁煙外来治療が比較的良好な成績であったのは、医師のみならず、看護師、薬剤師との協力のもと、多職種のチームとして禁煙治療にあたっている成果であると思われる。実際、平成24年度より、呼吸器内科医師、外来看護師、薬剤師、事務から構成される「禁煙チーム」として、当院のチーム医療推進部に参加が認められ、活動を継続している。また、我々は12週後の短期治療効果をアウトカムとしているが、今後は1年禁煙率など、禁煙の継続率についても調査を行っていく方針である。

禁煙成功者のみならず、喫煙継続（禁煙失敗）者においても、呼気CO濃度が有意に低下している点も注目される。呼気CO濃度は、測定前日から当日の喫煙状況を反映しており、喫煙継続群においても、最終回（12週）におけるその中央値は7ppmと、禁煙域に入っていたことから、完全に禁煙はできなくとも、喫煙本数はかなり減らすことができていると想定される。

一方、図10に示されたように、禁煙外来受診率は回を追うごとに低下し、計5回の禁煙指導プログラムを完遂した患者は51.0%と、約半数は完遂できていなかった。中には、禁煙に早くから成功し、受診する必要がなくなったと自己判断した患者もいたことは予想されるが、途中脱落例の最終受診時における禁煙状況をみると、第3回目までの受診例では禁煙率51.4%、第4回目までの受診例では35.5%と、けっして満足できる成績ではない。中央社会保険医療協議会による禁煙成功率の実態調査<sup>20)</sup>においても、受診回数が多いほど禁煙率が上がることが示されており、治療脱落例をいかに少なくするかが今後の課題である。そこで、我々は、受診しなかった患者には電話連絡を行い、受診を促すよう対策をはじめており、その成果が期待される。なお、ニコチン依存症管理料を算定した医療機関は、ニコチン依存症に係る報告書として、以下を毎年7月に社会保険庁事務局に報告する義務がある。

すなわち、1年間に本管理料を算定した患者数①、①のうち12週間にわたる計5回の禁煙指導を終了したものの②、②のうち禁煙に成功した者③、5回の指導を最後まで行わずに治療を中止した者(①-②)のうち、中止時に禁煙していた者④、これらから、喫煙を止めたものの割合 = ③+④/①、である。当院禁煙外来では、この“喫煙を止めたものの割合”について、平成21年度41.4%、平成22年度41.4%、平成23年度43.1%、平成24年度45.1%、平成25年度37.3%と報告している。この厚生労働省の示した“喫煙を止めたものの割合”については、来院しなくなった患者の扱いに問題があると思われるが、やはり、治療脱落例を少なくする努力が必要であろう。

禁煙成功群と喫煙継続群との比較では、禁煙成功群は、高齢で、喫煙年数が長く、呼気CO濃度が低く、また、精神疾患を有する頻度が低いという結果であった。呼気CO濃度は直近の喫煙量を反映したものであり、禁煙成功の予測として、有用と考えられた。また、精神疾患を有する患者での禁煙成功率が低いことは先に述べたとおりであり、精神疾患患者は自力での禁煙が困難であることから、精神神経科主治医との連携を密にしてサポートし続けることが重要である。なお、女性の禁煙が男性に比べて困難であるとの報告もある<sup>17,22)</sup>が、当院の検討では、性別で有意な差は認められなかった。また、ニコチン依存症を評価するTDSスコアも禁煙の成功に関連するとする報告<sup>22)</sup>もあるが、有意ではなかった。

以上、当院における禁煙外来開設から約6年間の治療成績を報告した。今後も、喫煙者が多い地域の基幹病院として、禁煙の推進を図り、病院・地域の喫煙による健康被害防止に努力していきたいと考えている。

謝辞：これまで当院の禁煙外来、禁煙教室にご協力をいただきました当院看護部竹内博美師長はじめスタッフの方々、当院地域医療推進課三好良典事務員はじめ事務の方々、その他、多くの職員の方々にお礼申し上げます。

## 文 献

- 1) Boyle P : Cancer, cigarette smoking and premature death in Europe: a review including the Recommendations of European Cancer Experts Consensus Meeting, Helsinki, October 1996. *Lung Cancer* 17 : 1-60, 1997
- 2) Flaherty KR, Hunninghake GG : Smoking: an injury

- with many lung manifestations. *Am J Respir Crit Care Med* 172 : 1070-1071, 2005
- 3) Selman M : The spectrum of smoking-related interstitial lung disorders: the never-ending story of smoke and disease. *Chest* 124 : 1185-1187, 2003
- 4) Chen Z, Boreham J : Smoking and cardiovascular disease. *Semin Vasc Med* 2 : 243-252, 2002
- 5) Gilliland FD, Islam T, Berhane K, et al: Regular smoking and asthma incidence in adolescents. *Am J Respir Crit Care Med* 174 : 1094-1100, 2006
- 6) Doll R, Peto R, Boreham J, et al : Mortality in relation to smoking: 50 years' observation on male British doctors. *BMJ* 328 (7455) : 1519-1528, 2004
- 7) Mamun AA, Peeters A, Barendregt J, et al : Smoking decreases the duration of life lived with and without cardiovascular disease: a life course analysis of the Framingham Heart Study. *Eur Heart J* 25 : 409-415, 2004
- 8) Sakata R, McGale P, Grant EJ, et al : Impact of smoking on mortality and life expectancy in Japanese smokers: a prospective cohort study. *BMJ* 345 : e7093, 2012
- 9) WHO Report on the global tobacco epidemic, 2013 : Enforcing bans on tobacco advertising, promotion and sponsorship, World Health Organization, Geneva, Switzerland, 2013
- 10) 富岡洋海:西市民病院敷地内禁煙の実施について. *虹のはし* 16, 2007 (2007年7月1日発行)
- 11) 日本循環器学会・日本肺癌学会・日本癌学会・日本呼吸器学会 : 禁煙のための標準手順書, 第5版, 日本循環器学会・日本肺癌学会・日本癌学会・日本呼吸器学会, 2012
- 12) Kawakami N, Takatsuka N, Inaba S, et al : Development of a screening questionnaire for tobacco/nicotine dependence according to ICD-10, DSM-III-R, DSM-IV. *Addict Behav* 24 : 155-166, 1999
- 13) Hajiro T, Nishimura K, Tsukino M, et al : Comparison of discriminative properties among disease-specific questionnaires for measuring health-related quality of life in patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Am J Respir Crit Care Med* 157 : 785-790, 1998
- 14) Tomioka H, Sekiya R, Nishio C, et al : Impact of smoking cessation therapy on health-related quality of

- life. *BMJ Open Resp Res* 1 : e000047, 2014
- 15) 厚生労働省のTOBACCO or HEALTH 最新たばこ情報 <http://www.health-net.or.jp/tobacco/product/pd090000.html>
  - 16) Wilhelm K, Wedgwood L, Niven H, et al : Smoking cessation and depression : current knowledge and future directions. *Drug Alcohol Rev* 25 : 97 – 107, 2006
  - 17) 吉井千春, 西田千夏, 川波由紀子, 他 : バレニクリン (チャンピックス®) による12週治療成績の検討. *禁煙会誌* 8 : 13–20, 2013
  - 18) Strasser K, Moeller-Saxone K, Meadows G, et al : Smoking cessation in schizophrenia. *General practice guidelines. Aust Fam Physician* 31 : 21 – 24, 2002
  - 19) 禁煙補助薬 経皮吸収ニコチン製剤 ニコチネル TTS®添付文書 (第12版) : 2012年5月改訂
  - 20)  $\alpha 4 \beta 2$  ニコチン受容体部分作動薬 (禁煙補助薬) チャンピックス錠添付文書 (第11版) : 2014年5月改訂
  - 21) 中村正和, 大島 明, 森 亨, 他 : 一般用禁煙補助剤としてのニコチン貼付剤の有効性と安全性の評価に関するオープン多施設共同試験. *臨床医薬* 22 : 1013–1042, 2006
  - 22) 内田和宏 : 内田クリニックの禁煙外来の状況と禁煙成功率の検討. 女性の禁煙成功率が低い理由. *日呼吸会誌* 45 : 673–678, 2007

### Ⅲ. 症 例 報 告

### Ⅲ. 症例報告

#### Ⅲ. 1 リンパ節腫大を主訴とし遺伝子解析により診断された原発不明悪性黒色腫

田坂 佳資<sup>1)</sup> 田中 康博<sup>1)</sup> 新里 偉咲<sup>1)</sup>  
橋本 公夫<sup>2)</sup> 高蓋 寿朗<sup>1, 3)</sup>

<sup>1)</sup> 西神戸医療センター 免疫血液内科

<sup>2)</sup> 西神戸医療センター 病理科

<sup>3)</sup> 現 国立病院機構 呉医療センター 血液内科

#### 要 旨

症例は55歳の男性。2012年10月初めより腹部膨満、左頸部リンパ節腫脹を自覚したため前医を受診。Positron emission tomography-computed tomography (PET-CT) 検査で全身性リンパ節腫大を認めた。開腹リンパ節生検を施行したが診断に至らず、胸腹水が出現してきたため同年11月当科へ転院となった。前医のリンパ節生検標本を再検討したところ、免疫染色でMelan A, HMB-45, S100が陽性であり悪性黒色腫のリンパ節転移と診断した。転院後、急速に病状は悪化し、前医では認めていなかった多発性肝転移巣が出現し、多臓器不全をきたして永眠された。病理解剖で腫瘍性病変をほぼ全身に認め、明らかな原発巣と考えられる病変は確認できなかった。転移巣の遺伝子解析の結果、fluorescence in situ hybridization (FISH) 法でEWSR1 split signalは陰性で、BRAF遺伝子のV600E変異をヘテロに認めたため原発不明の悪性黒色腫と診断した。

キーワード：悪性黒色腫、淡明細胞肉腫、リンパ節腫脹、BRAF遺伝子変異

(神戸市立病院紀要 53 : 53-58, 2014)

#### A case of malignant melanoma of unknown primary site presented as lymphadenopathy and diagnosed with genetic analysis

Keiji Tasaka<sup>1)</sup>, Yasuhiro Tanaka<sup>1)</sup>, Isaku Shinzato<sup>1)</sup>, Kimio Hashimoto<sup>2)</sup>, Toshiro Takafuta<sup>1,3)</sup>

<sup>1)</sup> Department of Hematology and Clinical Immunology, Nishi-Kobe Medical Center, Kobe, Japan

<sup>2)</sup> Department of Pathology, Nishi-Kobe Medical Center, Kobe, Japan

<sup>3)</sup> Department of Hematology, National Hospital Organization Kure Medical Center, Hiroshima, Japan

#### Abstract

A 55-year-old man visited a local hospital because of multiple lymph node enlargement. He noticed abdominal distention and multiple swelling of lymph nodes in the left cervical region in October 2012. PET-CT revealed systemic multiple lymph nodes enlargement and <sup>18</sup>F-fluorodeoxyglucose (FDG) uptake in the same lesions. Open biopsy of intra-abdominal lymph nodes was performed, but the findings were not adequate to make a pathological diagnosis. Bilateral pleural effusion and massive ascites rapidly progressed after the open biopsy; hence, the patient was then transferred to our hospital. Through a pathological re-examination in our pathology department, a diagnosis of lymph node metastasis of malignant melanoma was made. After the diagnosis, the patient's condition progressively deteriorated, and multiple liver metastases appeared at about 1 month. He died of multiple organ failure. With his family's approval, autopsy was performed. Amelanotic melanoma cells involved multiple organs and lymph nodes, but the original focus was not uncovered. V600E mutation of the BRAF gene was detected in the autopsy samples, but EWSR1 split signal was not detected by FISH method. The final diagnosis was malignant melanoma, not clear cell sarcoma.

Key words : Malignant melanoma, Clear cell sarcoma, Lymph node enlargement, BRAF mutation

(Kobe City Hosp Bull 53 : 53-58, 2014)

## はじめに

悪性黒色腫は皮膚や消化管、網膜などに存在するメラノサイトが癌化した腫瘍で、全身の臓器に転移をきたす予後不良の疾患である<sup>1)</sup>。皮膚原発悪性黒色腫の場合、転移巣が出現した際には原発巣が消失する現象が報告されている<sup>2)</sup>。また、近年の遺伝子検査の進歩により、悪性黒色腫における遺伝子異常が判明し、臨床応用が可能な時代となってきた。今回我々は、リンパ節腫大で発見された悪性黒色腫の症例を経験した。PET-CT検査と病理解剖を行うも原発巣は特定できず、原発不明と判断した。淡明細胞肉腫と鑑別するために遺伝子検査を行い、最終的に原発不明の悪性黒色腫と診断した。リンパ節転移で発見される原発不明の悪性黒色腫は比較的まれ<sup>3)</sup>であり、淡明細胞肉腫との鑑別にも遺伝子検査が有用であると考えられたため、文献的考察を加えて報告する。

## I. 症 例

患 者：55歳、男性

主 訴：腹部膨満感、左頸部リンパ節腫脹

既往歴：25歳 左踵骨粉碎骨折、32歳 腰椎ヘルニア手術

家族歴：父が前立腺癌、喉頭癌

現病歴：2012年10月初めより全身倦怠感、腹部膨満、

排便困難、左頸部リンパ節腫大を自覚したため、10月中旬に近医より前医を紹介受診となった。PET-CT検査で全身性リンパ節腫大を認め、診断目的で開腹リンパ節生検を施行した。しかし、確定診断に至らず、胸腹水が出現してきたためリンパ腫疑いにて11月中旬当院免疫血液内科に転院となった。

## 入院時現症

体温36.4℃、血圧167/128mmHg、脈拍72/分、SpO<sub>2</sub>（経皮的動脈酸素飽和度）97%（O<sub>2</sub>3L 経鼻カヌラ）。意識清明、ECOG PS（Eastern Cooperative Oncology Group Performance Status）3、眼瞼結膜は貧血様、左鎖骨上窩に4cm大の硬いリンパ節を触知、肺野にラ音を聴取せず、心雑音は聴取せず、腹部は膨満し波動あり、臍周囲にリンパ節と同様な硬い腫瘤を触知、腸音に異常なし、肝臓・脾臓を触知せず、前胸部・右下腿の皮膚に黒子を多数認めた。

## 血液生化学検査（表1）

WBCは正常範囲であったが、CRP 7.6 mg/dl, LDH 1195 IU/lと高値を認めた。TP 6.0 g/dl, Alb 2.6 g/dlと低値であった。悪性黒色腫で異常を認める5-SCD（5-S-cysteinyl-dopa）は804.5nmol/Lと上昇していた。

WBC	8200	×10 <sup>6</sup> /L	Glu	98	mg/dl	IgG	1440	mg/dl
Stab	4	%	TP	6.0	g/dl	IgA	146	mg/dl
Seg	79	%	Alb	2.6	g/dl	IgM	58	mg/dl
Lym	9	%	T-Bil	0.4	mg/dl	5-SCD	804.5	nmol/L
Mono	6	%	AST	22	IU/L			
Eos	1	%	ALT	13	IU/L			
RBC	371	×10 <sup>10</sup> /L	γ-GTP	50	IU/L			
Hb	11.0	g/dl	Alp	267	IU/L			
Ht	34.8	%	LDH	1195	IU/L			
Plt	37.4	×10 <sup>10</sup> /L	CPK	23	IU/L			
Ret	17	‰	Amy	229	IU/L			
			T-choI	136	mg/dl			
PT(INR)	1.1		UA	4.8	mg/dl			
aPTT	26.1	sec	BUN	11	mg/dl			
Fib	449	mg/dl	Cr	0.54	mg/dl			
D-dimer	8.53	μg/ml	Na	139	mEq/L			
			K	3.8	mEq/L			
			Ca	8.6	mg/dl			
			CRP	7.6	mg/dl			

5-SCD（5-S-cysteinyl-dopa）；正常値1.5-8.0

表1. 入院時血液検査所見

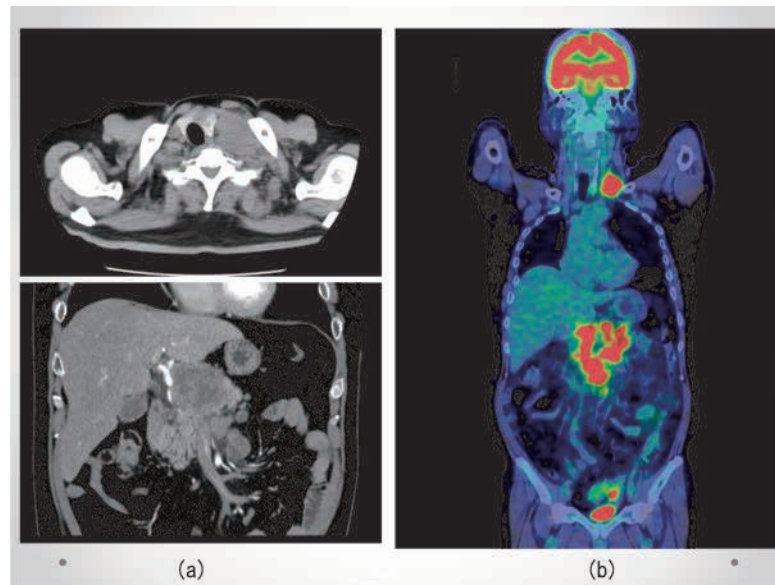
画像所見（図1）

頸胸腹部CT（computed tomography）検査では左鎖骨上窩、傍腹部大動脈領域、腓頭部周囲、腸間膜根部に不均一に造影を受けるリンパ節腫大を多数認めた。

PET-CT検査では左鎖骨上窩、傍腹部大動脈、腓周囲、腸間膜のリンパ節、下行結腸からS状結腸にFDGの高度集積を認めた。

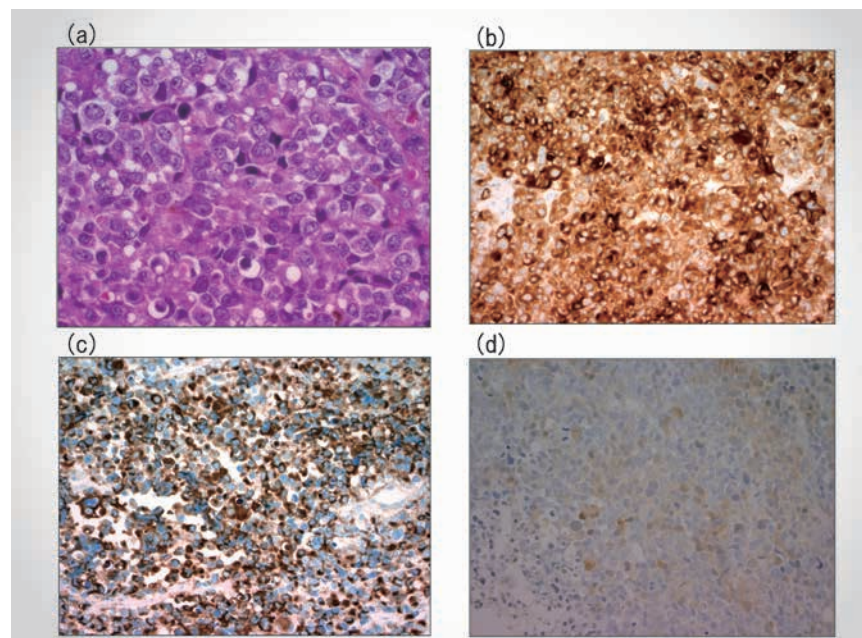
開腹リンパ節生検標本（図2）

リンパ節は特定の配列を示さない腫瘍細胞により構造が破壊され、強い壊死を伴っていた。腫瘍細胞は核小体が明瞭で円形から卵円形で大小不同のある核をもち、好酸性のやや広い多角形の胞体をもっていた。一部の腫瘍細胞で褐色の微小な顆粒を持つ細胞を認めた。免疫組織染色ではMelan A, HMB-45, S100がいずれも陽性であった。



- a) (上図)頸部造影CT画像  
左鎖骨上窩にリンパ節腫大を認めた。  
(下図)腹部造影CT画像  
傍腹部大動脈領域、腓頭部周囲、腸間膜根部に不均一に造影を受けるリンパ節腫大を認めた。
- b) PET-CT画像  
左鎖骨上窩、傍腹部大動脈、腓周囲、腸間膜のリンパ節、下行結腸からS状結腸にかけてFDGの高度な集積を認めた。

図1. 入院時画像所見



- a) HE (Hematoxylin-Eosin) 染色  
b) Melan A免疫染色  
c) HMB-45免疫染色  
d) S100免疫染色

図2. 病理組織所見

## II. 臨床経過

前医で施行された開腹リンパ節生検の標本を当院病理部で再度検討したところ、悪性黒色腫のリンパ節転移と診断された。右下腿前面の黒子より皮膚生検を実施するも異常細胞を認めなかった。転院時より両側胸水貯留を認め、左胸水の細胞診は陽性であったため左癌性胸膜炎の合併と考えた。前医での上下部内視鏡検査では明らかな原発巣を認めず、TxNxM1, stage IVと判断した。転院時はECOG PS 3で、stage IVの悪性黒色腫のため対症療法の方針とした。

約1ヶ月前の前医でのCT検査では認めていなかったが、第3病日の造影CT検査で多発性肝転移が出現しており、急速進行性であった。徐々に黄疸と腎機能障害が進行し、多臓器不全をきたし第28病日に永眠された。家族の了承を得て、病理解剖を施行した。

### 病理解剖

左胸水貯留と多量の腹水貯留を認めた。肉眼的に腸間膜根部を中心に累々と腫大する腫瘍組織を認めた。腫瘍組織は十二指腸の粘膜下に多結節性に広がり、胆嚢壁や肝脾実質内、左腎臓内に浸潤していた。また、大網や膀胱漿膜には播種性病変を認め、後腹膜から縦隔、気管分岐部や頸部のリンパ節に広範なリンパ節転移を認めた。組織学的には胃壁のリンパ管、左腎静脈、右副腎、骨髄内、精巣周囲のリンパ管内に腫瘍細胞の浸潤を認めた。

腫瘍組織は開腹生検したリンパ節と同様の組織像であったが、胞体に明らかな褐色の顆粒を持つ細胞は確認できなかった。免疫染色ではMelan AとHMB-45が広範に陽性で、Ki-67標識細胞が高率にみられた。明らかな原発巣と考えられる皮膚や食道、直腸病変は確認できなかった。

病理解剖所見より無色素性悪性黒色腫 (amelanotic melanoma) あるいは淡明細胞肉腫が疑われたため、病理解剖時に採取した腫瘍組織を用いて遺伝子検査を行った。淡明細胞肉腫に特徴的なEWSR1遺伝子の転座をFISH法で検討したが、EWSR1 split signalは陰性であった。一方、悪性黒色腫で高頻度に認められるBRAF遺伝子の変異をdirect sequence法による解析で検討したところ、V600E変異をヘテロに認めた (図3)。

以上より、最終的に原発不明の悪性黒色腫と診断した。

## III. 考察

本例はリンパ節腫大で発見された原発不明の悪性黒

色腫である。

悪性黒色腫は皮膚や消化管、網膜などに存在するメラノサイトが癌化した腫瘍で、50歳代以上の年齢に発症する非常に予後不良な疾患である<sup>1)</sup>。メラノサイトはメラニン色素を含有しているため悪性黒色腫はその名のおり黒色を呈することが多いが、癌化により色素を失った無色素性悪性黒色腫も報告されている<sup>4)</sup>。皮膚原発悪性黒色腫は強い光線により皮膚病変を拡大して観察するダーモスコープを用いた観察法であるダーモスコピーにより早期診断が可能となってきたが、進行すると所属リンパ節に転移し、その後肺、脳などの遠隔臓器に転移をきたす。転移巣の症状で発見された報告もあるが、その際には皮膚の原発巣が自然退縮し原発不明で発見された報告も散見される<sup>2)</sup>。

Das Guptaら<sup>5)</sup>は原発不明の悪性黒色腫の診断基準は、(1) 眼球摘出の既往のないこと、(2) 母斑、慢性爪周囲炎、皮膚の傷痕に対しての切除や電気焼灼の既往がないこと、(3) 病巣の確認されたリンパ節を所属リンパ節とする領域の皮膚に治療痕がないこと、(4) 眼、肛門、外陰部の精査にて異常がないことの4項目をすべて満たすことと述べている。本例の場合には、詳細な病歴聴取により(1)(2)(3)は認めなかった。また、前医での上下部内視鏡検査で異常を認めず眼以外の(4)を満たした。眼科的診察を行えなかったため網膜原発の可能性は否定できないが、眼症状を認めていないことより原発不明の悪性黒色腫と診断した。また、本例は生前にPET-CT検査を撮影し病理解剖を行うも原発巣と考えられる病巣を認めなかったことも原発不明を示唆する所見と考える。原発巣が不明である理由には悪性黒色腫がリンパ節や体腔の組織内に迷入しているmelanocyteから発生しうること<sup>6,8)</sup>、皮膚などの別の場所に原発巣があり、これが転移を来して原発巣が自然退縮することなどが挙げられる。悪性黒色腫の原発巣の自然退縮例の頻度は欧米では2~8%ぐらい、本邦では約19例しか報告されていない<sup>1,3)</sup>。本例の場合、詳細な病歴聴取を行うも自然退縮の既往ははっきりしなかった。

本例はリンパ節生検標本では一部の腫瘍細胞の胞体に顆粒を認めたが、病理解剖時の標本では顆粒をほぼ認めずamelanotic melanomaの可能性が考えられた。原発不明のamelanotic melanomaの鑑別には淡明細胞肉腫が挙げられる。淡明細胞肉腫は30~40歳代の若年者の腱や腱索などの軟部組織に発症する稀な肉腫で、高率にリンパ節転移を呈する疾患である。免疫組織学的には悪性黒色腫と同様、HMB-45, S100な





BRAF遺伝子の1799番目のTがAに変異することにより、V600E変異をヘテロに認めた。

図3. 遺伝子検査

どが陽性となる<sup>9)</sup>。淡明細胞肉腫ではEWSR1-ATF1あるいはEWSR1-CREB融合遺伝子が腫瘍細胞に特異的に認められるため、診断的価値が高い<sup>10,12)</sup>。一方、悪性黒色腫にはBRAF遺伝子のV600E変異を認めることが多いと報告されている<sup>11)</sup>。本例の場合、リンパ節生検組織でも病理解剖組織でも免疫染色でmelanocyte differentiationを示すMelan AとHMB-45などが陽性で原発巣が不明であったため遺伝子検査を行ったところ、BRAF遺伝子のV600E変異を確認できた。原発不明の悪性黒色腫と淡明細胞肉腫の鑑別には病理組織学的な検査に、本例で行ったような遺伝子検査を追加することで診断精度を上げることができると考えた。本邦ではいまだ使用できないも米国ではBRAF阻害剤であるvemurafenib<sup>13)</sup>やdabrafenib<sup>14)</sup>などの分子標的薬を使用することで、悪性黒色腫の予後は改善すると報告されている。淡明細胞肉腫と悪性黒色腫を正確に鑑別することは患者の予後を左右することになるため、遺伝子検査は非常に有用と考えた。

本例はリンパ節転移で発見された原発不明のBRAF遺伝子V600E変異をもつamelanotic melanomaである。悪性黒色腫はリンパ節転移で発見され、原発巣を認めず淡明細胞肉腫との鑑別を要することがあるため、今後は遺伝子検査が診断・治療方針の決定の一助になると考えた。

#### 文 献

- 1) 松谷秀樹, 大石 晋, 吉崎孝明, 他: 後腹膜にのみ病変を認めた悪性黒色腫の1例. 日消外会誌 41: 2081-2086, 2008
- 2) 辻本友高, 野本重敏, 山口英郎, 他: 原発巣の完全自然消退を認めた転移性悪性黒色腫の1例. Skin Cancer 16: 179-183, 2001
- 3) Cormier JN, Xing Y, Feng L, et al: Metastatic melanoma to lymph nodes in patients with unknown primary sites. Cancer 106: 2112-2020, 2006
- 4) 幸田公人, 高木祐子, 石地尚興, 他: 鼠径リンパ節転移で診断された無色素性黒色腫の1例. 臨皮 58: 579-582, 2004
- 5) Das Gupta T, Bowden L, Berg JW: Malignant melanoma of unknown primary origin. Surg Gynecol Obstet 117: 341-345, 1963
- 6) Chang P, Knapper WH: Metastatic melanoma of unknown primary. Cancer 49: 1106-1111, 1982
- 7) Rutter JE, deGraaf PW, Kooymon CD, et al: Malignant melanoma of the pancreas: primary tumor or unknown primary? Eur J Surg 160: 119-120, 1994
- 8) Jonk A, Kroon BB, Rumke P, et al: Lymph node metastasis from melanoma with an unknown primary

sites. *Br J Surg* 77 : 665–668, 1990

- 9) Antonescu CR : Clear cell sarcoma of soft tissue. WHO classification of tumors of soft tissue and bone (4<sup>th</sup> edition), In: Fletcher C, Bridge J, Hogendoorn P, et al, Lyon : IARC press, 221–222, 2013
- 10) Wang WL, Mayordomo E, Zhang W, et al: Detection and characterization of EWSR1/ATF1 and EWSR1/CREB1 chimeric transcripts in clear cell sarcoma (melanoma of soft parts). *Mod Pathol* 22 : 1201–1209, 2009
- 11) Davies H, Bignell GR, Cox C, et al : Mutations of the BRAF gene in human cancer. *Nature* 417 : 949–954, 2002
- 12) Yang L, Chen Y, Cui T, et al : Identification of biomarkers to distinguish clear cell sarcoma from malignant melanoma. *Hum Pathol* 43 : 1463–1470, 2012
- 13) Chapman P, Hauschild A, Robert C, et al : Improved survival with vemurafenib in melanoma with BRAF V600E mutation. *N Eng J Med* 364 : 2507–2516, 2011
- 14) Hauschild A, Grob J, Demidov L, et al : Dabrafenib in BRAF-mutated metastatic melanoma : a multicentre, open-label, phase 3 randomised controlled trial. *Lancet* 380 : 358–365, 2012

# IV. C P C 報 告

## IV. CPC報告

### IV. 1 CPC報告（2013年4月～2014年3月）（中央市民病院）

#### 第1回中央市民病院CPC報告

##### 【症例1】

1. 症例テーマ：衰弱にて来院し、著明な肺気腫と上行結腸腫瘍を認めた一例
2. 診療科、主治医・受持医：消化器内科 北本 博規
3. CPC開催日：平成25年4月17日
4. 発表者：臨床側（北本 博規）  
病理側（細谷 和也）
5. 患者：75歳、男性
6. 臨床診断：肺気腫、肺炎、上行結腸癌
7. 剖検診断：結腸癌、下肢静脈血栓、肺塞栓、肺アスペルギルス症
8. 臨床情報：

##### 1) 現病歴

2004年に健康保険が切れてから病院受診歴なし。息子と2人暮らしで生活していた。2012年12月までは労作時呼吸苦があり長距離歩行は不可能であったが、自力歩行は可能であった。12月23日頃に自宅内で転倒し、それ以降ADLが徐々に低下していった。2013年1月に入ったところから身動きがほとんどとれなくなり、食事も低下していった（飲水は何とか可能な状態）。1月7日頃からは飲水も困難となり、1月11日頃からほぼ何も口にしていなかった。1月14日20時過ぎ頃、反応も鈍くなってきたため、同居の息子が限界だと思い救急要請、当院へ搬送となった。来院時 shock vitalであり、中心静脈確保の上、補液・昇圧剤使用開始。胸腹部CTにて著明な肺気腫と回盲部～上行結腸に腫瘍を認めた。全身状態不良につき、集中治療管理目的にE-ICUに緊急入院（一般内科）となった。

##### 2) 既往歴・家族歴など

【既往歴】肺結核疑いにて右肺切除→結核陰性

【内服歴】常用薬なし

【生活歴】喫煙：ex-smoker (20本/日)、飲酒：機会飲酒、アレルギー：なし、  
海外渡航歴なし、国内旅行歴なし、動物接触歴なし

【社会歴】職業：金属加工業、家族：息子と2人暮らし 娘は名古屋在住

##### 3) 診療所見

General) chronically ill (来院時には糞尿 (+)、爪先に糞便 (+)、るい瘦著明)

GCS) E3V1M4

Vital) BP 63/36mmHg、HR 104/min、RR 21/min、BT 33.7°C

Eye) not anemic, not icteric

Oral) dry

Back) 褥瘡あり (仙骨部、明らかなポケット形成なし)

##### 4) 主な検査データ

###### <血液検査>

TP 6.5g/dl, Alb 1.8g/dL, T-bil 0.9mg/dl, AST 17IU/l, ALT 9IU/l, LDH 217IU/l, CK 82IU/l, CK-MB 6.9IU/L, ALP 165IU/L,  $\gamma$ -GTP 14IU/L, アミラーゼ 42IU/l, リパーゼ26IU/L, BUN 72.0mg/dl, Cr 1.43mg/dl, Na 148mEq/l, K 5.1mEq/l, Ca 7.7mg/dl, Glu 121mg/dl, CRP 7.73mg/dl, WBC 9700/ $\mu$ l, Hb 7.1g/dl, Ht 24.7%, Plt 6.3万/ $\mu$ l, PT-% 35.0%, D-dimmer 23.17 $\mu$ g/ml, Mg 2.7mg/dL, P 5.7mg/dL, Vit.B1 1.5 $\mu$ g/dL, Vit.B12 1110pg/ml

###### <ABG>

pH 7.305, PCO<sub>2</sub> 23.4, PO<sub>2</sub> 156.9, HCO<sub>3</sub> 13.6mmol/l, BE -13.8mmol/l, AG 18.6mmol/l, Lac 12.7mmol/l

##### 5) 画像診断所見

FAST) negative

TTE) EF : so-so, IVC 評価困難、RV dilation(-)/pericardial effusion(-)

###### <腹部CT>

上行結腸に著明な壁肥厚あり、大腸癌を第一に疑う。右腹壁に向かって瘻孔を形成している。周囲に細かなリンパ節腫大あり。paraaortaにもリンパ節目立つが、はっきり転移と言えるものはない。肝転移なし。両側浅大腿静脈と、左腎静脈に血栓あり。腹水、両側胸水あり。皮下の浮腫も著明。

##### 6) 経過・治療

来院時は著明な脱水・低栄養状態であり、shock vitalでもあったため中心静脈から輸液を開始。また炎症所見も認め、仙骨部に褥瘡あり、腹部CT検査にて上行結腸に壁肥厚を認めたことから、褥瘡感染や腸管からのbacterial translocationを

考えて抗菌薬治療(VCM+MEPM)も開始した。

入院当初はノルアドレナリンも必要な状態であったが、徐々にvitalは安定化し、第3病日にはカテコラミンfreeとなり、Aライン・CVC抜去した。低栄養も顕著であったため、第2病日からベプタメン経鼻投与を開始。肺気腫に関してはかなり進行しており、酸素投与が中止できず、おそらく全身状態が落ち着いてからもHOT導入が必要と考えられた。また来院時に低Alb血症とPlt低値があり、HCV陽性もあり肝硬変が疑われたが、肝酵素は基準値内でCT・腹部超音波検査でも典型的な肝硬変像はなく、低栄養が根本的な原因と考えられた。

上行結腸の壁肥厚に関しては腹部超音波検査で精査した際に、周囲にリンパ節腫大もあり、malignancyを疑う所見であった。腎機能が改善するのを待ち、第5病日に造影CT検査で精査したところ、著明な壁肥厚に加え、右腹壁に向かって瘻孔を形成している所見も認めた。内視鏡的精査は未実施であったが、進行癌と考えられた。治療は手術か化学療法になると考えられたが、全身状態が改善しなければどちらも施行することは困難であると御家族に説明し御理解いただいた。

Vitalが安定した後も炎症所見は上昇傾向であり、WBC上昇もあることから細菌感染症があると考えた。入院時の培養検査は全て陰性であったが、抗菌薬はoffとせず第5病日よりABPC/SBT 3g×4/日にde-escalationした。

肺気腫強いため喀痰の喀出が困難であり、吸引を随時行って経過を診たが、次第に吸引時に膿性喀痰が吸引されるようになり、肺炎を合併していると考えた。第6病日朝に呼吸状態悪化し、酸素投与量を増量する必要があったことから、抗菌薬をPIPC/TAZ 4.5g×3/日に変更し、持続経管栄養も中止した。

その後も呼吸状態は改善せず、第7病日からは15Lリザーバマスクで何とかSpO2 90%台を保てる程度となった。御家族は病状悪化時には苦痛を和らげることを中心とした治療を希望されており、第3病日のIC時に急変時はDNRの方針で決定していたが、第8病日に改善の見込みは厳しい旨を再度説明。以後は苦痛の緩和を最優先にBSCの方針で決定した。

その後、徐々に尿量低下・血圧低下を認め、意識状態も悪化していき、第10病日朝からsBP

60mmHg台で下顎呼吸となり、14時58分死亡確認。

## 7) 手術所見

手術施行せず

## 8) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

1. 入院経過中、呼吸不全が進行していったが、肺炎の合併などあったか?
2. 上行結腸に腫瘤影を認め、進行大腸癌が疑われたが、確定診断は何か?

## 9. 剖検情報:

### 1) 剖検診断と病理所見

#### 【主病変】

#### 1. 上行-横行結腸癌

AT, 8x6cm, type2, pSI (後腹膜), well to moderately differentiated adenocarcinoma, int, INFb, ly0, v0

#### 2. 両肺動脈血栓塞栓症

右大腿静脈血栓

#### 【関連病変】

1. アスペルギルス肺炎 左肺上葉にアスペルギルス
2. 肺気腫 右肺部分切除後 右肺は胸郭と癒着し、用手剥離不可
3. びまん性肺胞障害(DAD)左肺に硝子膜形成
4. 右房・右室拡張
5. 腔水症 腹水300ml, 右肺300ml, 左肺800ml
6. 遠門脈域の肝細胞索のやせ
7. 腎髄質うっ血
8. 巣状睥炎

#### 【その他の病変】

1. るいそう  
心筋褐色萎縮 リポフスチン沈着  
腸腰筋廃用性萎縮
2. 褥瘡 仙骨部
3. 動脈硬化 年齢相応
4. 脾臓被膜線維性肥厚

### 2) 担当病理医: 細谷 和也

## 10. 考察:

### 【まとめ】

死亡1ヶ月前までは労作時呼吸苦があり長距離歩行は不可能であったが、自力歩行は可能であった。2012年12月下旬に自宅内で転倒し、それ以降ADLが徐々に低下していった。死亡9日前に救急要請、当院へ搬送となった。来院時shock vitalであり、中心静脈確保の上、補液・昇圧剤使用開始。胸腹部

CTにて著名な肺気腫と回盲部～上行結腸に腫瘤を認めた。全身状態不良につき、集中治療管理目的にE-ICUに緊急入院となった。加療するも全身状態が悪く、徐々に尿量低下・血圧低下を認め、意識状態も悪化していった。死亡当日は朝から血圧60台で下顎呼吸となり、昼過ぎに死亡確認。

肉眼的にいろいろが目立った。上行～横行結腸に2型潰瘍性病変を認めた。病変は右腎臓に広がっているように見えたため、一塊にして摘出した。両肺は気腫性変化が著明で、特に右肺は胸壁との癒着が著明で用手剥離不可であった。剖面像では、左肺上葉の腹側を中心に肺炎像を認めた。また両肺動脈の比較的太い分枝に血栓/塞栓を認めた。右大腿静脈に血栓を認め、ここから飛んだと考えた。

組織学的に上行～横行結腸の病変部では壊死を背景に管状に配列する高分化腺癌とふるい状に配列する中分化腺癌を認めた。正常粘膜とのfrontは明瞭で、免疫染色ではサイトケラチン7/20共に一部の腫瘍細胞に陽性であった。以上の所見から大腸原発の腺癌と考えた。腫瘍は漿膜を越えて後腹膜への浸潤を認めたが、腎被膜への浸潤は認めなかった。周囲リンパ節(#211)に明らかな転移は認めなかった。肺は血栓塞栓を認めた部分は、組織学的に器質化を認めた。ある程度時間が経過した血栓塞栓と考えた。左肺上葉の腹側を中心に壊死巣にPAS陽性真菌(アスペルギルス)を認めた。また、血管内に入り込む像も一部で見られた。一方、Giemsa、PAS、Gram染色で明らかな細菌塊は認めなかった。肺胞構造が保たれている部分で硝子膜の形成を認めた。肝臓では遠門脈域の肝細胞索のやせを認めた。膵臓では巣状膵炎が散見され、腎臓では腎髄質うっ血もみられた。

腫瘍や低栄養などがあり、全身予備能が低下した状態で、かつ肺気腫と肺血栓塞栓症があり、呼吸予備能も極端に低下していた。更に肺血栓塞栓症で、右心不全および左房還流の低下を来したと考える。その結果として、肝臓遠門脈域の肝細胞索のやせや、臓器うっ血、巣状膵炎などを来したと考える。また肺ではおそらく気管支動脈からの血流が保たれていた部分とうっ血に陥ったのに対し、低下した部分で梗塞に陥り、そこから真菌が広がったと考える。最終的に呼吸不全/循環不全で死亡したと考える。

## 【症例2】

1. 症例テーマ：低体温、ショック、急性呼吸不全で来院し、肺炎加療するも1ヶ月で死亡した一例
2. 診療科、主治医・受持医：総合診療科 亀井 博紀
3. CPC開催日：平成25年4月17日
4. 発表者：臨床側（亀井 博紀）  
病理側（市川 千宙）
5. 患者：77歳、男性
6. 臨床診断：器質性肺炎
7. 剖検診断：細菌性肺炎、器質性肺炎、両側胸水、間質性肺炎
8. 臨床情報：
  - 1) 現病歴  
1月18日頃より右足が動かしづらいとの訴えあり。1月30日再度吉田脳外科病院へ受診。頭部CT上異常なし。2月5日福井クリニック受診。受診時に全身浮腫を認めていた。2月8日朝9時に妹が訪問した際に、ベッドと机の間に横たわっていた。呼びかけても応答なし。反応ないため救急車を要請し当院救急受診。
  - 2) 既往歴・家族歴など  
【既往歴】 高血圧、慢性心不全、高尿酸血症、精神発達遅延、右乳がん術後  
【内服薬】 ニフェジピン40mg/分2 ベザフィブラート400mg/分2 リポール200mg/分2 チザネン150mg/分1 フロセミド80mg/分1 スピロノラクトン25mg/分1 コハク酸ソリフェナシン2.5mg/分1 ドネベジル5mg/分1 酸化マグネシウム1.8g/分3 ツロブテロール1mg/分1  
【生活歴】 喫煙(-) 飲酒(-)  
【アレルギー】 特にはなし
  - 3) 診療所見  
vital：BP60mmHg HR40/分 BT25.8℃  
RR20/分：下顎呼吸  
頭頸部：異常なし  
胸部：lung soundR=L→呼吸音微弱 crackle(-)  
wheeze(-) hurt sound;no murmur  
腹部：soft&flat、B/Snormal、tenderness(-)、murphy's sign(-) CVA tenderness(-/-)  
下肢：slow pitting edema(+)/(+) 上肢にもpitting edema(+)

#### 4) 主な検査データ

血算：WBC：5,200/ $\mu$ L, Hb:11.5g/dL, Ht:32.4%,  
PLT:17.8 $\times 10^4$ / $\mu$ L  
生化学：TP:5.7g/dL, ALB:2.6g/dL, T-BIL:0.4mg/  
dL, AST:65IU/L  
ALT：33IU/L, LD:414IU/L, ALP:271IU/L,  
 $\gamma$ -GT:38IU/L, CK:1049IU/L  
尿素窒素：25.7mg/dL, クレアチニン:0.84mg/dL,  
Na:124mEq/L, K:3.2mEq/L, Cl:93mEq/L  
血液ガス（静脈血液ガス）：pH:7.041, PaCO<sub>2</sub>:47.0,  
cHCO<sub>3</sub><sup>-</sup>:10.6, Anion Gap: 16.3, Lac:2.8

#### 5) 経過・治療

第1病日低体温・ショックにて当院ICU入院。復温開始。

第2病日復温により循環動態は安定。意識レベルも改善となったために抜管となった。

一旦は呼吸状態が改善したものの徐々に呼吸状態が悪化。酸素必要量も増加となった。原因精査の結果からは胸水貯留によるものと診断。

第5病日呼吸状態改善のため右胸水排液のためアスピレーションキットを挿入。800mlを排液。排液後も呼吸状態は悪化。

第6病日朝方にリザーバーマスクでも酸素化は保てずNIVを装着とした。

胸部レントゲン上では肺水腫が主病態と判断して利尿薬にて治療開始とした。

胸水は漏出性であった。

利尿薬にて水分管理を行うも一旦は呼吸状態改善しても、再度徐々に酸素必要量が悪化。第12病日にはそれまでNIVにてFiO<sub>2</sub> 40%でSpO<sub>2</sub>は保っていたものの50%まで必要となった。利尿薬による除水をかけても呼吸状態の改善に乏しいため呼吸不全原因検索のため肺塞栓含めて造影CTを施行。明らかなPEは認めず。右下葉の肺炎および坐骨周囲膿瘍を認めたために両者に対してPIPC/TAZにて治療開始とした。

肺炎に対して治療開始するも呼吸状態はさらに増悪。

第13病日にはFIO<sub>2</sub> 70%まで酸素需要が悪化。左胸水の貯留を認めたために左胸水にアスピレーションキットを挿入。左胸水の排液を施行しても呼吸状態は悪化。

第18病日他の呼吸不全の原因としてARDSおよび肺水腫後の器質化肺炎の可能性を考慮しメチルプレドニゾロン80mgの点滴静注を開始。

開始後も呼吸状態は改善せず。mPSLの点滴は5日間にて終了とした。

第22病日に再度右胸水の貯留認め右アスピレーションキット挿入。排液後も呼吸状態は変化なし。第26病日より発熱あり、抗菌薬をPIPC/TAZからMEPMへ変更も状態の変化なく。

第27病日呼吸状態さらに悪化し12時11分に永眠。ご家族の同意を得て病理解剖へ。

#### 6) 症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）

入院後の経過にて致死的状态に陥った呼吸不全の主要原因の追求。

慢性的な呼吸不全を来す病態が以前から存在していた可能性についての追求。

#### 9. 剖検情報：

##### 1) 剖検診断と病理所見

###### 【主病変】

1. 細菌性肺炎  
- 器質化肺炎(両側の下葉、一部上葉・中葉)
2. 両側胸水
3. 間質性肺炎  
- 硝子膜形成・滲出液  
- 肺胞壁の線維化巣

###### 【関連する病変】

1. 肝臓zone3の肝細胞索のやせ
2. 腎髄質うっ血、間質の浮腫
3. 右房・右室拡張
4. 巣状膵炎、散在
5. 骨髄：正細胞性、わずかに血球貪食像
6. 副甲状腺：一腺の過形成もしくは腺腫

###### 【その他の病変】

1. 左室求心性肥大・大動脈弓部拡張
2. 大動脈粥状硬化症、中等度
3. 逆流性食道炎
4. 胃リンパ管腫、小豆大

##### 2) 担当病理医：市川 千宙

##### 3) 病理医からのコメント

低体温・ショックで入院され、復温により一旦は循環動態は安定し抜管となった。しかし再度呼吸状態が悪化し、胸水貯留、心原性肺水腫、右下葉の肺炎に対して治療したものの、徐々に呼吸不全が進行した。入院から約2週間後に器質化肺炎の可能性を考慮しステロイド投与もされた。入院から約4週間後に再度発熱あり、肺炎として治療されるも呼吸不全さらに進行し、永眠された症例。

## 10. 考 察

左上葉に細菌や真菌塊は認めませんが滲出物・好中球浸潤を認める部分があり、細菌性肺炎が残存ないし再発している状態と考えます。両側肺下葉（特に背側）、一部上葉・中葉に広がる白く硬化した器質化肺炎を認めます。組織学的に、それらにはほぼ一致するように気腔内に充満する幼弱な線維組織と線維芽細胞を認めます。またそれらの線維組織に類骨や層板構造のある骨や骨髓脂肪織を有する骨の形成を認めます。これらの器質化肺炎は細菌性肺炎治療後の変化と考えます。また左上葉や右上中葉の器質化肺炎より腹側では、硝子膜形成を認め比較的新しいARDS様の病変を部分的に認めます。両上葉腹側には肺うっ血が目立ちます。

類骨形成に関しては、副甲状腺の1腺過形成もしくは腺腫の関与も示唆されます。

細菌性肺炎治療後に両側背側下葉中心に器質化肺炎が広がっています。左上葉にも比較的新しい細菌性肺炎の残存も認め、活動性は完全に消失していない可能性を考えます。さらに新旧のARDS様病変を認め、肺うっ血も加わり呼吸面積の減少を来たしたと考えます。

### 第2回中央市民病院CPC報告

#### 【症例1】

1. 症 例 テ ー マ：非結核性抗酸菌症の増悪にて死亡した一例
2. 診 療 科、主 治 医・受 持 医：呼吸器内科 大歳 文博
3. C P C 開 催 日：平成25年6月19日
4. 発 表 者：臨床側（大歳 文博）  
病理側（市川 千宙）
5. 患 者：76歳、女性
6. 臨 床 診 断：非結核性抗酸菌症
7. 剖 検 診 断：非結核性抗酸菌症
8. 臨 床 情 報：

#### 1) 現病歴

2006年11月頃より咳嗽、喀痰、労作時呼吸困難出現。2007年4月に咳嗽にて当科受診。胸部レントゲン上、右上葉に空洞性病変を認め、喀痰培養にて*Mycobacterium avium*を検出。MAC症と診断し、2007年7月9日よりCAM, EB, RFP内服にて治療開始。2008年3月頃より喀痰、咳嗽は改善し、2008年4月の喀痰培養では陰性化。2009年4月に抗生剤加療終了。ところが、加療終了後すぐに呼吸器症状は再燃し、2009年6月の喀痰培養に

て*Mycobacterium avium*が再度陽性となった。胸部X線上の陰影も増悪傾向にあったため、2009年9月より抗生剤加療を再開。その後、呼吸器症状は落ち着くが、画像上は陰影の悪化を認めた。2011年9月の喀痰培養では*M. abscessus*も検出。その後、体重減少や全身倦怠感の増強を認め内服が困難な状況となり、2011年11月から抗生剤加療は中止。御本人の希望もあり、以降はBSCの方針で外来にて経過をみた。2013年3月4日頃より呼吸困難、湿性咳嗽の増悪あり、2013年3月7日に当院ERに救急搬送となった。

#### 2) 既往歴・家族歴

特になし

#### 3) 診察所見

血圧118/76mmHg, 脈拍122回/分, 呼吸数30回/分, 酸素飽和度 93% (4L),

体温 38.9度, 意識：E4V5M6, 眼球結膜：黄染なし, 眼瞼結膜：軽度貧血あり, 頸部リンパ節腫脹なし, 呼吸音：左中～下肺野にcoarse crackles聴取, 心音：雑音なし・整, 腹部：平坦・軟・圧痛なし, 四肢：浮腫なし

#### 4) 主な検査データ

Hb 11.0g/dl, MCV 86, MCH 27.1, RBC 406万/ $\mu$ l, WBC 20800/ $\mu$ l (Neu 89%, Eos 0%, Baso 0%, Lymph 8%, mono 3%) Plt 393000/ $\mu$ l, TP 7.1g/dl, AST 12IU/l, ALT 7U/l, LDH 164IU/l, CK 29IU/l, BUN 29.7mg/dl, Cr 0.92mg/dl, Na 140mEq/l, K 4.5mEq/l, CRP 17.75mg/dl, Glucose 142mg/dl, BNP 2840 pg/ml, procalcitonin 0.66 ng/ml,  $\beta$ -D グルカン <6.0 pg/ml

#### 培養結果

血液培養・尿培養は陰性

喀痰培養より*Moraxella catarrhalis*を検出

#### 5) 画像診断所見

胸部X線 右肺は全肺野にわたり透過性低下、収縮性変化も強い、左中肺野には新規浸潤影を認める

胸部CT MAC症の進行に伴い、右肺には正常の含気が全く見られない。左上肺野～下肺野にわたって新規のconsolidationを認める、左胸水貯留あり

心エコー EFは30%台, 左室のasynergyあり

#### 6) 経過・治療

左大葉性肺炎の出現による呼吸状態悪化に対し、LVFX, PIPC/TAZにて加療を開始した。抗生剤投



与、輸液負荷にも関わらず胸部X線上、左肺の浸潤影は増悪し、乏尿も続いた。今回入院前よりADL低下が激しく、急変時にはBSCの方針となっていた。入院後の治療に関らず呼吸状態、循環動態が悪化傾向にあったことから、上記以上の加療は行わず、緩和的加療の方針とした。3月9日午前11時25分に永眠された。

#### 7) 手術所見

なし

#### 8) 症例の問題点

今回入院時に認めた左の大葉性肺炎は、NTMの増悪、もしくは細菌性肺炎の合併のいずれかが考えられる。ERでの喀痰グラム染色(Gekkler 5)ではグラム陰性双球菌(*Moraxella catarrhalis*と後に判明)を認めたことより、細菌性肺炎合併による影響が強いと考えたが、剖検結果からはどう解釈すべきか。また、難治性NTMの症例であるが、右肺は剖検にてどのような所見であったか。

#### 9. 剖検情報:

##### 1) 剖検診断と病理所見

診断: 非結核性抗酸菌症

病理所見: 右肺は全体的に小さく剖面では約3.5cm大の空洞と右肺動脈中枢側に凝結塊を認める。組織学的に胸膜が繊維性癒痕に肥厚し、残存する肺実質内に気道周囲に多発する壊死とそれらを取り巻くように繊維性癒痕と多核巨細胞と軽度の好中球を認める。Ziehl染色で赤染する桿状の菌体を膿瘍壁の縁に多数認める。左肺上葉・舌区から下葉にかけて右肺と同様の病変が多発し、肺胞腔内に好中球浸潤と浸出物を認める。

右肺は非定型抗酸菌症による変化を認め、左肺も上葉から下葉にかけてほぼびまん性に同様の病変を認めるため、非結核性抗酸菌症の増悪により呼吸不全に至った可能性を考える。

##### 2) 担当病理医: 市川 千宙、山下 大祐

#### 10. 考察:

難治性の非結核性抗酸菌症の増悪による呼吸不全にて死亡した一例を経験した。今回入院以前よりCT画像上、両側肺に著明な空洞影、粒状影を認めていたが、今回の入院時のCTでは左肺にさらに新規浸潤影の出現を認めた。剖検結果からは非結核性抗酸菌症の増悪によると考えられる所見であった。

#### 【症例2】

1. 症例テーマ: 偽膜性腸炎にて当院へ転院となるも4日目に死亡した1例

2. 診療科、主治医・受持医: 消化器内科 小川 智  
宮崎 由佳

3. CPC開催日: 平成25年6月19日

4. 発表者: 臨床側(宮崎 由佳、小川 智)  
病理側(松岡 亮介)

5. 患者: 73歳、男性

6. 臨床診断: 偽膜性腸炎、麻痺性イレウス

7. 剖検診断: 偽膜性腸炎、癒着性イレウス

8. 臨床情報:

##### 1) 現病歴

2013/3/29 新聞がたまっているのに気付いた民生委員がトイレで動けなくなっている本人を発見し、救急要請をした。近医へ搬送され、頭部CTでは異常なく、四肢、体幹に水疱、びらんが多発し、CK値が2664と上昇を認めたため、横紋筋融解症の診断に至り、補液、CMZ、ABPC/SBTで加療された。4/4 炎症反応は改善傾向であったため、抗生剤投与を中止した。4/9 下痢を生じ、CD toxin陽性であったため、MNZ投与開始。4/10 発熱を認め、4/12 再度ABPC/SBT開始した。4/13 腹部膨満、嘔吐、尿量低下を認めた。血液検査で炎症反応高値、腎機能悪化を認め、腹部CT検査で腸管拡張を認めたため、当院へ転院となった。

##### 2) 既往歴・家族歴など

既往歴: 病院通院歴なし。手術歴不明。

内服薬: 前医でメトロニダゾール 1000mg/day、酪酸菌製剤 4錠、リスバリドン1.5mg/day

生活歴: 喫煙: heavy smoker (詳細不明)、飲酒: 飲酒多量 (詳細不明)。アレルギーなし。

社会歴: 元タクシー運転手。10年程前に内縁の妻が他界してから1人暮らし。ADLは自立していたとのこと。離婚した前妻の娘が最後に会ったのは5年以上前。

##### 3) 診療所見

Vital) 意識 E4V4M6 (名前、年齢、場所、月、人物すべて誤答), BT 37.4℃, BP 83/54mmHg, PR 100回/分, RR 25回/分, SpO2 95%(RA)

頭頸部) 異常なし

腹部) 膨満著明、弾性硬。腹部全体に圧痛あり。反跳痛なし。筋性防御なし。

四肢) 冷感あり。下肢に水疱痕あり。

##### 4) 主な検査データ

血算：WBC:22200/ $\mu$ L, Hb:13.7g/dl, Ht:40.5%,  
PLT:46.2万/ $\mu$ L

生化学：TP 6.2g/dl, Alb 1.8g/dl, T-bil 0.4mg/dl,  
AST 12IU/l, ALT 10IU/l, LDH 211IU/l,  
ALP 423IU/l, CK 39IU/l, AMY 103IU/l,  
LIPA 14IU/l, BUN 55mg/dl, Cr 1.92mg/dl,  
Na 130mEq/l, K 5.0mEq/l, Ca 8.1mg/dl,  
Glu 418mg/dl, CRP 34.99mg/dl

A B G：pH 7.437, pCO<sub>2</sub> 25.3, pO<sub>2</sub> 87.1, HCO<sub>3</sub>  
16.8mmol/l, BE -5.9mmol/l, AG 8.2mmol/l,  
Lac 4.4mmol/l

#### 5) 画像診断所見

頭部CT：萎縮を認めるものの明らかな異常所見は認めず。

胸腹部造影CT：小腸は著明に拡張を認めた。また直腸・S状結腸は壁肥厚を伴い、周囲腸間膜の濃度上昇、限局性液貯留もあり。上下腸管動脈の閉塞は認めず、腸管の血流は保たれていた。

#### 6) 経過・治療

4/14画像検査の結果、CD腸炎による麻痺性イレウスとして外科的手術適応はないと考え、胃管挿入しVCM500mg/day経管投与で治療開始。家族は侵襲的な治療は希望されず、抗生剤・輸液のみによる加療を希望された。

4/15尿量低下を認め、輸液負荷。CT検査結果から小腸に一部狭窄を認め、手術の必要性がある旨を説明も手術は希望されず。4/16輸液で尿量は保たれていたが、胃管からの排液が1200ml/dayと増加。また、発熱も認めた。4/17急激に尿量低下し、輸液を負荷するも改善せず。胃管からの排液2000ml/dayと増加し、意識障害・血圧低下が出現。敗血症性ショックと考え、血液培養採取し、MEPM開始も改善乏しく、15:51死亡確認。なお、血液培養検査結果は陰性であった。

#### 7) 症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）

- ①重症CD腸炎が原因の麻痺性イレウスと判断したが正しかったのか。
- ②突然の血圧低下の原因は敗血症性ショックと考えたが正しかったか。

#### 9. 剖検情報：

##### 1) 剖検診断と病理所見

###### 【主病変】

1. 偽膜性腸炎（大腸全長）、左結腸拡張著明（麻痺性イレウス）

2. 下部回腸癒着性イレウス（係蹄拡張、内容うっ滞に伴う屈曲）

- a. 虫垂切除後（右下腹部手術痕）

3. 諸臓器うっ血（肝うっ血、腎髄質うっ血、両側肺うっ血）

敗血症性ショック疑い

###### 【その他の病変】

1. Low grade tubular adenomas（1-3cm大のポリープ4か所あり）

2. 結腸憩室

3. 大動脈粥状硬化軽度

4. 右室心筋萎縮

5. 左室心筋傷害

6. 骨格筋廃用性萎縮

7. 副腎皮質炎症細胞浸潤

8. 甲状腺萎縮＋左室心筋好塩基性変性

2) 担当病理医：松岡 亮介

3) 病理医からのコメント

開腹すると、回盲部～小腸～S状結腸の間が強く癒着していた。索状物によって下部回腸の1箇所が後腹膜に固定され、拡張した口側係蹄が垂れ下がって屈曲しており、通過障害を来していたが、腸管自体には狭窄を認めず、うっ血や壊死などの循環障害の所見を認めなかった。そこから口側の小腸全体が水様内容で拡張していた。また、これとは別にS状結腸から直腸にかけても著明に拡張しており、大腸全長に全周性、びまん性の偽膜形成を認め、偽膜性腸炎の遷延が確認された。

組織学的には、大腸全長に認める偽膜は、著明な好中球の集簇を伴うフィブリンや粘液で構成されていた。偽膜下の粘膜層の吸収上皮はびらん、杯細胞減少、腺管の拡張を呈していた。前医および当院搬送時にCDtoxin陽性であり、偽膜性大腸炎として矛盾しない像と考えた。偽膜形成を認める部分でグラム染色、グロコット染色、ギムザ染色を行ったが、明らかな菌体は検出されなかった。結腸に認められたポリープはいずれも低異型度管状腺腫であり、ポリープにも偽膜が付着し、一部では壊死を呈していた。屈曲部周囲の小腸には明らかな虚血性変化、壊死は指摘できなかった。腸管以外に明らかな感染病巣を認めなかった。

10. 考察：

全結腸に偽膜の形成を認め、また毒素によると思われるS状結腸直腸の拡張が遷延していたことから

重症偽膜性腸炎による麻痺性イレウスが生じていたと考えられる。しかし、開腹所見では過去の虫垂炎によると考えられる癒着を認め、この癒着と小腸内容のうっ滞に伴う下部回腸の屈曲による通過障害が生じており、腸閉塞の一因と考えられた。この通過障害が嘔吐や胃管の排液量増加の原因となる一方で、経口投与されたVCMの病巣への到達を妨げ、病状が改善しなかったと考えられる。

また、ショックの原因に関しては、イレウスの影響で胃管から多量の排液を認め、水様性下痢も頻回に認めていたが、尿量は死の前日までは保たれており、補液は十分に行われていたと考える。また、血中アルブミンは低値であったが、浮腫や胸腹水は目立たず、循環血液量減少によるショックは考えにくい。血液培養は陰性で組織学的にも明らかな菌血症を示唆する所見はなかったが、腸管は広範囲のびらん、ポリープには壊死が見られ、こうした所見は敗血症のfocusとして十分に考えられる状態であった。経過からも敗血症以外に急な血圧低下を来す原因を考えづらく、以上より死因としては敗血症性ショックと考えられた。

剖検の結果、虫垂炎後の癒着が腸閉塞の一因となっていたことから腸閉塞に対してイレウス管の挿入や外科的イレウス解除術によって積極的に解除を試みる必要があったと考えられる。また、偽膜性腸炎に対して口側腸管の通過障害が生じていたことから肛門側からVCM注腸投与を検討する必要があったと考えられた。

### 第3回中央市民病院CPC報告

#### 【症例1】

1. 症例テーマ：視神経脊髄炎のfollow中にCPAで搬送され救命しえなかった症例
2. 診療科、主治医・受持医：神経内科 東田 京子  
川本 未知
3. CPC開催日：平成25年8月21日
4. 発表者：臨床側（東田 京子）  
病理側（松岡 亮介）
5. 患者：73歳、女性
6. 臨床診断：肺塞栓症、視神経脊髄炎
7. 剖検診断：肺動脈血栓塞栓症
8. 臨床情報：
  - 1) 現病歴  
平成23年2月頃から排尿障害を自覚し、平成24年2月4日頃から歩行障害を認めた。2月7日頃

より両側下腿から上行する異常感覚をみとめ、歩行障害が続くため2月11日に当院受診、入院精査を行った。頭部MRI検査では左脳梁～側脳室後角近傍や第四脳室周囲橋被蓋に高信号、脊髄MRI検査ではC7-Th1、Th3-7、Th12に髄内高信号を認め、ガドリニウム造影もみとめた。抗アクアポリン4抗体陽性であり、視神経脊髄炎(NMO)と診断した。入院中、右浅大腿静脈および左ヒラメ静脈に深部静脈血栓をみとめたためワーファリン導入した。NMOに対してステロイドを導入し、転院となった。他院入院中に胸部締め付け感や下肢筋力低下が増悪し、3月～4月にNMO増悪のため再入院。5月より免疫抑制剤メトトレキサート併用とした。その後、外来で経過をおっていたが、締め付け感が徐々に増悪し、10月には歩行障害も出現したため、NMO再発と診断した。平成25年3月25日の下肢静脈エコーで血栓消失を確認しワーファリンを中止。プレドニゾロン15mg/日で維持していた。

平成25年5月24日早朝、「苦しい」と訴えて夫の部屋に歩いて倒れ込んできた。その後はあえぎ呼吸になり呼吸が停止。救急要請するも救急隊到着時にはCPA、波形はPEA。胸骨圧迫を開始しながら当院へ搬送された。来院時の波形はAsystole。ボスミン投与にて自己心拍再開、気管挿管施行。昇圧薬開始したがCPAとなった。これ以上の蘇生は困難と判断し心臓マッサージ、胸骨圧迫を停止。死亡確認となった。

#### 2) 既往歴・家族歴など

視神経脊髄炎、高血圧、脂質異常症、深部静脈血栓症

#### 3) 診療所見

明らかな外傷痕なし

#### 4) 主な検査データ

<動脈血液ガス分析>

代謝性+呼吸性アシドーシス

pH 6.705, pCO<sub>2</sub> 100, HCO<sub>3</sub> 5.4, Aniongap 24.7, cLac 20

<血液検査>

WBC 27400, Hb 13.6, Ht 44.3, PLT 14.1, CRP 3.53, TP 5.5, ALB 3.1, AST(GOT) 185, ALT(GPT) 117, LDH 870, BUN 17.1, Cr 1.25, Na 145, K 3.6, Ca 8.9, 血清-GLU 457, トロポニンI 1.573

#### 5) 画像診断所見

<腹部エコー>ascites(-), 心嚢液(-), 胸水(-)

<CXR>左上葉に肺炎像あり

## 6) 経過・治療

2013/5/24 5:08 救急隊到着時にはCPA, 波形はPEA。胸骨圧迫を開始しながら当院へ搬送。5:35 来院時の波形はAsystole。

両上肢ライン2本確保しボスミン投与にて自己心拍再開。

気管挿管施行 7.0mm, 22cm固定。胸郭挙上、両側肺呼吸音を確認。CXRにて位置確認→20cm固定に変更。N-G tubeを挿入し60cm固定とした。

血圧低下ありイノバンを開始。以降はCPAとなり、ボスミン投与にて自己心拍再開を繰り返す。これ以上の蘇生は困難と判断しご家族へ蘇生が難しいことを説明した。

承諾をえて、心臓マッサージ、胸骨圧迫を停止した。心電図はPEA。

6:55 死亡確認となった。

## 7) 手術所見

なし

## 8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

- ① 今回の突然の呼吸苦、CPAに至った原因として、肺塞栓症や大動脈解離、心筋梗塞が鑑別にあがるが、死因は何か。
- ② 経過中に3回再発(初回含む)し、治療に難渋していたが、その病態について病理学的観点から、再髄鞘化の不完全性(アストロサイトの障害、それに引き続く二次的な脱髄や軸索障害)が示唆されるか。
- ③ 頭部MRI検査および脊髄MRI検査でT2WI高信号域を呈していた部位(C7-Th1、Th3-7、Th12)について、その病理所見におけるAQP4やGFAPの染色性はどうか。またMBPの染色性はどうか。また、急性期病巣と慢性期病巣がどのような分布や病巣の広がり呈しているか。
- ④ 経過中、視神経炎は発症していなかったが、病理所見では視神経炎を示唆する所見はあるか。
- ⑤ NMOの病理所見が得られることはまれであり、急性期所見・慢性期所見について、できれば多発性硬化症の急性期所見・慢性期所見と対比して、ご教授いただきたい。

## 9. 剖検情報:

### 1) 剖検診断と病理所見

#### 【主病変】

肺動脈血栓塞栓症

- 右肺動脈A2本幹、右肺下葉動脈本幹
- 両側肺動脈末梢枝の血栓閉塞

視神経脊髄炎

- 視神経、脊髄 (Th2-10)

#### 【副病変】

心肺蘇生関連

- 両側多発肋骨骨折
- 心外膜出血
- 血性胸水 (左胸水700mL、右胸水500mL)
- 血性腹水 (腹水200mL)

後腹膜出血

諸臓器うっ血

- 腎髄質うっ血、肺うっ血 (左背側)

好中球増多 (肝、腎、心)、骨髄成熟前段階顆粒球増加

大動脈粥状硬化 (軽度)

腺腫様甲状腺腫

胃粘膜びらん

腎嚢胞

胆石症

虫垂炎術後

身長157cm、体重55.6kgの体格中等の女性。眼瞼結膜軽度貧血、鼻腔内に出血。下肢にはpitting edemaを認め、鱗屑が付着しています。右下腹部に手術痕(虫垂炎既往)を認めます。右第3,4,5,6肋骨、および左2,3,4,5,6肋骨の骨折を認め、左血性胸水500ml、右血性胸水700ml、血性腹水200mlを伴います。心外膜にも出血を認めますが、心臓はその他に著変認めません。これらは胸骨圧迫に伴う変化と考えます。肺は左433g、右321g。右下葉の肺動脈底幹および右上葉A2動脈に肉眼的に血栓を認めます。上下肢静脈や下大静脈に明らかな血栓は認めません。腎臓は髄質にうっ血を認め、右には6cm大の嚢胞が2個見られます。脾臓は高度の脾粥を認めます。甲状腺は両葉に褐色の結節を認めます。脳の重量は1200gで、表面、断面ともに特記すべき所見を認めません。脊髄は胸髄のTh2-10くらいにかけて、中心右側に白色調病変を認めます。

組織学的には、右肺上葉肺A2動脈本幹、右肺下葉動脈本幹、左肺下葉肺動脈(A10末梢枝)に血栓を認めます。その周囲の亜区域支や中小動脈にも散在性に血栓が見られます。肺泡道が短小化し、加齢性的変化と考えます。

第2,5,6胸髄において、中心部右側寄りにクリューバー・バレラ染色で明らかな髄鞘の消失を認め、同部位には泡沫細胞集簇、リンパ球浸潤を認め、壊死を来しています。Neurofilament染色では、軸索の走行は保たれています。脱髄の所見と考えます。また、第8,9,10胸髄にも右側側索付近に軽度の脱髄所見を認めます。視神経もクリューバー・バレラ染色で髄鞘の消失を認めます。大脳、脳幹を含め、その他の中枢神経系には明らかな脱髄所見は認めません。大脳、小脳に明らかな梗塞、出血は認めません。

腎臓には髄質うっ血を認めます。毛細血管レベルにやや好中球が多い印象ですが、糸球体のサイズの増大は目立ちません。肝臓は中心静脈周囲優位に肝細胞索のやせを認め、類洞内に好中球が目立ちます。しかし門脈域の好中球は目立ちません。心臓の心筋間の毛細血管腔にも好中球が散見されます。脾臓は脾粥量多いが、好中球が目立つというほどでもなく、感染脾は否定的です。骨髄は年齢の割にhypercellularityですが、cellularityのわりには成熟した好中球が少なく、前段階の顆粒球系（後骨髄球あたり）が目立ちます。3系統とも分化は保たれており、正常の造血パターンです。巨核球、赤芽球は異型性は目立ちません。白血球やMDSは否定的です。

大腸は1箇所crypt abscessを認めますが、病的意義ははっきりしません。念のためCMV染色を行いました。明らかな陽性細胞は認めません。甲状腺は全体に萎縮しているように見えます。結節は大きな濾胞が集簇している部分と小濾胞の集簇する部分を認め、被膜形成ははっきりしません。腺腫様甲状腺腫と考えます。

2) 担当病理医：松岡 亮介

3) 病理医からのコメント

死因は、肺右葉の主幹動脈に大きな血栓閉塞があり、さらに両側とも末梢枝に散在性に中小動脈血栓を認めることから、臨床的な経過も合わせて、肺動脈血栓塞栓症による呼吸不全と考えます。また、視神経脊髄炎に関しては、脊髄の3椎体分以上続く脱髄と視神経の脱髄を伴い、大脳などに病変を認めないこと、臨床的に抗アクアポリン4抗体が陽性であることは教科書的な視神経脊髄炎の所見として矛盾しません。

諸臓器の毛細血管に好中球が目立ち、骨髄には成熟前段階の顆粒球が増加しており、臨床的な白

血球増加を反映しているものと考えますが、病的意義は不明です。骨髄に成熟好中球が少ないこと、感染脾の所見がないこと、腎の糸球体サイズの増大や肝の門脈域の好中球浸潤が乏しいことなどから、感染・敗血症は否定的です。ステロイド投与による白血球増多を反映しているのかもしれませんが。

10. 考 察：

今回の死因については病理解剖の結果、肺動脈血栓塞栓症であり、また臨床経過もそれを示唆するものであった。

視神経脊髄炎の剖検例は極めて稀であり、本症例においては脊髄の3椎体分以上続く脱髄と視神経の脱髄を認めた。さらに大脳灰白質には病変を認めず、臨床的に抗アクアポリン4抗体が陽性であることは教科書的な視神経脊髄炎の所見として矛盾しない。

## 【症例2】

1. 症 例 テ ー マ：関節リウマチ・原発性マクログロブリン血症に合併した劇症肝炎
2. 診療科、主治医・受持医：消化器内科 南出 竜典  
杉之下 与志樹
3. CPC 開催日：平成25年8月21日
4. 発 表 者：臨床側（南出 竜典）  
病理側（杉村 朋子）
5. 患 者：65歳、男性
6. 臨 床 診 断：de novo B型肝炎
7. 剖 検 診 断：急性肝炎（劇症肝炎）、真菌血症
8. 臨 床 情 報：

1) 現病歴

2012年5～9月、原発性マクログロブリン血症に対してCD-R療法を施行（2012/05/19～Rituximab 375mg/m<sup>2</sup> day1 + Dexa 20mg day1 + CPA 200mg 2xday1-5をtriweeklyに6コース施行）。2012年5月14日初診時の採血では、HBs-Ag(-), HBs-Ab(-), HBc-Ab(+), HBV-DNA<2.1log/mLであった。その後の経過観察で原発性マクログロブリン血症はPRと考えられていた。

2013年3月中頃から嘔気・全身倦怠感を自覚。採血でAST 116IU/L, ALT 167IU/Lと肝酵素上昇を認め、4月15日当科紹介受診。T-Bil 1.6mg/dL, AST 325IU/L, ALT 487IU/L, HBs-Ag 14166 IU/mL, HBs-Ab(-), HBe-Ag(+), HBe-Ab(-), HBV-DNA 8.7log/mLという結果からB型肝炎再活性化を疑わ

れ、加療目的に4月15日～5月2日まで当科入院。採血でHBV-DNA, HBs-Ag, HBe-Agの低下を確認できていた。しかし、2013年5月7日の外来での採血で、T-Bil 6.4mg/dL, AST 1015IU/L, ALT 954IU/Lと肝機能の著明な増悪を認め、全身倦怠感も強く、同日緊急入院となった。

## 2) 既往歴・家族歴など

高血圧症、関節リウマチ、原発性マクログロブリン血症；家族歴はなし

## 3) 診療所見

血圧 140/82mmHg, 脈拍数 61/min, 体温 36.4℃, SpO2 99%, 意識E4V5M6

眼瞼結膜は黄染、腹部は特記所見なし、はばたき振戦はなし

## 4) 主な検査データ

WBC 3200/ $\mu$ L, RBC  $475 \times 10^4$ / $\mu$ L, Hb 14.3g/dl, Ht 40.6%, PLT  $14.2 \times 10^4$ / $\mu$ L, PT-% 39.6%, ALB 3.5g/dl, T-BIL 6.4mg/dL, D-BIL 5.1mg/dL, AST 1015IU/L, ALT 954IU/L, LD 443IU/L, ALP 572IU/L,  $\gamma$ -GT 323IU/L, アミラーゼ 66IU/L, 尿素窒素 12.4mg/dl, クレアチニン 0.81

mg/dl, Na 136mEq/L, K 4.1mEq/L, Ca 8.0mg/dL, GLU 133mg/dL, CRP 0.05mg/dL

## 5) 画像診断所見

腹部超音波・CTでは特記すべき異常所見を認めず。

## 6) 経過・治療

2012年の化学療法を契機にB型肝炎が再活性化した、いわゆるde novo肝炎を発症したものと考えられた。エンテカビル, IFN- $\beta$ , ステロイドパルス, アデホビル, さらには連日の血漿交換療法を施行した。血液検査ではHBs抗原減少・HBe抗体陽性化、わずかずつだがHBV-DNA量の漸減を認めていた。しかし、PT値低下は著明となり、5月24日頃からは肝性脳症Ⅱ度以上の意識障害が出現し始めた。遅発性肝不全(LOHF)に至ったものと考え、連日血漿交換を施行せざるを得ない状況となった。6月5日早朝より呼吸状態・意識レベルが急激に悪化した。胸部レントゲンにて右中肺野に浸潤影の出現を認め、肺炎と診断して抗生剤MEPM+VCMの投与を開始した。御家族に説明の上で気管挿管。その後、同日には血圧低下を認め、カテコラミンの投与を開始。6月6日にはさらに血圧低下・徐脈を認め、20時56分死亡確認。

## 7) 手術所見

手術は施行せず

## 8) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

- ①肝臓の状態
- ②原発性マクログロブリン血症の病勢
- ③直接的な死因は肺炎か

## 9. 剖検情報:

### 1) 剖検診断と病理所見

#### 【主病変】

急性肝炎(劇症肝炎), 真菌血症(諸臓器Candidaコロニー)

#### 【副病変】

原発性マクログロブリン血症治療後, 肺水腫・軽度肺硝子膜形成, 腎髄質うっ血, 死戦期巣状肺炎, 副腎サイトメガロウイルス感染, 結節性甲状腺腫, 前立腺肥大, 腔水症(右胸水200ml, 左胸水300ml, 腹水3600ml, 陰嚢水腫), 動脈硬化症(軽度)

### 2) 担当病理医: 杉村 朋子

### 3) 病理医からのコメント

死因は、劇症肝炎(HBV)に合併した真菌血症と考える。肺、腸間膜、胃、小腸、脾臓など多臓器に渡り真菌と炎症細胞浸潤を認め、真菌血症と考える。ただし、髄膜炎は認めない。従って、呼吸不全の原因は、真菌性肺炎と考える。背景に化学療法で疲弊していた骨髓が、真菌敗血症に対する動員について行けなかった状態が示唆される。肝臓は、HBs陽性細胞は多く、残存肝細胞はあるが広範な肝細胞壊死と細胆管増生が著明であり、急性肝炎の所見と考える。原発性マクログロブリン血症は、骨髓・リンパ節の病理組織で分かる範囲の重度の腫瘍細胞残存は確認できなかった。副腎にサイトメガロウイルスを認めるが、他臓器には認めず、潜伏していた細胞が免疫抑制治療により顕在化したものと考えられる。

## 10. 考察:

関節リウマチ・原発性マクログロブリン血症に対する化学療法・免疫抑制療法後のde novo B型肝炎の一例について、院内CPCにて症例提示を行った。劇症肝炎に対する血漿交換療法中、急激な呼吸不全で死亡した。剖検により最終的には真菌敗血症が直接的な死因であることが判明したが、臨床的にはde novo B型肝炎が間接的に病状を悪化させた原因であったと考えられた。

多様な化学療法・免疫抑制薬が使用されているが、HBV感染の再活性化を誘発し、本例のような劇症化例も多く報告されるようになっている。今後も病

院を挙げてのHBV感染状態のチェックシステムを確立する必要がある。

#### 第4回中央市民病院CPC報告

##### 【症例1】

1. 症例テーマ：発熱、対麻痺で救急搬送された劇症型溶血性レンサ球菌感染症
2. 診療科、主治医・受持医：総合診療科 官澤 洋平  
山本 亮介  
水野 泰志
3. CPC開催日：平成25年10月26日
4. 発表者：臨床側（官澤 洋平、山本 亮介）  
病理側（松岡 亮介）
5. 患者：44歳、男性
6. 臨床診断：脊髄感染に続発した敗血症性ショック
7. 剖検診断：くも膜下出血を伴った敗血症性ショック  
（劇症型溶血性連鎖球菌感染症）

##### 8. 臨床情報：

###### 1) 現病歴

ADL fullの男性。入院1ヶ月ほど前より左下肢に原因不明の表皮剥離・化膿があったが医療機関を受診しなかった。入院前日に工作中突然の腰痛を自覚し、近医整形外科を受診し、椎間板ヘルニアを疑われて、仙椎硬膜外ブロックを施行し帰宅した。その晩に右下肢の脱力感が出現した。入浴時排尿あったが以降無尿となった。寝床まで自力歩行できたが、右下肢のしびれを自覚した。その後左下肢にもしびれを自覚した。22時頃39℃台の発熱と悪寒戦慄があった。入院当日の朝に下肢が全く動かないことに気づき、救急搬送要請し近医に搬送された。両下肢感覚低下、対麻痺、膀胱直腸障害、血尿を認め、採血にて横紋筋融解、黄疸、腎機能障害を認めたため当院救急外来に搬送された。救急外来にて頰脈、頰呼吸、酸素化低下を認めた。造影CTで右腸腰筋周囲、両側腎周囲に脂肪濃度の上昇を認めたため複雑性尿路感染が疑われ抗菌薬(MEPM+VCM)治療を開始した。酸素化が増悪したため救急外来にて挿管・人工呼吸管理となりE-ICU入室、総合診療科入院となった。

###### 2) 既往歴

高血圧、脂質異常症、閉塞性睡眠時無呼吸症候群

###### 3) 入院時現症

BT 35.6℃、HR 110/min、BP 150/70mmHg、

RR 46/min、SpO2 94%（酸素6L/min）、GCS：E4V5M6、眼球結膜：点状出血・黄染なし、心音・呼吸音異常なし、腹部：平坦、軟、圧痛なし、四肢：左下肢痲皮多数、左下肢優位に筋肉が発達している、肛門括約筋：tonus消失、両下肢L2領域以下温痛覚消失。MMT：上肢・体幹は正常、下肢腸腰筋以下MMT0/0。

###### 4) 主な検査データ

（血液）血算：WBC 2.600/ $\mu$ L、Hb 15.5g/dL、PLT 7.6万/ $\mu$ L、破碎赤血球なし、生化学：ALB 4.2g/dL、T-BIL 5.6mg/dL、D-BIL 2.2mg/dL、AST 179IU/L、ALT 70IU/L、LD 1408IU/L、CK 6409IU/L、BUN 35.9mg/dL、Cre 2.03mg/dL、Na 133mEq/L、K 3.2mEq/L、Ca 8.9mg/dL、GLU 107mg/dL、CRP 26.23mg/dL、その他：PT-INR 1.54、APTT 52.5秒、Fib 267mg/dL、D-dimer 315.4  $\mu$ g/ml、（尿）亜硝酸(-)、赤血球 20-29/HPF、赤血球形態 isomorphic、白血球 1~4/HPF、硝子円柱(1+)、顆粒円柱(1+)

###### 5) 画像所見CT

両側腎臓周囲炎症像、右腸腰筋周囲にlow density area。MRI：L2~L5に脊柱管狭窄所見あり、脊髄圧迫病変は認めない。

###### 6) 経過・治療

###### # septic shock

尿路もしくは左下肢痲皮部からの細菌の侵入を考慮して、起炎菌不明の重症敗血症として、MEPM + VCMで抗菌薬治療継続した。ICU入室後急激に血圧が低下し、循環維持にカテコラミンを開始した。呼吸状態も徐々に悪化し、採血上はDICを疑う検査結果であった。同日夜にacidemia、hyperkalemiaによると思われるCPAがあり、除細動により一度蘇生した。しかしその後再びCPAとなり入院翌日午前3時3分に逝去された。その後血液培養3セットからA群溶連菌が同定。尿培養からは細菌が同定されなかった。対麻痺・膀胱直腸障害は脊髄病変によるものと考えた。突然発症であり、感染、圧迫・虚血性病変、横断性脊髄炎を考えた。MRIでは上記を示唆する所見を認めなかった。脊柱管狭窄はあるものの完全な脊髄損傷を起こす程の狭窄ではなかった。髄液検査では細胞数の増加、糖の低下を認めたが細菌は検出されなかった。

###### 7) 症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）

①Sepsisと脊髄病変を同時に説明できる病態とし

て脊髄周囲の感染を契機とする脊髄病変の進行が考えられる。脊髄に画像で同定できない病変を認めるか？

- ②A群溶連菌の進入門戸として左下肢の痂皮部が考えられる。身体所見上壊死性筋膜炎の所見はなかったが、病理所見上も壊死性筋膜炎の所見はなかったか？

## 9. 剖 検 情 報：

### 1) 剖検診断と病理所見

#### 【主病変】

敗血症（Streptococcus pyogenes感染）

1. 左下腿感染、痂皮形成
2. 両側腸腰筋感染、出血壊死
3. 腰髄および大腿神経のくも膜下、神経束出血対麻痺、膀胱直腸傷害（臨床的）
4. 結腸粘膜内出血
5. 副腎出血
6. 感染性脾炎
7. 好中球浸潤（肺、肝臓）
8. 諸臓器うっ血（両肺、両腎髄質、肝臓、膀胱粘膜）
9. 右室拡張、左室軽度隔壁肥大
10. 骨髄顆粒球系細胞増多、左方移動（分葉球減少）

播種性血管内凝固症候群（DIC）

1. 腎糸球体および傍糸球体毛細血管の微小血栓（両側）
2. 肺微小血栓塞栓（両側）
3. 結腸微小血栓
4. 全身性紫斑

#### 【その他の病変】

1. 上行結腸多発憩室
2. 大動脈粥状動脈硬化

### 2) 担当病理医：松岡 亮介

### 3) 病理医からのコメント

血液培養や下肢痂皮からの組織培養から *S. pyogenes* が検出されており、組織学的には神経周囲や結腸粘膜などで球菌の菌体を確認できる。臨床経過も合わせて死因は下腿皮膚をfocusとした *S. pyogenes* 感染による敗血症性ショックと考える。また、腎糸球体や肺、結腸において微小血栓形成を認め、臨床所見も合わせてDICであると考えられる。神経束やくも膜下の出血、腸腰筋出血、副腎出血、結腸粘膜出血と出血傾向が見られる。脊髄標本において著明な球菌集簇を認めること、好

中球がある部分で血管内皮傷害を来すことから、出血は感染細菌の産生する毒素による血管内皮傷害が原因と考える。結腸の出血部や腸腰筋にも局所的ながら球菌が確認できることから、他の部分の出血も感染によるもので一元的に説明できると考える。腸腰筋壊死に関しては感染に伴う炎症性のものなのか、出血による圧迫が原因なのかははっきりしない。

脊髄に細菌感染およびくも膜下出血の所見を認め、対麻痺、膀胱直腸傷害の原因として矛盾しないと考える。また、乏尿も進行していたとのことだが、両側腎糸球体にDICによる高度の微小血栓形成を認め、これが原因であると考えられる。呼吸状態悪化についても両肺の小血管に血栓形成が多数みられることから敗血症およびDICによるものと一元的に考えられる。

神経では菌体の著明な集簇が見られる割には好中球浸潤が比較的少ない印象だった。*S. pyogenes* に対する自然免疫段階での無反応があった可能性を考えるが、文献的に類似の報告例を見いだせなかった。

## 10. 考 察：

対麻痺を主訴に受診した劇症型溶血性レンサ球菌感染症の症例報告は認めるが敗血症に伴う低血糖（*Am J Emerg Med* 11:239-242,1993）、溶連菌感染が先行した急性散在性脳脊髄炎（*神経内科* 35:411-415,1991）の2例であった。本症例は脊髄へ直接の劇症型感染が原因であった極めて稀なプレゼンテーションで発症した劇症型溶血性レンサ球菌感染症の症例であった。

#### 【症例2】

1. 症 例 テ ー マ：急速に進行した肝悪性腫瘍の1例
2. 診 療 科、主 治 医・受 持 医：消化器内科 高島 健司
3. C P C 開 催 日：平成25年10月16日
4. 発 表 者：臨床側（高島 健司）  
病理側（市川 千宙）
5. 患 者：63歳、女性
6. 臨 床 診 断：肝癌、肝不全
7. 剖 検 診 断：肝未分化癌、DIC
8. 臨 床 情 報：

#### 1) 現病歴

2012年12月頃から全身倦怠感を認めていた。

2013年1月中旬に全身倦怠感に加えて右季肋部痛が出現し近医受診。画像検査で肝に腫瘍性病変



を認めたため2月5日に当科紹介となった。採血で肝胆道系酵素異常、低Alb血症、凝固系異常、炎症反応高値が見られ、造影CT検査で肝内に多発する肝腫瘍、傍大動脈リンパ節の腫大を認めたため、原発性肝癌・転移性肝腫瘍を疑いさらに外来で精査予定であった。2月12日に大腸内視鏡検査のため当院に向かう途中、全身倦怠感・右季肋部痛が増悪し歩行困難となったため当院に緊急搬送された。

## 2) 既往歴・家族歴など

右乳がん術後6年、高血圧症

## 3) 入院時身体所見

Performance Status 3GCS) E4V5M6

Vital) BP 70/44 HR104/分 RR 20/分 SpO2 99%

(RA) BT 36.5℃

頭頸部) 眼球結膜に黄染なし、眼瞼結膜に貧血なし

腹部) 膨満著明、軟、右季肋部に圧痛あり

## 4) 主な検査データ

Hematology : WBC 16100/ $\mu$  L, Hb 11.4g/dl, Ht 33.4%, PLT  $13.9 \times 10^4$ /mm<sup>3</sup>

Biochemistry : TP 5.6g/dl, Alb 1.5g/dl, T-bil 1.2mg/dl, AST 272IU/l, ALT 72IU/l, LDH 1132IU/l, ALP 720IU/l,  $\gamma$ -GTP 442IU/L, CHE91IU/L, CK 17IU/l, アミラーゼ 15IU/l, リパーゼ 14IU/l, BUN 26.8mg/dl, Cr 1.27mg/dl, Na 126mEq/l, K 3.7mEq/l, Ca 7.2mg/dl, Glu 101mg/dl, CRP 19.63mg/dl

Coagulation : PT 31.6%, APTT 47sec, Fib 487mg/dl, D-ダイマー 16.21  $\mu$ g/mL

Hepatitis virus markers : HBs Ag(-), HBc Ab(+), HCV Ab(-)

Tumor markers : CEA 2.3ng/ml, CA19-9 151U/ml, AFP 7.7ng/ml, PIVKA II 94mAU/ml, CA125 376U/ml, CA15-3 179U/ml, HER2(+), NCCST 439 12.3U/ml, BCA 225U/ml

## 5) 経過・治療

第1病日：来院時血圧低下を認めたが、外液輸液でバイタルは改善し大腸内視鏡の前処置による脱水の影響と考えられた。低Alb血症、肝胆道系酵素異常の増悪、胸腹部造影CTで2月6日のCTと比較し肝内の多発腫瘍は増大しS7,8領域への進展があり、腹水の増悪を認めた。

第2病日：乳癌術後であり、乳癌由来の腫瘍マーカーの上昇があり、乳癌からの転移も

しくは消化管からの転移を疑い精査となった。上部消化管内視鏡検査を施行するも明らかな腫瘍性病変を認めず。また腹水細胞診も陰性であった。

第3病日：低Alb血症に対して、利尿剤併用で、Alb25g/日の投与を開始(計3日間)。

第4病日：腹水細胞診が陰性であったため、肝腫瘍生検を施行。PT26%であり、腹水貯留を認めたためFFP6U投与し生検施行。

第5病日：疼痛コントロール目的にNSAIDsに加えて、オキシコドン10mg/日を開始。

第7病日：肝腫瘍生検の結果は、上皮性の腺癌が疑われ、乳癌からの転移は否定的で、消化管からの転移か肝内胆管癌が疑われた。治療に関しては、PS4であり、肝不全の進行もあり全身化学療法は困難なためBSCとなった。また同日の採血で、厚生労働省DIC診断基準で6点となり悪性腫瘍に伴うDICが疑われた。また疼痛コントロールは内服困難なためデュロテップMTパッチ2.1mg/3日に変更。

第9病日：尿量が減少し軽度の呼吸困難が出現。

第11病日：血圧低下、徐脈を認め死亡を確認した。

## 6) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

① 肝腫瘍生検の結果がadenocarcinoma s/oであったが、原発性肝癌であるのか転移性肝腫瘍であるのか。

② 初診時CTから1週間後のCT画像で肝腫瘍は急速に増大しているが、病理所見で肉腫瘍等の急速に進行するような特殊な組織型を示唆する所見はあるか。

## 9. 剖検情報：

### 1) 剖検診断と病理所見

#### 1. 原発性肝癌(未分化型)

－門脈腫瘍栓(末梢門脈域)

－傍大動脈リンパ節・肺門・縦隔リンパ節の転移

－右副腎転移

－癌性脈管症(肺)

#### 2. 播種性血管内凝固

### 【関連する病変】

1. 腔水症(腹水1700ml)

2. 全身黄疸

3. 脾腫腔水症(腹水1700ml)

4. 諸臓器の鬱血（両側の肺と腎臓）

5. 右室拡張

【その他の病変】

1. 軽度粥状硬化症（大動脈・左右冠動脈）

2. 右乳癌（術後6年）

2) 担当病理医：市川 千宙

#### 10. 考 察：

糖尿病・高血圧の既往歴のある症例で、発熱・倦怠感・体重減少があり、画像検査で肝内に多数の腫瘍性病変を指摘された。外来通院途中にショックバイタルとなり救急搬送された。腹水細胞診・肝腫瘍生検でadenocarcinomaと診断された。集学的治療するも肝・腎不全が進行・腹水が著明となり呼吸状態が悪化し永眠された。

病変は肝全体を置換するように拡がり、緑色調の変化が散見される。主にS5-6の病変は周囲との境界は不明瞭だが、やや透明感のある白色充実病変である。門脈本幹に明らかな腫瘍塞栓は認めないものの、末梢門脈域には腫瘍栓が散見される。肺門部・縦隔・傍大動脈周囲リンパ節に腫大を認めた。

組織学的には、肝臓の病変は凝固壊死が強く、残存する病変では多形性を認める紡錘型細胞、索状病変、一部不明瞭な管腔構造が正常肝の類洞内を這うように拡がっていた。また明らかな高分化な部分は認めなかった。それらの病変に、消化器癌に比較的特異度が高いCDX2は陰性、CA19-9は大部分が陰性、極一部に陽性となり、ER, PgR, HER2, 乳管上皮への分化を示すGCDFP-15は陰性、また肝細胞への分化を示すHep Par-1が陰性であった。また血管系への分化を示すCD34, CD31共に陰性で、免疫染色では原発に関して断定できる根拠が得られなかった。しかし肝臓全体に腫瘍が拡がる点から肝臓原発の癌と考え、HE組織像と併せて未分化癌と考える。

また病変の拡がりとして傍大動脈リンパ節・肺門・縦隔リンパ節の転移、右副腎髓質に同様の病変を認めた。肺の脈管内にも腫瘍塞栓を認めた。

肝臓全体を腫瘍が置換し、残存する正常肝組織の領域は少なく肝不全の原因と考える。また肺の脈管内に少数ですが腫瘍栓と血栓形成を認め、腎臓糸球体に血栓で充満している所見がまばらに認められた。DICが腎不全進行などに関与している可能性が考えられた。

## 第5回中央市民病院CPC報告

### 【症例1】

1. 症例テーマ：ANCA関連血管炎、間質性肺炎、NOMIの疑いの一例

2. 診療科、主治医・受持医：呼吸器内科 永田 一真  
向井 昌功

3. CPC開催日：平成25年12月18日

4. 発表者：臨床側（向井 昌功）  
病理側（山本 亮介）

5. 患者：78歳、男性

6. 臨床診断：NOMI

7. 剖検診断：腸管虚血、誤嚥性肺炎

8. 臨床情報：

#### 1) 現病歴

2011年4月からANCA関連血管炎（顕微鏡的多発血管炎）と間質性肺炎にて当院呼吸器内科、血液内科でフォロー中。2013年4月21日、朝より腹部膨満感あり、8時に排便後は排ガスがなかった。深夜12時に餅を食べた時より呼吸困難が出現した。4月22日朝まで10回以上嘔吐し、呼吸困難も出現した。改善しないため当院へ救急搬送された。

#### 2) 既往歴・家族歴

前立腺癌術後、ANCA関連血管炎、糖尿病

#### 3) 診療所見

BT 36.4℃、BP 120/mmHg、HR 100/min (regular)、RR 26回/min、SpO2 97% (4L)

general :努力呼吸認める

意識清明、頸静脈怒張なし、心雑音聴取せず

両肺野でcracklesを聴取する

腹部膨満、軟、圧痛なし、下肢に浮腫なし

#### 4) 主な検査データ

WBC  $8.0 \times 10^3/\mu\text{L}$ , RBC  $408 \times 10^4/\mu\text{L}$ , Hb 13.3g/dL, PLT  $18.3 \times 10^4/\mu\text{L}$ , PT-INR 1.24

Dダイマー 9.25 $\mu\text{g/mL}$ , ALB 3.2g/dL, T-BIL 0.7mg/dL, AST 171IU/L, ALT 107IU/L, LDH 496IU/L, ALP 157IU/L,  $\gamma$ -GT 18IU/L, CK 2250IU/L, CK-MB 49.7IU/L, アミラーゼ 175IU/L, BUN 98.3mg/dL, クレアチニン 3.97mg/dL, Na 137mEq/L, K 5.7mEq/L, Ca 9.4mg/dL, 血清GLU 82mg/dL, CRP 35.99mg/dL, BNP 251.0pg/mL, トロポニンI 0.164ng/mL, KL-6 1301U/mL, SP-D 182.0ng/mL, プロカルシトニン 264.02ng/mL, P-ANCA <1.0U/mL, C-ANCA <1.0U/mL, 抗GBM抗体 <2.0U/mL

## 5) 画像診断所見

・エコー：心臓の壁運動異常なし、右室の拡張なし、下大静脈1.2cm、呼吸性変動あり、腹部エコーはガスが多く詳細評価はできず、腹水貯留はなし

・下肢静脈エコー：両側大腿、膝窩には明らかな血栓なく、flowは良好

・胸腹部CT：baseにIPと肺気腫、右肺に浸潤影が多数。

IPの増悪よりは感染による肺炎を疑う。

腸管はやや拡張が目立つが、閉塞機転はなくイレウスではない。

胸腹水なし。

・下肢エコー：鼠径・膝窩静脈で明らかな拡張や血流のうっ滞なし

## 6) 経過・治療来院後

徐々に腹痛が増悪し筋性防御を認めるようになった。当初は手術適応ではないとの判断であったが、受診8時間後乳酸値の上昇および、代謝性アシドーシス、酸素化悪化があり、人工呼吸器管理の上試験開腹となった。

## 7) 手術所見

試験開腹では腹水は殆ど認めず。S状結腸の拡張は著明であり、色も悪く冷感を認めた。ICGでは腸管は殆ど造影されず、トライツ靱帯から30cm、小腸30cm、上行結腸、横行結腸のみ血流認めた。小腸の大量切除が必要であり、長期生存は望めないと判断し、閉創となった。来院より約15時間後、永眠。

## 8) 症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）

- ・今回の死因はNOMIでよいのか。
- ・NOMIにANCA関連血管炎は関与していたのか。
- ・病状は落ち着いていたが病理的にもANCA関連血管炎の病状は落ち着いていたのか。

## 9. 剖検情報：

### 1) 剖検診断と病理所見

腸管に関しては虚血性壊死の所見を認めた。虚血の原因に関しては明らかな活動性血管炎の所見は認めず、血行分布から静脈血栓症とNOMIとの鑑別は困難と考えるが組織所見と壊死範囲から静脈血栓症による虚血を考えた。ただし、明らかな静脈血栓は認めず、静脈血栓症を証明することは出来なかった。肺に関しては、肺胞腔に多数の好中球やマクロファージと共にPAS染色陽性の異物を認め誤嚥性肺炎の所見と考えられた。右下葉に

小出血を認め、周囲肺胞壁に好中球浸潤認め、硝子膜形成がはっきりしないためANCA関連血管炎による変化と考える。また肺実質に小さな器質化領域が散見され血管炎の陳旧性変化と考える。ただし出血を認めたのは小範囲で全体として血管炎の活動性は低いと考える。全体の死因としては静脈血栓症による腸管壊死と、それに伴って嘔吐を繰り返したことによる誤嚥性肺炎を死因と考える。

2) 担当病理医：市川 千宙、山本 亮介

3) 病理医からのコメント

今回のケースは腸管壊死の原因が論点となった。病的には静脈血栓症でも説明はつけられるが、放射線診断的には矛盾する点も多い。NOMIを積極的に疑う所見も乏しく、特にリスクの高い患者ではないため積極的に疑わなかったが、NOMIの可能性もある。

## 10. 考察：

臨床所見や検査結果から死因はANCA関連血管炎が誘因となったNOMIによる急性の腸管虚血が死因と考えられたが、病理所見からは静脈血栓症による腸管虚血所見はあったものの急性期の虚血を疑うものではなく、誤嚥性肺炎による死因がもっとも考えられるとのことであった。双方の見解を合わせると、慢性的な不顕性腸管虚血がベースとしてあり、今回イレウス様症状が顕在化して嘔吐と誤嚥を繰り返した結果誤嚥性肺炎を発症し、死亡したと考えられる。慢性的な腸管虚血の原因に関してはANCA関連血管炎が関与している可能性は大いにあるが実際の所は不明である。

## 【症例2】

1. 症例テーマ：ステロイド内服中患者のニューモシスチス肺炎
2. 診療科、主治医・受持医：総合診療科 志水 隼人
3. CPC開催日：平成25年12月18日
4. 発表者：臨床側（石橋 健太）  
病理側（上村 恵理）
5. 患者：74歳、男性
6. 臨床診断：ニューモシスチス肺炎、CMV肺炎、緊張性気胸
7. 剖検診断：器質化肺炎、肺アスペルギローマ、CMV肺炎、筋炎
8. 臨床情報：
  - 1) 現病歴  
1997年に多発性筋炎と診断され近医で免疫抑制

薬にて治療されていた。

2013年4月頃より全身倦怠感、筋力低下を自覚。8月頃には自転車にも乗れなくなり、午前中は臥床して過ごすことが多くなった。9月に入り咳嗽が出現。呼吸困難を伴うほどではないが痰はずっと絡むようになった。10月からは階段昇降も困難となった。この間、近医で適宜免疫抑制剤の調整をされていたが筋力低下の改善はなかった。10月9日の近医受診の際の採血でCRP高値を認めため、当院受診を勧められ11日に当院ER受診。救急外来の精査にて胸部CTにて異常陰影を指摘され、炎症反応高値と肺野病変の精査・加療目的に入院となった。

## 2) 既往歴

腰部脊柱管狭窄症、結核性リンパ節炎、胃癌(ESD後)、多発性筋炎

## 3) 診療所見

BT 36.9℃, BP 94/60, PR 66/min, RR 20/min, SpO2 95% (room air)

E4V5M6

顔面：ヘリオトローブ疹なし、眼瞼結膜貧血なし、  
眼球結膜黄染なし

頸部：リンパ節腫大なし

胸部：両側下肺野背側にlate inspiratory crackle, 心音正常

四肢：両下腿にfast pitting edema, Gottron徴候なし、  
近位筋・遠位筋の萎縮あり

MMT：delt 4-/5, biceps 5/5, triceps 5/5, EDC 5/5,  
grip 5/5

iliopsoas 3-/2, hamstrings 5/4-, quadriceps  
4+/4+, TA 5/5

## 4) 主な検査データ

血液検査

血算：WBC 9,000/ $\mu$ L, Hb 12.1 g/dL, Ht 34.6%,  
MCV 87 fL, MCH 30.3 pg, Plt 23.2万/ $\mu$ L 生化学：  
TP 5.2 g/dL, Alb 2.1 g/dL, AST 40 IU/L, ALT 52 IU/L,  
LD 507 IU/L, ALP 351 IU/L,  $\gamma$ -GTP 105 IU/L,  
CK 89 IU/L, BUN 45.4 mg/dL, Cre 0.89 mg/dL, Na  
140 mEq/L, K 3.5 mEq/L, Cl 102 mEq/L, Ca 8.1 mg/  
dL, Fe 33  $\mu$ g/dL, UIBC 116  $\mu$ g/dL, ferritin 2012.0  
ng/mL, CRP 3.08 mg/dL, ESR 115 mm/hr, TSH 0.17  
 $\mu$ U/mL, FT4 1.03 ng/dL, アルドラーゼ 10.3 IU/L,  
HbA1c 7.7% その他： $\beta$ Dグルカン 39.4pg/mL

培養

血液培養 (10/11)：陰性

喀痰培養 (10/11)：[P1, Geckler 5] *Streptococcus pneumoniae* [PCG:S, ST:I]

BALF培養 (10/15)：*Streptococcus pneumoniae* [PCG:S, ST:I]

## 5) 画像診断所見

胸部X線写真：右下肺野スリガラス影・多発結節影、  
左下肺野透過性低下

胸部CT：胸膜直下がスぺアされる両側びまん性  
スリガラス影

## 6) 経過・治療

入院時点でニューモシチス肺炎(PCP)の可能性が高いと考え、第1病日よりST合剤12錠分3+PSL 80mg分2にて加療を開始した。第5病日にBALを施行し、BAL検体よりカリニ-DNAのPCR陽性との結果を得た。

第5～6病日にかけて呼吸状態が増悪したためNIVを装着し、第6病日G-HCU入室。同日よりPCPに対するST合剤を静注薬に変更し、PSL 40mgに減量。また市中肺炎に対してCTR X 2g q24hも開始とした。

G-HCU入室後一度は呼吸状態の改善を認めたが、第7病日に再度増悪。NIV管理下でも酸素化維持が難しくなり挿管管理としG-ICUに入室。また同日のCTにてPCP、ARDS及び誤嚥性肺炎を疑う像を認めた。同日より感染症はPCP、誤嚥性肺炎、異型肺炎(特にレジオネラ肺炎)をカバーする目的にST合剤、PIPC/TAZ 4.5g q6h, LVFX 750mg, PSL 40mgへと薬剤を変更した。第9病日には上部消化管出血を合併し、輸血及びIVRによる止血を施行。

以後、感染症加療及び全身管理を継続。抗菌薬については適宜調整を行い、ステロイドについても漸減していった。また第15病日にはCMV antigenemia陽性を踏まえ、CMV肺炎の合併も考えてGCV 5 mg/kgにて開始した。さらに同日皮下気腫が著明に認められ、CTにて評価行ったところ皮下気腫及び縦隔気腫の合併が確認された。皮下気腫及び縦隔気腫については積極的治療介入が出来ず、経過観察となった。

その後、誤嚥性肺炎に対する抗菌薬は第16病日で終了。PCPの加療は第21病日で終了したが、同日に血液培養2セット中1セット(嫌気性ボトルのみ)より*E. faecium*が確認され、同日よりVCMを開始。感染症についてはGCV 5 mg/kg q12h+VCM+PSL 40mgにて治療を行った。また意

識障害精査目的の脳波にててんかん性放電を認め、non-convulsive seizureとして加療を開始した。

その後状態は横ばいであったが、第28病日未明に突然の酸素化増悪を認め、その後血圧も低下した。カテコラミンや人工呼吸器の設定の調整、気管支鏡による排痰などを行うも反応せず、同日永眠。ご家族に説明及び同意を得て病理解剖となった。

#### 7) 手術所見

なし

#### 8) 症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）

- ・死因については緊張性気胸に伴う閉塞性ショックでよいか？
- ・感染症についてはPCPをprimaryの病態と考えて良いか？（市中肺炎、誤嚥性肺炎、VAP、CMV肺炎、*E.faecium* 菌血症の関与は？）
- ・もともと多発性筋炎としてフォローされ治療介入されていたが、その診断根拠は曖昧であった。原疾患は本当に多発性筋炎でよかったのか？ また、2013年8月以降の急激な筋力低下の原因としてsteroid myopathyなども考えていたが、病理所見上何か原因を示唆する所見は認めなかったか？

#### 9. 剖 検 情 報：

##### 1) 剖検診断と病理所見

###### 【主病変】

筋炎ステロイド、免疫抑制療法後

###### 【関連病変】

1. 器質化肺炎（ニューモシスチス肺炎）
  - a. 全身性間質気腫（皮下、縦隔、心嚢、精索）
  - b. 心右室拡張
2. 肺アスペルギローマ（右肺尖部、空洞形成）
  - a. 右側気胸（緊張性気胸）
3. CMV肺炎（軽度）
4. 副腎皮質萎縮
5. 骨格筋変性

###### 【その他の病変】

1. 諸臓器うっ血（肝、腎、肺）
2. 脾巣状壊死
3. 肝細胞小葉中心性やせ
4. 大動脈粥状硬化
5. 腎嚢胞（両側）
6. 前立腺肥大症

##### 2) 担当病理医：今井 幸弘、松岡 亮介、上村 恵理

##### 3) 病理医からのコメント

死因は右肺尖部のアスペルギローマの空洞からのリークによる緊張性気胸を考える。背景肺は間質性の線維化を主として、部分的に器質化肺炎を来している。全てニューモシスチス肺炎の像として矛盾しない。器質化肺炎、間質性線維化は両側広範囲におよび、酸素化の悪化の原因となったと考える。Grocott染色で菌体を検出できなかったが、これは治療により菌体が消失したためと考える。CMVに関しても治療されており、免疫染色でCMV陽性細胞が肺に少数散見されたが組織破壊はみられず。こうした重複感染は長期のステロイドや免疫抑制剤投与による易感染状態が原因と考える。

多発筋炎に関しては、様々な部位の筋で筋繊維の太さが不揃いで、ごく少数ながら炎症細胞浸潤を伴わない空胞変性や壊死、再生性変化を認める。以前に筋炎による筋破壊があったことが示唆される一方で、組織所見としては軽微ではあるが、ステロイドミオパチーの合併が示唆され、数ヶ月前からのADL低下との関連が疑われる。また、長期ステロイド投与の影響として副腎皮質の萎縮を来したものとする。

全身性の間質気腫に関しては人工呼吸器使用により、リンパ管などに空気が流入したと考えるが、明らかな流入経路は不明である。

#### 10. 考 察：

本症例は多発性筋炎疑いにてステロイドが開始され、免疫抑制下にてニューモシスチス肺炎（PCP）を発症した症例である。PCPについてはST合剤の予防内服が行われていなかったことにより発症したと考えられる。Non-HIV患者のPCPはHIVが基礎疾患にある患者のPCPとは異なる病態を示すと考えられており、その進行や予後も大きく異なる。HIV患者のPCPは比較的緩徐に進行し、その予後も良好で、死亡率は10～20%と報告されている。これにたいしてNon-HIV患者のPCPは急速に進行し、その予後も不良で死亡率は19～40%に及ぶ（N Eng J Med 350:2487-2498,2004）。また症状に伴う炎症反応もNon-HIVにて激しく、たとえ救命できたとしても肺病変の線維化が進行し、重篤な呼吸障害が残る例も多い。このことから本症例のようなステロイド内服下の患者ではPCP予防目的のST合剤の内服が重要であると考えられる。

## 第6回中央市民病院CPC報告

### 【症例1】

1. 症 例 テ ー マ：急速に進行し呼吸不全で死亡した  
若年肺癌の一例
2. 診療科、主治医・受持医：呼吸器内科 清水 亮子  
藤本 大智
3. CPC開催日：平成26年2月19日
4. 発 表 者：臨床側（加登本 伸、清水 亮子）  
病理側（松岡 亮介）
5. 患 者：40歳、男性
6. 臨 床 診 断：肺扁平上皮癌（cT4N2M1b, 脳、両  
側副腎、左恥骨・頸椎C2、肝、  
腎、小腸、全身リンパ節, stageIV,  
EGFR（-）, ALK（-）, RET（-）,  
ROS1（-））
7. 剖 検 診 断：肺癌: Pleomorphic carcinoma（左S6  
原発 5.0x4.5cm）

### 8. 臨床情報：

#### 1) 現病歴

2013年4月上旬から頭痛が出現し、嘔気・嘔吐を伴い近医を受診した。精査の結果、肺癌NSCLC（cT4N3M1b, 脳、副腎 stageIV, EGFR陰性, ALK陰性）と診断された。

5月9日 脳転移に対し、他院でγナイフを施行されたがその際に短期間の経過において脳転移の増大スピードが速いことを指摘されていた。

5月21日 治療目的で当院を紹介受診した。

5月27日 加療のため当院呼吸器内科入院となった。

#### 2) 既往歴・家族歴など

既往歴：特記すべきことなし

生活歴：current smoker 40本/day（2013年4月まで）、飲酒ビール500mL/day

職業歴：トラックの運転手

家族歴：父：喉頭癌のため45歳で死亡、祖父：肺癌のため60歳で死亡

#### 3) 診療所見

バイタルサイン：体温37.4℃, 血圧124/64mmHg,  
心拍数94/min, SpO2:98% room  
air, 意識清明

頭頸部：右半盲

胸部：胸部ラ音聴取せず

腹部：腹部は平坦軟で圧痛なし

四肢：四肢に浮腫なし, 右下腿の筋力低下 MMT4  
程度

背部：脊椎に叩打痛なし 腰椎より右側に圧痛を認める

#### 4) 主な検査データ

血液検査：Alb 2.6g/dL, T-Bil 0.4mg/dL, AST29IU/L, ALT40IU/L, LDH 1218IU/L, ALP297IU/L,  $\gamma$  GTP 69IU/L, BUN 19.6mg/dL, Cre 0.73mg/dL, Na 136mEq/L, K 3.9mEq/L, Ca 8.7mg/dL, CRP 11.36md/dL, WBC 19900/ $\mu$ L (Neut 83.5%, Lymph 5.0%, Mono 4.5%, Eos 0.5%), Hb 11.0g/dL, Plt  $9.0 \times 10^4/ $\mu$ L$ , PT-INR 0.97, APTT-sec 36.9, D-dimer 36.19  $\mu$ g/mL

腫瘍マーカー：CEA 17.9ng/mL, CA19-9 2.6U/mL, SCC 10.2ng/mL, CYFRA 21.0ng/mL, NSE 10.5ng/mL, ProGRP 33.6pg/mL, sIL-2R 1015

#### 5) 画像診断所見

- ・胸部レントゲン：左肺門部に腫瘤影を認める。
- ・胸腹部造影CT：左下葉に45mm大の腫瘤、左肺門から縦隔、両骨鎖骨上窩、腹部傍大動脈にリンパ節転移を多数認める。腎、副腎、肺、肝に転移巣を多数認める。小腸に造影効果の低い腫瘤を認め、この中枢側の腸間膜に転移を疑うリンパ節を認める。
- ・骨盤MR：左恥骨転移の疑い。
- ・PET-CT：左S6, 両側副腎、腹部大動脈周囲リンパ節、肺結節、左恥骨、C2左近傍、骨盤内に左側（おそらく小腸）に集積を認める。
- ・骨シンチ：頸椎転移を認める。
- ・頭部MR：左後頭葉に2cm大、左尾状核に1cm大のring enhancementを呈し、周囲に浮腫を伴う腫瘍性病変を認める。

#### 6) 経過・治療

組織型確定のため5月29日に当院で再度気管支鏡検査を行い、肺扁平上皮癌との診断を得、全身検索を行い肺扁平上皮癌（cT4N2M1b, 脳、両側副腎、左恥骨・頸椎C2、肝、腎、小腸、全身リンパ節, stageIV, EGFR（-）, ALK（-）, RET（-）, ROS1（-））の診断に至った。頭部MRで脳浮腫が著明であったため、前医から継続して5月28日から6月3日まで頭蓋内圧亢進に対しデカドロン（デキサメタゾン）とグリセオール<sup>®</sup>の投与を行った。また入院時より腰から頸部にかけての骨の痛みが強く、5月29日からオキシコドン（オキシコドン塩酸塩水和物）20mg/dayを導入した。当院初診時から1週間の経過で病状は急速に進行しており、血液検査ではLDHの上昇と2系統の血球

減少、D-dimer高値を認めた。DIC傾向であることも考えられたが診断基準は満たさなかった。特に既往がなく、このような急速進行の臨床経過をとっていることを考えると、癌の骨髄浸潤が疑われた。5月31日(day1)より全身化学療法(シスプラチン/ゲムシタピン)を開始したが、同日より酸素化の悪化(nasal 4L)を認めた。CTでは肺動脈に血栓を認めず、小葉間隔壁の肥厚や細かい結節が目立ち、急激な酸素濃度低下という病歴と併せて、腫瘍塞栓/PTTM、癌性リンパ管症が疑われた。癌性リンパ管症による呼吸不全に対し、同日からステロイドパルス(メチルプレドニゾン 250mg\*3days)を行い、その後80mg/dayで投与継続とした。呼吸困難感が強く6月3日(day4)からオキシコンチンを塩酸モルヒネの皮下注射に変更した。Day5, day7と血小板2万台まで低下し、それぞれ20単位を輸血した。化学療法の効果は乏しく、徐々に酸素化の悪化を認め、day11に永眠された。

#### 7) 手術所見

なし

#### 8) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

- ・呼吸不全の原因として、CT所見や病歴からは腫瘍塞栓/PTTM、癌性リンパ管症が考えられたが、病理組織でこれらを認めるか。
- ・LDHの上昇、2系統の血球減少が進行し、急速進行の臨床経過とあわせて癌の骨髄浸潤が考えられたが、実際に骨髄浸潤を認めたか。
- ・各種検査結果からは、脳、両側副腎、左恥骨・頸椎C2、肝、腎、小腸、全身リンパ節、肺内、骨髄への浸潤が考えられた。これらの部位に転移はあったのか、またその他の部位に転移はあったか。
- ・気管支鏡検査で肺扁平上皮癌との診断に至ったが、これで正しかったのか。急速進行の若年肺癌に特徴的な病理所見はあるか。

#### 9. 剖検情報:

##### 1) 剖検診断と病理所見

###### 【主病変】

1. 肺癌: Pleomorphic carcinoma (左S6原発 5.0x4.5cm)  
多臓器転移) 肝臓、腎臓(両側)、脾臓、  
膵臓、小腸、腸間膜、副腎(両側)、甲状腺、  
精巣、骨髄、大脳(臨床的)  
リンパ節転移) 頸部、気管周囲、肺門部、

傍大動脈、腓周囲

2. Pulmonary tumor thrombotic microangiopathy  
肺多発微小腫瘍塞栓、血栓
3. 肺癌性リンパ管症
4. びまん性肺胞障害、肺出血、肺うっ血

###### 【副病変】

1. 諸臓器鬱血(肺、肝、腎)
  2. 肝細胞小葉中心性やせ
  3. 肺気腫性変化(両側)
  4. 胃、十二指腸点状出血
  5. 大動脈粥状硬化症(軽度)
  6. S状結腸憩室
- 2) 担当病理医: 松岡 亮介
- 3) 病理医からのコメント

肉眼的に肺には左肺門部からS6にかけて5.0x4.5cm大の白色充実性病変を認め、内部は壊死を伴う。その他に両側の割面に3-4mm程度の白色結節が多数見られる(右>左)。両側とも背側下葉優位にうっ血が目立ち、一部ではARDS様に見える。右肺上葉に気腫性変化を認めた。

組織学的には、左S6の白色充実性病変は著明な核形不整、明瞭な核小体を呈する多形性腫瘍細胞が、周囲の著明な壊死や線維化を伴い増殖しています。腫瘍細胞の多くは結合性が乏しいものの、部分的に管腔構造を呈するものも見られます。低分化癌と考えます。腫瘍は著明な血管侵襲を認め、主幹部の血管にも浸潤し腫瘍栓を形成し、対側の血管にも同様の腫瘍栓を認めます。腫瘍栓の形成に伴い、著明な血栓形成も見られます。またリンパ管にも腫瘍栓が見られ、癌性リンパ管症と考えます。両肺に多数見られる小結節はいずれも癌の転移で、肺胞壁の毛細血管レベルにも腫瘍細胞の小集塊が広範に見られます。肝臓、両腎、小腸、副腎、脾臓、膵臓、骨髄、腸管膜、甲状腺、精巣に転移を認めました。

肺の肺胞構造が保たれている部分ではうっ血が見られ、一部では肺胞腔内に出血や組織球集簇、硝子膜形成も見られます。肝臓は小葉中心性の肝細胞のやせが見られます。腎には髓質うっ血を認めます。骨髄の造血細胞は年齢相応に保たれていました。

#### 10. 考察:

左S6原発の低分化型肺腺癌が主として血行性に多臓器転移を来しています。死因としては、両肺ともに毛細血管レベルに至る腫瘍塞栓を認め、

pulmonary tumor thrombotic microangiopathy (PTTM)の状態であったところに、癌性リンパ管症や、残存肺のびまん性肺胞障害、肺出血を合併したことにより、呼吸不全が進行したためと考えます。また、末期の血小板減少や貧血、肝酵素上昇も腫瘍の転移や高度腫瘍塞栓、それに伴う著明な血栓形成が影響しているものと考えられます。

なお、肺癌の組織型に関して追加で免疫染色を行いました。p63, TTF-1ともに明らかな陽性は見られませんでした。核の多形が目立ち、巨細胞も多数みられるため、pleomorphic carcinomaと判断します。一部角化様に見える部分や、腺管構造を形成するように見える部分があります。

## 【症例2】

1. 症例テーマ：4年前に大動脈弁置換術をなされ、原因不明のショックにて死亡した一例
2. 診療科、主治医・受持医：循環器内科 笠本 学  
江原 夏彦
3. CPC開催日：平成26年2月19日
4. 発表者：臨床側（笠本 学）  
病理側（畑森 裕之）
5. 患者：80歳、男性
6. 臨床診断：ショック（原因不明）
7. 剖検診断：左右シャント（大動脈弁直上から瘤を介しての右房への穿孔）
8. 臨床情報：
  - 1) 現病歴  
2009 10/27 MR, AR, TR, Afに対しMVP+AVR (Mosaic弁)+TAP施行。術後Aortic rootのNCC patch部より動脈性出血あり、再止血術を要した。以後、当院心臓外科で外来フォローされていた。  
2013/8/7 前立腺生検にて前立腺癌と診断され保存的治療の方針となった。転移巣の精査目的で8/19に撮像されたCTにてValsalva洞拡大を指摘されていた。  
11/1 東神戸病院でGIF施行、食道裂孔ヘルニア、萎縮性胃炎のみ  
11/18頃から感冒様症状（咽頭痛）および軽度悪寒あり。  
11/20 21:00頃、布団上で仰臥位の状態で10分以上の意識障害あり。開眼あるが呼びかけに反応しないため救急要請され当院受診した。徐々に改善

傾向あるが、来院後から胸部の圧迫感を訴えていた。経過観察中に突然徐脈となりII、III、aVFでST上昇、V2-6でST低下/陰性Tを認めた。アトロピンで徐脈は改善し、HR100台AFに戻り、ST-T変化も改善。エコーではanterior hypokinesisだが2011年の所見と同様であり、下壁領域のasynergyなく、TRPG=20と右室圧上昇認めず。軽度トロポニン値上昇も認め、VSA, SSSなどを疑われ11/21緊急入院となった。

## 2) 既往歴

高血圧、前立腺癌

## 3) 所見

来院時sBP 90程度（普段は120-140程度）

心音：収縮期雑音 2/6

ECG：Af rhythm, no remarkable change II, III, aVF  
V2-6 ST低下、右室肥大、右軸偏位

XP：cardiomegaly

採血結果：TP 7.1 ALB 3.5 T-BIL0.8 AST25  
ALT10 LD178 CK 49 BUN19.5 Cr1.86  
Na135 K4.2 GLU156 CRP3.33 トロポニンI 0.189 WBC 7.4 Hb 11.0 PLT 16.7 PT-INR 1.62 Dダイマー 5.98 pH7.397 PCO2 42.6 PO2 30.7 HCO3 25.6 BE 1.2 cLac1.6

入院後経過：11月21日血圧90程度、尿流出無いためDOA、hANPを開始するも血圧、尿量反応無く、外液負荷にも尿流出反応無し。11月22日、透析試みるも血圧低下あり継続できず。11月22日夜突然の徐脈および血圧低下あり。動脈ライン・CVライン確保しNAD開始するもラシックス投与に反応なし。11月23日肝酵素4桁まで上昇し、腎機能もCr4.1まで悪化。CT撮像にて胆嚢周囲に炎症あるも二次的な影響の可能性高いと思われた。乏尿続くため、CHDF開始。原因不明のまま、徐々に血圧低下みられ11月26日に永眠された。

## 9. 剖検情報：

### 1) 剖検診断と病理所見

#### 【主病名】

1. 左右シャント（大動脈弁上から瘤を介して右房への穿孔）  
- 大動脈弁弛置換術後、三尖弁・僧帽弁形成状態
2. 前立腺癌（Gleason4+4=8/10）



【関連する病変】

1. 諸臓器うっ血（肺・腎・肝臓）
2. 肝臓の低拍出性変化

【その他の病変】

1. 両側腎嚢胞
2. 大動脈粥状硬化症
3. 胃の点状出血/びらん
4. 過敏性肺炎疑い

2) 病理担当医：市川 千宙

10. 考 察：

弁膜症で手術歴のある（僧帽弁・三尖弁形成術、大動脈弁置換術）症例。死亡約1週間前に約10分程度の意識障害があり救急搬送された。平均血圧90mmHg程度の血圧低下とECGでは心拍100/分程度の心房細動を認めたとのこと。強心剤・水分管理などで治療するも乏尿が続いており、経過中数回徐脈となった。集学的治療をするも血圧維持できず永眠された。

右房に大動脈弁から続く約8cmの瘤が張り出し右房内腔を圧迫している。瘤の腹側に約1cmの亀裂を認めそこから穿孔したものと考え。また上行大動脈に5.5cm×2cmに渡る亀裂を認め、その右房側が上記の瘤であった。上行大動脈弁の亀裂の部分には白色人工物が全周性に縫い付けられ肉芽組織で覆われている状態であった。大動脈起始部と右房の間は通常心外の空間であるが、手術時の創閉鎖で固め閉じたとのこと。組織学的に、瘤壁は各々大動脈と右房壁と一部肉芽組織からなり、内腔には器質化血腫が認められた。大動脈の亀裂部には、人工心膜と肉芽組織を認め、調度断裂部ではリンパ球浸潤とわずかに好中球浸潤を認めたが、活動性の炎症は認めなかった。仮性瘤壁をグラム染色、ヒメネス染色、グロコット染色をしたが明らかな菌体は確認できなかった。しかし仮性瘤の壁に部分的に弾性繊維を認め、瘤を形成してからある程度時間がたった仮性瘤であることが示唆されるため、亀裂が生じた時点の原因として感染は否定できないと考える。肺重量は著変なく肺うっ血は極軽度であった。右肺上葉に一部硝子膜形成を認め、胃の点状出血、臍巣状壊死はショックに伴う変化と考える。肝臓には遠門脈性に肝細胞出血・壊死が目立ち低拍出性の変化と小葉中心性の変化と類洞の拡張を認める鬱血性変化を認めた。腎髄質うっ血が目立ち腎前性の要素と考える。右房が押されていたことや、穿孔に伴っ

て左右シャントであったことから、右房圧があがり静脈灌流量が減った分、大動脈へ流出する血液量が減り血圧低下を招いた病態を考える。

## IV. CPC報告

### IV. 2 CPC報告（2013年4月～2014年3月）（西市民病院）

#### 第1回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科 孫・森永
2. CPC開催日：平成25年4月30日
3. 発表者：臨床側（森永）、病理側（勝山）
4. 患者：60歳代、男性
5. 臨床診断：膀胱癌
6. 剖検診断：膀胱癌
7. 剖検情報：
  - 1) 剖検診断と病理所見
    - I. 膀胱癌（500g、高分化型腺癌）
      - A. 同転移
        1. 肝（1200g、右葉に直径3cmの転移巣）
        2. 癌性腹膜炎（腹膜面に直径0.5cm以下多数の転移巣）
        3. 後腹膜
          - a) 両水腎症（左：250、右：250g、カテーテル挿入術後状態）
        4. 肺
      - B. 同浸潤
        1. 胃
        2. 左副腎
    - II. 両肺うっ血水腫（左：450、右：750g）
    - III. 腔水症
      - A. 胸水（左：1500、右：600ml）
      - B. 腹水（300ml）
      - C. 心嚢水（10ml）
    - IV. 大動脈粥状硬化症（中等度）
    - V. 肝褐色変性

\*膀胱部の腫瘍が胃に直接浸潤し、また左副腎にも直接浸潤し一塊となります。\*左胸水が大量にみられ、そのために左肺無気肺となっていたものと考えられます。肺門部リンパ節転移はありませんでした。\*腹部大動脈周囲にはfibrosisがあり、硬化します。尿管周囲にも転移巣をみ、そのための水腎症と思われませんが、カテーテルによりもはや腎盂の拡張は認められませんでした。\*脊椎の一部に白色調となる部分があり、その部分の組織所見で、目立った線維化とともに腫瘍の浸潤をみます。

2) 担当病理医：勝山

#### 第2回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科 関谷・高田
2. CPC開催日：平成25年6月25日
3. 発表者：臨床側（高田）、病理側（勝山）
4. 患者：90歳代、男性
5. 臨床診断：悪性中皮腫疑い
6. 剖検診断：悪性中皮腫
7. 剖検情報：
  - 1) 剖検診断と病理所見

- I. 悪性中皮腫（右胸膜原発、肉腫型）
- II. 腔水症
  - A. 胸水（左：1000、右：700ml）
  - B. 心嚢水（5ml）
- III. 肝褐色変性

\*右胸膜は白色に肥厚し強度に癒着します。またわずかに隆起する小結節状病変が多発し、横隔膜の胸腔側にまで広がります。\*その組織所見では、厚い結合織形成を伴い紡錘形細胞のやや密な増生をみます。軽度ながら核腫大、クロマチン増量などの異型性をみます。特染にて、Calretinin（-）でしたが、肉眼所見およびHE所見から、肉腫型の悪性中皮腫の所見と考えます。\*左肺には著変はみられませんでした。\*腹腔概観は、腹水もなくきれいでした。

2) 担当病理医：勝山

#### 第3回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科 三上・北村  
外科 三上
2. CPC開催日：平成25年7月30日
3. 発表者：臨床側（北村）、病理側（勝山）
4. 患者：70歳代、男性
5. 臨床診断：肝癌
6. 剖検診断：肝癌
7. 剖検情報：
  - 1) 剖検診断と病理所見
    - I. 肝癌術後状態（肝細胞癌、Edmondson grade2、再発あり、2400g）
      - A. 同破裂（左葉後面）
        1. 腹腔内出血（5200ml）
      - B. 同転移
        1. 顕微鏡的肺腫瘍塞栓

### C. 肝硬変

1. 門脈圧亢進症
  - a) 脾腫 (200g)
  - b) 食道静脈瘤
2. 黄疸

II. 肺鬱血水腫 (左: 400、右: 500g)

III. 胸膜プラーク

IV. 右腎嚢胞 (左: 150、右: 150g)

\*肝には多数の肝細胞癌がみられ、その内左葉後面の腫脹が肝皮膜に達し、その周囲に凝血塊をみ、その部分からの出血と考えます。\*肺血管内に顕微鏡的な腫瘍塞栓を多数みます。\*食道静脈瘤が目立ちましたが、消化管内容は黄色軟便であり、血性ではありませんでした。\*両肺はうっ血が目立ちましたが、臓側胸膜には著変はありません。背部の壁側胸膜にプラークと考えられる所見をみます。\*出血傾向は目立ちませんでした。\*冠動脈および大動脈の硬化性変化は軽度でした。

2) 担当病理医: 勝山

### 第4回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医: 内科 池田・横田
2. CPC開催日: 平成25年8月27日
3. 発表者: 臨床側(横田)、病理側(勝山)
4. 患者: 70歳代、男性
5. 臨床診断: 総胆管結石、胆管癌の疑い
6. 剖検診断: 総胆管結石
7. 剖検情報:

#### 1) 剖検診断と病理所見

- I. 総胆管結石症 (肝: 1200g)
  - A. 総胆管ドレナージ挿入術後状態
  - B. 肝多発性微小膿瘍
  - C. 門脈血栓症
- II. 後腹膜血腫
  - A. 腹腔内出血 (500ml)
- III. 肺うっ血水腫 (左: 350、右: 350g)
- IV. 大動脈粥状硬化症 (中等度)
  - A. 右腎萎縮 (左: 110、右: 50g)

\*総胆管内には胆泥から小さな胆石状の内容物が充満し、総胆管から肝内胆管が拡張します。腫瘍は認められません。\*胃小弯、大弯側の漿膜下、大網内、臍周囲にかけて血腫形成をみ、腹水も純血性です。しかしその他には出血傾向は認められません。\*消化管内容も血性ではありません。\*腎は右側において、表面粗大陥凹があり、小さくなります。腎動脈の狭窄に

よる変化と考えます。\*大動脈には中等度の硬化性変化をみます。冠動脈の硬化性変化は軽度です。\*骨髄の組織所見では、細胞密度は50%程度であり、造血能は保持されています。

2) 担当病理医: 勝山

### 第5回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医: 内科 大谷・大西
2. CPC開催日: 平成25年9月24日
3. 発表者: 臨床側(大西)、病理側(勝山)
4. 患者: 70歳代、男性
5. 臨床診断: 抗GBM抗体型血管炎、急性腎不全
6. 剖検診断: 半月体形成性糸球体腎炎
7. 剖検情報:

#### 1) 剖検診断と病理所見

- I. 急性心外膜炎および心タンポナーゼ (血性心嚢水400ml)
- II. 半月体形成性糸球体腎炎 (左: 150、右: 125g)
- III. 器質化肺炎 (左: 400、右: 450g)
- IV. 腔水症
  - A. 胸水 (左: 1350、右: 1600ml、淡血性)
  - B. 腹水 (550ml、黄色透明)
- V. 求心性心肥大 (350g)
- VI. 肝褐色変性 (1150g)
- VII. 両陳旧性胸膜炎 (肺尖部に軽度の癒着)

\*腎は肉眼的には皮質の菲薄化が見られ萎縮があります。組織では、ほとんどの糸球体がヒアリン化しますが、わずかに正常に近い糸球体がみられ、その一部で半月体形成をみます。尿細管の萎縮はなく、糸球体の変化は生じて間もないものと考えます。\*肺の肉眼所見は著変はありません。組織では、気腔内肉芽形成が目立ち、器質化肺炎の所見をみますが、血管炎あるいは肺出血の所見は認められません。\*400mlの血性心嚢水が認められ、心外膜には高度のフィブリン析出を伴っていました。急性心外膜炎の所見で、臨床的に心タンポナーゼを来していたと考えられます。\*心臓は肉眼的には心筋梗塞の所見はなく、また冠動脈の狭窄もみませんでした。\*気道には異物はみられませんでした。\*腹水は淡黄色透明で、腹腔内出血の所見はみられませんでした。

2) 担当病理医: 勝山

## 第6回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科 富岡・鈴木
2. CPC開催日：平成25年10月29日
3. 発表者：臨床側（鈴木）、病理側（勝山）
4. 患者：80歳代、男性
5. 臨床診断：間質性肺炎
6. 剖検診断：間質性肺炎
7. 剖検情報：

### 1) 剖検診断と病理所見

- I. 慢性間質性肺炎（左：700、右：850g）
  - A. 右心肥大（500g、手拳の1.3倍大、左心室厚：1.7cm、右心室厚：0.7cm）
  - B. 心嚢水（100ml、黄色透明）
- II. 肝うっ血および褐色変性
- III. 大動脈粥状硬化症（軽度）
- IV. るいそう

\*肺表面は粗造となり、硬く触知します。組織では、肺胞壁の比較的均一な肥厚があり、NSIP patternに近いです。\*気腔内肉芽組織形成があり、気質化肺炎の所見をみます。また一部にヒアリン膜形成をみます。\*肺組織ではアスベスト小体は確認されませんでした。\*右心室は拡張とともに壁肥厚をみます。\*冠動脈硬化は認められません。

### 2) 担当病理医：勝山

## 第7回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科 富岡・高田・吉積
2. CPC開催日：平成25年11月26日
3. 発表者：臨床側（高田）、病理側（勝山）
4. 患者：80歳代、男性
5. 臨床診断：肺癌
6. 剖検診断：肺癌
7. 剖検情報：

### 1) 剖検診断と病理所見

- I. 肺癌（左肺原発、小細胞癌）
  - A. 同転移
    1. 左癌性胸膜炎
    2. 左肺門部リンパ節
    3. 膈尾部（直径4x2cm）
    4. 肝（850g、直径2mm程の小結節多数形成）
  - B. 癌性リンパ管炎
- II. 胸膜プラーク
- III. 多発性横行結腸潰瘍
- IV. 腔水症

- A. 右胸水（500ml、血性）
- B. 心嚢水（10ml、黄色透明）

\*左胸腔は癌性胸膜炎によると思われる癒着が目立ちました。\*肺内に原発としよう腫瘍は認められませんでした。\*血管周囲、気管支壁内のリンパ管内に腫瘍塞栓を多数認め、癌性リンパ管炎の所見です。\*膈尾部に大きな腫瘍を形成する転移と、肝には小さな転移巣を多数認めました。\*横行結腸に多数の浅い潰瘍形成をみ、この部分からの消化管出血と考えます。その部分の組織所見では、ごく一部の脈管内に小さな腫瘍塞栓を認めました。CMV感染を疑う核所見は認められません。\*腎表面は粗大な陥凹が目立ち、萎縮をみます。\*両側の背部壁側胸膜において、プラーク形成をみます。\*アスベスト小体は確認されません。

### 2) 担当病理医：勝山

## 第8回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科 豆鞆・川上
2. CPC開催日：平成26年1月28日
3. 発表者：臨床側（川上）、病理側（勝山）
4. 患者：80歳代、男性
5. 臨床診断：アスベスト肺
6. 剖検診断：アスベスト肺
7. 剖検情報：

### 1) 剖検診断と病理所見

- I. アスベスト肺（左：700、右：850g）
  - A. 右壁側胸膜、横隔膜胸腔側にプラーク形成
  - B. 気管支肺炎
  - C. 肺うっ血水腫
- II. 半月体形成性腎炎疑い（左：150、右：120g）
- III. 慢性肝炎（900g）
- IV. 大動脈粥状硬化症（高度）
- V. 腔水症
  - A. 左胸水（700ml、黄色弱血性）
  - B. 腹水（700ml、黄色）
  - C. 心嚢水（5ml、黄色）
- VI. 皮下出血斑（肩、上腕）

\*胸膜、横隔膜にプラーク形成をみました。腫瘍形成はなく、組織でも中皮腫の所見はありません。\*肺の組織所見では、気管支肺炎の所見が中心です。一部に肺胞出血やヒアリン膜形成をみます。\*左上葉からの細菌培養で、Klebsiella pneumoniae(2+)、Pseudomonas aeruginosa(少数)、Enterococcus avium(1+)、Corynebacterium spp(2+)、Candida tropicalis

(2+)認めました。\*腎は皮質は保たれています。組織では、死後変性が著しく、詳細の判定は困難ですが、わずかに半月体形成を思われる所見をみます。\*消化管内容は正常軟便であり、出血などみません。

2) 担当病理医：勝山

#### 第9回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科 木田・田中
2. CPC開催日：平成26年2月25日
3. 発表者：臨床側（田中）、病理側（勝山）
4. 患者：70歳代、男性
5. 臨床診断：悪性中皮腫
6. 剖検診断：悪性中皮腫
7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

##### I. 重複癌

A. 右胸膜悪性中皮腫（肉腫型）

1. 同浸潤

i. 心外膜

2. 右血性胸水（2000ml）

B. 胃癌術後状態（再発なし）

##### II. 大動脈粥状硬化症（軽度～中等度）

A. 良性腎硬化症（左：150、右：200g）

##### III. 肝褐色変性（1000g）

\*右壁側胸膜、臓側胸膜に白色で、柔らかい結節状の腫瘍が多数認められます。\*その組織所見では類円形の腫瘍細胞の密な増生をみます。乳頭状増生や腺管形成はなく肉腫型の悪性中皮腫の所見です。\*多量の胸水のため右胸腔が膨隆し、横隔膜を下に圧排し、肝臓が腹腔内で、骨盤側に向かい下降します。\*脳重量は800gです。肉眼的に浮腫、左右差なく、著変は認められません。組織でも著変は指摘できませんでした。\*るいそうがありました。\*腹腔内はきれいで、消化管粘膜、内容にも著変は認められません。

2) 担当病理医：勝山

#### 第10回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科 三上・安村・吉積
2. CPC開催日：平成26年3月25日
3. 発表者：臨床側（吉積）、病理側（勝山）
4. 患者：60歳代、男性
5. 臨床診断：胃癌
6. 剖検診断：胃癌

7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

##### I. 胃癌術後状態（低分化型腺癌）

A. 癌性腹膜炎

B. 同転移

1. 横行結腸

a) 穿孔性腹膜炎（糞臭腹水：1200ml）

2. 食道周囲リンパ節

3. 小腸

4. 腸管膜

5. 腎被膜

##### C. 胃管挿入術後状態

II. 肺うっ血水腫（左：600、右：1100g）

##### III. 腔水症

A. 腹水

B. 胸水（左：350、右：500ml）

C. 心嚢水（5ml）

##### IV. 肝褐色変性

V. 大動脈粥状硬化症（軽度～中等度）

A. 良性腎硬化症（左：100、右：100g）

\*横行結腸に硬結があり、その部分に小さな穿孔をみます。穿孔部分から黄色軟便の流出をみました。\*腹水は黄色やや濁で、糞臭があり、穿孔性腹膜炎の所見です。\*横行結腸から、脾湾曲部にかけて結腸壁の硬化および癒着所見をみます。\*肉眼的に腫瘍形成がなく、著変のない部分を含め、組織所見ではpor2相当の低分化型腺癌の腹部臓器の漿膜面を主体とした広範な浸潤増生をみます。\*気道内には泡沫状の分泌物がやや多くみられましたが、異物はありません。また肺動脈にも血栓あるいは塞栓はみられず、突然の呼吸困難の原因は確定できません。

2) 担当病理医：勝山

# V. 医学振興事業等研究費 補助による業績報告

## V. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

### (1) 笠原ガン治療研究事業

#### V. 1 移植後40日までのトロンボモジュリンの上昇が移植後早期死亡の予測因子となり得るか

Can thrombomodulin be a predictor for mortality at 1 year after Hematopoietic stem cell transplantation?

中央市民病院 血液内科 竹田 淳恵

#### 【緒言】

トロンボモジュリン (TM) は血管内皮細胞の表面に存在し血中TMの上昇は全身性の血管内皮障害の存在が示唆される。定期的にTMを測定し、移植後40日目までのTMの上昇の有無が移植後1年間の全生存(OS)に関与するかどうか後方視的に検討した。

#### 【方法】

成人の造血器悪性腫瘍に対し2008年5月から2012年7月に同種骨髄移植を施行し、移植後40日目まで4回以上TMを測定した患者全48人を対象とした。40日目までに再発した症例は除外した。多変量解析は疾患リスクと幹細胞ソース、前処置強度で調整した。

#### 【結果】

患者背景は、年齢20-65歳(中央49歳)、背景疾患はAML 20例、NHL 11例、ALL 9例、MDS 5例、ATL 2例、CML 1例であった。

移植後40日後までのTMの最大値が $25\text{ng/ml}$ 以上の群(高TM群:27例)と以下の群(低TM群:21例)の2群に分けて解析した。追跡期間中央値は263日であった。

1年以内の非再発死亡は8例、再発死亡は7例であった。1年後の生存率は高TM群51%、低TM群72%と有意差はないが高TM群の方が低い傾向にあった( $RR=7.96$ ,  $p=0.0929$ )。1年後の非再発生存率は高TM群が60%、低TM群が95%であった( $p=0.046$ )。両群の再発率はそれぞれ9.5%と19%であり有意差はなかった。aGVHDgrade3以上認めかつ1年以内に非再発死亡した3例は高TM群であった。また末梢血のウィルスPCRにてCMV $10^3\text{copy/ml}$ 以上を認めかつ1年以内に非再発死亡した症例5例全てが高TM群であった。

#### 【考察】

同種骨髄移植早期のTMの上昇が重大なGVHDやCMV感染を示唆または予測する可能性があり、その結果として移植後1年以内の非再発死亡をきたしている可能性がある。

### V. 2 骨髄異形成症候群における核型の変化が生存に与える影響

中央市民病院 血液内科 竹田 淳恵

#### 【背景】

骨髄異形成症候群(Myelodysplastic syndromes: MDS)は造血幹細胞の異常によりおこる疾患であり、造血不全と前白血病という2つの側面を持つが、予後は個々の症例によって大きく異なる。予後予測因子として、血球減少、核型、芽球数からなるInternational Prognostic Scoring System (IPSS)が1997年に考案され、さらにそれを改良したものとしてrevised IPSS (IPSS-R)が2012年に発表され、核型が予後に与える影響が大きいことが示唆されている。

しかしながら、核型は経過中にしばしば変化する。IPSS-Rは初診時の核型に基づいた分類であり、核型の変化が予後に与える影響は明らかではない。

また、IPSS-Rは無治療の患者群を対象として作成されたものである。近年、急性白血病に移行する前に脱メチル化阻害薬(azacitidine:AZA)や同種造血幹細胞移植が施行されることが多い。これらの治療が行われた場合にも、IPSS-Rが予後予測モデルとして有用であるかどうかは明らかではない。

#### 【研究の目的】

核型の変化および施行された治療内容を含め、MDSの臨床学的予後予測因子に関して詳細な検討を行う。

#### 【対象】

神戸市立医療センター中央市民病院血液内科と京都大学医学部附属病院血液・腫瘍内科で、2000年1月1日から2014年3月31日の期間にMDSと診断された16歳以上の患者

**【検討項目の測定】**

既存データの収集は、全て患者診療記録より抽出する。項目は、年齢、性別、併存疾患の有無、既往歴、performance status、核型、末梢白血球数、末梢血芽球数、骨髓芽球数、WHO分類、血清フェリチン値、治療内容、等である。

**【疫学研究として解析の概要】**

1) 主要評価項目

全生存率。

2) 解析方法

STATA12を用いて解析を行う。全生存および無増悪生存に関してはCox比例ハザードモデルを用いて多変量解析にて評価する。また核型の変化は時間依存性共変量として扱う。

**【現在の進捗状況と今後の予定】**

現在解析はほぼ終了しており、研究結果は2014年米国血液学会に採択されている。ポスター発表を行った後に論文執筆する予定である。

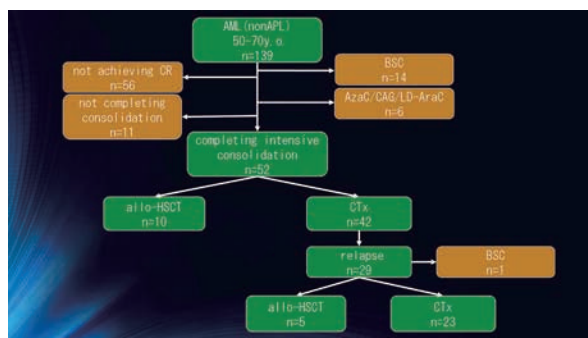
**V. 3 高齢者急性骨髄性白血病における同種造血幹細胞移植の有用性に関する検討**

中央市民病院 血液内科 長畑 洋佑

2000年-2013年に当院にて診断された50-70歳の初発急性骨髄性白血病（AML）において化学療法と同種造血幹細胞移植の治療成績を比較した。

第一寛解期において同種造血幹細胞移植の有用性が示され、今後の臨床に応用するとともに、日本血液学会学術集会、ASH Annual Meetingにて報告した。

第75回日本血液学会学術集会でのスライドおよびASH Annual Meeting 2013でのポスターを示します。

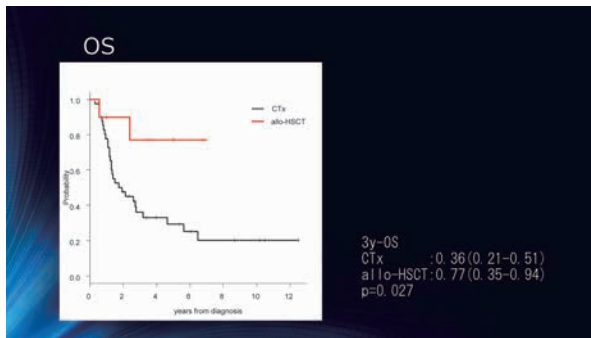


	Allo HSCT(n=10)	Ctx(n=42)	p value
観察期間(日)	1501(178-2447)	1449(190-4563)	
age	60(54-63)	62(50-70)	
50-59	4	12	0.48
60-70	6	30	
karyotype(NCCN)			
favorable	3	9	0.058
intermediate	5	31	
unfavorable	2	1	
NA		1	
PHD			
(-)	10	40	1
(+)	0	2	
WBC( $\mu$ l)	19000(3700-59700)	(600-308000)	
<20000	5	27	0.5
$\geq$ 20000	5	15	
寛解導入化学療法数			
1コース	9	36	1
$\geq$ 2コース	1	6	

allo-HSCT10例

age	karyotype	donor	HLA allele	conditioning
54	favorable	USM	8/8	FluB2
60	favorable	USM	8/8	FluB2+TBI40y
62	favorable	USM	8/8	FluB4
54	intermediate	USM	7/8	DT+TBI20y
60	intermediate	USM	8/8	FluB2+TBI40y
60	intermediate	USM	8/8	FluB4
61	intermediate	USM	8/8	FluB4+TBI20y
63	intermediate	CS	5/6(抗原)	FluMe180+TBI40y
55	unfavorable	BSM	6/6	BUCT
58	unfavorable	USM	7/8	FluB2+TBI40y

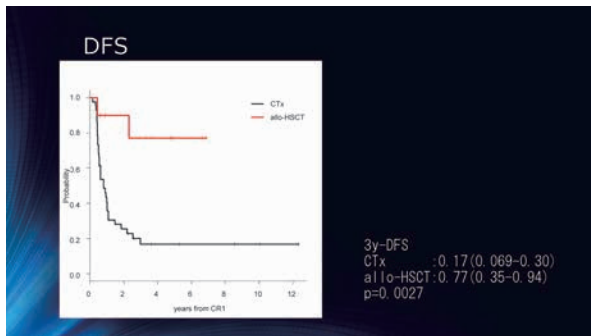




### 再発後allo-HSCT5例

age	karyotype	CR1-relapse (days)	移植時病期	donor	HLA allele	conditioning	移植後生存日数	死因
61	favorable	294	非寛解	UBM	8/8	CACyTb1120y	69	敗血症
68	int	136	非寛解	UBM	6/8	CyTb1120y	84	再発、DVT
63	int	362	CR2	UBM	8/8	CACyTb1120y	13	敗血症
61	int	154	非寛解	UBM	7/8	Flu&U-Tb140y	154	TMA
61	NA	540	CR2	UBM	7/8	Flu&U-Tb140y	1505	生存

非再発死亡が3/5例



### 考察

- allo-HSCT例はallo-HSCTに耐える全身状態の良い高齢者であるという交絡因子が考えられる
- 再発後のallo-HSCTの有用性は示せなかった
- 高齢者AMLでは再発後のallo-HSCTはTRMが高いためと思われる

### OS:多変量解析

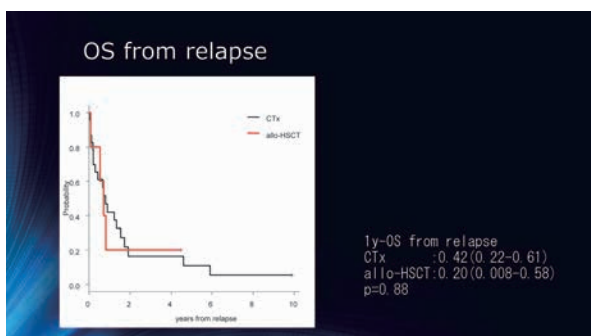
	HR	95%CI	p-value
age<60	1		
age≥60	1.3	0.53-3.2	0.56
favorable	1.3	0.53-3.2	0.57
intermediate	1		
unfavorable	4.9	0.85-28	0.075
PHD (-)	1		
PHD (+)	5.6	1.1-29	0.040
WBC<20000	1		
WBC≥20000	1.1	0.46-2.5	0.87
寛解導入化学療法1	1		
寛解導入化学療法≥2	1.0	0.35-3.1	0.95
CTx	1		
allo-HSCT	0.17	0.032-0.87	0.034

### 結論

- allo-HSCTに耐える高齢者にはCR1での非血縁ドナーからのallo-HSCTも有力な治療戦略として考慮すべきである

CR1でCTxであった41例のうち、29例が再発、5例がallo-HSCT、23例は化学療法のみ、1例がBSC

	allo HSCT (n=5)	CTx (n=23)	p-value
age	58(50-60)	62(52-69)	
50-59	4	4	0.015
60-70	1	19	
karyotype			
favorable	1	4	1
intermediate	3	18	
unfavorable	0	1	
NA	1		
PHD			
(-)	5	21	1
(+)	0	2	
CR1 to relapse			
<180days	2	7	1
≥180days	3	16	

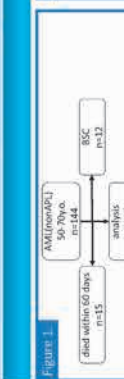


# Allo-HSCT from Unrelated Donors Improves the Outcome of Elderly AML Patients in CR1

(1) KOBE CITY MEDICAL CENTER GENERAL HOSPITAL, DEPARTMENT OF HEMATOLOGY  
 Yosuke Nagahata<sup>1,2</sup>, Yuichiro Ono<sup>1,2</sup>, Yotaro Ochi<sup>1,2</sup>, Yusuke Koba<sup>1,2</sup>, Junji Takeda<sup>1,2</sup>, Yuki Funayama<sup>1,2</sup>, Nobuhiko Yamauchi<sup>1,2</sup>, Nobuhiro Hiramoto<sup>2</sup>, Sumie Tabata<sup>1</sup>, Noboru Yonetani<sup>1</sup>, Akiko Matsushita<sup>1</sup>, Hisako Hashimoto<sup>2</sup>, Takayuki Ishikawa<sup>1,2</sup>

**Background**  
 \*Allo-HSCT from HLA-matched related donors improves the outcome of elderly AML patients in CR1.  
 \*Allo-HSCT improves the outcome of AML patients in a part of relapsed disease.  
 \*We retrospectively examined the efficacy of allo-HSCT for the management of elderly AML patients.

**Methods**  
 \*We retrospectively collected the data of consecutive AML (non APL) patients who were 50-70 y.o. and diagnosed between Jan.1,2000 and Oct.31,2013.  
 \*Patients without chemotherapy and patients who died within 60 days were excluded.  
 \*OS were compared between patients who underwent allo-HSCT and patients who underwent chemotherapy (CTX) alone in each disease status following: primary refractory disease, CR1, and relapsed disease.  
 \*Kaplan-Meier method was used for unadjusted OS.  
 \*Log-rank test was used for univariate analysis.  
 \*Cox proportional hazard regression models were used for multivariate analysis.  
 \*Allo-HSCT was calculated as a time-dependent variable.  
 \*Covariates: age, WBC (/ $\mu$ l) at diagnosis, cytogenetic risk group according to NCCN, presence or absence of preceding hematological disease, and the number of induction regimens required for achieving CR.



**Results**  
 Among 144 elderly AML patients, 12 patients without chemotherapy (BSC) and 15 patients who died within 60 days were excluded.  
 We compared OS between allo-HSCT and CTX in 3 disease statuses.  
 -44 patients in primary refractory disease; 5 received allo-HSCT (analysis ①).  
 -73 patients in CR1; 14 received allo-HSCT (analysis ②).  
 -38 patients in relapsed disease; 7 received allo-HSCT (analysis ③).

**Conclusion**  
 \*Allo-HSCT, even from unrelated donor, improves the outcome of elderly AML patients in CR1.  
 \*Allo-HSCT for elderly AML patients with relapsed or refractory disease could hardly extend their survival.



**Table 2**

Characteristics	allo-HSCT in CR1 (n=14)	CTX in CR1 (n=59)	%	CTX in CR1 (n=59)	%	p-value
Age, median (range)	59.5 (51-63)	59.0 (50-70)	50.0%	50 (30-70)	84.1%	0.048
Sex						
Male	8	26	57.1%	26	44.1%	0.55
Female	6	33	42.9%	33	55.9%	
Cytogenetic risk group of NCCN						
Favorable	3	13	21.4%	13	22.0%	0.0184
Intermediate	7	42	50.0%	42	71.2%	
Poor	4	2	28.6%	2	3.4%	
Preceding hematological disease						
Absence	13	55	92.9%	55	93.2%	1
Presence	1	4	7.1%	4	6.8%	
WBC, median (range)	1350 (800-15,600)	1100 (400-30000)	42.3%	61.0%	1	
No. of regimen to remission	6	23	42.9%	23	39.0%	
Donor						
Matched related B/P/B	2	14	28.6%	14	23.8%	*HLA allele B/B (A,B,C/D)
Unrelated donor	12	85	85.4%	85	144.2%	
Matched unrelated BM	8	47	47.1%	47	79.7%	
Mismatched unrelated BM	3	17	17.0%	17	28.7%	
Cord blood	1	5	5.0%	5	8.5%	
Conditioning						
CTB120y/BU/Cy	3	17	17.0%	17	28.7%	
FLU/AA/MT/40-TB/4Cy	6	42	42.0%	42	71.2%	
FLU/2/AA/BB/1B/2-Cy	5	29	29.0%	29	49.2%	

**Table 3**

Variables	n	Univariate analysis		Multivariate analysis	
		2x OS (95% CI)	p-value	HR (95% CI)	p-value
allo-HSCT in CR1					
Age	14	64.6% (52.2-85.9)	0.002	1	0.018
CTX	59	41.7% (28.2-54.7)		4.7 (1.3-17)	
Cytogenetic risk group of NCCN					
Favorable	20	47.4% (24.4-72.3)	0.39	1.2 (0.60-2.6)	0.55
Intermediate	53	50.6% (35.0-64.3)			
Poor	16	61.9% (31.2-82.1)	0.44	1	0.12
Intermediate	49	47.7% (31.9-61.8)		1.2 (0.50-2.8)	*0.72
Poor	6	33.3% (4.6-67.6)		3.9 (1.0-15)	*0.031
Preceding hematological disease					
Absence	68	52.0% (38.5-64.0)	0.083	1.8 (0.57-5.8)	0.32
Presence	5	20.0% (0.8-38.2)			
WBC at diagnosis					
<20000	44	47.6% (31.7-62.0)	0.80	1	0.93
≥20000	29	52.7% (30.2-70.3)		1.0 (0.52-2.0)	
No. of regimen to remission					
1	59	51.5% (27.1-74.2)	0.96	1	0.76
≥2	14	41.7% (15.2-66.5)		0.88 (0.40-2.0)	

Univariate and Multivariate analysis of OS in CR1  
 Allo-HSCT in CR1 was the only favorable prognostic factor.

**References**  
 \*Kurosawa et al BBMT 2011;17:401-411  
 \*Armistead et al BBMT 2009;15:1431-1438  
 There is no relevant conflict of interest to disclose

**Table 1**

Characteristics	all 117 patients (n=117)	%
Follow-up time, median (range)/days	375 (61-4563)	
Age, median (range)	63 (50-70)	24.8%
50-59	29	75.2%
60-70	88	75.2%
Sex		
Male	65	55.6%
Female	52	44.4%
Cytogenetic risk group of NCCN		
Favorable	17	14.5%
Intermediate	74	63.2%
Poor	22	18.8%
Matched	4	3.4%
Preceding hematological disease		
Absence	94	80.3%
Presence	23	19.7%
WBC, median (range)		
<20000	71 (0-30000)	64.1%
≥20000	46	39.9%

Characteristics of all 117 patients included into the study  
 4 patients lacked cytogenetic data.

## V. 4 多施設共同第Ⅱ相臨床試験

大腸癌肝転移切除後患者を対象とした  
カペシタビンとオキサリプラチン併用補  
助化学療法 (XELOX) の忍容性試験  
Hepatectomy + XELOX for Liver  
Metastasis of Colorectal Cancer.

中央市民病院 腫瘍内科 佐竹 悠良

### 【背景】

肝転移治癒切除後の補助化学療法の有効性を明確に示す根拠は十分ではない。しかし肝転移治癒切除後はStageⅢの原発結腸・直腸癌の術後と比べても予後不良であり、化学療法による治療成績向上への寄与に対する期待は大きいと考え、本試験を計画した。

### 【本試験の意義】

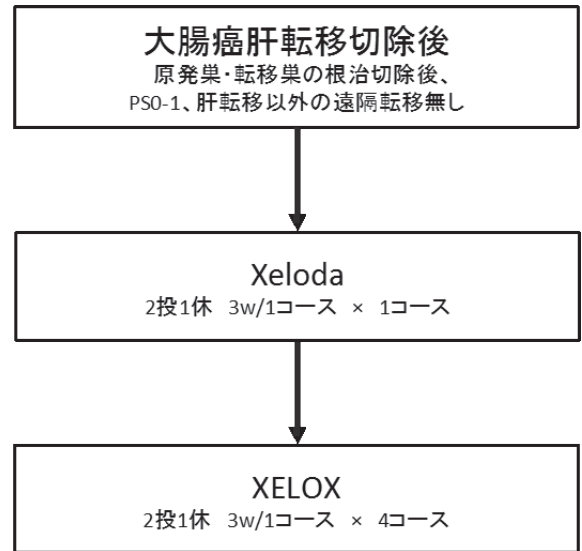
大腸癌肝限局転移治癒切除例を対象とした治療成績は未だ不良である。ここ数年はこの対象群に対して予後の改善を目指した治療開発として5-FUやCPT-11による術後補助化学療法が検討・検証されてきた。しかし、L-OHPによる治療成績の向上は未だ明らかでない。予後不良である大腸癌肝限局転移に対してはより有効な集学的治療が求められている。

本試験では、Capecitabine単剤を先行投与し、2コース目からL-OHPを併用したXELOX療法とすることで治療完遂割合を高めることが期待でき、それに伴い局所および遠隔制御割合が向上することが期待できる。本レジメンの安全性、有効性が証明されれば、手術単独群との無作為化比較試験を立案してゆく予定である。これにより、大腸癌肝限局転移治癒切除例に対する新たな標準治療が確立することが期待できる。

XELOX療法の有効性と安全性を検証し、腸癌肝限局転移治癒切除例の治療成績の上乗せを評価するため、本試験を行うことの意義は非常に大きいものと考えられる。

### 【概要】

シエーマ



### 目的

大腸癌肝転移治癒切除後の患者を対象として、XELOX療法の術後補助化学療法の忍容性・有用性を検証する。

Primary endpoint: 5コース完遂割合

Secondary endpoint: 全生存期間、無病生存期間、有害事象、再発形式、dose-intensity

### 対象

- 1) 肝転移が組織学的に大腸癌と診断されている。  
原発巣が単発か多発かは問わない。
- 2) 原発巣と肝転移巣に対して治癒切除が行われている。
- 3) 肝臓以外の遠隔転移・再発を認めない。
- 4) 肝転移切除後、90日以内である。
- 5) 登録時の年齢が20歳以上である。
- 6) PS (ECOG) が0 または1 である。
- 7) 他の悪性腫瘍に対する放射線治療および化学療法の既往がない。
- 8) 適切な臓器機能が保たれている。
- 9) 試験参加について患者本人から文書で同意が得られている。

## 【治療計画】

2週投与1週休薬のCapecitabine (2000mg/m<sup>2</sup>/day) 1コースに引き続き、XELOX療法(2週投与1週休薬を1コース)を4コース実施する合計5コースを術後補助化学療法とする。

	Day	1	14	21
カペシタビン	2000mg/m <sup>2</sup> /day 経口内服 1日2回、朝・夕食後		→	
オキサリプラチン	130mg/m <sup>2</sup> 点滴静注(120分)		↓	

## 予定登録数と研究期間

予定登録数：27例  
登録期間：2年  
追跡期間：2年  
総研究期間：4年

研究期間は4年を予定しており、2013年5月より登録期間2年で本研究は開始している。試験開始後17ヶ月経過した現在、登録予定数である27例中16例(59%)が登録終了しており、2年間の追跡期間の後、結果を論文化予定である。

## V. 5 進行再発膵臓癌においてKRAS遺伝子変異の有無は予後予測・効果予測因子となるか

中央市民病院 腫瘍内科<sup>1)</sup>、外科<sup>2)</sup>

佐竹 悠良<sup>1)</sup>・古武 剛<sup>1)</sup>・井ノ口健太<sup>2)</sup>  
姚 思遠<sup>2)</sup>・岡田 和幸<sup>2)</sup>・山本 健人<sup>2)</sup>  
木下 裕光<sup>2)</sup>・阪本 裕亮<sup>2)</sup>・藤田 幹夫<sup>1)</sup>  
辻 晃仁<sup>1)</sup>

## 【背景】

切除不能進行再発膵臓癌患者に対し、現在ガイドラインなどではゲムシタビン±エルロチニブ併用療法による化学療法が標準治療とされている。膵臓癌患者においてはKRAS遺伝子変異を有する割合が高いとされており、大腸癌における抗EGFR抗体薬と同様KRAS遺伝子変異はエルロチニブ併用療法における効果予測/予後予測因子となるのではとの報告があるが、確立されたdataは少なく、さらに本邦での検討はない状況である。

## 【目的】

切除不能進行再発膵臓癌一次治療としてのゲムシタ

ビン±エルロチニブ併用療法の治療効果とKRAS遺伝子変異の影響を検討する。

## 【対象・方法】

2011年1月から2012年12月の2年間に当院にて一次治療としてゲムシタビン単独療法およびゲムシタビン/エルロチニブ併用療法を導入された切除不能進行再発膵臓癌患者のうち、腫瘍組織部からのKRAS遺伝子変異の有無が検討可能であった23例(うちエルロチニブ併用 10例)を対象に、腫瘍部KRAS遺伝子変異検査(KRAS exon2 codon12, 13)を提出し、その変異の頻度及び有無による治療効果に関して後方視的に検討した。

## 【結果】

全体の年齢中央値は68歳、男性：女性=6：17例、PS0：1=9：14、臨床病期(UICC分類) III：IV=1：22、臓器転移数0：1：>1=9：11：3、腹膜播種あり：なし=15：8、初回化学療法ゲムシタビン単独：ゲムシタビン/エルロチニブ併用療法=13：10、CA19-9中央値は348.2U/mlであった。KRAS遺伝子変異の有無は野生型：codon12変異：codon13変異=8：15：1であり、codon13変異例はcodon12変異と重複変異を有していた。KRAS遺伝子変異およびエルロチニブ投与において患者背景に差は認めなかった。全体の無増悪生存期間は4.3ヶ月、生存期間中央値は8.1ヶ月であった。KRAS遺伝子変異の有無別およびエルロチニブ投与例でのKRAS遺伝子変異の有無による無増悪生存期間、全生存期間に明らかな有意差は認められなかった。

## 【結語】

進行膵臓癌一次治療としてのゲムシタビン/エルロチニブ併用療法の治療効果においてはKRAS遺伝子変異の有無による影響は認められなかった。膵臓癌における効果・予後予測因子に関しては今後更なる検討が必要と考えられる。

第52回日本癌治療学会学術集会(2014/08/28-30 at 横浜)で発表させていただきました。2015年ESMO-GIにて発表予定であり、現在英語論文執筆中です。

## 背景

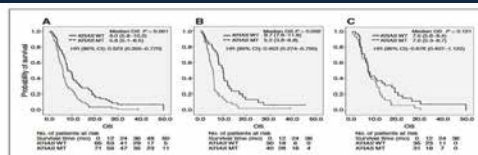
▶ 切除不能進行再発肺臓癌患者に対し、ガイドラインではgemcitabine ± erlotinib併用療法が標準治療である。

肺癌診療ガイドライン 2013年版 グレードA

▶ 肺臓癌患者の予後予測因子としてKRAS遺伝子変異の有無が報告されており、erlotinibの治療効果に関してKRAS遺伝子変異の有無が影響する傾向があるとの報告がある。

Seung Tae Kim, et al. *Molecular Cancer Therapeutics*, 2011.

▶ 確率されたdataは少なく、さらに本邦での検討はない状況である。



*Molecular Cancer Therapeutics*, 2011.

## 目的/ デザイン/ 対象

▶ 切除不能進行再発肺臓癌に対する1st line gemcitabine/erlotinib併用療法の治療効果とKRAS遺伝子変異の影響を検討

▶ デザイン：単施設・後方視的検討，2011年1月～2012年12月

▶ 初回治療としてgemcitabine ± erlotinib療法を導入した切除不能進行再発肺臓癌患者のうち、腫瘍部KRAS遺伝子変異の有無が検討可能であった23例

## 結果

### 患者背景

全体		n=23
Age, year	Median (range)	68 (49-83)
Sex	Male/ Female	6/ 17
ECOG PS	0/ 1	9/ 14
cStage UICC	III/ IV	1/ 22
臓器転移	0/ 1/ >1	9/ 11/ 3
腹膜播種	Yes	8
KRAS codon12/13	WT/ 12MT/ 13MT	8/ 15/ 1
1st line therapy	GEM/ GEM+TAR	13/ 10
CA19-9, U/ml	Median (range)	348.2 (2-87300)
Primary site of disease	Head/ body/ tail/ unknown	7/ 8/ 7/ 1
Tumor grade	Well/ moderately/ poor/ unknown	5/ 6/ 3/ 9

### KRAS遺伝子変異別

	KRAS WT (n=8)	KRAS MT (n=15)	p値
Age	Median (range) 69.5 (57-83)	65 (49-76)	.400
Sex	Male/ Female 3/ 5	3/ 12	.506
PS	0/ 1 5/ 3	4/ 11	.169
cStage	III/ IV 0/ 8	1/ 14	.825
臓器転移	0/ 1/ >1 4/ 3/ 1	5/ 8/ 2	.591
1st line therapy	GEM/ GEM+TAR 5/ 3	6/ 9	.728
CA19-9, U/ml	Median (range) 280.4 (2-62200)	777 (8-87300)	.667
Primary site of disease	Head/ body/ tail/ unknown 3/ 1/ 4	4/ 7/ 3/ 1	.825
Tumor grade	Well/ moderately/ poor/ unknown 1/ 2/ 2/ 3	4/ 4/ 1/ 6	.681

### erlotinib有無別

	With erlotinib (n=10)	Without erlotinib (n=13)	p値
Age	Median (range) 69 (53-74)	65 (49-83)	.999
Sex	Male/ Female 2/ 8	4/ 9	.693
PS	0/ 1 2/ 8	7/ 6	.186
cStage	III/ IV 1/ 9	0/ 13	.693
臓器転移	0/ 1/ >1 4/ 5/ 1	5/ 6/ 2	.879
腹膜播種	Yes 3	5	.738
KRAS	WT/ codon12MT/ 13MT 3/ 7/ 1	5/ 8/ 0	.728
CA19-9, U/ml	Median (range) 236.9 (11.5-6380)	1412 (2-87300)	.214
Primary site of disease	Head/ body/ tail/ unknown 3/ 5/ 2/ 0	4/ 3/ 5/ 1	.446
Tumor grade	Well/ moderately/ poor/ unknown 1/ 3/ 1/ 5	4/ 3/ 2/ 4	.313

### 有害事象

Grade*	With erlotinib (n=10)		Without erlotinib (n=13)		p値
	ALL, %	≥4, %	ALL, %	≥4, %	
<b>Hematologic</b>					
白血球減少	80	10	54	8	.313
好中球減少	40	20	46	8	.999
貧血	80	0	85	0	.879
血小板減少	50	0	46	0	.879
高胆血症	10	0	0	0	.693
<b>Non-Hematologic</b>					
全身倦怠感	30	0	31	0	.699
食欲不振	50	0	38	0	.512
痒疹様皮疹	60	0	15	0	.077
爪囲炎	10	0	0	0	.693
悪心	40	0	23	0	.522
疼痛	50	0	54	0	.879
口内炎	10	0	8	0	.927
便秘	0	0	23	0	.376
下痢	60	0	15	0	.077
発熱	20	0	31	0	.693
味覚障害	30	0	8	0	.376
消化管穿孔	10	10	0	0	.693
消化管出血	10	10	0	0	.693
間質性肺炎	20	0	0	0	.446

\*NCI-CTC ver. 4.0

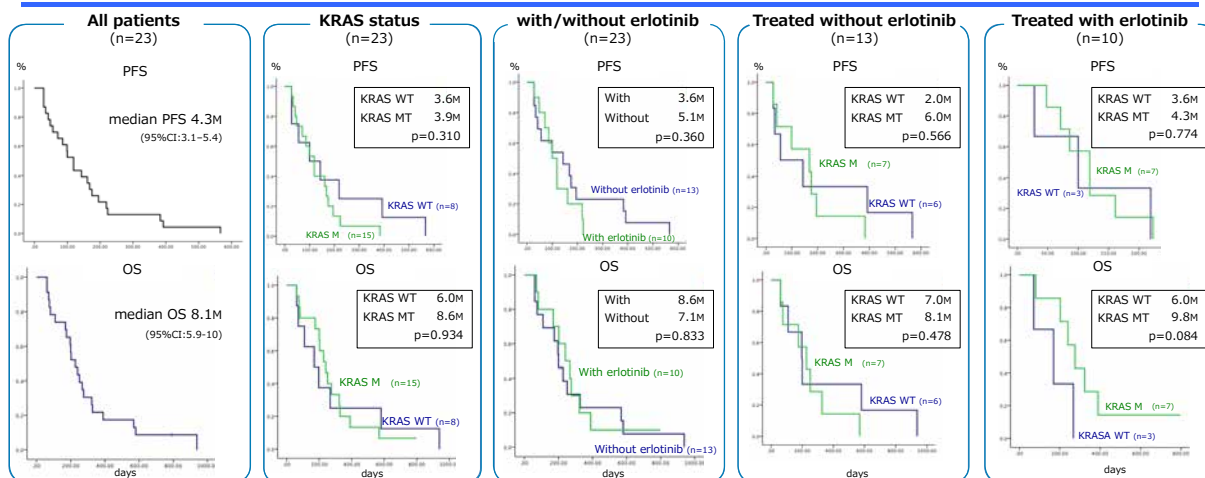
### 奏効割合

ALL	n	(%)
CR	0	(0)
PR	4	(17)
SD	12	(52)
PD	7	(30)
ORR(CR+SD)	4	(17)
DCR(CR+SD+PD)	16	(70)

With erlotinib (n=10)		Without erlotinib (n=13)	
n	(%)	n	(%)
CR	0 (0)	0 (0)	.999
PR	2 (20)	2 (15)	.879
SD	6 (60)	6 (46)	.605
PD	2 (20)	5 (38)	.483
ORR(CR+PR)	2 (20)	2 (15)	.879
DCR(CR+SD+PD)	8 (80)	8 (62)	.483

### 生存



### 結語

▶ 今回の検討での、切除不能進行再発肺臓癌患者におけるKRAS遺伝子変異率は 65% (15/23例)であった。

▶ KRAS exon2 codon12変異とcodon13変異との重複変異を有する症例を1例認めた。

▶ KRAS遺伝子の有無およびerlotinib併用の有無による治療効果に対する影響は認めなかった。

## V. 6 大型化された酸化再生セルロース・合成吸収性防止材（インターシードXL®）の有用性

中央市民病院 産婦人科

北 正人・林 信孝・宮本 泰斗  
 小山瑠梨子・平尾明日香・大竹 紀子  
 北村 幸子・須賀 真美・宮本 和尚  
 高岡 亜妃・青木 卓哉・今村 裕子  
 星野 達二

### Utility of large-sized absorbable Adhesion Barrier (Interceed XL®) for gynecologic surgery

Kobe City Medical Center General Hospital, OBGYN

Masato Kita, Nobutaka Hayashi, Taito Miyamoto,  
 Ruriko Oyama, Asuka Hirao, Noriko Otake,  
 Sachiko Kitamura, Mami Suga, Kazunao Miyamoto,  
 Aki Takaoka, Takuya Aoki,  
 Yuko Imamura and Tatsuji Hoshino

- ・ We began to use Newly introduced absorbable adhesion barrier, Interceed XL® (Oxidized Regenerated Cellulose) , which is twice the size of the existing Interceed®.
- ・ The presenter used in 26 cases of gynecologic surgeries including 10 cases of Laparoscopic hysterectomy (LH) , 6 cases of abdominal myomectomy (AM) , 6 cases of laparoscopic myomectomy (LM) .
- ・ In LH, large defect of retroperitoneum was covered by Interceed XL easily and rapidly compared to Seprafilm® or laparoscopic suture.
- ・ In AM, especially in case through small incision, Interceed XL® was very useful to wrap a sutured uterus around.
- ・ In LM, a sutured uterus was wrapped by Interceed XL® easily and rapidly compared to Seprafilm®.
- ・ Some surgical techniques were introduced to use Interceed XL® effectively.

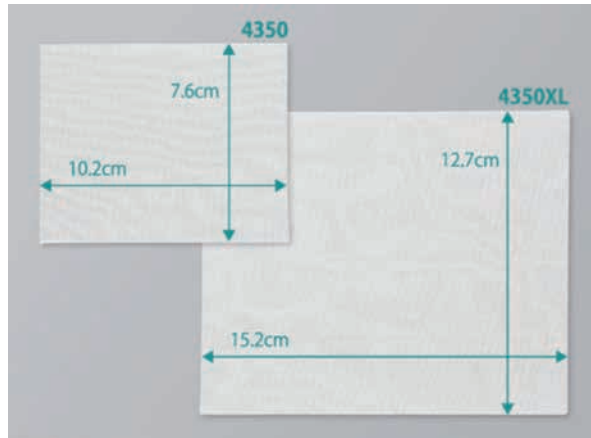
#### 【はじめに】

- ・ 術後の腹腔内癒着防止は重要な課題であるが、まだ十分な対策が確立されていない
- ・ 術中の愛護的な操作・確実な止血・終了時の腹腔内の洗浄とともに、手術終了時に癒着好発部位にバリア素材を置くことが最近の対策の中心である

- ・ 現在汎用されているバリア素材は 酸化セルロース性織布（インターシード®）とヒアルロン酸ナトリウムとカルボキシメチルセルロースによるフィルム（セプラフィルム®）であるが、素材の性質・製剤の形態が異なるため適切な使い分けが必要である
- ・ インターシード®の大判化（インターシードXL®：XL）が発売されたため、この有用性と従来品との使い分けを検討した

#### 【方法】

- ・ 平成23年10月よりXLを用い始め、開腹および腹腔鏡下手術での適応と具体的な貼付手技を工夫した
- ・ XL 導入後の発表者手術でのXL・従来のインターシード・セプラフィルムの使用頻度を調べた
- ・ 上記の検討結果、XL使用が特に有効と思われた開腹筋腫核出術（AM）、腹腔鏡下筋腫核出術（LM）、腹腔鏡下子宮全摘出術（LH）について、発表者手術でのXL・従来のインターシード・セプラフィルムでの貼付所要時間・術後腸閉塞症例などについて検討した



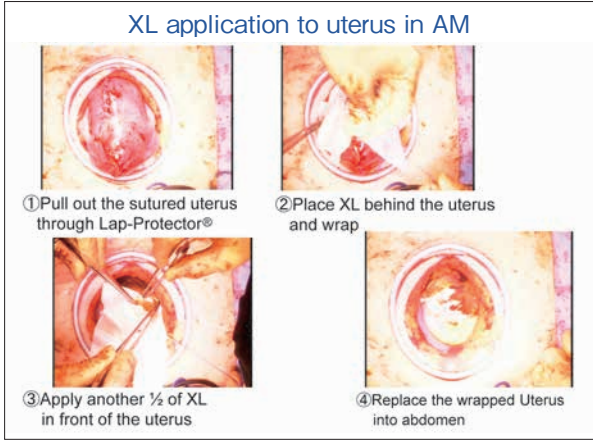
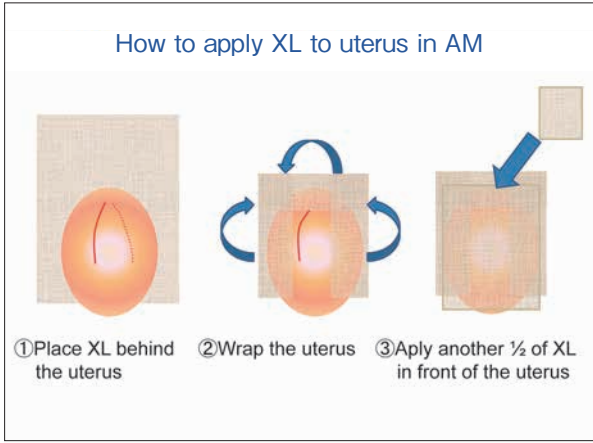
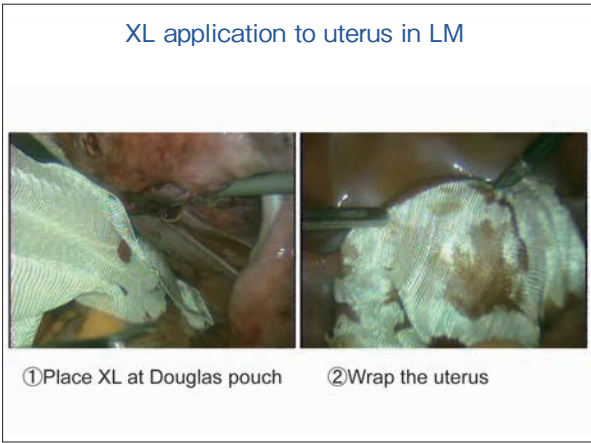
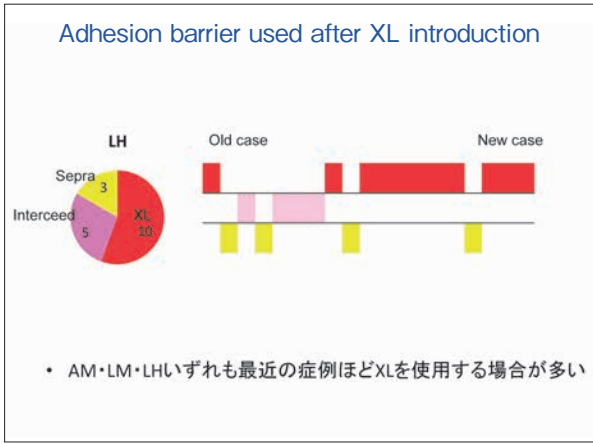
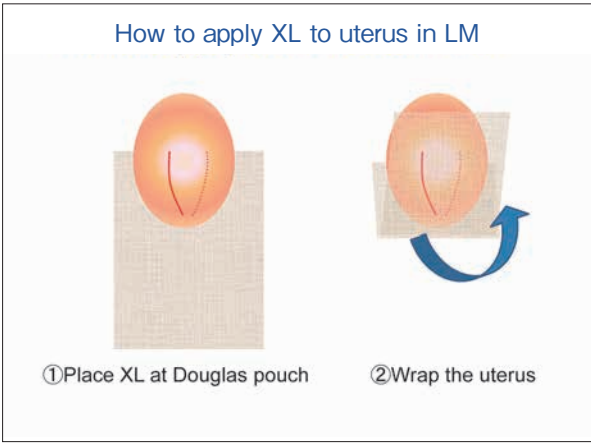
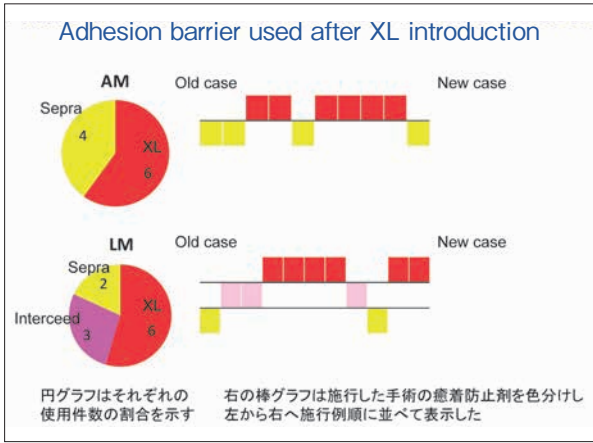
右がXL、左が従来の大きさのインターシード

#### Adhesion barrier used after XL introduction (since Oct. 2011)

	operation	XL	Interceed	Seprafilm	Total
Open surgery	AM	6	0	4	10
	AH	2	8	15	25
	ASO	0	0	6	6
	LM	6	3	2	11
Laparoscopic surgery	TLH	10	5	4	19
	LC	1	7	2	10
	LSO	1	4	1	6
Total		26	21	34	80

XLはAM、LM、TLHで使用されることが多かった

AM : abdominal myomectomy AT : abdominal Hysterectomy ASO : Abdominal Salpingo-Oophorectomy  
 LM : Laparoscopic Myomectomy TLH : Total Laparoscopic Hysterectomy LC : Laparoscopic ovarian Cystectomy  
 LSO : Laparoscopic Salpingo-Oophorectomy



### Comparison among AM

Barrier	n	Usual incision	Small incision	Postoperative subileus/ileus
XL	5	3	2	0
Interceed	1	1	0	0
Seprafilm	4	4	0	0

- 小切開(ラッププロテクター®使用)でのAMに対してはセプラフィルムの貼付は困難であるが、XLでは容易である

### Comparison among LM

Barrier	n	Mean time required for application to uterine wound	Postoperative Subileus/ileus
XL	6	2.6 min	0
Interceed	3	2.7 min	0
Seprafilm	2	12.5 min	0

- 子宮創の小さい場合には通常のインターシードを、大きいまたは多数の場合はXLを使用した
- セプラフィルムに比べ、インターシードは短時間で貼付が可能であった

### Comparison among TLH

barrier	n	Mean time required for application to retroperitoneum	Postoperative Subileus/ileus
XL	10	3.4 min	0
Interceed	5	4.2 min	0
Seprafilm	4	15.0 min	0
(retroperitoneal suture)	4	17.5 min	0

- セプラフィルム・後腹膜縫合(連続)に比べ、インターシード(特にXL)は短時間で貼付が可能であった

#### 【考察 1】

- インターシードの持つ
  - 1) 非血液製剤である安全性
  - 2) 素材が柔軟である事による挿入・貼付の容易さ
  - 3) 粘着性が出るまでに時間の猶予がある事による貼付部位の調整性
 に加え
  - 4) 貼付面積が大きくなった事により
  - 5) 子宮や卵巣を包むような貼付処置が可能になった
  - 6) 一度に挿入でき、位置の調整も容易なため貼付時間が短縮された
 などが利点として加わったと考えられる

#### 【考察 2】

- インターシードの欠点である
  - 1) 血液により癒着防止効果が低減する
  - 2) 貼付場所がずれてしまう可能性がある
 に対しては
  - 1) 血管性出血部位は確実に止血し毛細血管出血部位はサージセル®などの止血剤により一時的に圧迫止血する
  - 2) XLを用いて子宮・卵巣などの臓器は包むように貼付すると貼付が安定する  
骨盤底に貼付後は骨盤低位にして腸管でXLを圧迫固定する
 などの対策が有効と考えられる
- 癒着防止剤の有効性の指標として、術後の癒着や腸閉塞などの評価のために、今後、症例数の蓄積と術後の追跡調査、再開腹時の腹腔内の評価などが必要である

#### 【まとめ】

- インターシードXL®は貼付面積が大きくなった事により
  - ・広い貼付範囲でも間隙を生じないのでAM、LM、LHの癒着防止剤として有用である可能性が示唆された
  - ・子宮を包むような貼付処置が可能になり、小切開でのAMでも貼付しやすくなった
  - ・貼付操作が容易で必要な時間が短い
 等の利点を認めた

### V. 7 吊り上げ式傍大動脈リンパ節廓清手術と開腹骨盤手術との併用(Hybrid手術)の試み

中央市民病院 産婦人科

北 正人・臼木 彩・松本 有紀  
林 信孝・宮本 泰斗・小山瑠梨子  
平尾明日香・大竹 紀子・北村 幸子  
須賀 真美・宮本 和尚・高岡 亜妃  
青木 卓哉・今村 裕子・星野 達二

#### 【目的】

婦人科癌手術において、下腹部開腹手術の後に上腹部後腹膜を吊り上げ、腹腔鏡用スコープと鉗子その他のデバイスでの傍大動脈リンパ節(PAN)廓清を行う手術の実行可能性と臨床的優位性について検討した。



## 【結論】

- ・ 下腹部開腹手術 + 上腹部後腹膜吊り上げPAN廓清が可能であった。
- ・ 全開腹手術によるPAN廓清に比べ、術後疼痛が少ない・離床が早いなどのメリットがあった。
- ・ 使用器具・術式にはまだ改善の余地がある

## 【背景 1】

- ・ 進行期子宮体癌・卵巢癌にはPAN廓清が必要
- ・ 開腹式PAN廓清
  - － 侵襲大、術後疼痛・イレウスの問題大
- ・ 後腹膜下・腹腔鏡下PAN廓清
  - － 侵襲小、術後疼痛・イレウスの問題小
  - － 子宮体癌摘出後の迅速病理診断不可
  - － 大型卵巢癌摘出術に併用不可
  - － 婦人科医は後腹膜腔下手術に不慣れ

## 【背景 2】

以上の理由から、

下腹部開腹手術の後、上腹部後腹膜を吊り上げ、腹腔鏡用スコープ・鉗子その他のデバイスでPAN廓清を試みている

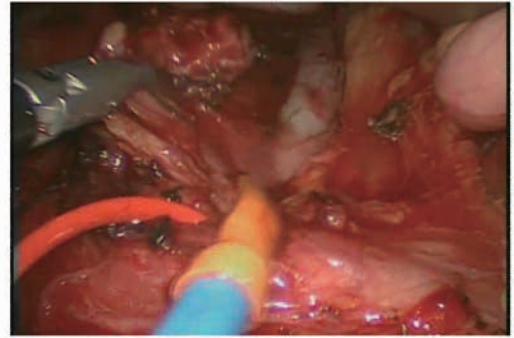
## 【適応症例】

- ・ 開腹手術を必要とした婦人科癌
- ・ 術前検査で明かなPAN転移所見がない
- ・ PANは廓清でなくサンプリングが適当と判断
- ・ 極端な肥満や腹腔内高度癒着など傍大動脈領域のつり上げ手術が困難な条件がない
- ・ 患者の同意が得られている
- ・ 術者（発表者）は開腹式傍大動脈リンパ節廓清と腹腔鏡下骨盤内リンパ節廓清について十分な経験と技術を持った日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医で、かつ、日本婦人科腫瘍学会専門医である

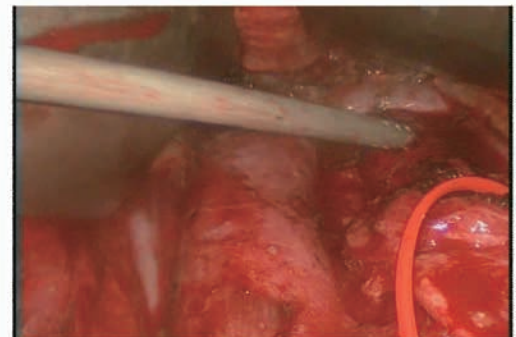
Hybrid手術（下腹部開腹＋上腹部（吊り上げ）腹腔鏡）



Hybrid手術術中写真 1



Hybrid手術術中写真 2



## 【結果 1】

- ・ これまで11例に実施
- ・ PAN摘出数：平均17.6（11-29）個
- ・ 所要時間：平均77（57-105）分
- ・ 全例、腎静脈まで露出し必要な範囲を廓清

## 【結果 2】

- ・ 術中・術後にHybrid手術特有の合併症なし
- ・ 術後サブイレウス・イレウスなし
- ・ 初回歩行 平均術後1.6（1-2）日
  - － 従来の開腹手術より約1日短縮
- ・ 使用器具・手術手技は症例毎に改善の余地があり、現在も改善中である

## 【考察 1】

Hybrid後腹膜リンパ節サンプリングの特徴 1

	後腹膜腔鏡	Hybrid手術	開腹
保険適応	なし	あり	あり
手技	かなり難関	右記開腹＋腹腔鏡のスキルで可能	やや難関
大型卵巢腫瘍の未破裂摘出	不可能	可能	可能
リンパ節廓清前の子宮摘出 (GEF)	不可能	可能	可能
緊急時の対応 (大出血など)	困難	容易	容易
教育	困難	段階的に可能	段階的に可能
手術時間	長い (2-3時間)	中間 (1-2時間)	短い (1時間)

## 【考察1】

### Hybrid後腹膜リンパ節サンプリングの特徴2

	後腹膜腔鏡	Hybrid手術	開腹
術後疼痛	少ない	全開腹より少ない	強い
術後イレウス	ほとんど起きない	全開腹手術にくらべ腹膜切開線が少なく、腹腔内臓器への負担が少ないため開腹より少ない可能性がある	時に起こる
手術創	目立たない	臍高まで	剣状突起まで
入院期間	術後2-3日	術後5-7日間	術後7-10日

## 【結論】

- ・ 下腹部開腹手術 + 上腹部後腹膜吊り上げPAN廓清が可能であった。
- ・ 全開腹手術によるPAN廓清に比べ、術後疼痛が少ない・離床が早いなどのメリットがあった。
- ・ 使用器具・術式にはまだ改善の余地がある

## V. 8 抗がん剤による角膜および涙道障害の実態調査

中央市民病院 眼科 山田 理香

## 【序論】

抗がん剤TS-1による眼障害は以前から報告があるが、いまだ十分な統計学的解析がなされておらず認知度も低いため無治療で経過していることが多い。TS-1は多くのがん疾患に対し広く使用されている抗がん剤であり近年、TS-1の副作用として角膜障害と涙道閉塞が報告されている。これらの副作用の発症は抗がん剤の投与期間、投与量、単独・併用治療などにより異なると考えられる。

## 【目的】

抗がん剤TS-1による眼障害の関連因子について調べる

## 【方法】

抗がん剤TS-1を内服している患者にアンケート調査を行った。内容はTS-1による眼障害に関する認知度、眼科既往歴、内科既往歴、TS-1内服後からの眼障害の有無に関して。39名の患者から回答が得られ、そのなかで眼科での診察を希望された26名を外来で診察し眼障害の有無により陽性群13名と陰性群13名に分けた。次に年齢、性別、総投与量、総投与日数、

眼障害発症までの期間、前治療の有無、単剤・併剤の別において眼障害と関連があるか解析を行った。角膜障害や涙道障害の既往のある人は含まれていなかった。

## 【結果】

年齢、総投与量、総投与日数において陽性群と陰性群の間で有意差が見られた。陽性群は陰性群よりも年齢が高かった ( $P=0.0077$ )。しかし総投与量、総投与日数など他の因子においては有意差が認められなかった。陽性群における眼障害発症までの投与期間は ( $MD \pm SD : 40.2 \pm 33.5$ (日)、range: 3~118(日)) で中央値は30日であった。TS-1投与患者の眼障害に関する認知度は23.1%であり、眼障害は角膜障害65.4%、涙道障害53.8%であり陽性患者の主訴は視力低下46.2%、流涙61.5%であった。TS-1投与後30日目においては陽性群と陰性群において腎機能障害は認められなかった。

## 【考察】

TS-1による眼障害の有無はTS-1の治療中止・継続に影響を及ぼし眼障害がなければ治療を長期にわたって継続できることがわかった。TS-1は前眼部（角膜・結膜）の正常な細胞分裂を阻害し炎症を誘発することがわかった。角結膜の幹細胞は年齢とともに低下することがわかっており再生・修復能の差が影響している可能性が示唆された。今後は涙液および血中濃度と眼障害との相関について調べることや多施設RCTでの大規模解析にて検証することが必要であると思われる。

補足：この研究成果は2014年World Ophthalmology Congressにて発表し、現在英語論文として投稿中である

**Table 1. Characteristics of S-1 chemotherapy recipients**

	Ocular Side Effects		P value
	Positive, n (%) (n = 13)	Negative, n (%) (n = 13)	
<b>Sex</b>			0.43
Men	6 (46.2)	8 (61.5)	
Women	7 (53.9)	5 (38.5)	
<b>Age</b>			0.0077
MD $\pm$ SD (years)	71.6 $\pm$ 6.8	63.5 $\pm$ 7.3	
Range (years)	54-80	49-76	
<b>Cancer Site</b>			
Stomach	5 (38.5)	3 (23.1)	
Breast	3 (23.1)	0 (0)	
Colon	2 (15.4)	7 (53.9)	
Pancreas	2 (15.4)	2 (15.4)	
Lung	1 (7.7)	0 (0)	
Mandibular	0 (0)	1 (7.7)	
<b>Cognition Rate</b>	5 (38.5)	1 (7.7)	0.080
<b>Total Dose</b>			0.54
MD $\pm$ SD (mg)	7682 $\pm$ 4876	9112 $\pm$ 6621	
<b>Total administration periods</b>			0.74
MD $\pm$ SD (days)	73.3 $\pm$ 49.6	87.2 $\pm$ 64.2	
<b>Pretreatment</b>			0.69
Done	6	5	
None	7	8	
<b>Prescription Method</b>			0.21
Single	7	4	
Combination	6	9	
<b>Time to Onset</b>			
MD $\pm$ SD (days)	40.2 $\pm$ 33.5		

## V. 9 上部消化管同時性・異時性11重癌の 一例

中央市民病院 頭頸部外科 篠原 尚吾

### 【業績の報告学会】

第37回日本頭頸部癌学会

2013年6月13日、14日

東京

### 【演者】

篠原 尚吾<sup>1)</sup>・菊地 正弘<sup>1)</sup>・占野 尚人<sup>2)</sup>

岡田 明彦<sup>2)</sup>・金沢 佑治<sup>1)</sup>・十名 理紗<sup>1)</sup>

原田 博之<sup>1)</sup>・宇佐美 悠<sup>3)</sup>・今井 幸弘<sup>3)</sup>

中央市民病院 頭頸部外科<sup>1)</sup>、消化器内科<sup>2)</sup>、臨床病理部<sup>3)</sup>

### 【概要】

はじめに 上部消化管の癌患者ではfield cancerizationの考え方から、治療後も定期的な内視鏡検査が施行されているが、近年その精度が増し小さな表在癌が発見可能となった。今回我々は5年の経過観察中に11カ所の上部消化管の癌を切除した症例を経験したので報告する。

症例 初診時65歳男性。飲酒歴：1日3合の日本酒、喫煙歴：20本×45年。2008年4月検診での上部消化管内視鏡で胃角後壁の粘膜不整を指摘。生検にて腺癌の診断のため同年9月ESDにて切除、その際に食道に2カ所、左梨状陥凹に1カ所粘膜病変を認め、食道病変に対してはESD、梨状陥凹の病変は生検のみ施行された。食道病変、下咽頭病変とも扁平上皮癌であり、下咽頭病変切除目的で当科へ紹介となった。同年10月湾曲型喉頭鏡で視野を展開し、EMRCによる下咽頭腫瘍切除術を施行した。その後、外来経過観察を継続中、右梨状陥凹、中咽頭後壁、口腔底、食道と扁平上皮癌が発生。その都度内視鏡的、経口的切除を繰り返していた。2009年7月両側頸部リンパ節腫大に対し両側レベル1-4番の郭清術を施行。右3番のみに扁平上皮癌の転移を認めた。この結果を受け、2009年8月から1年間、S-1の内服による維持化学療法を施行。その間は特に新規病変を認めなかった。2011年11月からさらに食道、左梨状陥凹、中咽頭右上壁と扁平上皮癌を切除。すべての病変が内視鏡所見や病理所見から独立したものであると思われ11重癌と判断した。現在無病生存中である。

# 上部消化管同時性・異時性11重癌の一例

篠原尚吾、岸本逸平、菊地正弘、占野尚人\*、岡田明彦\*、  
金沢佑治、十名理紗、原田博之、宇佐美 悠\*\*、今井幸弘\*\*  
神戸市立医療センター中央市民病院 頭頸部外科



\*消化器内科  
\*\*臨床病理部

## はじめに

上部消化管の癌患者ではfield cancerizationの考え方から、治療後も定期的な内視鏡検査が施行されているが、拡大内視鏡やNBI内視鏡など、近年その精度が増し小さな表在癌が発見可能となった。今回我々は5年の経過観察中に11カ所の上部消化管の癌を切除した症例を経験したので報告する

## 症例

症例: 65歳男性(初診時)

現病歴: 2008年4月検診での上部消化管内視鏡で胃角後壁の粘膜不整を指摘。生検にて腺癌の診断のため同年9月当院消化器内科でESD(Endoscopic submucous resection)にて切除、その際に食道に2カ所、左梨状陥凹に1カ所粘膜炎を認め、食道病変に対してはESD、梨状陥凹の病変は生検のみ施行された。食道病変、下咽頭病変とも扁平上皮癌であり、下咽頭病変切除目的で頭頸部外科へ紹介となった

既往歴: 特記すべきことなし

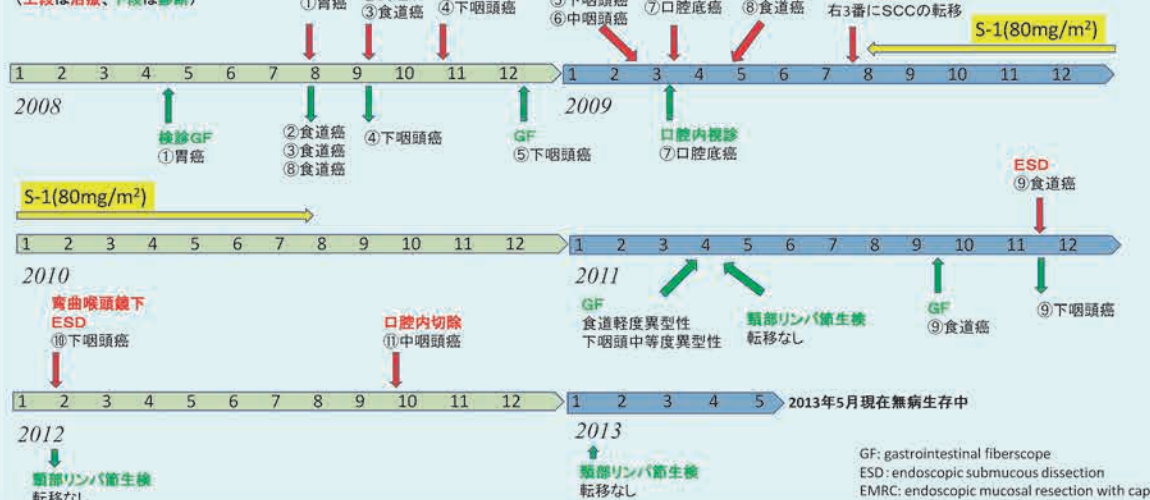
飲酒歴: 1日3合の日本酒

簡易フラッシング質問法: 現在の飲酒によるフラッシュ=NO、飲み始めのころの飲酒によるフラッシュ=YES

喫煙歴: 20本x45年

## 経過

(上段は治療、下段は診断)



## 内視鏡および病理所見

	①胃癌 胃角後壁 0-IIc Adeno	②食道癌 DL29cm後壁 0-IIb SCC T1a-EP	③食道癌 DL27cm後壁 0-IIb SCC T1a-EP	④下咽頭癌 右梨状陥凹 0-IIc SCC T1	⑤下咽頭癌 左梨状陥凹 0-IIb CIS	⑥中咽頭癌 後壁 0-IIb CIS	⑦口腔底癌 口腔底 Type1 SCC T1	⑧食道癌 DL27cm前壁 0-IIc SCC T1a-LPM 右3番(1/14) 左1-4右1.2.4 は陰性	リンパ節転移 扁平上皮癌 右3番(1/14)	⑨食道癌 DL38cm前壁 0-IIc SCC T1a-LPM	⑩下咽頭癌 左梨状陥凹 0-IIa CIS	⑪中咽頭癌 右上壁 0-IIa, 0-IIb SCC T1
内視鏡所見 通常光									N/A			
内視鏡所見 NBI									N/A			
病理所見 HE染色												

## 考察

頭頸部癌と食道癌は重複しやすいことが従来から知られており、Field cancerizationなる概念で理解されてきた。当院でも2004年から2010年までの6年間286例の統計で頭頸部癌の同時性・異時性重複癌が29%存在し、そのうち、食道癌が16例と最多であった(十名ら:耳鼻臨床2013)。頭頸部癌に罹患する患者は、飲酒者や喫煙者が多く、これらの危険因子の暴露により癌が多発的に引き起こされると考えられている。本症例もタバコ指数900の喫煙歴があり、その影響は十分に考えられる。同時に本症例は習慣的飲酒者であり、簡易フラッシング質問法によりいわゆるフラッシャーであると考えられ、2型アルデヒド脱水酵素(ALDH2)欠損型の遺伝型を取ることが予測される。ALDH2の変異型遺伝子による機能欠損は日本人を含む黄色人種にほぼ特異的に認められ、ヘテロ欠損型、ホモ欠損型の頻度は各々40%、10%と報告されている。アルコール摂取時のアルデヒドの蓄積がヘテロ型で6倍、ホモ型で19倍になるといわれており、習慣的な飲酒は頭頸部癌や食道癌のリスクが高くなるとされている。また、色素内視鏡下に多数の不染帯(multiple Lugol-voiding lesions: multiple LVL)が高頻度で観察されることも知られている(武藤:頭頸部癌2005)。本症例でも、色素内視鏡にてmultiple LVLが観察されており、定期的な上部消化管内視鏡で癌化の所見のあるものに対し、切除を繰り返している状況である。本症例では2009年7月に右レベルⅢの頸部リンパ節から扁平上皮癌が検出されたが、原発がどの部位であったかは不明である。頸部リンパ節郭清術後、補助化学療法として1年間S-1を投与したが、さらなる癌の進行や新規病変を認めなかったことで中止した。放射線治療に関しては、すべての病変が外科的に制御できていること、照射後の表在癌の発見が難しくなること、将来必要ときに再照射が困難になることから適応外と考えている。

## 結語

•5年間の経過観察期間中に表在癌を含み11カ所の独立した上部消化管の癌を切除した症例を経験した。  
•すべての原発病変が、比較的早期に発見され、口腔内・内視鏡的に切除可能であった。  
•多重癌の原因として、患者の喫煙歴、飲酒歴、およびALDH2欠損型遺伝子の関与が予測された。

## V. 10 中咽頭がんにおける治療前FDG-PET検査の有用性

中央市民病院 頭頸部外科 菊池 正弘

### 【研究の背景】

中咽頭がんにおいては、human papilloma virus (HPV)の感染の有無が予後規定因子であり、HPV陽性例は陰性例に比べ生命予後が有意に良好であることがわかってきた。現在、HPV陽性例に対して、治療効果を落とすことなく低侵襲な治療が可能かどうか、世界各国で臨床試験が行われている。一方で、HPV陽性例においても、酒・タバコの摂取により予後が悪化するとされており、HPV陽性例において安全に縮小治療を行うには、さらなるリスクの階層化が必要であると言える。

### 【研究の仮説】

我々は、すでに中咽頭がん患者検体のp16タンパク、p53タンパクの免疫染色はHPV感染と喫煙歴の有無のサロゲートマーカーとなり、p16陽性及びp53陰性患者の生命予後が良好であることを論文報告した(Shinohara S, Kikuchi M et al. JICO, 2014)。

p16タンパク、p53タンパクの免疫染色は日常臨床で容易に実施可能であり、中咽頭癌のリスク層別化を行ううえで優れたバイオマーカーであると考えているが、p53タンパク陰性は必ずしもp53野生型であることを意味せず(ナンセンス変異のようなp53変異型であることもある)、p16陽性及びp53陰性患者のなかにp53変異型のハイリスク患者を含む可能性があることが欠点であった。

そこで我々は、中咽頭がんにおける治療前FDG-PET検査がp16、p53タンパクの発現とは独立した予後予測因子であり、中咽頭がん治療において、p16、p53タンパクの有無に加えFDG-PET検査による評価を行うことでさらなるリスクの層別化が可能であり、真の低リスク群患者の抽出が可能であると考えた。

### 【研究の目的】

2005年から2012年までの間に当科で加療を行った中咽頭がん47例(T stage1/2/3/4=15/17/4/11, N stage 0/1/2/3=11/3/3/1/2, 臨床病期1/2/3/4=3/4/6/34, 根治治療法; OP/RT=18/29)を対象に後ろ向きに検討した(経過観察中央値30ヵ月)結果、治療前FDG-PET検査の最適パラメータは総病変のmetabolic tumor volume (MTV)であり、カットオフ値は65であった。

また、p16タンパク、p53タンパク、総病変のMTV

の3つのリスク因子をスコア化し、リスクが無いものを0点、あるものを1点に定め、総スコア(0点~3点)別に無再発生存率(DFS)・疾患特異的生存率(DSS)・総生存率(OS)を比較した結果、いずれにおいても総スコア0の群、つまり3つのリスクを一つももたない群の生存率が有意に良好である結果を得た。

以上より、上記3つのリスクが全て陰性の場合は低リスクであり、治療効果を損なうことなく、治療関連副作用の少ない低侵襲治療を行う対象になる可能性があると考えている。

上記の結果を2013年度に

- 1) 第37回日本頭頸部癌学会で口演
  - 2) 第24回日本頭頸部外科学会で口演した。
- 2014年度の笠原癌研究で継続研究中であり、すでに
- 3) 日本頭頸部外科学会誌に論文採択決定
  - 4) Head and Neckに論文採択決定
  - 5) 第5回IFHNOS, 2014AHNSで口演済みである。

論文の内容は2014年度の報告で行う予定である。

## V. 11 拡散強調画像を用いた耳下腺腫瘍術前診断アルゴリズムの妥当性の検討

中央市民病院 頭頸部外科 菊池 正弘

### 【目的】

拡散強調MRIで腫瘍のapparent diffusion coefficient (ADC)を測定後、必要に応じTcシンチグラフィーとFNAを行う以下の術前診断アルゴリズムに基き手術を行った耳下腺腫瘍を前向きに症例蓄積し、そのアルゴリズムの妥当性につき検証した。

当科の耳下腺腫瘍術前診断アルゴリズム：腫瘍の拡散強調像でのADCが $1.5 \times 10^{-3} \text{mm}^2/\text{s}$ 以上の場合(第1群)は多形腺腫と診断。腫瘍のADCが $1.5 \times 10^{-3} \text{mm}^2/\text{s}$ 未満の場合、40歳以上の男性にはTcシンチグラフィーを行い、陽性の場合(第2群)はワルチン腫瘍と診断し、陰性の場合(第3群)はFNAを行う。ADCが $1.5 \times 10^{-3} \text{mm}^2/\text{s}$ 未満で、女性あるいは40歳未満の男性の場合(第4群)はTcシンチグラフィーをせずにFNAを行う。

### 【対象】

2011年7月~2013年10月に耳下腺手術を行った62例中、除外症例9例を除く53例。

## 【結果】

術前診断カテゴリーと術後病理組織診断: 第1群(21例); 多形腺腫19例・神経鞘腫1例・腺房細胞癌1例、第2群(12例); ワルチン腫瘍11例・導管癌1例、第3・4群(20例); 多形腺腫9例・ワルチン腫瘍1例・悪性腫瘍5例・その他良性腫瘍5例。FNA結果: 第3・4群において全例良悪性鑑別が可能で、かつ大半の病理組織診断が可能であった。

## 【結論】

多形腺腫及びワルチン腫瘍の多くは術前画像検査のみで診断が可能である。FNAを行う対象を悪性腫瘍の可能性のある症例に絞ることが可能になる点で、我々の術前診断アルゴリズムの有用性は高いと思われる。

上記の結果を2013年第38回頭頸部癌学会で口演し、現在論文執筆中である。

## V. 12 当院で治療を行った口腔・咽頭癌患者に対する、フラッシング反応のアンケート調査と重複癌発生率に関する研究

中央市民病院 頭頸部外科 原田 博之・篠原 尚吾

### 【はじめに】

喫煙と飲酒は頭頸部扁平上皮癌の確立されたリスクファクターであるが全ての喫煙・飲酒者が癌に罹患するわけではなく喫煙やアルコールが及ぼす影響には個人差があると思われる。アルコールに関していえば、日本人を含む黄色人種においてaldehyde dehydrogenase-2 (ALDH2) の遺伝子多型のうちヘテロ欠損型とホモ欠損型の場合に少量飲酒後の顔面紅潮(フラッシング反応)がおこる。これはacetaldehydeの蓄積による急性反応が考えられており、フラッシャーの習慣的飲酒によるacetaldehydeの慢性的な暴露は、食道癌のリスクが高くなるという報告がなされている。一方、頭頸部癌においては、上部消化管への異時性、同時性重複癌を発生しやすいことが知られている。本研究ではフラッシング反応と口腔・咽頭癌の上部消化管の重複癌発生状況を明らかにし、フラッシャーか否かを知ることが重複癌のスクリーニングに寄与するかどうかを検討した。

### 【対象と方法】

対象: 2004年から2011年まで当科で治療を行い2年以

上経過した口腔・咽頭癌(上咽頭癌は除く)患者240例に対し喫煙歴・飲酒歴、そしてYokoyamaら<sup>1)</sup>の簡易フラッシング質問紙法に基づきフラッシャーか否かをアンケートで回答してもらい、返信があった125例(52%)〈男性95例、女性30例、平均年齢69.9歳、中央値70歳、平均観察期間4.2年、中央値3.7年〉に対し重複癌の発生状況など各データとの関連性を検討した

方法: 喫煙習慣、飲酒習慣、フラッシング反応の有無と、重複癌発生率について検討した

- ①10pack-year(1日の喫煙箱数×喫煙年数)以上の喫煙歴があるか、否かで多量喫煙者と非多量喫煙者に分類した
- ②飲酒歴は1日平均のアルコール摂取量(20g未満と20g以上)により飲酒習慣を多量飲酒者と非多量飲酒者に分類した(参考: 日本酒1合の含有アルコール量は約20g)
- ③下記のいずれかが‘はい’であればフラッシャーとし、それ以外は非フラッシャーとした。
  - ・現在、ビールをコップ一杯以下程度飲んですぐ顔が赤くなる体質ですか?
  - ・飲酒を始めたころの1~2年にビールをコップ一杯以下程度飲んですぐ顔が赤くなっていましたか?

### 【結果】

重複癌をみとめたのは125例中48例(38%)で、その48例中24例(全体の19%)に上部消化管(口腔~胃まで)に重複癌がみとめられた。

頭頸部領域の初発癌と上部消化管重複癌の部位の組み合わせで最も多かったものが下咽頭-食道で、それらの症例9例中7例(78%)がフラッシャーであった。ついで多かった組み合わせ、口腔-口腔では4例中3例(75%)がフラッシャーであった。

各々のリスク因子による上部消化管重複癌累積発生率を検討したところ(カプランマイヤー法)、5年では多量喫煙者19% VS 非多量喫煙者10%、多量飲酒者23% VS 非多量飲酒者7%、フラッシャー22% VS 非フラッシャー11%であった。

喫煙、飲酒、フラッシャーをリスク因子として上部消化管重複癌の発生をCox比例ハザードモデル単変量と多変量解析で検討した。単変量解析では、大量飲酒のみで有意差を認めた(ハザード比1.6、P=0.03、95%信頼区間 1.03-2.47)。次いで多変量解析では、いずれも有意差はみとめなかった。

## 【考察】

幕内ら<sup>2)</sup>は頭頸部癌1320例の食道ヨード染色による検診で12.5%の食道癌を拾い上げ、特に下咽頭癌では35.8%に食道癌を重複していたと報告している。今回我々の結果においても、下咽頭癌と食道癌の合併が多くみられ、この両者において何らかの発癌要因である一定の領域に癌が多発する‘field cancerization’が頻発すると考えられた。

また、Mutoら<sup>3)</sup>は飲酒、喫煙に加えALDH2のヘテロ欠損型のアルコール依存症が食道癌発症に強く関連することを明らかにしている。ALDH2欠損型の検出法としては、簡易フラッシング質問紙法によるものがYokoyamaらにより感度90%、特異度88%と報告されており今回使用した。

今回の検討では有意差は出なかったが、遺伝子検査により正確なALDH2の欠損型が検出されれば有意差がでる可能性もあり、喫煙、飲酒とともに、簡易フラッシング質問紙法によるフラッシャーは上部消化管重複癌の発生率が上昇する傾向をみとめフラッシャーに対しては重複癌の発生を念頭に置いて、上部消化管のスクリーニング検査を定期的に行っていく必要があると思われる。症例を重ね、さらなる検討が必要と考える。

## 【まとめ】

近年癌治療の進歩により、複数の癌に罹患しても長期の生命予後が期待できる。そのためには、根治可能な早期癌の段階で発見することが重要である。

その方法としてフラッシング反応の問診のような簡便な方法で、重複癌のハイリスク患者の選別を行えば有用であると考えられる。

## 文 献

- (1) Yokoyama A, Muramatsu T, Ohmori T, et al : Esophageal cancer and aldehyde dehydrogenase-2 genotypes in Japanese males. *Cancer epidemiology, biomarkers & prevention : a publication of the American Association for Cancer Research, cosponsored by the American Society of Preventive Oncology* 5 : 99-102, 1996
- (2) 幕内博康, 島田英雄, 千野 修, 他 : 食道癌と他臓器重複癌 - EMR 時代を迎えて 食道癌手術症例にみられる他臓器重複癌 EMR 症例も含めて. *胃と腸* 38, 2003
- (3) Muto M, Hitomi Y, Ohtsu A, et al : Association

of aldehyde dehydrogenase 2 gene polymorphism with multiple oesophageal dysplasia in head and neck cancer patients. *Gut* 47 : 256-261, 2000

## V. 13 当院における下咽頭癌の放射線治療成績

中央市民病院 放射線治療科

小坂 恭弘・小久保 雅樹  
頭頸部外科  
篠原 尚吾・菊地 正弘  
金沢 佑治

### 【目的】

当院は2011年7月に病院移転に伴い、放射線治療機器を更新し、2012年7月からは強度変調放射線治療(IMRT)を開始した。IMRT導入にあたり、旧病院での下咽頭癌の放射線治療成績をretrospectiveに検討した。

### 【対象と方法】

対象は2005年1月～2011年6月に当院で根治的放射線治療を行った下咽頭扁平上皮癌50例。年齢は40～85歳(中央値68歳)、男性45例、女性5例。24例で重複癌の既往があった(9例は同時重複)。内4例で縦隔への放射線照射歴があり、1例で頭頸部領域への放射線治療歴があった。下咽頭癌の発生部位は梨状陥凹/後壁/輪状後部が各34/13/3例であった。T分類は1/2/3/4a/4bが各15/16/2/15/2例、N分類は0/1/2a/2b/2c/3が各14/8/1/14/10/3例、StageはI/II/III/IVA/IVBが各8/5/6/27/4例であった。放射線治療は通常照射40例で総線量40-70Gy(中央値60Gy)、過分割照射10例で総線量63.2-72Gy(中央値69Gy)であった。照射野は全頸部照射を基本としたが、高齢やPS不良例、照射歴のある症例などは照射野を病変中心に局限した。化学療法は照射前29例、同時31例、照射後13例で使用した。計画的頸部郭清は8例で施行した。

### 【結果】

一次効果はCR 40例、PR 8例、SD 2例であった。観察期間は全患者で1.9～96.6カ月(中央値29.7カ月)、生存者で2.2～96.6カ月(中央値41.1カ月)。Stage別の3年疾患特異的生存率はI/II/III/IVA/IVBが各83.3%/100%/100%/65.5%/37.5%、3年無再発生存率はI/II/III/IVA/IVBが各72.9%/60.0%/62.5%/48.8%/0%であった。Stage I、IIで再発は4例存在したが、いずれ



も過去の照射歴、高齢、コンプライアンス不良のため、総線量を減らしたり照射を限定するなど治療が不十分な症例であった。Stage IVBの4例のうち2例はCRとなったが、後に再発した。

#### 【結論】

当院における下咽頭癌の放射線治療成績は概ね良好であった。Stage IVBの成績は極めて悪く、更なる治療成績改善の余地があると考えられた。今後はIMRTによる線量分布の改善により有害事象を抑えつつ線量増加が図れ、特に照射歴のある症例や局所進行症例において治療成績の向上に寄与する可能性があると考えられた。

#### 【発表】

本要旨を2013年6月13日・14日に東京で行われた日本頭頸部癌学会にて発表した。

悪性腫瘍早期発見に対する取り組みも重要である。  
現在は更なる症例の蓄積を行い、報告途中である。

## V. 14 救急外来で診断された悪性腫瘍

中央市民病院 救命救急センター 水 大介

悪性腫瘍は最も多い死因であるが、緊急性があることは少ないが、救急外来を受診し診断されることも少なくない。救急外来で診断された悪性腫瘍について後方視的に検討し、救急外来が悪性腫瘍診断の場として必要なものであることを検証したい。

2011年1月1日から2012年12月31日までの24ヶ月間に救急外来を受診し悪性腫瘍（脳腫瘍は除外）と診断された18歳以上の患者の臨床像をカルテから後方視的に検討した。

対象患者は60例。男女比は24：36であり平均年齢は70±14歳（43-91歳）であった。大腸癌が最多で17例であり、肺癌11例、卵巣癌6例と続いた。消化器系腫瘍および婦人科系腫瘍では腹痛を主訴に来院している場合が多く、肺癌では呼吸苦および胸痛を主訴に来院することが多かった。また他臓器への転移を認めた患者は26例（43%）、消化管出血や腸閉塞などの緊急での治療介入を必要とした患者は18例（30%）であった。不定愁訴（食欲低下・倦怠感）を主訴に来院した例は5例（8%）であった。

早期の悪性腫瘍は自覚症状に乏しい。しかし救急外来を受診する患者の多くはすでに他臓器への転移や緊急治療が必要な状態となっている。検診などの定期的な医療機関での診療も重要であるが、救急外来におけ

## V. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

### (2) 松本アレルギー疾患研究事業

#### V. 15 アレルギー診療における抗原診断の 有用性

中央市民病院 小児科 岡藤 郁夫  
橋本 成之  
田中 裕也

食物アレルギー診断のゴールドスタンダードは経口負荷試験であるが、これにはアレルギー症状を誘発するリスクが伴う。我々は本基金の援助を受けて、ピーナッツアレルギーが疑われる患者について、従来の血清を利用した特異的IgE抗体測定よりも有用性の高い抗原診断ツールの検討として、ピーナッツの主要アレルゲンであるコンポーネント蛋白Ara h2に対する好塩基球活性化試験（BAT）を行っている。2013年4月から2014年2月現在までに20例行い、以前から計測していたものも含めて28例の結果と実際に施行した経口負荷試験の結果から、感度83.3%、特異度85.7%と高い有用性を確認している。また、BATに反応しにくいlow-responderが3例（10.7%）あり、文献で報告されている5～10%の範囲であることを確認している。

これまでの結果を予備データとして、2014年3月からピーナッツコンポーネント蛋白Ara h2に対する特異的IgE抗体検査とBATを組み合わせるピーナッツアレルギーの診断精度を高めることが出来ないかどうか調べる臨床研究を予定している。これにより、ピーナッツアレルギー診断確定のための経口負荷試験を行うことなくピーナッツを除去することの妥当性を高め、経口負荷試験の対象者を必要最小限に限定できる可能性がある。

VI. 病 院 別 診 療 科 別  
論文発表及び学会報告数

## VI. 病院別診療科別論文発表及び学会報告数

(2013.4.1 ~ 2014.3.31)

中央市民病院	論文発表	学会報告
循環器内科	19	108
糖尿病・内分泌内科	7	43
腎臓内科	3	27
神経内科	7	26
消化器内科	2	69
呼吸器内科	15	58
血液内科	18	52
腫瘍内科	12	114
緩和ケア内科	0	5
感染症科	9	33
精神・神経科	2	3
小児科	5	17
新生児科	1	4
皮膚科	7	15
外科・移植外科	3	65
乳腺外科	1	9
心臓血管外科	13	37
呼吸器外科	1	11
脳神経外科	48	134
整形外科	6	36
形成外科	1	2
産婦人科	3	28
泌尿器科	6	53
眼科	16	83
耳鼻咽喉科	24	57
頭頸部外科	6	21
麻酔科	2	32
歯科・歯科口腔外科	3	23
臨床病理科	24	32
放射線診断科	1	12
放射線治療科	10	53
救急科	12	80
総合診療科	16	43
看護部	32	37
薬剤部	7	52
臨床検査技術部	1	25
放射線技術部	0	9
リハビリテーション技術部	1	14
臨床工学技術部	0	12
栄養管理部	7	3
情報企画課	1	8

西市民病院	論文発表	学会報告
循環器内科	0	1
糖尿病・内分泌内科	4	25
腎臓内科	-	-
神経内科	0	2
消化器内科	1	16
呼吸器内科	14	31
リウマチ・膠原病内科	-	-
血液内科	0	0
臨床腫瘍科	0	0
精神・神経科	5	7
小児科	3	4
皮膚科	0	3
外科・呼吸器外科・消化器外科	2	14
整形外科	2	8
産婦人科	-	-
泌尿器科	0	11
眼科	6	17
耳鼻咽喉科	-	-
麻酔科	0	0
歯科口腔外科	4	10
臨床病理科	-	-
放射線科	-	-
救急総合診療部	3	1
総合内科	-	-
看護部	0	6
薬剤部	0	1
臨床検査技術部	0	14
放射線技術部	0	4
リハビリテーション技術部	3	6
臨床工学室	-	-
栄養管理室	0	2
医事課医事係	1	1

法人本部	論文発表	学会報告
経営企画室	0	1

※神戸市立病院紀要第53巻(平成26年)に掲載した論文発表及び学会報告から集計した数。

西神戸医療センター	論文発表	学会報告
循環器内科	-	-
内分泌糖尿内科	0	8
腎臓内科	0	5
神経内科	1	3
消化器内科	0	31
呼吸器内科	2	5
免疫血液内科	2	5
精神・神経科	8	67
小児科	7	25
皮膚科	20	21
外科・消化器外科	2	35
呼吸器外科	4	11
脳神経外科	5	16
整形外科	3	14
産婦人科	3	5
泌尿器科	4	19
眼科	1	6
耳鼻いんこう科	5	18
麻酔科	0	5
歯科口腔外科	0	2
病理科	-	-
放射線科	0	4
看護部	3	9
薬剤部	0	11
臨床検査技術部	0	19
放射線技術部	0	7
リハビリテーション技術部	1	3
臨床工学室	0	8
栄養管理室	0	3

先端医療センター	論文発表	学会報告
総合腫瘍科	15	35
細胞治療科	-	-
血管再生科	14	10
脳血管内治療科	-	-
整形外科	-	-
眼科	-	-
耳鼻いんこう科	29	41
歯科口腔インプラント科	-	-
放射線治療科	10	52
PET診療部	-	-
看護部	0	1
薬剤科	0	1
臨床検査技術科	0	5
放射線技術科	2	20
栄養管理科	0	2

※神戸市立病院紀要第53巻(平成26年)に掲載した論文発表及び学会報告から集計した数。

## VII. 論 文 発 表

## Ⅶ. 論文発表

### Ⅶ. 1 中央市民病院

#### Ⅶ. 1. 1 循環器内科

1. 江原夏彦, 豊田俊彬, 井手裕也, 山室 淳, 岡田行功, 藤井洋子, 北井 豪, 金 基泰, 小西康信, 小山忠明, 紺田利子, 川井順一, 角田敏明, 西野共達, 加地修一郎, 木下 慎, 中村仁美, 福永直人, 糀谷泰彦, 菅沼真生子, 羽溪 健, 小堀敦志: 徹底探索心エコー～症例と画像で学ぶ心エコー図重要ポイント, 谷 知子編集, 古川 裕監修, 日本医事新報社, 東京, 1-264, 2013
2. Ozasa N, Morimoto T, Bao B, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Iwabuchi M, Shizuta S, Shiomi H, Tazaki J, Natsuaki M, Kimura T; on behalf of the CREDO-Kyoto registry investigators:  $\beta$ -blocker use in patients after percutaneous coronary interventions: One size fits all? Worse outcomes in patients without myocardial infarction or heart failure. *Int J Cardiol* 168: 7744-7779, 2013
3. 北井 豪: 診断のテクニックが必ずアップする心エコー講座 第14回所見から考える (6) 腫瘍エコーを見たら? *CIRCULATION Up-to-Date* 8: 317-323, 2013
4. Kitai Y, Ozasa N, Morimoto T, Bao B, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Yanagita M, Shizuta S, Kimura T; on behalf of the CREDO-Kyoto registry investigators: Prognostic implications of anemia with or without chronic kidney disease in patients undergoing elective percutaneous coronary intervention. *Int J Cardiol* 168: 5221-5228, 2013
5. Kitai T, Kaji S, Kim K, Ehara N, Tani T, Kinoshita M, Furukawa Y: Prognostic value of sustained elevated C-reactive protein levels in patients with acute aortic intramural hematoma. *J Thorac Cardiovasc Surg* 147: 326-331, 2014
6. Sato Y, Minatoguchi S, Nishigaki K, Hirata K, Masuyama T, Furukawa Y, Uematsu M, Yoshikawa J, Otsuji S, Iida M, Fujiwara H; for the SHYOGI study investigators: Design of prospective study of acute coronary syndrome hospitalization after smoking ban in public places in Hyogo prefecture: Comparison with Gifu, a prefecture without a public smoking ban. *J Cardiol* 63: 165-168, 2014
7. Tani T, Okada Y, Kita T, Furukawa Y: Destructive acute infective endocarditis and purulent pericarditis. *J Echocardiogr* 11: 164-166, 2013
8. Toyota T, Furukawa Y, Ehara N, Funakoshi S, Morimoto T, Kaji S, Nakagawa Y, Kadota K, Iwabuchi M, Shiomi H, Yamamuro A, Kinoshita M, Kitai T, Kim K, Tani T, Kobori A, Kita T, Sakata R, Kimura T; Credo-Kyoto Investigators: Sex-based differences in clinical practice and outcomes for Japanese patients with acute myocardial infarction undergoing primary percutaneous coronary intervention. *Circ J* 77: 1508-1517, 2013
9. Nishino T, Furukawa Y, Kaji S, Ehara N, Shiomi H, Kim K, Kitai T, Kinoshita M, Morimoto T, Sakata R, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG registry cohort-2 investigators: Distinct Survival Benefits of Angiotensin-Converting Enzyme Inhibitors/Angiotensin II Receptor Blockers in Revascularized Coronary Artery Disease Patients According to History of Myocardial Infarction. *Circ J* 77: 1242-1252, 2013
10. Nishino T, Ehara N, Kim K, Yamamuro A, Kitai T, Kobori A, Kinoshita M, Kaji S, Tani T, Okada Y, Furukawa Y: Progression of left main coronary artery disease 3 years after Bentall operation in a young female with Marfan syndrome. *Cardiovasc Interv Ther* 28: 206-212, 2013

11. 羽溪 健, 加地修一郎: 心臓CTで見えるもの. 心エコー 14: 938-946, 2013
12. Fujita Y, Kinoshita M, Furukawa Y, Nagano T, Hashimoto H, Hiram Y, Kurimoto Y, Arakawa K, Yamazaki K, Okada Y, Katakami N, Uno E, Matsubara Y, Fukushima M, Nada A, Losordo DW, Asahara T, Okita Y, Kawamoto A: Phase II Clinical Trial of CD34+ Cell Therapy to Explore Endpoint Selection and Timing in Patients With Critical Limb Ischemia. Circ J 78: 490-501, 2014
13. 藤原雄太, 佐々木翔, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 小林宏正, 日野 恵, 古川 裕, 石原 隆: アミオダロン服用中の甲状腺機能に関する検討. 心臓 45: 1101-1109, 2013
14. 古川 裕: 最新の動脈硬化診療 どう診断し、どう治療するか? IV章: 血行再建術の適応と実際 27. 経皮的冠動脈形成術 (PCI) と冠動脈バイパス術 (CABG). medicina 50: 1080-1083, 2013
15. 古川 裕, 仲村直子: 急性期病院が担うべき心不全治療とその実態. 日本循環器看護学会誌 9: 27-28, 2013
16. Marui A, Okabayashi H, Komiya T, Tanaka S, Furukawa Y, Kita T, Kimura T, Sakata R; CREDO-Kyoto Investigators: Impact of occult renal impairment on early and late outcomes following coronary artery bypass grafting. Interact Cardiovasc Thorac Surg 17: 638-643, 2013
17. Morikami Y, Natsuaki M, Morimoto T, Ono K, Nakagawa Y, Furukawa Y, Sakata R, Aota M, Okada Y, Onoe M, Kawasuji M, Koshiji T, Nakajima H, Nishizawa J, Yamanaka K, Yamamoto H, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG registry cohort-2 investigators: Impact of polyvascular disease on clinical outcomes in patients undergoing coronary revascularization: An observation from the CREDO-Kyoto Registry Cohort-2. Atherosclerosis 228: 426-431, 2013
18. Yamamoto E, Natsuaki M, Morimoto T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ono K, Mitsudo K, Nobuyoshi M, Doi O, Tamura T, Tanaka M, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-2 Investigators: Long-term outcomes after percutaneous coronary intervention for chronic total occlusion (from the CREDO-Kyoto registry cohort-2). Am J Cardiol 112: 767-774, 2013
19. Bao B, Ozasa N, Morimoto T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Iwabuchi M, Shizuta S, Shiomi H, Tada T, Tazaki J, Kato Y, Hayano M, Natsuaki M, Fujiwara H, Mitsudo K, Nobuyoshi M, Kita T, Kimura T:  $\beta$ -Blocker therapy and cardiovascular outcomes in patients who have undergone percutaneous coronary intervention after ST-elevation myocardial infarction. Cardiovasc Interv Ther 28: 139-147, 2013

## VII. 1.2 糖尿病・内分泌内科

1. 石原 隆: 内分泌代謝と症候学. 内分泌代謝学, 中尾一和 編, 第1版, 診断と治療社, 東京, 878-881, 2013
2. 石原 隆: 甲状腺疾患. 健康と笑顔 21: 2-3, 2013
3. 石原 隆: 亜急性甲状腺炎・橋本病急性増悪・急性化膿性甲状腺炎. 甲状腺疾患診療マニュアル, 田上哲也 他 編, 第2版, 診断と治療社, 東京, 77-79, 2013
4. 岩倉敏夫: 糖尿病治療薬による重症低血糖の問題について. 神戸市医師会報 628: 86-87, 2013
5. 佐々木翔, 石原 隆, 森野隆広, 近藤まりこ, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 日野 恵: 甲状腺癌<sup>131</sup>I治療におけるSPECT/CT fusion画像の有用性の検討. 第22回臨床内分泌代謝Update Proceeding 89: 49-51, 2013



6. Sasaki S, Fujisawa I, Ishihara T, Tahara Y, Kazuma M, Fujiwara Y, Iwakura T, Hino M, Matsuoka N : A novel hook-shaped enhancement on contrast-enhanced sagittal magnetic resonance image in acute Sheehan's syndrome : a case report. *Endocrine J* 61 : 71–76, 2014
7. 藤原雄太, 佐々木翔, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 小林宏正, 日野 恵, 古川 裕, 石原 隆 : アミオダロン服用中の甲状腺機能に関する検討. *心臓* 45 : 1101–1109, 2013

#### VII. 1.3 腎臓内科

1. Kamiura N, Hirahashi J, Matsuzaki Y, Idei M, Takase O, Fujita T, Takato T, Hishikawa K : Basic helix-loop-helix transcriptional factor MyoR regulates BMP-7 in acute kidney injury. *Am J Physiol Renal Physiol* 304 : F1159–1166, 2013
2. Kamiura N, Yamamoto K, Okada S, Sakai M, Fujimori A : Calcification of the thoracic aorta determined by three-dimensional computed tomography predicts cardiovascular complications in patients undergoing hemodialysis. *Int Urol Nephrol* 46 : 993–998, 2014
3. 畑 玲央, 上浦 望, 村上 徹, 木下啓太, 小西康信, 上田浩之, 吉本明弘 : 心臓外科手術後に左腕頭静脈狭窄によるシャント肢の静脈高血圧症を合併した血液透析患者の1例. *臨牀透析* 30 : 467–470, 2014

#### VII. 1.4 神経内科

1. 川本未知, 幸原伸夫 : 人工呼吸器を装着したボンペ病2姉妹例の長期酵素補充療法. *ボンペ病症例集*, 梶中 征哉 編, 第1版, メディカルトリビューン, 東京都, 75–81, 2013
2. 佐藤 譲, 幸原伸夫, 浜田知久馬 : 糖尿病性末梢神経患者を対象とした日本語版改訂トロント臨床神経障害スコアの信頼性検討試験. *糖尿病* 56 : 932–937, 2013
3. 藤堂謙一, 幸原伸夫 : 遺伝性出血性毛細血管拡張症 (Rendu-Osler-Weber病). *別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ26 神経症候群 (第2版)*, 日本臨牀社, 368–371, 2013
4. 山本司郎, 永野誠治, 芝田純也, 國枝武治, 今井幸弘, 幸原伸夫 : 脳室炎と類似する画像所見を呈した中枢原発性悪性リンパ腫. *臨床神経学* 53 : 831–834, 2013
5. Yamamoto S, Todo K, Kawamoto M, Kohara N : Carotid artery dissection associated with an elongated styloid process. *Intern Med* 52 : 1005–1006, 2013
6. 橋本修治, 幸原伸夫 : *臨床電気神経生理学の基本*, 初版, 診断と治療社, 東京, 2013
7. 当院神経内科, 循環器内科のスタッフ : *抗血栓薬クリニカルクエスション*, 初版, 診断と治療社, 東京, 2013

#### VII. 1.5 消化器内科

1. Masashi Fukushima, Yoshifumi Suga, Chiharu Kawanami : Successful Endoscopic Resection of Inverted Meckel's Diverticulum by Double-Balloon Enteroscopy. *CLINICAL GASTROENTEROLOGY AND HEPATOLOGY* 11 : e35, 2013
2. Masashi Fukushima, Chiharu Kawanami, Satoko Inoue, Yukihiro Imai, Tetsuro Inokuma : Enteropathy-associated T-cell Lymphoma diagnosed and followed-up by using double-balloon enteroscopy. *Gastrointestinal Endoscopy* 78 : 361–363, 2013

## VII. 1.6 呼吸器内科

1. Yoshihiro Kanemitsu, Hisako Matsumoto, Kenji Izuhara, Yuji Tohda, Hideo Kita, Takahiko Horiguchi, Kazunobu Kuwabara, Keisuke Tomii, Kojiro Otsuka, Masaki Fujimura, Noriyuki Ohkura, Katsuyuki Tomita, Akihito Yokoyama, Hiroshi Ohnishi, Yasutaka Nakano, Tetsuya Oguma, Soichiro Hozawa, Tadao Nagasaki, Isao Ito, Tsuyoshi Oguma, Hideki Inoue, Tomoko Tajiri, Toshiyuki Iwata, Yumi Izuhara, Junya Ono, Shoichiro Ohta, Mayumi Tamari, Tomomitsu Hirota, Tetsuji Yokoyama, Akio Niimi, Michiaki Mishima : Increased periostin associates with greater airflow limitation in patients receiving inhaled corticosteroids. *J Allergy Clin Immunol* 132 : 302–312, 2013 (doi: 10.1016/j.jaci.2013.04.050)
2. Jiro Kitamura, Yutaka Takahashi, Shinya Neri, Keisuke Tomii, Nobuyuki Katakami : Lung Squamous Cell Carcinoma in a Young Female Never Smoker: A Case Report. *Ann Thorac Cardiovasc Surg.* doi: 10.5761/atcs.cr.12.02045
3. Jumpei Takeshita, Katsuhiko Masago, Shiro Fujita, Akito Hata, Reiko Kaji, Takahisa Kawamura, Koji Tamai, Takeshi Matsumoto, Kazuma Nagata, Kyoko Otsuka, Atsushi Nakagawa, Kojiro Otsuka, Keisuke Tomii, Takashi Shintani, Kenji Takayama, Masaki Kokubo, Nobuyuki Katakami : Weekly administration of paclitaxel and carboplatin with concurrent thoracic radiation in previously untreated elderly patients with locally advanced non-small-cell lung cancer: A case series of 20 patients. *Mol Clin Onc* 2 : 454–460, 2014 (DOI: 10.3892/mco.2014.249)
4. Ryo Tachikawa, Keisuke Tomii, Ryutaro Seo, Kazuma Nagata, Kyoko Otsuka, Atsushi Nakagawa, Kojiro Otsuka, Hisako Hashimoto, Ken Watanabe, Norio Shimizu : Detection of Herpes Viruses by Multiplex and Real-Time Polymerase Chain Reaction in Bronchoalveolar Lavage Fluid of Patients with Acute Lung Injury or Acute Respiratory Distress Syndrome. *Respiration* 87 : 279–286, 2014 (DOI: 10.1159/000355200.2013)
5. Kosuke Tanaka, Akito Hata, Reiko Kaji, Shiro Fujita, Takehiro Otoshi, Daichi Fujimoto, Takahisa Kawamura, Koji Tamai, Jumpei Takeshita, Takeshi Matsumoto, Kazuya Monden, Kazuma Nagata, Kyoko Otsuka, Atsushi Nakagawa, Ryo Tachikawa, Kojiro Otsuka, Keisuke Tomii, Nobuyuki Katakami : Cytokeratin 19 Fragment Predicts the Efficacy of Epidermal Growth Factor Receptor-Tyrosine Kinase Inhibitor in Non-Small-Cell Lung Cancer Harboring EGFR Mutation. *J Thorac Oncol* 8 : 892–898, 2013
6. 富井啓介：救急外来における急性呼吸不全の管理（特集：急性呼吸不全の管理）。*呼吸と循環* 61 : 731–739, 2013
7. 富井啓介：咳。コモンディーズブック，日本内科学会専門医部会 編，日本内科学会，東京，25–30，2013
8. 富井啓介：急性呼吸不全。わかりやすい内科学，井村裕夫 編，第4版，文光堂，東京，85–89，2014
9. 永田一真，富井啓介：びまん性肺胞出血：困難な診断・治療に対するエビデンスからの検討，（特集 急性呼吸不全）。*Intensivist* 5 : 867–878, 2013
10. Akito Hata, Nobuyuki Katakami, Hiroshige Yoshioka, Jumpei Takeshita, Kosuke Tanaka, Shigeki Nanjo, Shiro Fujita, Reiko Kaji, Yukihiro Imai, Kazuya Monden, Takeshi Matsumoto, Kazuma Nagata, Kyoko Otsuka, Ryo Tachikawa, Keisuke Tomii, Kei Kunimasa, Masahiro Iwasaku, Akihiro Nishiyama, Tadashi Ishida, Yoshihiro Nishimura : Rebiopsy of non-small cell lung cancer patients with acquired resistance to epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitor: Comparison between T790M mutation-positive and mutation-negative populations. *Cancer* 119 : 4325–4332, 2013

11. Akito Hata, Nobuyuki Katakami, Kosuke Tanaka, Jumpei Takeshita, Takeshi Matsumoto, Kazuya Monden, Kazuma Nagata, Katsuhiko Masago, Reiko Kaji, Shiro Fujita, Ryo Tachikawa, Kyoko Otsuka, Kojiro Otsuka, Keisuke Tomii : Bevacizumab plus Weekly Paclitaxel with or Without Carboplatin for Previously-treated Non-squamous Non-Small Cell Lung Cancer. *Anticancer Res* 34 : 275 – 281, 2014
12. Yoshihiro Hattori, Miyako Satouchi, Nobuyuki Katakami, Shiro Fujita, Reiko Kaji, Akito Hata, Yoshiko Urata, Temiko Shimada, Junji Uchida, Keisuke Tomii, Satoshi Morita, Shunichi Negoro : A phase II study of pemetrexed in patients with previously heavily treated non-squamous non-small cell lung cancer (HANSHIN Oncology Group 001). *Cancer Chemother Pharmacol* 73 : 17 – 23, 2014
13. Daichi Fujimoto, Keisuke Tomii, Kojiro Otsuka, Yuki Okutani, Keiichi Kawanabe, Yukihiro Imai : A Japanese case of vertebral sarcoidosis. *Intern Med* 52 : 2825 – 2829, 2013
14. Daichi Fujimoto, Hiroshi Takegawa, Asako Doi, Kenji Sakizono, Yoko Kotani, Kanji Miki, Takuya Naito, Marie Niki, Junko Miyamoto, Koji Tamai, Kazuma Nagata, Atsushi Nakagawa, Ryo Tachikawa, Kojiro Otsuka, Nobuyuki Katakami, Keisuke Tomii : Comparison of two transport systems available in Japan (TERUMO kenkiporter II and BBL Port-A-Cul) for maintenance of aerobic and anaerobic bacteria. *J Infect Chemother* 20 : 26 – 29, 2014
15. Takeshi Matsumoto, Kojiro Otsuka, Michi Kawamoto, Kazuma Nagata, Ryo Tachikawa, Yukihiro Imai, Nobuyuki Oka, Keisuke Tomii : Efficacy of Early Intravenous Immunoglobulin for Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis with Drastically Progressive Neuropathy: A Synopsis of Two Cases. *Intern Med* 52 : 913 – 917, 2013

## VII. 1.7 血液内科

1. Aoki K, Takahashi T, Tabata S, Kurata M, Matsushita A, Nagai K, Ishikawa T : Efficacy and tolerability of reduced-dose 21-day cycle rituximab and cyclophosphamide, doxorubicin, vincristine, and prednisolone therapy for elderly patients with diffuse large B-cell lymphoma. *Leuk Lymphoma* 54 : 2441 – 2447, 2013
2. Aoki K, Tabata S, Yonetani N, Matsushita A, Ishikawa T : The prognostic impact of absolute lymphocyte and monocyte counts at diagnosis of diffuse large B-cell lymphoma in the rituximab era. *Acta Haematol* 130 : 242 – 246, 2013
3. Arima H, Maruoka H, Nasu K, Tabata S, Kurata M, Matsushita A, Imai Y, Takahashi T, Ishikawa T : Impact of occult bone marrow involvement on the outcome of rituximab plus cyclophosphamide, doxorubicin, vincristine and prednisone therapy for diffuse large B-cell lymphoma. *Leuk Lymphoma* 54 : 2645 – 2653, 2013
4. Arima H, Inoue D, Tabata S, Matsushita A, Imai Y, Ishikawa T, Takahashi T : Simultaneous Thrombosis of the Mesenteric Artery and Vein as a Novel Clinical Manifestation of Intravascular Large B-Cell Lymphoma. *Acta Haematol* 132 : 108 – 111, 2014
5. Ishikawa T : Novel therapeutic strategies using hypomethylating agents in the treatment of myelodysplastic syndrome. *Int J Clin Oncol* 19 : 10 – 15, 2014
6. 石川隆之 : 貧血の治療のポイント 不応性貧血. *内科* 112 : 279 – 283, 2013
7. 石川隆之 : MDSに対する蛋白同化ステロイド. *血液内科* 67 : 333 – 336, 2013
8. 石川隆之 : 骨髄異形成症候群. 2014今日の治療指針, 小澤敬也 編, 医学書院, 東京, 627 – 628, 2014

9. 石川隆之, 加地修一郎: 抗血栓、止血薬. 重要薬マニュアル この薬が選ばれる理由, 伊藤 裕 編, 医学書院, 東京, 74-93, 2014
10. Kato A, Ono Y, Nagahata Y, Yamauchi N, Tabata S, Yonetani N, Matsushita A, Ishikawa T: The need for continuing chemotherapy for leukemic cell lysis pneumopathy in patients with acute myelomonocytic/monocytic leukemia. *Intern Med* 52: 1217-1221, 2013
11. Kawabata H, Kadowaki N, Nishikori M, Kitawaki T, Kondo T, Ishikawa T, Yoshifuji H, Yamakawa N, Imura Y, Mimori T, Matsumura Y, Miyachi Y, Matsubara T, Yanagita M, Haga H, Takaori-Kondo A: Clinical features and treatment of multicentric Castleman's disease: A retrospective study of 21 Japanese patients at a single institute. *J Clin Exp Hematop* 53: 69-77, 2013
12. Chonabayashi K, Hishizawa M, Matsui M, Kondo T, Ohno T, Ishikawa T, Takaori-Kondo A: Successful allogeneic stem cell transplantation with long-term remission of ETV6/FLT3-positive myeloid/lymphoid neoplasm with eosinophilia. *Ann Hematol* 93: 535-537, 2014
13. Nagano S, Mori M, Kato A, Ono Y, Aoki K, Arima H, Takiuchi Y, Tabata S, Yanagita S, Matsushita A, Ishikawa T, Imai H, Takahashi T: Therapeutic effects of lenalidomide on hemorrhagic intestinal myeloma-associated AL amyloidosis. *Intern Med* 52: 1101-1105, 2013
14. 松下章子: アミラーゼ産生多発性骨髄腫. 別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズ23 血液症候群 (第2版) III, 日本臨牀社, 大阪, 564-568, 2013
15. 松下章子, 石川隆之: 高齢者急性骨髄性白血病の特徴と治療の実際. *血液フロンティア* 23: 41-49, 2013.
16. Maruoka H, Inoue D, Takiuchi Y, Nagano S, Arima H, Tabata S, Matsushita A, Ishikawa T, Oita T, Takahashi T: IP-10/CXCL10 and MIG/CXCL9 as novel markers for the diagnosis of lymphoma-associated hemophagocytic syndrome. *Ann Hematol* 93: 393-401, 2014
17. Mori M, Kondo T, Hishizawa M, Nishikori M, Yamashita K, Ichinohe T, Kadowaki N, Ishikawa T, Takaori-Kondo A: Long-term remission in patients with plasma cell myeloma after reduced-intensity conditioning allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: A 10-year single-center experience. *J Hematopoietic Cell Transplantation* 2: 25-31, 2013
18. Kim SW, Yoon SS, Suzuki R, Matsuno Y, Yi HG, Yoshida T, Imamura M, Wake A, Miura K, Hino M, Ishikawa T, Kim JS, Maeda Y, Lee JJ, Kang HJ, Lee HS, Lee JH, Izutsu K, Fukuda T, Kim CW, Yoshino T, Ohshima K, Nakamura S, Nagafuji K, Suzumiya J, Harada M, Kim CS: Comparison of outcomes between autologous and allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for peripheral T-cell lymphomas with central review of pathology. *Leukemia* 27: 1394-1397, 2013

## VII. 1.8 腫瘍内科

1. Kaneko K, Yano T, Minashi K, Kojima T, Ito M, Satake H, Yajima Y, Yoda Y, Ikematsu H, Oono Y, Hayashi R, Onozawa M, Ohtsu A: Treatment strategy for superficial pharyngeal squamous cell carcinoma synchronously combined with esophageal cancer. *Oncology* 84: 57-64, 2013

2. Koizumi W, Yeul Hong Kim, Fujii M, Hoon Kyo Kim, Imamura H, Kyung Hee Lee, Hara T, Hyun Cheol Chung, Satoh T, Jae Yong Cho, Hosaka H, Tsuji A, Takagane A, Inokuchi M, Tanabe K, Okuno T, Ogura M, Yoshida K, Takeuchi M, Nakajima T, The JACCRO and KCSG Study Group : Addition of docetaxel to S-1 without platinum prolongs survival of patients with advanced gastric cancer: a randomized study (START). *J Cancer Res Clin Oncol* 140 : 319–328, 2013
3. 古武 剛, 佐竹悠良, 辻 晃仁 : 抗がん薬投与により急速な呼吸不全を呈した進行大腸癌の1例. *腫瘍内科* 11 : 598–601, 2013
4. 古武 剛, 辻 晃仁 : 薬剤性肺障害. *消化器外科NURSING* 19 : 248–250, 2014
5. 佐竹悠良, 辻 晃仁 : ざ瘡様皮疹、爪囲炎、皮膚乾燥. *消化器外科NURSING* 19 : 232–239, 2014
6. 佐竹悠良, 矢野友規, 藤井誠志 : 表在癌例－内視鏡病型と亜部位から－. 一目でわかる咽頭表在がんアトラス, 武藤 学 編, 1版1刷, 中外医学社, 東京, 66–67 70–71 84–85 88–89, 2013
7. 佐竹悠良, 吉野孝之 : 第Ⅲ章分子標的薬の各論 3抗体薬 2-1) Cetuximab. 抗がん薬の臨床薬理, 相羽 恵介 編, 1版1刷, 南山堂, 東京, 1541–1558, 2013
8. Takahari D, Boku N, Mizusawa J, Takashima A, Yamada Y, Yoshino T, Yamazaki K, Koizumi W, Fukase K, Yamaguchi K, Goto M, Nishina T, Tamura T, Tsuji A, Ohtsu A : Determination of Prognostic Factors in Japanese Patients With Advanced Gastric Cancer Using the Data From a Randomized Controlled Trial, Japan Clinical Oncology Group 9912. *Oncologist* 19 : 358–366, 2014
9. 辻 晃仁 : 大腸がん市民公開講座 大腸がんに負けないためには－これだけ知ればもう安心－つらくない大腸がん化学療法. *神戸新聞朝刊*, 25, 2013. 4. 30
10. 辻 晃仁 : 【抗EGFR抗体薬による皮膚障害対策－治療完遂を目指すための工夫】総論 抗EGFR抗体薬を用いた大腸がん治療と皮膚障害対策. *臨床腫瘍プラクティス* 9 : 292–294, 2013
11. Yano T, Yoda Y, Satake H, Kojima T, Yagishita A, Oono Y, Ikematsu H, Kaneko K : Radial incision and cutting method for refractory stricture after nonsurgical treatment of esophageal cancer. *Endoscopy* 45 : 316–319, 2013
12. Yamada Y, Boku N, Nishina T, Yamaguchi K, Denda T, Tsuji A, Hamamoto Y, Konishi K, Tsuji Y, Amagai K, Ohkawa S, Fujita Y, Nishisaki H, Kawai H, Takashima A, Mizusawa J, Nakamura K, Ohtsu A : Impact of excision repair cross-complementing gene 1 (ERCC1) on the outcomes of patients with advanced gastric cancer: correlative study in Japan Clinical Oncology Group Trial JCOG9912. *Annals of Oncology* 24 : 2560–2565, 2013

## VII. 1. 9 感染症科

1. Iwata K, Doi A, Matsuo H, Takegawa H, Ohji G : Re: TG13 antimicrobial therapy for acute cholangitis and cholecystitis. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 21 : E10, 2014
2. 園 諭美 : (第16章) 膠原病、整形外科疾患 29 関節リウマチ. 薬剤師レジデントマニュアル, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京都, 201–204, 2013
3. 土井朝子 : ペニシリンGとアンピシリン. *medicina* 50 : 1200–1203, 2013

4. 土井朝子：吐血、下血、咯血. HIV/AIDSのトラブルシューティングとプライマリ・ケア, 岩田健太郎 編, 1版, 南山堂, 東京都, 228-234, 2013
5. 土井朝子：患者の状態を把握する：CD4とウイルス価. HIV/AIDSのトラブルシューティングとプライマリ・ケア, 岩田健太郎 編, 1版, 南山堂, 東京都, 380-385, 2013
6. 土井朝子：女性の性感染症. レジデントノート増刊 16：323-328, 2014
7. 西岡弘晶：(第7章) フィジカルアセスメント. 薬剤師レジデントマニュアル, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京都, 52-64, 2013
8. 西岡弘晶：本物のチーム医療を目指して. Nutrition Care 6：860, 2013
9. 西岡弘晶：高齢者の終末期の緩和ケアと栄養ケア. Nutrition Care 6：983-985, 2013

## VII. 1. 10 精神・神経科

1. 新光 穰, 松石邦隆, 福武将映, 毛利健太郎, 井上和音, 小山忠明, 伊藤聡子, 北村 登：心臓血管外科手術患者における術前のStatin使用と術後せん妄の関連についての検討. 総合病院精神医学 25：49-54, 2013
2. 福武将映, 菱本明豊：統合失調症の病態生理と皮質ニューロン・ネットワークの異常. 精神科 23：211-217, 2013

## VII. 1. 11 小児科

1. 井上壽茂, 岡藤郁夫, 亀田 誠, 末廣 豊, 南部光彦, 野々村和男, 廣田常夫, 三好麻里, 山岡孝司, 吉田 晃：近畿地方における小児気管支喘息増悪に伴う入院の実態. 日本小児アレルギー学会誌 28：126-134, 2014
2. 川崎浩三, 皆木純子, 中村信彦：骨髄針穿刺においてシミュレーションは医学生の不安を減少させるのか? 医学教育 45：9-11, 2014
3. 岸本健治, 田村卓也, 春田恒和：小児における眼窩周囲蜂窩織炎と眼窩蜂窩織炎の比較検討. 日本小児科学会雑誌 117：996-1001, 2013
4. 田中裕也, 岡藤郁夫：アレルギー相談室Q&A 小児科 どのような子どもがぜんそく（喘息）になりやすいですか? アレルギーの臨床 33：390, 2013
5. Yoshioka T, Nishikomori R, Hara J, Okada K, Hashii Y, Okafuji I, Nodomi S, Kawai T, Izawa K, Ohnishi H, Yasumi T, Nakahata T, Heike T：Autosomal dominant anhidrotic ectodermal dysplasia with immunodeficiency caused by a novel NFKBIA mutation, p.Ser36Tyr, presents with mild ectodermal dysplasia and non-infectious systemic inflammation. J Clin Immunol 33：1165-1174, 2013

## VII. 1. 12 新生児科

1. 宇都宮剛, 田中麻希子, 山川 勝：総ビリルビン値のみでは管理不能であった早産児核黄疸の1例. 近畿新生児研究会会誌 22：7-38, 2014

## VII. 1. 13 皮膚科

1. 大森麻美子, 上野充彦, 小川真希子, 長野 徹：反復性にSweet's症候群様症状を呈しアザシチジンの関与が疑われた骨髄異形成症候群の1例. 皮膚の科学 12：195-198, 2013

2. Omori M, Ueno M, Ogawa M, Nagano T : Primary cutaneous extraskeletal Ewing's sarcoma/PNET : possibility of better prognosis than deep ES/PNET. *Eur J Dermatol* 24 : 126 – 127, 2014
3. 竹内聖二, 長野 徹, 錦織千佳子 : 頭部乳頭状皮膚炎の親子例 (原著論文/症例報告). *皮膚科の臨床* 55 : 1172 – 1175, 2013
4. 長野 徹 : 周術期の熱傷と褥瘡 – 術後臀部皮膚障害を中心に –. *Clinical Engineering* 25 : 41 – 43, 2013
5. 橋田 亨, 山本健児, 原田奈生子, 長野 徹 : [入院・外来 薬物治療プラクティス] 薬物治療管理の実践 皮膚疾患 帯状疱疹. *薬局* 64 : 1498 – 1509, 2013
6. Fukunaga A, Washio K, Ogura K, Taguchi K, Chiyomaru K, Ohno Y, Masaki T, Nagai H, Nagano T, Oka M, Nishigori C : Onychomycosis as a warning sign for peripheral arterial disease. *Acta Derm Venereol* 93 : 747 – 748, 2013
7. Fujita Y, Kinoshita M, Furukawa Y, Nagano T, Hashimoto H, Hirami Y, Kurimoto Y, Arakawa K, Yamazaki K, Okada Y, Katakami N, Uno E, Matsubara Y, Fukushima M, Nada A, Losordo DW, Asahara T, Okita Y, Kawamoto A : Phase II Clinical Trial of CD34+ Cell Therapy to Explore Endpoint Selection and Timing in Patients With Critical Limb Ischemia. *Circ J* 78 : 490 – 501, 2014

#### VII. 1. 14 外科・移植外科

1. 岡田和幸, 小林裕之, 姚 思遠, 山本健人, 井ノ口健太, 貝原 聡 : 妊娠30週の急性虫垂炎に対して腹腔鏡下虫垂切除術を施行した1例. *日本内視鏡外科学会雑誌* 18 : 731 – 735, 2013
2. 橋田裕毅, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 光岡英世, 三木 明, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮 : 完全直腸脱に対する腹腔鏡下直腸後方固定術の術式の工夫と成績. *日本女性骨盤底医学会誌* 10 : 32 – 35, 2013
3. 姚 思遠, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮, 今井幸弘 : Paget現象との鑑別が困難であった肛門周囲Paget病の1例. *日本臨床外科学会雑誌* 74 : 3430 – 3434, 2013

#### VII. 1. 15 乳腺外科

1. Yamashiro H, Takada M, Nakatani E, Imai S, Yamauchi A, Tsuyuki S, Matsutani Y, Sakata S, Wada Y, Okamura R, Harada T, Tanaka F, Moriguchi Y, Kato H, Higashide S, Kan N, Yoshibayashi H, Suwa H, Okino T, Nakayama I, Ichinose Y, Yamagami K, Hashimoto T, Inamoto T, Toi M : Prevalence and risk factors of bone metastasis and skeletal related events in patients with primary breast cancer in Japan. *Int J Clin Oncol* 19 : 852 – 862, 2013

#### VII. 1. 16 心臓血管外科

1. Shomura Y, Okada Y, Nasu M, Koyama T, Yuzaki M, Murashita T, Fukunaga N, Konishi Y : Late results of mitral valve repair with glutaraldehyde-treated autologous pericardium. *Ann Thorac Surg* 95 : 2000 – 2005, 2013
2. 庄村 遊, 岡田行功, 新改法子, 那須通寛, 藤原 洋, 小山忠明, 湯崎 充, 村下貴志, 福永直人, 小西康信 : 心臓血管外科手術における手術部位感染予防 – サーベイランスを用いた院内感染対策室 (ICT) と外科医の連携 –. *日心外会誌* 42 : 377 – 383, 2013
3. Fukunaga N, Koyama T, Murashita T, Okada Y : Successful simultaneous repair of traumatic aortic and right atrium ruptures. *Interact Cardiovasc Thorac Surg* 16 : 914 – 916, 2013

4. Fukunaga N, Okada Y, Konishi Y, Murashita T, Koyama T : Pay attention to valvular diseases in the presence of atopic dermatitis. *Circ J* 77 : 1862 – 1866, 2013
5. Fukunaga N, Koyama T, Konishi Y, Murashita T, Okada Y : Spontaneous rupture of superficial femoral artery. *Ann Vasc Dis* 6 : 212 – 214, 2013
6. Fukunaga N, Yuzaki M, Nasu M, Okada Y : Reversal of acute monoparesis following thoracoabdominal aortic aneurysm repair. *Gen Thorac Cardiovasc Surg* 62 : 321 – 323, 2014
7. Fukunaga N, Okada Y, Konishi Y, Murashita T, Kanemitsu H, Koyama T : Impact of tricuspid regurgitation after redo valvular surgery on survival in patients with previous mitral valve replacement. *J Thorac Cardiovasc Surg*, 2014 (in press)
8. Fukunaga N, Koyama T, Konishi Y, Murashita T, Kanemitsu H, Okada Y : Clinical outcome of redo operation on aortic root. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*, 2014 (in press)
9. Fukunaga N, Okada Y, Konishi Y, Murashita T, Kanemitsu H, Koyama T : Mitral valve repair for severe organic mitral regurgitation in the elderly. *J Heart Valve Dis* 23 : 48 – 54, 2014
10. Fukunaga N, Okada Y, Konishi Y, Murashita T, Kanemitsu H, Koyama T : Redo valvular surgery in the elderly patients aged > 75 years. *J Heart Valve Dis* 23 : 228 – 234, 2014
11. 福永直人, 岡田行功, 那須通寛, 庄村 遊 : 高齢者 (70歳以上) における僧帽弁逆流に対する僧帽弁形成術の成績. *心臓* 45 : 413 – 417, 2013
12. Murashita T, Okada Y, Fujiwara H, Kanemitsu H, Fukunaga N, Konishi Y, Nakamura K, Sakon Y, Koyama T : Mechanism and risk factors for reoperation after mitral valve repair for degenerative mitral regurgitation. *Circ J* 77 : 2050 – 2055, 2013
13. Murashita T, Okada Y, Kanemitsu H, Fukunaga N, Konishi Y, Nakamura K, Sakon Y, Koyama T : Fate of functional tricuspid regurgitation after mitral valve repair for degenerative mitral regurgitation. *Circ J* 77 : 2288 – 2294, 2013

## VII. 1. 17 呼吸器外科

1. 庄村 遊, 藤永一弥, 高橋 豊, 浜川博司, 阪本瞬介, 藤井健一郎, 寺西智史, 水元 亨 : 胸腔鏡下心膜開窓術を施行した心嚢液貯留症例の検討. *日呼外会誌* 28 : 132 – 137, 2014

## VII. 1. 18 脳神経外科

1. Asai K, Imamura H, Mineharu Y, Tani S, Adachi H, Narumi O, Todo K, Hoshi T, Sato S, Kono T, Sakai C, Sakai N : Triple Balloon Protection Technique Using the Mo.Ma Ultra with the Carotid GuardWire for Carotid Stenting: Technical Note. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 23 : 1871 – 1876, 2014
2. 浅井克則, 豊田真吾, 早川航一, 藤本康倫, 岩本文徳, 若山 暁, 金田真理, 旗持 淳, 吉峰俊樹 : 内頸動脈海綿静脈洞瘻で発症し経動脈のコイル塞栓術後に出血性合併症を繰り返した血管型Ehlers-Danlos症候群の1例. *JNET J Neuroendovasc Ther* 7 : 94 – 100, 2013
3. 足立秀光, 坂井信幸, 今村博敏, 谷 正一, 坂井千秋, 石川達也, 峰晴陽平, 浅井克則, 池田宏之, 稲田拓, 小倉健紀, 柴田帝式, 別府幹也, 阿河祐二, 清水寛平, 藤堂謙一, 山本司郎 : Mo.Ma Ultra 使用時にステントデリバリーシステムの回収に苦慮した2例. *JNET J Neuroendovasc Ther* 7 : 338 – 344, 2013



4. 足立秀光, 坂井信幸, 今村博敏, 上野 泰, 國枝武治, 坂井千秋, 小柳正臣, 蔵本要二, 梶川隆一郎, 重松朋芳, 石井 暁, 五百蔵義彦, 今堀太郎, 芝田純也, 千原英夫: 脳動脈瘤の治療におけるXperGuide脳神経外科手術の有用性. 脳神経外科ジャーナル 23: 325-330, 2014
5. 足立秀光, 坂井信幸, 千原英夫, 蔵本要二, 坂井千秋, 今村博敏, 上野 泰, 國枝武治, 小柳正臣, 重松朋芳, 五百蔵義彦, 今堀太郎, 芝田純也: 脳動脈瘤様拡張部のみの姑息的塞栓術で急性期に治療し良好な長期成績を得た破裂前下小脳動脈近位部動脈瘤の1例. JNET J Neuroendovasc Ther 8: 32-39, 2014
6. Ishii A, Miyamoto S, Ito Y, Fujinaka T, Sakai C, Sakai N: Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy Investigators: Parent Artery Occlusion for Unruptured Cerebral Aneurysms: The Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy(JR-NET)1 and 2. Neurol Med Chir (Tokyo) 54: 91-97, 2014
7. 石川達也, 峰晴陽平, 今村博敏, 坂井信幸: 脳動静脈奇形に対する血管内治療の役割. Jpn Intervent Radiol 28: 37-43, 2013
8. Izumi T, Imamura H, Sakai N, Miyachi S: Angioplasty and Stenting for Intracranial Stenosis. Neurol Med Chir (Tokyo) 54: 46-53, 2014
9. 稲田 拓, 今村博敏, 川本未知, 関谷博顕, 今井幸弘, 谷 正一, 足立秀光, 石川達也, 峰晴陽平, 浅井克則, 池田宏之, 小倉健紀, 柴田帝式, 別府幹也, 阿河祐二, 清水寛平, 坂井信幸, 菊池晴彦: 免疫正常者のCryptococcus neoformans var. gattii髄膜炎によるcryptococcomaに対し外科的切除術が奏功した1例. 脳神経外科 42: 123-127, 2014
10. 今村博敏, 坂井信幸, 坂井千秋: 動脈瘤塞栓術/ステント支援塞栓術. 脳血管内治療の進歩2013, 坂井信行, 瓢子敏夫 他 編, 初版, 診断と治療社, 東京, 2013
11. Imamura H, Sakai N, Sakai C, Fujinaka T, Ishii A: JR-NET Investigators: Endovascular treatment of aneurysmal subarachnoid hemorrhage in Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy(JR-NET)1 and 2. Neurol Med Chir (Tokyo) 54: 81-90, 2014
12. 今村博敏, 柴田帝式, 坂井信幸: 脳神経血管内治療医に必要な知識(5) 脳動脈瘤塞栓術の応用(補助テクニック). 脳神経外科 41: 71-82, 2013
13. Egashira Y, Yoshimura S, Sakai N, Enomoto Y: Real-world Experience of Carotid Artery Stenting in Japan: Analysis of 7,134 Cases from JR-NET1 and 2 Nationwide Retrospective Multi-center Registries. Neurol Med Chir (Tokyo) 54: 32-39, 2014
14. Egashira Y, Yoshimura S, Sakai N, Kuwayama N: Recovery by Endovascular Salvage for Cerebral Ultra-acute Embolism(RESCUE)-Japan Retrospective Survey Group: Efficacy of endovascular revascularization in elderly patients with acute large vessel occlusion: analysis from the RESCUE-Japan retrospective nationwide survey. J Stroke Cerebrovasc Dis 22: 627-632, 2013
15. Enomoto Y, Yoshimura S, Sakai N, Egashira Y: Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy Investigators: Current Perioperative Management of Anticoagulant and Antiplatelet Use in Neuroendovascular Therapy: Analysis of JR-NET1 and 2. Neurol Med Chir (Tokyo) 54: 9-16, 2014

16. Endo K, Koga M, Sakai N, Yamagami H, Furui E, Matsumoto Y, Shiokawa Y, Yoshimura S, Okada Y, Nakagawara J, Hyogo T, Hasegawa Y, Nagashima H, Fujinaka T, Hyodo A, Terada T, Toyoda K : for the Joint Research Group from JR-NET2 and SAMURAI Study Investigators : Stroke Outcomes of Japanese Patients with Major Cerebral Artery Occlusion in the Post-Alteplase, Pre-MERCI Era. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 22 : 805 – 810, 2013
17. 尾原信行, 浅井克則, 大楠清文, 若山 暁 : Broad-range PCR法による16SリボソームRNA解析で起因菌 *Streptococcus intermedius* が同定された培養陰性脳腫瘍の1例. *BRAIN and NARVE* 65 : 1199 – 1203, 2013
18. Kikuchi T, Ishii A, Nakahara I, Miyamoto S, Sakai N : Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy: Extracranial Steno-occlusive Diseases Except for Internal carotid artery stenosis. *Neurol Med Chir(Tokyo)* 54 : 40 – 45, 2014
19. 蔵本要二, 足立秀光, 坂井信幸, 上野 泰, 坂井千秋, 今村博敏, 石川達也, 菊池晴彦 : 経静脈的塞栓術で治癒した群発頭痛様の症状を呈した海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻の1例. *脳神経外科* 41 : 493 – 498, 2013
20. 栗山 巧, 坂井信幸, 古川 宗, 大西久美子, 奥町英世, 今村博敏, 坂井千秋 : 脳動脈瘤コイル塞栓術においてアシスト法を選択する有効な因子についての検討. *日本放射線技術学会雑誌* 69 : 1232 – 1240, 2013
21. Koyanagi M, Sakai N, Adachi H, Ueno Y, Kunieda T, Imamura H, Kikuchi H : "Loop-like formation" in the cortical venous reflux of dural arteriovenous fistula with intracranial hemorrhage. *J Neuroradiol*, 2013 Dec 26 [Epub ahead of print]
22. Kondo R, Matsumoto Y, Endo H, Miyachi S, Ezura M, Sakai N : Endovascular Embolization of Cerebral Arteriovenous Malformations: Results of the Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy(JR-NET)1 and 2. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 54 : 54 – 62, 2014
23. 坂井千秋, 坂井信幸 : 動脈硬化のすべて : 動脈硬化の治療 : 頸動脈. *医学のあゆみ* 245 : 1257 – 1260, 2013
24. 坂井信幸, 今村博敏 : 【6章 CEAに関する評価】2) CEAに何を期待するかー血管内治療医より. 頸動脈内膜剥離術プラクティス, 遠藤俊郎, 永田 泉 編, メディカ出版, 東京, 277 – 283, 2013
25. 坂井信幸, 今村博敏 : 血管内治療との連携. 新版 脳梗塞 rt-PA静注療法実践ガイドー新しい治療指針を読み解くー, 峰松一夫 監修, 豊田一則 編集, 初版, 診断と治療社, 東京, 98 – 112, 2013
26. Sakai N, Yoshimura S, Taki W, Hyodo A, Miyachi S, Nagai Y, Sakai C, Satow T, Terada T, Ezura M, Hyogo T, Matsubara S, Hayashi K, Fujinaka T, Ito Y, Kobayashi S, Komiyama M, Kuwayama N, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Murayama Y, Nakahara I, Nemoto S, Satoh K, Sugiu K, Ishii A, Imamura H : Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy Investigators : Recent trends in neuroendovascular therapy in Japan: analysis of a nationwide survey--Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy(JR-NET)1 and 2. *Neurol Med Chir(Tokyo)* 54 : 1 – 8, 2014
27. 坂井信幸, 今村博敏, 坂井千秋 : 脳動脈瘤の治療～open surgeryか血管内治療か～ : 新規デバイスは治療成績に影響しているか. *脳と循環* 18 : 131 – 135, 2013
28. 坂井信幸, 藤堂謙一 : 急性虚血性脳卒中患者の再灌流療法. *International Review of Thrombosis* 8 : 212 – 216, 2013

29. 坂井信幸, 藤堂謙一: 大きく変貌した脳梗塞の診断と治療: 急性期治療: 血管内治療と外科治療の役割. *Medicina* 50: 282–288, 2013
30. 坂井信幸, 藤堂謙一: ペナンブラの治療: 血管内治療法の現状と未来. *分子脳血管病* 12: 50–55, 2013
31. Satow T, Ishii D, Iihara K, Sakai N; JR-NET Study Group: Endovascular Treatment for Ruptured Vertebral Artery Dissecting Aneurysms: Results from Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy (JR-NET) 1 and 2. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 54: 98–106, 2014
32. Sato M, Matsumaru Y, Sakai N, Yoshimura S; JR-NET Study Group Affiliations: Detailed Analysis of Puncture Site Vascular Complications in Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy (JR-NET) and JR-NET2. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 54: 17–22, 2014
33. Shigematsu T, Fujinaka T, Yoshimine T, Imamura H, Ishii A, Sakai C, Sakai N; JR-NET Investigators: Endovascular therapy for asymptomatic unruptured intracranial aneurysms: JR-NET and JR-NET2 findings. *Stroke* 44: 2735–2742, 2013
34. Suzuki H, Taki W; Prospective Registry of Subarachnoid Aneurysms Treatment (PRESAT) Group: Effect of aneurysm treatment modalities on cerebral vasospasm after aneurysmal subarachnoid hemorrhage. *Acta Neurochir Suppl* 115: 99–105, 2013
35. Taki W, Sakai N, Suzuki H; Prospective Registry of Subarachnoid Aneurysms Treatment (PRESAT) group: Importance of independent evaluation of initial anatomic results after endovascular coiling for ruptured cerebral aneurysms. *J Clin Neurosci* 20: 527–531, 2013
36. Tsuruta W, Matsumaru Y, Miyachi S, Sakai N: Endovascular Treatment of Spinal Vascular Lesion in Japan: Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy (JR-NET) and JR-NET2. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 54: 72–78, 2014
37. Hayakawa M, Yamagami H, Sakai N, Matsumaru Y, Yoshimura S, Toyoda K; JR-NET Study Group: Endovascular Treatment of Acute Stroke with Major Vessel Occlusion before Approval of Mechanical Thrombectomy Devices in Japan: Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy (JR-NET) and JR-NET 2. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 54: 23–31, 2014
38. Hayashi K, Hirao T, Sakai N, Nagata I; JR-NET2 Study Group: Current Status of Endovascular Treatment for Vasospasm following Subarachnoid Hemorrhage: Analysis of JR-NET2. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 54: 107–112, 2014
39. Hishikawa T, Sugi K, Hiramatsu M, Haruma J, Tokunaga K, Date I, Sakai N: Nationwide survey of the nature and risk factors of complications in embolization of meningiomas and other intracranial tumors: Japanese Registry of NeuroEndovascular Therapy 2 (JR-NET2). *Neuroradiology* 56: 139–144, 2014
40. Hiramatsu M, Sugi K, Hishikawa T, Haruma J, Tokunaga K, Date I, Kuwayama N, Sakai N: Epidemiology of Dural Arteriovenous Fistula in Japan: Analysis of Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy (JR-NET2). *Neurol Med Chir (Tokyo)* 54: 63–71, 2014
41. Matsui Y, Mineharu Y, Satow T, Takebe N, Takeuchi E, Saiki M: Coexistence of multiple cavernous angiomas in the spinal cord and skin: a unique case of Cobb syndrome. *J Neurosurg Spine* 20: 142–147, 2014

42. Mineharu Y, Castro MG, Lowenstein PR, Sakai N, Miyamoto S : Dendritic cell-based immunotherapy for glioma: multiple regimens and implications in clinical trials. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 53 : 741 – 754, 2013
43. Mineharu Y, Takagi Y, Takahashi JC, Hashikata H, Liu W, Hitomi T, Kobayashi H, Koizumi A, Miyamoto S : Rapid progression of unilateral moyamoya disease in a patient with a family history and an RNF213 risk variant. *Cerebrovasc Dis* 36 : 155 – 157, 2013
44. Minematsu K, Toyoda K, Hirano T, Kimura K, Kondo R, Mori E, Nakagawara J, Sakai N, Shiokawa Y, Tanahashi N, Yasaka M, Katayama Y, Miyamoto S, Ogawa A, Sasaki M, Suga S, Yamaguchi T ; Japan Stroke Society : Guidelines for the Intravenous Application of Recombinant Tissue-type Plasminogen Activator (Alteplase) , the Second Edition, October 2012: A Guideline From the Japan Stroke Society. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 22 : 571 – 600, 2013
45. 森本貴昭, 安部倉友, 花北順哉, 高橋敏行, 渡邊水樹, 河岡大悟, 富永貴志, 寺田行範 : 腰部脊柱管狭窄症再手術例の検討. *脳神経外科ジャーナル* 22 : 934 – 941, 2013
46. 山上 宏, 坂井信幸 : 脳卒中の脳血管内治療の最前線. *臨床神経学* 53 : 1166 – 1168, 2013
47. Yamamoto S, Yamagami H, Todo K, Kuramoto Y, Ishikawa T, Imamura H, Ueno Y, Adachi H, Kohara N, Sakai N : Correlation of middle cerebral artery tortuosity with successful recanalization using the Merci retrieval system with or without adjunctive treatments. *Neurol Med Chir(Tokyo)* 54 : 113 – 119, 2014
48. Wilson TJ, Candolfi M, Assi H, Ayala MM, Mineharu Y, Hervey-Jumper SL, Lowenstein PR, Castro MG : Immunotherapies for brain cancer: from preclinical models to human trials. *Tumors of the Central Nervous System* 13 : 239 – 251, 2014

## VII. 1. 19 整形外科

1. 池口良輔, 竹内久貴, 金村 卓, 奥村祐希, 川那辺圭一, 安田 義 : 母指CM関節症に対する関節形成術について. *中部整災誌* 56 : 1381 – 1382, 2013
2. Onishi E, Sano H, Matsushita M : Surgical Treatment for Thoracic Myelopathy Due to Simultaneous Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament and Ligamentum Flavum at the Same Level. *J Spinal Disord Tec*, 2013 Dec 10 [Epub ahead of print]
3. Onishi E, Sakamoto A, Murata S, Nakamura S, Matsushita M : Unilateral atlantal lateral mass hypertrophy associated with atlanto-occipital fusion. *Eur Spine J* 22 : S429 – S433, 2013
4. 金村 卓, 竹内久貴, 池口良輔 : 母趾軟部組織欠損にて逆行性短趾伸筋弁を行った1例. *中部整災誌* 56 : 1155 – 1156, 2013
5. 竹内久貴, 池口良輔, 松本真一, 吉川拓宏, 川那辺圭一, 安田 義 : 橈骨遠位端骨折に対するDVR Anatomic Plate Systemの治療成績. *中部整災誌* 56 : 1389 – 1390, 2013
6. Yasuda T : Nuclear factor- $\kappa$ B activation by type II collagen peptide in articular chondrocytes : Its inhibition by hyaluronan via the receptors. *Mod Rheumatol* 23 : 1116 – 1123, 2013

## VII. 1. 20 形成外科

1. 松添晴加, 義本裕次, 徳力俊治, 富田浩一, 松浦喜貴 : 眼窩骨腫瘍の2例. *日本形成外科学会誌* 33 : 823 – 828, 2013

## VII. 1. 21 産婦人科

1. 須賀真美, 高岡亜妃, 今村裕子, 星野達二: 子宮峡部妊娠を周産期管理した1例. 日本周産期・新生児医学会雑誌 49: 1100-1104, 2013
2. 須賀真美, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 青木卓哉, 星野達二, 北 正人: 当院の腹腔鏡下手術における第一穿刺の改良と成績 コッヘル鉗子を用いたオプティカル・ダイレクト法について. 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 29: 224-227, 2013
3. 宮本泰斗, 宮本和尚, 高岡亜妃, 星野達二, 山下大祐, 西尾真理, 今井幸弘, 北 正人: Pseudo-Meigs症候群を呈し術前に悪性腫瘍が疑われた卵巣甲状腺腫 (struma ovarii) の1例. 産婦人科の進歩 65: 283-289, 2013

## VII. 1. 22 泌尿器科

1. 宇都宮紀明, 河野有香, 松本敬優, 住吉崇幸, 増田憲彦, 白石裕介, 根来宏光, 常森寛行, 杉野善雄, 大久保和俊, 岡田卓也, 清川岳彦, 六車光英, 川喜田睦司: 2009年版TNM分類によるpT3aN0M0腎細胞癌の再発危険因子の検討. 泌尿紀要 60: 1-5, 2014
2. 岡田卓也: 泌尿器科術前・術後のケアマニュアル 腎部分切除術の観察ポイントとその根拠. 泌尿器ケア 18: 924-928, 2013
3. 川喜田睦司: 腎実質クランプ法を用いた腹腔鏡下腎部分切除のPros and Cons. Clinical Report Vol.3, 2013
4. 川喜田睦司: 尿路変向術の合併症と対策. オストメイト講座「ストーマ生活の基礎知識」～医療研修会講演集～, 19-28, 2014
5. 河野有香, 松本敬優, 増田憲彦, 白石裕介, 根来宏光, 宇都宮紀明, 常森寛行, 大久保和俊, 岡田卓也, 清川岳彦, 六車光英, 川喜田睦司: HoLEP術後の排尿に関する経時的観察. 泌尿紀要 60: 57-60, 2014
6. Togo Y, Tanaka S, Kanematsu A, Ogawa O, Miyazato M, Saito H, Arai Y, Hoshi A, Terachi T, Fukui K, Kinoshita H, Matsuda T, Yamashita M, Kakehi Y, Tsuchihashi K, Sasaki M, Ishitoya S, Onishi H, Takahashi A, Ogura K, Mishina M, Okuno H, Oida T, Horii Y, Hamada A, Okasyo K, Okumura K, Iwamura H, Nishimura K, Manabe Y, Hashimura T, Horikoshi M, Mishima T, Okada T, Sumiyoshi T, Kawakita M, Kanamaru S, Ito N, Aoki D, Kawaguchi R, Yamada Y, Kokura K, Nagai J, Kondoh N, Kajio K, Yoshimoto T, Yamamoto S: Antimicrobial prophylaxis to prevent perioperative infection in urological surgery: a multicenter study. J Infect Chemother 19: 1093-1101, 2013 (DOI 10.1007/s10156-013-0631-8)

## VII. 1. 23 眼科

1. Awai-Kasaoka N, Inoue T, Kameda T, Fujimoto T, Inoue-Mochita M, Tanihara H: Oxidative stress response signaling pathways in trabecular meshwork cells and their effects on cell viability. Mol Vis 19: 1332-1340, 2013
2. Oishi A, Kojima H, Mandai M, Honda S, Matsuoka T, Oh H, Kita M, Nagai T, Fujihara M, Bessho N, Uenishi M, Kurimoto Y, Negi A: Comparison of the Effect of Ranibizumab and Verteporfin for Polypoidal Choroidal Vasculopathy: 12-Month LAPTOP Study Results. Am J Ophthalmol 156: 644-651, 2013
3. Oishi A, Miyamoto N, Mandai M, Honda S, Matsuoka T, Oh H, Kita M, Nagai T, Bessho N, Uenishi M, Kurimoto Y, Negi A: LAPTOP Study: A 24-Month Trial of Verteporfin Versus Ranibizumab for Polypoidal Choroidal Vasculopathy. Ophthalmology 121: 1151-1152, 2014
4. 亀田隆範: 眼球損傷の治療戦略と手術のポイント. 小児外科 45: 970-972, 2013

5. 栗本康夫：第Ⅲ章 緑内障スクリーニング法各論②閉塞隅角眼スクリーニングのための前房隅角評価法. *Frontiers in Glaucoma* 45 : 69–73, 2013
6. 栗本康夫：原発閉塞隅角症のメカニズムと治療（水晶体摘出を含めて）. 眼科診療指針のパラダイムシフト 角結膜/緑内障/屈折矯正・白内障手術 [編], 三村 治, 他6名 編, 金原出版株式会社, 東京, 1310–1316, 2013
7. Kuroda M, Nishida A, Kikuchi M, Kurimoto Y : Purtscher's retinopathy followed by neovascular glaucoma. *Clin Ophthalmol* 7 : 2235–2237, 2013
8. Kuroda M, Hirami Y, Hata M, Mandai M, Takahashi M, Kurimoto Y : Intraretinal hyperreflective foci on spectral-domain optical coherence tomographic images of patients with retinitis pigmentosa. *Clinical Ophthalmology* 8 : 435–440, 2014
9. 平見恭彦：黄斑疾患診療の最前線 iPS細胞を用いた加齢黄斑変性治療. *Pharma Medica* 31 : 75–78, 2013
10. 平見恭彦：網膜色素上皮の再生医療. *眼科手術* 26 : 566–571, 2013
11. 平見恭彦, 高橋政代：網膜の再生医療. *眼科* 56 : 200–208, 2014
12. 広瀬文隆：診断に生かそう隅角検査：隅角鏡の使い方、見方. *眼科グラフィック* 2 : 246–251, 2013
13. 広瀬文隆：診断に生かそう隅角検査：UBMによる隅角検査. *眼科グラフィック* 2 : 252–256, 2013
14. Hirose F, Hata M, Ito S, Matsuki T, Kurimoto Y : Light-dark changes in iris thickness and anterior chamber angle width in eyes with occludable angles. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 251 : 2395–2402, 2013
15. Fujita Y, Kinoshita M, Furukawa Y, Nagano T, Hashimoto H, Hirami Y, Kurimoto Y, Arakawa K, Yamazaki K, Okada Y, Katakami N, Uno E, Matsubara Y, Fukushima M, Nada A, Losordo DW, Asahara T, Okita Y, Kawamoto A : Phase II Clinical Trial of CD34+ Cell Therapy to Explore Endpoint Selection and Timing in Patients With Critical Limb Ischemia. *Circ J* 78 : 490–501, 2014
16. Nongpiur M, Khor C, Jia H, Cornes B, Chen L, Qiao C, Nair K, Cheng C, Xu L, George R, Tan D, Abu-Amero K, Perera S, Ozaki M, Mizoguchi T, Kurimoto Y, Low S, Tajudin L, Ho CL, Tham C, Soto I, Chew P, Wong H, Shantha B, Kuroda M, Osman E, Tang G, Fan S, Meng H, Wang H, Feng B, Yong VH, Ting S, Li Y, Wang Y, Li Z, Lavanya R, Wu R, Zheng Y, Su D, Loon S, Yong VK, Allingham R, Hauser M, Soumitra N, Ramprasad V, Waseem N, Yaakub A, Chia K, Kumaramanickavel G, Wong T, How A, Chau T, Simmons C, Bei JX, Zeng Y, Bhattacharya S, Zhang M, Tan D, Teo Y, Al-Obeidan S, Hon do N, Tai ES, Saw S, Foster P, Vijaya L, Jonas J, Wong T, John S, Pang C, Vithana E, Wang N, Aung T : ABCC5, a Gene That Influences the Anterior Chamber Depth, Is Associated with Primary Angle Closure Glaucoma. *PLoS Genet* 10 : e1004089, 2014 Mar 6

## VII. 1. 24 耳鼻咽喉科

1. Iwase Y, Nishio S, Yoshimura H, Kanda Y, Kumakawa K, Abe S, Naito Y, Nagai K, Usami S : OTOF mutation screening in Japanese severe to profound recessive hearing loss patients. *BMC Medical Genetics* 14 : 95, 2013 (doi :10.1186/1471–2350–14–95)

2. Kanazawa Y, Naito Y, Fujiwara K, Kikuchi M, Shinohara S : Factors influencing hearing after type-III tympanoplasty using columella. *Cholesteatoma and Ear Surgery (An Update)*, edited by Takahashi H, Kugler Publications, Amsterdam The Netherlands, 129 – 130, 2013
3. Kanazawa Y, Naito Y, Tona R, Fujiwara K, Shinohara S, Kikuchi M, Yamazaki H, Kishimoto I, Harada H : Predictive value of middle ear aeration before second-stage operation in staged tympanoplasty with soft-wall reconstruction. *Acta Otol* 134 : 135 – 139, 2014 (doi: 10.3109/00016489.2013.852690)
4. Kishimoto I, Yamazaki H, Naito Y, Shinohara S, Fujiwara K, Kikuchi M, Kanazawa Y, Tona R, Harada H : Clinical features of rapidly progressive bilateral sensorineural hearing loss. *Acta Otol* 134 : 58 – 65, 2014 (doi: 10.3109/00016489.2013.831993)
5. 岸本逸平, 内藤 泰, 藤原敬三, 菊地正弘, 山崎博司, 金沢佑治, 栗原理紗 : 当科における外リンパ瘻手術症例の臨床的検討. *Equilibrium Res* 72 : 107 – 111, 2013
6. Tona R, Naito Y, Fujiwara K, Shinohara S, Kikuchi M, Yamazaki H, Kishimoto I, Harada H : Epidural abscess due to foreign body insertion into the external auditory canal in autism. *Cholesteatoma and Ear Surgery (An Update)*, edited by Takahashi H, Kugler Publications, Amsterdam The Netherlands, 421 – 423, 2013
7. 内藤 泰 : 重度難聴の子に豊かな音を 早期の人工内耳言語習得に有効. *神戸新聞 くらし*, 21, 2014.3.27
8. 内藤 泰 : 突発性難聴. *ドクターズガイド 治せる医師を本気で探す, 株式会社ソーシャライズ「ドクターズガイド」編集部, 時事通信社, 東京, 179, 2013*
9. 内藤 泰 : 治療の観点から見た耳疾患の画像診断. *日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌* 31 : 179 – 185, 2013
10. 内藤 泰, 諸頭三郎, 山本輪子 : 当科で手術を行った残存聴力活用型人工内耳症例に関する研究. *厚生労働科学研究費補助金 障害者対策総合研究事業 (感覚器障害分野) 新しい人工内耳 (EAS) に関する基礎的、臨床的研究 平成24年度総括・分担研究報告書, 研究代表者 山唄達也, 24 – 29, 2013*
11. 内藤 泰 : めまいの保存的および外科的治療 – 最近の知見 –. *頭頸部外科* 23 : 33 – 39, 2013
12. 内藤 泰, 諸頭三郎 : 聴覚領域の検査 方向感・両耳聴検査. *JOHNS* 29 : 1493 – 1496, 2013
13. 内藤 泰 : 小さなcommon cavity例の人工内耳手術. *耳鼻咽喉科 てこずった症例のブレイクスルー*, 本庄巖 編, 第1版, 中山書店, 東京, 74 – 75, 2013
14. 内藤 泰 : 高度難聴 (補聴器、人工内耳) severe to profound hearing loss (cochlear implant, hearing aid). 今日の治療指針2014年版, 山口 徹, 北原光夫 監修, 福井次矢, 高木 誠, 小室一成 編, 第1刷, 医学書院, 東京, 1371 – 1372, 2014
15. 内藤 泰 : 重度難聴の子に豊かな音を人工内耳で言葉習得. 早期の手術で効果. 共同通信ニュースサイト「47ニュース」医療新世紀 MEDICAL NEWS 今週のニュース (オンライン), 2014.3.11
16. 内藤 泰 : 難聴治療 幅広がる 補聴器・人工内耳が進化. *朝日新聞 生活*, 29, 2014.3.11
17. 原田博之, 藤原敬三, 内藤 泰, 篠原尚吾, 菊地正弘, 山崎博司, 金沢佑治, 十名理紗, 岸本逸平 : 外耳道閉鎖術による難治性耳炎炎症性疾患の治療 – 当科で外耳道閉鎖術を施行した11名11耳の臨床的検討 –. *Otol Jpn* 23 : 827 – 833, 2013

18. 藤原敬三, 内藤 泰: 難治性中耳炎に対する外耳道閉鎖術—blind sac closure. 耳鼻咽喉科 てこずった症例のブレイクスルー, 本庄 巖 編, 第1版, 中山書店, 東京, 36–37, 2013
19. Moteki H, Suzuki M, Naito Y, Fujiwara K, Oguchi K, Nishio S, Iwasaki S, Usami S : Evaluation of cortical processing of language by use of positron emission tomography in hearing loss children with congenital cytomegalovirus infection. *Int J Pediatr Otorhinolaryngol* 78:285–289, 2014 (doi: 10.1016/j.ijporl.2013. 11. 025)
20. Yamazaki H, Koyasu S, Moroto S, Yamamoto R, Yamazaki T, Fujiwara K, Itoh K, Naito Y : HRCT-based prediction for cochlear implant outcomes of cases with inner ear and internal auditory canal malformations. *Cholesteatoma and Ear Surgery (An Update)*, edited by Takahashi H, Kugler Publications, Amsterdam The Netherlands, 371–373, 2013
21. Yamazaki H, Stephen O, Michelle M, Robert B: Comprehensive analysis of cochlear implant failure: Usefulness of clinical symptom-based algorithm combined with in situ integrity testing. *Otology & Neurology* 35 : 605–612, 2014
22. 山崎博司, 内藤 泰, 篠原尚吾, 菊地正弘: 悪性外耳道炎. *MB ENT* 159 : 38–45, 2013
23. 山本輪子, 諸頭三郎, 山崎博司, 山崎朋子, 藤原敬三, 篠原尚吾, 十名理紗, 内藤 泰: 先天性サイトメガロウイルス感染児の人工内耳術後成績. *Audiology Japan* 56 : 743–750, 2013
24. Yoshimura H, Iwasaki S, Nishio SY, Kumakawa K, Tono T, Kobayashi Y, Sato H, Nagai K, Ishikawa K, Ikezono T, Naito Y, Fukushima K, Oshikawa C, Kimitsuki T, Nakanishi H, Usami S : Massively parallel DNA sequencing facilitates diagnosis of patients with usher syndrome type 1. *PLOS One* 9 : e90688, 2014 (doi: 10.1371/journal.pone.0090688)

## VII. 1. 25 頭頸部外科

1. Kikuchi M, Nakamoto Y, Shinohara S, Fujiwara K, Yamazaki H, Kanazawa Y, Kurihara R, Kishimoto I, Harada H, Naito Y : Early evaluation of neoadjuvant chemotherapy response using FDG-PET/CT predicts survival prognosis in patients with head and neck squamous cell carcinoma. *Int J Clin Oncol* 18 : 402-410, 2013 (doi: 10.1007/s10147-012-0393-9)
2. Shinohara S, Kikuchi M, Tona R, Kanazawa Y, Kishimoto I, Harada H, Imai Y, Usami Y : Prognostic impact of p16 and p53 expression in oropharyngeal squamous cell carcinomas. *Jpn J Clin Oncol* 44:232–240, 2014 (doi: 10.1093/jjco/hyt223)
3. 篠原尚吾: インタビュー記事 PET/CTは頭頸部領域におけるがん診療でステージング、再発早期発見、重複癌に高い有用性. *GE Healthcare, Discovery PET/CT Clinical customer's voice* 2 : 1–6, 2013
4. 篠原尚吾, 菊地正弘: PET-CTを用いた頭頸部癌の治療戦略. *PET journal* 22 : 26–28, 2013
5. 篠原尚吾, 菊地正弘, 十名理紗, 金沢佑治, 岸本逸平, 原田博之, 今井幸弘, 宇佐美悠: 一般病院で可能な中咽頭癌でのヒトパピローマウイルスの検出法についての検討. *頭頸部外科* 23 : 163–168, 2013
6. 原田博之, 篠原尚吾, 藤原敬三, 菊地正弘, 金沢佑治, 十名理紗, 岸本逸平, 内藤 泰: 郭清頸部リンパ節の病理診断にて3種の悪性疾患を認めた1例. *耳鼻臨床* 107 : 53–58, 2014



## VII. 1. 26 麻酔科

1. 金沢晋弥, 上原直子, 瀬尾英哉, 宮脇郁子, 山崎和夫: 褐色細胞腫摘出後のカテコラミン抵抗性低血圧に低用量バソプレシンが奏効した1症例. 麻酔 62: 1218-1221, 2013
2. Y. Naito, K. Yamazaki: Preoperative left atrial volume index predicts postoperative atrial fibrillation in patients with severe aortic valve stenosis. J Anesth 27: 699-704, 2013

## VII. 1. 27 歯科・歯科口腔外科

1. 此内浩信, 柳文修, 久富美紀, 畦坪輝寿, 村上純, 藤田麻里子, 竹信俊彦, 若狭亨, 岡田俊輔, 浅海淳一: Audience Response System (クリッカー) の活用による「歯科放射線学」における参加型講義の評価. 岡山歯学会雑誌 32: 1-8, 2013
2. Konouchi H, Asaumi J, Yanagi Y, Hisatomi M, Saito E A, Watanabe PC, Murakami J, Unetsubo T, Fujita M, Okada S, Matsuzaki H, Takenobu T, Wakasa T: Diagnostic value of MR imaging for dentigerous cysts. Oral Radiol 30: 13-19, 2014
3. Matsuzaki H, Yanagi Y, Katase N, Nagatsuka H, Hara M, Ashida M, Unetsubo T, Sato A, Fujita M, Takenobu T, Asaumi J: Case series: conditions inhibiting eruption of permanent first molars. Pediatr Dent 35: 67-70, 2013

## VII. 1. 28 臨床病理科

1. Arima H, Maruoka H, Nasu K, Tabata S, Kurata M, Matsushita A, Imai Y, Takahashi T, Ishikawa T: Impact of occult bone marrow involvement on the outcome of rituximab plus cyclophosphamide, doxorubicin, vincristine and prednisone therapy for diffuse large B-cell lymphoma. Leuk Lymphoma 54: 2645-2653, 2013
2. Arima H, Inoue D, Tabata S, Matsushita A, Imai Y, Ishikawa T, Takahashi T: Simultaneous Thrombosis of the Mesenteric Artery and Vein as a Novel Clinical Manifestation of Intravascular Large B-Cell Lymphoma. Acta Haematol 132: 108-111, 2014
3. 稲田拓, 今村博敏, 川本未知, 関谷博顕, 今井幸弘, 谷正一, 足立秀光, 石川達也, 峰晴陽平, 浅井克則, 池田宏之, 小倉健紀, 柴田帝式, 別府幹也, 阿河祐二, 清水寛平, 坂井信幸, 菊池晴彦: 免疫正常者のCryptococcus neoformans var. gattii髄膜脳炎によるcryptococcomaに対し外科的切除術が奏功した1例. Neurological Surgery 42: 123-127, 2014
4. Kato A, Imai Y, Aoki K, Tabata S, Matsushita A, Hashimoto H, Takahashi T, Ishikawa T: Serum IgA level, monocyte count, and international prognostic index are independently associated with overall survival in patients with HTLV-I-negative nodal peripheral T cell lymphoma. Ann Hematol 93: 1185-1191, 2014
5. 倉田靖桐, 日野田卓也, 有蘭茂樹, 上田浩之, 伊藤亨, 三木明, 今井幸弘, 山下大祐: 【腹部の最新画像情報2013】左三角間膜内に発生した異所性肝細胞癌の1例. 臨床放射線 58: 807-811, 2013
6. 小山瑠梨子, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 北正人, 今井幸弘: 当院で経験した卵巣原発カルチノイド3症例について. 産婦人科の進歩 65: 32-39, 2013
7. Shinohara S, Kikuchi M, Tona R, Kanazawa Y, Kishimoto I, Harada H, Imai Y, Usami Y: Prognostic impact of p16 and p53 expression in oropharyngeal squamous cell carcinomas. Jpn J Clin Oncol 44: 232-240, 2014
8. 篠原尚吾, 菊地正弘, 十名理紗, 金沢佑治, 岸本逸平, 原田博之, 今井幸弘, 宇佐美悠: 一般病院で可能な中咽頭癌でのヒトパピローマウイルスの検出法についての検討. 頭頸部外科 23: 163-168, 2013

9. Takeshita J, Katakami N, Fujita S, Imai Y : Pleural metastases from papillary thyroid carcinoma mimicking mesothelioma. *Intern Med* 53 : 163 – 164, 2014
10. Hata A, Katakami N, Yoshioka H, Takeshita J, Tanaka K, Nanjo S, Fujita S, Kaji R, Imai Y, Monden K, Matsumoto T, Nagata K, Otsuka K, Tachikawa R, Tomii K, Kunimasa K, Iwasaku M, Nishiyama A, Ishida T, Nishimura Y : Rebiopsy of non-small cell lung cancer patients with acquired resistance to epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitor: Comparison between T790M mutation-positive and mutation-negative populations. *Cancer* 119 : 4325 – 4332, 2013
11. Hata A, Katakami N, Yoshioka H, Kunimasa K, Fujita S, Kaji R, Notohara K, Imai Y, Tachikawa R, Tomii K, Korogi Y, Iwasaku M, Nishiyama A, Ishida T : How sensitive are epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitors for squamous cell carcinoma of the lung harboring EGFR gene-sensitive mutations? *J Thorac Oncol* 8 : 89 – 95, 2013
12. Hata A, Katakami N, Kaji R, Fujita S, Imai Y : Does T790M disappear? Successful gefitinib rechallenge after T790M disappearance in a patient with EGFR-mutant non-small-cell lung cancer. *J Thorac Oncol* 8 : e27 – 29, 2013
13. Fukushima M, Kawanami C, Inoue S, Imai Y, Inokuma T : Enteropathy-associated T-cell lymphoma diagnosed and followed-up by using double-balloon enteroscopy. *Gastrointest Endosc* 78 : 361 – 362, 2013
14. Fukushima M, Inoue S, Ono Y, Tamaki Y, Yoshimura H, Imai Y, Inokuma T : Microscopic polyangiitis complicated with ileal involvement detected by double-balloon endoscopy: a case report. *BMC Gastroenterol*, 2013 Mar 2
15. Fujimoto D, Tomii K, Otsu T, Kawamura T, Tamai K, Takeshita J, Tanaka K, Matsumoto T, Monden K, Nagata K, Otsuka K, Nakagawa A, Hata A, Tachikawa R, Otsuka K, Hamakawa H, Katakami N, Takahashi Y, Imai Y : Preexisting interstitial lung disease is inversely correlated to tumor epidermal growth factor receptor mutation in patients with lung adenocarcinoma. *Lung Cancer* 80 : 159 – 164, 2013
16. Fujimoto D, Tomii K, Otsuka K, Okutani Y, Kawanabe K, Imai Y : A Japanese case of vertebral sarcoidosis. *Intern Med* 52 : 2825 – 2829, 2013
17. Matsumoto T, Otsuka K, Kawamoto M, Nagata K, Tachikawa R, Imai Y, Oka N, Tomii K : Efficacy of early intravenous immunoglobulin for eosinophilic granulomatosis with polyangiitis with drastically progressive neuropathy: a synopsis of two cases. *Intern Med* 52 : 913 – 917, 2013
18. Matsumoto T, Inokuma T, Imai Y : Education and imaging. Gastrointestinal:colonic mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma regressed by levofloxacin. *J Gastroenterol Hepatol* 28 : 750, 2013
19. Matsumoto T, Shimeno N, Imai Y, Inokuma T : Gastric carcinoma with lymphoid stroma resembling a hypoechoic submucosal tumor. *Gastrointest Endosc* 78 : 164 – 165, 2013
20. 宮本泰斗, 宮本和尚, 高岡亜妃, 星野達二, 山下大祐, 西尾真理, 今井幸弘, 北 正人 : Pseudo-Meigs症候群を呈し術前に悪性腫瘍が疑われた卵巢甲状腺腫 (struma ovarii) の1例. *産婦人科の進歩* 65 : 283 – 289, 2013
21. Yamashita D, Usami U, Toyosawa S, Hirota S, Imai Y : A case of diffuse infiltrating gastrointestinal stromal tumor of sigmoid colon with perforation. *Pathol Int* 64 : 34 – 38, 2014

22. 山本司郎, 永野誠治, 芝田純也, 國枝武治, 今井幸弘, 幸原伸夫: 脳室炎と類似する画像所見を呈した中枢神経原発悪性リンパ腫. 臨床神経学 53: 831-834, 2013
23. 山本健人, 小林裕之, 阪本裕亮, 今井幸弘, 貝原 聡, 細谷 亮: 脾破裂で発症した脾臓原発血管肉腫の1例. 日本臨床外科学会雑誌 75: 544-548, 2014
24. 姚 思遠, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮, 今井幸弘: Paget現象との鑑別が困難であった肛門周囲Paget病の1例. 日本臨床外科学会雑誌 74: 3430-3434, 2013

#### VII. 1. 29 放射線診断科

1. 倉田靖桐, 日野田卓也, 有藺茂樹, 上田浩之, 伊藤 亨, 三木 明, 山下大祐, 今井幸弘: 左三角間膜内に発生した異所性肝細胞癌の1例. 臨床放射線 58: 807-811, 2013

#### VII. 1. 30 放射線治療科

1. Aoki M, Mizowaki T, Akimoto T, Nakamura K, Ejima Y, Jingu K, Tamai Y, Nakajima N, Takemoto S, Kokubo M, Kato H: Adjuvant radiotherapy after prostatectomy for prostate cancer in Japan: A multi-institutional survey study of the JROSG. Journal of Radiation Research 55: 533-540, 2014
2. Akimoto M, Nakamura M, Mukumoto N, Tanabe H, Yamada M, Matsuo Y, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Predictive uncertainty in infrared marker-based dynamic tumor tracking with Vero4DRT. Medical Physics 40: 091705, 2013
3. 飯塚裕介, 松尾幸憲, 中村光宏, 宮部結城, 矢野慎輔, 山田昌弘, 溝脇尚志, 門前 一, 小久保雅樹, 平岡眞寛: 肝腫瘍に対するリアルタイムモニタリング下動体追尾照射の初期経験. 定位放射線治療 18: 9-16, 2014
4. Ueki N, Matsuo Y, Nakamura M, Mukumoto N, Iizuka Y, Miyabe Y, Sawada A, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Intra- and Interfractional Variations in Geometric Arrangement between Lung Tumours and Implanted Markers. Radiotherapy and Oncology 110: 523-528, 2014
5. Ono T, Miyabe Y, Yamada M, Shiinoki T, Sawada A, Kaneko S, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Geometric and dosimetric accuracy of dynamic tumor-tracking conformal arc irradiation with a gimbaled x-ray head. Medical Physics 41: 031705, 2014
6. Shiinoki T, Sawada A, Ishihara Y, Miyabe Y, Matsuo Y, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Dosimetric impact of gold markers implanted closely to lung tumors; A Monte Carlo simulation. Journal of Applied Clinical Medical Physics 15: 4594, 2014
7. Takeshita J, Masago K, Fujita S, Hata A, Kaji R, Kawamura T, Tamai K, Matsumoto T, Nagata K, Otsuka Ky, Nakagawa A, Otsuka Ko, Tomii K, Shintani T, Takayama K, Kokubo M, Katakami N: Weekly administration of paclitaxel and carboplatin with concurrent thoracic radiation in previously untreated elderly patients with locally advanced non-small-cell lung cancer: A case series of 20 patients. Molecular and Clinical Oncology 2: 454-460, 2014
8. Nakamura M, Sawada A, Mukumoto N, Takahashi K, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Effect of audio instruction on tracking errors using a four-dimensional image-guided radiotherapy system. Journal of Applied Clinical Medical Physics 14: 255-264, 2013

9. Mukumoto N, Nakamura M, Sawada A, Suzuki Y, Takahashi K, Miyabe Y, Kaneko S, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Accuracy verification of infrared marker-based dynamic tumor-tracking irradiation using the gimbaled x-ray head of the vero4DRT (MHI-TM2000). *Medical Physics* 40 : 041706, 2013
10. Mukumoto N, Nakamura M, Yamada M, Takahashi K, Tanabe H, Yano S, Miyabe Y, Ueki N, Kaneko S, Matsuo Y, Mizowaki T, Sawada A, Kokubo M, Hiraoka M : Intrafractional tracking accuracy in infrared marker-based hybrid dynamic tumour-tracking irradiation with a gimbaled linac. *Radiotherapy and Oncology* 111 : 301 – 305, 2014

## VII. 1. 31 救急科

1. 明石祐作, 渥美生弘, 有吉孝一 : 鈍的腹部外傷により遅発性腸間膜仮性動脈瘤を形成した一例. *日外傷会誌* 28 : 10 – 15, 2014
2. 渥美生弘 : 【ECMO】 SAVE-J研究にみるECMOの費用. *Intensivist* 5 : 327 – 329, 2013
3. 渥美生弘 : 救急用語辞典, 坂本哲也, 畑中哲生 編集, ぱーそん書房, 東京, 2013
4. 渥美生弘, 横田裕行 : ECPRのコストに関する検討. 平成24年度厚生労働科学研究費補助金 (循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業) 「循環器疾患等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及啓発に関する研究」分担研究報告書
5. 有吉孝一 : 野良犬に咬まれた!. *Emergency care* 26 : 1002 – 1005, 2013
6. 川嶋隆久, 深山鉄平, 近藤誠宏, 横村博之, 本庄 昭, 柿本裕一, 吉田耕造, 有吉孝一 : 「救急医療現場における自殺企図者への対応状況調査」最終報告. 神戸GPネット会議
7. 許 勝栄, 山本基佳, 有吉孝一, 林 卓郎, 許 智栄 : 患者特性とERのポイント (1) 子どもと保護者、妊婦、高齢者、思春期、外国人への対応. *別冊ERマガジン* 10 : 298 – 320, 2013
8. 中浴伸二, 北田徳昭, 山本健児, 有吉孝一, 橋田 亨 : 大規模災害被災地に対する医療支援 – 救護所における処方動向とグループページを活用した後方支援 –. *日本臨床救急医学会誌* 16 : 589 – 594, 2013
9. 林 卓郎 : 中毒. 小児救急医療の理論と実践, 梅原 実, 渡部誠一, 桜井淑男, 村田祐二, 有吉孝一, 浮山越史 編集, 初版, なるにあ出版, 東京, 117 – 124, 2013
10. エルコ・ウィディックス : 脳死 – 概念と診断、そして諸問題, 有賀 徹, 横田裕行 監訳, 渥美生弘 分担翻訳, へるす出版, 東京, 2013
11. 日本小児科学会, 日本小児救急医学会 : 小児救急医療の理論と実践, 梅原 実, 渡部誠一, 桜井淑男, 村田祐二, 有吉孝一, 浮山越史 編集, 初版, なるにあ出版, 東京, 2013
12. SAVE-J Study Group, Sakamoto T, Morimura N, Nagao K, Asai Y, Yokota H, Nara S, Hase M, Tahara Y, Atsumi T : Extracorporeal cardiopulmonary resuscitation versus conventional cardiopulmonary resuscitation in adults with out-of-hospital cardiac arrest: A prospective observational study. *Resuscitation* 85 : 762 – 768, 2014

## VII. 1. 32 総合診療科

1. Iwata K, Doi A, Matsuo H, Takegawa H, Ohji G : Re: TG13 antimicrobial therapy for acute cholangitis and cholecystitis. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 21 : E10, 2014

2. 亀井博紀：(第9章) 感染症 1 呼吸器感染症. 薬剤師レジデントマニュアル, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京都, 71-74, 2013
3. 亀井博紀：(第9章) 感染症 2 尿路感染症. 薬剤師レジデントマニュアル, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京都, 74-77, 2013
4. 亀井博紀：(第9章) 感染症 3 真菌感染症. 薬剤師レジデントマニュアル, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京都, 77-80, 2013
5. 亀井博紀：(第9章) 感染症 5 敗血症. 薬剤師レジデントマニュアル, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京都, 84-87, 2013
6. Kubo S, Saito K, Hirata S, Fukuyo S, Yamaoka K, Sawamukai N, Nawata M, Iwata S, Mizuno Y, Tanaka Y: Abatacept inhibits radiographic progression in patients with rheumatoid arthritis: a retrospective analysis of 6 months of abatacept treatment in routine clinical practice. The ALTAIR study. *Modern Rheumatology* 24 : 42-51, 2014
7. 園 諭美：(第16章) 膠原病、整形外科疾患 29 関節リウマチ. 薬剤師レジデントマニュアル, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京都, 201-204, 2013
8. 土井朝子：ペニシリンGとアンピシリン. *medicina* 50 : 1200-1203, 2013
9. 土井朝子：吐血、下血、咯血. HIV/AIDSのトラブルシューティングとプライマリ・ケア, 岩田健太郎 編, 1版, 南山堂, 東京都, 228-234, 2013
10. 土井朝子：患者の状態を把握する：CD4とウイルス価. HIV/AIDSのトラブルシューティングとプライマリ・ケア, 岩田健太郎 編, 1版, 南山堂, 東京都, 380-385, 2013
11. 土井朝子：女性の性感染症. レジデントノート増刊 16 : 323-328, 2014
12. 西岡弘晶：(第7章) フィジカルアセスメント. 薬剤師レジデントマニュアル, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京都, 52-64, 2013
13. 西岡弘晶：本物のチーム医療を目指して. *Nutrition Care* 6 : 860, 2013
14. 西岡弘晶：高齢者の終末期の緩和ケアと栄養ケア. *Nutrition Care* 6 : 983-985, 2013
15. Hirata S, Saito K, Kubo S, Fukuyo S, Mizuno Y, Iwata S, Nawata M, Sawamukai N, Nakano K, Yamaoka K, Tanaka Y : Discontinuation of adalimumab after attaining disease activity score 28-erythrocyte sedimentation rate remission in patients with rheumatoid arthritis(HONOR study): an observational study. *Arthritis Research & Therapy* 15 : R135, 2013
16. Fujimoto D, Takegawa H, Doi A, Sakizono K, Kotani Y, Miki K, Naito T, Niki M, Miyamoto J, Tamai K, Nagata K, Nakagawa A, Tachikawa R, Otsuka K, Katakami N, Tomii K : Comparison of two transport systems available in Japan(TERUMO kenkiporter II and BBL Port-A-Cul) for maintenance of aerobic and anaerobic bacteria. *J Infect Chemother* 20 : 26-29, 2014

## VII. 1. 33 看護部

1. 池田理沙：周術期合併症の理解と予防・発生時の対処 第5回 食道切除術術後の合併症と予防、対応策. 重症集中ケア 12 : 120-126, 2014

2. 伊藤明美：効率化につながる記録システムづくり. 看護きろくと看護課程 23：40-44, 2013
3. 伊藤聡子：倫理調整が必要な対象者とかかわるための基本的スキル 意思決定支援. 看護師のためのクリティカルケア場面の問題解決ガイド, 江川幸二, 山勢博彰 編, 三輪書店, 東京, 1, 120-124, 2013
4. 伊藤聡子：せん妄ケア. 看護技術 60：234-239, 2014
5. 梅田節子：チーム活性化の要はナース！ 緩和ケアチーム立ち回りノウハウ ポジティブフィードバックが職種間の連携を円滑にする鍵. オンコロジーナース 6：90-97, 2013
6. 梅田みゆき：みんなが知りたかった！ 隣の施設の院内トリアージ成功の秘密 神戸市立医療センター中央市民病院. Emergency Care 27：37-40, 2014
7. 梅田節子：多忙な一般病棟のメリットを生かし、早期から緩和ケアを取り入れる ～患者・家族の訴えを聴き、癒しの要素を入れる. オンコロジーナース 7：50-55, 2014
8. 奥山拓矢：看護管理者に伝えたい認定看護師の知識と技 (19) 患者の可能性を信じ、認め、力を引き出すケアを 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師. 看護 65：100-103, 2013
9. 奥山拓矢：よもやまギモンを解決します！ 認定看護師として、医師から任されていることなどありますか？ ブレインナーシング 29：71, 2013
10. 川村修司：自殺企図により死を迎える患者の家族への支援. 救急看護トリアージのスキル強化 3：112-116, 2014
11. 佐伯和美, 佐野 恵：救急場面におけるプレイ・プレパレーション. こどもケア 8：2-6, 2013
12. 白水有紀, 仲村直子, 嶋村倫子：ガイドラインには書いていない循環器疾患の終末期看護 - 壮年期拡張型心筋症患者の事例からの考察 -. ハートナーシング 26：974-979, 2013
13. 高屋尚子, 松谷美和子, 寺田麻子, 西野理英, 飯田正子, 佐藤エキ子, 佐居由美, 平林優子, 井部俊子, 三浦友理子：看護系大学新卒看護師に求められる臨床看護実践能力 新卒看護師育成経験のある看護師への面接調査. 聖路加看護学会誌 17：27-34, 2013
14. 高屋尚子：プロフェッショナルを育てる 一人ひとりが力を発揮できる組織づくりを目指して. 月刊保険診療 68：40-41, 2013
15. 武井尚子：退院後の継続的ケアの実際② 化学療法を受けている患者のストーマケア. ストーマケア実践ガイド, 松原康美 編, 第1版, 学研メディカル秀潤社, 東京, 170-177, 2013
16. 武井尚子：医療者の判断と意向が異なる場合の患者・家族への説明力～倫理的ジレンマへの対処 患者が高齢で認知症があるため家族が手術を望まないケース. オンコロジーナース 7：10-14, 2013
17. 弦牧知佳：前立腺がん. オンコロジーナース 7：51-56, 2014
18. 長崎節子：経尿道的前立腺手術後に血尿が残っている患者さん. 泌尿器ケア 18：1011-1014, 2013
19. 仲村直子：2病院に通院する複合疾患患者の心不全のコントロールと生活調整. 看護研究 46：163-168, 2013

20. 仲村直子：フットケア外来の看護記録の工夫. 継続看護時代の外来看護 18：62-70, 2013
21. 仲村直子：生活指導の実際は？－食塩摂取・水分の管理. Jmedmook30 あなたも名医！ゼッタイ答えがみつかる心不全, 佐藤幸人 編集, 日本医事新報社, 東京, 182-186, 2014
22. 仲村直子：チーム医療で実践すること 生活指導. 最強！心不全チーム医療, 佐藤幸人 編著, 第1版, メディカ出版, 大阪, 134-139, 2014
23. 花房由美子：医療者の判断と意向が異なる場合の患者・家族への説明力～倫理的ジレンマへの対処 認知機能低下がある高齢患者の意思決定支援に難渋したケース. オンコロジーナース 7：15-19, 2013
24. 濱田麻美子：食欲不振の症状マネジメントとケアの具体策 食欲不振の原因と出現するメカニズム. がん患者ケア 6：57-62, 2013
25. 濱田麻美子：血液検査データ・腫瘍マーカーの意味と活用 腫瘍マーカーの基礎知識と看護への生かし方. オンコロジーナース 6：82-87, 2013
26. 正岡由衣：上腕骨骨幹部骨折. 整形外科疾患別看護マニュアル, 飯田寛和 監修, メディカ出版, 大阪, 110-117, 2013
27. Masaki N(正城奈美), Sugama J, Okuwa M, Inagaki M, Matsuo J, Nakatani T, Sanada H：Heel blood flow during loading and off-loading in bedridden older adults with low and normal ankle-brachial pressure index: a quasi-experimental study(寝たきり高齢者における経皮酸素分圧で評価した 低ABIと正常なABIにおける圧迫解除後の腫部血流変化の比較：準実験研究). Biological Research for Nursing 15：285-291, 2013
28. 松森直美, 笹木 忍, 丸山浩枝：これならできるプレパレーション ケアモデルを用いた実践例 ケアモデル講習会 講習会の実際と参加者の声. 小児看護 36：540-550, 2013
29. 丸山浩枝, 石川 愛, 齊戸沙織：これならできるプレパレーション ケアモデルを用いた実践例 ケアモデル実践 人工内耳手術. 小児看護 36：590-594, 2013
30. 吉岡侑香：ONもOFFも全力投球！これがハートナース流ライフスタイル. ハートナーシング 26：4, 2013
31. 呼吸器ケアチーム：臨床工学技士の活躍から管理体制の向上を感じるRST. 呼吸器ケア 11：82-85, 2013
32. G-ICSナース：できる！ICUナースシリーズ ICU患者のモニタリング－異変のサインを見逃さない！第1版, メディカ出版, 大阪, 2014

## VII. 1. 34 薬剤部

1. 大道真由美, 北田徳昭, 登 佳寿子, 田中詳二, 田路佳範, 吉本明弘, 鈴木隆夫, 福島昭二, 橋田 亨：腹膜透析患者における1週間あたりのダルベポエチンアルファ平均投与量とヘモグロビン値との相関性の解析. 日本透析医学会誌 46：419-425, 2013
2. 北田徳昭, 金森健悟, 小西絢子, 田中詳二, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 橋田 亨：ソラフェニブを用いた肝がん治療の現状と投薬期間に影響を与える因子の解明. 癌と化学療法 40：479-482, 2013
3. 北田徳昭, 橋田 亨：これから始める病棟薬剤業務～先行事例からヒントを探る～持参薬をどう管理するか 大規模病院：シームレスな薬物治療を目指した入院前からの常用薬確認. 月刊薬事 55：953-957, 2013

4. 北田徳昭：症状と対処の仕方がわかる！抗がん薬の副作用とマネジメント 第9回 乳がん weekly PTX単独療法. 月刊薬事 55：2254-2260, 2013
5. 中浴伸二, 北田徳昭, 山本健児, 有吉孝一, 橋田 亨：大規模災害被災地に対する医療支援-救護所における処方動向とグループページを活用した後方支援-. 日臨救医誌 16：589-594, 2013
6. 橋田 亨, 北田徳昭, 原田奈生子, 長野 徹：11皮膚疾患, 77帯状疱疹, 薬局2014年3月増刊号, 薬と検査 2014薬物治療&服薬指導プラクティカルガイド, 南山堂, 東京, 990-1003, 2014
7. 山本晴菜, 北田徳昭, 柴谷直樹, 平嶋正樹, 橋田 亨：新規医薬品導入時におけるリスク最小化活動のための留意点と薬剤師の役割-デノスマブを例に-. 医薬品情報学 16：28-32, 2014

#### VII. 1. 35 臨床検査技術部

1. Maruoka H, Inoue D, Takiuchi Y, Nagano S, Arima H, Tabata S, Matsushita A, Ishikawa T, Oita T, Takahashi T: IP-10/CXCL10 and MIG/CXCL9 as novel markers for the diagnosis of lymphoma-associated hemophagocytic syndrome. Ann Hematol 93：393-401, 2014

#### VII. 1. 36 リハビリテーション技術部

1. Sakamoto H: Influence of growth hormone, insulin-like growth factor 1, and vitamin D receptor polymorphisms on muscle mass and strength in Japanese elderly woman. 神戸大学修士論文集, 2014

#### VII. 1. 37 栄養管理部

1. 雨海照祥, 一丸智美, 大西泉澄, 鉾立容子, 林田美香子, 脇田真季：高齢者の栄養状態からの予後予測 叙説的総説. 静脈経腸栄養 28：1033-1043, 2013
2. 雨海照祥, 一丸智美：小児の低栄養症候群の判定基準 わが国におけるWHO基準の上腕周囲長の適用性と課題. 臨床栄養別冊・小児の臨床栄養, 雨海照祥 編, 第1版, 医歯薬出版, 東京, 22-30, 2014
3. Ichimaru S, Amagai T, Shiro Y: The application of a feeding protocol in older patients fed through percutaneous endoscopic gastrostomy tubes by the intermittent or bolus methods: a single-center, retrospective chart review. Asia Pac J Clin Nutr 22：229-234, 2013
4. 一丸智美：Refeeding Syndrome (RFS) の予防と対策. 臨床栄養別冊・小児の臨床栄養, 雨海照祥 編, 第1版, 医歯薬出版, 東京, 102-109, 2014
5. 岩本昌子, 吉田 勉, 栗原伸公, 土江節子, 他18名：傷病者・要介護者の栄養アセスメント. 食物と栄養学基礎シリーズ10 臨床栄養学, 飯嶋正広, 今本美幸 編, 第一版, 学文社, 東京, 21-40, 2013
6. Nishida N, Sasaki M, Kurihara M, Ichimaru S, Wakita M, Bamba S, Andoh A, Fujiyama Y, Amagai T: Changes of energy metabolism, nutritional status and serum cytokine levels in patients with Crohn's disease after anti-tumor necrosis factor- $\alpha$  therapy. J Clin Biochem Nutr 53：122-127, 2013
7. Wakita M, Wakayama A, Omori Y, Ichimaru S, Amagai T: Impact of energy intake on the survival rate of patients with severely ill stroke. Asia Pac J Clin Nutr 22：474-481, 2013

#### VII. 1. 38 情報企画課

1. 加藤健司：DPCデータベースの構築と診療情報の可視化の取組みと実際. 神戸市立病院紀要 52：9-28, 2013



## Ⅶ. 2 西市民病院

### Ⅶ. 2.1 糖尿病・内分泌内科

1. 岡田裕子, 岡田卓也, 村前直和, 平田 悠, 武部礼子, 高木亜里紗, 榊原美津枝, 中村武寛: CGMを用いた分割食およびカーボカウント、CSIIの導入により良好なコントロールを得た1型糖尿病合併妊娠の1例. 日本病態栄養学会誌 16: 229-237, 2013
2. 高井智子, 武部礼子, 小縣正明, 勝山栄治, 中村武寛: 副腎皮質ステロイド誘発性糖尿病ケトアシドーシスに非閉塞性腸管虚血症を合併した2型糖尿病の1例. 糖尿病 56: 298-304, 2013
3. 武部礼子, 小武由紀子, 村前直和, 岡田裕子, 中村武寛: インスリンアナログ製剤の変更に伴ってインスリン抗体による低血糖が頻発した2型糖尿病の1例. 日内会誌 102: 2976-2979, 2013
4. Yu Hirata, Hiromi Tomioka, Reina Sekiya, Shyuji Yamashita, Toshihiko Kaneda, Yoko Kida, Chihiro Nishio, Masahiro Kaneko, Hiroshi Fujii, Takehiro Nakamura: Association of Hyperglycemia on Admission and During Hospitalization with Mortality in Diabetic Patients Admitted for Pneumonia. Intern Med 52: 2431-2438, 2013

### Ⅶ. 2.2 消化器内科

1. 山下幸政, 福島政司, 住友靖彦, 孫 永基, 丸尾正幸, 板井良輔, 小野洋嗣, 木村佳人, 池田英司, 高田真理子, 三上 栄, 西上隆之: 腫瘍脱落后に再出現した腫瘍の急速な増大を確認しえた多発食道癌肉腫の1例. 日本消化器病学会雑誌 110: 1454-1460, 2013

### Ⅶ. 2.3 呼吸器内科

1. 石井秀明, 富岡洋海, 平田 悠, 関谷怜奈, 金子正博, 勝山栄治: 医療・介護関連肺炎として発症したレジオネラ肺炎の1剖検例. 日本呼吸器学会誌 2: 562-566, 2013
2. Otani M, Shoji H, Tomioka H, Kaneda T, Kida Y, Kaneko M, Fujii H, Nakajima Y, Katsuyama E: AP-VAS 2012 case report: Anti-glomerular basement membrane disease with high titer of myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic antibody - an autopsy case report. CEN Case Rep 2: 154-157, 2013 (DOI 10.1007/s13730-013-0059-0)
3. 金子正博: Forced Oscillation Technique (FOT) で呼吸周期依存を呈する喘息症例の検討. アレルギーの臨床 34: 392-395, 2014
4. 金田俊彦, 富岡洋海, 池田宏国, 竹尾正彦, 臼杵則朗, 勝山栄治: 慢性大動脈解離と悪性腫瘍との鑑別を要し、大動脈周囲炎を来したIgG4関連疾患の1例. 臨床放射線 59: 197-201, 2014
5. 木田陽子, 金田俊彦, 金子正博, 藤井 宏, 富岡洋海: 3次元CTを用いて診断した先天性気管支閉鎖症の1例. 気管支学 35: 296-299, 2013
6. 富岡洋海: 放射線性肺炎. 今日の臨床サポート, 杉山幸比古 監修, 永井良三, 福井次矢, 木村健二郎, 上村直実, 桑島 巖, 今井 靖, 嶋田 元 編集, エルゼビア・ジャパン, 東京, 2014 (ウェブサイト: <http://clinicalsup.jp/jpoc/>)
7. 富岡洋海: サルコイドーシスと自己免疫性疾患. 日本胸部臨床 72: 846-856, 2013
8. 富岡洋海: 結核治療薬. Pocket Drugs 2014, 福井次矢 監修, 小松康宏, 渡邊裕司 編集, 医学書院, 東京, 889-898, 2014

9. 富岡洋海：間質性肺疾患 [V] ガス吸入による肺疾患. わかりやすい内科学, 井村裕夫 編集主幹, 第4版, 文光堂, 東京, 59-60, 2014
10. 富岡洋海：間質性肺疾患 [VI] 薬剤によって引き起こされる呼吸器疾患. わかりやすい内科学, 井村裕夫 編集主幹, 第4版, 文光堂, 東京, 61-62, 2014
11. 富岡洋海：薬剤性肺炎. ガイドライン外来診療2014, 泉 孝英 編集主幹, 日経メディカル開発, 東京, 82-88, 2014
12. Tomioka H, Tada K : Disease-specific severity measures and health-related quality of life in idiopathic pulmonary fibrosis. *Intern Med* 4 : 138, 2014 (doi:10.4172/2165-8048.1000138)
13. 西尾智尋, 古閑紀雄, 勝山栄治, 富岡洋海：顔面神経麻痺を呈したANCA陰性granulomatosis with polyangitisの1例. *日本呼吸器学会誌* 2 : 584-587, 2013
14. Hirata Y, Tomioka H, Sekiya R, Yamashita S, Kaneda T, Kida Y, Nishio C, Kaneko M, Fujii H, Nakamura T : Association of hyperglycemia on admission and during hospitalization with mortality in diabetic patients admitted for pneumonia. *Internal Medicine* 52 : 2431-2438, 2013

#### Ⅶ. 2.4 精神・神経科

1. 岩路かをり：内科外来に受診している成人喘息患者の発作コントロールに影響を及ぼす因子に関する心身医学的調査. *心身医学誌* 53 : 416-427, 2013
2. 見野耕一, 三宅啓子, 服部真歩, 新田和子, 岩路かをり, 柿本裕一：無床総合病院精神科としてリエゾンチームの機能と展望. *精神神経学雑誌* 第108回学術総会特別号 115 : SS643-SS654, 2013
3. 見野耕一, 新田和子, 岩路かをり, 竹村幸洋, 三宅啓子：無床総合病院精神科におけるリエゾンチームのあり方. *総合病院精神医学* 25 : 130-143, 2013
4. 見野耕一, 荒賀哲也, 中元幸治, 新田和子, 岩路かをり：身体科での行動制限・リエゾンコンサルテーション場面での行動制限. *精神科治療学* 28 : 1331-1338, 2013
5. 見野耕一：これからの認知症治療について. *神戸市医師会報*, 神戸市医師会, 68-73, 2013

#### Ⅶ. 2.5 小児科

1. 田中由起子：Q31 119番にかけるときに注意することはありますか？ Q&Aでわかる0・1・2・3歳の食物アレルギー相談対応ブック, 小林陽之助 監修, 兵庫食物アレルギー研究会 編集, 初版, 診断と治療社, 東京, 103-105, 2013
2. 安島英裕：3 子どもの頭痛の心身医学的理解. *チャイルドヘルス・特集* 子どもの心身症の診断と対応 16 : 462-465, 2013
3. 安島英裕：片頭痛の症候と診断. *小児科診療* 76 : 1196-1203, 2013

#### Ⅶ. 2.6 外科・呼吸器外科・消化器外科

1. 竹尾正彦, 仲本嘉彦, 原田武尚, 小縣正明, 山本満雄, 堤 啓：大網原発悪性線維性組織球腫の1例. *外科* 75 : 663-666, 2013

- 村上哲平, 長谷川傑, 星野伸晃, 和田聡朗, 川田洋憲, 金城洋介, 平井健次郎, 真岸亜希子, 加藤 滋, 片岡佳樹, 山田理大, 大越香江, 肥田侯矢, 河田健二, 坂井義治:【各種デバイスを応用した私の手術－使用法と工夫】各種デバイスを応用した直腸手術. 外科 75:943-953, 2013

## VII. 2.7 整形外科

- 松本真一, 川那辺圭一, 大槻文悟, 木村豪太, 奥谷祐希:上腕骨頭後方の骨欠損による反復性肩脱臼に対して人工骨頭置換術を施行した2例. 中部日本整形外科災害外科学会雑誌 56:439-440, 2013
- 山根逸郎, 西口 滋, 布施謙三, 藤原弘之, 石井達也, 笠井隆一:骨粗鬆症性脊椎骨折後偽関節に対する後方固定術の治療成績. 中部日本整形外科災害外科学会雑誌 56:611-612, 2013

## VII. 2.8 眼科

- Kuroda M, Nishida A, Kikuchi M, Kurimoto Y: Purtscher's retinopathy followed by neovascular glaucoma. Clin Ophthalmol 7:2235-2237, 2013
- Kuroda M, Hirami Y, Hata M, Mandai M, Takahashi M, Kurimoto Y: Intraretinal hyperreflective foci on spectral-domain optical coherence tomographic images of patients with retinitis pigmentosa. Clinical Ophthalmology 8:435-440, 2014
- 広瀬文隆:診断に生かそう隅角検査:隅角鏡の使い方、見方. 眼科グラフィック 2:246-251, 2013.
- 広瀬文隆:診断に生かそう隅角検査:UBMによる隅角検査. 眼科グラフィック 2:252-256, 2013
- Hirose F, Hata M, Ito S, Matsuki T, Kurimoto Y: Light-dark changes in iris thickness and anterior chamber angle width in eyes with occludable angles. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 251:2395-2402, 2013
- Nongpiur M, Khor C, Jia H, Cornes B, Chen L, Qiao C, Nair K, Cheng C, Xu L, George R, Tan D, Abu-Amero K, Perera S, Ozaki M, Mizoguchi T, Kurimoto Y, Low S, Tajudin L, Ho CL, Tham C, Soto I, Chew P, Wong H, Shantha B, Kuroda M, Osman E, Tang G, Fan S, Meng H, Wang H, Feng B, Yong V, Ting S, Li Y, Wang Y, Li Z, Lavanya R, Wu R, Zheng Y, Su D, Loon S, Yong V, Allingham R, Hauser M, Soumitra N, Ramprasad V, Waseem N, Yaakub A, Chia K, Kumaramanickavel G, Wong T, How A, Chau T, Simmons C, Bei J, Zeng Y, Bhattacharya S, Zhang M, Tan D, Teo Y, Al-Obeidan S, Hon do N, Tai E, Saw S, Foster P, Vijaya L, Jonas J, Wong T, John S, Pang C, Vithana E, Wang N, Aung T: ABC5, a Gene That Influences the Anterior Chamber Depth, Is Associated with Primary Angle Closure Glaucoma. PLoS Genet 10:e1004089, 2014

## VII. 2.9 歯科口腔外科

- 河合峰雄:要介護高齢者の侵襲的歯科治療を安全に行うためのシステム作り－病院歯科・口腔外科の立場から. 歯界展望特別号 お口の健康 全身元気－各世代の最新歯科医療－, 医歯薬出版, 東京, 78-79, 2013
- 河合峰雄:災害時の地域医療確保のためにできること－阪神大震災の経験から－. 鹿児島保険医新聞, 鹿児島市, 2014.3.15
- 岸田瑠加, 河合峰雄, 中村純也, 安東大器, 西田哲也:日帰り全身麻酔下歯科治療を行った高度房室ブロックの既往を有する精神遅滞患者の1例. 日本歯科麻酔学会雑誌 41:205-206, 2013
- 中村純也, 河合峰雄, 西田哲也, 安東大器, 岸田瑠加:歯科口腔外科日帰り麻酔下手術センター新規開設後1年間の概要と症例. 日本歯科麻酔学会雑誌 41:207-208, 2013

## Ⅶ. 2. 10 救急総合診療部

1. 大倉隆介, 小縣正明: 救急外来における過換気症候群の臨床的検討. 日救急医学会誌 24: 837-846, 2013
2. Ogata M: General Surgery Applications. Emergency Ultrasound(3rd edition), Ma OJ, Mateer JR, Reardon RF, Joing SA, eds, McGraw Hill, New York, 273-317, 2014
3. 高井智子, 武部礼子, 小縣正明, 勝山栄治, 中村武寛: 副腎皮質ステロイド誘発性糖尿病ケトアシドーシスに非閉塞性腸管虚血症を合併した2型糖尿病の1例. 糖尿病 56: 298-304, 2013

## Ⅶ. 2. 11 リハビリテーション技術部

1. Asai T, Misu S, Doi T, Yamada M, Ando H: Effects of dual-tasking on control of trunk movement during gait: respective effect of manual- and cognitive-task. Gait Posture 39: 54-59, 2014
2. 谷川大地, 三栖翔吾, 澤 龍一, 中窪 翔, 堤本広大, 土井剛彦, 小野 玲: 要介護高齢者における、抑うつと痛みの心理的要素との関連. 老年精神医学雑誌 25: 177-184, 2014
3. Tsutsumimoto K, Doi T, Misu S, Ono R, Hirata S: Can the Ordered Multi-Stepping Over Hoop test be useful for predicting fallers among older people? A preliminary 1 year cohort study. Aging Clin Exp Res 25: 427-432, 2013

## Ⅶ. 2. 12 医事課医事係

1. 横田勝弘: 医療事務 Openフォーラム (第77回) 事務職員発 病院経営改善のための統計分析. 月刊保険診療 69: 76-79, 2014

## Ⅶ. 3 西神戸医療センター

### Ⅶ. 3.1 神経内科

1. Wada Y, Yanagihara C, Nishimura Y, Namekawa M : Familial adult-onset Alexander disease with a novel mutation (D78N) in the Glial fibrillary acidic protein gene with unusual bilateral basal ganglia involvement. *J Neurol Sci* 331 : 161 – 164, 2013

### Ⅶ. 3.2 呼吸器内科

1. 松本正孝, 濱川正光, 桜井稔泰, 多田公英, 池田顕彦, 加藤達雄, 吉山 崇, 藤山理世, 中村文明 : エタンブトール視神経症の発生割合と定期的視力検査の有用性. *日本呼吸器学会誌* 2 : 187 – 192, 2013
2. 松本正孝, 井手口周平, 濱川正光, 荻野浩嗣, 瀬瀬力也, 桜井稔泰, 多田公英, 池田顕彦 : イソニアジドを用いた肺結核治療における血中ビタミンB6濃度の推移. *日本呼吸器学会誌* 3 : 56 – 60, 2014

### Ⅶ. 3.3 免疫血液内科

1. Asano J, Ueda R, Tanaka Y, Shinzato I, Takafuta T : Effects of immunosuppressive therapy in a patient with aplastic anemia-paroxysmal nocturnal hemoglobinuria (AA-PNH) syndrome during ongoing eculizumab treatment. *Intern Med* 53 : 125 – 128, 2014
2. Tanaka Y, Yakushijin K, Takafuta T : Enlargement of bilateral kidneys by infiltration of leukemic cells in acute lymphoblastic leukemia at relapse after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Int J Hematol* 98 : 513 – 514, 2013

### Ⅶ. 3.4 精神・神経科

1. 石川慎一 : 高齢者への精神科アウトリーチ. *心身医学* 53 : 931 – 937, 2013
2. 金谷貴子, 高宮静男, 他 : 閉所恐怖症状が上肢ギプス固定に及ぼす影響について. *臨床整形外科* 48 : 73 – 76, 2013
3. 川添文子, 古屋有華, 高宮静男, 白川敬子, 井戸りか, 上月 遥, 河村麻美子, 石川慎一, 大谷恭平 : 総合病院におけるメンタル支援の実践. *臨床精神医学* 42 : 1209 – 1214, 2013
4. 篠田美香, 高宮静男 : 児童思春期精神医学の講義を受けた発達科学部学生に対するアンケート調査. *神戸心身医学* 26 : 15 – 17, 2013
5. 高宮静男, 上月 遥, 石川慎一, 大谷恭平, 磯部昌憲 : 第2章摂食障害の多様性、1. 児童の摂食障害. *臨床精神医学* 42 : 547 – 552, 2013
6. 高宮静男 : 大学生の発達障害支援. *追手門大学 地域支援心理研究センター 紀要* 10 : 18 – 31, 2013
7. 中牟田若葉, 菊根千秋, 阪本敏子, 高宮静男 : 小学生の摂食障害に関するセミナー. *神戸心身医学* 26 : 20 – 21, 2013
8. 若生 遥, 唐木美喜子, 高宮静男 : 摂食障害とスポーツとの関連を探る – 運動部顧問と養護教諭への調査結果からの検討 –. *神戸心身医学* 26 : 22 – 23, 2013

### VII. 3.5 小児科

1. Kawasaki Y, Matsubara K, Hashimoto K, Tanigawa K, Kage M, Iwata A, Nigami H, Fukaya T : Non-steroidal anti-inflammatory drug-induced vanishing bile duct syndrome treated with plasmapheresis. *J Pediatr Gastroenterol Nutr* 57 : e30-31, 2013
2. Tamura K, Matsubara K, Ishiwada N, Nishi J, Ohnishi H, Suga S, Ihara T, Chang B, Akeda Y, Oishi K, the Japanese IPD Study Group : Hyporesponsiveness to the infecting serotype after vaccination of children with seven-valent pneumococcal conjugate vaccine following invasive pneumococcal disease. *Vaccine* 32 : 1444 – 1450, 2014
3. Tsukahara H, Fujii Y, Matsubara K, Yamada M, Nagaoka Y, Saito Y, Yashiro M, Tsuge M, Goto S, Kitamura T, Hata A, Ichiyama T, Morishima T: Prognostic value of brain injury biomarkers in acute encephalitis/encephalopathy. *Pediatr Int* 55 : 461 – 464, 2013
4. Matsubara K, Hoshina K, Suzuki Y : Early-onset and late-onset group B streptococcal disease in Japan: a nationwide surveillance study, 2004-2010. *Int J Infect Dis* 17 : e379-384, 2013
5. 松原康策 : 早発型・遅発型 B 群レンサ球菌感染症. 別冊 新領域別症候群シリーズ No.25, 感染症症候群 (第2版) 下 (臓器別感染症編) - 症候群から感染性単一疾患までを含めて -, XIII. 先天性・母子感染症, 日本臨牀社, 東京, 712 – 716, 2013
6. Morishima T, Watanabe K, Niwa A, Hirai H, Saida S, Tanaka T, Kato I, Umeda K, Hiramatsu H, Saito MK, Matsubara K, Adachi S, Kobayashi M, Nakahata T, Heike T: Genetic correction of HAX1 in induced pluripotent stem cells from a patient with severe congenital neutropenia improves defective granulopoiesis. *Haematologica* 99 : 19 – 27, 2014
7. Yorifuji T, Kawakita R, Hosokawa Y, Fujimaru R, Matsubara K, Aizu K, Suzuki S, Nagasaka H, Nishibori H, Masue M: Efficacy and safety of long-term, continuous subcutaneous octreotide infusion for patients with different subtypes of KATP-channel hyperinsulinism. *Clin Endocrinol (Oxf)* 78 : 891 – 897, 2013

### VII. 3.6 皮膚科

1. Eguchi T, Kumagai K, Kobayashi H, Shigematsu H, Kitaura K, Suzuki S, Horikawa T, Hamada Y, Ogasawara K, Suzuki R : Accumulation of invariant NKT cells into inflamed skin in a novel murine model of nickel allergy. *Cell Immunol* 284 : 163 – 171, 2013
2. Ogoshi M, Horikawa T : Rapid improvement of psoriasis in diabetes subsequent to glucose lowering. *Int J Dermatol* 53 : e106 – 107, 2014
3. Kohno K, Matsuo H, Takahashi H, Niihara H, Chinuki Y, Kaneko S, Honjoh T, Horikawa T, Mihara S, Morita E : Serum gliadin monitoring extracts patients with false negative results in challenge tests for the diagnosis of wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis. *Allergol Int* 62 : 229 – 238, 2013
4. 五木田麻里, 高橋阿起子, 仲田かおり, 堀川達弥, 田中康博, 高蓋寿朗, 井上友介, 古賀浩嗣, 橋本隆 : BP180のNC16a部位とC末端部位に対するIgG抗体も検出された腫瘍随伴性天疱瘡の1例. *皮膚臨床* 55 : 823 – 828, 2013
5. 五木田麻里, 小猿恒志, 仲田かおり, 堀川達弥 : 分子標的治療薬による爪囲炎にアダパレンの外用が効果的であった3例. *皮膚の科学* 12 : 92 – 96, 2013

6. 五木田麻里, 小猿恒志, 仲田かおり, 堀川達弥, 濱川正光, 池田顕彦, 津田朋広, 三村 純: 抗結核薬による薬疹への対処法-減感作療法の試み-. *Visual Dermatology* 13: 178-179, 2014
7. 小猿恒志, 五木田麻里, 堀川達弥: プロクロルペラジン (ノバミン®) による光線過敏型薬疹の1例. *皮膚の科学* 12: 199-202, 2013
8. Kobayashi H, Kumagai K, Eguchi T, Shigematsu H, Kitaura K, Kawano M, Horikawa T, Suzuki S, Matsutani T, Ogasawara K, Hamada Y, Suzuki R: Characterization of T cell receptors of Th1 cells infiltrating inflamed skin of a novel murine model of palladium-induced metal allergy. *PLoS One* 8: e76385, 2013
9. Shigematsu H, Kumagai K, Kobayashi H, Eguchi T, Kitaura K, Suzuki S, Horikawa T, Matsutani T, Ogasawara K, Hamada Y, Suzuki R: Accumulation of metal-specific T cells in inflamed skin in a novel murine model of chromium-induced allergic contact dermatitis. *PLoS One* 9: e85985, 2014
10. 仲田かおり, 高橋阿起子, 堀川達弥: 幼児に発症したeccrine hidradenitis. *皮膚診療* 35: 481-484, 2013
11. 仲田かおり, 鷺尾 健, 村田洋三, 木村鉄宣, 福本隆也, 堀川達弥: 毛包、脂腺、汗管の誘導を伴った萎縮型皮膚線維腫の1例. *皮膚の科学* 12: 296-300, 2013
12. 堀川達弥: 薬疹のスキルアップ「病型による推定と診療ポイント」. *MB Derma* 203: 89-94, 2013
13. 堀川達弥: 日光蕁麻疹. *アレルギーの臨床* 33: 517-521, 2013
14. 堀川達弥: 食物依存性運動誘発アナフィラキシーの診断と予防の実際. *MB Derma* 205: 37-42, 2013
15. 堀川達弥: コリン性蕁麻疹. *皮膚臨床* 55: 1682-1685, 2013
16. 堀川達弥: 食物の形態および消化・吸収と食物アレルギー. *Seminaria Dermatologie* 226: 37-40, 2013
17. 堀川達弥: アレルギーの救急~最新の知見をふまえて~. *日皮会誌* 123: 2634-2636, 2013
18. 堀川達弥: 口腔アレルギー症候群-最近の動向と具体的対処法-. *Medical Practice* 31: 266-270, 2014
19. 堀川達弥: 蕁麻疹の診断と治療. *神戸市立病院紀要* 52: 1-7, 2013
20. Washio K, Nakamura A, Fukuda S, Hashimoto T, Horikawa T: A case of lichen planus pemphigoides successfully treated with a combination of cyclosporine A and prednisolone. *Case Reports in Dermatol* 5: 84-87, 2013

## VII. 3.7 外科・消化器外科

1. 奥村慎太郎, 肥田侯矢, 住井敦彦, 安川大貴, 松浦正徒, 京極高久: 腹腔鏡下に同時切除しえた上行結腸癌に併発した腸間膜リンパ管腫の1例. *日本内視鏡外科学会雑誌* 19: 211-216, 2014
2. 松浦正徒, 波多野悦朗, 石井隆道, 藤本康弘, 水本雅己, 上本伸二: 腹腔鏡下肝部分切除術で診断した非結核性抗酸菌症による肝膿瘍の1例. *日本臨床外科学会雑誌* 75: 179-183, 2014

## VII. 3.8 呼吸器外科

1. 大竹洋介, 青木 稔, 田中里奈, 石川浩之: Mycobacterium abscessus肺感染症の2手術例-本邦報告例32例の検討-. *日本呼吸器外科学会雑誌* 28: 198-204, 2014

2. Sonobe M, Date H, Wada H, Okubo K, Hamakawa H, Teramukai S, Matsumura A, Nakagawa T, Sumitomo S, Miyamoto Y, Okumura N, Takeo S, Kawakami K, Aoki M, Kosaka S : Prognostic factor after complete resection of pN2 non-small cell lung cancer. *J Thorac Cardiovasc Surg* 146 : 788 – 795, 2013
3. 田中里奈, 青木 稔, 石川浩之, 大竹洋介 : Bevacizumab投与中に難治性気胸をきたした大腸癌多発肺転移の1例. *日本呼吸器外科学会雑誌* 27 : 611 – 615, 2013
4. 田中里奈, 青木 稔, 堤 奈央, 石川浩之, 大竹洋介 : 降下性壊死性縦隔炎術後の乳糜胸に対するオクトレオチドの使用経験. *日本呼吸器外科学会雑誌* 28 : 69 – 74, 2014

### Ⅶ. 3.9 脳神経外科

1. Takeda N, Tatsumi S, Nishihara M, Kidoguchi K, Kohmura E : Incidentally detected dural arteriovenous fistulas in the anterior cranial fossa: report of four cases and review of literature. *Chirurgia* 26 : 5 – 11, 2013
2. Naoya Takeda, Keiji Kidoguchi, Kazuya Matsuo, Masamitsu Nishihara : Endovascular coil embolization for recurrence of intracranial aneurysms more than 10 years after clipping. *Indian Journal of Neurosurgery* 2 : 271 – 274, 2013
3. Tanaka H, Sasayama T, Tanaka K, Nakamizo S, Nishihara M, Mizukawa K, Kohta M, Koyama J, Miyake S, Taniguchi M, Hosoda K, Kohmura E : MicroRNA-183 upregulates HIF-1 $\alpha$  by targeting isocitrate dehydrogenase 2 (IDH2) in glioma cells. *J Neurooncol* 111 : 273 – 283, 2013
4. Taniguchi M, Nishihara M, Sasayama T, Takahashi Y, Kohmura E : A rapidly expanding immature teratoma originating from a neurohypophyseal germinoma. *Neuropathology and Applied Neurobiology* 39 : 445 – 448, 2013
5. Nakamizo S, Sasayama T, Shinohara M, Irino Y, Nishiumi S, Nishihara M, Tanaka H, Tanaka K, Mizukawa K, Itoh T, Taniguchi M, Hosoda K, Yoshida M, Kohmura E : GC/MS-based metabolomic analysis of cerebrospinal fluid (CSF) from glioma patients. *J Neurooncol* 113 : 65 – 74, 2013

### Ⅶ. 3.10 整形外科

1. Fujiwara M, Wadayama B, Yoshida K, Takaya K, Yabumoto H, Nishimura N, Inui T : Hemilateral Lumbo-Iliac Fixation with double pedicle and iliac screws for unstable sacroiliac injuries. *骨折* 35 : 763 – 769, 2013
2. 森實一晃, 仲俣岳晴, 岡本 健, 戸口田淳也, 坪山直生, 松田秀一 : 右下肢に多発したglomus腫瘍の一例. *中部整災誌* 56 : 387 – 388, 2013
3. 森實一晃, 藤林俊介, 竹本 充, 大槻文悟, 井関雅記, 松田秀一 : 診断および治療に難渋した腰椎固定術合併仙骨骨折. *整形外科* 65 : 59 – 63, 2014

### Ⅶ. 3.11 産婦人科

1. 伊藤崇博, 川北かおり, 小菊 愛, 秦さおり, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 佐原裕美子, 竹内康人, 片山和明, 橋本公夫 : 生児を得た胎児共存奇胎の1例. *産婦人科の進歩* 65 : 75 – 82, 2013
2. 秦さおり, 川北かおり, 小菊 愛, 伊藤崇博, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 佐原裕美子, 竹内康人, 片山和明, 橋本公夫 : 子宮筋腫術後に発生した肺転移を伴う良性転移性平滑筋腫の1例. *産婦人科の進歩* 65 : 51 – 57, 2013
3. 秦さおり, 竹内康人, 小菊 愛, 伊藤崇博, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 佐原裕美子, 川北かおり, 片山和明, 石原美佐, 橋本公夫 : 卵巣原発の大細胞神経内分泌癌の1例. *臨床婦人科産科* 67 : 866 – 870, 2013



### Ⅶ. 3. 12 泌尿器科

1. 金丸聰淳：Ⅱ疾患・病態の診療 4. 尿路・性器の感染症 非特異的感染症 複雑性膀胱炎. 臨床泌尿器科第67巻増刊号『泌尿器科診療ベストNAVI』 67：156-158, 2013
2. 金丸聰淳：膀胱全摘除術, 回腸導管造設術の観察ポイントとその根拠. 泌尿器ケア 18：912-915, 2013
3. 清水洋祐, 北 悠希, 井上貴博, 神波大己, 吉村耕治, 小川 修：去勢抵抗性前立腺癌に対するドセタキセル療法の減量投与に関する検討. 泌尿器外科 26：972-974, 2013
4. Togo Y, Tanaka S, Kanematsu A, Ogawa O, Miyazato M, Saito H, Arai Y, Hoshi A, Terachi T, Fukui K, Kinoshita H, Matsuda T, Yamashita M, Kakehi Y, Tsuchihashi K, Sasaki M, Ishitoya S, Onishi H, Takahashi A, Ogura K, Mishina M, Okuno H, Oida T, Horii Y, Hamada A, Okasyo K, Okumura K, Iwamura H, Nishimura K, Manabe Y, Hashimura T, Horikoshi M, Mishima T, Okada T, Sumiyoshi T, Kawakita M, Kanamaru S, Ito N, Aoki D, Kawaguchi R, Yamada Y, Kokura K, Nagai J, Kondoh N, Kajio K, Yoshimoto T, Yamamoto S : Antimicrobial prophylaxis to prevent perioperative infection in urological surgery : a multicenter study. J Infect Chemother 19：1093-1101, 2013

### Ⅶ. 3. 13 眼科

1. 三輪裕子, 吉田章子, 藤本雅大, 山口泰孝, 三河章子：黄斑円孔閉鎖後に嚢胞様黄斑浮腫をきたした2例. 臨床眼科 67：1337-1342, 2013

### Ⅶ. 3. 14 耳鼻いんこう科

1. Go Inokuchi, Nao Tsutsumi, Hirokazu Komatsu, Takeshi Fujita, Naoki Sawada, Kazuo Kumoi : Persistent petrosquamosal sinus: Underlying cause of otitic hydrocephalus with lateral sinus thrombosis. International Journal of Pediatric Otorhinolaryngology 77：1908-1911, 2013
2. Naoki Sawada, Go Inokuchi, Hirokazu Komatsu, Suzuyo Kurakawa, Kimihide Tada, Kazuo Kumoi : Nasopharyngeal tuberculosis. J Infect Chemother 19：1158-1160, 2013
3. Nao Tsutsumi, Yasutaka Kojima, Kotaro Nishida, Koichiro Maeno, Kenichiro Kakutani, Fumi Kawakami, Maki Kanzawa, Tomoo Itoh, Naoki Otsuki, Ken-ichi Nibu : Surgical treatment for recurrent solitary fibrous tumor invading atlas. Head and Neck, in press.
4. Fujita T, Hasegawa S, Yamashita D, Nibu K : Congenital middle-ear cholesteatoma in children: A retrospective review. Cholesteatoma and Ear Surgery An Update, Kugler Publications, 383-385, 2013
5. 藤田 岳, 奥野妙子：【急患・急変対応マニュアル-そのとき必要な処置と処方】術中・術後の急変への対応法 術後編 耳科手術後の髄液漏. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 85：332-335, 2013

### Ⅶ. 3. 15 看護部

1. 北川 恵：結核病棟における栄養サポートチームの取り組み～看護の視点から～. 保健師・看護師の結核展望 101：29-34, 2013
2. 立溝江三子：インフルエンザの感染制御-予防・監視・管理の徹底術 ③インフルエンザ発生の監視術・対応術-迅速診断法の活用を含めた早期察知のポイント. 感染対策ICTジャーナル 9：19-25, 2014
3. 服部兼敏, 東山弥生：特集 看護研究におけるテキストマイニング (Ⅱ) 看護師がメタファーを語る意味 認知言語学の視点からテキストマイニングを用いて考える. 看護研究 46：588-605, 2013

## VII. 3. 16 リハビリテーション技術部

1. 前川圭子, 岩城 忍, 澤田正樹, 山本一郎: 口蓋裂治療における多施設連携型のチーム医療. 日本口蓋裂学会雑誌 38: 2-6, 2013

## Ⅶ. 4 先端医療センター

### Ⅶ. 4. 1 総合腫瘍科

1. Atagi S, Katakami N, Yoshioka H, Fukuoka M, Kudoh S, Ogiwara A, Imai M, Ueda M, Matsui S : Nested Case Control Study of Proteomic Biomarkers for Interstitial Lung Disease in Japanese Patients With Non-Small-Cell Lung Cancer Treated With Erlotinib: A Multicenter Phase IV Study(JO21661). *Clin Lung Cancer* 14 : 407 – 417, 2013
2. Katakami N, Atagi S, Goto K, Hida T, Horai T, Inoue A, Ichinose Y, Koboyashi K, Takeda K, Kiura K, Nishio K, Seki Y, Ebisawa R, Shahidi M, Yamamoto N : LUX-Lung 4: a phase II trial of afatinib in patients with advanced non-small-cell lung cancer who progressed during prior treatment with erlotinib, gefitinib, or both. *J Clin Oncol* 31 : 3335 – 3341, 2013
3. Kitamura J, Takahashi Y, Neri S, Tomii K, Katakami N : Lung Squamous Cell Carcinoma in a Young Female Never Smoker: A Case Report. *Ann Thorac Cardiovasc Surg*, 2013 Apr 5 [Epub ahead of print]
4. Kogure Y, Ando M, Saka H, Chiba Y, Yamamoto N, Asami K, Hirashima T, Seto T, Nagase S, Otsuka K, Yanagihara K, Takeda K, Okamoto I, Aoki T, Takayama K, Yamasaki M, Kudoh S, Katakami N, Miyazaki M, Nakagawa K : Histology and smoking status predict survival of patients with advanced non-small-cell lung cancer. Results of West Japan Oncology Group(WJOG) Study 3906L. *J Thorac Oncol* 8 : 753 – 758, 2013
5. Goto K, Nishio M, Yamamoto N, Chikamori K, Hida T, Maemondo M, Katakami N, Kozuki T, Yoshioka H, Seto T, Fukuyama T, Tamura T : A prospective, phase II, open-label study(JO22903) of first-line erlotinib in Japanese patients with epidermal growth factor receptor(EGFR) mutation-positive advanced non-small-cell lung cancer (NSCLC). *Lung Cancer* 82 : 109 – 114, 2013
6. Saito H, Yoshizawa H, Yoshimori K, Katakami N, Katsumata N, Kawahara M, Eguchi K : Efficacy and safety of single-dose fosaprepitant in the prevention of chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients receiving high-dose cisplatin : a multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled phase 3 trial. *Ann Oncol* 24 : 1067 – 1073, 2013
7. Takeshita J, Katakami N, Fujita S, Imai Y : Pleural metastases from papillary thyroid carcinoma mimicking mesothelioma. *Internal Medicine* 53 : 163 – 164, 2014
8. Takeshita J, Masago K, Fujita S, Hata A, Kaji R, Kawamura T, Tamai K, Matsumoto T, Nagata K, Otsuka K, Nakagawa A, Otsuka K, Tomii K, Shintani T, Takayama K, Kokubo M, Katakami N : Weekly administration of paclitaxel and carboplatin with concurrent thoracic radiation in previously untreated elderly patients with locally advanced non-small-cell lung cancer: A case series of 20 patients. *MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY* 2 : 454 – 460, 2014
9. Tanaka K, Hata A, Kaji R, Fujita S, Otoshi T, Fujimoto D, Kawamura T, Tamai K, Takeshita J, Matsumoto T, Monden K, Nagata K, Otsuka K, Nakagawa A, Tachikawa R, Otsuka K, Tomii K, Katakami N (corresponding author) : Cytokeratin 19 Fragment Predicts the Efficacy of Epidermal Growth Factor Receptor-Tyrosine Kinase Inhibitor in Non-Small-Cell Lung Cancer Harboring EGFR Mutation. *J Thorac Oncol* 8 : 892 – 898, 2013
10. Tanioka M, Kitao A, Matsumoto K, Shibata N, Yamaguchi S, Fujiwara K, Minami H, Katakami N, Morita S, Negoro S : A randomised, placebo-controlled, double-blind study of aprepitant in nondrinking women younger than 70 years receiving moderately emetogenic chemotherapy. *Br J Cancer* 109 : 859 – 865, 2013

11. Hata A, Katakami N, Yoshioka H, Takeshita J, Tanaka K, Nanjo S, Fujita S, Kaji R, Imai Y, Monden K, Matsumoto T, Nagata K, Otsuka K, Tachikawa R, Tomii K, Kunimasa K, Iwasaku M, Nishiyama A, Ishida T, Nishimura Y : Rebiopsy of non-small cell lung cancer patients with acquired resistance to epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitor: Comparison between T790M mutation-positive and mutation-negative populations. *Cancer* 119 : 4325 – 4332, 2013
12. Hata A, Fujita S, Kaji R, Nanjo S, Katakami N : Dose reduction or intermittent administration of erlotinib: which is better for patients suffering from intolerable toxicities? *Intern Med* 52 : 599 – 603, 2013
13. Hata A, Katakami N (corresponding author), Yoshioka H, Kunimasa K, Fujita S, Kaji R, Notohara K, Imai Y, Tachikawa R, Tomii K, Korogi Y, Iwasaku M, Nishiyama A, Ishida T : How sensitive are epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitors for squamous cell carcinoma of the lung harboring EGFR gene-sensitive mutations? *J Thorac Oncol* 8 : 89 – 95, 2013
14. Hattori Y, Satouchi M, Katakami N, Fujita S, Kaji R, Hata A, Urata Y, Shimada T, Uchida J, Tomii K, Morita S, Negoro S : A phase II study of pemetrexed in patients with previously heavily treated non-squamous non-small cell lung cancer (HANSHIN Oncology Group 001). *Cancer Chemother Pharmacol* 73 : 17 – 23, 2014
15. Hattori Y, Iwasaku M, Satouchi M, Nishiyama A, Korogi Y, Otsuka K, Fujita S, Katakami N, Mori M, Nishino K, Morita S, Negoro S : A Phase II Study of Pemetrexed in chemotherapy-naive Elderly Patients Aged  $\geq$  75 years with Advanced Non-squamous Non-small-cell Lung Cancer (HANSHIN Oncology Group 003). *Jpn J Clin Oncol* 43 : 1184 – 1189, 2013

#### VII. 4.2 血管再生科

1. Kamata S, Miyagawa S, Fukushima S, Nakatani S, Kawamoto A, Saito A, Harada A, Shimizu T, Daimon T, Okano T, Asahara T, Sawa Y : Improvement of cardiac stem cell-sheet therapy for chronic ischemic injury by adding endothelial progenitor cell transplantation: analysis of layer-specific regional cardiac function. *Cell Transplant*, 2013 Apr 3 [Epub ahead of print]
2. Kamei N, Kwon SM, Alev C, Nakanishi K, Yamada K, Masuda H, Ishikawa M, Kawamoto A, Ochi M, Asahara T : Ex-vivo expanded human blood-derived CD133<sup>+</sup>-cells promote repair of injured spinal cord. *J Neurol Sci* 328 : 41 – 50, 2013
3. Kawakami Y, Ii M, Matsumoto T, Kawamoto A, Kuroda R, Akimaru H, Mifune Y, Shoji T, Fukui T, Asahi M, Kurosaka M, Asahara T : A small interfering RNA targeting Lnk accelerates bone fracture healing with early neovascularization. *Lab Invest* 93 : 1036 – 1053, 2014
4. 川本篤彦 : 第27回日本臨床内科医学会 シンポジウム1 先端医療はどこまで進んだか 慢性重症下肢虚血患者の救肢・救命を目指した下肢血管再生治療の開発. *日臨床内科医会誌* 29 : 55 – 59, 2014
5. 川本篤彦 : 患者を対象とした早期臨床試験 (第2部) 再生医療と臨床試験 下肢血管再生治療の臨床的・薬事的開発. *Clin Eval* 41 : 533 – 539, 2014
6. 川本篤彦, 浅原孝之 : 【血管新生の医学】幹細胞移植による治療的血管新生. *BIO Clinica* 28 : 453 – 458, 2013
7. 川本篤彦 : 第6章 非臨床安全性試験・臨床試験における評価 第2節 再生医療の臨床試験における評価 [2] 再生部位の臨床試験の評価 <1> 心臓再生における評価. 再生医療における臨床研究と製品開発, 技術情報協会, 東京, 413 – 417, 2013

8. 川本篤彦, 増田治史, 浅原孝之: II. 血管の再生 6. 虚血性疾患に対する血管再生治療. 再生医療叢書 第3巻 循環器, 日本再生医療学会 監修, 澤 芳樹, 清水達也 編, 朝倉書店, 東京, 91-107, 2013
9. Kuroda R, Matsumoto T, Niikura T, Kawakami Y, Fukui T, Lee SY, Mifune Y, Kawamata S, Fukushima M, Asahara T, Kawamoto A, Kurosaka M: Local transplantation of granulocyte colony stimulating factor-mobilized CD34+ cells for patients with femoral and tibial nonunion: Pilot clinical trial. *Stem Cells Transl Med* 3: 128-134, 2014
10. 永井洋士, 西村秀雄, 川本篤彦, 菊地克史, 福島雅典: 医療機器をめぐる現状と展望 わが国アカデミアで加速化する革新的医療機器の開発. *医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス* 45: 51-59, 2014
11. Fujita Y, Kinoshita M, Furukawa Y, Nagano T, Hashimoto H, Hirami Y, Kurimoto Y, Arakawa K, Yamazaki K, Okada Y, Katakami N, Uno E, Matsubara Y, Fukushima M, Nada A, Losordo DW, Asahara T, Okita Y, Kawamoto A: Phase II clinical trial of CD34+ cell therapy to explore endpoint selection and timing in patients with critical limb ischemia. *Circ J* 78: 490-501, 2014
12. Matsuda T, Miyagawa S, Fukushima S, Kitagawa-Sakakida S, Akimaru H, Horii-Komatsu M, Kawamoto A, Saito A, Asahara T, Sawa Y: Human cardiac stem cells with reduced notch signaling show enhanced therapeutic potential in a rat acute infarction model. *Circ J* 78: 222-231, 2014
13. 丸山京子, 小林利英子, 橋本尚子, 藤田靖之, 川本篤彦: 慢性重症下肢虚血患者を対象とした自家末梢血CD34陽性細胞移植による下肢血管再生治療におけるG-CSFを用いない末梢血幹細胞採取の経験. *神戸市立病院紀要* 51: 47-50, 2013
14. Mifune Y, Matsumoto T, Murasawa S, Kawamoto A, Kuroda R, Shoji T, Kuroda T, Fukui T, Kawakami Y, Kurosaka M, Asahara T: Therapeutic superiority for cartilage repair by CD271 positive marrow stromal cell transplantation. *Cell Transplant* 22: 1201-1211, 2013

#### VII. 4.3 耳鼻いんこう科

1. Iwase Y, Nishio S, Yoshimura H, Kanda Y, Kumakawa K, Abe S, Naito Y, Nagai K, Usami S: OTOF mutation screening in Japanese severe to profound recessive hearing loss patients. *BMC Medical Genetics* 14: 95, 2013 (doi:10.1186/1471-2350-14-95)
2. Kanazawa Y, Naito Y, Fujiwara K, Kikuchi M, Shinohara S: Factors influencing hearing after type-III tympanoplasty using columella. *Cholesteatoma and Ear Surgery (An Update)*, edited by Takahashi H, Kugler Publications, Amsterdam The Netherlands, 129-130, 2013
3. Kanazawa Y, Naito Y, Tona R, Fujiwara K, Shinohara S, Kikuchi M, Yamazaki H, Kishimoto I, Harada H: Predictive value of middle ear aeration before second-stage operation in staged tympanoplasty with soft-wall reconstruction. *Acta Otol* 134: 135-139, 2014
4. Kikuchi M, Nakamoto Y, Shinohara S, Fujiwara K, Yamazaki H, Kanazawa Y, Kurihara R, Kishimoto I, Harada H, Naito Y: Early evaluation of neoadjuvant chemotherapy response using FDG-PET/CT predicts survival prognosis in patients with head and neck squamous cell carcinoma. *Int J Clin Oncol* 18: 402-410, 2013
5. Kishimoto I, Yamazaki H, Naito Y, Shinohara S, Fujiwara K, Kikuchi M, Kanazawa Y, Tona R, Harada H: Clinical features of rapidly progressive bilateral sensorineural hearing loss. *Acta Otol* 134: 58-65, 2014

6. 岸本逸平, 内藤 泰, 藤原敬三, 菊地正弘, 山崎博司, 金沢佑治, 栗原理紗: 当科における外リンパ嚢手術症例の臨床的検討. *Equilibrium Res* 72: 107-111, 2013
7. 篠原尚吾, 菊地正弘, 十名理紗, 金沢佑治, 岸本逸平, 原田博之, 今井幸弘, 宇佐美悠: 一般病院で可能な中咽頭癌でのヒトパピローマウイルスの検出法についての検討. *頭頸部外科* 23: 163-168, 2013
8. Shinohara S, Kikuchi M, Tona R, Kanazawa Y, Kishimoto I, Harada H, Imai Y, Usami Y: Prognostic impact of p16 and p53 expression in oropharyngeal squamous cell carcinomas. *Jpn J Clin Oncol* 44: 232-240, 2014
9. Tona R, Naito Y, Fujiwara K, Shinohara S, Kikuchi M, Yamazaki H, Kishimoto I, Harada H: Epidural abscess due to foreign body insertion into the external auditory canal in autism. *Cholesteatoma and Ear Surgery (An Update)*, edited by Takahashi H, Kugler Publications, Amsterdam The Netherlands, 421-423, 2013
10. 内藤 泰: 重度難聴の子に豊かな音を人工内耳で言葉習得. 早期の手術で効果. 共同通信ニュースサイト「47ニュース」医療新世紀 MEDICAL NEWS 今週のニュース (オンライン), 2014. 3.11
11. 内藤 泰: 難聴治療 幅広がる 補聴器・人工内耳が進化. 朝日新聞 生活, 29, 2014. 3.11
12. 内藤 泰: 重度難聴の子に豊かな音を 早期の人工内耳言語習得に有効. 神戸新聞 くらし, 21, 2014. 3.27
13. 内藤 泰: 突発性難聴. ドクターズガイド 治せる医師を本気で探す, 株式会社ソーシャライズ「ドクターズガイド」編集部, 時事通信社, 東京, 179, 2013
14. 内藤 泰, 諸頭三郎, 山本輪子: 当科で手術を行った残存聴力活用型人工内耳症例に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 障害者対策総合研究事業 (感覚器障害分野) 新しい人工内耳 (EAS) に関する基礎的、臨床的研究 平成24年度総括・分担研究報告書, 研究代表者 山嵜達也, 24-29, 2013
15. 内藤 泰: 小さなcommon cavity例の人工内耳手術. 耳鼻咽喉科 てこずった症例のブレイクスルー, 本庄巖 編, 第1版, 中山書店, 東京, 74-75, 2013
16. 内藤 泰: 高度難聴 (補聴器、人工内耳) severe to profound hearing loss (cochlear implant, hearing aid). 今日の治療指針2014年版, 山口 徹, 北原光夫 監修, 福井次矢, 高木 誠, 小室一成 編, 第1刷, 医学書院, 東京, 1371-1372, 2014
17. 内藤 泰, 諸頭三郎, 山本輪子: 残存聴力活用型人工内耳症例の臨床的検討. 厚生労働科学研究費補助金医療技術実用化総合研究事業 高度医療 残存聴力活用型人工内耳挿入術後耳の適応症および有効性、安全性に関する調査研究 平成24年度総合研究年度終了報告書, 研究代表者 宇佐美真一, 41-48, 2014
18. 内藤 泰, 諸頭三郎, 山本輪子, 岸本逸平, 十名理紗, 藤原敬三: -高度医療 残存聴力活用型人工内耳挿入術の適応症および有効性、安全性に対する調査研究- 当科で手術を行った残存聴力活用型人工内耳症例に関する研究. 厚生労働省科学研究補助金 障害者対策総合研究事業 (感覚器障害分野) 新しい人工内耳 (EAS) に関する基礎的、臨床的研究 平成25年度 総括・分担研究報告書, 研究代表者 山嵜達也, 22-25, 2014
19. 内藤 泰: 治療の観点から見た耳疾患の画像診断. *日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌* 31: 179-185, 2013
20. 内藤 泰: めまいの保存的および外科的治療 - 最近の知見 -. *頭頸部外科* 23: 33-39, 2013
21. 内藤 泰, 諸頭三郎: 聴覚領域の検査 方向感・両耳聴検査. *JOHNS* 29: 1493-1496, 2013

22. 原田博之, 藤原敬三, 内藤 泰, 篠原尚吾, 菊地正弘, 山崎博司, 金沢佑治, 十名理紗, 岸本逸平: 外耳道閉鎖術による難治性耳炎炎症性疾患の治療 - 当科で外耳道閉鎖術を施行した11名11耳の臨床的検討 -. *Otol Jpn* 23 : 827-833, 2013
23. 原田博之, 篠原尚吾, 藤原敬三, 菊地正弘, 金沢佑治, 十名理紗, 岸本逸平, 内藤 泰: 郭清頸部リンパ節の病理診断にて3種の悪性疾患を認めた1例. *耳鼻臨床* 107 : 53-58, 2014
24. 藤原敬三, 内藤 泰: 難治性中耳炎に対する外耳道閉鎖術 - blind sac closure. *耳鼻咽喉科* てこずった症例のブレイクスルー, 本庄 巖 編, 第1版, 中山書店, 東京, 36-37, 2013
25. Moteki H, Suzuki M, Naito Y, Fujiwara K, Oguchi K, Nishio S, Iwasaki S, Usami S : Evaluation of cortical processing of language by use of positron emission tomography in hearing loss children with congenital cytomegalovirus infection. *Int J Pediatr Otorhinolaryngol* 78 : 285-289, 2014
26. 山崎博司, 内藤 泰, 篠原尚吾, 菊地正弘: 悪性外耳道炎. *MB ENT* 159 : 38-45, 2013
27. Yamazaki H, Koyasu S, Moroto S, Yamamoto R, Yamazaki T, Fujiwara K, Itoh K, Naito Y : HRCT-based prediction for cochlear implant outcomes of cases with inner ear and internal auditory canal malformations. *Cholesteatoma and Ear Surgery (An Update)*, edited by Takahashi H, Kugler Publications, Amsterdam The Netherlands, 371-373, 2013
28. 山本輪子, 諸頭三郎, 山崎博司, 山崎朋子, 藤原敬三, 篠原尚吾, 十名理紗, 内藤 泰: 先天性サイトメガロウイルス感染児の人工内耳術後成績. *Audiology Japan* 56 : 743-750, 2013
29. Yoshimura H, Iwasaki S, Nishio SY, Kumakawa K, Tono T, Kobayashi Y, Sato H, Nagai K, Ishikawa K, Ikezono T, Naito Y, Fukushima K, Oshikawa C, Kimitsuki T, Nakanishi H, Usami S : Massively parallel DNA sequencing facilitates diagnosis of patients with usher syndrome type 1. *PLOS One* 9 : e90688, 2014 (doi: 10.1371/journal.pone.0090688)

#### VII. 4.4 放射線治療科

1. Aoki M, Mizowaki T, Akimoto T, Nakamura K, Ejima Y, Jingu K, Tamai Y, Nakajima N, Takemoto S, Kokubo M, Kato H : Adjuvant radiotherapy after prostatectomy for prostate cancer in Japan : A multi-institutional survey study of the JROSG. *Journal of Radiation Research* 55 : 533-540, 2014
2. Akimoto M, Nakamura M, Mukumoto N, Tanabe H, Yamada M, Matsuo Y, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Predictive uncertainty in infrared marker-based dynamic tumor tracking with Vero4DRT. *Medical Physics* 40 : 091705, 2013
3. 飯塚裕介, 松尾幸憲, 中村光宏, 宮部結城, 矢野慎輔, 山田昌弘, 溝脇尚志, 門前 一, 小久保雅樹, 平岡真寛: 肝腫瘍に対するリアルタイムモニタリング下動体追尾照射の初期経験. *定位的放射線治療* 18 : 9-16, 2014
4. Ueki N, Matsuo Y, Nakamura M, Mukumoto N, Iizuka Y, Miyabe Y, Sawada A, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Intra-and Interfractional Variations in Geometric Arrangement between Lung Tumours and Implanted Markers. *Radiotherapy and Oncology* 110 : 523-528, 2014
5. Ono T, Miyabe Y, Yamada M, Shiinoki T, Sawada A, Kaneko S, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Geometric and dosimetric accuracy of dynamic tumor-tracking conformal arc irradiation with a gimbaled x-ray head. *Medical Physics* 41 : 031705, 2014

6. Shiinoki T, Sawada A, Ishihara Y, Miyabe Y, Matsuo Y, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Dosimetric impact of gold markers implanted closely to lung tumors; A Monte Carlo simulation. *Journal of Applied Clinical Medical Physics* 15 : 4594, 2014
7. Takeshita J, Masago K, Fujita S, Hata A, Kaji R, Kawamura T, Tamai K, Matsumoto T, Nagata K, Otsuka Ky, Nakagawa A, Otsuka Ko, Tomii K, Shintani T, Takayama K, Kokubo M, Katakami N : Weekly administration of paclitaxel and carboplatin with concurrent thoracic radiation in previously untreated elderly patients with locally advanced non-small-cell lung cancer: A case series of 20 patients. *Molecular and Clinical Oncology* 2 : 454 – 460, 2014
8. Nakamura M, Sawada A, Mukumoto N, Takahashi K, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Effect of audio instruction on tracking errors using a four-dimensional image-guided radiotherapy system. *Journal of Applied Clinical Medical Physics* 14 : 255 – 264, 2013
9. Mukumoto N, Nakamura M, Sawada A, Suzuki Y, Takahashi K, Miyabe Y, Kaneko S, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Accuracy verification of infrared marker-based dynamic tumor-tracking irradiation using the gimbaled x-ray head of the vero4DRT (MHI-TM2000). *Medical Physics* 40 : 041706, 2013
10. Mukumoto N, Nakamura M, Yamada M, Takahashi K, Tanabe H, Yano S, Miyabe Y, Ueki N, Kaneko S, Matsuo Y, Mizowaki T, Sawada A, Kokubo M, Hiraoka M : Intrafractional tracking accuracy in infrared marker-based hybrid dynamic tumour-tracking irradiation with a gimbaled linac. *Radiotherapy and Oncology* 111 : 301 – 305, 2014

#### VII. 4.5 放射線技術科

1. Akamatsu G, Mitsumoto K, Taniguchi T, Tsutsui Y, Baba S, Sasaki M : Influences of point-spread function and time-of-flight reconstructions on standardized uptake value of lymph node metastases in FDG-PET. *Eur J Radiol* 83 : 226 – 230, 2014
2. Akamatsu M, Yamashita Y, Akamatsu G, Tsutsui Y, Ohya N, Nakamura Y, Sasaki M : Influences of reconstruction and attenuation correction in brain SPECT images obtained by the hybrid SPECT/CT device:evaluation with a 3-dimensional brain phantom. *Asia Oceania J Nucl Med Biol* 2 : 24 – 29, 2014



## VIII. 学 会 報 告

## Ⅷ. 学 会 報 告

### Ⅷ. 1 中央市民病院

#### Ⅷ. 1. 1 循環器内科

1. 石井利英, 小堀敦志, 佐々木康博, 田中雄己, 中園紘子, 中農陽介, 井上和久, 吉田哲也, 吉川真由美, 坂地一朗, 古川 裕: 高周波心房中隔穿刺システムの有用性の検討. 第78回日本循環器学会総会学術集会, 東京, 2014. 3. 21
2. 伊藤慎八: 特発性房室接合部頻拍に対しアブレーション治療を行った一例. 第21回神戸不整脈勉強会, 神戸, 2014. 2. 13
3. 岩田健太郎, 北井 豪, 田内都子, 中野知美, 門 浄彦, 仲村直子, 古川 裕, 前川利雄: 開心術施行予定患者における術前からの早期リハビリ介入の効果について. 第19回心臓リハビリテーション学会学術集会, 宮城, 2013. 7. 13
4. 江原夏彦: 両心室ペースメーカー治療の現状. 神戸循環器疾患治療セミナー, 神戸, 2013. 4. 20
5. 江原夏彦: 心血管イベント抑制における脂質、血圧管理の重要性. 神戸循環器・糖尿病地域連携講演会, 神戸, 2013. 6. 27
6. 江原夏彦, 古川 裕, 森本 剛, 加地修一郎, 北 徹, 坂田隆造, 木村 剛: 冠血行再建術後糖尿病患者における術前HbA1c値と心血管予後との関連: CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort 2から得られた知見. 第61回日本心臓病学会学術集会, 熊本, 2013. 9. 20
7. 江原夏彦: 両心室ペースメーカー埋め込み及びフォローアップ. 埋め込み型デバイス アップデートセミナー, 尼崎, 2013. 10. 19
8. 江原夏彦: 植え込み型デバイスUpdate. 心不全治療Forum 2014 in神戸, 神戸, 2014. 3. 6
9. 江原夏彦: LAD高度狭窄を合併した症例にCRTDを植えこんだ1例. Cardiac Specialists Conference, 大阪, 2014. 3. 8
10. Ozasa N, Furukawa Y, Takizawa A, Aoyama T, Mitsudo K, Hirose K, Takatsu Y, Miura A, Kimura T: Effects of Olmesartanbased Versus Amlodipinebased Treatments on Serum and Urine Marker Modification in Essential Hypertension. 第78回日本循環器学会総会学術集会, 東京, 2014. 3. 21
11. 笠本 学: 院外心肺停止に対してPCPSを用いて蘇生に成功するも脊髄梗塞を合併した1例. 第6回天神京循環器カンファレンス, 大阪, 2013.11.30
12. 笠本 学: 院外心肺停止に対してPCPSを用いて蘇生に成功するも脊髄梗塞を合併した1例. 第17回二次救急輪番制専門部会 循環器疾患の会, 神戸, 2014. 2. 15
13. 加地修一郎: 循環器診療における心臓MRIと心臓CTの活用法. 第3回中国地区心血管画像研究会, 岡山, 2013. 4. 6
14. 加地修一郎: 循環器画像診断の最前線-様々なモダリティーをどう活かすか-. 4月度兵庫区医師会学術講演会, 神戸, 2013. 4. 19

15. 加地修一郎：急性大動脈症候群の診断と治療－最新の話題と内科医の役割を中心に－. 第11回北野心臓血管疾患研究会, 大阪, 2013. 5 .18
16. 加地修一郎：循環器画像診断の最前線－様々なモダリティーをどう活かすか－. 第30回神戸腎疾患カンファレンス, 神戸, 2013. 5 .26
17. 加地修一郎：急性大動脈症候群の診断と治療. 第115回日本循環器学会近畿地方会 研修医のための教育セッション, 京都, 2013. 6 .15
18. 加地修一郎：急性大動脈症候群の診断と治療. 川崎大動脈アンカレッジ2013, 横浜, 2013. 7 . 6
19. 加地修一郎：大動脈解離の治療について最近の治験. 第3回心臓血管を考える会, 岡山, 2013. 7 .19
20. 加地修一郎：心臓MRIと心臓CTをどう臨床に活かすか～最新の話題と活用法～. 第21回岡山心疾患懇話会, 岡山, 2013.11. 7
21. 加地修一郎, 金 基泰, 北井 豪, 古川 裕：急性心筋梗塞患者における梗塞部位が虚血性僧帽弁閉鎖不全症発症に与える影響. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014. 2 .28
22. 北井 豪：左室機能からみた僧帽弁形成術の至適時期. 第24回日本心エコー図学会, 東京, 2013. 4 .25
23. 北井 豪：活動期感染性心内膜炎の適切な手術時期. 第24回日本心エコー図学会, 東京, 2013. 4 .25
24. 北井 豪, 谷 知子, 岡田大司, 川井順一, 角田敏明, 紺田利子, 藤井洋子, 金 基泰, 加地修一郎, 古川 裕：3D経食道心エコー検査による僧帽弁形成術前評価. 第86回日本超音波医学会, 大阪, 2013. 5 .24
25. 北井 豪, 谷 知子, 小山忠明, 片上信之, 岡田行功, 古川 裕：心タンポナーデで発症した右房原発心臓血管肉腫の一例. 第61回日本心臓病学会学術集会, 熊本, 2013. 9 .20
26. 北井 豪：僧帽弁逆流についての講演. Echo Heart Izumo 2013, 島根, 2013.10. 5
27. 北井 豪：大動脈弁狭窄症の診断と治療. 第7回京都循環器 診断・治療アップデート, 京都, 2013.12. 7
28. 北井 豪, 金 基泰, 江原夏彦, 加地修一郎, 谷 知子, 小堀敦志, 木下 慎, 古川 裕：心タンポナーデで発症した心臓原発腫瘍の一例. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014. 2 .28
29. Kitai T, Kaji S, Furukawa Y：Diagnosis and Management of Acute Aortic Intramural Hematoma with Multidetector Computed Tomography. 第78回日本循環器学会総会学術集会, 東京, 2014. 3 .21
30. Kim K：Important of Recurrent Myocardial Infarction on the Development of Ischemic Mitral Regurgitation in Patients With Acute Myocardial Infarction：Long-Term Echocardiographic Follow-Up Study. 第115回日本循環器学会近畿地方会, 京都, 2013. 6 .15
31. 金 基泰：当院で経験した心臓腫瘍の症例. 神戸心臓MRIフォーラム, 神戸, 2013. 7 . 5
32. 金 基泰：心筋梗塞後の虚血性僧帽弁閉鎖不全症の発生に対する責任病変部位の影響；心エコー図を用いた長期フォローアップによる検討. 第22回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会 CVIT2013, 神戸, 2013. 7 .11

33. Kim K, Kaji S, Kitai T, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Tani T, Furukawa Y : Impact of Infarct Location on Development of Ischemic Mitral Regurgitation in Patients With Acute Myocardial infarction : Long-Term Echocardiographic Follow-Up Study. Scientific Sessions of the American Heart Association, Dallas, TX, 2013.11.16-21
34. 金 基泰, 小堀敦志, 佐々木康博, 谷 知子, 加地修一郎, 木下 慎, 江原夏彦, 北井 豪, 古川 裕 : 小細胞肺癌に対する放射線治療の目的にジェネレータを対側に移動させた症例. 第6回植え込みデバイス関連冬季大会, 広島, 2014.2.21
35. 梶谷泰彦, 小堀敦志, 佐々木康博, 北井 豪, 古川 裕 : 心房粗動のコントロールに難渋し、薬剤調整の過程で難治性心室細動を来した家族性肥大型心筋症の1例. 第18回臨床難治性不整脈研究会, 大阪, 2013.6.1
36. 梶谷泰彦 : ICD記録により心室頻拍の誘発様式が判明し、心房細動アブレーションが奏功した1例. 第115回日本循環器学会近畿地方会, 京都, 2013.6.15
37. Kohjitani H, Kobori A, Sasaki Y, Kim K, Kitai T, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Tani T, Furukawa Y : Requirement of Discontinuation of Amiodarone for Lethal Arrhythmias. 第28回日本不整脈学会学術大会, 東京, 2013.7.6
38. Kohjitani H, Kobori A, Sasaki Y, Kim K, Kitai T, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Tani T, Kita T, Furukawa Y : Impact of J-wave in patients With Structural Heart Disease. Scientific Sessions of the American Heart Association, Dallas, TX, 2013.11.16-21
39. 梶谷泰彦, 小堀敦志, 伊藤慎八, 佐々木康博, 古川 裕 : 冠静脈洞起源特発性心房頻脈の1例. 第19回臨床難治性不整脈研究会, 大阪, 2013.12.14
40. Goto K, Sizuta S, Nakai K, Morimoto T, Shiomi H, Natsuaki M, Nakagawa Y, Furukawa Y, Kimura T : Impact of Renal Dysfunction on Clinical Outcomes in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention Who Have Concomitant Atrial Fibrillation : From the CREDO-Kyoto Registry Cohort-2. Scientific Sessions of the American Heart Association, Dallas, TX, 2013.11.16-21
41. Goto K, Morimoto T, Nakai K, Shiomi H, Natsuaki M, Nakagawa Y, Furukawa Y, Mitsudo K, Nobuyoshi M, Kimura T : Antithrombotic Therapy in Atrial Fibrillation Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention. 第78回日本循環器学会総会学術集会, 東京, 2014.3.21
42. 小西康信, 谷 知子, 北井 豪, 左近慶人, 福永直人, 中村 健, 村下貴志, 金光ひでお, 古川 裕, 小山 忠明 : 急性広汎型肺血栓塞栓症の一救命から学ぶ心エコーの有用性. 第61回日本心臓病学会学術集会, 熊本, 2013.9.22
43. 小堀敦志 : 当院における不整脈治療の現状. 神戸循環器疾患治療セミナー, 神戸, 2013.4.20
44. Kobori A, Sasaki Y, Kim K, Kitai T, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Tani T, Furukawa Y : Comparison of the Esophagus Temperature Monitoring during Left Atrium Ablation using Deflectable Probe and Fixed Sensor Probe. 第28回日本不整脈学会学術大会, 東京, 2013.7.6
45. 小堀敦志 : 心房細動治療のより良い医療連携をめざして. 淡路市医師会学術講演会, 淡路, 2013.7.26

46. 小堀敦志：心房細動治療のより良い医療連携をめざして．第1回神戸西地区連携セミナー，神戸，2013.8.2
47. 小堀敦志：心房細動治療における抗凝固療法の重要性．抗凝固薬新時代の心血管・脳血管治療セミナー，神戸，2013.8.8
48. 小堀敦志：心房細動治療における抗凝固療法の実際．抗凝固療法神戸中央Network Meeting，神戸，2013.8.29
49. 小堀敦志：心房細動における抗凝固療法の重要性～当院におけるイグザレト錠の処方現状～．抗凝固療法セミナー 基礎と臨床，神戸，2013.10.5
50. 小堀敦志：心房細動治療のより良い医療連携を目指して．地域連携研究会 神戸循環器エリアセミナー 2013，神戸，2013.10.10
51. 小堀敦志：アブレーション等について．ゆう透析クリニック患者勉強会，神戸，2013.11.24
52. 小堀敦志：心房細動治療のより良い医療連携を目指して．循環器フォーラム2013 in KOBE，神戸，2013.12.5
53. 小堀敦志：心房細動のより良い医療連携治療を目指して．灘区医療連携セミナー～心房細動について考える～，神戸，2014.2.20
54. 紺田利子，谷 知子，藤井洋子，川井順一，北井 豪，金 基泰，古川 裕，北 徹：僧帽弁逸脱による重症僧帽弁逆流症例におけるMitral Annular Disjunctionについての検討．第78回日本循環器学会総会学術集会，東京，2014.3.21
55. 佐々木康博：三心房様左房を呈した心房細動患者へのカテーテルアブレーションの1例．第115回日本循環器学会近畿地方会，京都，2013.6.15
56. Sasaki Y, Kobori A, Furukawa Y：The Usefulness of Intracardiac Echocardiography on Radiofrequency Catheter Ablation for Idiopathic Ventricular Tachycardia and Ventricular Premature Contraction．第28回日本不整脈学会学術大会，東京，2013.7.6
57. 佐々木康博，小堀敦志，伊藤慎八，笠本 学，吉澤尚志，村井亮介，糀谷泰彦，羽溪 健，金 基泰，北井 豪，江原夏彦，木下 慎，加地修一郎，谷 知子，古川 裕：心房細動へのアブレーション直後に認められた徐脈頻脈症候群に対してステロイド投与が著効した一例．第36回バイエリアハートカンファレンス（大阪湾岸心臓会議），大阪，2013.8.3
58. 佐々木康博：心房細動へのカテーテルアブレーションの実際．抗凝固薬新時代の心血管・脳血管治療セミナー，神戸，2013.8.8
59. 佐々木康博，小堀敦志，糀谷泰彦，古川 裕：心房細動へのアブレーション後の心房頻拍に対してMarshall veinを介したchemical ablationが著効した1例．日本不整脈学会カテーテルアブレーション関連秋季大会2013，横浜，2013.11.2
60. 佐々木康博，小堀敦志，糀谷泰彦，古川 裕：心房細動へのアブレーション直後に認められた徐脈頻脈症候群に対してステロイド投与が著効した1例．日本不整脈学会カテーテルアブレーション関連秋季大会2013，横浜，2013.11.2

61. 佐々木康博：responderからnon-responderに移行した僧帽弁形成術及びペースメーカー植え込み術後の低左心機能患者の一症例。第7回デバイス治療座談会，神戸，2013.11.7
62. 佐々木康博，小堀敦志，吉澤尚志，糀谷泰彦，金 基泰，古川 裕：ループレコーダーの植え込みが心房細動の同定だけでなくその後の薬効評価にも有用であった先天性QT延長症候群の1例。第6回植え込みデバイス関連冬季大会，広島，2014.2.21
63. Shiomi H, Morimoto T, Furukawa Y, Kadota K, Kimura T：Establishment of Japanese Evidence in Coronary Artery Disease – Clinical Impact of Drug Eluting Stent in Japan –. 第78回日本循環器学会総会学術集会，東京，2014.3.21
64. Tani T, Konda T, Kita T, Furukawa Y：Mitral Annular Disjunction in Patients With Severe Mitral Regurgitation. Scientific Sessions of the American Heart Association, Dallas, TX, 2013.11.16 – 21
65. 谷 知子：心臓手術前後での心エコー図検査の有用性。心臓エコー解析勉強会，岐阜，2013.12.21
66. Taniguchi T, Toyota T, Shiomi H, Makiyama T, Shizuta S, Morimoto T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Horie M, Kimura T：Preinfarction Angina Predicts Better Longterm Outcomes in Patients with STsegment Elevation Myocardial Infarction Undergoing Primary Percutaneous Coronary Intervention. 第78回日本循環器学会総会学術集会，東京，2014.3.21
67. Taniguchi T, Toyota T, Shiomi H, Nakatsuma K, Watanabe H, Makiyama T, Shizuta S, Morimoto T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Horie M, Kimura T：Preinfarction Angina Predicts Better 5-Year Outcomes in Patients with ST-Segment Elevation Myocardial Infarction Undergoing Primary Percutaneous Coronary Intervention. ACC.2014 American College of Cardiology Annual Meeting：63rd Annual Scientific Session & Expo, Washington, DC, 2014.3.29 – 31
68. 豊田俊彬：自己弁温存大動脈基部置換術後にAortic Curtain dissectionを来したMarfan症候群の1例。第115回日本循環器学会近畿地方会，京都，2013.6.15
69. Toyota T, Shiomi H, Taniguchi T, Nakatsukasa K, Watanabe H, Ono K, Shizuta S, Makiyama T, Nakagawa Y, Furukawa Y, Andoh K, Kadota K, Kimura T：Prognostic Impact of the Staged PCI Strategy for Nonculprit Lesions in STEMI Patients with Multivessel Disease Undergoing Primary PCI. 第78回日本循環器学会総会学術集会，東京，2014.3.21
70. Toyota T, Shiomi H, Taniguchi T, Nakatsuma K, Watanabe H, Ono K, Shizuta S, Makiyama T, Nakagawa Y, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Horie M, Kimura T：Prognostic Impact of the Staged Percutaneous Coronary Intervention Strategy for Non-Culprit Lesions in ST-Segment Elevation Myocardial Infarction Patients with Multi-Vessel Disease Undergoing Primary Percutaneous Coronary Intervention. ACC.2014 American College of Cardiology Annual Meeting：63rd Annual Scientific Session & Expo, Washington, DC, 2014.3.29 – 31
71. Nakai K, Shizuta S, Morimoto T, Goto K, Kobori A, Kaitani K, Fujii S, Mitudo K, Nobuyoshi M, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kita T, Kimura T：Impact of Atrial Fibrillation and Oral Anticoagulation on Longterm Clinical Outcome in Elderly Patients Undergoing PCI. 第78回日本循環器学会総会学術集会，東京，2014.3.21
72. Nakatsuma K, Shiomi H, Taniguchi T, Toyota T, Yahata M, Nakai K, Sugiyama H, Tazaki J, Watanabe S, Imai M, Ohno M, Ozasa N, Saitoh N, Makiyama T, Shizuta S, Horie M, Furukawa Y, Nakagawa Y, Morimoto T, Kimura T：Lack of Association between Living Alone and 5year Mortality in Patients with Acute Myocardial Infarction Who Had Percutaneous Coronary Intervention. 第78回日本循環器学会総会学術集会，東京，2014.3.21

73. 中野知美, 岩田健太郎, 北井 豪, 門 浄彦, 仲村直子, 古川 裕, 前川利雄: 冠動脈バイパス術後の離床困難症例に対し、長期外来心臓リハビリテーションを施行した一例. 第19回心臓リハビリテーション学会学術集会, 仙台, 2013. 7. 13
74. 中農陽介, 小堀敦志, 佐々木康博, 石井利英, 田中雄己, 中園紘子, 吉川真由美, 吉田哲也, 井上和久, 坂地一朗, 古川 裕: 心房細動アブレーション施行時の経鼻陽圧換気 (Nasal CPAP) の有用性. 第78回日本循環器学会総会学術集会, 東京, 2014. 3. 21
75. 仲村直子, 北井 豪, 古川 裕: 利尿薬による心不全管理の実態～水分管理の課題～. 第78回日本循環器学会総会学術集会, 東京, 2014. 3. 21
76. Natsuaki M, Morimoto T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Shizuta S, Shiomi H, Tada T, Tazaki J, Katoh Y, Hayano M, be M, Mitsudo K, Kita T, Kimura T: Late Adverse Events after Implantation of Sirolimus-eluting Stent and Bare-metal Stent: Long term follow-up of the CREDO-Kyoto Registry Cohort-2. 第78回日本循環器学会総会学術集会, 東京, 2014. 3. 21
77. 野本奈津美, 谷 知子, 紺田利子, 藤井洋子, 中村仁美, 川井順一, 角田敏明, 菅沼直生子, 野村菜美子, 古川 裕: 三次元経食道心エコー図検査が左房粘液腫の診断に有用であった一例. 日本超音波医学会第40回関西地方会学術集会, 大阪, 2013. 11. 9
78. 野本奈津美, 谷 知子, 紺田利子, 角田敏明, 川井順一, 北井 豪, 金 基泰, 古川 裕, 北 徹: 当院における過去14年間での心臓腫瘍症例における心エコー図検査での検討. 第78回日本循環器学会総会学術集会, 東京, 2014. 3. 21
79. 畑 秀治, 吉田哲也, 山田恭二, 大畑達哉, 吉田一貴, 石井利英, 吉川真由美, 坂地一朗, 吉澤尚志, 佐々木康博, 金 基泰, 小堀敦志, 古川 裕: P波高値が十分な安全域を取れているにも関わらず、アンダーセンシングを起こした1症例. 第6回植え込みデバイス関連冬季大会, 広島, 2014. 2. 21
80. 羽溪 健: PVOD (Pulmonary venoocclusive disease) と考えられた1例. 第115回日本循環器学会近畿地方会, 京都, 2013. 6. 15
81. Hatani T, Kaji S, Sasaki Y, Kim K, Kitai T, Ehara N, Kobori A, Kinoshita M, Tani T, Furukawa Y: The Impact of Glucose Control on High-risk Coronary Plaque Compositions Assessed by Coronary CT Angiography in Patients With Type 2 Diabetes mellitus. Scientific Sessions of the American Heart Association, Dallas, TX, 2013. 11. 16-21
82. 羽溪 健: The Impact of Glucose Control on High-risk Coronary Plaque Compositions Assessed by Coronary CT Angiography. 第5回KCGH Forum, 神戸, 2013. 12. 14
83. 藤井洋子, 谷 知子, 北井 豪, 村井亮介, 野村菜美子, 野本奈津美, 菅沼直生子, 中村仁美, 三羽えり子, 角田敏明, 川井順一, 紺田利子, 古川 裕: 心電図異常を契機に発見された心尖部仮性瘤の一症例. 第75回神戸臨床心エコー図研究会, 神戸, 2013. 9. 7
84. 古川 裕: 冠血行再建術後患者におけるCKDの意義と脂質管理. 北海道脂質異常症フロンティア2013, 札幌, 2013. 6. 22
85. 古川 裕: 冠血行再建術後患者におけるCKDの意義と脂質管理. 第11回西神学術連携講演会～脂質管理/コレステロール量と質～, 神戸, 2013. 7. 25

86. 古川 裕：神戸市立医療センター中央市民病院における循環器診療の現状と課題. 淡路市医師会学術講演会, 淡路, 2013. 7 .26
87. 古川 裕：神戸市立医療センター中央市民病院における循環器診療の現状と課題. 第1回神戸西地区連携セミナー, 神戸, 2013. 8 . 2
88. 古川 裕：心不全診療の現状と課題. 兵庫県病院薬剤師会東西上支部合同学術講演会, 神戸, 2013. 8 .22
89. 古川 裕：冠動脈疾患の至適薬物治療；スタチン、RAS阻害薬、 $\beta$ 遮断薬. 循環器疾患病診連携症例検討会, 神戸, 2013. 9 .11
90. 古川 裕, 夏秋政浩, 小笹寧子, 鮑 炳元, 森本 剛, 坂田隆造, 木村 剛：大規模観察研究が示唆する日本人冠血行再建術後患者における至適薬物治療. 第61回日本心臓病学会学術集会, 熊本, 2013. 9 .21
91. 古川 裕：心不全診療の現状と課題. 久留米・心不全マネジメントセミナー2013, 久留米, 2013.10.28
92. 古川 裕：冠血行再建術後患者におけるCKDの意義と脂質管理. 第11回松江市循環器連携懇話会, 松江, 2013.12. 6
93. 古川 裕：冠動脈疾患患者におけるCKDの意義と脂質管理. 第3回諫早脂質を考える会, 諫早, 2014. 2 . 7
94. 古川 裕：循環器領域のカテーテル治療とデバイス治療. 2013年度第2回医工連携人材育成セミナー, 2014. 2 .22
95. 古川 裕：大動脈弁狭窄症に対する新規治療法：TAVIのご紹介. 中央区循環器疾患病診連携症例検討会, 神戸, 2014. 3 .12
96. 村井亮介, 金 基泰, 永田一真, 北井 豪, 加地修一郎, 古川 裕：心臓MRIでの遅延造影が心サルコイドーシスの診断に有用であった1例. 第202回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2013.12.14
97. Yamamuro A, Tamita K, Kaji S, Kitai T, Furukawa Y, Yoshikawa J：Impact of Primary Coronary Angioplasty Delay on Microvascular Obstruction as Assessed by Coronary Flow Velocity measurements and long-term Cardiac Events in ST-Segment Elevation Myocardial Infarction. Scientific Sessions of the American Heart Association, Dallas, TX, 2013.11.16-21
98. 吉澤尚志：救急外来頻回受診を繰り返す低左心機能患者にサムスカ導入を行った1例. 心不全と利尿剤勉強会, 神戸, 2013. 6 . 8
99. 吉澤尚志：脳梗塞にて発症した左室内血栓に対して抗凝固療法を行った1例. 第115回日本循環器学会近畿地方会, 京都, 2013. 6 .15
100. 吉澤尚志：腎動脈下大動脈狭窄に対してステント留置術を行った一例. 第22回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 CVIT2013, 神戸, 2013. 7 .11
101. 吉澤尚志, 小堀敦志, 伊藤慎八, 笠本 学, 村井亮介, 梶谷泰彦, 羽溪 健, 佐々木康博, 金 基泰, 北井 豪, 江原夏彦, 木下 慎, 加地修一郎, 谷 知子, 古川 裕：単純CTを用いたSound Mergeガイドにて心房細動アブレーションを施行した1例. 日本不整脈学会カテーテルアブレーション関連秋季大会2013, 横浜, 2013.11. 2



102. 吉澤尚志：健診で発見された巨大冠動脈瘤の一例. 第116回日本循環器学会近畿地方会, 大阪, 2013.11.30
103. 吉澤尚志, 小堀敦志, 伊藤慎八, 笠本 学, 村井亮介, 糀谷泰彦, 羽溪 健, 佐々木康博, 金 基泰, 北井 豪, 江原夏彦, 木下 慎, 加地修一郎, 谷 知子, 古川 裕：植え込み型デバイスで同定された無症候性心房細動における新規抗凝固薬の役割. 第6回植え込みデバイス関連冬季大会, 広島, 2014. 2 .21
104. Yoshizawa T, Kobori A, Ito S, Kasamoto M, Murai R, Kohjitani H, Hatanni T, Kim K, Kitai T, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Tani T, Furukawa Y : The Prevalence of Subclinical Atrial Fibrillation and Anticoagulant Treatment in Patients with Cardiac Implantable Electronic Device. 第78回日本循環器学会総会学術集会, 東京, 2014. 3 .21
105. Yoshitani H, Takeuchi M, Kaji S, Nagata Y, Hayashi A, Fukuda S, Furukawa Y, Otsuji Y : The Determination of Best Strain Cutoff Value for Detecting Myocardial Fibrosis Assessed by Feature Tracking Analysis with Cardiac Magnetic Resonance. 第78回日本循環器学会総会学術集会, 東京, 2014. 3 .21
106. Yoshitani H, Takeuchi M, Kaji S, Nagata Y, Hayashi A, Fukuda S, Furukawa Y, Otsuji Y : Diagnostic Accuracy of Cardiac Magnetic Resonance Feature Tracking for Detecting Transmural Myocardial Infarction. 第78回日本循環器学会総会学術集会, 東京, 2014. 3 .21
107. Watanabe H, Kimura T, Morimoto T, Shiomi H, Taniguchi T, Nakatsuma K, Toyota T, Nakagawa Y, Furukawa Y, Horie M : Investigation of Clinical Efficacy of Thrombus Aspiration on 5-Year Mortality in Patients with ST-Elevation Myocardial Infarction Undergoing PCI. ACC.2014 American College of Cardiology Annual Meeting : 63rd Annual Scientific Session & Expo, Washington, DC, 2014. 3 .29-31
108. Bao B, Ozasa N, Morimoto T, Shiomi H, Tazaki J, Saitoh N, Makiyama T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Horie M, Kimura T : Beta-blocker was not Associated with Improved 5year Clinical Outcome in Patients with Chronic Kidney Disease after STelevation Acute Myocardial Infarction. 第78回日本循環器学会総会学術集会, 東京, 2014. 3 .21

## VIII. 1. 2 糖尿病・内分泌内科

1. 石原 隆：I-131治療. 第2回KOBE内分泌代謝スキルアップセミナー, 神戸, 2013. 8 .24
2. 石原 隆：甲状腺癌のI-131治療について. 第4回奈良甲状腺研究会, 奈良, 2013. 9 .14
3. 石原 隆：甲状腺癌に対する<sup>131</sup>I治療の現状. 第56回日本甲状腺学会学術集会, 和歌山, 2013.11.15
4. 石原 隆：<sup>131</sup>I治療を4回以上施行した60例の臨床的検討 [第2報]. 第101回神戸甲状腺研究会, 神戸, 2014. 2 . 8
5. 石原 隆：甲状腺ホルモンと糖尿病. 南空知糖尿病学術講演会, 岩見沢, 2014. 3 .21
6. 伊藤卓彦, 森野隆広, 数馬まりこ, 佐々木翔, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 石原 隆：下肢蜂窩織炎により糖尿病が顕在化したインスリンノーマの1例. 第203回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2014. 3 . 1
7. 岩倉敏夫：重症低血糖のrisk factor からみたりナグリプチンへの期待. これからの糖尿病治療を考える会 in 兵庫, 神戸, 2013. 4 . 6
8. 岩倉敏夫：DPP-4 阻害薬とインスリン併用について. DM Expert Forum in Kobe, 神戸, 2013. 5 .30

9. 岩倉敏夫：重症低血糖のリスク因子から考える安全な糖尿病治療とは。第14回京都CDEの会 もしあなたの患者さんが緊急搬送されたら、京都、2013. 8 .11
10. 岩倉敏夫：糖尿病治療薬におけるDPP-4阻害薬の位置づけ。Expert Meeting-Next Strategy for Diabetes Mellitus, 神戸, 2013. 9 .19
11. T. Iwakura, M. kazuma, S. Sasaki, N. Matsuoka, T. Ishihara：Risk factor assessment for irreversible brain damage in patients with drug-induced severe hypoglycaemia. EASD49, Barcelona, 2013. 9 .24
12. 岩倉敏夫：DPP-4阻害薬の魅力と課題。KOBE Diabetes Symposium 2013, 神戸, 2013.10.25
13. 岩倉敏夫：重症低血糖のリスクを考慮した適切な糖尿病治療プラン。大和糖尿病 Expert Seminar 2013, 奈良, 2013.11. 9
14. 岩倉敏夫：DPP-4阻害薬がもたらした糖尿病治療のパラダイムシフト。最新の糖尿病治療を考える会～トラゼンタDeep Dive in 兵庫, 神戸, 2013.12. 6
15. 岩倉敏夫：重症低血糖を考慮した適切な糖尿病治療プラン。加古川地区糖尿病研究会, 加古川, 2014. 1 .23
16. 岩倉敏夫：低血糖のリスクを考慮した安全な糖尿病治療とは。第15回兵庫県糖尿病トータルケア研究会, 神戸, 2014. 2 . 1
17. 岩倉敏夫：糖尿病治療薬によるオーダーメイド治療。糖尿病治療セミナー in Kobe ～SLGT 2阻害薬の適正使用を考える～, 神戸, 2014. 2 . 8
18. 岩倉敏夫：DPP-4阻害剤を適切に処方するために－安全性への提言－。第5回インクレチンフォーラム, 神戸, 2014. 2 .20
19. 数馬まりこ：遠隔転移より診断された甲状腺癌の2例。第2回KOBE内分泌代謝スキルアップセミナー, 神戸, 2013. 8 .24
20. 数馬まりこ, 森野隆広, 佐々木翔, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 小林宏正, 日野 恵, 石原 隆：甲状腺乳頭癌に肋骨転移を伴い、rhTSH投与後に肋骨転移部の腫脹・疼痛が急激に出現した1例。第56回日本甲状腺学会学術集会, 和歌山, 2013.11.16
21. 数馬まりこ, 森野隆広, 佐々木翔, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 石原 隆：糖尿病性ケトアシドーシスを繰り返しCSII導入にて原因が判明した1型糖尿病の1例。第50回日本糖尿病学会近畿地方会, 京都, 2013.11.23
22. 数馬まりこ, 森野隆広, 佐々木翔, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 小林宏正, 日野 恵, 石原 隆：甲状腺乳頭癌に肋骨転移を伴い、rhTSH投与後に肋骨転移部の腫脹・疼痛が急激に出現した1例。第36回京都甲状腺研究会, 京都, 2014. 1 .18
23. 数馬まりこ, 森野隆広, 佐々木翔, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 小林宏正, 日野 恵, 石原 隆：下肢蜂窩織炎により糖尿病が顕在化したインスリノーマの1例。第86回京都市内分泌同好会, 京都, 2014. 3 . 1
24. 数馬まりこ：リキシセナチド導入後の血糖変動 CGMでの観察。インスリン治療を考える会, 神戸, 2014. 3 .27

25. 古郷摩利子, 森野隆広, 数馬まりこ, 佐々木翔, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 石原 隆: 糖質制限食を断行シケトアシドーシスをきたした2型糖尿病の1例. 2013年中央区学術集談会, 神戸, 2013.10.12
26. 近藤まりこ, 佐々木翔, 藤原雄太, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 石原 隆: インクレチン関連薬発売前後での当院での血糖コントロール状況および糖尿病治療薬の処方実態の変化、2009年と2012年の比較. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 2013. 5 .18
27. 近藤まりこ, 佐々木翔, 藤原雄太, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 石原 隆: 糖質制限食を断行シケトアシドーシスをきたした2型糖尿病の1例. 第200回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2013. 6 . 8
28. 佐々木翔, 藤原雄太, 近藤まりこ, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 小林宏正, 日野 恵, 石原 隆: 汎下垂体機能低下症を呈した不明熱の診断に難渋したErdheim-Chester病の1例. 第86回日本内分泌学会学術集会, 仙台, 2013. 4 .27
29. 佐々木翔, 近藤まりこ, 藤原雄太, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 石原 隆: 当院におけるグルメピリド内服患者にDPP-4 阻害薬を追加投与後12ヶ月間のHbA1cとグルメピリド用量の追跡調査. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 2013. 5 .16
30. 佐々木翔, 小野祐一郎, 森野隆広, 数馬まりこ, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 石原 隆: 下垂体腫瘍による汎下垂体機能低下症にて発見された血管内リンパ腫の1例. 第47回兵庫内分泌研究会, 神戸, 2013. 7 . 6
31. 佐々木翔, 小野祐一郎, 森野隆広, 数馬まりこ, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 石原 隆: 下垂体腫瘍にて発見された血管内リンパ腫の1例. 第23回臨床内分泌代謝Update, 名古屋, 2014. 1 .24
32. 武田勇毅, 森野隆広, 数馬まりこ, 佐々木翔, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 石原 隆: 2型糖尿病としてDPP-4 阻害薬治療中に1型糖尿病を発症した1例. 第8回糖尿病臨床フォーラム, 大阪, 2014. 2 .22
33. 竹中麻里子, 藤原雄太, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 近藤まりこ, 佐々木翔, 赤沢尚美, 岩本昌子, 石原 隆: リラグルチド導入肥満2型糖尿病患者の食事変化に対する検討 第2報. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 2013. 5 .17
34. 服部尚樹, 石原 隆, 島津 章: 関節リウマチの病態に対するプロラクチンおよびマクロプロラクチンの関与. 第86回日本内分泌学会学術集会, 仙台, 2013. 4 .27
35. 松岡直樹: 糖尿病の治療のトレンドー新しい薬剤が可能にする新しい目標ー. メディセオ医療機器フェア 2013年 in 神戸, 神戸, 2013. 5 .12
36. 松岡直樹: 糖尿病領域での病診連携. DM and CKD Clinical Meeting in KOBE, 神戸, 2013. 9 .19
37. 松岡直樹: 糖尿病の治療ーDPP 4 阻害薬による治療の変化と病診連携を中心にー. 芦屋市医師会学術講演会, 芦屋, 2013. 9 .27
38. 松岡直樹: 高齢者の糖尿病治療 安全な治療を求めて. 明石医師会学術講演会, 明石, 2014. 2 .27
39. 松岡直樹: 今だからこそ考え直す糖尿病治療薬「ピオグリタゾンの好適症例と活かし方」. 神戸, 2014. 3 .26
40. 森野隆広, 数馬まりこ, 佐々木翔, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 石原 隆: 糖尿病性ケトアシドーシス発症を契機に診断されたミトコンドリア糖尿病の1例. 第7回兵庫県糖尿病臨床講演会, 神戸, 2013.10. 8

41. 森野隆広, 数馬まりこ, 佐々木翔, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 日野 恵, 石原 隆: <sup>131</sup>I治療後FT4上昇を示した甲状腺低分化癌の一例. 第14回日本内分泌学会近畿地方会, 京都, 2013.10.19
42. 森野隆広, 数馬まりこ, 佐々木翔, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 石原 隆: 糖尿病性ケトアシドーシス発症を契機に診断されたミトコンドリア糖尿病の1例. 第50回日本糖尿病学会近畿地方会, 京都, 2013.11.23
43. 森野隆広, 数馬まりこ, 佐々木翔, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 小林宏正, 日野 恵, 石原 隆: <sup>131</sup>I治療後FT4の上昇を示した甲状腺低分化癌の1例. 第101回神戸甲状腺研究会, 神戸, 2014. 2 . 8

### VIII. 1. 3 腎臓内科

1. 阿河昌治, 能登理央, 村上 徹, 木下啓太, 上浦 望, 吉本明弘: 若年者に発症した腎梗塞の1例. 第31回神戸腎疾患カンファランス, 神戸, 2013.10.27
2. 阿河昌治, 能登理央, 村上 徹, 木下啓太, 上浦 望, 吉本明弘: 解離性腎動脈瘤破裂を発症した若年男性の一例. 第9回兵庫県腎臓研究会, 神戸, 2014. 3 .15
3. 上浦 望, 木下啓太, 村上 徹, 山城悠葵, 坂地一朗, 長畑洋佑, 小野祐一郎, 吉本明弘: 高度過粘稠による脱血不良により血漿交換療法が困難であった原発性マクログロブリン血症の一例. 第58回日本透析医学会学術集会・総会, 福岡, 2013. 6 .21
4. 上浦 望, 能登理央, 木下啓太, 佐々木翔, 村上 徹, 小野祐一郎, 田端淑恵, 原 重雄, 吉本明弘: 多発性骨髄腫にPGNMIDを合併した一例. 第43回日本腎臓学会西部学術大会, 松山, 2013.10.13
5. 上浦 望, 吉本明弘: ビルダグリプチンにより朝食前血糖が改善した腹膜透析患者の一例. 第50回日本糖尿病学会近畿地方会, 京都, 2013.11.23
6. 木下啓太, 村上 徹, 上浦 望, 吉本明弘: 膜性腎症を合併したMPO-ANCA関連血管炎3例の臨床的検討. 第56回日本腎臓学会学術集会, 東京, 2013. 5 .10
7. 木下啓太, 能登理央, 数馬安浩, 小野祐一郎, 村上 徹, 上浦 望, 吉本明弘: 急性白血病に対して白血球除去療法を施行した2例. 第58回日本透析医学会学術集会・総会, 福岡, 2013. 6 .21
8. 木下啓太: 日常生活と腎臓. 在宅医療勉強会, 大阪, 2013. 7 .28
9. 木下啓太: 腎臓病と骨病変～カルシウムとリン～. ゆう透析クリニック患者会勉強会, 神戸, 2013. 8 .25
10. 木下啓太, 能登理央, 村上 徹, 佐々木翔, 上浦 望, 吉本明弘: 比較的短期の腹膜透析歴で被嚢性腹膜硬化症を呈した一例. 第19回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 大阪, 2013. 9 .28
11. 木下啓太: CKD患者における抗潰瘍薬の使用実態. ネキシウムシンポジウム, 神戸, 2013.10.31
12. 木下啓太: 紫斑病性腎症の病態と治療. 第3回神戸膠原病腎臓カンファレンス, 神戸, 2013.11.28
13. 佐々木翔, 能登理央, 木下啓太, 上浦 望, 吉本明弘: 腹膜が鞘状に腹膜透析カテーテル先端を被覆し注排液不良を呈した一例. 第58回日本透析医学会学術集会・総会, 福岡, 2013. 6 .21
14. 鈴木佳津子, 能登理央, 村上 徹, 木下啓太, 上浦 望, 吉本明弘: 当院における体重計測ミスの分析－インシデントレポートから読み取る－. 第31回神戸腎疾患カンファランス, 神戸, 2013.10.27

15. 能登理央, 向山政志, 横井秀基, 森 慶太, 森 潔, 笠原正登, 栞原孝成, 今牧博貴, 古賀健一, 石井輝, 加藤有希子, 戸田尚宏, 大野祥子, 北 悠希, 井上貴博, 小川 修, 柳田素子, 中尾一和: 高度肥満糖尿病透析患者に発症したFournier壊疽の1例. 第8回京阪神Nephrology Conference, 京都, 2013. 4 .19
16. 能登理央, 横井秀基, 向山政志: 高度肥満糖尿病透析患者に発症したFournier壊疽の1例. 第30回神戸腎疾患カンファレンス, 神戸, 2013. 5 .26
17. 能登理央, 横井秀基, 寺村茉莉, 尾谷知亮, 森 潔, 笠原正登, 栞原孝成, 斎藤陽子, 今牧博貴, 古賀健一, 石井 輝, 森 慶太, 加藤有希子, 戸田尚宏, 大野祥子, 中尾一和, 向山政志: 幼少時から繰り返す不明熱、巨大甲状腺腫とともに進行性腎障害を認めた1例. 第30回関西Cardio-Renal Conference, 京都, 2013. 6 . 7
18. 能登理央, 向山政志, 寺村茉莉, 尾谷知亮, 森 潔, 笠原正登, 横井秀基, 栞原孝成, 古賀健一, 中尾一和: 家族制地中海熱による全身性アミロイドーシスと十二指腸癌多発転移が合併した透析患者の一例. 第200回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2013. 6 . 8
19. 能登理央, 向山政志, 横井秀基, 森 慶太, 森 潔, 笠原正登, 栞原孝成, 今牧博貴, 古賀健一, 石井 輝, 加藤有希子, 戸田尚宏, 大野祥子, 北 悠希, 井上貴博, 小川 修, 柳田素子, 中尾一和: 高度肥満糖尿病透析患者に発症したFournier壊疽の1例. 第58回日本透析医学会雑誌, 福岡, 2013. 6 .21
20. 能登理央, 横井秀基, 寺村茉莉, 尾谷知亮, 森 潔, 笠原正登, 栞原孝成, 古賀健一, 吉本明弘, 菅原 照, 柳田素子, 中尾一和, 向山政志: 家族性地中海熱による全身性アミロイドーシスと悪性腫瘍転移の鑑別に苦慮した透析患者の1例. 第9回京阪神Nephrology Conference, 大阪, 2013.10. 3
21. 能登理央, 横井秀基, 寺村茉莉, 尾谷知亮, 森 潔, 笠原正登, 栞原孝成, 古賀健一, 吉本明弘, 菅原 照, 柳田素子, 中尾一和, 向山政志: 家族制地中海熱による全身性アミロイドーシスと十二指腸癌多発転移が合併した透析患者の一例. 第43回日本腎臓学会西部学術大会, 松山, 2013.10.11
22. Rio Noto, Nozomu Kamiura, Yuichiro Ono, Sumie Tabata, Shigeo Hara, Yukihiko Imai, Akihiro Yoshimoto : Successful treatment with Dexamethasone and Bortezomib for Proliferative Glomerulonephritis with Monoclonal IgG Deposits in Multiple Myeloma. The ASN Kidney Week 2013 Annual Meeting, Atlanta, 2013.11. 9
23. 村上 徹, 平尾明日香, 能登理央, 木下啓太, 上浦 望, 吉本明弘: 保存期腎不全にて妊娠し、早期透析導入とし分娩に至った一例. 第58回日本透析医学会学術集会・総会, 福岡, 2013. 6 .21
24. 吉本明弘: 慢性腎臓病の治療戦略と病診連携～eGFRの留意点～. 芦屋市医師会学術講演会, 芦屋, 2013. 5 .17
25. 吉本明弘: 慢性腎臓病の管理と病診連携～eGFR検査の留意点～. 第2期特定健康検査・特定保健指導研修会, 神戸, 2013. 5 .30
26. 吉本明弘: CKDにおける降圧治療戦略. 日本医師会生涯教育協力講座セミナー, 神戸, 2013.12.14
27. 吉本明弘: 慢性腎臓病を早期発見するために～eGFRの解釈について～. 神戸 心・腎・糖尿病懇話会, 神戸, 2013.12.19

#### VIII. 1. 4 神経内科

1. 石井淳子, 山本司郎, 十河正弥, 玉木良高, 東田京子, 関谷博顕, 河野智之, 小林和人, 吉村 元, 藤堂謙一, 川本未知, 幸原伸夫: 頭部放射線治療後に発症した脳梗塞-放射線治療と血管障害について-. 第9回Hyogo Neuroscience Seminar, 神戸, 2013. 2 . 9
2. 石井淳子, 山本司郎, 藤堂謙一, 小林和人, 河野智之, 吉村 元, 川本未知, 坂井信幸, 幸原伸夫: モヤモヤ病・類モヤモヤ病の頭部単純CTにおける中大脳動脈描出所見の検討. 第38回日本脳卒中学会総会, 東京, 2013. 3 .23
3. 石井淳子, 山本司郎, 玉木良高, 東田京子, 関谷博顕, 河野智之, 吉村 元, 藤堂謙一, 川本未知, 幸原伸夫: 特発性好酸球増加症候群に左室壁血栓と多発脳梗塞を合併した一例. 第32回日本脳神経超音波学会総会, 徳島, 2013. 6 .15
4. 石井淳子, 吉村 元, 川本未知, 幸原伸夫: 当院におけるフィッシャー症候群再発4症例の臨床的特徴の検討. 第24回日本末梢神経学会学術集会, 新潟, 2013. 8 .24
5. 石井淳子, 吉村 元, 玉木良高, 東田京子, 十河正弥, 村瀬 翔, 河野智之, 星 拓, 藤堂謙一, 川本未知, 幸原伸夫: 辺縁系脳炎後に大脳白質病変が進行した再発性多発軟骨炎の一例. 第51回摩耶神経カンファレンス, 神戸, 2013.10.25
6. 石井淳子, 川本未知, 東田京子, 玉木良高, 十河正弥, 村瀬 翔, 河野智之, 吉村 元, 星 拓, 藤堂謙一, 幸原伸夫, 今井幸弘, 岡 伸幸: 特徴的な大脳白質病変、認知機能低下、失調、末梢神経障害を呈した核内封入体病Neuronal intranuclear inclusion disease (NIID) の2例. 第46回OSK, 京都, 2013.12. 7
7. 石井淳子, 吉村 元, 玉木良高, 東田京子, 十河正弥, 村瀬 翔, 河野智之, 星 拓, 藤堂謙一, 川本未知, 幸原伸夫: 辺縁系脳炎後に大脳白質病変が進行した再発性多発軟骨炎の一例. 第99回日本神経学会近畿地方会, 大阪, 2013.12.21
8. 川本未知, 十河正弥, 玉木良高, 石井淳子, 東田京子, 関谷博顕, 小林和人, 河野智之, 吉村 元, 山本司郎, 藤堂謙一, 幸原伸夫, 今井幸弘: 肥厚性硬膜炎7例の臨床的検討. 第54回日本神経学会総会, 東京, 2013. 5 .22
9. 玉木良高, 川本未知, 幸原伸夫: 当院におけるPOEMS症候群の自己末梢血幹細胞移植後の長期予後について. 第54回神経内科学会総会, 東京, 2013. 5 .27
10. 玉木良高, 山本司郎, 幸原伸夫: 片側上下肢の舞蹈運動をきたした左中大脳動脈起始部閉塞症の一例. 第99回近畿神経内科地方会, 大阪, 2013.12.20
11. 藤堂謙一, 坂井信幸, 山本司郎, 河野智之, 小林和人, 石川達也, 今村博敏, 足立秀光, 幸原伸夫: 内頸動脈閉塞に対するtPA静注への救済的血管内治療の効果. 第38回日本脳卒中学会総会, 東京, 2013. 3 .23
12. 藤堂謙一, 星 拓, 河野智之, 石井淳子, 玉木良高, 東田京子, 村瀬 翔, 吉村 元, 川本未知, 幸原伸夫: 肺動静脈瘻に関連した奇異性脳塞栓症連続例の検討. 日本神経学会総会, 東京, 2013. 5 .21
13. 藤堂謙一, 坂井信幸, 山本司郎, 河野智之, 小林和人, 吉村 元, 川本未知, 石川達也, 今村博敏, 足立秀光, 幸原伸夫: 内頸動脈起始部急性閉塞に対する緊急血管内治療. 第54回日本神経学会学術大会, 東京, 2013. 6 . 1

14. 藤堂謙一, 坂井信幸, 山上 宏: 心房細動を有する症候性頸動脈狭窄症に対して. 第16回日本栓子検出と治療学会, 名古屋, 2013.10.12
15. Todo K, Sakai N, Hoshi T, Kono T, Adachi H, Imamura H, Kohara N: Time from onset to puncture and outcome after emergent neuroendovascular revascularization. The 6th Korea-Japan Joint Stroke Conference, 大阪, 2013.11.5
16. Todo K, Sakai N, Hoshi T, Kono T, Adachi H, Imamura H, Kohara N: Intensity of Anticoagulation and Ischemic or hemorrhagic stroke. International TIA/ACVS Conference, 東京, 2013.11.30
17. Todo K, Sakai N, Hoshi T, Kono T, Adachi H, Imamura H, Kohara N: Emergent neuroendovascular revascularization therapy for ischemic stroke with low NIHSS score. International TIA/ACVS Conference, 東京, 2013.11.30
18. 十河正弥, 村瀬 翔, 石井淳子, 玉木良高, 東田京子, 関谷博顕, 吉村 元, 河野智之, 星 拓, 藤堂謙一, 川本未知, 幸原伸夫: 肺動静脈瘻に関連した奇異性脳塞栓症連続例の検討. 第54回日本神経学会総会, 東京, 2013.5.28
19. 十河正弥, 村瀬 翔, 石井淳子, 玉木良高, 東田京子, 関谷博顕, 吉村 元, 河野智之, 星 拓, 藤堂謙一, 川本未知, 幸原伸夫: Mefloquineが奏功したnon HIV-PMLの2症例. 第45回OSK, 大阪, 2013.6.28
20. 十河正弥, 村瀬 翔, 石井淳子, 玉木良高, 東田京子, 吉村 元, 河野智之, 星 拓, 藤堂謙一, 川本未知, 幸原伸夫: 性交中に発症した若年性脳梗塞の一例. 第16回連脈会, 大阪, 2013.7.5
21. 十河正弥, 吉村 元, 村瀬 翔, 石井淳子, 玉木良高, 東田京子, 河野智之, 星 拓: 多発脳梗塞で発症し経気管支肺生検で診断した血管内リンパ腫の一例. 内科学会近畿地方会, 大阪, 2013.12.14
22. 十河正弥, 村瀬 翔, 石井淳子, 玉木良高, 東田京子, 関谷博顕, 吉村 元, 河野智之, 星 拓, 藤堂謙一, 川本未知, 幸原伸夫: Mefloquineが奏功したnon HIV-PMLの1例. 日本神経学会近畿地方会, 大阪, 2013.12.20
23. 東田京子, 山本司郎, 藤堂謙一, 小林和人, 河野智之, 吉村 元, 川本未知, 坂井信幸, 幸原伸夫: 超急性期穿通枝領域脳梗塞に対するtPA静注療法の効果と安全性. 第38回日本脳卒中学会, 東京, 2013.3.21
24. 東田京子, 藤堂謙一, 村瀬 翔, 十河正弥, 石井淳子, 玉木良高, 河野智之, 吉村 元, 星 拓, 川本未知, 幸原伸夫: 緊急血行再建術により再開通後、慢性期に症状悪化を伴う可逆性白質病変を認めた一例. 日本神経内科学会第98回近畿地方会, 奈良, 2013.6.22
25. 東田京子, 藤堂謙一, 河野智之, 星 拓, 今村博敏, 足立秀光, 幸原伸夫, 坂井信幸: 発症状況からみた急性期血行再建術における治療成績の検討. 第29回日本脳神経血管内治療学会, 新潟, 2013.11.21
26. 吉村 元, 菅生教文, 十河正弥, 玉木良高, 東田京子, 石井淳子, 関谷博顕, 小林和人, 河野智之, 山本司郎, 藤堂謙一, 川本未知, 幸原伸夫: Idiopathic hypoglossal nerve palsyの3例. 第54回日本神経学会学術大会, 東京, 2013.6.1

## VIII. 1. 5 消化器内科

1. 井上聡子, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 高島健司, 小川 智, 佐竹悠良, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦: 当院で経験した腸結核の臨床像に関する検討. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 2013.5.12

2. 井上聡子, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 高島健司, 小川 智, 佐竹悠良, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦:小腸疾患におけるパテンシーカプセルの有用性についての検討. JDDW2013 第56回消化器病学会大会, 東京, 2013.10.10
3. 井上聡子:狭窄切除後1年で内瘻を形成した小腸大腸型クローン病の一例. 第19回兵庫IBDカンファレンス, 神戸, 2014. 1 .31
4. 猪熊哲朗:肝疾患に対する食事・運動療法～アミノ酸療法の有用性～. 肝硬変栄養治療フォーラム, 神戸, 2013. 5 .31
5. 猪熊哲朗:抗血栓薬服用者に対する内視鏡診療－ガイドラインをふまえての対応－. 神戸市北区消化器疾患における医療連携勉強会, 神戸, 2014. 2 .20
6. 岩崎信広, 杉之下与志樹, 鄭 浩柄, 朽尾人司, 田村明代, 箕輪和士, 和田将弥, 猪熊哲朗, 今井幸弘:小腸腫瘍性病変の超音波像について. 第40回日本超音波学会関西地方会学術集会, 大阪, 2013.11. 9
7. 岡田明彦:脳血管障害の治療における抗血小板薬の必要性和消化管出血管理の重要性. 脳血管内治療ブラッシュアップセミナー2013 ランチョンセミナー, 神戸, 2013. 6 .8
8. 岡田明彦:第3会場(2階さくら西)午後の部 胃2. 第90回消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 6 .22
9. 岡田明彦:消化管疾患 最近の話題. Next Lecture Meeting, 神戸, 2013. 9 .21
10. 岡田明彦:CKD患者における抗潰瘍薬の使い方とそのコツ. Nexium Symposium, 神戸, 2013.10.31
11. 岡田明彦:～こんなんでエエンやろうか? EPLBD標準化に向けて～. ～こんなんでエエンやろうか? EPLBD標準化に向けて～, 神戸, 2013.11. 1
12. 岡田明彦:酸関連疾患 最近の話題. Next Lecture Meeting in Kakogawa, 加古川, 2013.11.19
13. 岡田明彦:肥満と消化管疾患. 第95回土曜会, 神戸, 2013.12.14
14. 岡田明彦:ヘリコバクター・ピロリ除菌療法の今－国民総除菌時代を迎えて－. 学術講演会, 神戸, 2014. 1 .11
15. 小川 智, 藤田幹夫, 岡田明彦, 北本博規, 高島健司, 増尾謙志, 松本知訓, 佐竹悠良, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹:当院で経験した過去5年間の大腸憩室出血症例の検討. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 2013. 5 .12
16. 小川 智, 藤田幹夫, 岡田明彦:当院で経験した大腸憩室出血症例の検討. 第90回消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 6 .22
17. 小川 智, 岡田明彦, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 高島健司, 佐竹悠良, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹:当院で経験した転移性食道腫瘍の2例. 第99回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 9 .28



18. 小川 智, 杉之下与志樹, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 高島健司, 佐竹悠良, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 岡田明彦: 当院で過去5年間に部分的脾動脈塞栓術を施行した症例の検討. JDDW2013 第17回肝臓病学会大会, 東京, 2013.10.9
19. 小川 智, 藤田幹夫, 猪熊哲朗: 当院における高齢者に対するPEGの安全性に対する検討. 第91回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013.11.16
20. 小川 智, 鄭 浩柄, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 高島健司, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦, 猪熊哲朗: 当院における急性B型肝炎例の検討. 第40回日本肝臓病学会西部会, 岐阜, 2013.12.6-7
21. 小川 智, 鄭 浩柄, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 高島健司, 佐竹悠良, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦: 長期間経過観察中の肝lymphoid hyperplasiaの1例. 第100回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2014.2.20
22. 小川 智, 和田将弥, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 高島健司, 佐竹悠良, 福島政司, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦: A case of primary hepatic gastrinoma. APASL2014, Brisbane, 2014.3.12-15
23. 北本博規, 岡田明彦, 細谷和也, 南出竜典, 小川 智, 高島健司, 佐竹悠良, 福島政司, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 当院における大腸ステント留置の経験. 第43回兵庫県内視鏡治療談話会, 神戸, 2013.6.12
24. 北本博規, 井上聡子, 南出竜典, 高島健司, 小川 智, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: カプセル内視鏡が診断に有用であった日本海裂頭条虫の1例~陰性例2例との比較~. 第90回消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013.6.22
25. 北本博規, 福島政司, 井上聡子: 当院における原因不明の消化管出血の検討. 第99回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2013.9.28
26. 北本博規, 岡田明彦, 細谷和也, 南出竜典, 高島健司, 小川 智, 佐竹悠良, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹: 当院における大腸ステント留置術の現状について. JDDW2013 第86回消化器内視鏡学会総会, 東京, 2013.10.11
27. 北本博規, 井上聡子, 杉之下与志樹, 鄭 浩柄, 岩崎信広, 簗輪和士, 高島健司, 和田将弥, 岡田明彦, 猪熊哲朗: 腹部超音波検査にて日本海裂頭条虫を観察しえた1例. 第40回日本超音波学会関西地方会学術集会, 大阪, 2013.11.9
28. 北本博規, 岡田明彦, 細谷和也, 南出竜典, 高島健司, 小川 智, 佐竹悠良, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹: 胆道鏡で観察し得た総胆管隔壁形成症の1例. 第91回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013.11.16
29. 北本博規, 岡田明彦, 細谷和也, 南出竜典, 小川 智, 高島健司, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 胆道鏡で診断し得た総胆管隔壁形成症の1例. 第35回京大消化器症例検討会, 京都, 2013.12.14
30. 北本博規, 福島政司, 細谷和也, 南出竜典, 小川 智, 高島健司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦, 猪熊哲朗: 特発性成人腸重積症の1例. 第100回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2014.2.20

31. 北本博規, 井上聡子, 細谷和也, 南出竜典, 小川 智, 高島健司, 佐竹悠良, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦, 猪熊哲朗: IFXにより緩徐に寛解導入しえたステロイド依存性UCの一例. 2nd IBD Biologics Clinical Young Seminar, 神戸, 2014. 3. 7
32. 佐竹悠良, 古武 剛, 伊藤靖弘, 北本博規, 高島健司, 小川 智, 増尾謙志, 藤田幹夫, 猪熊哲朗, 辻 晃仁: KRAS遺伝子異変測定時期が切除不能進行大腸がん患者の初回化学療法選択に及ぼす影響. 第11回日本臨床腫瘍学会, 仙台, 2013. 8. 31
33. 佐竹悠良, 藤田幹夫, 辻 晃仁, 猪熊哲朗: 当院における胃癌のHER2発現頻度および抗がん剤治療に与える影響に関する検討. 第99回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 9. 28
34. 占野尚人, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 小川 智, 高島健司, 福島政司, 和田将弥, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦, 猪熊哲朗: 当院における胃ESD後の遅発性後出血. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 2013. 5. 12
35. 占野尚人, 藤田幹夫, 猪熊哲朗: 胃体部ESDで穿孔しないために～内側縦斜走筋への対応～. 第90回消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 6. 22
36. 占野尚人, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 小川 智, 高島健司, 福島政司, 和田将弥, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦: セッションI 内視鏡: 抗血栓治療症例に関すること. 第10回兵庫胃がん治療研究会, 神戸, 2013.10.19
37. 占野尚人, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 小川 智, 高島健司, 福島政司, 和田将弥, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦, 猪熊哲朗: Barrett食道とBarrett腺癌. 2013.11. 1 Scientific Exchange Meeting 2013, 神戸, 2013.11. 1
38. 占野尚人, 福島政司, 猪熊哲朗: 高齢者早期胃癌に対するESD. 第91回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013.11.16
39. 占野尚人: 第6会場(2階会議室C・D) Young Endoscopist Session 4 胆膵・その他. 第91回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013.11.16
40. 杉之下与志樹: B型肝炎パネルディスカッション 症例から診るB型肝炎治療. 第1回神戸肝炎シンポジウム, 神戸, 2013. 6. 22
41. 杉之下与志樹, 鄭 浩柄: 肝炎治療戦略の今後について. Kobe Liver Meeting 2013, 神戸, 2013.10.23
42. 高島健司, 杉之下与志樹, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 小川 智, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 岡田明彦, 猪熊哲朗: 当院におけるC型肝炎に対する3剤併用療法. 第28回東神戸消化器疾患セミナー, 神戸, 2013. 6. 20
43. 高島健司, 藤田幹夫, 北本博規, 小川 智, 増尾謙志, 松本知訓, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 岡田明彦, 猪熊哲朗: 巨大な露出血管を伴う出血性胃潰瘍に対してIVRが有用であった2症例. 第90回消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 6. 22
44. Kenji Takashima, Tetsuro Inokuma: Concurrent Chemoradiotherapy for Elderly (Over 75 Years of Age) Patients With Esophageal Cancer. ESMO Annual Meeting 2013, Amsterdam, 2013. 9. 27-10. 1

45. 高島健司, 福島政司, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 小川 智, 佐竹悠良, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦: 内視鏡的粘膜切除術で診断しえた慢性骨髄性単球性白血病の小腸浸潤の一例. JDDW2013 第86回消化器内視鏡学会総会, 東京, 2013.10.10
46. 高島健司, 福島政司, 井上聡子: ダブルバルーン小腸内視鏡が診断に有用であったMeckel憩室症の10例. 第91回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013.11.16
47. 高島健司, 鄭 浩柄, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 小川 智, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦, 猪熊哲朗: 当院におけるC型肝炎に対する3剤併用療法の治療成績. 第21回西神戸消化器疾患セミナー, 神戸, 2013.11.21
48. 鄭 浩柄: HBV再活性化予防またはde novo肝炎に対して核酸アナログ投与後、中止した症例に関する検討. 第15回関西B型肝炎研究会, 大阪, 2013.6.15
49. 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 高島健司, 小川 智, 佐竹悠良, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 藤田幹夫, 岡田明彦: 当院における肝細胞癌に対するソラフェニブ投与症例の検討. 第49回日本肝癌研究会, 東京, 2013.7.11
50. 鄭 浩柄, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 小川 智, 高島健司, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 藤田 幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦, 猪熊哲朗: 既往感染例におけるHBV再活性化に対して核酸アナログ投与後、中止した症例に関する検討. 第40回日本肝臓病学会西部会, 岐阜, 2013.12.6-7
51. 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 進行肝癌に対するソラフェニブによる治療戦略. 第100回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2014.2.20
52. 成田祐美, 枋尾人司, 杉之下与志樹, 鄭 浩柄, 田村明代, 岩崎信広, 濱田一美, 和田将弥, 箕輪和士, 猪熊哲朗: US上、特に脂肪肝に合併して認められる肝血管腫周囲の低エコー部分についてのretrospectiveな検討. 第40回日本超音波学会関西地方会学術集会, 大阪, 2013.11.9
53. 畑森裕之, 井上聡子, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 小川 智, 高島健司, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦: 血管性病変と鑑別に苦慮したinflammatory fibroid polypの一例. 第91回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013.11.16
54. 福島政司, 井上聡子, 猪熊哲朗: 当院で経肛門的小腸内視鏡を行った下部消化管出血性疾患の検討. 第90回消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013.6.22
55. 福島政司, 河南智晴, 猪熊哲朗: 主題3 小腸「びらん・潰瘍を呈する小腸病変」. 第14回臨床消化器病研究会, 東京, 2013.7.20
56. 藤田幹夫, 小川 智, 佐竹悠良, 辻 晃仁: 消化器がん化学療法における部分的脾動脈塞栓術の有用性. 第100回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2014.2.20
57. 細谷和也, 井上聡子, 南出竜典, 北本博規, 高島健司, 小川 智, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: DBEで診断しえたMCTD合併EBV関連悪性リンパ腫の一例. 第90回消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013.6.22
58. 細谷和也, 占野尚人, 南出竜典, 北本博規, 小川 智, 高島健司, 福島政司, 和田将弥, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦, 猪熊哲朗: アニキサスにより短期間に著名な形態変化をきたした上行結腸腺腫の一例. 第91回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013.11.16

59. 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 小川 智, 高島健司, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 岡田明彦, 猪熊哲朗: 当院での消化管異物の経験例. 第44回兵庫県内視鏡治療談話会, 神戸, 2013.11.20
60. 細谷和也, 井上聡子, 南出竜典, 北本博規, 小川 智, 高島健司, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 岡田明彦, 猪熊哲朗, 今井幸弘: 小腸への瘻孔を伴う小腸GISTの一例. 第100回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2014. 2 .20
61. 松本一寛, 猪熊哲朗, 細谷和也, 南出竜典, 北本博規, 小川 智, 高島健司, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹: FDG-PETが著明に集積した腭solid-pseudopapillary neoplasmの1例. 第100回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2014. 2 .20
62. 南出竜典, 松本知訓, 岡田明彦, 北本博規, 高島健司, 小川 智, 増尾謙志, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹: 内視鏡所見が診断に有用であったエルシニア回盲部リンパ節炎の一例. 第90回消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 6 .22
63. 南出竜典, 和田将弥, 細谷和也, 北本博規, 高島健司, 小川 智, 福島政司, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦, 猪熊哲朗: 多発膵内分泌腫瘍と副腎褐色細胞腫を同時に診断・治療したvon Hippel-Lindau病の一例. 第34回京大消化器症例検討会, 神戸, 2013. 6 .29
64. 南出竜典, 和田将弥, 細谷和也, 北本博規, 高島健司, 小川 智, 佐竹悠良, 福島政司, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦: 当院におけるvon Hippel-Lindau病に合併した膵病変の検討. JDDW2013 第55回消化器病学会大会, 東京, 2013.10.10
65. 南出竜典, 和田将弥, 細谷和也, 北本博規, 高島健司, 小川 智, 佐竹悠良, 福島政司, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦: EUS-FNAにて術前診断が可能であった腎細胞癌転移の1例. 第91回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013.11.16
66. 南出竜典, 杉之下与志樹, 細谷和也, 北本博規, 小川 智, 高島健司, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 岡田明彦, 猪熊哲朗: 混合型肝癌の一例. 第100回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2014. 2 .20
67. 和田将弥, 岡田明彦, 北本博規, 小川 智, 高島健司, 増尾謙志, 松本知訓, 佐竹悠良, 福島政司, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹: 当院における超音波内視鏡下穿刺術 (EUS-FNA およびEUS-CD) の検討. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 2013. 5 .10
68. 和田将弥, 岡田明彦, 猪熊哲朗: 当院におけるInterventional EUS導入後の胆膵疾患の診断の現況. 第90回消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 6 .22
69. 和田将弥: 第6会場 (2階会議室C・D) 大腸4 47~50. 第91回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013.11.16

## VIII. 1. 6 呼吸器内科

1. 出原裕美, 松本久子, 金光禎寛, 出原賢治, 東田有智, 北 英夫, 堀口高彦, 桑原和伸, 富井啓介, 大塚浩二郎, 藤村政樹, 大倉徳幸, 富田桂公, 横山彰仁, 大西広志, 中野恭幸, 小熊哲也, 保澤総一郎, 長崎忠雄, 伊藤功朗, 小熊 毅, 田尻智子, 新実彰男, 三嶋理晃, 小野純也, 岩田敏之, 玉利真由美: 吸入ステロイド治療下喘息患者におけるGLCC11遺伝子多型と呼吸機能低下との関連についての検討. 第63回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京, 2013.11.28-30

2. 大塚今日子, 大歳丈博, 藤本大智, 玉井浩二, 川村卓久, 門田和也, 松本 健, 竹下純平, 田中広祐, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 富井啓介: 当院における薬剤性間質性肺炎の臨牀的検討. 第53回呼吸器学会学術講演会, 東京, 2013. 4 .21
3. 大塚今日子, 加藤了資, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 玉井浩二, 川村卓久, 松本 健, 永田一真, 中川淳, 片上信之, 富井啓介, 今井幸弘, 山鳥一郎: VATS肺生検で不顕性誤嚥が原因と思われる間質性肺炎で生活改善が有効であった一例. 第81回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7 .13
4. 大塚今日子, 加藤了資, 清水亮子, 藤本大智, 大歳丈博, 玉井浩二, 川村卓久, 松本 健, 永田一真, 中川淳, 大塚浩二郎, 富井啓介: 持続的経皮炭酸ガスモニターが夜間NPPV導入に極めて有用であった脊椎カリエス後遺症の一例. 第82回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013.12. 7
5. 大塚浩二郎, 立川 良, 中川 淳, 大塚今日子, 永田一真, 松本 健, 門田和也, 竹下純平, 川村卓久, 玉井浩二, 大歳丈博, 藤本大智, 片上信之, 富井啓介: 喘息発作入院の入院日数に寄与する因子の検討. 第53回呼吸器学会学術講演会, 東京, 2013. 4 .20
6. 大塚浩二郎, 立川 良, 中川 淳, 大塚今日子, 永田一真, 松本 健, 門田和也, 竹下純平, 田中広祐, 玉井浩二, 川村卓久, 大歳丈博, 藤本大智, 片上信之, 富井啓介: 当院における喘息増悪による入院日数に寄与する因子の検討. 第25回日本アレルギー学会春期臨牀大会, 横浜, 2013.5.11-12
7. 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 竹下純平, 田中広祐, 松本 健, 門田和也, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 朱 祐珍, 瀬尾龍太郎, 渥美生弘, 富井啓介: 重症市中肺炎に対するNPPV成功例と失敗例の比較検討. 第53回呼吸器学会学術講演会, 東京, 2013. 4 .19
8. 大歳丈博, 加藤了資, 清水亮子, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川淳, 大塚浩二郎, 富井啓介, 高橋 豊, 幸原伸夫, 六車光英, 今井幸弘: 広範な筋肉病変と腎機能低下を伴ったサルコイドーシスの1例. 第81回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7 .13
9. 大歳丈博, 大塚浩二郎, 加藤了資, 清水亮子, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 富井啓介: 当院における機械換気を要する喘息発作の検討. 第63回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京, 2013.11.28-30
10. 大歳丈博, 加藤了資, 清水亮子, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 柴田祐美, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 富井啓介: 繰り返す胸膜炎・心外膜炎をきたした潰瘍性大腸炎の一例. 第82回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013.12. 7
11. 加藤了資, 大塚浩二郎, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 富井啓介, 今井幸弘, 高橋 豊: 帰宅誘発試験が有効であった船の模型作製による過敏性肺臓炎の一例. 第81回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7 .13
12. 加藤了資, 永田一真, 清水亮子, 藤本大智, 大歳丈博, 玉井浩二, 川村卓久, 柴田祐美, 松本 健, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 富井啓介: 急性呼吸不全患者に対するネーザルハイフローを用いた気管支鏡検査の安全性についての検討. 第94回日本呼吸器内視鏡学会近畿支部会, 大阪, 2013.11.30
13. 加藤了資, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 柴田祐美, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 富井啓介, 吉澤尚志, 中村 健, 今井幸弘: 縦隔腫瘍が疑われた特発性巨大冠動脈瘤の一例. 第82回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013.12. 7

14. 加藤了資, 清水亮子, 藤本大智, 大歳丈博, 玉井浩二, 川村卓久, 柴田祐美, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 片上信之, 富井啓介: 間質性肺炎合併進行期肺扁平上皮癌の検討. 第99回日本肺癌学会関西支部会, 姫路, 2014. 2 .22
15. 川村卓久, 大歳丈博, 藤本大智, 玉井浩二, 門田和也, 松本 健, 竹下純平, 田中広祐, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 富井啓介: 超音波気管支鏡ガイド下生検 (EBUS-TBNA) 施行例の検討. 第53回呼吸器学会学術講演会, 東京, 2013. 4 .20
16. Kawamura T, Hata A, Otsoshi T, Fujimoto D, Tamai K, Matsumoto T, Monden K, Nagata K, Otsuka K, Nakagawa A, Tachikawa R, Otsuka K, Kaji R, Fujita S, Katakami N, Tomii K : High-dose erlotinib for refractory leptomeningeal metastases (LM) after failure of standard dose EGFR-TKIs. 2013 ASCO Annual Meeting, Chicago, USA, 2013. 5 .31 – 6 . 4
17. 川村卓久, 加藤了資, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 玉井浩二, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 富井啓介, 今井幸弘, 山鳥一郎, 増田公彦, 蛇澤 晶: UIP patternの間質性肺炎とともに呼吸不全死し剖検された兄弟例. 第81回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7 .13
18. 川村卓久: 非小細胞肺癌に対するペメトレキセド (PEM) 単剤長期投与例の検討. 第5回胸部腫瘍セミナー, 京都, 2013.11. 2
19. 川村卓久, 片上信之, 加藤了資, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 玉井浩二, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 竹下純平, 秦 明登, 加地玲子, 真砂勝泰, 藤田史郎, 富井啓介: 非小細胞肺癌 (NSCLC) に対するペメトレキセド (PEM) 単剤長期投与例の検討. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 2013.11.21 – 22
20. 川村卓久, 門田和也, 加藤了資, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 玉井浩二, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 富井啓介, 竹田淳恵, 石川隆之: 多発性筋炎合併間質性肺炎の経過中に悪性リンパ腫を発症した一例. 第82回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013.12. 7
21. 佐藤悠城, 大塚浩二郎, 玉井浩二, 小野祐一郎, 加藤了資, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 柴田祐美, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 富井啓介: 9年の経過を追えた抗CADM-140抗体陽性、皮膚筋炎関連の間質性肺炎の一例. 第82回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013.12. 7
22. 佐藤悠城, 藤本大智, 柴田祐美, 瀬尾龍太郎, 杉之下与志樹, 今井幸弘, 清水亮子, 加藤了資, 大歳丈博, 川村卓久, 玉井浩二, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 片上信之, 富井啓介: クリゾチニブによる劇症肝炎で死亡に至った1例. 第99回日本肺癌学会関西支部会, 姫路, 2014. 2 .22
23. 柴田祐美, 中川 淳, 根本禎久, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 大塚浩二郎, 大谷秀夫, 富井啓介: 胸部症状は認めず両肺多発浸潤影を指摘されトキソカラ症と診断された一例. 第82回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013.12. 7
24. 柴田祐美, 大塚浩二郎, 加藤了資, 竹下純平, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 玉井浩二, 川村卓久, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 片上信之, 富井啓介, 大久保祐, 坂之上朗, 浜川博司, 高橋 豊, 今井幸弘: 集学的治療を行うも急速に進行した肺血管肉腫の一例. 第99回日本肺癌学会関西支部会, 姫路, 2014. 2 .22
25. 清水亮子, 松本 健, 加藤了資, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 富井啓介, 今井幸弘, 関谷博顕, 吉村 元: 多発性筋炎関連間質性肺炎とRS3PE症候群を合併した肺扁平上皮癌の一例. 第81回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7 .13

26. 清水亮子, 加藤了資, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 片上信之, 富井啓介, 細野祐司, 三森経世: 抗Aminoacyl tRNA synthetase (ARS) 抗体陽性の間質性肺炎患者の増悪因子の検討. 第88回間質性肺疾患研究会, 東京, 2013.10.11
27. 清水亮子, 加藤了資, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 片上信之, 富井啓介: EGFR遺伝子変異陽性進行期肺腺癌患者におけるBody mass index (BMI) と gefitinib の治療効果に関する検討. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 2013.11.21-22
28. 清水亮子, 加藤了資, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 志水隼人, 西岡弘晶, 富井啓介: 急速進行性の間質性肺炎と有意な筋症状を伴った抗CADM-140抗体陽性皮膚筋炎の一例. 第82回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013.12. 7
29. 清水亮子, 加藤了資, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 柴田祐美, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 片上信之, 富井啓介: 間質性肺炎合併進行期肺腺癌に対するCBDCA+PAC+BEV療法とCBDCA+PAC療法の有効性、安全性の比較検討. 第99回日本肺癌学会関西支部会, 姫路, 2014. 2 .22
30. 玉井浩二, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 竹下純平, 田中広祐, 門田和也, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 富井啓介: 肺非結核性抗酸菌症患者における血清ANCA陽性率と病的意義の検討. 第53回呼吸器学会学術講演会, 東京, 2013. 4 .21
31. 玉井浩二, 加藤了資, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 富井啓介, 高橋 豊, 今井幸弘: ステロイドが著効した特発性縦隔線維症の一例. 第81回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7 .13
32. Koji Tamai, Keisuke Tomii, Atsushi Nakagawa, Kojiro Otsuka, Kazuma Nagata, Kyoko Otsuka, Takahisa Kawamura, Takehiro Otoshi, Daichi Fujimoto, Ryoji Kato, Ryoko Shimizu: Diffuse alveolar hemorrhage dominant in right lung is due to cardiac comorbidity. ERS Annual Congress, Barcelona, Spain, 2013. 9 . 7 -11
33. 玉井浩二, 加藤了資, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 柴田祐美, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 木下啓太, 吉本明弘, 瀬尾龍太郎, 渥美生弘, 有吉孝一, 富井啓介: MPO-ANCAと抗GBM抗体が両陽性であった顕微鏡的多発血管炎の一例. 第82回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013.12. 7
34. 富井啓介: 大都市救急病院でのCOPD [シンポジウム COPD医療の実際 (患者数、在宅酸素・人工呼吸、急性増悪、入院治療)]. 第23回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 東京, 2013.10.10-11
35. 富井啓介, 加藤晃史, 高橋雅士, 野間恵之, 有吉 寛, 江夏総太郎, 大久保澄子, 小林典子, 工藤翔二: ベメトレキセド特定使用成績調査 (悪性胸膜中皮腫/非小細胞肺癌) で確認した間質性肺疾患の検討. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 2013.11.21-22
36. 中川 淳, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 竹下純平, 田中広祐, 松本 健, 門田和也, 永田一真, 大塚今日子, 立川 良, 大塚浩二郎, 富井啓介, 門 浄彦, 高松寛史, 康 希全, 柴田祐美, 玉木 彰: 慢性呼吸器疾患を有する患者に対する病病連携リハビリテーションプログラム. 第53回呼吸器学会学術講演会, 東京, 2013. 4 .21
37. 中川 淳, 加藤了資, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 大塚浩二郎, 富井啓介: 悪性疾患患者に出現した肺病変に対する感染症除外目的の気管支肺胞洗浄 (BAL) の有用性. 第87回日本感染症学会学術講演会, 横浜, 2013. 6 . 5 -6

38. 中川 淳, 加藤了資, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 大塚浩二郎, 富井啓介: 間質性肺炎患者の繰り返し入院症例に関する検討. 第81回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7 .13
39. 中川 淳: 関節リウマチの経過中に呼吸困難感が出現した63歳女性の一例. 厚生労働省・難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 閉塞性細気管支炎全国調査2次調査研究会 第3回症例検討会, 東京, 2013.11.16
40. 永田一真, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 松本 健, 門田和也, 大塚今日子, 中川 淳, 立川良, 大塚浩二郎, 富井啓介: 重症急性呼吸不全に対するネーザルハイフローの有用性に関する検討. 第53回呼吸器学会学術講演会, 東京, 2013. 4 .19
41. 永田一真, 加藤了資, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 松本 健, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 富井啓介: 先天性側弯症による2型呼吸不全に対してiVAPSを用いた一例. 第81回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7 .13
42. 永田一真: 救急現場でのNIV、ネーザルハイフロー [シンポジウム 非侵襲的換気 (NIV) (ネーザルハイフローを含む) を行う若手医師の実践~急性呼吸不全を中心に~]. 第23回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 東京, 2013.10.10-11
43. Kazuma Nagata, Daichi Fujimoto, Takehiro Otoshi, Takahisa Kawamura, Koji Tamai, Takeshi Matsumoto, Kyoko Otsuka, Atsushi Nakagawa, Kojiro Otsuka, Keisuke Tomii : Bronchoalveolar Lavage Neutrophilia Predicts Mortality in Acute Exacerbation of Interstitial Pneumonia. 18th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Yokohama, 2013.11.11-14
44. 永田一真, 松本 健, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 富井啓介: 急性呼吸不全に対するハイフローセラピーの有用性. 第2回ハイフローセラピー公開セミナー, 東京, 2013.11.16
45. 永田一真, 加藤了資, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 松本 健, 大塚今日子, 中川淳, 大塚浩二郎, 富井啓介: 癌性胸膜炎に対してドレナージ術後に合併した膿胸に伴うヘノッホ・シェーンライン紫斑病の一例. 第82回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013.12. 7
46. 秦 明登, 片上信之, 吉岡弘鎮, 富井啓介, 石田 直: EGFR-TKI獲得耐性後における中枢神経転移およびT790Mと予後の関係. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 2013.11.21-22
47. 藤本大智, 大歳丈博, 川村卓久, 玉井浩二, 田中広祐, 松本 健, 門田和也, 竹下純平, 永田一真, 中川 淳, 大塚今日子, 秦 明登, 立川 良, 大塚浩二郎, 浜川博司, 片上信之, 高橋 豊, 今井幸弘, 富井啓介: 間質性肺炎合併肺腺癌とepidermal growth factor receptor (EGFR) 遺伝子変異の関係. 第53回呼吸器学会学術講演会, 東京, 2013. 4 .21
48. 藤本大智, 竹川啓史, 崎園賢治, 小谷陽子, 三木寛二, 内藤拓也, 仁木真理恵, 宮本淳子, 玉井浩二, 永田一真, 中川 淳, 大塚今日子, 立川 良, 大塚浩二郎, 土井朝子, 富井啓介: 本邦において使用可能な嫌気性菌用輸送容器の保菌能比較. 第87回日本感染症学会学術講演会, 横浜, 2013. 6 . 5 - 6
49. Daichi Fujimoto, Ryoko Shimizu, Ryoji Kato, Takehiro Otoshi, Takahisa Kawamura, Koji Tamai, Takeshi Matsumoto, Kazuma Nagata, Kyoko Otsuka, Atsushi Nakagawa, Kojiro Otsuka, Nobuyuki Katakami, Keisuke Tomii : Prognosis And Prognostic Factors In Advanced Lung Cancer Patients Diagnosed Following Emergency Admission: A Single Critical Care Medical Center Study. 18th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Yokohama, 2013.11.11-14



50. 藤本大智, 上田浩之, 清水亮子, 加藤了資, 大歳丈博, 川村卓久, 玉井浩二, 松本 健, 永田一真, 中川 淳, 大塚今日子, 大塚浩二郎, 片上信之, 富井啓介: 肺腺癌Stage4患者における転移臓器による予後の違いとEGFR遺伝子変異と転移部位, 転移数の関係. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 2013.11.21-22
51. 藤本大智, 清水亮子, 加藤了資, 大歳丈博, 玉井浩二, 川村卓久, 松本 健, 永田一真, 中川 淳, 大塚今日子, 大塚浩二郎, 片上信之, 富井啓介: 抜歯が病態改善に寄与したと考えられるSeptic emboliの一例. 第82回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013.12.7
52. 藤本大智, 大歳丈博, 川村卓久, 玉井浩二, 松本 健, 永田一真, 中川 淳, 大塚今日子, 大塚浩二郎, 浜川博司, 片上信之, 高橋 豊, 今井幸弘, 富井啓介: 肺腺癌におけるepidermal growth factor receptor (EGFR) 遺伝子変異と線維化の関連. 第99回日本肺癌学会関西支部会, 姫路, 2014.2.22
53. 松本 健, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 竹下純平, 田中広祐, 門田和也, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 富井啓介, 今井幸弘: 局所麻酔下胸腔鏡検査を必要とした癌性胸膜炎症例に関する検討. 第53回呼吸器学会学術講演会, 東京, 2013.4.21
54. Takeshi Matsumoto, Kojiro Otsuka, Takehiro Otoshi, Daichi Fujimoto, Takahisa Kawamura, Koji Tamai, Jumpei Takeshita, Kosuke Tanaka, Kazuya Monden, Kazuma Nagata, Kyoko Otsuka, Atsushi Nakagawa, Ryo Tachikawa, Keisuke Tomii: Role of medical thoracoscopy making histological diagnosis of exudative pleural effusion. ATS International Conference, Philadelphia, USA, 2013.5.17-22
55. 松本 健, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 竹下純平, 田中広祐, 門田和也, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 富井啓介, 藤田史郎, 片上信之: 気管支鏡検査時の鎮静薬投与方法の違いによる患者満足度の検討. 第36回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, さいたま, 2013.6.20-21
56. 松本 健, 加藤了資, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 富井啓介, 船山由樹, 今井幸弘: 難治性肺膿瘍・膿胸と鑑別を要した肺原発悪性リンパ腫の一部検例. 第81回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013.7.13
57. 松本 健, 加藤了資, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 今井幸弘, 富井啓介: 慢性好酸球性肺炎再発に関連する因子の検討. 第63回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京, 2013.11.28-30
58. 松本 健, 加藤了資, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 柴田祐美, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 富井啓介, 今井幸弘: 経気管支吸引細胞診後に突発の心窩部痛にて細菌性心外膜炎を発症し心タンポナーデを来した一例. 第82回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013.12.7

## VIII. 1. 7 血液内科

1. 石川隆之: 骨髄腫とは. 日本骨髄腫患者の会骨髄腫セミナー神戸ブロック会, 神戸, 2013.4.20
2. 石川隆之: 悪性リンパ腫におけるジェムザールの使用経験. West Japan Lymphoma Seminar, 大阪, 2013.5.11
3. 石川隆之: 骨髄異形成症候群に対する移植治療. MDSフォーラム (MDS連絡会), 神戸, 2013.6.30
4. 石川隆之: 世界CMLデー市民公開講座神戸会場Q and A CML患者会, 神戸, 2013.9.22
5. 石川隆之: 骨髄異形成症候群 血液がんより良い治療とより良い治癒. つばさフォーラムイン大阪, 大阪, 2013.11.16

6. 石橋健太, 長畑洋佑, 田端淑恵, 米谷 昇, 石川隆之:びまん性骨硬化像を呈した多発性骨髄腫の1例. 第200回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2013. 6 . 8
7. Ishiyama K, Aoki J, 青木一成, Itonaga H, 石川隆之, Miyazaki Y, Taniguchi S, Ohashi K, Fukuda T, Mori T, Mori S, Nagamura T, Atsuta Y, Sakamaki H: Chronic GVHD may improve the outcome of cord blood transplantation for patients for MDS patients. 第75回日本血液学会総会, 札幌, 2013.10.11-13
8. 伊藤卓彦, 数馬安浩, 小野祐一郎, 田端淑恵, 米谷 昇, 松下章子, 石川隆之:寛解導入療法中に脾臓出血をきたした急性骨髄性白血病の1例. 第71回兵庫県白血病懇話会, 神戸, 2013.11. 9
9. 越智陽太郎:当院におけるベンダムスチン再治療の経験. トレアキシンmeet the expert, 神戸, 2013. 9 .20
10. 越智陽太郎:移植適応骨髄腫症例におけるCyBorD療法 当院の経験. Myeloma Research Forum in Hyogo, 神戸, 2013. 9 .21
11. 越智陽太郎, 米谷 昇, 石川隆之:急性骨髄性白血病に対する寛解導入療法中に播種性Scedosporium prolificans感染症を発症した1例. 第100回近畿血液地方会, 大阪, 2013.11.30
12. 小野祐一郎:当院におけるデフェラシロックスの使用経験. 第7回神戸血液セミナー, 神戸, 2013. 4 .27
13. 小野祐一郎, 田端淑恵, 石川隆之, 佐々木翔, 今井幸弘:内分泌異常と動眼神経麻痺を伴う下垂体病変で発症したB細胞リンパ腫の一例. 第99回近畿血液地方会, 大阪, 2013. 6 .22
14. 小野祐一郎, 丸岡隼人, 数馬安浩, 長畑洋佑, 竹田淳恵, 船山由樹, 山内寛彦, 田端淑恵, 米谷昇, 松下章子, 那須浩二, 石川隆之:Utility of Quantitative RT-PCR for Acute Myeloid Leukemia with Nucleophosmin-1 Mutation. 第75回日本血液学会総会, 札幌, 2013.10.11-13
15. Ono Y, Maruoka H, Nagahata Y, Kazuma Y, Takeda J, Yamauchi N, Funayama Y, Ochi Y, Koba Y, Tabata S, Yonetani N, Matsushita A, Nasu K, Hiramoto N, Takahashi T, Hashimoto H, Ishikawa T: Decision-Making At The End Of Consolidation Of Acute Myeloid Leukemia: Negative Effect Of Minimal Residual Disease Detectable With Multiparametric Flowcytometry Combined With Gene Mutations Of FLT3 On Early Relapse. The 55th American Society of Hematology annual meeting and exposition, New Orleans, 2013.12. 7 -10
16. 小野祐一郎, 丸岡隼人, 数馬安浩, 長畑洋佑, 竹田淳恵, 船山由樹, 山内寛彦, 平本展大, 田端淑恵, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之:同種造血幹細胞移植前のフローサイトメトリー検出微小残存病変がAMLの予後に与える影響. 第36回日本造血細胞移植学会総会, 宜野湾, 2014. 3 . 7 - 9
17. 数馬安浩, 小野祐一郎, 米谷 昇, 石川隆之, 今井幸弘, 川上 学:同種造血幹細胞移植を行った最重症再生不良性貧血の一例. 第99回近畿血液地方会, 大阪, 2013. 6 .22
18. 数馬安浩, 丸岡隼人, 長畑洋佑, 竹田淳恵, 船山由樹, 山内寛彦, 小野祐一郎, 田端淑恵, 米谷 昇, 松下章子, 石川隆之:With multi-color FCM and PCR analysis of NPM-1 mutation, MRD is detectable in most of de novo AML. 第75回日本血液学会総会, 札幌, 2013.10.11-13
19. 数馬安浩, 小野祐一郎, 越智陽太郎, 木場悠介, 長畑洋佑, 竹田淳恵, 船山由樹, 山内寛彦, 平本展大, 田端淑恵, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之:急性白血病患者における6色フローサイトメトリーにより評価した同種移植1か月後の微小残存病変と再発との関連. 第36回日本造血細胞移植学会総会, 宜野湾, 2014. 3 . 7 - 9

20. Kawabata H, 石川隆之, Matsuda A, Tohyama K, Zaike Y, Hata T, Suzuki T, Araseki K, Usuki K, Chiba S, Arima N, Nohgawa M, Ozawa K, Kurokawa M, Takaori-Kondo A : Extremely poor prognosis in MDS patients with monosomy-7 or more than 3 chromosomal abnormalities. 第75回日本血液学会総会, 札幌, 2013.10.11 – 13
21. 木場悠介, 竹田淳恵, 越智陽太郎, 数馬安浩, 長畑洋佑, 船山由樹, 山内寛彦, 小野祐一郎, 平本展大, 田端淑恵, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之 : Ph陽性急性白血病に対するdasatinib併用化学療法. 第52回神戸血液病研究会, 神戸, 2014. 2 .22
22. Shibayama H, Harada H, Jang JH, Suzuki K, Tsudo M, 石川隆之, Uike N, Hidaka M, Usuki K, Shimizu S, Kim YJ, Kim H, Kizaki M, Chiba S, Nannya Y, Yonemura Y, Sawa M, Ogura H, Nakazato T, Kumagai T, Kiguchi T, Takahashi T, Irie S, Yoon SS, Shin HJ, Joo YD, Min YH, Sohn SK, Mitani K, Sawada K, Lee JH, Kim HJ : Preliminary results of a randomized dose-finding study of darbepoetin alfa in MDS in Japan and Korea. 第75回日本血液学会総会, 札幌, 2013.10.11 – 13
23. Takeda J, Aoki K, Maruyama K, Kazuma Y, Nagahata Y, Funayama Y, Yamauchi N, Ono Y, Kato A, Tabata S, Matsushita A, Hashimoto H, Shimizu N, Ishikawa T : Elevated plasma level of thrombomodulin early after allogeneic haematopoietic stem cell transplantation is associated with severe acute graft versus host disease and increased risk of non-relapse mortality. The 39th annual meeting of the European Group for Blood and Marrow Transplantation, London, 2013. 4 . 7 – 10
24. 竹田淳恵 : Azacitidine improves survival in myelodysplastic syndromes. 第2回神戸MDSフォーラム, 神戸, 2013. 7 .20
25. 竹田淳恵, 数馬安浩, 長畑洋佑, 船山由樹, 山内寛彦, 小野祐一郎, 田端淑恵, 米谷 昇, 松下章子, 石川隆之 : The impact of azacitidine on survival of high-risk MDS patients. 第75回日本血液学会総会, 札幌, 2013.10.11 – 13
26. 竹田淳恵, 越智陽太郎, 木場悠介, 数馬安浩, 長畑洋佑, 船山由樹, 山内寛彦, 小野祐一郎, 平本展大, 田端淑恵, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之 : 高リスクMDSにおける移植前化学療法の種類別での移植成績の検討. 第36回日本造血細胞移植学会総会, 宜野湾, 2014. 3 . 7 – 9
27. 田端淑恵, 丸岡隼人, 数馬安浩, 長畑洋佑, 竹田淳恵, 船山由樹, 山内寛彦, 小野祐一郎, 米谷 昇, 松下章子, 石川隆之 : Comparison of the response of Imatinib and Nilotinib for naive CML-CP patients by PCR monitoring. 第75回日本血液学会総会, 札幌, 2013.10.11 – 13
28. 田端淑恵 : BD療法中に肺塞栓、深部静脈血栓症をきたした部分寛解の移植非適応多発性骨髄腫. 第15回血液疾患を考える会, 神戸, 2013.11.21
29. 田端淑恵 : Nilotinib に不対応で少量のDasatinibで良好な経過をとっているCMLの一例. 兵庫県血液内科 女性医師の会 (椿の会), 神戸, 2014. 1 .31
30. 田端淑恵, 越智陽太郎, 木場悠介, 数馬安浩, 長畑洋佑, 竹田淳恵, 船山由樹, 山内寛彦, 小野祐一郎, 平本展大, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之 : 65歳以上の多発性骨髄腫における大量メルファランを用いた自家末梢血幹細胞移植の安全性と有効性の検討. 第36回日本造血細胞移植学会総会, 宜野湾, 2014. 3 . 7 – 9
31. 長畑洋佑 : VelcadeやHD-CYの効果が不十分でなかった若年発症骨髄腫の一例. Dr Morgan-Myeloma研究会, 神戸, 2013. 4 . 8

32. 長畑洋佑, 加藤愛子, 田端淑恵, 米谷 昇, 松下章子, 今井幸弘, 石川隆之: 化学療法中に脳転移しHAART療法のみで縮小を認めたHIV関連NK/T細胞性リンパ腫の1例. 第53回リンパ網内系学会総会, 京都, 2013. 5 .16
33. 長畑洋佑, 数馬安浩, 竹田淳恵, 船山由樹, 山内寛彦, 小野祐一郎, 田端淑恵, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之: Allo-HSCT from unrelated donor may improve the outcome of elderly AML patients in CR1. 第75回日本血液学会総会, 札幌, 2013.10.11-13
34. Nagahata Y, Ochi Y, Koba Y, Kazuma Y, Takeda J, Funayama Y, Yamauchi N, Ono Y, Hiramoto N, Tabata S, Yonetani N, Matsushita A, Hashimoto H, Ishikawa T: Allo-HSCT from Unrelated Donors Improves the Outcome of Elderly AML Patients in CR1. The 55th American Society of Hematology annual meeting and exposition, New Orleans, 2013.12. 7-10
35. 長畑洋佑: 非血縁者間骨髄移植により高齢者AMLの予後は改善する. 神戸造血細胞勉強会, 神戸, 2014. 2 .14
36. 長畑洋佑, 越智陽太郎, 木場悠介, 数馬安浩, 竹田淳恵, 船山由樹, 山内寛彦, 小野祐一郎, 平本展大, 田端淑恵, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之: リンパ腫は骨髄腫より自家末梢血幹細胞移植における生着が約1日早い. 第36回日本造血細胞移植学会総会, 宜野湾, 2014. 3 . 7-9
37. Hashimoto H, Maruyama K, Yamauchi N, Kobayashi R, Nagano S, Ishikawa T, Yoshii Y, Uoshima N, Hosoi H: Effects of humanized anti-CC chemokine receptor 4 monoclonal antibody on regulatory T cells and GVHD around hematopoietic stem cell transplantation for adult T-cell leukemia/lymphoma. The 18th congress of European Hematology Association, Stockholm, 2013. 6 .13-16
38. 藤本亜弓, 越智陽太郎, 山内寛彦, 今井幸弘, 石川隆之: T細胞性前リンパ球性白血病の1例. 第202回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2013.12.14
39. 船山由樹, 木場悠介, 越智陽太郎, 長畑洋佑, 数馬安浩, 竹田淳恵, 山内寛彦, 小野祐一郎, 田端淑恵, 米谷 昇, 松下章子, 石川隆之, 平本展大, 橋本尚子, 丸山京子, 魚嶋伸彦, 吉井由美, 細井裕樹: 同種造血幹細胞移植を施行された成人T細胞性白血病リンパ腫(ATL)における、抗CCR4抗体による制御性T細胞と移植片対宿主病(GVHD)への影響. 第8回Meet the Hematologists, 京都, 2013. 7 . 6
40. 船山由樹, 木場悠介, 越智陽太郎, 長畑洋佑, 数馬安浩, 竹田淳恵, 山内寛彦, 小野祐一郎, 田端淑恵, 米谷 昇, 松下章子, 今井幸弘, 石川隆之: 血球減少で発症したindolent B cell lymphomaの2例. 第51回神戸血液病研究会, 神戸, 2013. 9 .28
41. 松下章子: 最近のmyeloid malignancyにおける1st非血縁臍帯血移植と1st非血縁骨髄移植の比較. 第21回近畿臍帯血幹細胞移植研究会, 大阪, 2013. 5 .11
42. 松下章子: デフェラシロクス長期投与により病態の安定が得られている輸血依存症例. Iron Overload Case Study Forum 2013, 東京, 2013. 6 .29
43. 松下章子: TKI時代のCML/Ph+ALL治療最前線. 庄内CML研究会, 山形, 2013. 7 .20
44. 松下章子: 当院におけるAzacitidine (AZA) の使用経験. 第2回播但ビダーザ臨床研究会, 姫路, 2013. 9 . 5

45. 松下章子, 数馬安浩, 長畑洋佑, 竹田淳恵, 船山由樹, 山内寛彦, 小野祐一郎, 田端淑恵, 米谷 昇, 橋本尚子, 石川隆之: Comparative analysis of unrelated cord blood and bone marrow transplantation for myeloid malignancy. 第75回日本血液学会総会, 札幌, 2013.10.11-13
46. 松本一寛, 木場悠介, 米谷 昇, 石川隆之, 今井幸弘: 腸管MALTリンパ腫にEvans症候群を合併した1例. 第201回日本内科学会近畿地方会, 京都, 2013. 9 . 7
47. 山内寛彦, 永野誠治, 松下章子, 石川隆之, 今井幸弘, 橋本尚子: 移植後早期再発したATLリンパ腫型に対してmogamulizumabを使用した一例. 第99回近畿血液地方会, 大阪, 2013. 6 .22
48. 山内寛彦, 数馬安浩, 長畑洋佑, 竹田淳恵, 船山由樹, 小野祐一郎, 田端淑恵, 米谷 昇, 松下章子, 今井幸弘, 石川隆之: M-protein is associated with aggressive disease in patients with extra nodal MALT lymphoma. 第75回日本血液学会総会, 札幌, 2013.10.11-13
49. Yamauchi N, Nagahata Y, Kazuma Y, Takeda J, Funayama Y, Ono Y, Hiramoto N, Tabata S, Yonetani N, Matsushita A, Hashimoto H, Ishikawa T: M-protein is associated with aggressive disease in patients with MALT lymphoma. The 55th American Society of Hematology annual meeting and exposition, New Orleans, 2013.12. 7 - 10
50. 山内寛彦, 数馬安浩, 長畑洋佑, 竹田淳恵, 船山由樹, 小野祐一郎, 平本展大, 田端淑恵, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之: DLBCLにおけるupfront auto-PBSCTの有用性、単施設における後方視的解析. 第36回日本造血細胞移植学会総会, 宜野湾, 2014. 3 . 7 - 9
51. 吉田泰規, 船山由樹, 松下章子, 石川隆之: 骨髓異形成症候群から急性転化した急性リンパ性白血病の一例. 第99回近畿血液地方会, 大阪, 2013. 6 .22
52. 米谷 昇, 木場悠介, 越智陽太郎, 長畑洋佑, 数馬安浩, 竹田淳恵, 船山由樹, 山内寛彦, 青木一成, 加藤愛子, 永野誠治, 小野祐一郎, 平本展大, 田端淑恵, 松下章子, 永井謙一, 橋本尚子, 石川隆之: Increased survival after allogeneic hematopoietic cell transplantation. 第75回日本血液学会総会, 札幌, 2013.10.11-13

## VIII. 1. 8 腫瘍内科

1. Ioka T, Ajiki T, Toyoda M, Sakai D, Kobayashi S, Nagano H, Kanai M, Hatano E, Tsuji A, Miyamoto A, Takemura S, Ochiai T, Toyokawa H, Terajima H: A Phase I study of adjuvant chemotherapy with gemcitabine plus cisplatin (GC) in patients with biliary tract cancer (BTC) . (KHBO1004). ASCO2013, Chicago, 2013. 6 . 3
2. Ichikawa W, Hyodo I, Fujita K, Nakamura M, Tsuji A, Morita S, Ando Y, Sugiyama T, Ohashi Y, Sakata Y: Prospective analysis of UGT1A1 genotyping for predicting toxicities in advanced colorectal cancer (aCRC) treated with irinotecan (IRI) -based regimens: The development of monogram predicting severe neutropenia. ECC (ESMO) 2013, Amsterdam, 2013. 9 .29
3. Ueno H, Ioka T, Ohkawa S, Ikeda M, Shimamura T, Tsuji A, Tsuchiya Y, Okusaka T, Yoshida T, Sato Y: SLCO1B1 gene single nucleotide polymorphism is a drug response marker for pancreatic cancer patients treated with gemcitabine. ECC (ESMO) 2013, Amsterdam, 2013. 9 .29
4. 梅田節子, 辻 晃仁, 池永昌之, 森本有里, 稲角利彦, 斎藤美智子, 濱田麻美子, 李 美於: 抗がん剤治療から緩和ケアへのシームレスな移行のために 市民公開講座における患者・家族への情報提供. 日本緩和医療学会, 横浜, 2013. 6 .22

5. 浦久保安輝子, 清 秀昭, 増田昌人, 篠崎勝則, 篠田雅幸, 高田由香, 元雄良治, 北村周子, 宮内正之, 辻 晃仁, 山崎由美子, 渡邊清高: 心理特性を踏まえたがん情報入手指向性の検討 Assessing information needs of cancer patients: based on personality. 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2013.10.25
6. Emi Y, Oki E, Saeki H, Kitao H, Samura H, Takahashi T, Sawai T, Akagi Y, Tsuji A, Eguchi S, Yoshida K, Baba H, Ogata Y, Natsugoe S, Shimokawa M, Maehara Y, Kyushu Study Group of Clinical Cancer (KSCC): Analysis of KRAS/NRAS, PI3CA, and BRAF mutations in the phase II KSCC0901 study of cetuximab plus S-1 as third-line treatment for metastatic colorectal cancer in Japanese patients. 2014 Gastrointestinal Cancers Symposium, San Francisco, 2014. 1.15
7. 古武 剛, 佐竹悠良, 辻 晃仁: 腺癌におけるゲムシタピンを含む化学療法による薬剤性肺障害に関する検討. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 仙台, 2013. 8.30
8. 古武 剛, 木川雄一郎, 常磐真理子, 佐竹悠良, 藤田幹夫, 加藤大典, 辻 晃仁: 当院における進行・再発乳癌に対するエリブリンの有用性の検討 (P5-4). 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2013.10.24
9. Kochi M, Tsuji A, Sunakawa Y, Nakamura M, Denda T, Yamaguchi T, Shimada K, Tani S, Takagane A, Kotaka M, Nakayama I, Yonemura Y, Kuramochi H, Koike J, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M, Nakajima T: mFOLFOX6+セツキシマブ併用療法の多施設共同第 II 相試験 (JACCRO CC-05). 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2013.10.26
10. Komatsu Y, Yoshino T, Mizunuma N, Yamazaki K, Nishina T, Baba H, Tsuji A, Yamaguchi K, Muro K, Ohtsu A: The relevance of thymidine kinase 1 (TK1) expression to treatment efficacy of TAS-102 and prognosis in patients (pts) with metastatic colorectal cancer (mCRC). ECC (ESMO) 2013, Amsterdam, 2013. 9.29
11. 佐竹悠良: 3次治療としてのCetuximabの使用経験. 第3回大腸がん治療研究会, 神戸, 2013. 5.10
12. Satake H, Tahara M, Mochizuki S, Zenda S, Kojima T, Bando H, Yamazaki T, Kato K, Iwasa S, Honma Y, Hara H, Yokota T, Hamauchi S, Kiyota N, Kii T, Chin K, Ohtsu A: Phase I/II trial of induction chemotherapy with docetaxel, cisplatin, and fluorouracil (DCF) followed by concurrent chemoradiotherapy in locally advanced esophageal squamous cell carcinoma. (#4074). ASCO2013, Chicago, 2013. 5.31 - 6.4
13. 佐竹悠良, 古武 剛, 伊藤康弘, 北本博規, 高島健司, 小川 智, 増尾謙志, 藤田幹夫, 猪熊哲朗, 辻 晃仁: Kras遺伝子変異測定時期が切除不能進行再発大腸がん患者の初回化学療法に及ぼす影響 (P3-060). 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 仙台, 2013. 8.29-31
14. 佐竹悠良, 古武 剛, 伊藤康弘, 北本博規, 高島健司, 小川 智, 増尾謙志, 藤田幹夫, 猪熊哲朗, 辻 晃仁: The influence of Kras mutation analysis before primary chemotherapy for unresectable and recurrent colorectal cancer. The 11th Annual Meeting of Japanese Society of Medical Oncology, 仙台, 2013. 8.29
15. 佐竹悠良, 藤田幹夫, 猪熊哲朗, 辻 晃仁: 当院における胃癌のHER2発現頻度および抗がん剤治療に与える影響に関する検討 (P2-1). 日本消化器病学会近畿支部会第99回例会, 大阪, 2013. 9.28
16. Satake H, Yano T, Minashi K, Yoda Y, Kojima T, Oono Y, Ikematsu H, Aoyama I, Morita S, Miyamoto S, Hayashi R, Kaneko K, Muto M: Long-term outcomes of endoscopic resection for superficial pharyngeal squamous cell carcinoma invading the subepithelial layer. (OP-041). 2013 UEGW, Berlin, 2013.10.12-16

17. 佐竹悠良, 古武 剛, 藤田幹夫, 伊藤康弘, 井ノ口健太, 姚 思遠, 岡田和幸, 山本健人, 木下裕光, 坂本裕亮, 辻 晃仁: 3次治療セツキシマブ単独療法増悪後、イリノテカン追加により縮小効果を得た大腸癌Case report of 3rd line CPT-11/Cmab for CPT-11 refractory MCRC. 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2013.10.25
18. Satoh T, Doi T, Tsuji A, Omuro Y, Miwa H, Nishina T, Fujii H, Mukaiyama A, Kobayashi M, Ohtsu A: A Japanese subgroup analysis of the lapatinib for gastric cancer (TyTAN) study. The 11th Annual Meeting of Japanese Society of Medical Oncology, 仙台, 2013. 8 .29
19. Shimada K, Takagane A, Miyake Y, Nagata N, Sato A, Takahashi T, Matsumoto H, Tsuji A, Matsubara Y, Yoshida M: A phase II study of 3rd-line combination chemotherapy with bevacizumab plus S-1 for metastatic colorectal cancer with mutated KRAS: Additional analysis of overall survival. ECC (ESMO) 2013, Amsterdam, 2013. 9 .29
20. 高橋孝夫, 浜本康夫, 高張大亮, 辻 晃仁, 吉田元樹, 室 圭, 宮田佳典, 吉野孝之, 白尾國昭, 大津 智, 門脇重憲, 福島 拓, 平島詳典, 秦 康博: 高齢者進行再発大腸癌に対するS-1/BV併用第II相試験 (BASIC): 追加解析Updated survival results and additional analysis in the BASIC trial of BV + S-1 in elderly mCRC. 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2013.10.26
21. 辻 晃仁: がん化学療法A to Z. 宝塚市がん地域連携講演会, 宝塚, 2013. 4 . 5
22. 辻 晃仁: 大腸がんに負けないためには－これだけ知ればもう安心－つらくない大腸がん化学療法. 大腸がん市民公開講座, 神戸, 2013. 4 . 6
23. 辻 晃仁: M:i IV (Mission: Impossible – Ghost Protocol) 大腸がん化学療法の臨床試験 – Cetuximab retryの話題を含めて –. 第4回M:I meeting, 神戸, 2013. 4 . 8
24. 辻 晃仁: エキスパートに学ぶ日常診療 LE-12抗がん剤治療の基礎. 第113回日本外科学会定期学術集会, 福岡, 2013. 4 .13
25. 辻 晃仁: がん化学療法A to Z. 大腸癌EGFRセミナー, 札幌, 2013. 4 .19
26. 辻 晃仁: がん化学療法A to Z. 岡山大腸がん内科コアミーティング, 岡山, 2013. 4 .23
27. 辻 晃仁: 胃がん化学療法の新潮流. Gastrointestinal Cancers Meeting 2013 in 仙台, 仙台, 2013. 4 .26
28. 辻 晃仁: がん化学療法ワンポイントアドバイス 抗がん剤をラクに使うために. 第238回京都大学泌尿器科教室Monthly Meeting, 京都, 2013. 5 .11
29. 辻 晃仁: 胃がん化学療法の新潮流. 神戸消化器癌を学ぶ会, 神戸, 2013. 5 .16
30. 辻 晃仁: がん化学療法A to Z. 兵庫県病院薬剤師会東神戸支部総会・学術講演会, 神戸, 2013. 5 .21
31. 辻 晃仁: 胃がん化学療法の新潮流. 札幌厚生病院がん地域医療連携セミナー, 札幌, 2013. 5 .22
32. 辻 晃仁: がんの基礎知識と抗がん剤治療. 平成25年第5回がん看護専門研修, 神戸, 2013. 5 .23
33. 辻 晃仁: がん化学療法A to Z. 第3回南大阪キャンサーチームカンファレンス, 大阪, 2013. 5 .24

34. 辻 晃仁：看護師のためのがん化学療法の基礎知識. 日総研セミナー, 東京, 2013. 5 .25
35. 辻 晃仁：がん診療の真実とうそ. がん診療オープンカンファレンス, 神戸, 2013. 6 . 8
36. 辻 晃仁：看護師のためのがん化学療法の基礎知識. 日総研セミナー, 名古屋, 2013. 6 . 9
37. 辻 晃仁：がん化学療法A to Z. がん化学療法講演会, 京都, 2013. 6 .21
38. 辻 晃仁：進行再発大腸癌におけるTS-1の位置付け TS-1をやさしく使うために. 大腸癌DIF meeting, 東京, 2013. 6 .22
39. 辻 晃仁：大腸がん外来化学療法ワンポイント. Kyoto Team Oncology Work Shop 2013, 京都, 2013. 6 .29
40. Tsuji A, Nakamura M, Sunakawa Y, Kochi M, Denda T, Yamaguchi T, Shimada K, Tani S, Takagan A, Kotaka M, Nakayama I, Yonemura Y, Kuramochi H, Koike J, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M, Nakajima T : A Phase II Study of Cetuximab and mFOLFOX6 in mCRC including Prospective Early Tumor Shrinkage Analysis (JACCRO-CC05). WCGI2013, Balserona, 2013. 7 . 6
41. 辻 晃仁：がん化学療法A to Z. 第13回高知外来がん化学療法研究会, 高知, 2013. 7 .12
42. 辻 晃仁：症例検討会『専門医に学ぶ 治療選択のコツ』A) 大腸癌. よさこいがんフォーラム, 高知, 2013. 7 .13
43. 辻 晃仁：胃がん化学療法の新潮流. 神奈川県病院薬剤師会 7月薬学合同研修会, 横浜, 2013. 7 .18
44. 辻 晃仁：抗EGFR抗体療法の新潮流. Cetuximab大腸がん治療カンファレンス in Tokyo, 東京, 2013. 7 .20
45. 辻 晃仁：ASCO 2013 大腸癌のトピックス. Gastrointestinal Cancer Chemotherapy Update 2013, 東京, 2013. 7 .27
46. 辻 晃仁：看護師のためのがん化学療法の基礎知識. 日総研セミナー, 大阪, 2013. 7 .28
47. 辻 晃仁：がん化学療法A to Z. 大阪府病院薬剤師会 専門薬剤師育成委員会講習会, 大阪, 2013. 7 .29
48. 辻 晃仁：大腸癌化学療法における分子標的薬の薬剤選択. 埼玉県大腸癌治療セミナー, 埼玉, 2013. 8 . 2
49. 辻 晃仁：胃がん化学療法の新潮流－患者さんもスタッフも安心な抗がん剤治療のために－. 大阪消化器がん化学療法研究会夏期セミナー, 大阪, 2013. 8 . 3
50. 辻 晃仁：大腸癌の臨床試験. 第5回M：I ミーティング, 神戸, 2013. 8 . 5
51. 辻 晃仁：腫瘍マーカー、検査データの読み方. 日本癌治療学会データマネージャー教育集会, 東京, 2013. 8 .25
52. 辻 晃仁：一般口演2「胃がん 化学療法」座長. The 11th Annual Meeting of Japanese Society of Medical Oncology, 仙台, 2013. 8 .30
53. 辻 晃仁：患者さんもスタッフも安心な抗がん剤治療のために. ケモセラピーセミナー, 神戸, 2013. 9 . 1



54. 辻 晃仁：大腸がん化学療法A to Z. 松山大腸がん化学療法講演会, 松山, 2013. 9 . 2
55. 辻 晃仁：大腸がん化学療法A to Z. 神奈川県西部大腸がんセミナー, 神奈川, 2013. 9 . 5
56. 辻 晃仁：大腸がん化学療法ワンポイント. よこはま外科癌フォーラム, 神奈川, 2013. 9 . 7
57. 辻 晃仁：がん化学療法A to Z. ポートアイランド薬業連携の会, 神戸, 2013. 9 . 11
58. 辻 晃仁：がん化学療法の標準化と医療連携@神戸. 三島医療圏がん診療ネットワーク協議会, 大阪, 2013. 9 . 11
59. 辻 晃仁：大腸がん薬物療法の新潮流. Hiroshima Cancer Chemotherapy Symposium, 広島, 2013. 9 . 16
60. 辻 晃仁：大腸がん化学療法A to Z. 沖縄大腸がんセミナー, 沖縄, 2013. 9 . 19
61. 辻 晃仁：患者さんもスタッフも安心な抗がん剤治療のために. Chemotherapy Seminar in 岡山, 岡山, 2013. 9 . 23
62. 辻 晃仁：がん化学療法A to Z. CINVフォーラム inさいたま, 埼玉, 2013. 9 . 25
63. 辻 晃仁：当院における胃癌のHER2発現頻度および抗がん剤治療に与える影響に関する検討. 日本消化器病学会近畿支部会, 大阪, 2013. 9 . 28
64. 辻 晃仁：抗EGFR抗体薬パニツムマブ投与歴のあるKRAS遺伝子野生型の切除不能進行・再発大腸癌に対する三次治療におけるパニツムマブ再投与の第Ⅱ相試験 JACCRO CC-09概要. JACCRO CC-09試験 企画推進委員会, 東京, 2013.10. 5
65. 辻 晃仁：抗EGFR抗体薬パニツムマブ投与歴のあるKRAS遺伝子野生型の切除不能進行・再発大腸癌に対する三次治療におけるパニツムマブ再投与の第Ⅱ相試験 JACCRO CC-09 概要. JACCRO CC-09キックオフミーティング, 東京, 2013.10. 5
66. 辻 晃仁：大腸がん化学療法A to Z. 呉共済オープンカンファレンス, 広島, 2013.10.10
67. 辻 晃仁：大腸がん化学療法A to Z. 香川CRC若手医師カンファレンス, 香川, 2013.10.11
68. 辻 晃仁：大腸がん化学療法A to Z. 北九州大腸がんセミナー, 福岡, 2013.10.17
69. 辻 晃仁：mTOR阻害剤の有害事象マネジメント－治療効果を高めるために－. 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2013.10.24
70. 辻 晃仁, 砂川 優, 傳田忠道, 滝西安隆, 嶋田 顕, 小高雅人, 谷岡洋亮, 東風 貢, 竹内正弘, 市川 度, 藤井雅志, 中島聰總：S-1+オキサリプラチン+セツキシマブ併用療法の多施設共同第Ⅰ/Ⅱ相試験 (JACCRO CC-06). 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2013.10.26
71. 辻 晃仁：FOLFOXベースの治療方針. 第51回日本癌治療学会学術集会スポンサードシンポジウム7 Treating mCRC patients with biologic agents and future for personalized treatments, 京都, 2013.10.26
72. 辻 晃仁：がん化学療法A to Z. 第42回腫瘍センター勉強会化学療法カンファレンス in 和歌山, 和歌山, 2013.10.31

73. 辻 晃仁：こんなに簡単!?がん化学療法の有害事象マネジメント－患者さんにも医療者にも優しいがん治療をめざして－. 平成25年度第5回松山赤十字病院オンコロジーセミナー, 松山, 2013.11.8
74. 辻 晃仁：CVリザーバーの適応と管理. 腫瘍内科医CVポートセミナー, 大阪, 2013.11.9
75. 辻 晃仁：患者さんもスタッフも安心な抗がん剤治療のために. テルモリスクマネジメントセミナー, 東京, 2013.11.9
76. 辻 晃仁：大腸がん化学療法A to Z. 豊田がん化学療法セミナー, 愛知, 2013.11.13
77. 辻 晃仁：がん化学療法A to Z. 第37回豊橋がん診療フォーラム, 愛知, 2013.11.21
78. 辻 晃仁：大腸がん化学療法の新潮流大腸がん化学療法の新潮流－どのレジメをどのように実施するか?!－. 第1回内科医のための大腸がん治療セミナー, 岡山, 2013.11.26
79. 辻 晃仁：腫瘍内科医の立場から「抗EGFR抗体薬の新潮流」. ベクティビックス3周年記念講演会 大腸癌治療における抗EGFR抗体薬の位置づけ, 福岡, 2013.11.30
80. 辻 晃仁：がん化学療法A to Z. 大阪労災病院講演会, 大阪, 2013.12.5
81. 辻 晃仁：大腸がん化学療法の新潮流. 第6回M：Iミーティング, 神戸, 2013.12.11
82. 辻 晃仁：がん化学療法A to Z. 株式会社アイロムCRC研修会, 東京, 2013.12.17
83. 辻 晃仁：大腸がん化学療法の新潮流. 加古川大腸がんセミナー, 兵庫, 2013.12.18
84. 辻 晃仁：がん化学療法A to Z. 星ヶ丘厚生年金病院講演会, 大阪, 2013.12.19
85. Tsuji A, Sunakawa Y, Denda T, Takinishi Y, Kotaka M, Tanioka H, Shimada K, Kochi M, Watanabe M, Nakamura M, Ueda H, Inukai M, Masuishi T, Tani S, Negoro Y, Okuno T, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M, Nakajima T : A phase I/II study of cetuximab (cet) in combination with S-1 and oxaliplatin (SOX) in first-line treatment for metastatic colorectal cancer (mCRC) (JACCRO CC-06). 2014 Gastrointestinal Cancers Symposium, San Francisco, 2014. 1.15
86. 辻 晃仁：大腸がん化学療法の新潮流. 第80回大腸癌研究会, 東京, 2014. 1.24
87. 辻 晃仁：がん化学療法A to Z. 奈良がん治療研究会 2014, 奈良, 2014. 1.31
88. 辻 晃仁：患者さんにも、医療者にも優しい有害事象マネジメント－ガイドラインをどう活かすか－. 第35回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 京都, 2014. 2.1
89. 辻 晃仁：大腸がん化学療法の新潮流. 山陰労災病院院内講演会, 鳥取, 2014. 2.14
90. 辻 晃仁：胃がん化学療法の新潮流－患者さんもスタッフも安心な抗がん剤治療のために－. 第14回秋田DIF研究会, 秋田, 2014. 2.15
91. 辻 晃仁：専門医が目にするASCO GI 2014最新の話題 解説. ベクティビックス全国TV/Web講演会ASCO GI 2014消化器癌治療のトピックス, 神戸, 2014. 2.19

92. 辻 晃仁：がん化学療法A to Z. がん専門薬剤師講演会，神戸，2014. 2 .24
93. 辻 晃仁：大腸がん化学療法A to Z. 福岡大学筑紫病院がん化学療法セミナー，福岡，2014. 2 .27
94. 辻 晃仁：シンポジウム3臓器障害または併存症をもつ患者における抗がん薬の至適投与量 臓器障害または併存症をもつ患者における至適抗がん剤投与の試み. 第47回制癌剤適応研究会，愛知，2014. 3 .7
95. 辻 晃仁：大腸がん化学療法の新潮流. 第47回制癌剤適応研究会～スイーツセミナー～，愛知，2014. 3 .7
96. 辻 晃仁：大腸がん化学療法ワンポイント. 日本臨床腫瘍学会第23回教育セミナー ランチョンセミナー，横浜，2014. 3 .8
97. 辻 晃仁：大腸癌がん化学療法－変わりゆくものと変わらないもの－. 第5回富士・富士宮がん化学療法セミナー，静岡，2014. 3 .12
98. 辻 晃仁：Oxaliplatin base regimen + Cetuximab のエビデンス. Cetuximab 大腸癌治療カンファレンス2014，東京，2014. 3 .29
99. Toyoda M, Ajiki T, Fujiwara Y, Nagano H, Kobayashi S, Sakai D, Hatano E, Kanai M, Nakamori S, Miyamoto A, Tsuji A, Kaihara S, Ikoma H, Takemura S, Toyokawa H, Terajima H, Ioka T, Kansai Hepatobiliary Oncology Group (KHBO) : Phase I study of adjuvant chemotherapy with gemcitabine plus cisplatin in patients with biliary tract cancer undergoing curative resection without major hepatectomy (KHBO1004). 2014 Gastrointestinal Cancers Symposium, San Francisco, 2014. 1 .15
100. 中西真也，平島正樹，野村洋道，北田徳昭，濱田麻美子，佐藤杏子，佐竹悠良，古武 剛，辻 晃仁，橋田 亨：ホスアプレピタントによる注射部位障害の実態調査と血管痛に対する温罨法の効果. 第51回日本癌治療学会学術集会，京都，2013.10.26
101. Nakamura M, Tsuji A, Sunakawa Y, Kochi M, Denda T, Yamaguchi T, Shimada K, Tani S, Takagane A, Kotaka M, Nakayama I, Yonemura Y, Kuramochi H, Koike J, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M, Nakajima T : A Phase II Study of Cetuximab and mFOLFOX6 in Metastatic Colorectal Cancer including Prospective Early Tumor Shrinkage Analysis (JACCRO-CC05). The 11th Annual Meeting of Japanese Society of Medical Oncology, 仙台，2013. 8 .29
102. 難波亜衣子，濱田麻美子，佐藤杏子，橋本真理子，太田みか，関 文枝，谷本歌織，前川恵子，平島正樹，中西真也，藤田幹夫，佐竹悠良，古武 剛，森川奈緒美，辻 晃仁：外来化学療法センターにおける自然滴下方式コントローラー導入後の報告. 第51回日本癌治療学会学術集会，京都，2013.10.26
103. Nishikawa K, Tanabe K, Fujii M, Kunisaki C, Tsuji A, Matsubashi N, Takagane A, Ohno T, Kawase T, Kochi M, Yoshida K, Kakeji Y, Ichikawa W, Chin K, Terashima M, Takeuchi M, Nakajima T : A randomized phase III trial of second-line chemotherapy comparing CPT-11 alone versus S-1 plus CPT-11 combination therapy in advanced gastric cancer refractory to first-line therapy with S-1 (JACCRO GC-05). 2014 Gastrointestinal Cancers Symposium, San Francisco, 2014. 1 .15
104. Hamamoto Y, Takahari D, Tsuji A, Yohida M, Takahashi T, Muro K, Miyata Y, Yoshino T, Shirao K : Updated survival results and analysis according to the prognostic factor in the BASIC trial of bevacizumab and S-1 in elderly metastatic colorectal cancer patients. ECC (ESMO) 2013, Amsterdam, 2013. 9 .29

105. 藤井雅志, 田邊和照, 西川和宏, 國崎主税, 辻 晃仁, 松橋延壽, 高金明典, 大野哲郎, 川瀬朋乃, 中島聰總: シンポジウム 1 進行胃癌に対する二次治療以降の治療戦略 S1-3. 初回S-1療法に治療抵抗性を示した進行胃癌に対する二次化学療法: CPT対S-1+CPT併用の無作為比較試験. 第86回日本胃癌学会総会, 横浜, 2014. 3 .21
106. 藤田幹夫, 松本知訓, 古武 剛, 佐竹悠良, 岡田明彦, 辻 晃仁, 猪熊哲朗: 癌性心膜炎により心タンポナーデを来した進行膵癌の2症例. 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2013.10.25
107. 藤田幹夫, 小川 智, 佐竹悠良, 辻 晃仁: 消化器がん化学療法における部分的脾動脈塞栓術の有用性. 第100回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2014. 2 .20
108. Fuse N, Yoshida M, Tsuji A, Hamamoto Y, Muro K, Miyata Y, Shirao K, Yoshida K, Takahari D: Updated Survival Results of the BASIC Trial of Bevacizumab and S-2 in Elderly Patients with Metastatic Colorectal Cancer. The 11th Annual Meeting of Japanese Society of Medical Oncology, 仙台, 2013. 8 .29
109. 矢野友規, 依田雄介, 佐竹悠良, 小島隆嗣, 柳下 淳, 小田柿智之, 大野康寛, 池松弘朗, 金子和弘: 食道癌非外科的治療後の難治性良性狭窄例に対するRadical Incision and Cutting (RIC) 法の検討 (PL26-7). 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 2013. 5 .10-12
110. Yamaguchi T, Tsuji A, Sunakawa Y, Nakamura M, Kochi M, Denda T, Shimada K, Tani S, Takagane A, Kotaka M, Kuramochi H, Koike J, Furushima K, Yonemura Y, Negoro Y, Takinishi Y, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M, Nakajima T: A phase II study of cetuximab (cet) and mFOLFOX6 in metastatic colorectal cancer (mCRC) (JACCRO CC-05). 2014 Gastrointestinal Cancers Symposium, San Francisco, 2014. 1 .15
111. Yamada Y, Yoshino T, Komatsu Y, Yamazaki K, Tsuji A, Ura T, Axel Grothey, Eric Van Cutsem, Andrea Wagner, Ohtsu A: Safety and efficacy of regorafenib in Japanese patients with metastatic colorectal cancer (mCRC) : a subgroup analysis of the phase III CORRECT trial. The 11th Annual Meeting of Japanese Society of Medical Oncology, 仙台, 2013. 8 .29
112. 山田康秀, 朴 成和, 仁科智裕, 山口研成, 傳田忠道, 辻 晃仁, 浜本康夫, 高島淳生, 水澤純基, 中村健一, 大津 敦: シンポジウム 2 胃癌に対する新薬・分子標的治療の最新知見 S2-5. 切除不能進行・再発胃癌におけるVEGF. 第86回日本胃癌学会総会, 横浜, 2014. 3 .21
113. 山田康秀, 朴 成和, 仁科智裕, 山口研成, 傳田忠道, 辻 晃仁, 浜本康夫, 高島淳生, 水澤純基, 中村健一, 大津 敦: ワークショップ 9 胃癌診療におけるバイオマーカーの意義W9-1. 切除不能進行・再発胃癌におけるexcision repair cross-complementing group 1 (ERCC1) と化学療法の効果. 第86回日本胃癌学会総会, 横浜, 2014. 3 .21
114. Yoshida M, Yamada Y, Takahari D, Matsumoto H, Tsuji A, Arioka H, Shimada K, Denda T, Morita S, Takahashi K, Muro K, Shimada Y, Sugihara K: A phase III trial of SOX+Bev versus mFOLFOX6+Bev for mCRC. 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2013.10.24

## VIII. 1. 9 緩和ケア内科

1. 稲角利彦: 緩和ケア外来における薬剤師の介入とその評価. 第7回緩和医療薬学会, 幕張, 2013. 9 .15
2. 梅田節子: 抗がん剤治療から緩和ケアへのシームレスな移行のために市民公開講座における患者・家族への情報提供. 第18回日本緩和医療学会学術集会, 横浜, 2013. 6 .21-22

3. 梅田節子, 齊藤美智子, 田原華子: 急性期病院における看取りケアの現状と課題(第3報) - 若手看護師の育成と看取りケアのための環境に焦点をあてて -. 第28回日本がん看護学会学術集会, 新潟, 2014. 2. 8 - 9
4. 濱田麻美子, 梅田節子, 佐藤杏子: 外来通院中のがん患者が体験する医療者とのコミュニケーション. 第28回日本がん看護学会学術集会, 新潟, 2014. 2. 8 - 9
5. 李 美於: 当院緩和ケア内科外来開設後に地域連携によって行なわれた療養場所の選択と在宅看取りの実際. 第18回日本緩和医療学会学術集会, 横浜, 2013. 6. 22

## VIII. 1. 10 感染症科

1. 岩田健太郎, 土井朝子: 感染症専門医制度研修施設の実態調査. 第87回日本感染症学会学術講演会 第61回日本化学療法学会総会 合同学会, 横浜, 2013. 6. 5
2. 遠藤明子, 園 諭美, 亀井博紀, 官澤洋平, 志水隼人, 水野泰志, 土井朝子, 西岡弘晶: 進行胃癌を有する高齢者に発症した肺炎球菌による多発膿瘍・椎体炎の1例. 第201回日本内科学会近畿地方会, 京都, 2013. 9. 7
3. 遠藤明子, 亀井博紀, 園 諭美, 官澤洋平, 志水隼人, 水野泰志, 土井朝子, 西岡弘晶: Re-feeding症候群を契機に入院しMarchiafava Bignami病が疑われた一例. 第203回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2014. 3. 1
4. 官澤洋平, 園 諭美, 瀬尾龍太郎, 蛭名正智, 亀井博紀, 志水隼人, 土井朝子, 西岡弘晶: 「学生見学プログラム」に初期研修医が参加することの意義について. 第4回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 仙台, 2013. 5. 18
5. 官澤洋平, 園 諭美, 志水隼人, 亀井博紀, 土井朝子, 西岡弘晶: *Morganella morganii*による重症蜂窩織炎の一例. 第200回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2013. 6. 7
6. 官澤洋平, 水野泰志, 遠藤明子, 志水隼人, 亀井博紀, 園 諭美, 土井朝子, 西岡弘晶: 多発脳出血を合併したリステリア髄膜炎の一例. 第202回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2013. 12. 14
7. 官澤洋平, 亀井博紀, 園 諭美, 遠藤明子, 志水隼人, 水野泰志, 土井朝子, 西岡弘晶: 総合診療科が中心となり各科と連携し救命できた透析患者の一例. 第8回日本病院総合診療医学会学術総会, 大阪, 2014. 2. 22
8. 官澤洋平, 園 諭美: 急性大動脈解離術後MRSA人工血管感染. 第5回薬剤師と臨床検査技師のための抗菌薬治療研究会, 神戸, 2014. 3. 6
9. 上月友寛, 亀井博紀, 園 諭美, 土井朝子, 西岡弘晶: 敗血症・DICで受診したCapnocytophaga canimorsus菌血症の一例. 第200回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2013. 6. 7
10. 小曳恵里子, 安藤基純, 北田徳昭, 中浴伸二, 柏木裕子, 山本健児, 西岡弘晶, 橋田 亨: グプトマイシンの血中濃度モニタリングと安全性に関する検討. 第30回日本TDM学会・学術大会, 熊本, 2013. 5. 25
11. 志水隼人, 亀井博紀, 園 諭美, 土井朝子, 大竹紀子, 西岡弘晶: 妊娠中に四肢の疼痛で発症したrestless legs syndromeの1例. 第200回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2013. 6. 7
12. 園 真廉, 林 卓郎, 園 諭美, 西岡弘晶, 有吉孝一: 地域住民の救急外来への受診動向: 神戸市の基幹病院における疫学的研究. 第4回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 仙台, 2013. 5. 19

13. 園 諭美, 亀井博紀, 志水隼人, 西岡弘晶: 救急部が独立して存在する大病院での総合診療科の役割. 第7回日本病院総合診療医学会学術総会, 広島, 2013. 8 .31
14. 園 諭美, 遠藤明子, 亀井博紀, 官澤洋平, 志水隼人, 土井朝子, 水野泰志, 西岡弘晶: 縦割り診療の総合病院において、横をつなぐ総合診療科. 第8回日本病院総合診療医学会学術総会, 大阪, 2014. 2 .22
15. 土井朝子, 岩田健太郎, 竹川啓史, 三木寛二, 千葉菜穂子, 生方公子, 園 諭美, 西岡弘晶, 富井啓介, 春田恒和: カルバペネム耐性肺炎球菌による肺炎の一例、治療と予防の再検討. 第87回日本感染症学会学術講演会 第61回日本化学療法学会総会 合同学会, 横浜, 2013. 6 .5
16. 土井朝子, 岩田健太郎, 園 諭美, 西岡弘晶, 春田恒和: 肺動脈弁の感染性心内膜炎、症例報告と文献的考察. 第87回日本感染症学会学術講演会 第61回日本化学療法学会総会 合同学会, 横浜, 2013. 6 .5
17. 土井朝子: Staphylococcus aureusによるIEの治療overview. Fleekic, 神戸, 2013. 6 .15
18. 土井朝子: 性感染症とHIV/AIDSの話. 西宮市保健所性感染症教育, 西宮, 2013. 7 .17
19. 土井朝子: HIV/AIDSの治療の現状. 神戸市予防衛生課AIDS教室, 神戸, 2013. 7 .21
20. 土井朝子: 肺炎球菌ワクチンと肺炎球菌感染症. 兵庫呼吸器疾患研究会, 神戸, 2014. 2 .13
21. 西岡弘晶: これは救急? ~病歴とバイタルサインから考える~. 東灘区医師会学術講演会, 神戸, 2013. 5 .31
22. 西岡弘晶, 園 諭美: 腎嚢胞感染の治療後に化膿性脊椎炎で再発した1例 -腎嚢胞感染の治療法と効果判定法の考察-. 第87回日本感染症学会学術講演会 第61回日本化学療法学会総会 合同学会, 横浜, 2013. 6 .5
23. 西岡弘晶: 総合診療医による発熱患者へのアプローチ. 明石市医師会内科医会 学術講演会, 明石, 2013. 6 .8
24. 西岡弘晶: 臨床研修報告. 臨床研修協力施設と研修病院の交流会 (神戸市医師会), 神戸, 2013. 8 .1
25. 西岡弘晶: 高齢者の理解と認知症患者への対応「高齢者医療の現状と課題」. 日本看護協会 衛星通信研修, 神戸, 2013. 8 .8
26. 西岡弘晶: 腹腔内感染症. Medical Symposium in 神戸<重症感染症の治療戦略>, 神戸, 2013. 8 .24
27. 西岡弘晶: 内科診療の基礎~病歴とバイタルサインでどこまでわかる~. 2nd Active Pharmacist Seminar in HYOGO, 神戸, 2013. 9 .18
28. 西岡弘晶: 骨粗鬆症診療のエビデンスとEBM. 武田薬品社内勉強会, 神戸, 2013. 9 .27
29. 西岡弘晶, 梅村聡美: 高齢者の簡易栄養スクリーニング法の検討. 第35回日本臨床栄養学会, 京都, 2013.10. 4
30. 西岡弘晶, 亀井博紀: 当院におけるカテーテル関連血流感染症の検討. 第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 横浜, 2014. 2 .28
31. 西岡弘晶: 研修医に身につけてほしい尋ね方、伝え方のスキル~あなたの話は伝わっていますか~. 第3回研修医のためのセミナー (兵庫県医師会), 神戸, 2014. 3 .1

32. 藤本大智, 竹川啓史, 三木寛二, 仁木真理恵, 玉井浩二, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 土井朝子, 富井啓介: 本邦において使用可能な嫌気性菌用輸送容器の保菌能比較. 第87回日本感染症学会学術講演会 第61回日本化学療法学会総会 合同学会, 横浜, 2013. 6 . 5
33. 吉崎亜衣沙, 園 諭美, 亀井博紀, 志水隼人, 西岡弘晶: アセタゾラミド内服による低カリウム血症のため筋力低下をきたした1例. 第200回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2013. 6 . 7

#### VIII. 1. 11 精神・神経科

1. 川村修司, 松石邦隆, 福武将映, 新光 穰, 井上和音, 高橋年道, 池上和孝, 大音三枝子, 北村 登: 急性期総合病院における精神科リエゾンチームの活動. 第26回日本総合病院精神医学会総会, 京都, 2013.11.29-30
2. 福武将映, 毛利健太朗, 西口直希, 北村 登, 白川 治: 気分障害における自殺傾性と関連する心理学的特性. 第109回日本精神神経学会学術総会, 福岡, 2013. 5 .23-25
3. 福武将映, 伊藤聡子, 松石邦隆, 新光 穰, 井上和音, 北村 登: 当院でのせん妄治療におけるせん妄発症の危険因子の同定. 第26回日本総合病院精神医学会総会, 京都, 2013.11.29-30

#### VIII. 1. 12 小児科

1. 岡藤郁夫: 適切なスキンケアでアトピーマーチを封鎖する. 第1回神戸小児アレルギーケア講習会, 神戸, 2013. 5 .18
2. 岡藤郁夫, 田中裕也, 榎林成之, 鶴田 悟: 学校におけるアレルギー疾患対応マニュアル(兵庫県教育委員会)作成とその活用について. 臨床アレルギー研究会, 大阪, 2013. 7 . 6
3. 岡藤郁夫: 小児気管支喘息治療管理ガイドライン2012をどのようにして喘息指導に役立てるか. 第2回神戸小児アレルギーケア講習会, 神戸, 2013. 8 .17
4. 岡藤郁夫, 山口英貴, 武岡恵美子, 田中裕也, 松本麻里花, 榎林成之, 上村克徳, 川崎浩三, 山川 勝, 島田誠一, 春田恒和, 鶴田 悟: 学校におけるアレルギー疾患対応マニュアル(兵庫県教育委員会)作成とその活用について. 兵庫県地方会, 姫路, 2013. 9 .28
5. 岡藤郁夫, 田中裕也, 榎林成之, 鶴田 悟: 兵庫県内各市町組合教育委員会での食物アレルギー対応の現状. 日本アレルギー学会, 東京, 2013.11.28
6. 岡藤郁夫, 田中裕也, 榎林成之, 鶴田 悟: 学校におけるアレルギー疾患対応マニュアル(兵庫県教育委員会)作成とその活用について. 食物アレルギー研究会, 東京, 2014. 1 .26
7. 岡藤郁夫, 田中裕也, 榎林成之, 鶴田 悟: 学校におけるアレルギー疾患対応マニュアル(兵庫県教育委員会)作成とその活用について. 近畿小児科学会, 奈良, 2014. 3 . 9
8. 武岡恵美子: 髄膜炎について. 第166回中央区小児科医会症例検討会, 神戸, 2013. 9 . 4
9. 武岡恵美子, 山口英貴, 田中裕也, 松本麻里花, 榎林成之, 岡藤郁夫, 上村克徳, 川崎浩三, 山川 勝, 島田誠一, 春田恒和, 鶴田 悟: Varicella Zoster Virus (VZV) 再活性化による髄膜炎の1例. 兵庫県地方会, 姫路, 2013. 9 .28

10. 田中裕也, 岡藤郁夫, 長井勇樹, 田中麻希子, 宇都宮剛, 上村克徳, 山川 勝, 春田恒和, 鶴田 悟: 急性期病院での吸入抗原特異的アレルギー免疫療法の試み. 第116回日本小児科学会学術集会, 広島, 2013. 4. 19
11. 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟: 環境アレルギー急速免疫療法によりアドヒアランスが改善した13歳女児症例. 兵庫県臨床アレルギー研究会, 兵庫, 2013. 6. 1
12. 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟: 環境アレルギー急速免疫療法によりアドヒアランスが改善した13歳女児症例. 第30回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会, 筑波, 2013. 6. 8
13. 田中裕也, 橋本成之, 岡藤郁夫, 鶴田 悟: 環境アレルギー皮下免疫療法が著効した症例を通して小児科領域での免疫療法の適応を考える. 兵庫小児喘息・アレルギーカンファレンス, 兵庫, 2013. 9. 7
14. 田中裕也, 橋本成之, 岡藤郁夫, 鶴田 悟: 当院小児科での環境アレルギー急速免疫療法の実験. アレルギーQ&A研究会, 岐阜, 2014. 1. 18
15. 鶴田 悟: インフルエンザの予防と治療 up to date. インフルエンザフォーラム 2013 in Ashiya, 芦屋, 2013.12. 5
16. 鶴田 悟: アレルギーは予防できるか? 衛生仮説その後. 神戸市小児科医会学術講演会, 神戸, 2013.12.14
17. 山口英貴, 瓦野昌大, 田中裕也, 橋本成之, 岡藤郁夫, 上村克徳, 川崎浩三, 山川 勝, 島田誠一, 春田恒和, 鶴田 悟: カテーテルアブレーションが成功した小児心房細動の一例. 兵庫県地方会, 兵庫, 2014. 2. 15

#### VIII. 1. 13 新生児科

1. 島田誠一: NICUの現状と課題. 第165回中央区小児科医会症例検討会, 神戸, 2013. 7. 10
2. 田中裕也, 島田誠一, 山川 勝: 新生児期より腎血管性高血圧にて血圧コントロールに難渋した1例. 第261回日本小児科学会兵庫県地方会, 兵庫, 2014. 2. 15
3. 山川 勝: 遺伝子変異が同定された先天性QT延長症候群43例のコホート研究. 第116回日本小児科学会学術集会, 広島, 2013. 4. 20
4. 山川 勝: 遺伝子解析に基づく遺伝性致死的不整脈管理. 第259回日本小児科学会兵庫県地方会, 神戸, 2013. 5. 25

#### VIII. 1. 14 皮膚科

1. 大森麻美子, 小谷晋平, 上野充彦, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹: 抗PL-7抗体陽性皮膚筋炎の1例. 第106回日本皮膚科学会近畿皮膚科集談会, 大阪, 2013. 7. 21
2. 大森麻美子, 小谷晋平, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹, 木下 慎, 藤田靖之, 川本篤彦: 慢性重症下肢虚血に対する血管再生治療. 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 名古屋, 2013.11. 4
3. 大森麻美子: クラゲ経口摂取による1型アレルギーの1例. 第8回神戸市立中央市民病院皮膚科懇話会, 神戸, 2013.11.28
4. 大森麻美子, 小谷晋平, 上野充彦, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹, 松添晴加, 間藤尚美, 月江富男: 出血を主訴に来院した巨大鼻瘤の1例. 第440回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2013.12. 7



5. 小坂博志, 小谷晋平, 大森麻美子, 小川真希子, 長野 徹, 小坂恭弘, 小久保雅樹, 諏訪達也, 伊藤 仁, 平岡眞寛: 放射線単独療法で加療したメルケル細胞癌の2例. 第442回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2014. 3. 29
6. 小谷晋平, 大森麻美子, 上野充彦, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹, 竹川啓史: 小児の頬部に生じた *Microsporum gypsum* による顔面白癬の1例. 第437回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2013. 5. 18
7. 小谷晋平, 大森麻美子, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹, 松岡崇志, 川喜田睦司: 尿管管遺残症の1例. 第439回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2013. 10. 12
8. 小谷晋平, 大森麻美子, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹, 木場悠介, 石川隆之: 小腸MALTリンパ腫の患者に生じた水痘再罹患の1例. 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 名古屋, 2013. 11. 3
9. 小谷晋平: *Vibrio vulnificus* の経口感染による壊死性筋膜炎の1例. 第8回神戸市立中央市民病院皮膚科懇話会, 神戸, 2013. 11. 28
10. 長野 徹: どうする? 分子標的薬の皮膚障害. 第5回M:Iミーティング, 神戸, 2013. 8. 5
11. 長野 徹, 小谷晋平, 大森麻美子, 上野充彦, 小坂博志, 小川真希子, 常盤麻里子, 木川雄一郎, 加藤大典: 緩和放射線治療とモーズ軟膏併用により局所コントロールを得た乳癌皮膚浸潤の2例. 第29回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 甲府, 2013. 8. 9
12. 長野 徹: 1. 白癬症 2. 薬疹. 平成25年度日本女性薬剤師会講演会, 神戸, 2013. 10. 6
13. 長野 徹: Quality Indicator講演 悪性黒色腫 (stage I, II) 治療のQuality Indicator – センチネルリンパ節生検を中心に –. 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 名古屋, 2013. 11. 3
14. 長野 徹: どうする? 分子標的薬の皮膚症状. 第3回湖北大腸がん治療セミナー, 長浜, 2014. 2. 1
15. 長野 徹: ナガノミクス2本目の矢 – 困った症例、意表を突かれた症例提示! 平成25年度地域連携カンファレンス, 神戸, 2014. 3. 13

## VIII. 1. 15 外科・移植外科

1. 井ノ口健太, 貝原 聡, 山本健人, 岡田和幸, 姚 思遠, 光岡英世, 三木 明, 八木真太郎, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 小林裕之, 細谷 亮: 大腸癌肝転移切除術における切除断端と術後再発に関する検討. 第113回日本外科学会定期学術集会, 福岡, 2013. 4. 12
2. 井ノ口健太, 貝原 聡, 姚 思遠, 八木真太郎, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 細谷 亮: 胆管原発の神経内分泌腫瘍の1切除例. 第31回肝胆膵外科学会, 宇都宮, 2013. 6. 12-14
3. 井ノ口健太, 小林裕之, 山本健人, 岡田和幸, 姚 思遠, 光岡英世, 貝原 聡, 細谷 亮: 高齢者の胃癌・大腸癌手術に対するリスク評価. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7. 17
4. 井ノ口健太, 八木真太郎, 岡田和幸, 山本健人, 姚 思遠, 光岡英世, 三木 明, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 膵癌術後胃転移の一例. 第44回日本膵臓学会, 仙台, 2013. 7. 26
5. Inoguchi K, Shintaro Yagi, Ryo Hosotani: A case of solitary metastatic gastric cancer from pancreatic cancer after distal pancreatectomy. IAP 2013, Seoul, 2013. 9. 5

6. 井ノ口健太, 小林裕之, 水 大介, 渥美生弘: 下脘十二指腸動脈瘤破裂による後腹膜巨大血腫で判明した腹腔動脈圧迫症候群の1例. 第41回日本救急医学会, 東京, 2013.10.22
7. 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 山本健人, 岡田和幸, 姚 思遠, 井ノ口健太, 光岡英世, 三木 明, 八木真太郎, 橋田裕毅, 小林裕之, 細谷 亮: 当院における生体肝移植後胆管吻合部狭窄の状況について. 第113回日本外科学会定期学術集会, 福岡, 2013. 4 .13
8. 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 光岡英世, 三木 明, 八木真太郎, 橋田裕毅, 小林裕之, 細谷 亮: 当院における成人間血液型不適合生体肝移植の成績. 第31回日本肝移植研究会, 熊本, 2013. 7 . 4
9. 瓜生原健嗣, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 光岡英世, 三木 明, 八木真太郎, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院におけるT2胆嚢癌に対する標準術式の検討. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7 .18
10. 岡田和幸, 貝原 聡, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 光岡英世, 三木 明, 八木真太郎, 瓜生原健嗣, 細谷 亮: 99mTc-GSA-SPECTとKICGを用いた術前関与尾嚢評価法とその有用性の検討. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7 .17
11. 岡田和幸, 瓜生原健嗣, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 光岡英世, 三木 明, 八木真太郎, 貝原 聡, 細谷 亮: 急速に進行した退形成性膵癌の一例. 第44回日本膵臓学会, 仙台, 2013. 7 .26
12. 岡田和幸, 八木真太郎, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 光岡英世, 三木 明, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮: CA19-9上昇で発見された異所性膵癌の1切除例. 第11回日本消化器外科学会大会, 東京, 2013.10.11
13. Okada K, Hiroyuki Kobayashi, Takehito Yamamoto, Kenta Inoguchi, Siyuan Yao, Satoshi Kaihara: Laparoscopic appendectomy for appendicitis in a 30-weeks pregnant patient. ELSA 2013, Taipei, 2013.11.23
14. Okada K, Kaihara S, Yamamoto T, Kinoshita H, Sakamoto Y, Yao S, Inoguchi K, Miki A, Kondo M, Yagi S, Uryuhara K, Kobayashi H, Hashida H, Hosotani R: Preoperative assessment of remnant liver function following hepatectomy by hepatobiliary scintigraphy and indocyanine green clearance. AHPBA 2014, Miami, 2014. 2 .21
15. 貝原 聡, 八木真太郎, 橋田裕毅, 細谷 亮: モノポーラ電極による前凝固と超音波外科吸引装置 (CUSA) を用いた腹腔鏡下肝切除術. 第31回肝胆膵外科学会, 宇都宮, 2013. 6 .12-14
16. 貝原 聡, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 光岡英世, 三木 明, 八木真太郎, 瓜生原健嗣, 細谷 亮: Monopolar電極によるラジオ波前凝固と超音波外科吸引装置による肝実質切離の有用性の検討. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7 .18
17. 貝原 聡, 木下裕光, 阪本裕亮, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 三木 明, 近藤正人, 八木真太郎, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 小林裕之, 細谷 亮: モノポーラ電極による前凝固を用いた助手補助腹腔鏡下手術. 第26回日本内視鏡外科学会, 福岡, 2013.11.29
18. Kaihara S, Okada K, Inoguchi K, Yo S, Yamamoto T, Yagi S, Uryuhara K, Hosotani R: Impact of neoadjuvant chemotherapy on parenchymal sparing in hepatectomy for colorectal liver metastasis. AHPBA 2014, Miami, 2014. 2 .21

19. 木下裕光, 三木 明, 阪本裕亮, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 近藤正人, 八木真太郎, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮: 左三角間膜内に発生した肝外発育型肝細胞癌の一例. 第75回臨床外科学会, 名古屋, 2013.11.22
20. Kobayashi H, Masato Kondo, Siyuan Yao, Akira Miki, Satoshi Kaihara, Ryo Hosotani : The Number of The Metastatic Lymphnodes is Independent Predictor of Early Recurrent Esophageal Cancer. ESSR2013, Istanbul, 2013. 5 .29-6.1
21. 小林裕之, 近藤正人, 光岡英世, 井ノ口健太, 姚 思遠, 岡田和幸, 山本健人, 三木 明, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院で行っている頸部食道胃管吻合 (Collard変法). 第67回日本食道学会, 大阪, 2013. 6 .13-14
22. 小林裕之, 近藤正人, 三木 明, 光岡英世, 井ノ口健太, 姚 思遠, 岡田和幸, 山本健人, 貝原 聡, 細谷 亮: 食道吊り上げ法Hanging Maneuverによる食道癌左上縦隔郭清手技. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7 .17
23. Kobayashi H, Masato Kondo, Kenta Inoguchi, Siyuan Yao, Kazuyuki Okada, Takehito Yamamoto, Hiromitsu Kinoshita, Yusuke Sakamoto, Kenji Uryuhara, Shintaro Yagi, Hiroki Hashida, Akira Miki, Ryo Hosotani, Satoshi Kaihara : Lymphadenectomy in Esophageal cancer. ELSA 2013, Taipei, 2013.11.22
24. 近藤正人, 浅生義人, 吉村玄浩: 当院における腹腔鏡補助下胃切除術の成績. 第113回日本外科学会定期学術集会, 福岡, 2013. 4 .13
25. 近藤正人, 三木 明, 木下裕光, 阪本裕亮, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 八木真太郎, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮: 胃粘膜下腫瘍に対するLECSの経験. 第43回胃外科術後障害研究会, 新潟, 2013.11. 2
26. Kondo M, Akira Miki, Yusuke Sakamoto, Hiromitsu Kinoshita, Kazuyuki Okada, Takehito Yamamoto, Kenta Inoguchi, Siyuan Yao, Shintaro Yagi, Kenji Uryuhara, Hiroki Hashida, Hiroyuki Kobayashi, Satoshi Kaihara, Ryo Hosotani : Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery for Gastric Submucosal Tumors. ELSA 2013, Taipei, 2013.11.22
27. 近藤正人, 橋田裕毅, 木下裕光, 阪本裕亮, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 三木 明, 八木真太郎, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 内側アプローチからの中結腸動静脈挟みうちによるD3郭清. 第26回日本内視鏡外科学会, 福岡, 2013.11.30
28. 近藤正人, 阪本裕亮, 木下裕光, 山本健人, 岡田和幸, 姚 思遠, 井ノ口健太, 三木 明, 八木真太郎, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 早期胃癌内視鏡治療後の追加切除症例の検討. 第86回日本胃癌学会, 横浜, 2014. 3 .20
29. 阪本裕亮, 橋田裕毅, 木下裕光, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 三木 明, 八木真太郎, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮: 外傷性Spigelianヘルニアの一例. 第193回近畿外科学会, 京都, 2013. 6 .22
30. 阪本裕亮, 三木 明, 木下裕光, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 近藤正人, 八木真太郎, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮: 下大静脈フィルターによる下大静脈-十二指腸瘻孔の一例. 第75回臨床外科学会, 名古屋, 2013.11.22

31. 瀧井康公, 尾嶋 仁, 橋田裕毅, 日比健志, 佐々木一晃, 横山 正, 中村将人, 宗本義則, 渡邊昌也, 杉原健一: Stage III結腸癌術後補助化学療法としてのUFT/LV療法とS-1療法の第III相臨床試験: ACTS-CC trial. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 仙台, 2013. 8 .29
32. 橋田裕毅: Stage IV大腸癌治療に対する初回治療でのBevacizumab+XELOX療法の使用経験. 第3回大腸癌治療ガイドライン講座, 神戸, 2013. 4 .19
33. 橋田裕毅, 光岡英世, 姚 思遠, 井ノ口健太, 山本健人, 岡田和幸, 三木 明, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 完全直腸脱に対する腹腔鏡下直腸後方固定術の術式の工夫と成績. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7 .19
34. 橋田裕毅, 阪本裕亮, 木下裕光, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 三木 明, 八木真太郎, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院における腹腔鏡下左側結腸切除術. 第21回兵庫大腸癌治療研究会, 神戸, 2013.11. 1
35. 橋田裕毅, 木下裕光, 阪本裕亮, 岡田和幸, 山本健人, 三木 明, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: クロウン病手術例におけるインフリキシマブの有用性の検討. 第68回大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2013.11.15
36. Hashida H, Masato Kondo, Kenta Inoguchi, Siyuan Yao, Kazuyuki Okada, Takehito Yamamoto, Hiromitsu Kinoshita, Yusuke Sakamoto, Kenji Uryuhara, Shintaro Yagi, Hiroki Hashida, Akira Miki, Ryo Hosotani, Satoshi Kaihara: Laparoscopic Rectopexy for Rectal Prolapse in Consideration of Pelvic Organ Function. ELSA 2013, Taipei, 2013.11.22
37. Miki A, Yao Siyuan, Kazuyuki Okada, Takehito Yamamoto, Kenta Inoguchi, Eisei Mitsuoka, Hiroyuki Kobayashi, Satoshi Kaihara, Ryo Hosotani: Efficacy of Preoperative Oral Care for Gastric surgery. ESSR2013, Istanbul, 2013. 5 .29- 6 . 1
38. 三木 明, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 光岡英世, 小林裕之, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮: 腹腔鏡下胃切除における6番郭清の変遷. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7 .17
39. 三木 明, 阪本裕亮, 木下裕光, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 八木真太郎, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮: 13番リンパ節廓清～私はこうしている～. 第10回兵庫胃がん治療研究会, 神戸, 2013.10.19
40. 三木 明, 木下裕光, 阪本裕亮, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 近藤正人, 八木真太郎, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮: 胃癌患者に対する術前口腔ケアの効果. 第43回胃外科術後障害研究会, 新潟, 2013.11. 2
41. 三木 明, 木下裕光, 阪本裕亮, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 近藤正人, 八木真太郎, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院における腹腔鏡下胃切除における抗凝固療法の現状. 第26回日本内視鏡外科学会, 福岡, 2013.11.28
42. 三木 明, 木下裕光, 阪本裕亮, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 近藤正人, 八木真太郎, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院におけるLAPPGの成績. 第86回日本胃癌学会, 横浜, 2014. 3 .20
43. 三木 明: 当院におけるGIST治療のストラテジー. 第8回神戸GISTセミナー, 神戸, 2014. 7 .25

44. 光岡英世, 橋田裕毅, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 三木 明, 八木真太郎, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院に於ける大腸内分泌細胞性腫瘍の手術症例の治療成績. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7 .17
45. 八木真太郎, 海道利実, 小倉靖弘, 飯田 拓, 堀 智英, 吉澤 淳, 小川晃平, 藤本康弘, 波多野悦朗, 森 章, 上本伸二: 肝移植手術における門脈圧制御－門脈下大静脈圧較差の意義. 第113回日本外科学会定期学術集会, 福岡, 2013. 4 .13
46. 八木真太郎, 貝原 聡, 瓜生原健嗣, 井ノ口健太, 姚 思遠, 橋田裕毅, 細谷 亮: 肝細胞癌に対する系統的切除の検討. 第31回肝胆膵外科学会, 宇都宮, 2013. 6 .12-14
47. 八木真太郎, 貝原 聡, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 三木 明, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 松岡亮介, 今井幸弘, 細谷 亮: 肝芽腫様の病理組織像を呈した肝細胞癌の1例. 第49回肝癌研究会, 東京, 2013. 7 .12
48. Yagi S, Kenta Inoguchi, Yusuke Sakamoto, Hiromitsu Kinoshita, Takehito Yamamoto, Kazuyuki Okada, Siyuan Yao, Akira Miki, Masato Kondo, Hiroki Hashida, Kenji Uryuhara, Hiroyuki Kobayashi, Satoshi Kaihara, Ryo Hosotani : Pancreatic Metastasis from Renal Cell Carcinoma; a review of 14 cases. IAP 2013, Seoul, 2013. 9 . 5
49. 八木真太郎, 阪本裕亮, 木下裕光, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 光岡英世, 三木 明, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮: 化学療法にて切除し得た大腸癌肝転移の一例. 第4回進行消化器癌問題解決フォーラム, 神戸, 2013. 9 .27
50. 八木真太郎, 阪本裕亮, 木下裕光, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 光岡英世, 三木 明, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮: 巨大肝細胞癌に対する前方アプローチによる拡大肝左葉切除. 第2回京都肝胆膵外科カンファレンス, 京都, 2013.10. 5
51. Yagi S, Satoshi Kaihara, Kenji Uryuhara, Takehito Yamamoto, Kazuyuki Okada, Siyen Yao, Kenta Inoguchi, Ryo Hosotani : Anatomic vs Non-anatomic Resection for Hepatocellular Carcinoma. ACS 2013, Washington DC, 2013.10. 8
52. 山本健人, 小林裕之, 木下裕光, 阪本裕亮, 岡田和幸, 井ノ口健太, 姚 思遠, 三木 明, 八木真太郎, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 山下大祐, 今井幸弘, 貝原 聡, 細谷 亮: 脾破裂で発症した脾原発血管肉腫の一例. 第193回近畿外科学会, 京都, 2013. 6 .22
53. 山本健人, 八木真太郎, 木下裕光, 阪本裕亮, 岡田和幸, 井ノ口健太, 姚 思遠, 三木 明, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 膵癌術後長期生存の解析. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7 .18
54. 山本健人, 八木真太郎, 木下裕光, 阪本裕亮, 岡田和幸, 井ノ口健太, 姚 思遠, 三木 明, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮: 膵癌長期生存例の検討～膵癌切除症例195例の解析～. 第2回京都肝胆膵外科カンファレンス, 京都, 2013.10. 5
55. 山本健人, 八木真太郎, 木下裕光, 阪本裕亮, 岡田和幸, 井ノ口健太, 姚 思遠, 三木 明, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: IVC原発血管肉腫長期生存の一例. 第11回日本消化器外科学会大会, 東京, 2013.10.11

56. Yamamoto T, Satoshi Kaihara, Hiromitsu Kinoshita, Yusuke Sakamoto, Kazuyuki Okada, Siyuan Yao, Kenta Inoguchi, Akira Miki, Masato Kondo, Shintaro Yagi, Kenji Uryuhara, Hiroyuki Kobayashi, Hiroki Hashida, Ryo Hosotani : Evaluation of hand assisted laparoscopic hepatectomy : Experience in 7 cases. ELSA 2013, Taipei, 2013.11.22
57. 山本健人, 三木 明, 木下裕光, 阪本裕亮, 岡田和幸, 井ノ口健太, 姚 思遠, 近藤正人, 八木真太郎, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮 : LADGの短期成績. 第26回日本内視鏡外科学会, 福岡, 2013.11.28
58. Yamamoto T, Yagi S, Kinoshita H, Sakamoto Y, Okada K, Yao S, Inoguchi K, Miki A, Kondo M, Uryuhara K, Kobayashi H, Hashida H, Kaihara S, Hosotani R : Long term survival after resection of pancreatic cancer; Experience in 195 cases. AHPBA 2014, Miami, 2014. 2 .21
59. Yao Siyuan, Shintaro Yagi, Kenji Uryuhara, Satoshi Kaihara, Ryo Hosotani : Standard Technique of Staple Closure in Distal Pancreatectomy. ESSR2013, Istanbul, 2013. 5 .29-6.1
60. 姚 思遠, 八木真太郎, 井ノ口健太, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮 : 当院における膈体尾部切除術の工夫. 第31回肝胆膵外科学会, 宇都宮, 2013. 6 .12-14
61. 姚 思遠, 小林裕之, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 近藤正人, 八木真太郎, 三木 明, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮 : 食道癌治療中に食道偏位が観察された2例の検討. 第193回近畿外科学会, 京都, 2013. 6 .22
62. 姚 思遠, 小林裕之, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 光岡英世, 三木 明, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮 : 妊婦急性虫垂炎に対する腹腔鏡下虫垂切除術5例の検討. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7 .17
63. 姚 思遠, 三木 明, 北村廣子, 竹内志津枝, 東 美優, 福永佳美, 大川亜弥, 新改法子, 阪本裕亮, 木下裕光, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 貝原 聡, 細谷 亮 : SSI減少を目的とした当科におけるサーベイランスチームの取り組み. 第26回日本外科感染症学会, 神戸, 2013.11.25-26
64. 姚 思遠, 近藤正人, 木下裕光, 阪本裕亮, 井ノ口健太, 岡田和幸, 山本健人, 八木真太郎, 三木 明, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮 : 急性期病院における腹腔鏡下虫垂切除の適応と現状. 第26回日本内視鏡外科学会, 福岡, 2013.11.28
65. 姚 思遠, 八木真太郎, 木下裕光, 阪本裕亮, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 近藤正人, 三木 明, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮 : 膈体尾部切除における断端処理法の変遷とその成績. 平成25年度京都大学外科冬期研究会, 京都, 2013.12. 7

## VIII. 1. 16 乳腺外科

1. 岡本明子, 下山京子, 木川雄一郎, 加藤大典 : 食道転移、下腿及び腰背部皮下転移を有する両側乳癌の1例. 第11回日本乳癌学会近畿地方会, 大阪, 2013.11.30
2. 加藤大典, 木川雄一郎 : 今後の妊娠を希望している初発乳癌患者に対する対応. 第7回上方乳がん研究会, 大阪, 2013. 6 .15
3. 加藤大典, 木川雄一郎 : 術前アロマターゼ阻害剤投与の前後にOncotype DX検査を実施した一例. 第21回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013. 6 .27

4. 加藤大典, 岡本明子, 下山京子, 常盤麻里子, 木川雄一郎: 術後療法の選択に苦慮したN1 low riskと思われる3例. 第66回京滋乳癌研究会, 京都, 2013. 9. 14
5. 加藤大典, 木川雄一郎: 腫瘍肺塞栓が疑われ, Circulating Tumor Cells陽性であった右進行乳癌の一例. 第10回京都乳腺症例TVカンファレンス, 京都, 2014. 3. 8
6. 加藤大典, 岡本明子, 下山京子, 木川雄一郎, 正井良和, 細谷 亮, 大西章仁, 佐々木将博, 千田道雄:  $^{18}\text{F}$ -fluoro- $17\beta$ -estradiol (FES) positron emission tomography (PET) の臨床的有用性の検討. 第67回京滋乳癌研究会, 京都, 2014. 3. 15
7. 木川雄一郎, 加藤大典: 術前化学療法がKi67値に与える影響の検討. 第21回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013. 6. 28
8. 木川雄一郎, 常盤麻里子, 下山京子, 岡本明子, 加藤大典, 正井良和: 微細石灰化集簇病変に対する切除部位同定の工夫. 第11回日本乳癌学会近畿地方会, 大阪, 2013.11.30
9. 藤村弓子, 井上美鈴, 田上真美, 田宮久美子, 関 文枝, 松野美樹, 齊藤園美, 斎藤美智子, 岡本明子, 下山京子, 木川雄一郎, 加藤大典: 乳腺外科のチーム医療. 第67回京滋乳癌研究会, 京都, 2014. 3. 15

#### VIII. 1. 17 心臓血管外科

1. Okada Y, Nasu M, Shomura Y, Murashita T, Ozu Y, Fukunaga N, Tani T, Kitai T: Tricuspid annuloplasty for functional tricuspid regurgitation in patients undergoing mitral valve repair. 2013 Mitral Conclave, American Association for Thoracic Surgery, New York, USA, 2013. 5. 2 - 3
2. Okada Y, Shomura Y, Murashita T, Fukunaga N, Konishi Y: Long-term outcome following mitral valve repair for severe degenerative mitral regurgitation. 7<sup>th</sup> Biennial Congress, The Society for Heart Valve Disease, Venice, Italy, 2013. 6. 22 - 25
3. Kanemitsu H, Sakon Y, Nakamura K, Konishi Y, Fukunaga N, Murashita T, Fujiwara H, Koyama T, Okada Y: Impact of concomitant ascending aortic replacement for aortic valve replacement from comparisons with isolated aortic valve replacement. The 21<sup>st</sup> Annual Meeting of The Asian Society For Cardiovascular and Thoracic Surgery, Kobe, 2013. 4. 4 - 7
4. 金光ひでお, 西矢健太, 左近慶人, 小西康信, 中村 健, 福永直人, 村下貴志, 小山忠明: Duran flexible ringを用いた僧帽弁形成術の遠隔成績. 第66回日本胸部外科学会定期学術集会, 仙台, 2013.10.17
5. 小西康信, 小山忠明, 左近慶人, 福永直人, 中村 健, 村下貴志, 金光ひでお, 岡田行功: 虚血性心筋症に対する人工心肺使用拍動下左室側壁縫縮術による左室形成術. 第27回心臓血管外科ウインターセミナー学術集会, 秋田, 2013. 1. 24
6. Konishi Y, Koyama T, Sakon Y, Fukunaga N, Nakamura K, Murashita T, Kanemitsu H, Okada Y: Midterm clinical outcome of the stentless bioprosthesis for aortic valve stenosis. The 21<sup>st</sup> Annual Meeting of The Asian Society For Cardiovascular and Thoracic Surgery, Kobe, 2013. 4. 4 - 7
7. 小西康信, 小山忠明, 左近慶人, 福永直人, 中村 健, 村下貴志, 金光ひでお, 藤原 洋, 岡田行功: 下肢静脈瘤治療における桂枝茯苓丸の有効性. 第41回日本血管外科学会定期学術集会, 大阪, 2013. 5. 30

8. 小西康信, 小山忠明, 左近慶人, 福永直人, 中村 健, 村下貴志, 金光ひでお, 岡田行功: Osler病を合併する肺動脈弁位活動性感染性心内膜炎に対する自己心膜による肺動脈弁形成術の経験. 第56回関西胸部外科学会学術集会, 広島, 2013. 6 .13
9. 小西康信, 谷 知子, 北井 豪, 左近慶人, 福永直人, 中村 健, 村下貴志, 金光ひでお, 小山忠明: 急性広汎型肺血栓塞栓症の1救命例から学ぶエコーの有効性. 第61回日本心臓病学会学術集会, 熊本, 2013. 9 .22
10. 小西康信, 西矢健太, 左近慶人, 中村 健, 福永直人, 村下貴志, 金光ひでお, 小山忠明: 大動脈弁狭窄症での狭小弁輪に対する大動脈弁置換術におけるMosaic弁19及び21mmの術後PPMと長期遠隔成績. 第66回日本胸部外科学会定期学術集会, 仙台, 2013.10.19
11. 小西康信, 西矢健太, 左近慶人, 中村 健, 福永直人, 佐地嘉章, 金光ひでお, 小山忠明: 縦隔洞炎発生ゼロへの取り組み. 第44回日本心臓血管外科学会学術集会, 熊本, 2014. 2 .21
12. Koyama T, Okada Y, Kanemitsu H, Murashita T, Fukunaga N, Konishi Y, Nakamura K, Sakon Y: Early and late outcomes of valve replacement for octogenarians with aortic stenosis in the last decade. The 21<sup>st</sup> Annual Meeting of The Asian Society For Cardiovascular and Thoracic Surgery, Kobe, 2013. 4 . 4 - 7
13. 左近慶人, 小山忠明, 小西康信, 中村 健, 福永直人, 村下貴志, 金光ひでお, 藤原 洋, 岡田行功: 外傷性弓部大動脈破裂に対して全弓部大動脈置換術を施行し救命し得た2手術例. 第41回日本血管外科学会定期学術集会, 大阪, 2013. 5 .30
14. 左近慶人, 小山忠明, 小西康信, 中村 健, 福永直人, 村下貴志, 金光ひでお, 岡田行功: 右鎖骨下動脈瘤破裂に伴う縦隔内血腫拡大が腹腔内出血に合併したと考えられ、人工血管置換術を開腹止血術にて救命した1手術症例. 第56回関西胸部外科学会学術集会, 広島, 2013. 6 .13
15. 左近慶人, 西矢健太, 小西康信, 中村 健, 福永直人, 金光ひでお, 佐地嘉章, 小山忠明: 心タンポナーデによる心不全により発症した心エキノコッカス症に対し感染巣切除が奏功した1例. 第62回兵庫県心臓外科懇話会, 神戸, 2013.11.15
16. 左近慶人, 西矢健太, 小西康信, 中村 健, 福永直人, 金光ひでお, 佐地嘉章, 小山忠明: 当院における20年間のStanford A型急性大動脈解離に対する術式別遠隔成績の検討. 第44回日本心臓血管外科学会学術集会, 熊本, 2014. 2 .19
17. 中村 健, 小山忠明, 左近慶人, 小西康信, 福永直人, 村下貴志, 金光ひでお, 藤原 洋, 岡田行功: 腋窩動脈単独送血により全弓部置換術における手術成績の検討. 第27回日本血管外科学会近畿地方会, 大阪, 2013. 3 . 9
18. 中村 健, 小山忠明, 左近慶人, 小西康信, 福永直人, 村下貴志, 金光ひでお, 藤原 洋, 岡田行功: 出血性胃潰瘍が原因と考えられる*Helicobacter cinaedi*による感染性腹部大動脈瘤の1手術例. 第41回日本血管外科学会定期学術集会, 大阪, 2013. 5 .30
19. 中村 健, 小山忠明, 左近慶人, 小西康信, 福永直人, 村下貴志, 金光ひでお, 岡田行功: 三尖弁乳頭筋付着異常による三尖弁逆流に対して三尖弁形成術を施行した1例. 第56回関西胸部外科学会学術集会, 広島, 2013. 6 .13
20. 中村 健, 西矢健太, 左近慶人, 福永直人, 村下貴志, 金光ひでお, 小山忠明: 75mmの巨大冠動脈瘤切除後に脳梗塞を発症した1例. 第61回日本心臓病学会学術集会, 熊本, 2013. 9 .22



21. 西矢健太, 左近慶人, 小西康信, 中村 健, 福永直人, 金光ひでお, 小山忠明: 後腹膜腔を超えて腸間膜にまで大量のガス産生を認めた感染性腹部大動脈瘤. 第69回兵庫県血管外科学会, 神戸, 2013. 7 .20
22. 西矢健太, 左近慶人, 小西康信, 中村 健, 福永直人, 佐地嘉章, 金光ひでお, 小山忠明: 後腹膜腔を超えて腸間膜にまで大量のガス産生を認めた感染性腹部大動脈瘤. 第116回日本循環器病学会近畿地方会, 大阪, 2013.11.30
23. 西矢健太, 左近慶人, 小西康信, 中村 健, 福永直人, 佐地嘉章, 金光ひでお, 小山忠明: 感染性動脈瘤の治療成績. 第44回日本心臓血管外科学会学術集会, 熊本, 2014. 2 .20
24. Fukunaga N, Koyama T, Konishi Y, Murashita T, Yuzaki M, Shomura Y, Fujiwara H, Okada Y : Redo aortic root replacement after aortic root operation. The 21<sup>st</sup> Annual Meeting of The Asian Society For Cardiovascular and Thoracic Surgery, Kobe, 2013. 4 . 4 – 7
25. 福永直人, 岡田行功, 左近慶人, 小西康信, 中村 健, 村下貴志, 藤原 洋, 小山忠明: 高齢者 (75歳以上) の弁膜症再手術の治療成績. 第113回日本外科学会定期学術集会, 福岡, 2013. 4 .11
26. Fukunaga N, Okada Y, Nasu M, Koyama T, Kanemitsu H, Murashita T, Konishi Y : Mitral valve repair for severe organic mitral regurgitation in the elderly. 2013 Mitral Conclave, American Association for Thoracic Surgery, New York, USA, 2013. 5 . 2 – 3
27. 福永直人, 小山忠明, 左近慶人, 小西康信, 中村 健, 村下貴志, 藤原 洋, 岡田行功: EVAR導入後の高齢者 (80歳以上) に対する開腹腹部大動脈瘤手術の治療成績. 第41回日本血管外科学会定期学術集会, 大阪, 2013. 5 .31
28. 福永直人, 岡田行功, 左近慶人, 小西康信, 中村 健, 村下貴志, 金光ひでお, 小山忠明: 弁膜症術後の単独三尖弁手術の治療成績. 第56回関西胸部外科学会学術集会, 広島, 2013. 6 .13
29. Fukunaga N, Okada Y, Konishi Y, Murashita T, Kanemitsu H, Koyama T : Clinical outcomes of tricuspid valve surgery in redo heart valve surgery. 7<sup>th</sup> Biennial Congress, The Society for Heart Valve Disease, Venice, Italy, 2013. 6 .22–25
30. 福永直人, 西矢健太, 左近慶人, 小西康信, 中村 健, 村下貴志, 金光ひでお, 小山忠明: 再手術における3弁同時手術の妥当性について. 第13回比叡山カンファレンス, 京都, 2013. 6 .29
31. 福永直人, 西矢健太, 左近慶人, 小西康信, 中村 健, 村下貴志, 金光ひでお, 小山忠明: 修練施設紹介. 第13回比叡山カンファレンス, 京都, 2013. 6 .29
32. 福永直人, 西矢健太, 左近慶人, 小西康信, 中村 健, 村下貴志, 金光ひでお, 小山忠明: 再手術における3弁同時手術の妥当性. 第66回日本胸部外科学会定期学術集会, 仙台, 2013.10.18
33. 福永直人, 西矢健太, 左近慶人, 小西康信, 中村 健, 佐地嘉章, 金光ひでお, 小山忠明: 再僧帽弁置換術において再手術回数は早期および遠隔期成績に影響を与えるか? 第44回日本心臓血管外科学会学術集会, 熊本, 2014. 2 .19
34. Murashita T, Okada Y, Fujiwara H, Kanemitsu H, Fukunaga N, Konishi Y, Nakamura K, Sakon Y, Koyama T : The verification of current guideline for mitral regurgitation: review of twenty-year experience. The 21<sup>st</sup> Annual Meeting of The Asian Society For Cardiovascular and Thoracic Surgery, Kobe, 2013. 4 . 4 – 7

35. 村下貴志, 岡田行功, 金光ひでお, 福永直人, 小西康信, 中村 健, 左近慶人, 藤原 洋, 小山忠明: 自己心膜を用いた僧帽弁形成術の遠隔成績. 第113回日本外科学会定期学術総会, 福岡, 2013. 4 .13
36. 村下貴志, 小山忠明, 金光ひでお, 福永直人, 小西康信, 中村 健, 左近慶人, 西矢健太: 冠動脈バイパス術最新のエビデンスと当院での成績. 神戸循環器疾患治療セミナー, 神戸, 2013. 4 .20
37. 村下貴志, 小山忠明, 金光ひでお, 福永直人, 小西康信, 中村 健, 左近慶人, 岡田行功: Marfan症候群の解離性胸腹部大動脈瘤に対してハイブリッド治療を施行した1例. 第41回日本血管外科学会定期学術集会, 大阪, 2013. 5 .30

## VIII. 1. 18 呼吸器外科

1. 大久保祐, 坂之上一朗, 浜川博司, 高橋 豊: 椎骨浸潤を来した右第4肋骨原発骨肉腫の一例. 京大呼吸器外科同門会夏季研究会, 京都, 2013. 7 .13
2. 大久保祐, 坂之上一朗, 浜川博司, 高橋 豊: 超高齢者肺癌に対する根治手術の一例. 第98回肺癌学会関西支部会, 大阪, 2013. 7 .27
3. 大久保祐, 坂之上一朗, 宮本 英, 浜川博司, 高橋 豊: 椎骨浸潤を来した右第4肋骨原発骨肉腫の一例. 第49回兵庫呼吸器外科研究会, 神戸, 2013. 9 . 5
4. 大久保祐, 坂之上一朗, 浜川博司, 高橋 豊, 今井幸弘: 包丁刺創により左下葉を貫通の上、背側肋間動脈損傷し開放性血気胸を来した一切除例. 第42回京都大学呼吸器外科教室同門会冬期研究会, 京都, 2014. 2 .15
5. 大久保祐, 浜川博司, 坂之上一朗, 高橋 豊, 永田一真, 今井幸弘: 肺腺癌術後に肋骨転移し、ALK阻害剤導入の後に肋骨切除した一例. 第50回兵庫呼吸器外科研究会, 神戸, 2014. 3 . 6
6. 坂之上一朗, 宮本 英, 浜川博司, 高橋 豊: 手術療法を行った縦隔原発胚細胞腫の2例. 第30回日本呼吸器外科学会総会, 名古屋, 2013. 5 . 9
7. 坂之上一朗, 浜川博司, 宮本 英, 高橋 豊, 今井幸弘: 当院における微小肺癌手術症例の検討. 第56回関西胸部外科学会, 広島, 2013. 6 .13
8. Sakanoue I, Hamakawa H, Miyamoto E, Takahashi Y: Video-thoracoscopic pericardial window: Is it safe and effective for pericardial effusion? European Respiratory Society Annual Congress 2013, Barcelona, 2013. 9 .11
9. 高橋 豊, 坂之上一朗, 宮本 英, 浜川博司: IIIa期N2非小細胞肺癌に対する術前化学放射線療法の有効性の検討. 第30回日本呼吸器外科学会総会, 名古屋, 2013. 5 . 9
10. 高橋 豊: 胸腔鏡下手術における器具の実情と課題. 医療機器等事業化促進プラットフォーム「情報交換会」, 神戸, 2013.11.15
11. Miyamoto E, Hamakawa H, Sakanoue I, Takahashi Y: Surgical intervention for spontaneous hemothorax associated with neurofibromatosis type I. European Respiratory Society Annual Congress 2013, Barcelona, 2013. 9 .10

## VIII. 1. 19 脳神経外科

1. Yuji Agawa, Nobuyuki Sakai, Hiroshi Yamagami, Shoichi Tani, Hidemitsu Adachi, Osamu Narumi, Hirotohi Imamura, Yohei Mineharu, Shinsuke Sato, Katsunori Asai, Takaaki Morimoto, Teishiki Shibata, Mikiya Beppu, Kampei Shimizu : Current on-going, multi-center, randomized, trial: Carotid Artery Stenting with Cilostazol Addition for Restenosis (CAS-CARE), comparing inhibitory effect of cilostazol versus other anti-platelet for the in-stent restenosis after carotid artery stenting. East Asian Conference of Neurointervention 2013, Kobe, 2013. 6 . 9
2. 阿河祐二, 鳴海 治, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 峰晴陽平, 今村博敏, 佐藤慎祐, 浅井克則, 森本貴昭, 柴田帝式, 別府幹也, 清水寛平, 菊池晴彦: 急性硬膜下血腫で発症した前大脳動脈末梢動脈瘤破裂の1例. 第43回兵庫県脳神経外科医懇話会, 神戸, 2013. 7 .27
3. 阿河祐二, 峰晴陽平, 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 佐藤慎祐, 浅井克則, 森本貴昭, 柴田帝式, 別府幹也, 清水寛平, 菊池晴彦: 開頭下にシルビウス静脈の直接穿刺でコイル塞栓術を行った海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻の1例. 第66回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 大阪, 2013. 9 . 7
4. 阿河祐二, 浅井克則, 谷 正一, 坂井信幸, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 森本貴昭, 柴田帝式, 別府幹也, 清水寛平, 菊池晴彦: 急性硬膜下血腫を伴う内因性頭蓋内出血の検討. 第72回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, 2013.10.16
5. 阿河祐二, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 森本貴昭, 柴田帝式, 別府幹也, 清水寛平, 菊池晴彦: 経上腕動脈アプローチで脳動脈瘤コイル塞栓術を行った3例. 第29回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 2013.11.22
6. 阿河祐二, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 柴田帝式, 別府幹也, 森本貴昭, 清水寛平, 菊池晴彦: 急性硬膜下血腫単独で発症した脳卒中の2例. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2014. 3 .15
7. Asai K, Sakai N, Tani S, Adachi H, Narumi O, Sakai C, Imamura H, Mineharu Y, Sato S, Shibata T, Morimoto T, Beppu M, Agawa Y, Shimizu K, Kikuchi H : Clinical features of spinal arteriovenous malformation. EACoN2013 (East Asian Conference of Neurointervention), Kobe, 2013. 6 . 9
8. 浅井克則, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 藤堂謙一, 今村博敏, 山本司郎, 石川達也, 峰晴陽平: MOMAウルトラを用いた頸動脈ステント留置術の初期経験. 第12回日本頸部脳血管治療学会, 東京, 2013. 6 .29
9. Asai K, Sakai N, Tani S, Adachi H, Narumi O, Sakai C, Todo K, Imamura H, Mineharu Y, Sato S : Use of MOMA Ultra in carotid artery stenting Initial Experience in Japan. The 6th Korea-Japan Joint Stroke Conference, Osaka, 2013.10. 5
10. 浅井克則, 谷 正一, 坂井信幸, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 森本貴昭, 柴田帝式, 別府幹也, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦: 脊髄硬膜動静脈瘻の治療成績. 第72回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, 2013.10.17
11. Katsunori Asai, Nobuyuki Sakai, Shoichi Tani, Hidemitsu Adachi, Osamu Narumi, Chiaki Sakai, Kenichi Todo, Hirotohi Imamura, Taku Hoshi, Yohei Mineharu, Shinsuke Sato, Tomoyuki Kono : Evaluation of Proximal protection Using Mo.Ma Ultra during Carotid Artery Stenting for East Asians. International TIA/ACVS Conference, Tokyo, 2013.11.15

12. 浅井克則, 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 森本貴昭, 柴田帝式, 別府幹也, 菊池晴彦: 内頸動脈閉塞試験における2D perfusion解析. 第29回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 2013.11.22
13. 浅井克則, 今村博敏, 佐藤慎祐, 坂井信幸: SMCVへの逆流を呈する錐体骨部 intraosseous AVF の1例. 第76回大阪大学脳神経外科関連施設臨床懇話会, 大阪, 2014. 1 .11
14. 浅井克則, 谷 正一, 今井幸弘, 足立秀光, 鳴海 治, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 坂井信幸: 病理組織学的に瘻孔部位が確認しえた外傷性浅側頭動静脈瘻の1例. 第37回日本脳神経外傷学会, 東京, 2014. 3 . 8
15. 浅井克則, 坂井信幸, 上田浩之, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 菊池晴彦: 硬膜動静脈瘻におけるSusceptibility-weighted imagingの有用性. 第43回日本脳卒中の外科学会学術集会, 大阪, 2014. 3 .13
16. 足立秀光, 坂井信幸, 峰晴陽平, 谷 正一, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 佐藤慎祐, 浅井克則, 柴田帝式, 別府幹也, 森本貴昭, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦: 高齢者脳主幹動脈閉塞に対する脳血管内治療による再開通療法. 第72回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, 2013.10.18
17. 足立秀光, 坂井信幸, 峰晴陽平, 谷 正一, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 佐藤慎祐, 浅井克則, 柴田帝式, 別府幹也, 森本貴昭, 阿河祐二, 清水寛平, 蔵本要二: 海綿静脈洞部内頸動脈瘤に対する血管内母血管閉塞治療の成績. 第29回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 2013.11.23
18. 足立秀光, 坂井信幸, 谷 正一, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 柴田帝式, 森本貴昭, 別府幹也, 阿河祐二, 清水寛平: 海綿静脈洞部大型・巨大内頸動脈瘤に対する血管内母血管閉塞治療. 第43回日本脳卒中の外科学会学術集会, 大阪, 2014. 3 .13
19. 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 柴田帝式, 別府幹也, 森本貴昭, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦, 中屋 純, 栗山 巧: Neck Bridge StentのCT imageはここまで来た. 第12回脳血管内治療ブラッシュアップセミナー, 神戸, 2013. 6 . 7
20. 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 柴田帝式, 別府幹也, 森本貴昭, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦: Neuroform EZ Stent System. 第12回脳血管内治療ブラッシュアップセミナー, 神戸, 2013. 6 . 8
21. 今村博敏, 坂井信幸: 最先端の脳血管内治療. 日本ストライカーNVP特約店フォーラム2013, 品川, 2013. 6 .22
22. 今村博敏: 硬膜動静脈瘻. 第46回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ(座長), 白浜, 2013. 7 .13
23. 今村博敏: 急性再開通療法. 脳血管内ブラッシュアップセミナーティーチングコース, 神戸, 2013. 8 .10
24. 今村博敏: 急性再開通療法. 脳血管内ブラッシュアップセミナーティーチングコース, 神戸, 2013. 8 .11
25. 今村博敏, 浅井克則, 柴田帝式, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 別府幹也, 森本貴昭, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦: 3D & 2Dインターベンショナルツールへの期待. X-ray先端医療&技術講演会2013(特別講演), 品川, 2013. 8 .24

26. 今村博敏：関西 CODMAN ENTERPRISE VRD USERS MEETING. 第14回近畿脳神経血管内治療学会, 大阪, 2013. 9 . 6
27. 今村博敏：脳動脈瘤塞栓術 How do we treat it? 第14回近畿脳神経血管内治療学会, 大阪, 2013. 9 . 6
28. 今村博敏：コイル塞栓術の更なる進歩～Neuroform EZ臨床経験. Round Table Discussion in HIROSHIMA 2013～New Field in Neuro Intervention～ (特別講演), 広島, 2013. 9 .21
29. 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 柴田帝式, 別府幹也, 森本貴昭, 阿河祐二, 清水寛平：治療機器を使用して実際の使用感に関するフィードバック. REV-01 治療中間報告会 (特別講演), 横浜, 2013.10.17
30. 今村博敏, 坂井信幸, 坂井千秋, 石井 暁, 藤中俊之, JR-NET investigators：JR-NETおよびJR-NET2 における破裂脳動脈瘤に対する脳動脈瘤塞栓術の治療成績. 第72回日本脳神経外科学会, 横浜, 2013.10.18
31. 今村博敏：神戸市立医療センター中央市民病院での急性期血行再建術の現状と未来. 第6回急性再開通療法勉強会 (特別講演), 東京, 2013.10.25
32. 今村博敏, 坂井信幸：脳梗塞の急性期治療とその予防. 神戸東臨床医学懇話会 (特別講演), 神戸, 2013.11.14
33. 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 藤堂謙一, 星 拓, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 河野智之, 浅井克則, 柴田帝式, 別府幹也, 森本貴昭, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦：喜怒哀楽. 第29回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 2013.11.22
34. 今村博敏, 坂井信幸：急性期血行再建術. 第29回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 2013.11.23
35. 今村博敏, 藤堂謙一, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 星 拓, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 河野智之, 浅井克則, 柴田帝式, 別府幹也, 森本貴昭, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦：急性期血行再建術における手技時間短縮の重要性. 第29回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 2013.11.23
36. 今村博敏：虚血・PTA・CAS2. 第47回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ (座長), 大阪, 2014. 1 .11
37. 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 柴田帝式, 森本貴昭, 別府幹也, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦：血管内塞栓術で治療困難な脳動脈瘤. 第29回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 2014. 1 .11
38. 今村博敏, 坂井千秋, 佐藤慎祐, 坂井信幸：脳動脈瘤と妊娠・出産. 第14回脳血管障害セミナー, 東京, 2014. 2 .15
39. 今村博敏, 坂井信幸：後交通動脈分岐部および内頸動脈先端部未破裂動脈瘤にクリッピングを行った1例. 第5回京都大学脳神経外科マイクロサージェリー道場, 京都, 2014. 3 . 8
40. 今村博敏：脳動脈瘤2. 第39回日本脳卒中学会総会 (座長), 大阪, 2014. 3 .13
41. 今村博敏, 坂井信幸, 坂井千秋, 藤中俊之, 石井 暁：JR-NETおよびJR-NET2における破裂脳動脈瘤に対する動脈瘤塞栓術の治療成績. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2014. 3 .14

42. 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 柴田帝式, 別府幹也, 森本貴昭, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦: 未破裂脳動脈瘤に対する血管内塞栓術の破裂予防に対する有用性. 第43回日本脳卒中の外科学会学術集会, 大阪, 2014. 3 .15
43. 坂井信幸, 吉村紳一, 足立秀光, 谷 正一, 坂井千秋, 今村博敏, 藤堂謙一: 教育講演2「中枢神経1: 脳卒中の画像診断 update」: State-of-the Art of Endovascular Treatment for Acute Stroke – 脳卒中の脳血管内治療の最前線 –. 第72回日本医学放射線学会総会 (特別講演), 横浜, 2013. 4 .12
44. 坂井信幸: 特別プログラム「手術シミュレーション」: 「血管内治療」: 脳動脈瘤コイル塞栓術の実際. 第22回脳神経外科手術と機器学会 (CNTT2013) (特別講演), 松本, 2013. 4 .12
45. 坂井信幸: CAS-CAREの現状と今後. CAS-CARE全体会議 (特別講演), 東京, 2013. 4 .20
46. 坂井信幸: 頭蓋内狭窄の最新知見、「日本人のエビデンスから脳卒中治療を考える」. Fighting Vascular Events in Tokyo (特別講演), 東京, 2013. 4 .20
47. 坂井信幸, 足立秀光, 谷 正一, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 藤堂謙一, 峰晴陽平, 佐藤慎祐: 脳卒中再発予防 – リスク管理の重要性. Workshop in Kobe (特別講演), 神戸, 2013. 5 .16
48. 坂井信幸: 血管内カテーテル治療の進歩、最新の急性脳動脈閉塞の血管内治療. 第7回急性期脳卒中ネットワークの会 (特別講演), 博多, 2013. 5 .17
49. 坂井信幸: Acom Aneurysmに対する血管内治療と外科治療の使い分け. 第7回脳神経外科施設交流セミナー (特別講演), 小倉, 2013. 5 .18
50. 坂井信幸: 頸動脈治療の現在、未来. 第5回中国地区血管内治療研究会 (CJET) (特別講演), 岡山, 2013. 5 .18
51. Sakai N: Discussion Panelists. WLNC2013, Istanbul, 2013. 5 .29
52. 坂井信幸: CASの新しいエビデンス構築の必要性. 第10回日本脳神経血管内治療学会関東地方会 (特別講演), 東京, 2013. 6 . 1
53. 坂井信幸: 脳血管障害の治療における抗血小板薬の必要性和消化管出血管理の重要性. 第12回脳血管内治療ブラッシュアップセミナー (特別講演), 神戸, 2013. 6 . 8
54. Sakai N: Current stroke management in Japan. Philips R&D meeting (特別講演), Best, Netherland, 2013. 6 .14
55. Sakai N: Clinical application of Dyna-CT for stent assisted embolization of intracranial aneurysms. AX Advisory Meeting (特別講演), Erlangen, Germany, 2013. 6 .16
56. 坂井信幸: CASにおけるProximal protection Device MO.MA Ultraの有用性. 第12回日本頸部脳血管治療学会 (特別講演), 東京, 2013. 6 .28
57. 坂井信幸: 血管内治療記録とデータベースの構築・活用 (ファイアーライン・ディベート 基調講演). 第14回脳神経血管内治療琉球セミナー, 沖縄, 2013. 7 . 5
58. 坂井信幸: 脳血管内治療の進歩と脳卒中センターの役割. 東神戸脳卒中フォーラム (特別講演), 神戸, 2013. 7 .13

59. 坂井信幸：医療現場の今後と企業に期待する役割. 第2回センチュリーメディカル社員総会記念講演（特別講演），2013. 7 .20
60. Sakai N, Uchiyama S, Toi S, Ezura M, Minematsu K, Nagai Y, Nagata I, Okada Y, Takagi M, Tanahashi N, Matsumoto M, for the CATHARSIS Investigators : Results of Cilostazol-Aspirin Therapy Against Recurrent Stroke with Intracranial Artery Stenosis (CATHARSIS) -Primary Result and Subanalysis. Asia Pacific Stroke Conference (APSC)（特別講演），Hong Kong, 2013. 8 .31
61. 坂井信幸：脳血管内治療の進歩と機器開発. 神戸市ライフサイエンスビジョン講演会（特別講演），神戸，2013. 9 . 5
62. 坂井信幸, 足立秀光, 谷 正一, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 森本貴昭, 浅井克則, 柴田帝式, 阿河祐二, 清水寛平, 別府幹也：CODMAN ENTERPRISE™ VRD－こう変えた、ワイドネック脳動脈瘤攻略法. 第14回近畿脳神経血管内治療学会（特別講演），大阪，2013. 9 . 6
63. Sakai N, Adachi H, Tani S, Narumi O, Sakai C, Imamura H, Mineharu Y, Sato S, Morimoto T, Asai K, Shibata T, Agawa Y, Shimizu K, Beppu M : Endovascular Treatment of Intracranial Aneurysms using stent-current and future. 第15回World Congress of Neurosurgery (WFNS2013)（特別講演），Seoul, Korea, 2013. 9 . 8
64. 坂井信幸：虚血性脳血管障害に対する血管内治療の最新情報. Fighting vascular events in KOBE (NET-1)（特別講演），神戸，2013. 9 .14
65. 坂井信幸：脳動脈再開通療法－血管内治療の最新情報. 第23回脳血管シンポジウム，大阪，2013. 9 .14
66. Sakai N : Current status of CAS in Japan. Efficacy of proximal control. CAS forum in Jakarta（特別講演），Jakarta, Indonesia, 2013. 9 .16
67. 坂井信幸：頭蓋内動脈狭窄の治療戦略－CATHARSISからCSPS.dom. Neurovascular Forum 2013（特別講演），東京，2013. 9 .21
68. 坂井信幸, 藤堂謙一, 星 拓, 河野智之, 川本未知, 幸原伸夫, 足立秀光, 谷 正一, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 森本貴昭, 浅井克則, 柴田帝式, 阿河祐二, 清水寛平, 別府幹也：イブニングシンポジウム「心房細動をともなう頸動脈狭窄への対応」：心房細動患者のCAS、適応と注意点. 第16回日本栓子検出と治療学会，名古屋，2013.10.12
69. 坂井信幸, 藤堂謙一, 星 拓, 河野智之, 川本未知, 幸原伸夫, 足立秀光, 谷 正一, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 森本貴昭, 浅井克則, 柴田帝式, 阿河祐二, 清水寛平, 別府幹也：シンポジウム「先端医療はどこまで進んだか」：脳血管内治療の最前線. 第27回日本臨床内科医学会，神戸，2013.10.13
70. 坂井信幸, 足立秀光, 谷 正一, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 森本貴昭, 浅井克則, 柴田帝式, 阿河祐二, 清水寛平, 別府幹也, 菊池晴彦：シンポジウム2「治療困難な脳動脈瘤」：治療困難な椎骨脳底動脈に対するステントを用いた血管内治療. 第72回日本脳神経外科学会学術総会，東京，2013.10.16
71. 坂井信幸：頭蓋内動脈狭窄の最新知見、エビデンスより血行再建適応を考える. 第72回日本脳神経外科学会学術総会（特別講演），東京，2013.10.17

72. Sakai N, Adachi H, Tani S, Narumi O, Sakai C, Imamura H, Mineharu Y, Sato S, Morimoto T, Asai K, Shibata T, Agawa Y, Shimizu K, Beppu M : Current status of neuroendovascular therapy in Japan and our contribution to this field in Kobe. Med In Ireland Medical Technology & Healthcare Expo 2013 (特別講演), Dublin, Ireland, 2013.10.23
73. Sakai N : Endovascular treatment of carotid stenosis. 13th Oriental Conference of Interventional Neuroradiology (特別講演), Shanghai, China, 2013.10.26
74. Sakai N, Shigematsu T, Fujinaka T, Yoshimine T, Ishii A, Imamura H, Sakai C : Endovascular therapy for asymptomatic unruptured intracranial aneurysms; JR-NET and JR-NET2 findings. WFITN2013 (特別講演), Buenos Aires, 2013.11.12
75. Sakai N, Adachi H, Tani S, Narumi O, Sakai C, Imamura H, Mineharu Y, Sato S, Morimoto T, Asai K, Shibata T, Agawa Y, Shimizu K, Beppu M, Todo K, Kono T, Hoshi T, Murase S : Current status of CAS in Japan, 2013. WFITN2013, Buenos Aires, 2013.11.12
76. 坂井信幸, 重松朋芳, 今村博敏, 坂井千秋, 藤中俊之, 石井 暁 : 未破裂脳動脈瘤の治療の現状と今後. 第29回日本脳神経血管内治療学会学術総会 (特別講演), 新潟, 2013.11.21
77. 坂井信幸 : 頸動脈ステント留置術の過去、現在、未来. 第29回日本脳神経血管内治療学会学術総会 (ティーチングセミナー), 新潟, 2013.11.22
78. Sakai N, Imamura H, Sakai C, Adachi H, Ishikawa T, Sato S : Flow Diverter for reconstruction of fusiform and dolichoectasis in vertebrobasilar circulation. WFITN/ICS2013, Buenos Aires, 2013.11.24
79. 坂井信幸 : 脳梗塞急性期の抗血栓療法と血管内治療の進歩. 脳神経外科フォーラム in 高知 (特別講演), 高知, 2013.11.27
80. 坂井信幸, 幸原伸夫 : 脳卒中になっても困らない街をめざして - 総合脳卒中センターの取り組み. 神戸市立医療センター中央市民病院地域連携懇話会2013 (特別講演), 神戸, 2013.11.28
81. 坂井信幸 : 頸動脈ステント留置術のTips and tricks. Complex Peripheral Angioplasty Conference (CPAC2013) (特別講演), 豊橋, 2013.11.30
82. 坂井信幸 : 虚血性脳血管障害に対する血管内治療と抗血小板療法に関する最近の知見. 千駄木神経内科カンファレンス (特別講演), 東京, 2013.12.13
83. Sakai N, Takahashi JC, Iihara K, Miyamoto S, Ueno Y : Moya Moya Disease-Japanese experience. III NeuroIMC Conference (invited lecture), Madrid, Spain, 2014. 1 .17
84. Sakai N, Imamura H, Sakai C, Adachi H, Tani S, Ishikawa T, Mineharu Y, Sato S : Surpass Flowdiverting stent therapy for Vertebro-Basilar thrombosed aneurysms. III NeuroIMC Conference (invited lecture), Madrid, Spain, 2014. 1 .17
85. 坂井信幸 : 虚血性脳血管障害に対する血管内治療の最前線. 第4回郡山脳血管内治療シンポジウム (特別講演), 郡山 (福島), 2014. 2 . 7
86. Sakai N : Talk with Dr.Sakai 「Current status of CAS in Japan」. JET2013, Osaka, 2013. 2 . 16



87. 坂井信幸：急性期虚血性脳梗塞治療の現状と今後の期待、血栓除去デバイスSolitaire FR 臨床上の意義と今後の期待. コヴィディエンジャパンメディアセミナー, 東京, 2014. 3 . 5
88. 坂井信幸, 峰松一夫, 小笠原邦昭, 斉藤延人, 滝 和郎, 長谷川泰弘：血栓回収機器の市販後調査からの結果からみた我が国の血管内再開通療法の現状. STROKE2014合同シンポジウム「脳卒中急性期治療の検証と再評価」, 大阪, 2014. 3 .13
89. 坂井信幸：頭蓋内狭窄治療の最新知見－CATHARSISとWingspan. 第39回日本脳卒中学会（ランチョンセミナー）, 大阪, 2014. 3 .14
90. 坂井信幸：Wingspan：頭蓋内動脈狭窄症治療の新たなオプション. 第43回日本脳卒中の外科学会（ランチョンセミナー）, 大阪, 2014. 3 .14
91. 坂井信幸, 飯原弘二, 佐藤 徹, 坂井千秋, 今村博敏, JR-NET研究班：日本国内の脳血管内治療の登録研究（JR-NET）. 第39回日本脳卒中学会（日本脳神経血管内治療学会合同シンポジウム）, 大阪, 2014. 3 .14
92. 坂井信幸, 宮地 茂, 今村博敏, 泉 孝嗣, 坂井千秋, 山本晴子, 永井洋士：Wingspan（WS-01）医師主導治療の経験. Wingspan Premium Kickoff Meeting, 大阪, 2014. 3 .16
93. 坂井信幸, 宮地 茂, 今村博敏, 泉 孝嗣, 坂井千秋：Wingspan stent system、どう使うか、何に注意するか. Wingspan Premium Kickoff Meeting, 大阪, 2014. 3 .16
94. Sakai N, Miyachi S, Imamura H, Izumi T, Sakai C：Current status of endovascular therapy for intracranial atherosclerotic diseases. ICAD Summit/AAFITN2014, Danan, Vietnam, 2014. 3 .25
95. 佐藤慎祐, 米山 琢, 石川達也, 山口浩司, 田中雅彦, 川島明次, 比嘉 隆, 川俣貴一, 岡田芳和：頸部動脈狭窄症に対するCEAとCASの比較検討. 第12回日本頸部脳血管治療学会, 大阪, 2013. 6 .28
96. 佐藤慎祐, 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 峰晴陽平, 浅井克則, 森本貴昭, 柴田帝式, 別府幹也, 清水寛平, 阿河祐二, 菊池晴彦：後大動脈瘤遠位部動脈瘤に対するコイル塞栓術. 第72回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, 2013.10.17
97. 佐藤慎祐, 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 峰晴陽平, 浅井克則, 森本貴昭, 柴田帝式, 別府幹也, 清水寛平, 阿河祐二, 菊池晴彦：SMCVに逆流をきたした錐体骨部intraosseous AVFの1例. 第47回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ, 大阪, 2014. 1 .11
98. 佐藤慎祐, 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 峰晴陽平, 浅井克則, 森本貴昭, 柴田帝式, 別府幹也, 清水寛平, 阿河祐二, 菊池晴彦：SMCVに逆流を伴ったmultiple shunt（foramen ovale-Trolard's inferior petrooccipital vein-ACC）intraosseousAVFの1例. 第22回河田町脳神経外科懇話会, 東京, 2014. 3 . 8
99. 佐藤慎祐, 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 峰晴陽平, 浅井克則, 菊池晴彦：椎骨脳底動脈系の急性閉塞に対する血管内治療の治療成績. 第43回日本脳卒中の外科学会学術集会, 大阪, 2014. 3 .14
100. 佐藤慎祐, 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 峰晴陽平, 藤堂謙一, 菊池晴彦：産褥期に後頭葉皮質に病変を認めたRCVSの1例. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2014. 3 .15

101. 柴田帝式, 池田宏之, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 別府幹也, 森本貴昭, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦: 破裂前交通動脈瘤に対する治療成績と治療戦略. 瀬戸内交流セミナー, 小倉, 2013. 5 .18
102. Teishiki Shibata, Hiroyuki Ikeda, Shoichi Tani, Hidemitsu Adachi, Osamu Narumi, Chiaki Sakai, Hirotohi Imamura, Yohei Mineharu, Shinsuke Sato, Katsunori Asai, Takaaki Morimoto, Mikiya Beppu, Kanpei Shimizu, Yuji Agawa, Nobuyuki Sakai : Successful liquid embolization of ruptured mycotic aneurysm using N-butyl-cyanoacrylate: four case reports. EACoN2013 (East Asian Conference of Neurointervention), Kobe, 2013. 6 . 9
103. 柴田帝式, 池田宏之, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 別府幹也, 森本貴昭, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦: Mo.Ma Ultra使用時にPreciseが抜去困難になった例. 近畿脳神経血管内手術法ワークショップ, 白浜, 2013. 7 .12
104. 柴田帝式, 浅井克則, 河野智之, 村瀬 翔, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 藤堂謙一, 今村博敏, 星 拓: 頸動脈鞍状塞栓症からの遠位塞栓に対してPenumbra 4MAXで良好な再開通が得られた1症例. 第14回近畿脳神経血管内治療学会, 大阪, 2013. 9 . 6
105. 柴田帝式, 浅井克則, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 森本貴昭, 別府幹也, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦: 冠動脈鎖骨下盗血現象を伴う鎖骨下動脈狭窄症に対してステント留置術を行った一例. 第29回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 2013.11.21
106. 柴田帝式, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 森本貴昭, 別府幹也, 阿河祐二, 清水寛平: 初回血管撮影で出血源不明のくも膜下出血の治療、くも膜下出血の分布との関連性について. 第43回日本脳卒中の外科学会学術集会, 大阪, 2014. 3 .13
107. 清水寛平, 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 柴田帝式, 別府幹也, 森本貴昭, 阿河祐二, 菊池晴彦: 当施設における未破裂内頸動脈-上下垂体動脈分岐部動脈瘤のコイル塞栓術の成績. 第72回日本脳神経外科学会, 横浜, 2013.10.18
108. 清水寛平, 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 柴田帝式, 別府幹也, 森本貴昭, 阿河祐二, 菊池晴彦: 当施設における未破裂内頸動脈眼動脈分岐部動脈瘤のコイル塞栓術の成績. 第29回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 2014. 1 .11
109. 清水寛平, 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 柴田帝式, 別府幹也, 森本貴昭, 阿河祐二, 菊池晴彦: 7 mm以上未破裂内頸動脈傍鞍部動脈瘤に対するコイル塞栓術の治療成績. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2014. 3 .15
110. 谷 正一, 佐々木一朗, 瀬川義朗, 坂井信幸, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 柴田帝式, 別府幹也, 森本貴昭, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦: 当院における術中AMRモニタリングの経験: Guiding効果の著明であった症例. 第72回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, 2013.10.17
111. 谷 正一, 佐々木一朗, 瀬川義朗, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 柴田帝式, 別府幹也, 森本貴昭, 阿河祐二, 清水寛平, 坂井信幸, 菊池晴彦: 前大脳動脈領域の脳動脈瘤クリッピング術における術中MEPモニタリングとその応用. 第43回日本脳卒中の外科学会学術集会, 大阪, 2014. 3 .13

112. 鳴海 治, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 森本貴昭, 柴田帝式, 阿河祐二, 清水寛平, 別府幹也, 菊池晴彦: 高位頸動脈内膜剥離術における解剖に基づいた手術手技の工夫 - styloid diaphragmと耳下腺の剥離-. 第72回日本脳神経外科学会, 横浜, 2013.10.18
113. 別府幹也, 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 石川達也, 峰晴陽平, 池田宏之, 浅井克則, 稲田 拓, 小倉健紀, 柴田帝式, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦: 原始遺残嗅動脈瘤の1例. 第65回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 大阪, 2013. 4 . 6
114. 別府幹也, 峰晴陽平, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 佐藤慎祐, 浅井克則, 森本貴昭, 柴田帝式, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦: 原始遺残嗅動脈瘤の1例. 神戸中央脳神経外科研究会, 兵庫, 2013. 5 .20
115. 別府幹也, 峰晴陽平, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 佐藤慎祐, 浅井克則, 森本貴昭, 柴田帝式, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦: 治療に難渋した感染性心内膜炎による細菌性動脈瘤の1例. 循環器合同カンファレンス, 兵庫, 2013. 7 .10
116. 別府幹也, 峰晴陽平, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 佐藤慎祐, 浅井克則, 柴田帝式, 森本貴昭, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦: 脳動静脈奇形に対する血管内塞栓術同日手術の治療成績. 第32回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 仙台, 2013. 8 .30
117. 別府幹也, 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 佐藤慎祐, 峰晴陽平, 浅井克則, 柴田帝式, 菊池晴彦: 症候性脳動脈瘤に対する瘤内塞栓術の当院での治療成績 - 症候性脳動脈瘤は瘤内塞栓術では本当に治らないのか -. 第72回日本脳神経外科学会, 新潟, 2013.10.18
118. 別府幹也, 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 佐藤慎祐, 峰晴陽平, 浅井克則, 柴田帝式, 菊池晴彦: 症候性脳動脈瘤に対する瘤内塞栓術の当院での治療成績 - 症候性脳動脈瘤は瘤内塞栓術では本当に治らないのか -. 第29回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 2013.11.21
119. 別府幹也, 今村博敏, 佐藤慎祐, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 峰晴陽平, 浅井克則, 柴田帝式, 森本貴昭, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦: TVEが著効した外傷性内頸動脈海綿静脈洞瘻 (tCCF) の1例. 第37回日本脳神経外傷学会, 東京, 2014. 3 . 8
120. 別府幹也, 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 柴田帝式, 森本貴昭, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦: Non-contrast CASの有用性. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2014. 3 .15
121. Mineharu Y, Liu W, Hitomi T, Kobayashi H, Hashikata H, Koizumi A, Takagi Y, Takahashi J, Sakai N, Miyamoto S : Genetics Testing for Mysterin Gene Predicts Age at Onset and Bilateral Progression of Moyamoya Disease. 第15回World Congress of Neurosurgery (WFNS2013), Seoul, Korea, 2013. 9 .11
122. Mineharu Y, Liu W, Hitomi T, Kobayashi H, Hashikata H, Koizumi A, Takagi Y, Takahashi J, Sakai N, Miyamoto S : Genetics of Moyamoya Disease:Paradigm Shift and Future Prospects. 第15回World Congress of Neurosurgery (WFNS2013) (特別講演), Seoul, Korea, 2013. 9 .12
123. 峰晴陽平, Maria G Castro, Pedro R Lowenstein, 坂井信幸, 宮本 亨: 難治性巨大グリオーマモデルに対するFlt3 ligandをベースとした免疫遺伝子治療の効果. 第72回日本脳神経外科学会, 横浜, 2013.10.18

124. 峰晴陽平, 谷 正一, 浅井克則, 足立秀光, 坂井千秋, 今村博敏, 佐藤慎祐, 坂井信幸, 菊池晴彦: 内視鏡支援下にクリッピングを行ったコイル塞栓術後の脳動脈瘤再発の1例. 第20回日本神経内視鏡学会, 山梨, 2013.11.7
125. 峰晴陽平, 坂井信幸, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 佐藤慎祐, 浅井克則, 森本貴昭, 柴田帝式, 別府幹也, 清水寛平, 阿河祐二, 菊池晴彦: Onyxによる脳動静脈奇形塞栓術の治療成績の推移: 単一施設28症例の検討. 第29回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 2013.11.23
126. 峰晴陽平, Maria Castro, Pedro Lowenstein, 坂井信幸, 宮本 亨: mTOR阻害薬Rapamycinは悪性グリオーマに対する免疫療法の効果を増強する. 第31回日本脳腫瘍学会学術集会, 宮崎, 2013.12.9
127. 峰晴陽平: 前脈絡叢動脈の温存に難渋した破裂内頸動脈瘤の一例. 第4回京都大学脳神経外科NeuroIVR研修セミナー IVR道場, 京都, 2013.12.14
128. 峰晴陽平, 今村博敏, 浅井克則, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 佐藤慎祐, 森本貴昭, 柴田帝式, 別府幹也, 清水寛平, 阿河祐二, 坂井信幸, 菊池晴彦: Distal protectionとproximal protection併用時のCASの治療成績. 第29回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 2014.1.11
129. 峰晴陽平, 森本貴昭, 坂井信幸, 上野 泰, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 藤堂謙一, 今村博敏, 佐藤慎祐, 浅井克則, 別府幹也, 柴田帝式, 阿河祐二, 清水寛平, 小林 果, 人見敏明, 小泉昭夫, 菊池晴彦: 内頸動脈管径とRNF213遺伝子型によるもやもや病の診断~発症予測および他の頭蓋内血管狭窄との識別~. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2014.3.14
130. 森本貴昭, 谷 正一, 坂井信幸, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 渥美生弘, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 別府幹也, 柴田帝式, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦: 外傷性髄液鼻漏に対し経鼻的神経内視鏡手術にて治療した1例. 第66回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 大阪, 2013.9.7
131. 森本貴昭, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 別府幹也, 柴田帝式, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦: 腫瘍内出血を来した脳腫瘍症例の検討. 第72回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, 2013.10.16
132. 森本貴昭, 浅井克則, 清水寛平, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 坂井千秋, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 別府幹也, 柴田帝式, 阿河祐二, 菊池晴彦: 未破裂脳動脈瘤コイル塞栓術後に遅延性水頭症が生じた2例. 第29回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 2013.11.21
133. 森本貴昭: 頸動脈ステント留置術後コレステロール結晶塞栓症を来した1例. 第14回循環器脳卒中合同カンファレンス, 院内, 2014.1.15
134. 森本貴昭, 坂井信幸, 谷 正一, 足立秀光, 鳴海 治, 今村博敏, 峰晴陽平, 佐藤慎祐, 浅井克則, 今井幸弘: 出血発症の脳腫瘍症例の検討. 第39回日本脳卒中学会総会, 大阪, 2014.3.15

## VIII. 1. 20 整形外科

1. 池口良輔, 竹内久貴, 木村豪太, 大西英次郎, 岩城公一, 川那辺圭一: 母指CM関節症に対する関節形成術について. 第120回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 和歌山, 2013.4.6
2. 池口良輔, 竹内久貴, 木村豪太, 渡邊 睦, 奥谷祐希, 金村 卓, 京 英紀, 太田悟司, 大西英次郎, 岩城公一, 安田 義: 前外側大腿皮弁による手部軟部組織欠損の再建. 第27回日本外傷学会総会学術集会, 久留米, 2013.5.23-24

3. Ryosuke Ikeguchi, Hisataka Takeuchi, Mutsumi Watanabe, Yuki Okutani, Takuhiro Yoshikawa, Masashi Kanamura, Hidenori Kyo, Gota Kimura, Satoshi Ota, Eijiro Ohnishi, Koichi Iwaki, Keiichi Kawanabe, Tadashi Yasuda : Humeral component insertion method for cases of distal humeral large bone defects in total elbow arthroplasty. 12<sup>th</sup> Congress of AFJO (Association France-Japon d'Orthopedie), Kyoto, 2013. 5 .31
4. 池口良輔, 竹内久貴, 渡邊 睦, 奥谷祐希, 金村 卓, 京 英紀, 木村豪太, 太田悟司, 大西英次郎, 岩城公一, 安田 義 : 上腕骨々幹部骨折に伴う橈骨神経麻痺について. 第39回日本骨折治療学会, 久留米, 2013. 6 .28-29
5. Ryosuke Ikeguchi, Ryosuke Kakinoki, Hiroshi Tsuji, Tadashi Yasuda, Shuichi Matsuda : Peripheral nerve regeneration through a silicone chamber implanted with negative carbon ions: possibility to clinical application. 18th Internal Conference on surface modification of materials by ion beams, Kusadasi, Turkey, 2013. 9 .15-20
6. Ryosuke Ikeguchi, Ryosuke Kakinoki, Hiroshi Tsuji, Tadashi Yasuda, Shuichi Matsuda : Peripheral nerve regeneration through artificial conduits and their medical applications. 18th Internal Conference on surface modification of materials by ion beams, Kusadasi, Turkey, 2013. 9 .15-20
7. 池口良輔, 竹内久貴, 渡邊 睦, 奥谷祐希, 金村 卓, 京 英紀, 木村豪太, 太田悟司, 大西英次郎, 岩城公一, 安田 義 : 前外側大腿皮弁における皮弁採取部の障害について. 第40回日本マイクロサージャリー学会, 盛岡, 2013. 9 .26-28
8. 池口良輔, 竹内久貴, 渡邊 睦, 奥谷祐希, 岩城公一, 安田 義 : 肘頭部に生じた軟部組織欠損に対し、逆行性上腕外側皮弁にて再建を行った1例. 第26回日本肘関節学会学術集会, 東京, 2014. 3 .1
9. 池口良輔, 竹内久貴, 渡邊 睦, 奥谷祐希, 金村 卓, 京 英紀, 木村豪太, 太田悟司, 大西英次郎, 岩城公一, 安田 義 : 前外側大腿皮弁における皮弁採取部の障害について. 第36回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会, 京都, 2014. 3 .8
10. Ryosuke Ikeguchi, Ryosuke Kakinoki, Hiroto Mitsui, Tomoki Aoyama, Tadashi Yasuda, Junya Toguchida, Shuichi Matsuda : Immunomodulation of recipient mesenchymal stem cells in composite tissue allotransplantation. American Academy of Orthopedic Surgeons, New Orleans, USA, 2014. 3 .11-15
11. 岩城公一 : 劇症型溶連菌感染症. (日本整形外科学会教育研修講演) 第25回神戸オープンボーンカンファレンス, 神戸, 2013. 9 .7
12. 岩城公一 : 整形外科領域における劇症型溶連菌感染症について. 神戸市整形外科医会学術講演会, 神戸, 2014. 3 .22
13. 太田悟司, 奥谷祐希, 渡邊 睦, 金村 卓, 竹内久貴, 京 英紀, 木村豪太, 大西英次郎, 池口良輔, 岩城公一, 安田 義 : THA後のステム周囲骨折の2例. 第19回神戸京整会症例検討会, 神戸, 2014. 2 .7
14. 大西英次郎, 藪 隆, 松下 睦 : 歯突起後方偽腫瘍における危険因子の検証および後方固定術の成績. 第42回日本脊椎脊髄病学会, 宜野湾市, 2013. 4 .25-27
15. 大西英次郎 : 当院における胸腰椎疾患の治療. 神戸整形外科談話会, 神戸, 2014. 1 .23
16. 奥谷祐希, 渡邊 睦, 金村 卓, 竹内久貴, 京 英紀, 木村豪太, 太田悟司, 大西英次郎, 池口良輔, 岩城公一, 安田 義 : Suprapatellar Incisionを用いた脛骨髄内釘の使用経験. 第18回神戸京整会症例検討会, 神戸, 2013. 8 .9

17. 奥谷祐希, 竹内久貴, 池口良輔, 安田 義: 感染を生じた前腕開放骨折に伴う軟部組織欠損を前外側大腿皮弁で修復した1例. 第121回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 名古屋, 2013.10.3
18. 金村 卓, 竹内久貴, 池口良輔: 母趾欠損に対して逆行性短趾伸筋弁を行った1例. 第120回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 和歌山, 2013.4.5
19. 金村 卓, 渡邊 睦, 奥谷祐希, 竹内久貴, 京 英紀, 木村豪太, 太田悟司, 大西英次郎, 池口良輔, 岩城公一, 安田 義: 大腿骨転子下骨折の骨折型と髓内釘の固定性について. 第22回兵庫県骨折治療研究会, 神戸, 2013.10.26
20. 金村 卓, 渡邊 睦, 奥谷祐希, 竹内久貴, 京 英紀, 木村豪太, 太田悟司, 大西英次郎, 池口良輔, 岩城公一, 安田 義: 大腿骨転子下骨折の骨折型と髓内釘の固定性について. 第40回日本股関節学会学術集会, 広島, 2013.11.29
21. 京 英紀, 川那辺圭一, 奥谷祐希, 金村 卓, 竹内久貴, 木村豪太, 太田悟司, 安田 義: ソケットの posterior lipはimpingeの危険因子である. 第44回日本人工関節学会, 宜野湾市, 2014.2.21
22. 竹内久貴, 松本真一, 吉川拓宏, 京 英紀, 池口良輔, 川那辺圭一: 橈骨遠位端骨折に対するDVR Anatomic Plate Systemの治療成績. 第120回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 和歌山, 2013.4.6
23. 竹内久貴, 岩城公一, 安田 義: BS-5 TKA後にpatellar clunk syndromeを生じた4例. 第50回兵庫県膝関節研究会, 神戸, 2013.9.7
24. 安田 義: 関節腔内に注入されたヒアルロン酸の薬効として、どのような効果が期待できるか? 兵庫県整形外科医会平成25年度第2回学術講演会, 神戸, 2013.4.6
25. Tadashi Yasuda: Hyaluronan inhibits nuclear factor- $\kappa$ B activation by type II collagen peptide in osteoarthritic chondrocytes via CD44 and ICAM-1. 2013 Osteoarthritis Research Society International World Congress, Philadelphia, USA, 2013.4.18-21
26. 安田 義, 林 良一, 関 賢二, 大庭真央, 西松秀和: アトピー性皮膚炎は細菌侵入路となり整形外科的感染症を引き起こす. 第86回日本整形外科学会学術集会, 広島, 2013.5.25
27. Tadashi Yasuda: Nuclear factor- $\kappa$ B activation by type II collagen peptide is inhibited by hyaluronan via CD44 and ICAM-1 in chondrocytes. The 2<sup>nd</sup> Joint Meeting of the International Bone and Mineral Society and the Japanese Society for Bone and Mineral Research, Kobe, 2013.5.29
28. 安田 義: ①頭頸部(肩甲帯を含む)の関節、②運動上肢の関節運動. 健康運動指導士養成講習会, 大阪, 2013.6.16
29. 安田 義: 柔道における膝半月板損傷. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013.9.21
30. Tadashi Yasuda: Inhibition of prostaglandin E2 synthesis by hyaluronan through NF- $\kappa$ B down-regulation via ICAM-1 in U937 macrophages. 8<sup>th</sup> Combined Meeting of Orthopaedic Research Societies, Venice, Italy, 2013.10.16
31. 安田 義: ①頭頸部(肩甲帯を含む)の関節運動、②上肢の関節運動. 健康運動指導士養成講習会, 大阪, 2013.10.27

32. Yasuda T, Kyo H, Watanabe M, Okutani Y, Kanamura M, Takeuchi H, Kimura G, Ohta S, Ohnishi E, Ikeguchi R, Iwaki K, Nishimatsu H : Atopic dermatitis as a risk factor for orthopaedic infections. 2<sup>nd</sup> World Congress on Controversies, Debates & Consensus in Bone, Muscle & Joint Diseases, Brussels, Belgium, 2013.11.21-24
33. 安田 義：変形性関節症、関節リウマチにおける関節軟骨破壊. 第34回バイオトライボロジシンポジウム, 京都, 2014.3.8
34. Tadashi Yasuda : Nuclear Factor- $\kappa$ B Activation by Type II Collagen Peptide in Rheumatoid Arthritis Chondrocytes: Its Inhibition by Hyaluronan via CD44 and ICAM-1. Orthopaedic Research Society, New Orleans, USA, 2014.3.16
35. 渡邊 陸, 奥谷祐希, 金村 卓, 竹内久貴, 京 英紀, 木村豪太, 太田悟司, 大西英次郎, 池口良輔, 岩城公一, 安田 義：治療に難渋した大腿骨転子部骨折の一例. 第18回神戸京整会症例検討会, 神戸, 2013.8.9
36. 渡邊 陸, 奥谷祐希, 金村 卓, 竹内久貴, 京 英紀, 木村豪太, 太田悟司, 大西英次郎, 池口良輔, 岩城公一, 安田 義：大腿骨顆上部粉碎骨折の2例. 第19回神戸京整会症例検討会, 神戸, 2013.11.8

#### VIII. 1. 21 形成外科

1. 松添晴加, 池田実香, 片岡和哉：良性対称性脂肪腫症 (Madelung病) の1例. 第104回関西形成外科学会学術集会, 大阪市, 2013.7.21
2. 松添晴加, 池田実香, 片岡和哉：腹部大動脈瘤術後に腸管脱出を来した症例の治療経験. 第40回兵庫県形成外科医会研究会, 神戸市, 2013.11.16

#### VIII. 1. 22 産婦人科

1. 今村裕子, 北村幸子, 松本有紀, 林 信孝, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 星野達二, 北 正人：臨床的悪性の経過をたどったepithelioid smooth muscle tumorの1例. 第87回兵庫県産科婦人科学会学術集会, 神戸, 2013.6.9
2. 大竹紀子, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 北 正人：経膈分娩における癒着胎盤の検討. 第65回日本産科婦人科学会, 札幌, 2013.5.10-12
3. 大竹紀子, 松本有紀, 林 信孝, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 北 正人：右卵管妊娠術後妊娠の満期で母体出血性ショックにてIUFDとなるも母体救命できた1例. 第128回近畿産科婦人科学会, 大津, 2013.6.15-16
4. 大竹紀子, 北 正人：バーサポート オプティカルトロッカー 安全なポートセッティング～ビデオ監修. 第53回日本産科婦人科内視鏡学会, 名古屋, 2013.9.5-8
5. 大竹紀子, 北 正人, 小山瑠梨子, 須賀真美, 青木卓哉, 星野達二：コルポトマイザー操作の定型化による腹腔鏡下子宮全摘術の若手教育への導入. 第53回日本産科婦人科内視鏡学会, 名古屋, 2013.9.5-8
6. 大竹紀子, 北 正人, 臼木 彩, 松本有紀, 林 信孝, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二：TLHの子宮頸部・陰管の処理について. 第14回近畿産婦人科内視鏡手術研究会, 大阪, 2014.2.2
7. 北 正人, 松本有紀, 林 信孝, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二：リンパ管温存リンパ節郭清の手技と有用性の検討. 第65回日本産科婦人科学会, 札幌, 2013.5.10-12

8. 北 正人, 松本有紀, 林 信孝, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二: 婦人科悪性腫瘍に対する吊り上げ式傍大動脈リンパ節廓清手術の試み. 第54回日本婦人科腫瘍学会, 東京, 2013. 7. 19-21
9. 北 正人: TLHを生殖・内分泌と悪性腫瘍の視点から考える～分岐点に選んだ術式とEnergy Device 悪性腫瘍の立場から. 第53回日本産科婦人科内視鏡学会, 名古屋, 2013. 9. 5-8
10. 北 正人, 白木 彩, 松本有紀, 林 信孝, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二: V-NOTES: Vaginal Natural Orifice Trans Endoscopic Surgeryの開発と臨床応用. 第53回日本産科婦人科内視鏡学会, 名古屋, 2013. 9. 5-8
11. 北 正人, 白木 彩, 松本有紀, 林 信孝, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二: リンパ管温存リンパ節廓清の手技と有用性の検討. 第51回日本癌治療学会, 京都, 2013. 10. 25-26
12. 北 正人: 子宮内膜症 臨床update 2013 産婦人科内視鏡手術ガイドライン2013の要旨. 第3回神戸 Endometriosis検討会, 神戸, 2013. 11. 30
13. Masato Kita, Aya Usuki, Yuki Matsumoto, Nobutaka Hayashi, Taito Miyamoto, Ruriko Oyama, Asuka Hirao, Noriko Otake, Sachiko Kitamura, Mami Suga, Kazunao Miyamoto, Aki Takaoka, Takuya Aoki, Yuko Imamura, Tatsuji Hoshino: lymph vessel sparing lymph node dissection technique and clinical significance. 3rd Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology, Kyoto, 2013. 12. 15
14. 北村幸子, 松本有紀, 林 信孝, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 北 正人: 救急外来を經由後に診断が確定した婦人科悪性腫瘍患者についての検討. 第87回兵庫県産科婦人科学会学術集会, 神戸, 2013. 6. 9
15. 北村幸子, 松本有紀, 林 信孝, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 北 正人: 救急外来を經由後に診断が確定した婦人科悪性腫瘍患者についての検討. 第54回日本婦人科腫瘍学会, 東京, 2013. 7. 19-21
16. 柴谷直樹, 仲宗根亜紀, 佐藤志保, 岸本修一, 北田徳昭, 西岡和子, 青木卓哉, 北 正人, 猪爪信夫, 橋田 亨, 福島昭二: 切迫早産患者におけるリトドリンの全身クリアランスに及ぼす遺伝子多型の影響. 日本薬学会第134年会, 熊本, 2014. 2. 2
17. 須賀真美, 松本有紀, 林 信孝, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 大竹紀子, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 北 正人: 当院の腹腔鏡下手術における第一穿刺の改良と成績 - コッヘル鉗子を用いたオプティカル・ダイレクト法について -. 第12回兵庫産婦人科内視鏡手術懇話会, 神戸, 2013. 4. 20
18. 高岡亜妃, 松本有紀, 林 信孝, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 北 正人: 当院に搬送された産褥膣外陰血腫症例の検討. 第65回日本産科婦人科学会, 札幌, 2013. 5. 10-12
19. 林 信孝, 光岡英世, 三木 明, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 北 正人: 開腹歴のない妊娠32週の妊婦に発症した絞扼性イレウスの1例. 第128回近畿産科婦人科学会, 大津, 2013. 6. 15-16



20. 林 信孝, 臼木 彩, 松本有紀, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 北 正人: 当院における10年間の悪性腫瘍合併妊娠10例の検討. 第129回近畿産科婦人科学会, 大阪, 2013.11.10
21. 星野達二, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 北 正人: 当院で2009~2011年に測定されたトキソプラズマ抗体検査について. 第65回日本産科婦人科学会, 札幌, 2013. 5 .10-12
22. 松本有紀, 林 信孝, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 北 正人: 分娩時約11Lの出血をきたしUAEで止血するも、産褥期にSheehan症候群を発症した1例. 第65回日本産科婦人科学会, 札幌, 2013. 5 .10-12
23. 松本有紀, 林 信孝, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 北 正人: 分娩時11Lの出血をきたし、産褥期にSheehan症候群を発症した1例. 第87回兵庫県産科婦人科学会学術集会, 神戸, 2013. 6 . 9
24. 松本有紀, 林 信孝, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 北 正人: 未治療糖尿病患者の子宮筋腫が膿傷化・破裂し腹膜炎となった1例. 第128回近畿産科婦人科学会, 大津, 2013. 6 .15-16
25. 宮本泰斗, 林 信孝, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 北 正人: 当院における妊娠22週以降の子宮内胎児死亡例の検討. 第65回日本産科婦人科学会, 札幌, 2013. 5 .10-12
26. 宮本泰斗, 松本有紀, 林 信孝, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 北 正人: 当院における妊娠22週以降の子宮内胎児死亡例の検討. 第6回温知会サマーフォーラム, 京都, 2013. 7 .15
27. 宮本泰斗, 林 信孝, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 今井幸弘, 篠原尚吾, 辻 晃仁, 北 正人: 術前診断が困難であった原発性卵巣癌-4重複癌の1例. 第51回日本癌治療学会, 京都, 2013.10.25-26
28. 宮本泰斗, 臼木 彩, 松本有紀, 林 信孝, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 北村幸子, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 北 正人: 当科での前置癒着胎盤に対する帝王切開症例の検討. 第129回近畿産科婦人科学会, 大阪, 2013.11.10

## VIII. 1. 23 泌尿器科

1. 今尾哲也, 天野俊康, 竹前克朗, 川喜田睦司: 傍神経節腫の1例. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋, 2013.11. 7
2. 宇都宮紀明, 松本敬優, 上山裕樹, 常森寛行, 塚崎秀樹, 金丸聰淳, 高橋 毅, 岩村博史, 清川岳彦, 伊藤哲之, 六車光英, 川喜田睦司: 過活動膀胱 (OAB) を有する前立腺肥大症患者に対する薬物治療の臨床的検討-クロスオーバー法を用いた比較検討-. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌市, 2013. 4 .25
3. 宇都宮紀明, 西原大策, 河野有香, 松岡崇志, 矢野敏史, 岡田卓也, 川喜田睦司: 腹腔鏡下腎部分切除術におけるサイモンキドニーグラスパー鉗子の有用性の検討. 第22回Clinical Urology研究会, 神戸市, 2013. 9 .28

4. Noriaki Utsunomiya, Daisaku Nishihara, Yuka Kono, Takashi Matsuoka, Toshifumi Yano, Takuya Okada, Mutsushi Kawakita : Selective Renal Parenchymal Clamping in Laparoscopic Partial Nephrectomy. The 31st World Congress of Endourology and SWL, New Orleans, USA, 2013.10.26
5. 宇都宮紀明, 河野有香, 西原大策, 松岡崇志, 矢野敏史, 岡田卓也, 川喜田睦司 : 腹腔鏡下腎部分切除術におけるサイモンキドニーグラスパー鉗子の有用性の検討. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋市, 2013.11.8
6. 宇都宮紀明, 松本敬優, 上山裕樹, 常森寛行, 塚崎秀樹, 金丸聰淳, 高橋 毅, 岩村博史, 清川岳彦, 伊藤哲之, 六車光英, 川喜田睦司 : 過活動膀胱 (OAB) を有する前立腺肥大症患者に対する薬物治療の臨床的検討ークロスオーバー法を用いた比較検討ー. 第11回兵庫UB研究会, 神戸市, 2013.11.21
7. 宇都宮紀明, 西原大策, 河野有香, 矢野敏史, 岡田卓也, 川喜田睦司 : 腹腔鏡下両側腎摘除術を施行したPKDの1例. 第45回兵庫岡山RCC研究会, 豊岡市, 2014.1.18
8. 岡田卓也, 河野有香, 松本敬優, 宇都宮紀明, 常森寛行, 六車光英, 川喜田睦司 : 根治的前立腺全摘術におけるpN1症例の検討. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌市, 2013.4.25
9. 岡田卓也, 西原大策, 河野有香, 松岡崇志, 矢野敏史, 宇都宮紀明, 川喜田睦司, 小久保雅樹, 高山賢二 : High-risk (HR) 限局性前立腺癌に対する高線量放射線療法 (EBRT) の治療成績. 第63回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋市, 2013.11.30
10. 岡田卓也, 西原大策, 河野有香, 松本敬優, 松岡崇志, 矢野敏史, 常森寛行, 宇都宮紀明, 六車光英, 川喜田睦司 : 腎部分切除後、尿瘻が遷延し治療に苦慮した1例. 第12回東北泌尿器科手術手技研究会・第32回泌尿器科手術研究会ジョイント開催, 仙台市, 2014.3.15
11. 川喜田睦司 : 特別講演 前立腺肥大症の核出術 (HoLEP/TUEB). 第2回香川LTUSスモールミーティング, 高松市, 2013.4.5
12. 川喜田睦司, 松本敬優, 河野有香, 宇都宮紀明, 常森寛行, 岡田卓也, 清川岳彦, 六車光英 : 精巣腫瘍の横隔膜脚後部リンパ節転移に対する経腹膜経小網前方到達法による郭清術 (ビデオ). 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌市, 2013.4.26
13. 川喜田睦司 : ワークショップ : BPHの手術について : HoLEP. 第65回兵庫県泌尿器科医会学術講演会, 神戸市, 2013.6.1
14. 川喜田睦司 : さまざまな使用例ータコシール使用例あれこれー. 泌尿器科手術セミナー, 神戸市, 2013.6.8
15. 川喜田睦司, 岡田卓也, 宇都宮紀明, 矢野敏史, 松岡崇志, 河野有香, 西原大策, 石川英二 : 当病院での診療成績について. 第11回港島泌尿器科病院診療所交流会 (明石・淡路), 明石市, 2013.6.27
16. 川喜田睦司 (コーディネーター), 川端 岳, 繁田正信 (講師) : 第5回泌尿器腹腔鏡下縫合・結紮手技講習会, 神戸市, 2013.7.7
17. 川喜田睦司 : 後腹膜鏡下右腎摘除術. 第21回日本泌尿器内視鏡学会ビデオ講習会, 東京, 2013.7.20
18. 川喜田睦司 : 腹腔鏡下縫合・結紮手技 Dry Boxを用いたHands-on Training. Kansai Hands-on Training Seminar, 大阪, 2013.8.31

19. 川喜田睦司：腹腔鏡下膀胱全摘除術を通して見る骨盤内解剖（スポンサードシンポジウム：他科領域のエキスパートに学ぶ骨盤臓器解剖－3D画像で見る尿管／膀胱～腸管取り扱いのコツ－）. 第53回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 名古屋市, 2013. 9. 6
20. 川喜田睦司：イブニングセミナー1 腹腔鏡下前立腺全摘除術のキーポイント：切除後後壁補強・膀胱尿道吻合. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋市, 2013.11. 7
21. 川喜田睦司：シンポジウム14 腎癌に対する腹腔鏡下腎部分切除術のエビデンスを問う：腹腔鏡下腎部分切除術における残存腎機能に影響する因子：腎実質縫合とNephrometryスコアの検討. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡市, 2013.11.29
22. 川喜田睦司：シンポジウム17 前立腺癌に対する腹腔鏡手術のエビデンスを問う：腹腔鏡下根治的前立腺全摘除術における拡大骨盤リンパ節郭清術. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡市, 2013.11.30
23. 川喜田睦司：前立腺癌の診断と内分泌療法. サノフィ社内勉強会, 神戸市, 2013.12. 5
24. 川喜田睦司：泌尿器科の病気をからだにやさしく治します. 平成25年度後期土曜健康科学セミナー（健康ライブラザ）, 神戸市, 2013.12. 7
25. 川喜田睦司：女性の腹腔鏡下膀胱全摘除術（前方骨盤内臓器全摘除術）. 第3回3D内視鏡手術勉強会, 京都市, 2014. 2. 1
26. 川喜田睦司：LUTSの診断と治療. 第2回港島LUTSセミナー, 神戸市, 2014. 2. 13
27. 川喜田睦司：精巣腫瘍・腎盂尿管腫瘍に対する後腹膜リンパ節郭清術. 第23回Clinical Urology, 神戸市, 2014. 3. 1
28. 川喜田睦司：前立腺全摘除術のためのDry Boxを用いた縫合トレーニング. Hands-on Training Seminar, 大阪市, 2014. 3. 8
29. 川喜田睦司：腹腔鏡下前立腺全摘除術－導入から14年を経て－. 鳥取県東部泌尿器手術手技研究会, 鳥取市, 2014. 3. 10
30. 川喜田睦司, 岡田卓也, 宇都宮紀明, 矢野敏史, 松岡崇志, 河野有香, 西原大策, 石川英二：当病院での診療成績について. 第12回港島泌尿器科病院診療所交流会（芦屋・西宮・三田）, 西宮市, 2014. 3. 13
31. 川喜田睦司：前立腺全摘除術－RRPからLRP、そしてRARPへ－. 第8回七隈前立腺フォーラム, 福岡市, 2014. 3. 14
32. 川喜田睦司：前立腺癌に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術－腹膜外到達法による拡大郭清への挑戦－. 第28回U-TEC（Takeda Expert TV Conference in Urology）, 東京, 2014. 3. 19
33. 木下秀文, 小倉啓司, 河 源, 川喜田睦司, 吉田健志, 室田卓之, 松田公志：前立腺癌に対する即時 vs 遅延CAB療法の近接効果、randomized controlled trialのデータから. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌市, 2013. 4. 25
34. 河野有香, 岡田和幸, 三木 明, 小林裕之, 貝原 聡, 川喜田睦司：腹腔鏡下幽門側胃切除術と同時に行った仰臥位経腹膜前方到達法による左副腎摘除術. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌市, 2013. 4. 26

35. 河野有香, 西原大策, 松岡崇志, 矢野敏史, 宇都宮紀明, 岡田卓也, 川喜田睦司: 腹腔鏡下膀胱全摘除術の初期経験. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋市, 2013.11.8
36. 河野有香, 西原大策, 松岡崇志, 矢野敏史, 宇都宮紀明, 岡田卓也, 川喜田睦司: 当院における骨転移治療薬の使用状況. 新時代の骨転移治療 in 神戸, 神戸市, 2013.11.14
37. 瀧口修司 (コーディネーター), 稲木紀幸, 川喜田睦司 (講師): 第117回日本内視鏡外科学会腹腔鏡下結紮・縫合手技講習会, 神戸市, 2013.5.26
38. 瀧口修司 (コーディネーター), 金尾祐之, 川喜田睦司 (講師): 第123回日本内視鏡外科学会腹腔鏡下結紮・縫合手技講習会, 神戸市, 2013.9.29
39. 常森寛行, 河野有香, 松本敬優, 宇都宮紀明, 岡田卓也, 六車光英, 川喜田睦司: 当院における腹腔鏡下腎盂形成術の治療成績. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌市, 2013.4.28
40. 東郷容和, 伊藤哲之, 川喜田睦司, 山本新吾: スニチニブ2投1休投与法に関する多施設共同研究. 第63回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋市, 2013.11.29
41. 内藤 剛 (コーディネーター), 田上和夫, 川喜田睦司 (講師): 第116回日本内視鏡外科学会腹腔鏡下結紮・縫合手技講習会, 神戸市, 2013.5.25
42. 西原大策, 河野有香, 松岡崇志, 矢野敏史, 宇都宮紀明, 岡田卓也, 川喜田睦司: アキシチニブによる術前治療を行った腎細胞癌の1例. 第240回泌尿器科マンスリーミーティング, 芝蘭会館別館, 京都市, 2013.10.12
43. 西原大策, 河野有香, 松岡崇志, 矢野敏史, 宇都宮紀明, 岡田卓也, 川喜田睦司: 当院における腎外傷の検討. 第63回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋市, 2013.11.30
44. 西原大策: 症例提示3・4. 第2回港島LUTSセミナー, 神戸市, 2014.2.13
45. 松岡崇志, 西原大策, 河野有香, 矢野敏史, 宇都宮紀明, 岡田卓也, 川喜田睦司: Oncocytic papillary RCCの2例. 第44回兵庫岡山RCC研究会, 神戸市, 2013.6.29
46. 松岡崇志, 西原大策, 河野有香, 矢野敏史, 宇都宮紀明, 岡田卓也, 川喜田睦司, 市川千宙, 今井幸弘: Oncocytic papillary RCCの2例. 第63回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋市, 2013.11.29
47. 松岡崇志: 症例提示1・2. 第2回港島LUTSセミナー, 神戸市, 2014.2.13
48. 松本敬優, 河野有香, 住吉崇幸, 増田憲彦, 白石裕介, 宇都宮紀明, 常森寛行, 大久保和俊, 岡田卓也, 清川岳彦, 六車光英, 川喜田睦司: 腹腔鏡下前立腺全摘術におけるDVC無結紮処理法についての検討. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌市, 2013.4.25
49. 六車光英, 河野有香, 松本敬優, 宇都宮紀明, 常森寛行, 岡田卓也, 川喜田睦司: 透析腎癌に対する腹腔鏡下腎摘除術の検討. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌市, 2013.4.26
50. 矢野敏史, 西原大策, 河野有香, 松岡崇志, 宇都宮紀明, 岡田卓也, 川喜田睦司: 骨肉腫腎転移の1例. 第44回兵庫岡山RCC研究会, 神戸市, 2013.6.29

51. 矢野敏史, 西原大策, 河野有香, 松岡崇志, 宇都宮紀明, 岡田卓也, 川喜田睦司: 浸潤性前立腺癌の1例. 第1回KULP Seminar, 神戸東急イン, 神戸市, 2013.10.5
52. 矢野敏史, 西原大策, 河野有香, 松岡崇志, 宇都宮紀明, 岡田卓也, 川喜田睦司: 骨肉腫腎転移の1例. 第63回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋市, 2013.11.30
53. 矢野敏史, 宇都宮紀明, 西原大策, 河野有香, 岡田卓也, 川喜田睦司: 腎動脈選択的遮断を行った腹腔鏡下腎部分切除術の1例. 第45回兵庫岡山RCC研究会, 豊岡市, 2014.1.18

## VIII. 1. 24 眼科

1. 宇山紘史: 眼科救急. 救急オープンセミナー, 神戸市, 2013.8.14
2. 宇山紘史, 亀田隆範, 平見恭彦, 広瀬文隆, 栗本康夫: Ex-PRESSSTM併用濾過手術の短期手術成績. 第24回日本緑内障学会, 東京, 2013.9.21-23
3. 宇山紘史, 亀田隆範, 平見恭彦, 広瀬文隆, 西田明弘, 石田和寛, 栗本康夫: 前眼部OCTによるEx-PRESS®デバイスの観察. 第64回京大眼科同窓会, 京都市, 2013.11.10
4. 宇山紘史, 亀田隆範, 平見恭彦, 広瀬文隆, 西田明弘, 石田和寛, 栗本康夫: 3次元前眼部光干渉断層計を用いたEx-PRESS®デバイスの観察. 第37回日本眼科手術学会, 京都市, 2014.1.17-19
5. 宇山紘史, 中村隆宏, 石田和寛, 外園千恵, 稲富 勉, 木下 茂, 栗本康夫: シリコンオイル注入眼に併発した帯状角膜変性に対しPTKを施行した2例. 第38回日本角膜学会, 第30回日本角膜移植学会, 宜野湾市, 2014.1.30-2.1
6. 門之園一明, 栗本康夫, 栗山晶治, 高橋政代: ラウンドテーブル・ディスカッション. 第8回Ophthalmic Gallery眼科研究会, 京都市, 2013.4.13
7. 亀田隆範: 緑内障治療(インプラント手術の可能性)(講師). 第8回Ophthalmic Gallery眼科研究会, 京都市, 2013.4.13
8. Kameda T: Long-term efficacy of goniosynechialysis combined with phacoemulsification for primary angle closure (Symposium). The 8th Annual Meeting of the Glaucoma Summer Camp (GSC), Sendai, 2013.7.25-26
9. 亀田隆範: 緑内障インプラント手術の成績(講演). コソプト®配合点眼液発売3周年記念講演会, 神戸市, 2013.8.10
10. 亀田隆範: 近視眼の隅角形状解析(講演). 第4回近視緑内障研究会, 東京, 2013.9.23
11. 亀田隆範: 最近話題の手術「EXPRESS」(講演). 第1回眼科手術症例無差別級の会~いろんな症例どんと来い~, 神戸市, 2013.10.5
12. Kameda T, Mandai M, Nishida A, Miyamoto N, Shimozone M, Kurimoto Y: Longitudinal changes of macular fluid patterns on recurrences in treating polypoidal choroidal vasculopathy during 2 year follow up. 第52回日本網膜硝子体学会(JRVS), The 8th Congress of Asia Pacific Vitreo-retina Society (APVRS) Congress, 名古屋市, 2013.12.6-8
13. 栗本康夫, 平見恭彦, 森永千佳子, 万代道子, 高橋政代: 加齢黄斑変性に対する人工多能性幹細胞由来網膜色素上皮細胞移植の臨床研究実施計画. 第117回日本眼科学会, 東京, 2013.4.4-7

14. 栗本康夫：眼科手術の進歩に伴う生体材料の展開 Development of Biomaterials in Eye Surgery (シンポジウム、オーガナイザー リマーク). 第117回日本眼科学会, 東京, 2013. 4. 4 - 7
15. 栗本康夫：滲出型加齢黄斑変性に対する自家iPS細胞由来網膜色素上皮細胞シート移植手術 (シンポジウム). 第8回Ophthalmic Gallery眼科研究会, 京都市, 2013. 4. 13
16. 栗本康夫：滲出型加齢黄斑変性に対する自家iPS細胞由来網膜色素上皮細胞移植 (講演). 第130回広島県眼科医会講習会, 広島市, 2013. 4. 21
17. 栗本康夫：PACの水晶体再建術 (インストラクションコース・オーガナイザー、講師). 第28回JSCRS学術総会, 第52回白内障学会, 東京, 2013. 6. 27-29
18. 栗本康夫：浅前房眼に対する白内障手術 (シンポジウム・モデレーター). 第28回JSCRS学術総会, 第52回白内障学会, 東京, 2013. 6. 27-29
19. 栗本康夫：浅前房眼に対する白内障手術:手術適応 (シンポジウム). 第28回JSCRS学術総会, 第52回白内障学会, 東京, 2013. 6. 27-29
20. Kurimoto Y : Angle closure mechanisms (Panel Discussion). The 26th APACRS Annual meeting. 10th Asian Angle Closure Glaucoma Club satellite Meeting, Singapore, 2013. 7. 11-14
21. Kurimoto Y : Anterior segment parameters and myopic glaucoma. (Japan-Taiwan Glaucoma Society Joint Symposium Glaucoma associated with myopia). The 5<sup>th</sup> World Glaucoma Congress, Vancouver, 2013. 7. 17-20
22. Kurimoto Y : Diagnosis of NTG. (Normal Tension Glaucoma - a systematic approach, Course). The 5<sup>th</sup> World Glaucoma Congress, Vancouver, 2013. 7. 17-20
23. 栗本康夫：滲出型加齢黄斑変性に対する自家iPS細胞由来網膜色素上皮細胞移植 (特別講演). 第8回神奈川黄斑研究会, 横浜市, 2013. 8. 31
24. 栗本康夫：滲出型加齢黄斑変性に対する自家iPS細胞由来網膜色素上皮細胞移植 (特別講演). 黄斑セミナー in 松本, 松本市, 2013. 9. 7
25. 栗本康夫：滲出型加齢黄斑変性に対する自家 iPS 細胞由来網膜色素上皮細胞移植 (特別講演). 第14回KMU研究推進セミナー 再生医療：高齢化過疎地での展開戦略, 金沢市, 2013. 9. 30
26. 栗本康夫：iPS細胞がもたらす網膜・視神経の再生医療とロービジョンケア (シンポジウム). 第14回日本ロービジョン学会, 倉敷市, 2013.10.11-13
27. 栗本康夫：私の使用経験レビュー (イブニングセミナー、講演). 第67回日本臨床眼科学会, 横浜市, 2013.10.31-11. 3
28. 栗本康夫, 酒井 寛, 国松志保, 山本哲也：原発閉塞隅角緑内障の治療戦略-中級編- (インストラクションコース). 第67回日本臨床眼科学会, 横浜市, 2013.10.31-11. 3
29. 栗本康夫：原発閉塞隅角緑内障の治療方針 (教育セミナー). 第37回日本眼科手術学会, 京都市, 2014. 1. 17-19

30. 栗本康夫：滲出型加齢黄斑変性に対する自家 iPS 細胞由来網膜色素上皮細胞移植（講演）. 第18回東京都眼科医会学術講演会, 東京都, 2014. 2 .15
31. 栗本康夫：PAC NOW 原発閉塞隅角緑内障診療の進歩と残された課題（特別講演）. 第13回Gの会, 山口県周南市, 2014. 2 .22
32. Kuroda M, Kojima H, Kameda T, Mandai M, Miyamoto N, Nishida A, Kurimoto Y : Response and dependence to ranibizumab therapy in AMD. 2013 Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual meeting, Seattle, Washington, USA, 2013. 5 . 5 – 9
33. 黒田麻紗子, 西田明弘, 菊地雅史, 栗本康夫：Purtscher 網膜症に血管新生緑内障を併発した一例. 第30回日本眼循環学会, 東京都, 2013. 7 .19–20
34. 黒田麻紗子, 西田明弘, 菊地雅史, 栗本康夫：Purtscher網膜症に血管新生緑内障を併発した一例. 第33回神戸市立医療センター中央市民病院眼科オープンカンファレンス, 神戸市, 2014. 3 . 8
35. 木場みゆき：多焦点IOLの近見視機能. 第28回JSCRS学術総会, 第52回白内障学会, 東京, 2013. 6 .27–29
36. 下園正剛, 宮本紀子, 栗本康夫：睜癌の外眼筋転移により急速に圧迫性視神経症をきたした1例. 第117回日本眼科学会, 東京, 2013. 4 . 4 – 7
37. 下園正剛：神経眼科で遭遇する腫瘍性疾患（講演）. 第7回神経眼科コロキウム～細雪の会～, 芦屋市, 2013. 5 .25
38. 下園正剛:白内障 どんな病気?どんな治療?（講演）. 目の愛護デー記念 目の健康講座と目の健康相談, 神戸市, 2013.10. 6
39. 下園正剛：神経眼科における画像診断～画像が診断の決め手となった症例集～. 第43回神戸市立医療センター中央市民病院眼科臨床懇話会, 神戸市, 2013.11. 7
40. 下園正剛：網膜剥離の硝子体手術症例. 第2回阪神網膜硝子体症例検討会 Kinki-Vitsの会, 神戸市, 2014. 1 .25
41. 下園正剛:白内障と緑内障～どんな病気?どんな治療?～（講演）. 平成25年度市老連福祉研修会, 神戸市, 2014. 2 .18
42. 高橋政代：遺伝性網膜硝子体視神経疾患を1度は見ておこう（インストラクションコース）. 第67回日本臨床眼科学会, 横浜市, 2013.10.31–11. 3
43. 西田明弘：加齢に伴う眼疾患 病態と治療. 視覚科学統合研究センター レクチャーシリーズ第1回, 草津市, 2013.11.25
44. 羽藤 晋, 奥村直毅, 平見恭彦, 大家義則, 壬生優子：再生医療研究の最前線！トランスレーショナル・リサーチの実践（インストラクションコース）. 第67回日本臨床眼科学会, 横浜市, 2013.10.31–11. 3
45. 平見恭彦：網膜・硝子体手術分野における生体材料の展開－網膜色素上皮細胞シートを例に－Preparation of iPS cell-derived retinal pigment epithelial cell sheet. (シンポジウム). 第117回日本眼科学会, 東京, 2013.4.4–7

46. 平見恭彦：滲出型加齢黄斑変性に対するiPS細胞由来RPE細胞移植の臨床研究プロトコール（モーニングセミナー）. 第117回日本眼科学会, 東京, 2013. 4. 4 - 7
47. 平見恭彦：網膜色素変性の診断 Clinical diagnosis of retinitis pigmentosa. (教育セミナー). 第117回日本眼科学会, 東京, 2013. 4. 4 - 7
48. 平見恭彦：iPS細胞を使った網膜再生医療 最近の進歩. 神戸市健康づくりセンター 健康ライフプラザ 平成25年度前期土曜健康科学セミナー, 神戸市, 2013. 4. 27
49. 平見恭彦：網膜色素変性と細胞移植治療（講演）. 第10回JRPS大阪支部医療講演会, 大阪市, 2013. 5. 19
50. 平見恭彦：iPS細胞による加齢黄斑変性治療 臨床研究実施計画（特別講演）. 第3回北六甲眼科倶楽部, 神戸市, 2013. 6. 1
51. 平見恭彦：網膜色素変性に対するバルプロ酸内服による治療の効果. 第40回神戸市立医療センター中央市民病院眼科臨床懇話会, 神戸市, 2013. 6. 6
52. 平見恭彦：iPS細胞を用いた網膜細胞移植治療（講演）. JRPS三重県支部医療講演会, 松阪市, 2013. 6. 9
53. 平見恭彦：iPS細胞を用いた網膜細胞移植治療（講演）. JRPS鹿児島県支部医療講演会, 鹿児島市, 2013. 7. 21
54. 平見恭彦：iPS細胞由来RPE細胞移植手術の開発（講演）. 第1回阪神網膜硝子体症例検討会, 神戸市, 2013. 8. 10
55. 平見恭彦：iPS細胞による加齢黄斑変性治療 臨床研究実施計画（特別講演）. 第6回Eye update forum, 東京都, 2013. 9. 6
56. 平見恭彦：iPS細胞による加齢黄斑変性治療 臨床研究実施計画（特別講演）. 第6回広島大学・山口大学眼科Ground Rounds, 山口市, 2013. 9. 14
57. 平見恭彦：網膜色素変性症の治療法と今後の展望（講演）. 平成25年度難病医療相談会, 西宮市, 2013. 9. 29
58. 平見恭彦：iPS細胞による加齢黄斑変性治療 臨床研究実施計画（特別講演）. 第4回姫路オフサルミックセミナー, 姫路市, 2013. 10. 5
59. 平見恭彦, 高橋政代, 万代道子, 太田幸子, 栗本康夫：網膜色素変性に対する6か月間バルプロ酸内服治療終了後の経過. 第67回日本臨床眼科学会, 横浜市, 2013. 10. 31 - 11. 3
60. 平見恭彦, 山本 翠, 栗本康夫：角膜後面乱視を考慮したトーリックIOL挿入. 第33回神戸市立医療センター中央市民病院眼科オープンカンファレンス, 神戸市, 2014. 3. 8
61. 平見恭彦：iPS細胞による網膜再生治療の実現に向けて（講演）. 神戸アイランド協会2013年度神戸アイフェスタ, 神戸市, 2014. 3. 15
62. 広瀬文隆：PACの水晶体再建術（インストラクションコース・講師）. 第28回JSCRS学術総会, 第52回白内障学会, 東京, 2013. 6. 27 - 29



63. 広瀬文隆：緑内障外来報告:エキスプレス併用濾過手術の実際. 第41回神戸市立医療センター中央市民病院眼科臨床懇話会, 神戸市, 2013. 7 . 4
64. 広瀬文隆：緑内障：インプラントの経験. 第11回兵庫県眼科オープンカンファレンス, 神戸, 2013. 9 .14
65. 広瀬文隆：暗室うつむき試験は有用か？（シンポジウム）. 第24回日本緑内障学会, 東京, 2013. 9 .21-23
66. 広瀬文隆：閉塞隅角の治療適応を考える（講演）. 第36回兵庫県緑内障研究会, 神戸市, 2014. 2 . 8
67. Matsuki T, Hirose F, Kameda T, Hirami Y, Kurimoto Y : Influence of Anterior Segment Biometric Parameters on the Anterior Chamber Angle Width in Eyes with Angle Closure and Open Angle. 2013 Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual meeting, Seattle, Washington, USA, 2013. 5 . 5 - 9
68. Matsuki T, Hirose F, Kameda T, Hirami Y, Kurimoto Y : Correlation between iris thickness and anterior segment biometric parameters in relation to physiological pupil dilation in eyes with angle closure and those with open angle. The 5<sup>th</sup> World Glaucoma Congress, Vancouver, 2013. 7 .17-20
69. 松木考顕, 中村隆宏, 平見恭彦, 今井幸弘, 外園千恵, 栗本康夫：梅毒性角膜実質炎後に水疱性角膜内皮移植術を施行した1例. 第38回日本角膜学会, 第30回日本角膜移植学会, 宜野湾市, 2014. 1 .30-2 . 1
70. 万代道子：ルセンチス効果不十分／依存群からの他剤移行治療の経過. 第16回兵庫県黄斑疾患研究会, 神戸市, 2013. 7 . 6
71. 万代道子：ES/iPS由来細胞を用いた視細胞移植～iPS由来RPE移植治療の次にくるもの～. 第42回神戸市立医療センター中央市民病院眼科臨床懇話会, 神戸市, 2013.10. 3
72. 三宅正裕, 山城健児, 赤木由美子, 大石明生, 後藤謙元, 辻川明孝, 齋藤昌晃, 栗本康夫, 山田 亮, 松田文彦, 吉村長久：COL8A1遺伝子変異と加齢黄斑変性の関連. 第67回日本臨床眼科学会, 横浜市, 2013.10.31-11. 3
73. Miyamoto N, Kuroda M, Ito S, Shimozone M, Ishida K, Kurimoto Y : External Limiting Membrane and Inner Segment/Outer Segment Status at pre- and post-pars plana vitrectomy in DME. 2013 Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual meeting, Seattle, Washington, USA, 2013. 5 . 5 - 9
74. 宮本紀子：加齢黄斑変性における新しい硝子体注射薬～アイリーアの使用経験～. 第42回神戸市立医療センター中央市民病院眼科臨床懇話会, 神戸市, 2013.10. 3
75. 宮本紀子：ルセンチス効果不十分／依存群からのアイリーア移行治療の経過. 加齢黄斑変性フォーラムin Kobe ～アイリーア発売1周年記念講演会～, 神戸市, 2013.10. 6
76. 宮本紀子：ポリープ状脈絡膜血管症に対するPDTとラニビズマブの比較～LAPTOP study～. これからの後眼部疾患の治療を考える, 神戸市, 2013.11.30
77. Miyamoto N, Mandai M, Shimozone M, Kameda T, Nishida A, Kurimoto Y : Visual and anatomical outcomes of after the induction therapy of intravitreal aflibercept in AMD. 第52回日本網膜硝子体学会（JRVS）, The 8th Congress of Asia Pacific Vitreo-retina Society（APVRS）Congress, 名古屋市, 2013.12. 6 - 8
78. 宮本紀子：ルセンチス効果不十分／依存群からのアイリーア移行治療の経過（講演）. 第8回京都大学臨床眼科討論, 京都市, 2013.12.13

79. 宮本紀子, 松木考顕, 石田和寛, 栗本康夫: 糖尿病黄斑浮腫に対する硝子体手術前後のSD-OCTにおける網膜の形態学的特徴の検討. 第37回日本眼科手術学会, 京都市, 2014. 1. 17-19
80. 宮本紀子: 変性近視の難症例. 第17回兵庫県黄斑疾患研究会, 神戸市, 2014. 2. 8
81. 宮本紀子: 黄斑疾患治療アップデート. 黄斑疾患勉強会, 神戸市, 2014. 3. 12
82. Yamada R, Hirose F, Matsuki T, Kameda T, Hirami Y, Kurimoto Y: Comparison of mydriatic provocative test with darkroom prone provocative test for determining anterior chamber angle configuration in eyes with primary angle closure. The 5<sup>th</sup> World Glaucoma Congress, Vancouver, 2013. 7. 17-20
83. Yamada R, Nishida A, Mandai M, Kurimoto Y: A predictive factor for recurrence of macular edema after successful intravitreal bevacizumab therapy in branch retinal vein occlusion. 第52回日本網膜硝子体学会 (JRVS), The 8th Congress of Asia Pacific Vitreo-retina Society (APVRS) Congress, 名古屋市, 2013.12. 6-8

## VIII. 1. 25 耳鼻咽喉科

1. 大西晶子: 人工内耳の両耳装用者の体験談 (講演). 第5回難聴と人工内耳に関する勉強会, 神戸市, 2014. 3. 29
2. Kanazawa Y: Obliteration decision based on the mastoid aeration in middle ear cholesteatoma surgery. 20th IFOS World Congress, Seoul, Korea, 2013. 6. 1-5
3. 金沢佑治: 耳鼻科救急. 神戸市立医療センター中央市民病院救急オープンセミナー, 神戸市, 2013.11.20
4. 金沢佑治: 人工内耳手術から見た第8脳神経MR画像の意義. 第23回京都耳鼻咽喉科研究会, 京都市, 2013.12.14
5. 金沢佑治: Predictive value of middle ear aeration before second-stage operation in staged tympanoplasty with soft-wall reconstruction. 第1回KCHOアカデミア研究発表会, 神戸市, 2014. 3. 15
6. 菊地正弘: 頭頸部癌における導入化学療法の効果判定にPET検査を用いることの意義. 第1回KCHOアカデミア研究発表会, 神戸市, 2014. 3. 15
7. Kishimoto I, Yamazaki H, Shinohara S, Fujiwara K, Kikuchi M, Naito Y: Etiology of 16 cases with rapidly progressive bilateral sensorineural hearing loss. 20th IFOS World Congress, Seoul, Korea, 2013. 6. 1-5
8. 岸本逸平, 篠原尚吾, 藤原敬三, 十名理紗, 諸頭三郎, 山本輪子, 宇佐美真一, 吉村豪兼, 内藤 泰: 当科におけるUsher症候群例、難聴遺伝子検査の検討. 第58回日本聴覚医学会, 松本市, 2013.10.24-25
9. 岸本逸平, 篠原尚吾, 藤原敬三, 菊地正弘, 十名理紗, 金沢佑治, 原田博之, 内藤 泰: common cavity症例における拡大内耳開窓による人工内耳術後の前庭機能評価. 第23回日本耳科学会, 宮崎市, 2013.11.24-26
10. 篠原尚吾, 藤原敬三, 菊地正弘, 十名理紗, 金沢佑治, 岸本逸平, 原田博之: ご紹介頂いた症例呈示、治療方針、経過報告、診療の話題. 第10回神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス, 神戸市, 2013.12.12
11. 玉谷輪子: 新しい人工内耳適用基準について (講演). 第5回難聴と人工内耳に関する勉強会, 神戸市, 2014. 3. 29

12. 塚田景大, 岩崎 聡, 茂木英明, 工 穰, 西尾信哉, 熊川孝三, 内藤 泰, 高橋晴雄, 東野哲也, 宇佐美真一: 残存聴力活用型人工内耳 (EAS: electric acoustic stimulation) の聴取能について: 低音部残存聴力との相関. 第58回日本聴覚医学会, 松本市, 2013.10.24-25
13. 十名理紗: 人工内耳手術後の中耳炎例の検討. 第27回近畿耳鼻咽喉科手術手技研究会, 大阪市, 2013. 4 .13
14. Tona R : Closing tympanic membrane perforations using atelocollagen and platelet-rich plasma (PRP). 20th IFOS World Congress, Seoul, Korea, 2013. 6 . 1 - 5
15. 十名理紗, 内藤 泰, 藤原敬三, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治, 岸本逸平, 原田博之: 人工内耳術後の中耳炎例の検討. 第75回耳鼻咽喉科臨床学会, 神戸市, 2013. 7 .11-12
16. 十名理紗, 藤原敬三, 塩見洋作, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治, 岸本逸平, 原田博之, 内藤 泰: 多血小板血漿を用いた鼓膜形成術. 第174回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸市, 2013. 7 .13
17. 十名理紗, 大西晶子: 耳鼻咽喉科 人工内耳リハビリテーション. スタートアップミーティング, 神戸市 (先端医療センター), 2013.11.18
18. 十名理紗, 藤原敬三, 塩見洋作, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治, 岸本逸平, 原田博之, 内藤 泰: 多血小板血漿を用いた鼓膜形成術. 第23回日本耳科学会, 宮崎市, 2013.11.24-26
19. 十名理紗: 難聴児の急性耳疾患 (講演). 第 5 回難聴と人工内耳に関する勉強会, 神戸市, 2014. 3 .29
20. 十名理紗, 藤原敬三, 内藤 泰, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治, 岸本逸平, 原田博之: 両側先天性外耳道閉鎖症に対して人工中耳 (MVS) 手術を行った例. 第176回日耳鼻兵庫県地方部会, 尼崎市, 2014. 3 .30
21. Naito Y : Conflict and cooperation of auditory and visual information processing in profoundly deafened subjects. 20th IFOS World Congress, Seoul, Korea, 2013. 6 . 1 - 5
22. Naito Y : Reorganization of cortical language networks in CI users. 20th IFOS World Congress, Seoul, Korea, 2013. 6 . 1 - 5
23. Naito Y : Cortical activation by speech in cochlear implant users. 20th IFOS World Congress, Seoul, Korea, 2013. 6 . 1 - 5
24. 内藤 泰: 難聴と遺伝子診断-人工内耳医療との接点 (講演). 第 3 回難聴と人工内耳に関する勉強会 (神戸市立医療センター中央市民病院), 神戸市 (当院), 2013. 8 .31
25. 内藤 泰: 日常外来で遭遇するめまいと難聴疾患~症例検討と最近の知見~, 奈良県耳鼻咽喉科医会学術講演会, 奈良市, 2013.10.12
26. 内藤 泰: 脳機能からみた難聴 (ランチョンセミナー講演). 第58回日本聴覚医学会, 松本市, 2013.10.24-25
27. 内藤 泰: 大脳における前庭情報処理の意義 (教育講演). 第72回日本めまい平衡医学会, 大阪市, 2013.11.13-15
28. Naito Y : The current status of pediatric cochlear implantation in Japan (International Panel). 第23回日本耳科学会, 宮崎市, 2013.11.24-26

29. Naito Y : Update in Pediatric Otolaryngology New born hearing screening and early intervention in Japan (Symposium) .The 12th Taiwan-Japan Conference on Otolaryngology Head and Neck Surgery, Taipei, 2013.12. 5 - 7
30. 内藤 泰 : Cortical processing of acoustic signals and speech observed by brain imaging (講演). 熊本大学大学院セミナー 平成25年度医学・生命科学セミナー/D1 “Medicine & Life Science Seminar, 2013”, 熊本市, 2013.12.11
31. 内藤 泰, 篠原尚吾 : 当科診療の現況. 第10回神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス, 神戸市, 2013.12.12
32. 内藤 泰, 山崎博司, 藤原敬三, 岸本逸平, 西尾信哉, 宇佐美真一 : 特異な蝸牛形態異常を呈したSCL26A4ホモ接合性変異例. 平成25年度厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業) 遺伝性難聴および外耳、中耳、内耳奇形に関する調査研究班, 東京都, 2014. 2 .11
33. 内藤 泰, 山崎博司, 藤原敬三, 岸本逸平, 西尾信哉, 宇佐美真一 : 特異な蝸牛形態異常を呈したSLC26A4ホモ接合性変異例. 第176回日耳鼻兵庫県地方部会, 尼崎市, 2014. 3 .30
34. 原田博之 : 当院における院内転倒861例検討. 第22回京都耳鼻咽喉科研究会, 京都市, 2013. 4 . 6
35. Harada H, Naito Y, Shinohara S, Fujiwara K, Kikuchi M, Kanazawa Y, Tona R, Kishimoto I : Analysis Of 857 Cases With In-Hospital Falls. 2nd Joint World Congress of ISPGR and Gait and Mental Function, Akita, Japan, 2013. 6 .22 - 26
36. 原田博之 : 気管切開勉強会 (講演). ICUカンファレンス, 神戸市 (当院), 2013. 8 .13
37. 原田博之, 内藤 泰, 藤原敬三, 金沢佑治, 十名理紗, 岸本逸平 : 当院における院内転倒861例の検討. 第72回日本めまい平衡医学会, 大阪市, 2013.11.13 - 15
38. Hiraumi H, Nagamine T, Morita T, Naito Y, Fukuyama H, Ito J : Age related cortical change in the effect of amplitude modulation of background noise on auditory-evoked fields. 20th IFOS World Congress, Seoul, Korea, 2013. 6 . 1 - 5
39. 藤原敬三, 内藤 泰, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治, 十名理紗, 岸本逸平, 原田博之 : 鼻内内視鏡手術後に生じた真菌性鼻中隔膿瘍の1例. 第75回耳鼻咽喉科臨床学会, 神戸市, 2013. 7 .11 - 12
40. 藤原敬三 : 鼓室形成術のクリニカルパス. 第14回日本クリニカルパス, 盛岡市, 2013.11. 1 - 2
41. 藤原敬三, 内藤 泰, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治, 十名理紗, 岸本逸平, 原田博之 : 耳科手術器具の工夫. 第23回日本耳科学会, 宮崎市, 2013.11.24 - 26
42. 諸頭三郎 : 人工内耳医療のup-to-date. 兵庫県立こばと聴覚支援学校職員研修, 西宮市, 2013. 6 .28
43. 諸頭三郎 : 人工内耳装用児のこばの獲得 (講演). 特別支援学校のセンター的機能充実事業講演会 (保護者向け) 兵庫県立神戸聴覚支援学校, 神戸市, 2013. 8 .27
44. 諸頭三郎 : 人工内耳装用児のこばの獲得 (講演). 特別支援学校のセンター的機能充実事業講演会 (教職員向け) 兵庫県立神戸聴覚支援学校, 神戸市, 2013. 8 .28

45. 諸頭三郎：小児人工内耳プログラミングの基本. 兵庫県立こばと聴覚支援学校職員研修会, 西宮市, 2013.10.4
46. 諸頭三郎, 山本輪子, 山崎朋子, 十名理紗, 藤原敬三, 篠原尚吾, 内藤 泰：当科における小児人工内耳術後成績. 第58回日本聴覚医学会, 松本市, 2013.10.24-25
47. 諸頭三郎：地域小学校における難聴児の情報補償について（講演）. 兵庫県立こばと聴覚支援学校研修会, 神戸市, 2013.11.15
48. 諸頭三郎：当科の人工内耳を中心とした人工聴覚器医療の現況. 第10回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス, 神戸市, 2013.12.12
49. 諸頭三郎：難聴児の言語発達上の課題（語彙、統語、語用）－ちょっと考えてみたら－. 第4回難聴と人工内耳に関する勉強会, 神戸市, 2013.12.22
50. 諸頭三郎：人工内耳医療と言語学習. 兵庫県川西市難聴学級懇談会, 川西市, 2014.1.15
51. 諸頭三郎：人工内耳のハビリテーション－オーストラリア・シドニーの人工内耳医療－. 兵庫県立こばと聴覚支援学校研修会, 西宮市, 2014.1.21
52. 諸頭三郎：人工内耳医療－up to date－. 兵庫県立姫路聴覚支援学校職員研修会, 姫路市, 2014.1.29
53. 諸頭三郎：こどもたちを育む－人工内耳医療の現状と課題－. 高知県言語聴覚士会総会教育講演, 高知市, 2014.2.16
54. 山崎博司：cochlear nerve deficiency症例の人工内耳装用効果. 第22回京都耳鼻咽喉科研究会, 京都市, 2013.4.6
55. 山本輪子, 諸頭三郎, 藤原敬三, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治, 十名理紗, 岸本逸平, 原田博之, 内藤 泰：残存聴力型人工内耳（EAS：electric acoustic stimulation）の5症例の術後成績. 第174回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸市, 2013.7.13
56. 山本輪子, 諸頭三郎, 藤原敬三, 篠原尚吾, 十名理紗, 内藤 泰：残存聴力活用型人工内耳（EAS：electric acoustic stimulation）の5症例の術後成績. 第58回日本聴覚医学会, 松本市, 2013.10.24-25
57. 山本輪子：オーストラリアの難聴児医療と教育. 第4回難聴と人工内耳に関する勉強会, 神戸市, 2013.12.22

## VIII. 1. 26 頭頸部外科

1. 金沢佑治, 篠原尚吾, 菊地正弘, 藤原敬三, 山崎博司, 十名理紗, 岸本逸平, 原田博之, 角谷 聡, 宇佐美悠, 今井幸弘, 内藤 泰：頭頸部に対する放射線照射領域内に発生した二次癌症例の検討. 第114回日本耳鼻咽喉科学会, 札幌市, 2013.5.15-18
2. 金沢佑治, 篠原尚吾, 菊地正弘, 岸本逸平, 原田博之, 古武 剛, 佐竹悠良, 辻 晃仁, 竹下純平, 秦 明登, 真砂勝泰, 加地玲子, 藤田史郎, 片上信之：当科における頭頸部癌に対するセツキシマブの使用経験. 第24回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 高松市, 2014.1.30-31

3. 菊地正弘, 子安 翔, 篠原尚吾, 宇佐美悠, 今井幸弘, 十名理紗, 藤原敬三, 山崎博司, 金沢佑治, 岸本逸平, 原田博之, 内藤 泰: 中咽頭癌における治療前FDG-PET検査の有用性. 第37回日本頭頸部癌学会, 東京, 2013. 6 .13-14
4. 菊地正弘: 下咽頭・喉頭癌の手術と術後管理(講演). 3階病棟勉強会(神戸市立医療センター中央市民病院), 神戸市, 2013. 9 . 2
5. 菊地正弘: 頭頸部扁平上皮癌の予後予測におけるFDG-PET/CT の有用性 (シンポジウム). 第24回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 高松市, 2014. 1 .30-31
6. 菊地正弘: 頭頸部癌における導入化学療法の効果判定にPET検査を用いることの意義. 第1回KCHOアカデミア研究発表会, 神戸市, 2014. 3 .15
7. 岸本逸平, 篠原尚吾, 藤原敬三, 菊地正弘, 金沢佑治, 十名理紗, 原田博之, 内藤 泰: 術前動脈塞栓を併施し外切開による摘出を行った眼窩内孤立性繊維腺腫の一例. 第175回日耳鼻兵庫県地方部会, 西宮市, 2013.12. 1
8. 岸本逸平, 菊地正弘, 篠原尚吾, 金沢佑治, 原田博之: 頸部血管肉腫の一例. 第24回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 高松市, 2014. 1 .30-31
9. 小坂恭弘, 小久保雅樹, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治: 当院における下咽頭癌の放射線治療成績. 第37回日本頭頸部癌学会, 東京, 2013. 6 .13-14
10. 篠原尚吾: 中咽頭癌におけるp16、p53染色性の相関と生命予後との関連についての検討. 第22回京都耳鼻咽喉科研究会, 京都市, 2013. 4 . 6
11. 篠原尚吾: 一般病院で可能な中咽頭癌でのヒトパピローマウイルスの検出法についての検討. 第22回京都耳鼻咽喉科研究会, 京都市, 2013. 4 . 6
12. 篠原尚吾, 岸本逸平, 菊地正弘, 占野尚人, 岡田明彦, 金沢佑治, 十名理紗, 原田博之, 宇佐美悠, 今井幸弘: 上部消化管同時性・異時性11重癌の一例. 第37回日本頭頸部癌学会, 東京, 2013. 6 .13-14
13. 篠原尚吾: 頭頸部腫瘍の診断と治療. 京滋耳鼻咽喉科フォーラム, 京都市, 2013. 6 .29
14. 篠原尚吾: 上中下咽頭癌の診断と治療 (最近のトピックス) (教育講演). 神戸地区耳鼻咽喉科学術講演会, 神戸市, 2013.11.30
15. 篠原尚吾, 菊地正弘, 原田博之, 内藤 泰, 藤原敬三, 金沢佑治, 岸本逸平: 早期舌癌後発リンパ節転移症例の予後はどうして悪いのか? - T1T2pN+症例やanyTcN+症例との予後比較 -. 第175回日耳鼻兵庫県地方部会, 西宮市, 2013.12. 1
16. 篠原尚吾, 原田博之, 菊地正弘, 藤原敬三, 金沢佑治, 十名理紗, 岸本逸平, 内藤 泰: Tチューブと大胸筋皮弁により閉鎖しえた放射線性晩発性頸部遊離空腸先行例. 第28回近畿耳鼻咽喉科手術手技研究会, 大阪市, 2014. 1 .25
17. 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治, 岸本逸平, 原田博之: リンパ節転移を来したT1, T2 舌癌の予後に関する検討 - 初回治療時pN+ v.s. 後発転移 -. 第24回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 高松市, 2014. 1 .30-31

18. 篠原尚吾：上中下咽頭癌の診断と治療（最近のトピックス）. 三田丹波篠山耳鼻咽喉科座談会, 三田市, 2014. 2 . 8
19. 篠原尚吾：当院での頭頸部癌治療. 第2回港島地区がん治療セミナー（神戸低侵襲医療センター）, 神戸市, 2014. 2 .28
20. 原田博之, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治, 十名理紗, 岸本逸平：Discontinuous neck dissectionを施行したT1, T2舌癌の当科における成績. 第37回日本頭頸部癌学会, 東京, 2013. 6 .13-14
21. 原田博之：上気道閉塞の誘因となった遺残再発舌根横紋筋腫の1例. 第28回近畿耳鼻咽喉科手術手技研究会, 大阪市, 2014. 1 .25

## VIII. 1. 27 麻酔科

1. 阿河昌治, 宮脇郁子, 山崎和夫：多発顎嚢胞を伴ったGorlin-Goltz症候群の麻酔経験. 第59回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪, 2013. 9 . 7
2. 荒川恭佑, 下菌崇宏, 山下 博, 美馬裕之, 山崎和夫：外傷性大量出血患者における早期の新鮮凍結血漿、濃厚血小板輸血の有効性の検討. 日本麻酔科学会第60回学術集会, 札幌, 2013. 5 .24
3. 池田真悠実, 徐 舜鶴, 東別府直紀, 山崎和夫：再栄養症候群の補正中に手術施行し、術中大量輸血を要したがrefeeding edemaを生じなかった一例. 第59回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪, 2013. 9 . 7
4. 伊原正幸, 東別府直紀, 山崎和夫：2度目の帝王切開術中、オキシトシン投与後に胸部症状を伴う心電図ST変化を生じた1例. 心臓血管麻酔学会第18回学術大会, 北九州, 2013. 9 .27
5. 伊原正幸, 下菌崇宏, 川上大裕, 清水綾子, 山下 博, 植田浩司, 美馬裕之, 山崎和夫：保存的治療にて経過した門脈ガス血症を伴う腸管虚血症の1例. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014. 3 . 1
6. 甲斐沼篤, 内藤慶史, 植田浩司, 宮脇郁子, 山崎和夫：僧帽弁置換術（MVR）後のDelayed型左室破裂2症例の検討. 心臓血管麻酔学会第18回学術大会, 北九州, 2013. 9 .28
7. 甲斐沼篤, 美馬裕之, 阿河祐二, 植田浩司, 宮脇郁子, 山崎和夫：Bacillus cereus髄膜炎から水頭症となり、徐脈発作を来した一例. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014. 2 .27
8. 川上大裕, 植田浩司, 下菌崇宏, 美馬裕之, 山崎和夫：心臓血管外科手術術後のモニトラック挿入21症例の検討. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014. 2 .27
9. 清水綾子, 宮脇郁子, 山崎和夫：当院における三尖弁閉鎖不全症に対する三尖弁手術の検討. 日本麻酔科学会第60回学術集会, 札幌, 2013. 5 .24
10. 清水綾子, 柚木一馬, 宮脇郁子, 山崎和夫：術中に鼻出血を生じた遺伝性出血性毛細血管拡張症の一例. 心臓血管麻酔学会第18回学術大会, 北九州, 2013. 9 .28
11. 朱 祐珍：症例検討“ドクターI”2 重症熱傷. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014. 2 .28
12. 朱 祐珍, 瀬尾龍太郎, 渥美生弘, 山崎和夫：Full codeでない重症患者管理における集中治療医の役割. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014. 3 . 1

13. 瀬尾龍太郎：ECMOセンター設立に向けた当院集中治療部の取り組み. 兵庫県救急・集中治療研究会, チサンホテル神戸, 2013.11.16
14. 瀬尾龍太郎：臨床工学技士からの提案を医師としてどう受け止めるか?～質の管理とモチベーションの管理～. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014. 2 .27
15. 瀬尾龍太郎：重症呼吸不全の診断と管理「それってARDSでいいんですか?」. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014. 2 .28
16. 瀬尾龍太郎：ECMOセンター設立に向けた当院集中治療部における多面的な取り組み. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014. 3 . 1
17. 武田親宗, 美馬裕之, 徐 舜鶴, 植田浩司, 山崎和夫：レントゲン上位置異常が確認困難であった、鎖骨下静脈からの中心静脈カテーテルの胸腔内迷入の一例. 第58回日本集中治療医学会近畿地方会, 神戸, 2013. 7 . 6
18. 武田親宗, 内藤慶史, 宮脇郁子, 山崎和夫：Madelung病を合併した肝部分切除の一例. 第59回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪, 2013. 9 . 7
19. 武田親宗, 東別府直紀, 伊原正幸, 宮脇郁子, 山崎和夫：経食道心エコーで大動脈基部に血栓形成を疑い、術式変更を行った急性心筋梗塞の一例. 心臓血管麻酔学会第18回学術大会, 北九州, 2013. 9 .27
20. 武田親宗, 美馬裕之, 東別府直紀, 川上大裕, 植田浩司, 瀬尾龍太郎, 下菌崇宏, 山崎和夫：腹部大動脈瘤破裂後の上部消化管通過障害の検討. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014. 2 .27
21. 内藤慶史, 米倉 寛, 伊原正幸, 宮脇郁子, 山崎和夫：Eagle症候群（茎状突起過長症）4症例の検討. 日本麻酔科学会第60回学術集会, 札幌, 2013. 5 .25
22. 内藤慶史, 植田浩司, 宮脇郁子, 山崎和夫：下行大動脈置換術前に脳脊髄液ドレナージカテーテルを挿入し脊髄くも膜下血腫を発症した1症例. 心臓血管麻酔学会第18回学術大会, 北九州, 2013. 9 .28
23. 内藤慶史, 植田浩司, 下菌崇宏, 美馬裕之, 山崎和夫：心臓大血管手術後の再開胸止血術に関する検討. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014. 2 .28
24. 長間智利, 清水綾子, 徐 舜鶴, 植田浩司, 下菌崇宏, 美馬裕之, 山崎和夫：外減圧術後に骨欠損部の陥凹と共に意識障害・筋力低下を呈した1例. 第58回日本集中治療医学会近畿地方会, 神戸, 2013. 7 . 6
25. 長間智利, 内藤慶史, 宮脇郁子, 山崎和夫：心嚢穿刺時の左室誤穿刺により上行大動脈まで迷入した心嚢ドレナージカテーテル抜去術におけるTEEの有用性. 心臓血管麻酔学会第18回学術大会, 北九州, 2013. 9 .28
26. 橋本一哉, 下菌崇宏, 山崎和夫：全身麻酔中にメトヘモグロビン血症を診断し、術後在宅酸素療法から離脱しえた一例. 日本麻酔科学会第60回学術集会, 札幌, 2013. 5 .23
27. Kazuya Hashimoto, Yoshifumi Naito, Takahiro Shimozono, Tsutomu Wada, Kazuo Yamazaki, Hiroyuki Mima, Hiroshi Ueta, Daisuke Kawakami : changing intermittent pneumatic compression devices improves continuous cardiac index oscillation. Society of critical care medicine 43rd critical care congress, San Francisco, 2014. 1 . 9



28. 橋本一哉, 山崎和夫, 美馬裕之, 下藺崇宏, 植田浩司, 内藤慶史, 川上大裕: 間欠的空気圧迫法が心拍出量モニタリングに与える干渉~肺動脈カテーテルとフロートトラックシステムの違い. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014. 2 .28
29. 東別府直紀: 2011年のInternational Nutrition Surveyから見える本邦ICUの改善点. 第58回日本集中治療医学会近畿地方会, 神戸, 2013. 7 . 6
30. H.Mima, K.Yunoki, H.Ueta, T.Shimozono, K.Arakawa, K.Yamazaki: OSCILLATION OF CONTINUOUS CARDIAC OUTPUT MEASUREMENT CAUSED BY INTERMITTENT PNEUMATIC COMPRESSION OF FOOT. 26<sup>th</sup> ANNUAL CONGRESS of ESICM, Paris, 2013.10. 7
31. 柚木一馬, 橋本一哉, 宮脇郁子, 山崎和夫: 外傷性非穿通性心臓・大血管損傷の5症例. 心臓血管麻酔学会第18回学術大会, 北九州, 2013. 9 .28
32. 和田 努, 伊原正幸, 山崎和夫: 再生不良性貧血合併妊娠に対する帝王切開術の麻酔経験. 第59回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪, 2013. 9 . 7

## VIII. 1. 28 歯科・歯科口腔外科

1. 岩城 太, 大西正信, 片山麻梨子, 長野紀也: 菌性感染より発症した深頸部膿瘍症例の臨床的検討. 第58回日本口腔外科学会総会・学術大会, 福岡市, 2013.10.13
2. 上原京憲, 竹信俊彦, 谷池直樹, 楊 浩彰, 大矢伸治, 山本一郎: 下顎枝垂直骨切り術による下顎後方移動時に筋突起切離, Le Fort I型骨切り術を必要とした症例の検討. 第23回日本顎変形症学会総会学術大会, 大阪, 2013. 6 .22-23
3. 上原京憲, 大西正信, 平井雄三, 谷池直樹, 竹信俊彦: 10年間の自殺企図による顎顔面外傷症例についての検討. 第15回日本口腔顎顔面外傷学会総会学術大会, 熊本, 2013. 7 .13
4. 上原京憲, 竹信俊彦, 大谷紗織, 平井雄三, 谷池直樹, 大西正信: 10年間に口内法による摘出術を施行した顎下腺唾石症の臨床的検討. 第58回日本口腔外科学会総会・学術大会, 福岡市, 2013.10.11
5. 大谷紗織, 竹信俊彦, 清水基之, 平井雄三, 上原京憲, 谷池直樹, 大西正信: Handmadeの骨延長器を使用した前歯部反対咬合の1例. 第58回日本口腔外科学会総会・学術大会, 福岡市, 2013.10.12
6. 大西正信: 顎・口腔領域の疾患と治療. 神戸市立医療センター西市民病院歯科口腔外科オープンカンファレンス, 神戸市, 2013. 8 . 1
7. 清水基之, 竹信俊彦, 大谷紗織, 平井雄三, 上原京憲, 谷池直樹, 大西正信: 扁平苔癬に続発した舌癌に併発したニコランジルによると思われる難治性舌潰瘍の1例. 第44回日本口腔外科学会近畿支部学術集会, 神戸, 2013. 6 .29
8. 清水基之: 神戸市立医療センター中央市民病院における歯科臨床研修について. 兵庫県病院歯科医会主催第8回歯科研修医報告会, 神戸市, 2014. 3 . 8
9. 社領美紀, 谷池直樹, 宇佐美悠, 大谷紗織, 平井雄三, 上原京憲, 竹信俊彦, 大西正信: 口底に発生した顆粒細胞腫の1例. 第25回日本口腔科学会近畿地方会, 大阪, 2013.12. 7
10. 竹信俊彦: 唾液腺疾患への応用における課題. 第67回NPO法人日本口腔科学会学術集会, サテライトセミナー第9回口腔疾患内視鏡研究会, 宇都宮市, 2013. 5 .22

11. 竹信俊彦：インプラント手術に伴う周術期管理と投薬. JACID主催インプラント認定医のための100時間コース, 大阪, 2013. 6 . 1
12. 竹信俊彦：口腔領域における映像医学の応用. 岡山大学歯学部歯科放射線学講義, 岡山, 2013.10. 8
13. 竹信俊彦：矯正歯科との連携－口腔外科医の立場から－. 第31回Bioprogressive Study Club 学術大会 教育講演, 神戸市, 2013.11.17
14. 竹信俊彦：Treatment of the fractured zygomatico-maxillary complex. AOCMF Advances Workshop on Navigation and Computer Assisted Surgery, Kobe, Japan, 2014. 2 .22－23
15. 竹信俊彦：Mandibular hyperplasia. AOCMF Advances Workshop on Navigation and Computer Assisted Surgery, Kobe, Japan, 2014. 2 .22－23
16. 谷池直樹, 竹信俊彦：当科におけるインプラント除去症例の臨床的検討. 第17回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会, 東京, 2013.11.30
17. 原麻里奈, 松崎秀信, 畦坪輝寿, 柳 文修, 竹信俊彦, 佐藤晃子, 藤田麻里子, 浅海淳一：上顎洞原発小細胞癌と扁平上皮癌の衝突癌と考えられる一例. 第58回日本口腔外科学会総会・学術大会, 福岡市, 2013.10.12
18. 平井雄三, 竹信俊彦, 首藤敦史, 上原京憲, 谷池直樹, 大西正信：当科における咀嚼筋腱・腱膜過形成に対する治療. 第67回NPO法人日本口腔科学会学術集会, 宇都宮市, 2013. 5 .22
19. 平井雄三, 大西正信, 大谷紗織, 上原京憲, 谷池直樹, 竹信俊彦, 白井秀治：23年間経過観察している腺様嚢胞癌術後の1例. 第58回日本口腔外科学会総会・学術大会, 福岡市, 2013.10.13
20. 藤田麻里子, 竹信俊彦, 浅海淳一：歯源性腫瘍の鑑別におけるダイナミックMRIの有用性. 第67回NPO法人日本口腔科学会学術集会, 宇都宮市, 2013. 5 .23
21. 細川淳子, 広瀬 豊, 鈴木善雄, 竹信俊彦：顎変形症の術中、術後に用いるサージカルプリント－機能的サージカルプリントを用いた下顎位と咬合の管理－. 第31回Bioprogressive Study Club 学術大会, 神戸市, 2013.11.17
22. 松崎秀信, 畦坪輝寿, 原麻里奈, 柳 文修, 佐藤晃子, 藤田麻里子, 竹信俊彦, 浅海淳一：口唇・口腔がんに対するモールドを用いた高線量率腔内密封小線源治療成績の検討. 第58回日本口腔外科学会総会・学術大会, 福岡市, 2013.10.11
23. 村上 純, 竹信俊彦, 浅海淳一：口腔癌に対するBCG生菌と5-FU併用療法による抗腫瘍効果の検討. 第67回NPO法人日本口腔科学会学術集会, 宇都宮市, 2013. 5 .22

## VIII. 1. 29 臨床病理科

1. 市川千宙, 松岡亮介, 山下大祐, 宇佐美悠, 今井幸弘, 亀井博紀, 横崎 宏：肺内に骨・類骨組織を認めた器質化肺炎の一剖検例. 第61回日本病理学会近畿支部学術集会, 大阪市立大学, 2013. 5 .18
2. 市川千宙, 松岡亮介, 宇佐美悠, 今井幸弘, 山本健人：腭腫瘍の一例. 第63回日本病理学会近畿支部学術集会, 京都府立医大, 2013.12. 7

3. 市川千宙, 山下大祐, 今井幸弘, 坂之上一朗, 高橋 豊: 胸腺の多嚢胞性病変10例の検討. 第102回日本病理学会総会, 札幌, 2013. 6. 6
4. 今井幸弘, 船山由樹, 今村博敏, 貝原 聡: 腸管、脳の免疫不全関連リンパ増殖疾患. 第18回日本外科病理学会学術集会, 東京, 2013. 9. 27
5. 今村裕子, 松本有紀, 林 信孝, 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 大竹紀子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 星野達二, 北 正人, 今井幸弘: 臨床的悪性の経過をたどったepithelioid smooth muscle tumorの1例. 日本婦人科腫瘍学会雑誌 31: 496, 2013
6. 岩崎信広, 杉之下与志樹, 鄭 浩柄, 朽尾人司, 田村明代, 箕輪和士, 和田将弥, 猪熊哲朗, 今井幸弘: 小腸腫瘍性病変の超音波像について. 超音波医学 41: 254, 2014
7. 小野祐一郎, 田端淑恵, 石川隆之, 佐々木翔, 今井幸弘: 内分泌異常と動眼神経麻痺を伴う下垂体病変で発症したB細胞性リンパ腫の1例. 臨床血液 54: 779, 2013
8. 数馬安浩, 小野祐一郎, 米谷 昇, 石川隆之, 今井幸弘, 川上 学: 同種末梢血幹細胞移植を行った最重症再生不良性貧血の1例. 臨床血液 54: 783, 2013
9. 金沢佑治, 篠原尚吾, 菊地正弘, 藤原敬三, 山崎博司, 十名理紗, 岸本逸平, 原田博之, 角谷 聡, 宇佐美悠, 今井幸弘, 内藤 泰: 頭頸部に対する放射線照射領域内に発生した二次癌症例の検討. 日本耳鼻咽喉科学会会報 116: 466, 2013
10. 菊地正弘, 子安 翔, 篠原尚吾, 宇佐美悠, 今井幸弘, 十名理紗, 藤原敬三, 山崎博司, 金沢佑治, 岸本逸平, 原田博之, 内藤 泰: 中咽頭癌における治療前FDG-PET検査の有用性. 頭頸部癌 39: 208, 2013
11. 木下裕光, 三木 明, 阪本裕亮, 岡田和幸, 山本健人, 井ノ口健太, 姚 思遠, 近藤正人, 八木真太郎, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 小林裕之, 貝原 聡, 今井幸弘, 細谷 亮: 左三角間膜内に発生した肝外発育型肝細胞癌の1例. 日本臨床外科学会雑誌 74: 959, 2013
12. 篠原尚吾, 岸本逸平, 菊地正弘, 占野尚人, 岡田明彦, 金沢佑治, 十名理紗, 原田博之, 宇佐美悠, 今井幸弘: 上部消化管同時性・異時性11重癌の一例. 頭頸部癌 39: 261, 2013
13. 篠原尚吾, 菊地正弘, 山崎博司, 金沢佑治, 栗原理紗, 岸本逸平, 原田博之, 今井幸弘, 宇佐美悠: 中咽頭癌、原発不明扁平上皮癌におけるHPV検出の有無による化学療法反応性の比較と、HPV簡易キットを用いた頭頸部領域でのHPV検査の有効性の検討. 神戸市立病院紀要 51: 95-97, 2013
14. 杉山育代, 富田周介, 曾我登志子, 藤本敏明, 今井幸弘, 貝原 聡: HCCの切除後17年を経てCCCを発生したB型肝炎の1例. 超音波医学 40: 57, 2013
15. 関谷博顕, 十河正弥, 石井淳子, 玉木良高, 東田京子, 河野智之, 小林和人, 吉村 元, 山本司郎, 藤堂謙一, 川本未知, 今井幸弘, 幸原伸夫: 不随意運動を契機に診断した腎移植後の免疫抑制剤使用に伴う中枢神経リンパ増殖性疾患の1例. 臨床神経学 53: 580, 2013
16. 高島健司, 福島政司, 北本博規, 小川 智, 増尾謙志, 松本知訓, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦, 猪熊哲朗, 今井幸弘: 内視鏡的粘膜切除術で診断しえた慢性骨髄性単球性白血病の小腸浸潤の一例. Gastroenterological Endoscopy 55: 2828, 2013

17. 長畑洋佑, 加藤愛子, 米谷 昇, 数馬安浩, 竹田淳恵, 船山由樹, 山内寛彦, 青木一成, 小野祐一郎, 田端淑恵, 松下章子, 今井幸弘, 石川隆之: 化学療法中に脳転移しHAART療法のみで縮小を認めたHIV関連NK/T細胞性リンパ腫の1例. 日本リンパ網内系学会誌 53: 151, 2013
18. 秦 明登, 加地玲子, 藤田史郎, 今井幸弘, 片上信之: 獲得耐性後に検出されたT790Mが一定期間後に消失し、gefitinib再投与が奏効したEGFR遺伝子変異陽性肺腺癌の一例. 日本呼吸器学会誌 2: 326, 2013
19. 浜田一美, 箕輪和士, 濱田充生, 登阪貴子, 三羽えり子, 田村明代, 今井幸弘, 佐々木翔, 石原 隆: 濾胞癌術後残存葉にびまん性硬化型乳頭癌の発症を認めた一例. 超音波医学 40: 77, 2013
20. 日野田卓也, 上田浩之, 越智純子, 伊藤 亨, 岸本健治, 宇佐美郁哉, 春田恒和, 今井幸弘: 若年男児Solid-pseudopapillary neoplasm (SPN) の1例. Japanese Journal of Radiology 31: 54, 2013
21. 福島政司, 井上聡子, 北本博規, 小川 智, 高島健司, 増尾謙志, 松本知訓, 佐竹悠良, 和田将弥, 占野尚人, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦, 猪熊哲朗, 今井幸弘: 診断に難渋した顕微鏡的多発血管炎による小腸潰瘍の1例. 栄養-評価と治療 30: 88-89, 2013
22. 藤本大智, 大歳丈博, 川村卓久, 玉井浩二, 田中広祐, 松本 健, 門田和也, 竹下純平, 永田一真, 中川 淳, 大塚今日子, 秦 明登, 立川 良, 大塚浩二郎, 浜川博司, 片上信之, 高橋 豊, 今井幸弘, 富井啓介: 間質性肺炎合併肺腺癌とepidermal growth factor receptor (EGFR) 遺伝子変異の関係. 日本呼吸器学会誌 2: 294, 2013
23. 松岡亮介, 市川千宙, 阪本裕亮, 清水隼人, 横崎 宏, 今井幸弘: 憩室炎の一例. 第62回日本病理学会近畿支部学術集会, 関西医大(枚方市), 2013. 9. 28
24. 松岡亮介, 市川千宙, 阪本裕亮, 橋田裕毅, 井上聡子, 今井幸弘: 空腸ポリープの一例. 第63回日本病理学会近畿支部学術集会, 京都府立医大, 2013. 12. 7
25. 松本 健, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 竹下純平, 田中広祐, 門田和也, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 富井啓介, 今井幸弘: 局所麻酔下胸腔鏡検査を必要とした癌性胸膜炎症例に関する検討. 日本呼吸器学会誌 2: 338, 2013
26. 松本 健, 加藤了資, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 今井幸弘, 富井啓介: 慢性好酸球性肺炎再発に関連する因子の検討. アレルギー 62: 1327, 2013
27. 松本知訓, 和田将弥, 小川 智, 高島健司, 増尾謙志, 岡本佳子, 福島政司, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 木本直哉, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦, 猪熊哲朗, 細谷 亮, 今井幸弘: IPMNにおける良悪性鑑別法の検討. 神戸市立病院紀要 51: 85-86, 2013
28. 南出竜典, 細谷和也, 北本博規, 小川 智, 高島健司, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 藤田幹夫, 杉之下与志樹, 岡田明彦, 今井幸弘, 猪熊哲朗: 当院におけるvon Hippel-Lindau病に合併した膝病変の検討. 日本消化器病学会雑誌 110: A873, 2013
29. 宮本泰斗, 小山瑠梨子, 平尾明日香, 大竹紀子, 北村幸子, 須賀真美, 宮本和尚, 高岡亜妃, 青木卓哉, 今村裕子, 星野達二, 今井幸弘, 篠原尚吾, 辻 晃仁, 北 正人: 術前診断が困難であった原発性卵巣癌-4重複癌の1例. 日本癌治療学会誌 48: 2862, 2013

30. 三羽えり子, 岩崎信広, 朽尾人司, 簗輪和士, 今井幸弘, 和田将弥, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹: 異物が原因と考えられる胃壁内膿瘍形成が疑われた一症例. 超音波医学 41:258, 2014
31. 山内寛彦, 永野誠治, 松下章子, 石川隆之, 今井幸弘, 橋本尚子: 移植後早期再発したATLリンパ腫型に対しmogamulizumabを使用した1例. 臨床血液 54:772, 2013
32. 山下大祐, 市川千宙, 船山由樹, 関谷博顕, 小倉健紀, 伊藤智雄, 今井幸弘: 脳生検で診断された免疫不全関連リンパ増殖性疾患3例の検討. 第102回日本病理学会総会, 札幌, 2013.6.7

#### VIII. 1. 30 放射線診断科

1. 有菌茂樹, 尾谷知亮, 倉田靖桐, 日野田卓也, 上田浩之, 日野 恵, 伊藤 亨, 高島健司, 岡田和幸, 八木真太郎, 細谷 亮, 山下大祐, 今井幸弘: 主膵管拡張を伴いながら膵全体に発育した膵癌の2例. 第27回日本腹部放射線研究会, 宇都宮, 2013. 6 .22
2. 上田浩之, 尾谷知亮, 倉田靖桐, 有菌茂樹, 伊藤 亨: 偽性動脈瘤に対してNBCAとコイルを併用した塞栓を施行した5例. 第42回日本IVR学会総会, 軽井沢, 2013. 5 .18
3. 上田浩之, 有菌茂樹, 倉田靖桐, 尾谷知亮, 伊藤 亨: 総肝動脈 (CHA) の仮性動脈瘤に対してカバードステントにて治療した一例. 第34回日本IVR学会関西地方会, 大阪, 2013. 6 .29
4. 上田浩之: CT, MRI診断のコツー眼科疾患を中心にー. 中央市民病院臨床懇話会 (眼科), 神戸, 2013.11. 7
5. 上田浩之, 田川 弘, 伊藤 亨: 睪島十二指腸切除後に肝・脾梗塞を合併した腹腔動脈狭窄の一例. 日本IVR学会第36回中部・第35回関西合同地方会, 名古屋, 2014. 2 . 1
6. 尾谷知亮, 上田浩之, 有菌茂樹, 日野田卓也, 倉田靖桐, 田川 弘, 日野 恵, 伊藤 亨: Hemosuccus pancreaticusと考えられた一例. 第23回日本救急放射線研究会, 名古屋, 2013.10.14
7. 尾谷知亮, 田川 弘, 倉田靖桐, 日野田卓也, 有菌茂樹, 上田浩之, 日野 恵, 伊藤 亨: 右肘に発生した木村病の一例. 第305回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪, 2013.11. 2
8. 倉田靖桐, 有菌茂樹, 日野田卓也, 上田浩之, 伊藤 亨, 三木 明, 市川千宙, 今井幸弘, 日野 恵, 尾谷知亮: 空腸異所性膵に発生した膵癌の一例 (クイズ症例). 第27回日本腹部放射線研究会, 宇都宮, 2013. 6 .22
9. Kurata Y, Hinoda T, Arizono S, Ueda H, Itoh K, Urata Y, Imai Y, Fujimoto R: Imaging of ectopic pregnancy Radiologic-Pathologic correlation. educational exhibit, European Congress of Radiology, Wien, 2014. 3 . 6 -10
10. 田川 弘, 上田浩之, 尾谷知亮, 倉田靖桐, 日野田卓也, 有菌茂樹, 日野 恵, 伊藤 亨: 膀胱異物結石の一例. 第46回兵庫県磁気共鳴医学研究会, 神戸, 2013. 6 .13
11. 田川 弘, 上田浩之, 尾谷知亮, 倉田靖桐, 日野田卓也, 有菌茂樹, 日野 恵, 伊藤 亨: 膀胱異物結石の一例. 第304回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪, 2013. 6 .15
12. 田川 弘, 日野田卓也, 尾谷知亮, 倉田靖桐, 有菌茂樹, 上田浩之, 日野 恵, 伊藤 亨, 十河正弥, 吉村元, 今井幸弘: 多発脳梗塞を来した好酸球増多症の一例. 第306回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪, 2014. 2 .15

## VIII. 1. 31 放射線治療科

1. Akimoto M, Nakamura M, Mukumoto N, Tanabe H, Yamada M, Matsuo Y, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Accuracy of a predictive model in IR-marker-based dynamic tumour tracking for lung cancer. 2nd European Society of Therapeutic Radiology and Oncology Forum, Geneva, 2013. 4 .19 – 23
2. 秋元麻未, 中村光宏, 椋本宜学, 田邊裕朗, 山田昌弘, 松尾幸憲, 門前 一, 溝脇尚志, 小久保雅樹, 平岡眞寛 : Vero4DRT (MHI-TM2000) における予測モデルのベースラインドリフト補正. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013.10.18 – 20
3. 飯塚裕介, 松尾幸憲, 中村光宏, 宮部結城, 矢野慎輔, 山田昌弘, 溝脇尚志, 門前 一, 小久保雅樹, 平岡眞寛 : 肝腫瘍に対するリアルタイムモニタリング下動体追尾照射の初期経験. 第22回日本定位放射線治療学会, 長島温泉, 2013. 5 .24 – 25
4. 飯塚裕介, 松尾幸憲, 中村光宏, 宮部結城, 矢野慎輔, 山田昌弘, 溝脇尚志, 門前 一, 小久保雅樹, 平岡眞寛 : 肝腫瘍に対するリアルタイムモニタリング下動体追尾照射の初期経験. 第49回日本肝癌研究会, 東京, 2013. 7 .11 – 12
5. 石原佳知, 澤田 晃, 宮部結城, 椋本宜学, 中村光宏, 植木奈美, 松尾幸憲, 溝脇尚志, 小久保雅樹, 平岡眞寛 : ジンバル照射ヘッドによる動体追尾照射に対する四次元モンテカルロ線量計算手法. 第105回日本医学物理学学会, 横浜, 2013. 4 .11 – 14
6. Ishihara Y, Sawada A, Miyabe Y, Ono T, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Development of a four-dimensional Monte Carlo dose calculation system for intensity modulated dynamic tumor-tracking irradiation using a gimbaled x-ray head. 20th International Conference of Medical Physics, Brighton, 2013. 9 . 1 – 4
7. 石原佳知, 澤田 晃, 宮部結城, 小野智博, 溝脇尚志, 小久保雅樹, 平岡眞寛 : ジンバル照射ヘッドによる動体追尾強度変調照射に対する四次元モンテカルロ線量計算システムの開発. 第106回日本医学物理学学会, 大阪, 2013. 9 .16 – 18
8. 植木奈美, 松尾幸憲, 高山賢二, 中村光宏, 宮部結城, 田邊裕朗, 金子周史, 溝脇尚志, 門前 一, 澤田 晃, 小久保雅樹, 平岡眞寛 : Vero4DRTを用いた動体追尾肺定位放射線治療の初期治療成績. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013.10.18 – 20
9. 植木奈美, 松尾幸憲, 高山賢二, 中村光宏, 宮部結城, 田邊裕朗, 金子周史, 溝脇尚志, 門前 一, 小久保雅樹, 平岡眞寛 : Vero4DRTを用いた動体追尾肺定位放射線治療の治療成績. 第51回日本癌治療学会, 京都, 2013.10.24 – 26
10. 宇藤 恵, 今葦倍敏行, 小坂恭弘, 高山賢二, 新谷 堯, 君野元規, 片上信之, 小久保雅樹 : 当院における胸部食道癌化学放射線療法の治療成績. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013.10.18 – 20
11. Onimaru R, Shirato H, Shibata T, Hiraoka M, Ishikura S, Onishi H, Karasawa K, Matsuo Y, Kokubo M, Shioyama Y : A Phase I Study of Stereotactic Body Radiotherapy (SBRT) for Peripheral T2N0M0 Non-Small Cell Lung Cancer (NSCLC) : Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG0702). 55th American Society of Radiation Oncology, Atlanta, 2013. 9 .22 – 25
12. Ono T, Miyabe Y, Yamada M, Shiinoki T, Sawada A, Kaneko S, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Mechanical accuracy of dynamic tumor-tracking arc irradiation with a gimbaled x-ray head. 第105回日本医学物理学学会, 横浜, 2013. 4 .11 – 14

13. Ono T, Miyabe Y, Yamada M, Shiinoki T, Sawada A, Kaneko S, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Positioning accuracy of dynamic tumor-tracking during arc irradiation with gimbaled x-ray head. 2nd European Society of Therapeutic Radiology and Oncology Forum, Geneva, 2013. 4 .19-23
14. 小野智博, 宮部結城, 山田昌弘, 澤田 晃, 門前 一, 溝脇尚志, 小久保雅樹, 平岡眞寛: Vero4DRT (MHI-TM2000) のジンバル照射ヘッドによる照射野拡大法. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013.10.18-20
15. Ono T, Miyabe Y, Yamada M, Shiinoki T, Sawada A, Kaneko S, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Development of dynamic tumor-tracking conformal arc irradiation technique with a gimbaled x-ray head. 2nd International Symposium of Training Plan for Oncology Professionals, 大阪, 2014. 1 .18-19
16. Kishi T, Kokubo M, Shintani T, Uto M, Kosaka Y, Takayama K, Tomii K, Katakami N, Hiraoka M: Definitive concurrent chemoradiotherapy for patients over 75 years old with locally advanced non-small-cell lung cancer. 17th European Cancer Congress, Amsterdam, 2013. 9 .27-10. 1
17. 久保和輝, 田邊裕朗, 末岡正輝, 谷内 翔, 中井高宏, 高山賢二, 小久保雅樹: Gafchromic EBT3を用いたIMRT線量分布検証におけるスキャン方法に関する基礎的検討. 第105回日本医学物理学学会, 横浜, 2013.4.11-14
18. Kohnoike A, Moriyama M, Sawada A, Suzuki Y, Kokubo M, Hiraoka M: Improvement of collision detection simulator for Vero4DRT using software quality metrics. Asia-Oceania Conference of Medical Physics 2013, Singapore, 2013.12.12-14
19. Kokubo M, Kishi T, Uto M, Shintani T, Ueki N, Fujita S, Kaji R, Hata A, Takayama K, Katakami N: Feasibility of stereotactic body radiation therapy with concurrent chemotherapy for patients over 75 years old with Stage I non-small-cell lung cancer. 15th World Conference of Lung Cancer, Sydney, 2013.10.27-30
20. 小久保雅樹, 松尾幸憲, 植木奈美, 藤田史郎, 高山賢二, 片上信之, 平岡眞寛: Vero4DRTを用いた動体追尾肺定位放射線治療の初期臨床経験. 第54回日本肺癌学会, 東京, 2013.11.21-22
21. 小坂恭弘, 小久保雅樹, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治: 当院における下咽頭癌の放射線治療成績. 第37回日本頭頸部癌学会, 東京, 2013. 6 .13-14
22. Kosaka Y, Kokubo M, Takayama K, Katakami N: Patterns of failure after stereotactic body radiotherapy for histologically proven Stage I non-small-cell lung cancer. 17th European Cancer Congress, Amsterdam, 2013.9.27-10.1
23. 小坂恭弘, 小久保雅樹, 高山賢二, 今葎倍敏行, 宇藤 恵, 新谷 堯, 君野元規, 北 正人: 当院における子宮頸癌の放射線治療成績. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013.10.18-20
24. 小坂恭弘: ストロンチウム89による転移性骨腫瘍の疼痛緩和治療. 第18回がん患者QOL研究会, 神戸, 2013.11.15
25. 澤田 晃, 鴻池 輝, 森山真光, 石原佳知, 椎木健裕, 宮部結城, 鈴木保恒, 溝脇尚志, 小久保雅樹, 平岡眞寛: 放射線治療機器における干渉検知シミュレータの開発. 第105回日本医学物理学学会, 横浜, 2013.4.11-14
26. Sawada A, Kohnoike T, Moriyama M, Ishihara Y, Shiinoki T, Miyabe Y, Suzuki Y, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Development of an individual patient-specific collision detection simulator among gantry, couch, and patient for Vero4DRT. 2nd European Society of Therapeutic Radiology and Oncology Forum, Geneva, 2013. 4 .19-23

27. Sawada A, Kohnoike A, Moriyama M, Ishihara Y, Shiinoki T, Miyabe Y, Suzuki Y, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Development of a patient - specific collision detection simulator among gantry, couch, and patient for Vero4DRT. Asia-Oceania Conference of Medical Physics 2013, Singapore, 2013.12.12-14
28. 新谷 堯, 小坂恭弘, 小久保雅樹, 高山賢二, 今葦倍敏行, 宇藤 恵, 君野元規, 富井啓介 : 脳転移に対して放射線治療を施行した非小細胞肺癌患者の予後. 京都放射線腫瘍研究会, 京都, 2013. 9 .14
29. 新谷 堯, 小坂恭弘, 小久保雅樹, 高山賢二, 今葦倍敏行, 宇藤 恵, 君野元規, 富井啓介 : 脳転移に対して放射線治療を施行した非小細胞肺癌患者の予後. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013.10.18-20
30. Sueoka M, Sawada A, Ishihara Y, Nakai T, Tanabe H, Kubo K, Taniuchi S, Okada Y, Takayama K, Suzuki Y, Kokubo M, Hiraoka M : Development of a new hybrid dynamic tumor-tracking irradiation technique using Vero4DRT; Preliminary study. 20th International Conference of Medical Physics, Brighton, 2013. 9 . 1 - 4
31. Sueoka M, Sawada A, Ishihara Y, Nakai T, Tanabe H, Kubo K, Taniuchi S, Okada Y, Suzuki Y, Okumachi H, Takayama K, Kokubo M, Hiraoka M : Development of a new hybrid dynamic tumor-tracking irradiation technique using Vero4DRT; A preliminary study. Asia-Oceania Conference of Medical Physics 2013, Singapore, 2013.12.12-14
32. Takamiya M, Nakamura M, Akimoto M, Yamada M, Matsuo Y, Mizowaki T, Monzen H, Kokubo M, Hiraoka M, Ito A : Assessment of target localization accuracy estimated from radiopaque markers in dynamic tumor tracking irradiation. American Association of Physicists in Medicine Spring Clinical Meeting, Denver, 2014. 3 .15-18
33. 高山賢二, 小久保雅樹, 今葦倍敏行, 小坂恭弘, 宇藤 恵, 新谷 堯, 君野元規 : 先端医療センターおよび神戸市立医療センター中央市民病院におけるIMRT. 第38回神戸放射線腫瘍懇話会, 神戸, 2013. 8 .30
34. 高山賢二, 岸 高宏, 新谷 堯, 小坂恭弘, 今葦倍敏行, 河野有香, 岡田卓也, 矢野敏史, 宇都宮紀明, 川喜田睦司, 小久保雅樹 : 連結シードによる前立腺癌I-125密封小線源永久挿入治療の初期経験. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013.10.18-20
35. 高山賢二 : 国産放射線治療装置Vero 4 DRT ~開発から臨床まで~. 第63回中国・四国放射線治療懇話会特別講演, 高松, 2013.12.14
36. 竹下純平, 秦 明登, 加地玲子, 真砂勝泰, 藤田史郎, 片上信之, 高山賢二, 小久保雅樹 : 当院における動体追尾肺定位放射線治療を実施した6例に関する検討. 第98回日本肺癌学会関西支部会, 大阪, 2013. 7 .27
37. 田中広祐, 小栗知世, 朴 将哲, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 吉田公秀, 樋田豊明, 矢田部恭, 古平 毅, 片上信之, 高山賢二, 小久保雅樹 : ALK, EGFR遺伝子変異陽性肺腺癌(手術不能3期)における根治的放射線化学療法の有効性. 第54回日本肺癌学会, 東京, 2013.11.21-22
38. 田邊裕朗, 末岡正輝, 椋本宜学, 中村光宏, 久保和輝, 植木奈美, 松尾幸憲, 高山賢二, 澤田 晃, 小久保雅樹, 平岡真寛 : 腹部表面のIRマーカーを用いた動体追尾照射におけるマーカー位置変動の追尾精度への影響. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013.10.18-20
39. 中井高宏, 澤田 晃, 田邊裕朗, 末岡正輝, 久保和輝, 谷内 翔, 椎木健裕, 石原佳知, 高山賢二, 小久保雅樹 : Vero4DRT (MHI-TM2000) を用いた動体追尾照射における皮膚被曝線量を考慮したkV透視画像の最適撮影条件に関する検討. 第105回日本医学物理学会, 横浜, 2013. 4 .11-14



40. Nakai T, Sawada A, Tanabe H, Sueoka M, Kubo K, Taniuchi S, Shiinoki T, Ishihara Y, Takayama K, Kokubo M: Investigation of well-balanced kV x-ray imaging conditions between skin dose and image quality for dynamic tumor-tracking irradiation using Vero4DRT. 2nd European Society of Therapeutic Radiology and Oncology Forum, Geneva, 2013. 4 .19–23
41. 中村 晶, 溝脇尚志, 板坂 聡, 中村光宏, 石原佳知, 椋本宜学, 秋元麻未, 松尾幸憲, 門前 一, 小久保雅樹, 平岡眞寛: 膀胱癌に対する動体追尾強度変調放射線治療の実現. 第305回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪, 2013.11.2
42. Nakamura A, Mizowaki T, Itasaka S, Nakamura M, Ishihara Y, Mukumoto N, Akimoto M, Matsuo Y, Kokubo M, Hiraoka M: First implementation of intensity-modulated dynamic tumor-tracking RT in pancreatic cancer using a gimbaled linac. FIRST Joint International Symposium, 札幌, 2014. 2 .24
43. Nakamura M, Akimoto M, Mukumoto N, Tanabe H, Yamada M, Ueki N, Matsuo Y, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Influence of predictive modelling duration on the predictive accuracy of IR-marker-based dynamic tumour tracking. 2nd European Society of Therapeutic Radiology and Oncology Forum, Geneva, 2013. 4 .19–23
44. 中村光宏, 秋元麻未, 椋本宜学, 山田昌弘, 田邊裕朗, 植木奈美, 松尾幸憲, 溝脇尚志, 小久保雅樹, 平岡眞寛: 予測モデル作成時間の違いによる予測精度への影響. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013.10.18–20
45. Nakamura M, Miyabe Y, Ishihara Y, Nakamura A, Matsuo Y, Itasaka S, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Realization of intensity-modulated dynamic tumor-tracking radiotherapy with real-time monitoring using the gimbaled x-ray head of Vero4DRT. 4D Treatment Planning Workshop 2013 at PSI, Villigen, Switzerland, 2013.11.28–29
46. Nakamura M, Mukumoto N, Yamada M, Takahashi K, Miyabe Y, Nakamura A, Itasaka S, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Dosimetric quality assurance for intensity-modulated dynamic tumor-tracking radiotherapy with Vero4DRT. FIRST Joint International Symposium, 札幌, 2014. 2 .24
47. 藤田史郎, 竹下純平, 田中広祐, 秦 明登, 加地玲子, 高山賢二, 小久保雅樹, 片上信之: Multiple primary malignancies in Japanese patients with non-small cell lung cancer. 第11回日本臨床腫瘍学会, 仙台, 2013. 8 .29–31
48. 藤田史郎, 加藤了資, 高島健司, 竹下純平, 秦 明登, 加地玲子, 真砂勝泰, 小久保雅樹, 片上信之: 非小細胞肺癌症例における多重癌の検討. 第54回日本肺癌学会, 東京, 2013.11.21–22
49. Matsuo Y, Ueki N, Takayama K, Nakamura M, Miyabe Y, Tanabe H, Kaneko S, Mizowaki T, Monzen H, Sawada A, Kokubo M, Hiraoka M: Dynamic Tumor Tracking Radiotherapy with Real-Time Monitoring using Vero4DRT. 15th World Conference of Lung Cancer, Sydney, 2013.10.27–30
50. Miyabe Y, Nakamura M, Ishihara Y, Nakamura A, Matsuo Y, Itasaka S, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Four-dimensional dose calculation in dynamic tumor tracking irradiation using the gimbaled x-ray head of Vero4DRT. 4D Treatment Planning Workshop 2013 at PSI, Villigen, Switzerland, 2013.11.28–29
51. Mukumoto N, Nakamura M, Yamada M, Takahashi K, Miyabe Y, Kaneko S, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Development of a four-axis moving phantom for quality assurance of surrogate signal-based dynamic tumor tracking irradiation. Asia-Oceania Conference of Medical Physics 2013, Singapore, 2013.12.12–14

52. Yamada M, Sawada A, Takahashi K, Mukumoto N, Ueki N, Miyabe Y, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Automatic detection of spherical gold fiducials using discrimination thresholds depending nonlinearly on background pixel intensity. 55th American Association of Physicists in Medicine, Indianapolis, 2013. 8 . 4 – 8
53. 渡邊大悟, 澤田 晃, 鴻池 輝, 末岡正輝, 小久保雅樹, 森山真光 : 光学位置センサを用いた放射線治療装置の衝突検知シミュレータの精度評価. 電子情報通信学会関西支部第19回学生会研究発表講演会, 京都, 2014. 2 .28

## VIII. 1. 32 救急科

1. 明石祐作, 渥美生弘, 有吉孝一 : 受傷後数日間の経過観察中、仮性腸間膜動脈瘤の形成を認めた一例. 第108回日本救急医学会近畿地方会, 大阪国際交流センター, 2013. 7 .27
2. 明石祐作, 園 真廉, 渥美生弘, 有吉孝一 : 救急外来を受診する小児患者で非外傷性脳出血を特徴づける臨床症候は何か : 当院救急外来での検討から. 第41回日本救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013.10.22
3. Yoko Asaka, Takahiro Atsumi, Woo Jin Joo, Ryutaro Seo, Koichi Ariyoshi : Is early initiation of renal replacement therapy in critically ill patient with acute renal injury, really good? World Federation of Society of Intensive and Critical Care Medicine, Durban, Republic of South Africa, 2013. 8 .30
4. 浅香葉子, 松岡由典, 渥美生弘, 有吉孝一 : 当院における救急外来における髄液検査の現状. 第41回日本救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013.10.22
5. 浅香葉子, 瀬尾龍太郎, 朱 祐珍, 渥美生弘, 有吉孝一 : 当院救急集中治療部における無鎮静プロトコールの紹介. 第40回日本集中治療学会学術集会, 京都, 2014. 2 .27
6. 渥美生弘, 森 勇人, 神谷侑画, 井上 彰, 蛭名正智, 伊原崇晃, 園 真廉, 水 大介, 林 卓郎, 有吉孝一 : 高齢者外傷症例における抗血栓薬 (パネルディスカッション6 「病院前からERにおける多職種連携のあり方」). 第16回日本臨床救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013. 7 .12
7. 渥美生弘, 森 勇人, 蛭名正智, 伊原崇晃, 井上 彰, 園 真廉, 水 大介, 林 卓郎, 有吉孝一 : 高齢者外傷症例における抗血栓薬 (パネルディスカッション4 「基礎病態に基づく外傷診療」). 第27回日本外傷学会学術集会, 久留米, 2013. 5 .24
8. 渥美生弘, 水 大介, 林 卓郎, 有吉孝一, 三木竜介, 黒川剛史, 松山重成, 川瀬鉄典, 石原 諭, 中山伸一 : 救命救急型とER型救命センターの連携 - 神戸市ドクターカー事案の検討から -. 第41回日本救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013.10.21
9. 渥美生弘 : 座長 口演30 頭部外傷2. 第41回日本救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013.10.21
10. 渥美生弘, 坂本哲也, 森村尚登, 長尾 建, 浅井康文, 横田裕行, 田原良雄, 長谷 守, 奈良 理, 青木則明, 有吉孝一, 佐藤慎一 : ECPRの適応を考える (シンポジウム院外心停止/蘇生後症候群の研究の最前線4 - 8). 第41回日本救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013.10.22
11. Takahiro Atsumi, Tetsuya Sakamoto, Naoto Morimura, Ken Nagao, Yasufumi Asai, Hiroyuki Yokota, Yoshio Tahara, Mamoru Hase, Satoshi Nara, Koichi Ariyoshi, Yoko Asaka, Noriaki Aoki and the SAVE-J Investigators : ECPR indication criteria - from the cost effectiveness study of SAVE-J -. Resuscitation science symposium, Dallas, 2013.11.16

12. 渥美生弘, 坂本哲也, 森村尚登, 長尾 建, 浅井康文, 横田裕行, 田原良雄, 長谷 守, 奈良 理, 青木則明, 有吉孝一, SAVE-J study group : ECPRの適応を考える - SAVE-J study費用対効果の検討から - . 蘇生科学を語る夕べ2013, Dallas, 2013.11.17
13. 渥美生弘, 坂本哲也, 森村尚登, 長尾 建, 浅井康文, 横田裕行, 田原良雄, 長谷 守, 奈良 理, 青木則明, 有吉孝一, SAVE-J study group : ECPRの適応を考える - SAVE-J study費用対効果の検討から - . 第5回病院外心停止記録活用研究会, 京都, 2013.12.27
14. 渥美生弘, 坂本哲也, 森村尚登, 長尾 建, 浅井康文, 横田裕行, 田原良雄, 長谷 守, 奈良 理, 青木則明, 有吉孝一 : ECPRの適応を考える - SAVE-J study費用対効果の検討から - . 第7回日本蘇生科学シンポジウム (J-ReSS), 京都, 2014.3.1
15. 荒木 結, 渥美生弘, 藤原久美子, 谷尻淑子, 脇本 泉, 高尾佳美, 萩原千架子, 梅田みゆき, 利川亜弥 : 救急病棟におけるRRS導入への取り組み. 第40回日本集中治療学会学術集会, 京都, 2014.2.28
16. 有吉孝一 : 救急一般1 座長. 第27回日本小児救急医学会, 沖縄コンベンションセンター, 2013.6.15
17. 有吉孝一 : シンポジウム「一般科救急・精神科救急連携に向けての課題と今後の取り組み」「三次救急病院(救命救急センター)の立場から」. 第15回兵庫県救急医療フォーラム, 兵庫県医師会館 TV会議システム中継 : 川西市医師会館, 加古川医師会館, たつの市・揖保郡医師会館, 豊岡市医師会館, 2013.9.7
18. 有吉孝一, 水 大介, 林 卓郎, 渥美生弘 : 質と量 EICU on ER. 第41回日本救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013.10.21
19. 有吉孝一 : 座長 口演45 小児1. 第41回日本救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013.10.21
20. Koichi Ariyoshi : Chairpersons (Pediatric Emergencies). The 7th Asian Conference on Emergency Medicine (第7回アジア救急医学会), 東京国際フォーラム, 2013.10.24
21. 有吉孝一 (開催世話人), 林 卓郎, 渥美生弘, 伊原崇晃, 蛭名正智, 神谷侑画, 畑 菜摘, 他 (ファシリテーター) : 第4回日本小児救急医学会神戸ルミナリエ教育セミナー, 兵庫県医師会館, 2013.12.7-8
22. 有吉孝一 : 座長 感染症3. 第202回日本内科学会近畿地方会, 大阪国際交流センター, 2013.12.14
23. 有吉孝一 : EICU on ER - 神戸発 救急医療体制の新たな試み -. 第67回沖縄外科会特別講演, 沖縄県医師会館, 2014.2.12
24. 有吉孝一 : 三次救急医療病院の立場から (高齢者の「いざ」を考えよう! ~高齢者救急~シンポジウム). 第16回兵庫県救急医療フォーラム (第4回市民公開フォーラム), 兵庫県医師会館, 2014.3.29
25. 石井利英, 田中雄己, 中園紘子, 中農洋介, 坂地一朗, 吉川真由美, 吉田哲也, 井上和久, 瀬尾龍太郎, 渥美生弘 : SAVE-J研究にみるECPR群と非ECPR群におけるECPR実施症例の予後の検討. 第40回日本集中治療学会学術集会, 京都, 2014.2.28
26. 石橋健太, 松岡由典, 渥美生弘, 有吉孝一, 崎園賢治, 小谷陽子 : 救急外来における尿グラム染色の有用性. 第41回日本救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013.10.22
27. 井上 彰, 渥美生弘, 有吉孝一 : 外傷による脳死患者における脳死下臓器提供の課題. 第27回日本外傷学会学術集会, 久留米, 2013.5.24

28. 井上 彰, 渥美生弘, 有吉孝一: 小児救急の担い手としてのER医の存在意義. 第27回日本小児救急医学会, 沖縄コンベンションセンター, 2013. 6 .15
29. 井上 彰, 渥美生弘, 有吉孝一: 小児救急の担い手としてのER医の存在意義. 第16回日本臨床救急医学会 学術集会, 東京国際フォーラム, 2013. 7 .12
30. 井上 彰, 渥美生弘, 有吉孝一: 神戸マラソン救護体制における問題点～大量同時患者搬送を阻止せよ!～. 第16回日本臨床救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013. 7 .12
31. 井上 彰, 渥美生弘, 有吉孝一: ER医が小児救急の担い手となる (パネルディスカッションERにおける小児診療の現状と課題3-2). 第41回日本救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013.10.22
32. 井上 彰, 渥美生弘, 有吉孝一: 神戸ルミナリエ 救護所運営10年の軌跡. 第19回日本集団災害医学会学術集会, 東京, 2014. 2 .26
33. 井ノ口健太, 小林裕之, 水 大介, 渥美生弘: 下脛十二指腸動脈瘤破裂による後腹膜巨大血腫で判明した腹腔動脈圧迫症候群の1例. 第41回日本救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013.10.22
34. 伊原崇晃: Dダイマーの測定頻度を増やすことで肺塞栓の診断率は変化するか? 第41回日本救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013.10.22
35. 伊原崇晃: ERのすすめ. 消化器疾患オープンカンファレンス, 西神戸医療センター, 2013.10.24
36. 岩崎 寛, 瀬尾龍太郎, 姚 思遠, 森 勇人, 明石祐作, 神谷侑画, 浅香葉子, 井上 彰, 渥美生弘, 有吉孝一: 開腹時期の決定に難渋した、大腸癌に伴う閉塞性イレウスによる大腸壊死の1例. 第58回日本集中治療学会近畿地方会, 兵庫医療大学, 2013. 7 . 6
37. 岩崎 寛, 村石真紀夫, 杉村朋子, 明石祐作, 井上 彰, 伊原崇晃, 水 大介, 林 卓郎, 渥美生弘, 有吉孝一: 診断に難渋したレジオネラ肺炎の一例. 第109回日本救急医学会近畿地方会, 京都(京都テルサ), 2014. 3 . 1
38. 蛭名正智, 渥美生弘, 有吉孝一: ER型救命センターを自力受診し、入院を要した外傷症例の検討. 第27回日本外傷学会学術集会, 久留米, 2013. 5 .24
39. 蛭名正智, 林 卓郎, 有吉孝一, 佐藤慎一: 当院における特発性縦隔気腫29例の検討ー入院や抗菌薬投与は必要かー. 第41回日本救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013.10.22
40. 蛭名正智: 外傷診療における画像診断の考え方. 第1回救急撮影オープンカンファレンス, 神戸市立医療センター中央市民病院1階講堂, 2014. 3 .28
41. 神蘭淳司, 村田祐二, 荒木 尚, 井上信明, 日沼千尋, 白石裕子, 浮山越史, 黒田達夫, 我那覇仁, 有吉孝一, 植田育也, 市川光太郎: 小児救急・教育セミナーの評価と課題～第3回広瀬川教育セミナー2012総括～. 第27回日本小児救急医学会, 沖縄コンベンションセンター, 2013. 6 .14
42. 神谷侑画: 小児における魚骨誤嚥の検討. 第27回日本小児救急医学会, 沖縄コンベンションセンター, 2013. 6 .15
43. 神谷侑画, 松岡由典, 伊原崇晃, 水 大介, 林 卓郎, 渥美生弘, 有吉孝一: 当院における魚骨誤嚥の比較検討. 第16回日本臨床救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013. 7 .12

44. 神谷侑画, 水 大介, 浅香葉子, 瀬尾龍太郎, 渥美生弘, 有吉孝一: ICU再入室に至る患者背景について. 第40回日本集中治療学会学術集会, 京都, 2014. 3. 1
45. 官澤洋平, 園 諭美, 瀬尾龍太郎, 蛭名正智, 志水隼人, 亀井博紀, 土井朝子, 西岡弘晶: 「学生病院見学プログラム」に初期研修医が参加することの意義について. 第4回日本プライマリ・ケア連合学会, 仙台国際センター, 2013. 5. 19
46. 進藤達哉, 松岡由典, 渥美生弘, 有吉孝一: いつ打つか? 今でしょ! ©風疹対策プロジェクト. 中央区学術集談会, 神戸市医師会館, 2013.10.12
47. 須賀将文, 井上 彰, 渥美生弘, 有吉孝一: 神戸マラソン医療体制における問題点. 第19回日本集団災害医学会学術集会, 東京, 2014. 2. 26
48. 須賀将文, 有吉孝一, 渥美生弘, 水 大介: 流行性耳下腺炎の疑いで経過観察され、その後頸部CTにて Lemierre症候群の診断となった一例. 第109回日本救急医学会近畿地方会, 京都 (京都テルサ), 2014. 3. 1
49. 杉村朋子, 長崎 靖, 有吉孝一: 監察業務区域内での病院到着時心肺停止事例の現状と課題. 第97次日本法医学会学術全国集会, 札幌 (北海道大学), 2013. 6. 28
50. 杉村朋子, 水 大介, 有吉孝一: 偶発性ハエ症 (蠅蛆症) の2例. 第41回日本救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013.10.22
51. 杉村朋子, 長崎 靖: 心肺蘇生時の胸骨圧迫による心損傷事例. 第60回日本法医学会学術近畿地方集会, 大阪 (近畿大学), 2013.11.16
52. 杉村朋子, 長崎 靖, 渥美生弘, 有吉孝一: 胸骨圧迫による心損傷症例の検討. 第40回日本集中治療学会学術集会, 京都, 2014. 2. 27
53. 杉村朋子: 高齢者の中毒事情 講演 薬毒物中毒について. 第27回兵庫県医師会臨床警法医会, 兵庫県医師会館, 2014. 3. 8
54. 瀬尾龍太郎, 田中雄己, 藤岡直昭, 渥美生弘, 有吉孝一, 山崎和夫: ECMOセンター設立に向けた当院集中治療部の取り組み. 第22回兵庫県救急・集中治療研究会プログラム, チサンホテル神戸, 2013.11.16
55. 瀬尾龍太郎, 田中雄己, 井上 彰, 蛭名正智, 池田理沙, 園 真廉, 朱 祐珍, 渥美生弘, 有吉孝一, 山崎和夫: ECMOセンター設立に向けた当院集中治療部における多面的な取り組み. 第40回日本集中治療学会学術集会, 京都, 2014. 3. 1
56. 園 真廉, 林 卓郎, 園 諭美, 西岡弘晶, 有吉孝一: 地域住民の救急外来への受診動向: 神戸市の基幹病院における疫学研究. 第4回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 仙台国際センター, 2013. 5. 19
57. 園 真廉: MRSA感染症: ガイドラインを片手に症例を振り返る. インフェクションサミット in 神戸, 神戸芸術センター, 2013. 7. 27
58. 中浴伸二, 安藤基純, 林 卓郎, 井上 彰, 有吉孝一, 北田徳昭, 橋田 亨: 維持血液透析中の高齢者がアテノロールの血中濃度上昇により徐脈を来した1例. 第34回日本中毒学会西日本部会, 大阪, 2014. 2. 22

59. 西原浩真, 岩田健太郎, 影山智広, 前川利雄, 玉井浩二, 浅香葉子, 富井啓介: 発作性高血圧による肺胞出血から急性呼吸不全となるも排痰、早期離床に成功した一例. 第40回日本集中治療学会学術集会, 京都, 2014. 3. 1
60. 畑 菜摘, 蛭名正智, 井上 彰, 渥美生弘, 有吉孝一: 家庭内暴力による外傷性心損傷・心タンポナーデからショックをきたした1例. 第27回日本外傷学会学術集会, 久留米, 2013. 5. 24
61. 畑 菜摘, 蛭名正智, 水 大介, 伊原崇晃, 有吉孝一: 妊娠40週に転落外傷でCPAに陥ったが独歩退院できた一例. 第16回日本臨床救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013. 7. 13
62. 畑 菜摘, 松岡由典, 渥美生弘, 有吉孝一: 重症敗血症患者の抗生剤選択についての検討. 第41回日本救急医学会学術集会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013.10.22
63. 林 卓郎, 有吉孝一, 伊原崇晃, 蛭名正智, 明石祐作, 神谷侑画: 当院における小児マムシ咬傷症例の特徴～成人症例との比較. 第27回日本小児救急医学会, 沖縄コンベンションセンター, 2013. 6. 15
64. 林 卓郎, 有吉孝一, 渥美生弘, 水 大介, 伊原崇晃, 松岡由典: Dog bite, cat bite, even cat scratch. What should we take care? ～5 cases of Capnocytophaga canimorsus infection～. 第7回地中海救急医学会, マルセイユ, フランス, 2013. 9. 11
65. 林 卓郎: 病院紹介「虹のかなたに」. 中央区第1回地域医療連携協議会, 神戸市医師会館3階市民ホール, 2013. 9. 28
66. 林 卓郎, 松岡由典, 伊原崇晃, 水 大介, 渥美生弘, 有吉孝一: 緊急避妊ピル処方現状～病院内取り決めを守っているか～. 第41回日本救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013.10.21
67. Takuro Hayashi, Koichi Ariyoshi, Akira Inoue: Over the rainbow “Desired role of emergency physician for pediatric emergency medicine” (Panel Discussion 8 “Pediatric”). The 7th Asian Conference on Emergency Medicine (第7回アジア救急医学会), 東京国際フォーラム, 2013.10.24
68. 林 卓郎: 講演「オーバーザレインボー」. 日本小児救急医学会・教育研修セミナー(神戸ルミナリエ教育セミナー), 兵庫県医師会館, 2013.12. 7 - 8
69. Yoshinori Matsuoka, Takuro Hayashi, Takahiro Atsumi, Koichi Ariyoshi: The role of emergency ultrasonography in cardiopulmonary resuscitation. ACEP (American Society of Emergency Physician) 2013, Seattle, USA, 2013.10.15
70. Yoshinori Matsuoka, Takuro Hayashi, Takahiro Atsumi, Koichi Ariyoshi: Psoas Abscesses: A Diagnostic challenging in emergency department. The 7th Asian Conference on Emergency Medicine (第7回アジア救急医学会), Tokyo International Forum, 2013.10.24
71. 水 大介, 伊原崇晃, 松岡由典, 蛭名正智, 神谷侑画, 林 卓郎, 有吉孝一: 3カ月以下の小児発熱患者の病状を知る. 第27回日本小児救急医学会, 沖縄コンベンションセンター, 2013. 6. 15
72. 水 大介, 林 卓郎, 渥美生弘, 有吉孝一: 急性腹症のピットフォール～腸間膜動脈・腹腔動脈解離～. 第16回日本臨床救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013. 7. 12
73. 水 大介, 林 卓郎, 渥美生弘, 有吉孝一: 救急外来で診断された悪性腫瘍の検討. 第41回日本救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013.10.22

74. 水 大介：トリアージのすすめ. 消化器疾患オープンカンファレンス, 西神戸医療センター, 2013.10.24
75. 村石真紀夫, 有吉孝一, 渥美生弘, 水 大介, 林 卓郎：診断に難渋した破傷風の2症例. 第16回日本臨床救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013. 7 .13
76. 村石真紀夫, 明石祐作, 水 大介, 林 卓郎, 渥美生弘, 有吉孝一：超高齢者の急性薬物中毒. 第35回日本中毒学会総会学術集会, 大阪国際交流センター, 2013. 7 .19
77. 村石真起夫：当院における感染性心内膜炎17例の検討. 第41回日本救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013.10.21
78. 森 勇人, 渥美生弘, 有吉孝一：軽微な外傷で、重症肝損傷に対してTAEを施行して救命した小児の1例. 第27回日本外傷学会学術集会, 久留米, 2013. 5 .23
79. 森 勇人, 有吉孝一：階段からの転落外傷の検討. 第27回日本小児救急医学会, 沖縄コンベンションセンター, 2013. 6 .14
80. 森 勇人, 渥美生弘, 有吉孝一：階段からの転落外傷の検討. 第41回日本救急医学会学術集会, 東京国際フォーラム, 2013.10.21

#### VIII. 1. 33 総合診療科

1. 岩田健太郎, 土井朝子：感染症専門医制度研修施設の実態調査. 第87回日本感染症学会学術講演会 第61回日本化学療法学会総会 合同学会, 横浜, 2013. 6 . 5
2. 遠藤明子, 園 諭美, 亀井博紀, 官澤洋平, 志水隼人, 水野泰志, 土井朝子, 西岡弘晶：進行胃痛を有する高齢者に発症した肺炎球菌による多発膿瘍・椎体炎の1例. 第201回日本内科学会近畿地方会, 京都, 2013. 9 . 7
3. 遠藤明子, 亀井博紀, 園 諭美, 官澤洋平, 志水隼人, 水野泰志, 土井朝子, 西岡弘晶：Re-feeding症候群を契機に入院しMarchiafava Bignami病が疑われた一例. 第203回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2014. 3 . 1
4. 亀井博紀：倦怠感／体動困難で転院してきた76歳男性の一例. 第1回Kobe GM Conference, 神戸, 2013. 8 . 8
5. 亀井博紀：最後のドラマ. 京都GIMカンファレンス, 京都, 2013. 9 . 6
6. 官澤洋平, 園 諭美, 瀬尾龍太郎, 蛭名正智, 亀井博紀, 志水隼人, 土井朝子, 西岡弘晶：「学生見学プログラム」に初期研修医が参加することの意義について. 第4回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 仙台, 2013. 5 .18
7. 官澤洋平, 園 諭美, 志水隼人, 亀井博紀, 土井朝子, 西岡弘晶：*Morganella morganii*による重症蜂窩織炎の一例. 第200回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2013. 6 . 7
8. 官澤洋平, 水野泰志, 遠藤明子, 志水隼人, 亀井博紀, 園 諭美, 土井朝子, 西岡弘晶：多発脳出血を合併したリステリア髄膜炎の一例. 第202回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2013.12.14
9. 官澤洋平, 亀井博紀, 園 諭美, 遠藤明子, 志水隼人, 水野泰志, 土井朝子, 西岡弘晶：総合診療科が中心となり各科と連携し救命できた透析患者の1症例. 第8回日本病院総合診療医学会学術総会, 大阪, 2014. 2 .22

10. 官澤洋平, 園 諭美: 急性大動脈解離術後MRSA人工血管感染. 第5回薬剤師と臨床検査技師のための抗菌薬治療研究会, 神戸, 2014. 3. 6
11. 上月友寛, 亀井博紀, 園 諭美, 土井朝子, 西岡弘晶: 敗血症・DICで受診したCapnocytophaga canimorsus菌血症の一症例. 第200回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2013. 6. 7
12. 小曳恵里子, 安藤基純, 北田徳昭, 中浴伸二, 柏木裕子, 山本健児, 西岡弘晶, 橋田 亨: ダプトマイシンの血中濃度モニタリングと安全性に関する検討. 第30回日本TDM学会・学術大会, 熊本, 2013. 5. 25
13. 志水隼人, 亀井博紀, 園 諭美, 土井朝子, 大竹紀子, 西岡弘晶: 妊娠中に四肢の疼痛で発症したrestless legs syndromeの1例. 第200回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2013. 6. 7
14. 園 真廉, 林 卓郎, 園 諭美, 西岡弘晶, 有吉孝一: 地域住民の救急外来への受診動向: 神戸市の基幹病院における疫学的研究. 第4回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 仙台, 2013. 5. 19
15. 園 諭美, 亀井博紀, 志水隼人, 西岡弘晶: 救急部が独立して存在する大病院での総合診療科の役割. 第7回日本病院総合診療医学会学術総会, 広島, 2013. 8. 31
16. 園 諭美, 遠藤明子, 亀井博紀, 官澤洋平, 志水隼人, 土井朝子, 水野泰志, 西岡弘晶: 縦割り診療の総合病院において、横をつなぐ総合診療科. 第8回日本病院総合診療医学会学術総会, 大阪, 2014. 2. 22
17. 土井朝子, 岩田健太郎, 竹川啓史, 三木寛二, 千葉菜穂子, 生方公子, 園 諭美, 西岡弘晶, 富井啓介, 春田恒和: カルバペネム耐性肺炎球菌による肺炎の一例、治療と予防の再検討. 第87回日本感染症学会学術講演会 第61回日本化学療法学会総会 合同学会, 横浜, 2013. 6. 5
18. 土井朝子, 岩田健太郎, 園 諭美, 西岡弘晶, 春田恒和: 肺動脈弁の感染性心内膜炎、症例報告と文献的考察. 第87回日本感染症学会学術講演会 第61回日本化学療法学会総会 合同学会, 横浜, 2013. 6. 5
19. 土井朝子: Staphylococcus aureusによるIEの治療overview. Fleekic, 神戸, 2013. 6. 15
20. 土井朝子: 性感染症とHIV/AIDSの話. 西宮市保健所性感染症教育, 西宮, 2013. 7. 17
21. 土井朝子: HIV/AIDSの治療の現状. 神戸市予防衛生課AIDS教室, 神戸, 2013. 7. 21
22. 土井朝子: 肺炎球菌ワクチンと肺炎球菌感染症. 兵庫呼吸器疾患研究会, 神戸, 2014. 2. 13
23. 西岡弘晶: これは救急?～病歴とバイタルサインから考える～. 東灘区医師会学術講演会, 神戸, 2013. 5. 31
24. 西岡弘晶, 園 諭美: 腎嚢胞感染の治療後に化膿性脊椎炎で再発した1例－腎嚢胞感染の治療法と効果判定法の考察－. 第87回日本感染症学会学術講演会 第61回日本化学療法学会総会 合同学会, 横浜, 2013. 6. 5
25. 西岡弘晶: 総合診療医による発熱患者へのアプローチ. 明石市医師会内科医会 学術講演会, 明石, 2013. 6. 8
26. 西岡弘晶: 臨床研修報告. 臨床研修協力施設と研修病院の交流会 (神戸市医師会), 神戸, 2013. 8. 1
27. 西岡弘晶: 高齢者の理解と認知症患者への対応「高齢者医療の現状と課題」. 日本看護協会 衛星通信研修, 神戸, 2013. 8. 8



28. 西岡弘晶：腹腔内感染症. Medical Symposium in 神戸<重症感染症の治療戦略>, 神戸, 2013. 8 .24
29. 西岡弘晶：内科診療の基礎～病歴とバイタルサインでどこまでわかる～. 2nd Active Pharmacist Seminar in HYOGO, 神戸, 2013. 9 .18
30. 西岡弘晶：骨粗鬆症診療のエビデンスとEBM. 武田薬品社内勉強会, 神戸, 2013. 9 .27
31. 西岡弘晶, 梅村聡美：高齢者の簡易栄養スクリーニング法の検討. 第35回日本臨床栄養学会, 京都, 2013.10. 4
32. 西岡弘晶, 亀井博紀：当院におけるカテーテル関連血流感染症の検討. 第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 横浜, 2014. 2 .28
33. 西岡弘晶：研修医に身につけてほしい尋ね方、伝え方のスキル～あなたの話は伝わっていますか～. 第3回研修医のためのセミナー（兵庫県医師会）, 神戸, 2014. 3 . 1
34. 藤本大智, 竹川啓史, 三木寛二, 仁木真理恵, 玉井浩二, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 土井朝子, 富井啓介：本邦において使用可能な嫌気性菌用輸送容器の保菌能比較. 第87回日本感染症学会学術講演会 第61回日本化学療法学会総会 合同学会, 横浜, 2013. 6 . 5
35. 水野泰志, 齋藤和義, 岩田 慈, 澤向範文, 園本格士朗, 中野和久, 中山田真吾, 名和田雅夫, 平田信太郎, 山岡邦宏, 田中良哉：関節リウマチ患者における生物学的製剤導入前スクリーニングCTにて発見された胸部異常陰影の検討. 第57回日本リウマチ学会総会, 京都, 2013. 4 .18
36. 水野泰志：流れがわかる基礎からの関節リウマチ診療. 神戸港島リウマチ膠原病連携の会, 神戸, 2013. 5 .23
37. 水野泰志：リウマチ膠原病診断治療の現状. アステラス製薬社内勉強会, 神戸, 2013. 6 .18
38. 水野泰志：生物学的製剤投与時におけるB型肝炎ウイルス感染の検討. エーザイ社内勉強会, 神戸, 2013. 6 .21
39. 水野泰志：当院におけるリウマチ治療の現状と今後. 田辺三菱製薬社内勉強会, 神戸, 2013. 7 .30
40. 水野泰志：当院におけるリウマチ治療の現状と生物学的製剤の使い分け. 武田薬品社内勉強会, 神戸, 2013. 8 .21
41. 水野泰志：寛解休薬を目指したRA治療戦略. Young Rheumatologists' Debate on The Coming Decade in Kobe, 神戸, 2014. 2 .14
42. 水野泰志：仙腸関節炎の画像所見あるものの長期間診断されていなかったAxial SpAの1例. 神戸AS small meeting, 神戸, 2014. 3 . 6
43. 吉崎亜衣沙, 園 諭美, 亀井博紀, 志水準人, 西岡弘晶：アセタゾラミド内服による低カリウム血症のため筋力低下をきたした1例. 第200回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2013. 6 . 7

## VIII. 1. 34 看護部

1. 蘭 翔奈：右室梗塞を合併した重症心筋梗塞患者の心臓リハビリテーションの効果と取り組む姿勢の変化. 第19回心臓リハビリテーション学会学術集会, 仙台, 2013. 7 .13-14

2. 池田理沙, 柴田美由紀: 当院救急集中治療室での早期リハビリへの取り組み～挿管患者を歩かせよう!～. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014. 2. 27- 3. 1
3. 石井美和: チーム医療における歯科衛生士の取り組み. 日本歯科衛生学会第8回学術大会, 神戸, 2013. 9. 16
4. 石川 愛, 丸山浩枝, 佐野 恵, 佐伯和美, 舟木由香, 田中真咲: 小手術を受ける子どものプレパレーションを病棟に定着させる教育的試行(第1報) - 教育的施行のプロセス-. 第23回日本小児看護学会, 高知, 2013. 7. 13-14
5. 岩田奈美: 終末期にあるがん患者が体験するゆらぎ. 第28回日本がん看護学会学術集会, 新潟, 2014. 2. 8-9
6. 梅田節子: 抗がん剤治療から緩和ケアへのシームレスな移行のために 市民公開講座における患者・家族への情報提供. 第18回日本緩和医療学会学術大会, 横浜, 2013. 6. 21-22
7. 梅田節子, 斎藤美智子, 田原華子: 急性期病院における看護師が捉える看取りケアの現状と課題(第3報) - 若手看護師の育成と看取りケアのための環境に焦点をあてて-. 第28回がん看護学会学術集会, 新潟, 2014. 2. 8-9
8. 大坪 麗, 伊藤聡子: EICUでの尿道留置カテーテル固定用具の必要性～スタットロックフォーリー®の試用～. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014. 2. 27- 3. 1
9. 小倉明子, 新改法子, 北岡亜紀, 井出絹代: 救急病棟における開放式吸引時の手指衛生及び個人防護具着用遵守率調査と向上への取り組み. 第29回日本環境感染学会, 東京, 2014. 2. 14-15
10. 川村修司: 急性期総合病院における精神科リエゾンチームの活動. 第26回日本総合病院精神医学会総会, 京都, 2013. 11. 29-30
11. 毛谷淳子, 坂本悦子: 血液内科病棟におけるBacillus cereus菌血症の実態とその対策. 第29回日本環境感染学会, 東京, 2014. 2. 14-15
12. 佐々木志穂, 池田理沙, 柴田美由紀: 当院CCUにて人工呼吸を受けた患者における栄養療法について. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014. 2. 27- 3. 1
13. 佐藤千賀, 田頭美沙, 平野真衣: 入退院を繰り返す心不全患者の再入院を防ぐための看護師の関わり. 第2回兵庫・大阪・京都心不全チーム医療研究会, 大阪, 2013. 11. 9
14. 新改法子, 小倉明子: 全病棟における直接観察法を用いた手指衛生遵守率及び擦式アルコール製剤使用量と新規MRSA発生率調査. 第29回日本環境感染学会, 東京, 2014. 2. 14-15
15. 鈴木佳津子: 当院における体重測定ミス分析の報告 - インシデントレポートから読み取る -. 第31回神戸腎疾患カンファランス, 神戸, 2013. 10. 27
16. 宗田リエ: 便秘・下痢に対するcomfortケアとは. 第9回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 神戸, 2013. 6. 8
17. 高尾佳美, 萩原千架子, 荒木 結, 脇本 泉, 梅田みゆき, 利川亜弥, 藤原久美子, 谷尻淑子, 三宅美智子, 井出絹代: 救急病棟におけるRRS導入への取り組み. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014. 2. 27- 3. 1

18. 高岡万伊, 渡辺典子, 蘭 翔奈, 田頭美沙, 平野真衣, 佐藤千賀, 鯨谷雅志, 仲村直子: 右室梗塞を合併した重症心筋梗塞患者の心臓リハビリテーションの効果と取り組む姿勢の変化. 第2回関西心臓リハビリテーション研究会, 大阪, 2014. 2. 1
19. 田頭美沙, 佐藤千賀, 平野真衣: 入退院を繰り返す心不全患者の再入院を防ぐために～心臓リハビリテーションにおける看護師の関わりとは～. 第19回心臓リハビリテーション学会学術集会, 仙台, 2013.7.13-14
20. 弦牧知佳: がん放射線療法看護認定看護師の役割とは. 第27回高精度外部放射線治療研究会, 東京, 2014. 2. 22
21. 寺坂恵美, 伊藤聡子, 伊藤明美, 森 亜紀: ナーシングスキル導入の取り組み. 第52回全国自治体病院学会, 京都, 2013.10.17-18
22. 長尾幸恵: 患者・家族の意向を治療方針にどう反映させるか? 日本看護倫理学会第6回年次大会, 鹿児島, 2013. 6. 8 - 9
23. 中川千枝, 沖 愛, 辻松亜依, 西岡光代, 金中宏江, 松川咲子: 腹膜透析患者指導の向上を目指して～アクションリサーチを用いた取り組み. 第29回関西CAPDナースセミナー, 大阪, 2014. 2. 16
24. 仲村直子: 利尿薬による心不全管理の実態～水分管理の課題～. 第78回日本循環器学会学術集会, 京都, 2014. 3. 21-23
25. 鯨谷雅志, 柴田有希子, 上杉香織, 蘭 翔奈, 佐藤千賀, 高岡万伊, 田頭美沙, 平野真衣, 渡辺典子, 仲村直子: 入院心リハを行なったACS患者の実態調査～患者教室充実のための取り組み～. 第19回心臓リハビリテーション学会学術集会, 仙台, 2013. 7. 13-14
26. 難波亜衣子, 濱田麻美子, 佐藤杏子, 橋本真理子, 太田みか, 関 文枝, 谷本歌織, 森川奈緒美, 前川恵子: 外来化学療法センターにおける自然滴下方式コントローラー導入後の報告. 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2013.10.24-26
27. 西浦郁絵, 渡部幸代, 岩下亜津美, 福田直子, 平田智香, 松村佳苗, 毛谷淳子: 栄養チューブ管理に関するリスクの内容分析. 第8回医療の質・安全学会学術集会, 東京, 2013.11.23-24
28. 濱田麻美子, 佐藤杏子, 橋本真理子, 難波亜衣子, 太田みか, 関 文枝, 谷本歌織, 森川奈緒美, 小椋君子: 初回外来化学療法を受ける患者を中心とした電話相談の取り組み. 第52回全国自治体病院学会, 京都, 2013.10.17-18
29. 濱田麻美子, 梅田節子, 佐藤杏子: 外来通院中のがん患者が体験する医療者とのコミュニケーション. 第28回がん看護学会学術集会, 新潟, 2014. 2. 8 - 9
30. 早瀬まゆみ, 佐伯和美, 佐野 恵, 田中真咲: 「キッズガーデンでの活動が子どもにもたらした効果」～ラジオ体操の取り組みにおいて～. 第14回子どもの療養環境研究会, 愛知, 2013. 6. 16
31. 藤岡直昭, 高岡宏一, 三浦織絵, 二場祐樹, 新改法子: 当院EICUにおけるVAPサーベイランスの結果と今後の課題. 第29回日本環境感染学会, 東京, 2014. 2. 14-15
32. 藤岡直昭, 高岡宏一, 三浦織絵, 佐々木希久子, 二場祐樹, 古林 彩, 片山亜弥嘉, 笹倉奈美子, 新改法子, 柴田美由紀: 当院EICUにおけるVAP発生の現状と今後の課題. 第29回日本環境感染学会, 東京, 2014. 2. 14-15

33. 藤田佳代, 森田幸子, 松山直子, 橋内堅司, 清水真喜美, 立川敬子, 八谷悠未, 折原 晶, 浅野 玲, 浜辺貴子, 伊藤明美: 当院ICUにおけるVAP予防への取り組み－頭部拳上とVAP発生の変化－. 第35回呼吸療法医学会学術総会, 東京, 2013. 7. 20-21
34. 藤村弓子, 井上美鈴, 関 文枝, 田宮久美子, 田上真美, 松野美樹, 齊藤園美, 斎藤美智子: 神戸市立医療センター中央市民病院 乳腺外科のチーム医療. 第67回京滋乳癌研究会, 京都, 2014. 3. 15
35. 丸山浩枝, 石川 愛, 佐野 恵, 佐伯和美, 舟木由香, 田中真咲: 小手術を受ける子どものプレパレーションを病棟に定着させる教育的試行(第2報)－教育的施行前後の看護師の認識・行動の変化－. 第23回日本小児看護学会, 高知, 2013. 7. 13-14
36. 森田幸子, 藤田佳代, 松山直子, 立川敬子, 清水真喜美, 八谷悠未, 折原 晶, 浅野 玲, 浜辺貴子, 橋内堅司, 伊藤明美: アンカーファスト®使用による口腔潰瘍の検討. 第35回呼吸療法医学会学術総会, 東京, 2013. 7. 20-21
37. 米谷久美子, 山森みどり: 急性期病院における退院支援・調整－チーム制を導入して－. 第52回全国自治体病院学会, 京都, 2013.10.17-18

## VIII. 1. 35 薬剤部

1. 稲角利彦, 金剛圭祐, 薩摩由香里, 大音三枝子, 北田徳昭, 梅田節子, 李 美於, 橋田 亨: 緩和ケア外来における薬剤師の介入とその評価. 第7回日本緩和医療薬学会年会, 千葉, 2013. 9. 15
2. 稲角利彦: シームレスながん患者サポート～薬剤師に求められること～「がん患者の疼痛マネジメント」. 第4回兵庫県薬剤師会研修部主催講演会, 神戸, 2013.12.15
3. 奥貞佳奈子, 山本千代, 登 佳寿子, 北田徳昭, 石川隆之, 橋田 亨: Bcr-Ablチロシンキナーゼ阻害薬服用患者を対象とした薬剤師外来の必要性. 第23回日本医療薬学会年会, 仙台, 2013. 9. 21
4. 奥貞 智: 糖尿病の薬物療法について. 糖尿病療養指導士兵庫県連合会主催糖尿病教育セミナー2013, 神戸, 2013.10.14
5. 笠井祐希, 酒井麻衣, 池村 舞, 平島正樹, 北田徳昭, 橋田 亨: ボルテゾミブ皮下投与による末梢神経障害の発現状況と薬剤師の視点から見えてきた問題点. 第3回薬剤師レジデント交流会, 西宮, 2014. 3. 21
6. 風間 正, 北田徳昭, 長谷川豊, 橋田 亨, 濱口常男: 非ホジキンリンパ腫に対するR-CHOP療法における血液毒性に及ぼす性差の影響. 第23回日本医療薬学会年会, 仙台, 2013. 9. 21
7. 川口奈奈子, 原田奈生子, 柴谷直樹, 北田徳昭, 猪熊哲朗, 橋田 亨: C型慢性肝炎3剤併用療法における腎機能障害及び貧血の発現状況. 第35回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 京都, 2014. 2. 1
8. 川口奈奈子, 小曳恵里子, 原田奈生子, 柴谷直樹, 北田徳昭, 橋田 亨: C型慢性肝炎3剤併用療法における貧血および急性腎不全の発現状況. 第3回薬剤師レジデント交流会, 西宮, 2014. 3. 21
9. 北田徳昭: 薬学的介入の実際と症例サマリー－消化器がん－. 日本医療薬学会第1回がん専門薬剤師認定申請のための症例サマリー書き方講座, 東京, 2013. 5. 19
10. 北田徳昭: 外来診療におけるチーム医療－経口抗がん薬の投与マネジメント. 第6回淡路島がん診療連携推進セミナー, 洲本, 2013. 7. 25

11. 北田徳昭：病薬連携を利用した経口抗がん薬の投与マネジメント。第1回ポートアイランド薬薬連携の会，神戸，2013.9.11
12. 北田徳昭：抗がん薬の投与マネジメント。神戸市立医療センター中央市民病院がん診療オープンセミナー，神戸，2013.9.12
13. 北田徳昭：周術期のリスク回避を目指した薬学的マネジメント。第19回バイエル医療薬学セミナー神戸，神戸，2013.10.16
14. 北田徳昭：がん薬物療法のトータルマネジメント。第36回岡山県病院薬剤師会癌薬物療法研究会，岡山，2013.10.19
15. 北田徳昭：がん薬物療法のトータルマネジメント。第3回滋賀県がん薬物療法conference，守山，2014.3.5
16. 金城奈美，奥貞 智，池村 舞，北田徳昭，瓜生原健嗣，橋田 亨：周術期における薬物療法への薬剤師の介入基準の明確化とその評価～入院前検査センターにおける抗血栓薬のマネジメント～。第35回日本病院薬剤師会近畿学術大会，京都，2014.2.1
17. 金城奈美，米澤武志，奥貞 智，池村 舞，北田徳昭，橋田 亨：入院前検査センターにおける抗血栓薬内服患者への薬剤師の介入基準の導入とその評価。第3回薬剤師レジデント交流会，西宮，2014.3.21
18. 熊谷美香，池村 舞，中浴伸二，柏木裕子，北田徳昭，橋田 亨：重症感染症患者におけるバンコマイシン散の腎機能に及ぼす影響。第35回日本病院薬剤師会近畿学術大会，京都，2014.2.1
19. 熊谷美香，池村 舞，山本晴奈，中浴伸二，柏木裕子，北田徳昭，橋田 亨：重症感染症患者におけるバンコマイシン散経口投与による腎機能への影響。第3回薬剤師レジデント交流会，西宮，2014.3.21
20. 小曳恵里子，安藤基純，北田徳昭，中浴伸二，柏木裕子，山本健児，西岡弘晶，橋田 亨：ダプトマイシンの血中濃度モニタリングと安全性に関する検討。第30回日本TDM学会学術大会，熊本，2013.5.26
21. 柴谷直樹，原田奈生子，永井美帆，北田徳昭，橋田 亨：タブレット端末を用いた医薬品情報室からの病棟薬剤業務支援とその評価。第16回日本医薬品情報学会総会・学術大会，名古屋，2013.8.10
22. 柴谷直樹，仲宗根亜紀，佐藤志保，岸本修一，北田徳昭，西岡和子，青木卓哉，北 正人，猪爪信夫，橋田 亨，福島昭二：切迫早産患者におけるリトドリンの全身クリアランスに及ぼす遺伝子多型の影響。日本薬学会第134年会，熊本，2014.3.30
23. 清水里沙，山本千代，奥貞佳奈子，北田徳昭，橋田 亨：神戸市立医療センター中央市民病院での薬剤師レジデント研修プログラムを終えて。第3回薬剤師レジデント交流会，西宮，2014.3.21
24. 高橋亜里紗，永井美帆，平島正樹，北田徳昭，橋田 亨：経口慢性骨髄性白血病治療薬における化学療法により発症するB型肝炎対策の現状。第3回薬剤師レジデント交流会，西宮，2014.3.21
25. 土肥麻貴子，池村 舞，中浴伸二，北田徳昭，橋田 亨：重症部門領域におけるClostridium difficile感染症発生患者の酸分泌抑制薬の使用実態。医療薬学フォーラム2013／第21回クリニカルファーマシーシンポジウム，金沢，2013.7.18
26. 中浴伸二：ダプトマイシン投与患者における血中濃度モニタリングの試み。MRSA感染症セミナー，神戸，2013.7.10

27. 中浴伸二：感染制御システムについて、薬剤師の立場から. 日本医療情報学会関西支部2013年度秋期講演会・関西医療情報処理懇談会第47回例会, 大阪, 2013. 9 .14
28. 中浴伸二, 安藤基純, 林 卓郎, 井上 彰, 有吉孝一, 北田徳昭, 橋田 亨：維持血液透析中の高齢者がアテノロールの血中濃度上昇により徐脈を来した1例. 第34回日本中毒学会西日本地方会学術集会, 枚方, 2014. 2 .22
29. 中浴伸二, 小曳恵理子：抗MRSA薬の選択とTDM. 西神戸医療センター臨床検査技術部オープンカンファレンス, 神戸, 2014. 3 .5
30. 中西真也, 平島正樹, 野村洋道, 北田徳昭, 濱田麻美子, 佐藤杏子, 佐竹悠良, 古武 剛, 辻 晃仁, 橋田 亨：ホスアプレピタントによる注射部位障害の実態調査と血管痛に対する温罨法の効果. 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2013.10.25
31. 野村洋道, 平島正樹, 中西真也, 北田徳昭, 辻 晃仁, 橋田 亨：高用量シスプラチンによる腎障害の要因解析. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 仙台, 2013. 8 .31
32. 橋口文乃, 濱 宏仁, 樋口弘実, 北田徳昭, 政井栄久, 橋田 亨：電子カルテアレルギー歴情報抽出システムの構築と病棟薬剤業務への適用. 第35回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 京都, 2014. 2 . 1
33. 橋口文乃, 濱 宏仁, 樋口弘実, 北田徳昭, 政井栄久, 橋田 亨：電子カルテアレルギー歴情報抽出システムの構築と病棟薬剤業務への適用. 第3回薬剤師レジデント交流会, 西宮, 2014. 3 .21
34. 橋田 亨：病棟薬剤業務の新展開を担う組織づくりと薬剤師の養成. Pharmaceutical Management Meeting 2013, 東京, 2013. 5 .25
35. 橋田 亨：新世代薬剤師が担う病院業務. 第36回徳島大学薬学部卒後教育公開講座, 徳島, 2013. 6 . 1
36. 橋田 亨：病院薬剤師の新しい業務展開とキャリアパス. 山口県病院薬剤師会薬学研究会, 山口, 2013. 6 . 2
37. 橋田 亨：抗がん薬のトータルマネジメント. 近畿ブロックがん化学療法認定薬剤師講習会, 大阪, 2013. 8 .24
38. 橋田 亨：チーム医療を推進する新時代の薬剤師. 岩手医科大学薬学部第1回卒後研修講座, 盛岡, 2013. 8 .25
39. 橋田 亨：がんのチーム医療と薬剤師の役割ーがん専門薬剤師について. 大阪薬科大学第3回がんプロシンポジウム, 高槻, 2013. 8 .26
40. 橋田 亨：注射抗がん薬のトータルマネジメント. 第16回日本注射薬臨床情報学会, 西宮, 2013. 8 .31
41. 橋田 亨：病棟薬剤業務の新展開を担う組織づくりと薬剤師の養成. 奈良県病院薬剤師会第93回学術講演会, 奈良, 2013. 9 .26
42. 橋田 亨：薬剤業務マネジメントと人材養成～病院運営の視点を持って～. 関信地区国立病院薬剤師会・第5回薬剤部科管理者研修会, 東京, 2013.10. 5

43. 橋田 亨：病院と地域のシームレスな薬物治療をめざして（薬剤分科会 特別シンポジウム）. 第52回全国自治体病院学会 in KYOTO, 京都, 2013.10.18
44. 橋田 亨：病院薬剤業務の新展開～広がるニーズと人材養成～. 第38回日赤臨床薬学研修会, 名古屋, 2013.11.3
45. 橋田 亨：抗がん薬のトータルマネジメント. 広島県病院薬剤師会学術講演会, 広島, 2013.11.15
46. 橋田 亨：病棟薬剤業務の新展開を担う組織作りと薬剤師の養成. 済生会平成25年度薬剤部長研修会, 東京, 2013.12.13
47. 平野達也, 高瀬友貴, 藤原秀敏, 北田徳昭, 橋田 亨：間質性肺炎におけるネオール<sup>®</sup>の服用2時間後血中濃度測定と腎障害に関する検討. 第3回薬剤師レジデント交流会, 西宮, 2014.3.21
48. 平島正樹：最適レジメンの提案. Meet The Specialist（日本イーライリリー／兵庫県病院薬剤師会）, 神戸, 2013.11.27
49. 水谷仁美, 鶴谷 茂, 西岡和子, 北田徳昭, 山川 勝, 橋田 亨：低出生体重児における高カロリー輸液の特徴とその調製. 第16回日本注射薬臨床情報学会, 西宮, 2013.8.31
50. 山本千代, 奥貞佳奈子, 登 佳寿子, 北田徳昭, 入江 慶, 岡田 裕, 平本展大, 橋本尚子, 石川隆之, 橋田 亨：同種造血幹細胞移植前処置におけるニューロキニン1受容体拮抗薬投与の免疫抑制剤の血中濃度に及ぼす影響. 第36回日本造血細胞移植学会総会, 沖縄, 2014.3.8
51. 山本晴菜, 北田徳昭, 柴谷直樹, 平島正樹, 橋田 亨：新規医薬品導入時におけるリスク最小化のための情報提供のあり方－デノスマブを例に－. 第16回日本医薬品情報学会総会・学術大会, 名古屋, 2013.8.11
52. 米澤武志, 奥貞 智, 金城奈美, 柴谷直樹, 北田徳昭, 瓜生原健嗣, 橋田 亨：入院前検査センターにおける抗血栓薬の中止指示の遵守状況. 第35回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 京都, 2014.2.1

## VIII. 1. 36 臨床検査技術部

1. 岩崎信広, 杉之下与志樹, 鄭 浩柄, 枋尾人司, 田村明代, 箕輪和士, 和田将弥, 猪熊哲朗, 今井幸弘：小腸腫瘍性病変の超音波像について. 日本超音波医学会第40回関西地方学術集会, 大阪, 2013.11.9
2. 岩崎信広：消化管 Screening超音波の系統的な手順－ピットフォールを回避するには？－. 日本超音波医学会第17回関西地方会講習会, 大阪, 2013.11.9
3. 尾松雅仁, 原留成和, 井本秀志, 坂本紀子, 森田明子, 上原慶一郎, 今井幸弘：Pneumocystis jirovecii 感染7例の細胞像. 兵庫県臨床細胞学会第30回総会, 神戸, 2014.3.15
4. 紺田利子, 谷 知子, 藤井洋子, 川井順一, 金 基泰, 北井 豪, 古川 裕, 北 徹：僧帽弁逸脱による重症僧帽弁逆流症例におけるMitral Annular Disjunctionについての検討. 第78回日本循環器学会学術集会, 東京, 2014.3.21
5. 菅原雅史, 枋尾人司, 濱田充生, 田村明代, 箕輪和士, 老田達雄：限局型自己免疫性膵炎のUSにおける特徴的な膵管所見 膵癌との比較検討から. 第53回日臨技近畿支部医学検査学会, 福井, 2013.10.19
6. 竹川啓史：感染症診断、治療における臨床検査技師の役割と機能について. 2013年日中港澳 院内感染対策学術研究会, 広州, 2013.9.11

7. 竹川啓史：感染制御システムについて. KMI第47回例会, 大阪, 2013. 9 .14
8. 竹川啓史：培養困難微生物・真菌について. 平成25年度感染管理認定看護師教育課程, 神戸, 2013. 9 .15
9. 竹川啓史：真菌について. 平成25年度感染管理認定看護師教育課程, 神戸, 2013. 9 .22
10. 竹川啓史, 大楠清文, 内藤拓也, 仁木真理恵, 崎園賢治：血液培養液の16S rRNA遺伝子解析によって迅速に同定された*Helicobacter trogontum*感染症の一例. 第25回日本臨床微生物学会総会, 名古屋, 2014. 2 .1
11. 内藤拓也, 宮本順子, 仁木真理恵, 崎園賢治, 野上美由紀, 富永悦二, 小谷陽子, 竹川啓史, 三木寛二：Aeromonas属菌同定の必要性の検討. 第62回日本医学検査会, 高松, 2013. 5 .18
12. 内藤拓也, 竹川啓史, 崎園賢治, 小谷陽子, 野上美由紀, 富永悦二, 宮本淳子, 森本美咲：血液培養から*Scedosporium Prolificans*が検出された一例. 第53回日臨技近畿支部医学検査学会, 福井, 2013.10.19
13. 成田祐美, 枋尾人司, 杉之下与志樹, 鄭 浩柄, 田村明代, 岩崎信広, 濱田一美, 和田将弥, 箕輪和士, 猪熊哲朗：US上、特に脂肪肝に合併して認められる肝血管腫周囲の低エコー部分についてのretrospectiveな検討. 日本超音波医学会第40回関西地方学術集会, 大阪, 2013.11. 9
14. 仁木真理恵, 丸岡隼人, 竹川啓史, 内藤拓也, 崎園賢治：Hybridizaion probe・Melting curve法を用いた*Mycobacterium kansasii*の検出. 第25回日本臨床微生物学会総会, 名古屋, 2014. 2 .1
15. 野村菜美子, 紺田利子, 藤井洋子, 中村仁美, 川井順一, 角田敏明, 菅沼直生子：心電図上左室肥大が疑われたが、経胸壁心エコー検査にて左室壁肥厚を認めなかった2症例. 第86回日本超音波医学会, 大阪, 2013. 5 .24
16. 野村菜美子, 中村仁美, 川井順一, 角田敏明, 菅沼直生子, 野本奈津美, 箕輪和士, 老田達雄：特徴的な理学所見を示した感染性心内膜炎の一例. 第53回日臨技近畿支部医学検査学会, 福井, 2013.10.19
17. 野本奈津美, 谷 知子, 紺田利子, 藤井洋子, 中村仁美, 川井順一, 角田敏明, 菅沼直生子, 野村菜美子, 古川 裕：三次元経食道心エコー図検査が左房粘液腫の診断に有用であった一例. 日本超音波医学会第40回関西地方学術集会, 大阪, 2013.11. 9
18. 野本奈津美, 谷 知子, 紺田利子, 角田敏明, 川井順一, 金 基泰, 北井 豪, 古川 裕, 北 徹：当院における過去14年間での心臓腫瘍症例における心エコー図検査での検討. 第78回日本循環器学会学術集会, 東京, 2014. 3 .22
19. 濱田充生, 登阪貴子, 箕輪和士, 老田達雄：ASSRで一側性難聴を示しCT、MRで蝸牛神経管の狭窄または蝸牛神経形成不全を認めた9例. 第53回日臨技近畿支部医学検査学会, 福井, 2013.10.19
20. 原留成和：鏡検実習. 細胞検査士養成講習, 神戸, 2013. 9 .18
21. 原留成和：病理検査と乳腺腫瘍. 市民公開講座講演会, 神戸, 2013. 9 .28
22. 藤井洋子：心エコー腕試し 設問に応じて知識再確認 (専門技師試験対策セミナー). 第24回日本心エコー図学会学術集会, 東京, 2013. 4 .27
23. 箕輪和士：乳腺の超音波検査 乳腺を診よう. 市民公開講座講演会, 神戸, 2013. 9 .28



24. 宮本淳子, 竹川啓史, 小谷陽子, 野上美由紀, 富永悦二, 内藤拓也, 森本美咲, 崎園賢治: 当院での救急部研修医向けグラム染色研修の取り組み. 第53回日臨技近畿支部医学検査学会, 福井, 2013.10.19
25. 三羽えり子, 岩崎信広, 枋尾人司, 箕輪和士, 今井幸弘, 和田将弥, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹: 異物が原因と考えられる胃壁内膿瘍形成が疑われた1症例. 日本超音波医学会第40回関西地方学術集会, 大阪, 2013.11.9

#### VIII. 1. 37 放射線技術部

1. 木元 唯, 岸田絵美, 耕田隆志: カテーテルアブレーションの透視条件変更の評価. 平成25年度神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2013.11.9
2. 清水敬二, 松本圭一, 四井哲士, 三船祐輔, 日野 恵, 千田道雄, 山本誠一: デリバリーFDG-PET/CT検査におけるPET画像の画質標準化についての検討. PETサマーセミナー2013, 金沢, 2013.8.25
3. 清水敬二, 松本圭一, 四井哲士, 三船祐輔, 日野 恵, 千田道雄, 山本誠一: デリバリーFDG-PET/CT検査におけるPET画像の画質についての検討. 第33回日本核医学技術学会総会学術大会, 福岡, 2013.11.9
4. 中井高宏, 澤田 晃, 田邊裕明, 末岡正輝, 久保和輝, 谷内 翔, 椎木健裕, 石原佳知, 高山賢二, 小久保雅樹: VERO4DRT (MHI-TM2000) を用いた動体追尾照射におけるkV透視画像の最適撮影条件に関する検討. 第105回日本医学物理学学会学術大会, 横浜, 2013.4.11
5. Nakai T, Sawada A, Tanabe H, Sueoka M, Kubo K, Taniuchi S, Shiinoki T, Ishihara Y, Takayama K, Kokubo M: Investigation of well-balanced kV x-ray imaging conditions between skin dose and image quality using Vero4DRT. 2<sup>nd</sup> European Society for Radiotherapy & Oncology Forum, Geneva, 2013.4.19-23
6. 中屋 純, 岸田絵美, 小山寛之, 稲垣 諒, 木元 唯, 坂井信幸, 今村博敏: ステント支援下脳動脈瘤塞栓術後の経過観察におけるHi-Resolution XperCTの画質向上の試み. 第29回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 2013.11.21-23
7. 藤本孝弘, 富張 晋, 馬場健司, 浜田 誠: DTI (Diffusion tensor imaging) の撮像とtractography 検討. 平成25年度神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2013.11.9
8. 堀井那央, 福井達也, 中村 大, 大小田誠, 伊田雄貴: 心臓CTにおける造影方法の検討. 平成25年度神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2013.11.9
9. 森永由起子, 山本滝人, 清水敬二, 大黒美鈴, 合田靖司, 石井政男: IMRTにおける二次元、三次元検出器のパス率の検討. 平成25年度神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2013.11.9

#### VIII. 1. 38 リハビリテーション技術部

1. 岩田健太郎, 田内都子, 中野知美, 北井 豪, 古川 裕, 小椋由美子, 仲村直子, 藤本和美, 門 浄彦: 開心術施行予定患者における術前からの早期リハビリ介入の効果について. 第19回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 仙台市, 2013.7.13
2. 岩田健太郎: 当院のレジデント制度について. 第1回卒後教育研究会, 広島, 2013.10.31
3. 小寺 睦: 長下肢装具と短下肢装具を併用した装具療法によりADLが改善した右被殻出血の一症例. 平成25年度兵庫県理学療法士会新人発表会, 神戸, 2014.2.8

4. 坂口雄哉：「どうせ食べるなら自分で食べたい。」そのニーズに応える作業療法。平成25年度兵庫県作業療法士会新人発表会，神戸，2014.1.26
5. 田中里紅：腰椎破裂骨折による入院中に、心肺停止、緊急手術となった症例。平成25年度兵庫県理学療法士会新人発表会，神戸，2014.2.8
6. 中垣美優：意識障害、両側片麻痺患者に対して体幹筋に着目し、両側LLB立位、歩行を試みた一例。平成25年度兵庫県理学療法士会新人発表会，神戸，2014.2.8
7. 中野知美，岩田健太郎，田内都子，北井 豪，古川 裕，小椋由美子，仲村直子，藤本和美，門 浄彦：冠動脈バイパス術後の離床困難症例に対し、長期外来心臓リハビリテーションを施行した一例。第19回日本心臓リハビリテーション学会学術集会，仙台市，2013.7.14
8. 西尾優也：早期から体幹機能の改善に着目してADL向上を目指した一例。平成25年度兵庫県作業療法士会新人発表会，神戸，2014.1.26
9. 西原浩真：当院SCUでのリハビリテーションの現状と課題について。第4回Hyogo SCU Meeting，神戸，2013.2.26
10. 西原浩真，岩田健太郎，影山智広，山森みどり，小林良成，藤堂謙一，北井 豪，前川利雄：当院における365日リハの取り組み。第25回兵庫県理学療法学会学術大会，神戸，2013.7.14
11. 西原浩真，岩田健太郎，影山智広，玉井浩二，富井啓介，浅香葉子，前川利雄：発作性高血圧による肺胞出血から急性呼吸不全となるも排痰、早期離床に成功した一例。第23回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会，東京，2013.10.10
12. 西原浩真，岩田健太郎，影山智広，玉井浩二，富井啓介，浅香葉子，前川利雄：発作性高血圧による肺胞出血から急性呼吸不全となるも排痰、早期離床に成功した一例。第41回日本集中治療医学会学術集会，京都，2014.2.27
13. 宮本千絵：急性期より、ADL動作訓練への取り組み～病前と同様のトイレ内動作獲得に向けて～。平成25年度兵庫県作業療法士会新人発表会，神戸，2014.1.26
14. 山田真寿実：めまい、起立性低血圧により離床に難渋した自己免疫性自立性神経ニューロパチー。平成25年度兵庫県理学療法士会新人発表会，神戸，2014.2.8

#### VIII. 1. 39 臨床工学技術部

1. 石井利英，井上和久，吉川真由美，吉田哲也，安井紘子，中農陽介，中村明日美，寺谷祐希，山城悠葵，田中雄己，坂地一朗：ヘッダー部分改良エクセルフロー（AEF）のA側ヘッダー中心部へ流入した血液凝固塊によって回路閉塞を生じた3例。第58回日本透析医学会学術集会・総会，マリンメッセ福岡，2013.6.23
2. 石井利英，田中雄己，中園紘子，中農陽介，坂地一朗，吉川真由美，吉田哲也，井上和久，瀬尾龍太郎，渥美生弘：SAVE-J研究にみるECPR群と非ECPR群におけるECPR実施症例の予後の検討。第41回日本集中治療学会，国立京都国際会館，2014.2.28
3. 石井利英，小堀敦志，田中雄己，中園紘子，中農陽介，坂地一朗，吉川真由美，吉田哲也，井上和久，佐々木康博，古川 裕：高周波心房中隔穿刺システムの有用性の検討。第78回日本循環器病学会，東京商工会議所，2014.3.23

4. Sakaji I, Yamashiro Y, Ishii T, Tanaka Y, Yasui H, Takemoto K, Nakano Y, Tokutome M, Ueda N, Hanaoka M, Yamada K, Yoshida T : Construction of the automatic record and remote monitoring system of the medical equipment. 35<sup>th</sup> Annual Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society in conjunction with 52th Annual Conference of Japanese Society for Medical and Biological Engineering (JSMBE), Osaka International Convention Center, 2013. 7. 3
5. 田中雄己, 井上和久, 吉田哲也, 吉川真由美, 石井利英, 坂地一朗, 瀬尾龍太郎, 美馬裕之, 山崎和夫, 渥美生弘, 有吉孝一 : 臨床工学技士の立場から見たカロリンスカ大学病院ECMOセンターでの研修報告とECMO治療への取り組み. 第35回日本呼吸療法医学会学術総会, 京王プラザホテル, 2013. 7. 20
6. 中農陽介, 小堀敦志, 石井利英, 田中雄己, 中園絃子, 坂地一朗, 吉川真由美, 吉田哲也, 井上和久, 佐々木康博, 古川 裕 : Ablation施行時の陽圧換気 (CPAP) の有用性. 第2回日本EP・アブレーション技術研究会, 横浜ワールドポーターズ, 2013.11. 4
7. 中農陽介, 小堀敦志, 石井利英, 田中雄己, 中園絃子, 坂地一朗, 吉川真由美, 吉田哲也, 井上和久, 佐々木康博, 古川 裕 : 心房細動アブレーション施行時の経鼻陽圧換気 (CPAP) の有用性. 第78回日本循環器病学会, 東京商工会議所, 2014. 3. 22
8. 畑 秀治 : P波高値が十分な安全域を取れているにもかかわらず、アンダーセンシングを起こした1症例. 第6回植込みデバイス関連冬季大会, 広島国際会議場, 2014. 2. 21
9. 花岡正志, 吉田哲也, 山田恭二, 坂地一朗 : NPPVにおける適切な加温加湿設定の検討. 第23回日本臨床工学会, 山形テルサ, 2013. 5. 19
10. 山城悠葵, 井上和久, 石井利英, 田中雄己, 安井絃子, 竹本憲司, 中農陽介, 徳留実香, 山中大幸, 寺谷祐希, 中村明日美, 植田典子, 坂地一朗 : 持続緩徐式血液浄化装置の遠隔モニタリングシステムの構築. 第58回日本透析医学会学術集会・総会, マリンメッセ福岡, 2013. 6. 23
11. 吉田哲也, 山田恭二, 花岡正志, 吉川真由美, 石井利英, 井上和久, 吉田一貴, 安井絃子, 田中雄己, 山城悠葵, 竹本憲司, 中農陽介, 徳留実香, 大畑達哉, 橋本祐介, 畑 秀治, 坂地一朗, 樋口弘美, 小堀敦志 : 病院移転と植込み型デバイスの業務変化 - Databaseの活用を通じて -. 第19回近畿臨床工学技士会, 和歌山ビッグ愛, 2013. 6. 1
12. 吉田哲也, 花岡正志, 山田恭二, 坂地一朗, 門 浄彦, 池田理沙, 伊藤聡子, 永田一真, 中川 淳, 大塚今日子, 大塚浩二郎, 富井啓介 : RSTにおける臨床工学技士の役割. 第35回日本呼吸療法医学会学術総会, 京王プラザホテル, 2013. 7. 20

## VIII. 1. 40 栄養管理部

1. Ichimaru S, Fujiwara H, Amagai T, Atsumi T : Low Energy Intake is Associated with Reduced Duration of Mechanical Ventilation in Critically Ill, Underweight Patients. Clinical Nutrition Week 2014, Savannah, 2014. 1. 18-21
2. 竹中麻理子, 藤原雄太, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 佐々木翔, 近藤まりこ, 赤沢尚美, 岩本昌子, 石原 隆 : リラグルチド導入肥満2型糖尿病患者の食事変化に対する検討 (第2報). 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 2013. 5. 17
3. 竹中麻理子, 一丸智美, 岩本昌子, 東別府直紀 : 胃瘻造設後腹腔内ガス著明となった一例. 第29回日本静脈経腸栄養学会, 横浜, 2014. 2. 28

## VIII. 1. 41 情報企画課

1. 中西寛子：電子カルテの導入に向けて．西宮協立脳神経外科病院，2013. 6 .13
2. 中西寛子：チーム医療と電子カルテシステム．日本医療情報学会関西支部2013年度第1回講演会／関西医療情報処理懇談会第47回例会，大阪，2013. 9 .14
3. 中西寛子，田中修子，八木恭子，宮地伸哉，宮本真梨，橋田 亨，内藤 泰，加地修一郎：研究支援を行う学術支援センターの創設とその運用．第52回全国自治体病院学会，京都，2013.10.17-18
4. 中西寛子，田野島誠，田中千春，坂井信幸：クリニカルパス公開申請システムの開発と運用．第14回日本クリニカルパス学会学術集会，盛岡，2013.11. 1 - 2
5. 中西寛子，加藤健司：診療録の電子化後の紙カルテの閲覧状況．第33回医療情報学連合大会・第14回日本医療情報学会学術大会，神戸，2013.11.21-23
6. 中西寛子：看護記録の電子化の実際と利活用．第33回医療情報学連合大会・第14回日本医療情報学会学術大会，神戸，2013.11.21-23
7. 中西寛子：事例報告「化学療法有害事象」の記録．第12回医療情報ケアプロセス研究会，鹿児島，2014. 2 . 8
8. 樋口弘美，政井栄久，橋口文乃，濱 宏仁，北田徳昭，橋田 亨：電子カルテアレルギー歴情報抽出システムの構築と病棟薬剤業務への適用．第3回薬剤師レジデント交流会，西宮，2014. 3 .21

## VIII. 2 西市民病院

### VIII. 2. 1 循環器内科

1. 鈴木雅貴, 原口英子, 吉野智亮, 高橋明広, 森本麻衣, 勝山栄治: 好酸球性心筋炎を合併したChurg-Strauss症候群の1例. 第203回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2014. 3. 1

### VIII. 2. 2 糖尿病・内分泌内科

1. 岡田裕子: 糖尿病地域連携パスの現状と問題点～具体的な症例を中心に～. 第二回糖尿病架け橋の会(神戸糖尿病地域連携座談会), 神戸, 2013. 6. 13
2. 岡田裕子: 合併症を防ぐための糖尿病治療戦略～糖尿病薬をどう使うか?～. 第5回長田 循環器/糖尿病 Joint Forum, 神戸, 2013. 7. 20
3. 小武由紀子, 村前直和, 岡田裕子, 武部礼子, 中村武寛: 著明な高TG血症に重症急性膵炎および糖尿病ケトアシドーシスを合併した一例. 糖尿病治療座談会, 神戸, 2013. 5. 25
4. 小武由紀子, 村前直和, 岡田裕子, 武部礼子, 中村武寛: 2型糖尿病症例における大血管障害の関連因子についての検討. 第7回糖尿病ジャンプアップセミナー, 神戸, 2013. 8. 17
5. 菅原佳織, 村前直和, 小武由紀子, 岡田裕子, 武部礼子, 中村武寛: CSII導入によりインスリン必要量が著明に減少した1例. 第203回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2014. 3. 1
6. 鈴木雅貴, 小武由紀子, 村前直和, 岡田裕子, 武部礼子, 中村武寛: ジアゾキシドによってコントロールし得たインスリノーマの1例. 第201回日本内科学会近畿地方会, 京都, 2013. 9. 7
7. 高井智子, 中村武寛, 平田 悠, 武部礼子, 前田ゆき, 近藤奈央, 阿部泰久, 梶川道子, 岡田裕子, 池田和人: 糖尿病急性代謝失調において救急外来での病態鑑別に有用な項目についての検討. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 2013. 5. 16-18
8. 中村武寛: 当院におけるインスリン治療の実際. 糖尿病治療座談会, 神戸, 2013. 5. 25
9. 中村武寛: 当院でのインスリンデグルデク使用経験. Round Table Discussion, 神戸, 2013. 6. 25
10. 中村武寛: 神戸市における現状報告 神戸市糖尿病地域連携パス. 神戸循環器・糖尿病地域連携講演会, 神戸, 2013. 6. 27
11. 中村武寛: 神戸における糖尿病地域連携～より多くの患者さんを救うために～. 社会保険神戸中央病院地域医療連携学術講演会 北区 糖尿病セミナー, 神戸, 2013. 9. 5
12. 中村武寛: 糖尿病地域連携における医薬連携～より良い服薬指導を目指して～. Pharmacy Seminar in 長田, 神戸, 2013. 9. 19
13. 中村武寛: Kobe DM netの現状と課題. 第一回神戸市の糖尿病連携を考える会～Kobe DM net/パス検討会～, 神戸, 2013. 11. 27
14. 中村武寛: 眼科診療所と病院のより良い連携のために. 第一回長田糖尿病連携研究会, 神戸, 2013. 12. 12
15. 中村武寛: 糖尿病重症化予防について. 平成25年度神戸市役所 健康増進事業従事者研修会, 神戸, 2014. 2. 12

16. 中村武寛：Kobe DM net ～今こそ神戸で“糖尿病力”の結集を～. 糖尿病連携を考える会, 神戸, 2014. 2. 20
17. 中村武寛：最新の糖尿病診療. 第12回Kobe Medical Circle, 神戸, 2014. 2. 22
18. 中村武寛：インクレチン製剤の可能性. 三菱神戸病院 糖尿病フォーラム, 2014. 2. 27
19. 平田 悠, 村前直和, 岡田裕子, 武部礼子, 中村武寛, 上中美月, 森島秀司, 寺本憲司, 原田 明：妊娠中にCGMを施行しCSIIを導入した1型糖尿病合併妊娠の2例. 第29回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 岐阜, 2013.11. 1 - 2
20. 村前直和, 岡田裕子, 平田 悠, 武部礼子, 中村武寛, 富岡洋海：禁煙治療における体重増加, 血糖コントロールとの関連についての検討. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本, 2013. 5. 16 - 18
21. 村前直和, 武部礼子, 川口保彦, 小武由紀子, 平田 悠, 岡田裕子, 中村武寛：好氣的運動負荷試験によりミトコンドリア病が疑われた一例. 第7回神戸DM臨床カンファレンス, 神戸, 2013. 6. 28
22. 村前直和, 小武由紀子, 岡田裕子, 武部礼子, 中村武寛：糖尿病患者さんと禁煙. 第12回神戸糖尿病チーム医療研究会, 神戸, 2013. 7. 5
23. 村前直和, 小武由紀子, 岡田裕子, 武部礼子, 中村武寛：1型糖尿病患者における血糖変動に関連する因子についての検討. 第11回1型糖尿病研究会, 長野, 2013.10.27
24. 村前直和, 小武由紀子, 岡田裕子, 武部礼子, 中村武寛：好気性運動負荷試験によりミトコンドリア病が疑われた1例. 第50回日本糖尿病学会近畿地方会, 京都, 2013.11.23
25. 村前直和, 小武由紀子, 岡田裕子, 武部礼子, 中村武寛：CSII導入後、インスリン必要量が著明に減少した一例. The 9<sup>th</sup> Diabetes Communication Meeting, 神戸, 2014. 1. 7

#### VIII. 2. 3 神経内科

1. 北村 優, 菅生教文, 城洋志彦：抗ガングリオシド抗体陽性であった重症筋無力症の一例. 日本神経学会第99回近畿地方会, 大阪, 2013.12.21
2. 菅生教文, 大谷美穂, 城洋志彦：市販鎮痛薬の長期内服による慢性ブロム中毒の2例. 第23回日本臨床精神神経薬理学会, 沖縄, 2013.10.25

#### VIII. 2. 4 消化器内科

1. 赤井正明, 木村佳人, 孫 永基, 丸尾正幸, 板井良輔, 小野洋嗣, 池田英司, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政：大量腹水を契機に発見された膀胱自然破裂の1例. 第200回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2013. 6. 8
2. 池田英司, 孫 永基, 丸尾正幸, 板井良輔, 小野洋嗣, 木村佳人, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政, 西崎 浩, 眞鍋明宏, 吉野 正：ヘリコバクターピロリ除菌療法にて寛解した胃原発濾胞性リンパ腫の一例. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2013. 5. 10
3. 板井良輔, 池田英司, 三上 栄：診断に難渋した回盲部潰瘍の1例. 第62回IBD mini conference, 大阪, 2013. 6. 21
4. 板井良輔, 池田英司, 三上 栄, 孫 永基, 丸尾正幸, 小野洋嗣, 安村聡樹, 高田真理子, 住友靖彦, 山下幸政：診断に難渋した回盲部潰瘍の1例. 第91回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013.11.16

5. 板井良輔, 三上 栄: 偽膜性腸炎が病状の悪化に関与したと考えられた難治性潰瘍性大腸炎の一例. 第21回稀な腸疾患を研究する会, 大阪, 2013.11.18
6. 小野洋嗣, 三上 栄, 孫 永基, 丸尾正幸, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 住友靖彦, 山下幸政: 当院で経験したアメーバ性腸炎10例の内視鏡像の検討. 第91回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013.11.16
7. 小野洋嗣, 三上 栄: エルシニア腸炎確診例とエルシニア腸炎疑診例の内視鏡像について. 第21回稀な腸疾患を研究する会, 大阪, 2013.11.18
8. 孫 永基, 池田英司, 丸尾正幸, 板井良輔, 小野洋嗣, 木村佳人, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政: 内視鏡的に切除を行った十二指腸に脱出・陥入を繰り返す出血性胃脂肪腫の1例. 第90回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 6 .22
9. 丸尾正幸, 三上 栄, 孫 永基, 板井良輔, 小野洋嗣, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 住友靖彦, 山下幸政: 腸重積にて発症した小腸原発性悪性黒色種の1例. 第99回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 9 .28
10. 三上 栄: 当科における腫瘍性病変の画像診断・治療の実際. 神戸疾患治療conference, 神戸, 2013. 5 .23
11. 三上 栄: 小腸の多発性腫瘍. 第198回大腸疾患研究会, 大阪, 2013. 6 .14
12. 三上 栄: 大腸(小腸)におけるアフタ様病変を有する疾患の鑑別診断. 第199回大腸疾患研究会 ミニレクチャー, 大阪, 2013. 9 .13
13. 三上 栄: 便通異常について. 西市民病院 市民公開講座, 神戸, 2013.10.17
14. 三上 栄, 丸尾正幸, 孫 永基, 板井良輔, 小野洋嗣, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 住友靖彦, 山下幸政: SMAD4遺伝子異常を伴ったJuvenile polyposis (JP) に潰瘍性大腸炎様病変を合併した症例. 兵庫消化管病態生理研究会・第53回くすのき会, 神戸, 2013.11.16
15. 三上 栄: 小腸および回盲部病変の鑑別と診断. 高知県消化器疾患研究会特別講演会, 高知, 2014. 2 .21
16. 三上 栄: 回盲部病変の鑑別. 神戸消化管研究会 ミニレクチャー, 神戸, 2014. 3 .27

## VIII. 2. 5 呼吸器内科

1. 伊藤功朗, 石田 直, 橘 洋正, 富岡洋海, 大西 尚, 中川 淳, 長谷川吉則, 西村尚志, 安友芳朗, 小西聡史: NHCAPにおいて喀痰Geckler分類は薬剤耐性菌分離症例の抗菌薬反応性を予測する. 第87回日本感染症学会学術講演会/第61回日本化学療法学会総会合同学会, 横浜, 2013. 6 . 5
2. 伊藤 穰, 古田健二郎, 加持雄介, 郷間 巖, 伊藤功朗, 富岡洋海, 橘 洋正, 今井誠一郎, 藤田浩平, 平井豊博, 関西市中感染肺炎球菌性肺炎研究グループ: 成人肺炎球菌性市中肺炎の多施設共同前向き調査-2011年分報告-. 第87回日本感染症学会学術講演会/第61回日本化学療法学会総会合同学会, 横浜, 2013. 6 . 5
3. 井上貴文, 富岡洋海, 豆鞆伸昭, 中尾真一郎, 関谷怜奈, 山下修司, 金田俊彦, 木田陽子, 西尾智尋, 金子正博, 藤井 宏, 竹尾正彦, 井上友介, 勝山栄治, 北市正則: 間質性肺炎が先行し、外科的肺生検5年後に確定診断された強皮症の1例. 第115回日本呼吸器学会日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7 .13

4. 岩路かをり, 金子正博: 一般内科における成人気管支喘息患者に対するチームアプローチの試み. 日本心身医学会近畿地方会, 神戸, 2014. 2. 15
5. 金子正博, 関谷怜奈, 山下修司, 金田俊彦, 木田陽子, 西尾智尋, 藤井 宏, 富岡洋海: 肺気腫合併と考えられる喘息症例のFOTによる検討. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2013. 4. 19
6. 金子正博: 呼吸周期依存性を呈する喘息の検討. 第25回日本アレルギー学会春季臨床大会, 大阪, 2013. 5. 11
7. 金子正博, 豆鞆伸昭, 中尾真一郎, 山下修司, 関谷怜奈, 金田俊彦, 木田陽子, 西尾智尋, 富岡洋海: 肺気腫の関与があると考えられる喘息症例のMostGraphによる検討. 第63回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京, 2013. 11. 30
8. 金田俊彦, 関谷怜奈, 山下修司, 木田陽子, 西尾智尋, 金子正博, 富岡洋海, 池田宏国, 竹尾正彦, 勝山栄治: 慢性大動脈解離を疑われ経過観察中に、嗝声をきたし紹介受診した1例. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2013. 4. 21
9. 金田俊彦, 関谷怜奈, 山下修司, 木田陽子, 西尾智尋, 金子正博, 富岡洋海: 当院における1期非小細胞肺癌の術後再発リスクの検討～気管支鏡と経皮生検との比較～. 第36回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 埼玉, 2013. 6. 21
10. Kaneda T, Hata A, Tanaka K, Kaji R, Fujita S, Tomioka H, Tomii K, Katakami N: Differential efficacy of EGFR-TKI according to variants of exon 19 deletional mutation in non-small cell lung cancer. The 15th World Conference on Lung Cancer, シドニー, 2013. 10. 27-30
11. 川口保彦, 関谷怜奈, 富岡洋海, 豆鞆伸昭, 中尾真一郎, 山下修司, 金田俊彦, 木田陽子, 西尾智尋, 金子正博, 藤井 宏, 森本麻衣, 角田慎一郎, 勝山栄治, 細野祐司, 藤井隆夫: 縦隔気腫を合併し治療に難渋した抗CADM-140抗体陽性間質性肺炎の一部検例. 第115回日本呼吸器学会日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7. 13
12. 木田陽子, 関谷怜奈, 山下修司, 金田俊彦, 西尾智尋, 金子正博, 藤井 宏, 富岡洋海: 拘束性障害患者に対する呼吸リハビリテーション(呼リハ)の有効性の検討-間質性肺炎(ILD)と結核性後遺症(postTB)の比較を中心に. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2013. 4. 21
13. 木田陽子, 中尾真一郎, 豆鞆伸昭, 山下修司, 関谷怜奈, 金田俊彦, 西尾智尋, 金子正博, 富岡洋海, 勝山栄治: 消化管穿孔・汎発性腹膜炎による緊急入院を契機に診断された進行肺癌の1例. 第82回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013. 12. 7
14. 鈴木雅貴, 金子正博, 中尾真一郎, 豆鞆伸昭, 山下修司, 金田俊彦, 木田陽子, 西尾智尋, 富岡洋海, 勝山栄治: 両側肺に多発結節影を呈し、急速に呼吸不全に至った軟部組織肉腫の1例. 第202回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2013. 12. 14
15. 関谷怜奈, 富岡洋海, 豆鞆伸昭, 中尾真一郎, 山下修司, 金田俊彦, 木田陽子, 西尾智尋, 金子正博, 藤井 宏, 竹尾正彦, 勝山栄治: 抗KS抗体陽性の間質性肺炎の一例. 第115回日本呼吸器学会日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7. 13
16. 高田寛仁, 富岡洋海, 中尾真一郎, 豆鞆伸昭, 山下修司, 関谷怜奈, 金田俊彦, 木田陽子, 西尾智尋, 金子正博, 池田宏国, 竹尾正彦, 勝山栄治: 再発した慢性型肺アスペルギルス症に対しVRCZ+CPFG併用療法後に根治切除術を行った1例. 第82回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013. 12. 7



17. Tomioka H, Tada K : The Composite/Multidimensional Index and Health-related Quality of Life in Idiopathic Pulmonary Fibrosis. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2013. 4 .19
18. 永井貞之, 関谷怜奈, 富岡洋海, 中尾真一郎, 豆鞆伸昭, 山下修司, 金田俊彦, 木田陽子, 西尾智尋, 金子正博, 藤井 宏, 勝山栄治: 敗血症性ショックを来たし急激な経過をとった緑膿菌による市中肺炎の一例. 第115回日本呼吸器学会日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7 .13
19. 中尾真一郎, 富岡洋海, 豆鞆伸昭, 関谷怜奈, 山下修司, 金田俊彦, 木田陽子, 西尾智尋, 金子正博, 藤井 宏: 当院に入院した粟粒結核症例の臨床的検討. 第115回日本呼吸器学会日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7 .13
20. 中尾真一郎, 富岡洋海, 豆鞆伸昭, 山下修司, 関谷怜奈, 金田俊彦, 木田陽子, 西尾智尋, 金子正博: 肺 M.avium症、tracheopathia osteochondroplasticaに合併したアレルギー性気管支肺真菌症の1例. 第82回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013.12. 7
21. 西尾智尋, 関谷怜奈, 山下修司, 金田俊彦, 木田陽子, 金子正博, 藤井 宏, 富岡洋海: 抗ARS抗体陽性間質性肺炎の臨床的検討. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2013. 4 .21
22. Nishio C, Tomioka H, Sekiya R, Yamashita S, Kaneda T, Kida Y, Kaneko M, Fujii H, Ishihara K : Clinical manifestation and prognostic factor in anti-aminoacyl-tRNA synthetase autoantibodies-associated interstitial lung disease. European Respiratory Society Annual Congress, バルセロナ, 2013. 9 . 7 - 11
23. 西尾智尋, 王 康治, 豆鞆伸昭, 中尾真一郎, 関谷怜奈, 山下修司, 金田俊彦, 木田陽子, 金子正博, 勝山栄治, 富岡洋海: 肺クリプトコッカスの1例. 第82回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013.12. 7
24. 乗本周平, 山下修司, 関谷怜奈, 金田俊彦, 木田陽子, 西尾智尋, 金子正博, 富岡洋海: 急激な汎血球減少と多臓器に腫瘍血栓を認め死亡した肺多型癌の一剖検例. 第115回日本呼吸器学会日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7 .13
25. 藤本大地, 関谷怜奈, 富岡洋海, 豆鞆伸昭, 中尾真一郎, 山下修司, 金田俊彦, 木田陽子, 西尾智尋, 金子正博, 藤井 宏, 竹尾正彦, 勝山栄治: 禁煙指導中に気胸を発症した肺ランゲルハンス細胞組織球症の1例. 第115回日本呼吸器学会日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7 .13
26. 豆鞆伸昭, 関谷怜奈, 富岡洋海, 中尾真一郎, 山下修司, 金田俊彦, 木田陽子, 西尾智尋, 金子正博, 藤井 宏, 阪本祐一, 原田健一, 中村一郎, 勝山栄治: 腎結石、尿管結石を合併したサルコイドーシスの1例. 第10回近畿サルコイドーシス/肉芽腫性疾患研究会, 大阪, 2013. 4 .27
27. 豆鞆伸昭, 西尾智尋, 中尾真一郎, 関谷怜奈, 山下修司, 金田俊彦, 木田陽子, 金子正博, 藤井 宏, 富岡洋海: 水痘肺炎の一例. 第115回日本呼吸器学会日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7 .13
28. 豆鞆伸昭, 富岡洋海, 中尾真一郎, 山下修司, 関谷怜奈, 金田俊彦, 木田陽子, 西尾智尋, 金子正博, 藤井 宏: 医療・介護関連肺炎 (NHCAP) における喀痰検査の有用性についての検討. 第56回日本感染症学会中日本地方会, 大阪, 2013.11. 7
29. 豆鞆伸昭, 中尾真一郎, 関谷怜奈, 山下修司, 金田俊彦, 木田陽子, 西尾智尋, 金子正博, 富岡洋海: 当院における非結核性抗酸菌症に肺癌を合併した5症例の検討. 第82回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013.12. 7

30. 山下修司, 富岡洋海, 豆鞆伸昭, 中尾真一郎, 関谷怜奈, 金田俊彦, 木田陽子, 西尾智尋, 金子正博, 勝山栄治: Reversed halo sign形成の経過を追えたCOPの一例. 第115回日本呼吸器学会日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7. 13
31. 山下修司, 金子正博, 豆鞆伸昭, 中尾真一郎, 関谷怜奈, 金田俊彦, 木田陽子, 西尾智尋, 富岡洋海: 肺癌術後の難治性気管支瘻に対して気管支塞栓術を施行した一例. 第94回日本呼吸器内視鏡学会近畿支部会, 大阪, 2013.11.30

## VIII. 2. 6 精神・神経科

1. 荒賀哲也, 中元幸治, 新田和子, 岩露かをり, 林 敏美, 見野耕一: 当院における認知症診断連携パスの運用状況について. 第26回日本総合病院精神医学会総会, 京都, 2013.11.30
2. 荒賀哲也, 中元幸治, 見野耕一: 自慰行為を止めることができず希死念慮を伴う中年女性. 第5回兵庫県総合病院精神医学会, 神戸, 2014. 3. 15
3. 岩露かをり: 身体疾患をもつ患者さんへのかかわり. 兵庫県臨床心理士会医療保健領域研修会, 2013.12. 8
4. 上月 遥, 川添文子, 磯部昌憲, 大谷恭平, 高宮静男, 白岩恭一, 大塚郁夫, 菱本明豊, 曾良一郎, 河野将英, 岡村健二, 北村 登, 松石邦隆, 見野耕一: 総合病院における他科入院患者への精神科リエゾン・コンサルテーションの現状2. 第26回日本総合病院精神医学会総会, 京都, 2013.11.30
5. 野口正行, 小林孝文, 佐竹直子, 高田知二, 早川達郎, 見野耕一, 中嶋義文, 小石川比良来, 佐藤茂樹: 2012年度総合病院精神医学会基礎調査の結果報告. 第26回日本総合病院精神医学会総会, 京都, 2013.11.30
6. 見野耕一, 岩露かをり: 精神疾患患者さんとのかかわりを通して. 長田区ケアプラン研修会, 長田区役所, 2013. 6. 21
7. 見野耕一: 精神科リエゾンチームにおける医師(リエゾン精神科医)の役割~リエゾンチーム活動のプロセスから考える~. 第1回精神科リエゾンチーム講習会, 慶応大学, 2013. 7. 13-14

## VIII. 2. 7 小児科

1. 永井貞之, 村尾真理子, 金川温子, 竹中尚美, 安島英裕, 田中由起子, 江口純治: 血尿を主訴に受診した3歳男児の1例. 第95回神戸小児臨床研究会, 神戸市立医療センター西市民病院, 2013. 9. 5
2. 中川温子, 沖田 空, 親里嘉展, 西山敦史, 足立昌夫: Dravet症候群2例に対するLevetiracetamの治療経験. 第55回日本小児神経学会学術集会, iichiko総合文化センター他, 2013. 5. 30
3. 中川温子, 村尾真理子, 竹中尚美, 安島英裕, 田中由起子, 江口純治: 憤怒痙攣の一例. 第94回神戸小児臨床研究会, 六甲アイランド甲南病院, 2013. 6. 19
4. 村尾真理子, 永井貞之, 金川温子, 竹中尚美, 安島英裕, 田中由起子, 江口純治: 川崎病急性期症状軽快後に無菌性髄膜炎を発症した女児の一例. 第97回神戸小児臨床研究会, 神戸赤十字病院, 2014. 3. 13

## VIII. 2. 8 皮膚科

1. 池田哲哉, 高橋尚子, 西井径子: 興味深かった症例2013 腫瘍・手術. 難治性皮膚疾患を検討する会 神戸西エリア, 神戸, 2014. 3. 6
2. 高橋尚子, 西井径子, 井上友介, 池田哲哉: 帯状疱疹様の臨床像を呈した腎細胞癌皮膚転移の1例. 第440回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2013.12. 7

3. 西井径子, 高橋尚子, 池田哲哉: 興味深かった症例2013 自己免疫疾患・炎症. 難治性皮膚疾患を検討する会 神戸西エリア, 神戸, 2014. 3. 6

## VIII. 2. 9 外科・呼吸器外科・消化器外科

1. 池田宏国, 竹尾正彦, 山本満雄, 山中正康: 同時性多発肺癌に胃癌を重複した1例. 第30回日本呼吸器外科学会総会, 名古屋, 2013. 5. 9
2. 茅田洋之, 多田陽一郎, 塩津聡一, 三上隆一, 仲本嘉彦, 山本満雄: 腹腔鏡補助下結腸切除後の腸間膜欠損部に生じた内ヘルニアの2例. 第75回日本臨床外科学会総会, 名古屋, 2013. 11. 23
3. 茅田洋之, 三上隆一, 前原律子, 池田宏国, 多田陽一郎, 塩津聡一, 山本満雄, 仲本嘉彦, 村上哲平: TAPP導入初期における手術時間短縮のための外鼠径ヘルニアに対する工夫. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2013. 11. 30
4. 川口保彦, 池田宏国, 茅田洋之, 三上隆一, 村上哲平, 仲本嘉彦, 原田武尚, 竹尾正彦, 小縣正明, 山本満雄: 深部静脈血栓症・肺塞栓症を発症した大腸癌による閉塞性イレウスに対し, 術前下大静脈フィルターを留置し良好な経過を得た1例. 第75回日本臨床外科学会総会, 名古屋, 2013. 11. 21
5. 川口保彦, 三上隆一, 塩津聡一, 多田陽一郎, 前原律子, 茅田洋之, 村上哲平, 池田宏国, 仲本嘉彦, 山本満雄: 大腿ヘルニア嵌頓に対して腹腔鏡下に整復を行い修復術を施行した3例. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2013. 11. 30
6. 竹尾正彦, 池田宏国, 山中正康, 山本満雄: 長期無再発生存している肺芽腫の2例. 第30回日本呼吸器外科学会総会, 名古屋, 2013. 5. 9
7. 多田陽一郎, 塩津聡一, 前原律子, 茅田洋之, 池田宏国, 三上隆一, 仲本嘉彦, 竹尾正彦, 原田武尚, 小縣正明, 山本満雄: 十二指腸癌によってSMA症候群と同様の臨床所見を呈した1例. 第75回日本臨床外科学会総会, 名古屋, 2013. 11. 22
8. 多田陽一郎, 塩津聡一, 前原律子, 茅田洋之, 三上隆一, 池田宏国, 仲本嘉彦, 原田武尚, 山本満雄: 濾胞性リンパ腫による小腸イレウスを腹腔鏡下に解除した1例. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2013. 11. 30
9. 仲本嘉彦, 多田陽一郎, 塩津聡一, 前原律子, 三上隆一, 茅田洋之, 池田宏国, 原田武尚, 小縣正明, 山本満雄: 下行結腸癌に対する腹腔鏡下結腸切除術におけるリンパ節郭清の工夫. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7. 17
10. 仲本嘉彦, 前原律子, 三上隆一, 茅田洋之, 池田宏国, 山本満雄: 腹腔鏡下直腸切除術における合併症と対策. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2013. 11. 30
11. 前原律子, 茅田洋之, 三上隆一, 池田宏国, 木川雄一郎, 竹尾正彦, 山本満雄: ビスフォスフォネート長期投与患者に認めた非典型的両側大腿骨転子部骨折の1例. 第21回日本乳癌学会総会, 浜松, 2013. 6. 27-29
12. 前原律子, 仲本嘉彦, 塩津聡一, 多田陽一郎, 茅田洋之, 三上隆一, 村上哲平, 池田宏国, 山本満雄: 当院における腹腔鏡下結腸直腸切除後の乳糜腹水の検討. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2013. 11. 28
13. 三上隆一, 仲本嘉彦, 多田陽一郎, 塩津聡一, 前原律子, 茅田洋之, 池田宏国, 山中正康, 原田武尚, 山本満雄: 腹腔鏡下胃全摘術における再建法Endo-PST鉗子を用いた食道空腸吻合の経験. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7. 17

14. 三上隆一, 仲本嘉彦, 塩津聡一, 多田陽一郎, 前原律子, 茅田洋之, 村上哲平, 池田宏国, 山本満雄: Roux-en-Y再建法を用いた腹腔鏡下幽門側胃切除の結果について. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2013.11.28

## VIII. 2. 10 整形外科

1. 石井達也: 椎弓形成術後遅発性C7神経根障害に対して神経根ブロックが有効であった1例. 第121回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 名古屋, 2013.10.3-4
2. 西口 滋: 骨脆弱性骨折と骨粗鬆症治療の病診連携. H25年長田区医師会学術講演会, 神戸, 2013.6.27
3. 西口 滋: 骨粗鬆症性脊椎骨折の診断と治療上の注意点. 神戸市整形外科医会第5回学術講演会, 神戸, 2013.8.3
4. 西口 滋: 骨そしょう症と骨折. 西市民病院市民公開講座, 神戸, 2013.9.19
5. 西口 滋: 骨粗鬆症に対するプラリアの使用経験. 新時代の骨粗鬆症治療, 神戸, 2014.2.14
6. 藤原弘之, 西口 滋, 松本真一: 足関節架橋創外固定器を用いた脛骨遠位部骨折の治療経験. 第39回骨折治療学会, 久留米, 2013.6.28-29
7. 藤原弘之, 西口 滋, 山根逸郎, 石井達也, 中村武寛: 腰背部化膿性筋炎の1例. 第36回日本骨・関節感染症学会, 横浜, 2013.7.5-6
8. 松本真一, 西口 滋, 布施謙三, 藤原弘之, 山根逸郎, 石井達也: 多発化膿性関節炎に硬膜外膿瘍を合併した2例. 第121回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 名古屋, 2013.10.3-4

## VIII. 2. 11 泌尿器科

1. 赤瀬博史, 大頭麻里子, 嶋本 藍, 大路貴子, 後藤たみ, 西尾智尋, 中村一郎: 当院におけるデノスマブの使用状況調査. 第18回日本緩和医療学会学術大会, 横浜, 2013.6.22
2. 今井聡士, 石田貴樹, 山野 潤, 中野雄造, 中村一郎, 原田健一: AI (Adriamycin+Ifosphamide) 療法が奏効した後腹膜MFH (Malignant fibrous histiocytoma) の1例. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 2013.4.25
3. 長富俊孝, 板東由加里, 山野 潤, 山尾 裕, 中村一郎: 順行性逆行性同時アプローチにて碎石し得た腎尿管多発シスチン結石の1例. 第63回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋, 2013.11.30
4. 長富俊孝, 板東由加里, 山野 潤, 山尾 裕, 中村一郎: 尿管癌と鑑別困難であった炎症性偽腫瘍の1例. 第225回日本泌尿器科学会関西地方会, 兵庫, 2014.1.25
5. 中野雄造, 石田貴樹, 中村一郎: 神戸市立医療センター西市民病院での尿中分離菌の年次推移. 第87回日本感染症学会学術講演会, 横浜, 2013.6.5
6. 板東由加里, 長富俊孝, 山野 潤, 山尾 裕, 中村一郎: Rhabdoid featureを呈した腎細胞癌の1例. 第224回日本泌尿器科学会関西地方会, 神戸, 2013.9.21
7. 板東由加里, 長富俊孝, 山野 潤, 山尾 裕, 中村一郎: 病理学的にリンパ節陽性であった膀胱尿路上皮癌の臨床的検討. 第63回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋, 2013.11.30

8. 板東由加里, 長富俊孝, 山野 潤, 山尾 裕, 中村一郎: 新膀胱自然破裂1例. 第225回日本泌尿器科学会 関西地方, 兵庫, 2014. 1 .25
9. 豆鞆伸昭, 関谷怜奈, 富岡洋海, 中尾真一郎, 山下修司, 金田俊彦, 木田陽子, 西尾智尋, 金子正博, 藤井 宏, 阪本祐一, 原田健一, 中村一郎, 勝山栄治: 腎結石、尿管結石を合併したサルコイドーシスの1例. 第10回近畿サルコイドーシス/肉芽腫性疾患研究会, 大阪, 2013. 4 .27
10. 山野 潤, 今井聡士, 石田貴樹, 中野雄造, 中村一郎: 当科における血液浄化法を用いた尿路敗血症の治療成績. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 2013. 4 .27
11. 山野 潤, 板東由加里, 長富俊孝, 山尾 裕, 中村一郎: 当院におけるHoLEP導入初期の検討. 第27回日本泌尿器科内視鏡学会総会, 名古屋, 2013.11.16

## VIII. 2. 12 眼科

1. 宇山紘史, 亀田隆範, 平見恭彦, 広瀬文隆, 栗本康夫: Ex-PRESSTM併用濾過手術の短期手術成績. 第24回日本緑内障学会, 東京, 2013. 9 .21-23
2. 宇山紘史, 亀田隆範, 平見恭彦, 広瀬文隆, 西田明弘, 石田和寛, 栗本康夫: 前眼部OCTによるEx-PRESS®デバイスの観察. 第64回京大眼科同窓会, 京都市, 2013.11.10
3. 宇山紘史, 亀田隆範, 平見恭彦, 広瀬文隆, 西田明弘, 石田和寛, 栗本康夫: 3次元前眼部光干渉断層計を用いたEx-PRESS®デバイスの観察. 第37回日本眼科手術学会, 京都市, 2014. 1 .17-19
4. Kuroda M, Kojima H, Kameda T, Mandai M, Miyamoto N, Nishida A, Kurimoto Y: Response and dependence to ranibizumab therapy in AMD. 2013 Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual meeting, Seattle, Washington, USA, 2013. 5 .5-9
5. 黒田麻紗子, 西田明弘, 菊地雅史, 栗本康夫: Purtscher網膜症に血管新生緑内障を併発した一例. 第30回日本眼循環学会, 東京, 2013. 7 .19-20
6. 黒田麻紗子, 西田明弘, 菊地雅史, 栗本康夫: Purtscher網膜症に血管新生緑内障を併発した一例. 第33回神戸市立医療センター中央市民病院眼科オープンカンファレンス, 神戸市, 2014. 3 .8
7. 広瀬文隆: 慢性PACの水晶体再建術 (原発閉塞隅角症/緑内障に対する水晶体再建術 インストラクションコース、講師). 第28回JSCRS学術総会, 第52回白内障学会, 東京, 2013. 6 .27-29
8. 広瀬文隆: 緑内障外来報告: エクスプレス併用濾過手術の実際. 第41回神戸市立医療センター中央市民病院眼科臨床懇話会, 神戸市, 2013. 7 .4
9. 広瀬文隆: 緑内障: インプラントの経験. 第11回兵庫県眼科オープンカンファレンス, 神戸市, 2013. 9 .14
10. 広瀬文隆: 暗室うつむき試験は有用か? (シンポジウム). 第24回日本緑内障学会, 東京, 2013. 9 .21-23
11. 広瀬文隆: 閉塞隅角の治療適応を考える (講演). 第36回兵庫県緑内障研究会, 神戸市, 2014. 2 .8
12. Matsuki T, Hirose F, Kameda T, Hiram Y, Kurimoto Y: Influence of Anterior Segment Biometric Parameters on the Anterior Chamber Angle Width in Eyes with Angle Closure and Open Angle. 2013 Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual meeting, Seattle, Washington, USA, 2013. 5 .5-9

13. Matsuki T, Hirose F, Kameda T, Hirami Y, Kurimoto Y: Correlation between iris thickness and anterior segment biometric parameters in relation to physiological pupil dilation in eyes with angle closure and those with open angle. The 5th World Glaucoma Congress, Vancouver, 2013. 7.17-20
14. 松木考顕, 中村隆宏, 平見恭彦, 今井幸弘, 外園千恵, 栗本康夫: 梅毒性角膜実質炎後に水疱性角膜内皮移植術を施行した1例. 第38回日本角膜学会, 第30回日本角膜移植学会, 宜野湾市, 2014. 1.30-2.1
15. Miyamoto N, Kuroda M, Ito S, Shimozone M, Ishida K, Kurimoto Y: External Limiting Membrane and Inner Segment/Outer Segment Status at pre- and post-pars plana vitrectomy in DME. 2013 Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual meeting, Seattle, Washington, USA, 2013.5.5-9
16. 宮本紀子, 松木考顕, 石田和寛, 栗本康夫: 糖尿病黄斑浮腫に対する硝子体手術前後のSD-OCTにおける網膜の形態学的特徴の検討. 第37回日本眼科手術学会, 京都市, 2014. 1.17-19
17. Yamada R, Hirose F, Matsuki T, Kameda T, Hirami Y, Kurimoto Y: Comparison of mydriatic provocative test with darkroom prone provocative test for determining anterior chamber angle configuration in eyes with primary angle closure. The 5th World Glaucoma Congress, Vancouver, 2013. 7.17-20

#### VIII. 2. 13 歯科口腔外科

1. 河合峰雄: 歯科医院における医療安全管理対策. 兵庫県保険医協会歯科部会 医療安全管理対策研究会, 神戸市, 2013. 5.26
2. 河合峰雄: 歯科医療紛争について. 長田区歯科医師会平成25年度第3回月例会学術講演会, 神戸市, 2013. 9.28
3. 河合峰雄: 安全な歯科医療のためのバイタルサインセミナー. 日本歯科麻酔学会・高槻市歯科医師会, 高槻市, 2014. 1.12
4. 河合峰雄: 子供たちに安全・安心に歯科治療を受けてもらうために、われわれ歯科医師ができること. 第31回播磨地区学校歯科保健大会, 加古郡稲見町, 2014. 2.13
5. 河合峰雄: 災害時の地域医療確保のためにできること-阪神大震災の経験から-. 鹿児島県保険医協会, 鹿児島市, 2014. 2.15
6. 河合峰雄: 安全、安心な歯科治療のために備えておきたい対策 (安全な歯科医療のためのバイタルサインセミナー). 日本歯科麻酔学会・高槻市歯科医師会, 福知山市, 2014. 3.9
7. 河合峰雄, 西田哲也, 中村純也, 渡邊絵里奈: 病院歯科口腔外科における高齢者の入院下侵襲的歯科処置症例に関する検討. 第23回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会, 福岡市, 2014. 3.22
8. 中村純也, 河合峰雄, 西田哲也, 安東大器, 渡邊絵里奈: 日帰り全身麻酔下歯科治療におけるレミフェンタニル単回投与の有用性について. 第41回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 横浜市, 2013.10.3
9. 渡邊絵里奈, 河合峰雄, 西田哲也, 安東大器, 中村純也: 短期入院・静脈内鎮静法下に歯科処置を実施した認知症患者の1例. 第48回関西歯科麻酔研究会, 神戸市, 2013. 6.22
10. 渡邊絵里奈, 河合峰雄, 西田哲也, 安東大器, 中村純也: 短期入院・静脈内鎮静法下に歯科処置を実施した認知症患者の1例. 第41回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 横浜市, 2013.10.3

## VIII. 2. 14 救急総合診療部

1. 小縣正明：シンポジウム「県内における一般科救急・精神科救急連携」－一般科2次救急病院の立場から－. 兵庫県救急医療研究会第15回兵庫県救急医療フォーラム, 神戸, 2013.9.7

## VIII. 2. 15 看護部

1. 岡崎美晴, 吾妻知美, 江口秀子, 遠藤圭子, 服部兼敏：チーム医療を行う看護師が多職種連携で大切にしていること－テキストマイニングを用いて－. 第33回日本看護科学学会, 大阪, 2013.12.6
2. 奥本智美：思春期女子の月経随伴症状に対するセルフケアの獲得とその関連因子. 兵庫県母子衛生学会総会, 神戸, 2013.6.8
3. 蔭山直代：医療依存度の高い壮年期患者の退院支援－生活の質に常に高い希望を持ち続けた患者・家族への関わり－. 日本プライマリケア連合学会 第27回近畿地方大会, 神戸, 2013.9.8
4. 竹橋美由紀, 山本和代, 新田和子, 俣木陽子：ダナン産婦人科・小児科病院（ベトナム）の看護師に対する知識・技術の向上を目的とした教育研修を定着させる試みに参加して. 第52回全国自治体病院学会, 京都, 2013.10.17
5. 永井陽介, 田中千愛, 林 有里：救急病棟における看護師の抑制判断に影響する感情の対処. 第15回日本救急看護学会, 福岡, 2013.10.19
6. 鷺坂有美, 松本美恵子：大腸内視鏡検査における看護～インタビューガイドから得られた看護の実態～. 日本看護学会看護総合学術集会, 大分, 2013.9.14

## VIII. 2. 16 薬剤部

1. 赤瀬博文, 大頭麻理子, 嶋本 藍, 大路貴子, 後藤たみ, 西尾智尋, 中村一郎：当院におけるデノスマブの使用状況調査. 第18回日本緩和医療学会学術大会, 横浜, 2013.6.22

## VIII. 2. 17 臨床検査技術部

1. 江藤正明, 高田真理子, 前原律子, 石平雅美, 堤まゆか, 中野恵里, 恒川麻衣, 弘田大智, 小畑美佐子, 田村周二, 山下幸政：PTP（Press Through Package）誤飲による穿孔性腹膜炎を腹部超音波で描出しえた一症例. 日本超音波医学会第40回関西地方会学術集会, 大阪, 2013.11.9
2. 堤まゆか, 田村周二, 石平雅美, 松之舎教子, 中野恵里, 恒川麻衣, 弘田大智, 小畑美佐子, 江藤正明, 古閑紀雄, 金子正博, 勝山栄治, 白杵則朗：経過観察中に未分化転化した甲状腺濾胞性腫瘍の一例. 第31回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 神戸, 2013.9.22
3. 堤まゆか, 高田真理子, 田村周二, 石平雅美, 松之舎教子, 中野恵里, 恒川麻衣, 弘田大智, 小畑美佐子, 江藤正明, 原田武尚, 山下幸政, 勝山栄治：超音波像が特徴的であった粘液産生性胆管乳頭状腫瘍の一例. 日本超音波医学会第40回関西地方会学術集会, 大阪, 2013.11.9
4. 恒川麻衣, 木村佳人, 田村周二, 石平雅美, 堤まゆか, 中野恵里, 弘田大智, 小畑美佐子, 江藤正明, 勝山栄治, 高田真理子, 山下幸政：エコー上悪性リンパ腫と鑑別が困難であった脾原発血管肉腫の一例. 日本超音波医学会第40回関西地方会学術集会, 大阪, 2013.11.9
5. 中野恵里, 田村周二, 石平雅美, 松之舎教子, 堤まゆか, 恒川麻衣, 弘田大智, 小畑美佐子, 江藤正明, 山下展弘, 小西 豊, 木川雄一郎, 勝山栄治, 白杵則朗：乳腺紡錘細胞癌2症例の超音波像. 第31回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 神戸, 2013.9.23

6. 中野恵里, 三上 栄, 田村周二, 石平雅美, 松之舎教子, 堤まゆか, 恒川麻衣, 弘田大智, 小畑美佐子, 江藤正明, 勝山栄治, 茅田洋之, 高田真理子, 山下幸政: 小腸原発悪性黒色腫により腸重積を発症した1例. 日本超音波医学会第40回関西地方会学術集会, 大阪, 2013.11.9
7. 弘田大智, 吉野智亮, 田村周二, 石平雅美, 堤まゆか, 中野恵里, 恒川麻衣, 小畑美佐子, 江藤正明, 高橋明広: 高齢の孤発性左室心筋緻密化障害の一例. 日本超音波医学会第40回関西地方会学術集会, 大阪, 2013.11.9
8. 松之舎教子, 塩津聡一, 田村周二, 石平雅美, 堤まゆか, 中野恵里, 恒川麻衣, 弘田大智, 小畑美佐子, 江藤正明, 三上隆一, 池田宏国, 勝山栄治, 小縣正明, 山本満雄: 超音波検査で診断し得た巨大右胃大網動脈瘤の1例. 日本超音波医学会第86回学術集会, 大阪, 2013.5.24
9. 松之舎教子, 田村周二, 吉野智亮: 右心系の評価どうする? 大阪府臨床検査技師会 第10回心エコー実技研修会, 大阪, 2013.10.16
10. 松之舎教子, 小野洋嗣, 小縣正明, 白杵則朗, 田村周二, 石平雅美, 堤まゆか, 中野恵里, 恒川麻衣, 弘田大智, 小畑美佐子, 江藤正明, 高田真理子, 山下幸政: 小腸アニサキス症10例の超音波像の検討. 日本超音波医学会第40回関西地方会学術集会, 大阪, 2013.11.9
11. 宮川祥治, 吉田澄子, 山下展弘, 勝山栄治: 急速に進行する多発肺転移をみた甲状腺未分化癌の1例. 第52回日本臨床細胞学会秋季大会, 大阪, 2013.11.2-3
12. 宮川祥治, 吉田澄子, 山下展弘, 勝山栄治: 肺原発悪性黒色腫の1例. 平成25年度兵庫県臨床細胞学会総会, 兵庫, 2014.3.15
13. Nobuhiro Yamashita, Tatsuki R Kataoka, Seiichi Hirota, Eiji Katsuyama: IMPRINT CYTOLOGY AND IMMUNOSTAINING FINDINGS IN AN INFLAMMATORY MYOFIBROBLASTIC TUMOR OF THE URINARY BLADDER MIMICKING GASTROINTESTINAL STROMAL TUMOR: A CASE REPORT. the 18th International Congress of Cytology, Paris, France, 2013.5.26-30
14. 山下展弘, 宮川祥治, 吉田澄子, 勝山栄治: 当院における悪性中皮腫の経験. 第52回日本臨床細胞学会秋季大会, 大阪, 2013.11.2-3

## VIII. 2. 18 放射線技術部

1. 茨木丈晴: 当院のAngio装置と運用について. R-テクノロジーミーティング, 神戸, 2013.6.21
2. 宇草賢二: 血管造影装置における装置表示線量の精度検証と患者皮膚線量への変換. 神戸市放射線技師会研修会, 神戸, 2013.11.9
3. 岡村佳明: 画像読取装置一体型FCRの経年変化. 神戸市放射線技師会研修会, 神戸, 2013.11.9
4. 中村翔太: ETLの増加に伴う画質変化について. 神戸市放射線技師会研修会, 神戸, 2013.11.9

## VIII. 2. 19 リハビリテーション技術部

1. 浅井 剛, 澤 龍一, 三栖翔吾, 土井剛彦, 山田 実: 地域在住高齢者における多関節痛と転倒発生～介在要因の探索～. 第48回日本理学療法学会学術大会, 名古屋, 2013.5.24-26



2. 澤 龍一, 土井剛彦, 三栖翔吾, 堤本広大, 中窪 翔, 浅井 剛, 山田 実, 小野 玲: 転倒恐怖感が歩行時体幹定常性に及ぼす影響 - 地域在住高齢者における検討 -. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013. 5 .24-26
3. 中窪 翔, 土井剛彦, 堤本広大, 三栖翔吾, 澤 龍一, 小野 玲: 要介護高齢者における認知機能低下は歩行能力にどのような影響を及ぼすのか? - 12か月の前向きコホート研究 -. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013. 5 .24-26
4. 中津伸之, 三栖翔吾, 中窪 翔, 澤 龍一, 谷川大地, 上田雄也, 誉田真子, 森野佐芳梨, 堤本広大, 土井剛彦, 小野 玲: 高齢者の食欲不振は歩行速度に関連しているのか. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013. 5 .24-26
5. 三栖翔吾, 浅井 剛, 土井剛彦, 堤本広大, 澤 龍一, 平田総一郎, 小野 玲: 高齢者における歩行速度を遅くした際の歩行のばらつきの変化と身体機能との関連性の検討. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013. 5 .24-26
6. 三栖翔吾, 小野 玲, 土井剛彦, 堤本広大, 澤 龍一, 中窪 翔, 浅井 剛: 足趾屈曲筋力と歩行との関連性 - 地域在住高齢者における検討 -. 第25回兵庫県理学療法学会大会, 神戸, 2013. 7 .14

#### VIII. 2. 20 栄養管理室

1. 高木亜里紗, 村前直和, 有岡靖隆, 岡本知子, 赤沢尚美, 田村昌三, 金子正博: 藤島の摂食・嚥下能力グレードの関連因子についての検討. 第17回日本病態栄養学会年次学術集会, 大阪, 2014. 1 .11
2. 高木亜里紗, 有岡靖隆, 赤沢尚美, 田村昌三, 金子正博: 藤島の摂食・嚥下能力グレードの関連する因子についての検討. 第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 横浜, 2014. 2 .28

#### VIII. 2. 21 医事課医事係

1. 横田勝弘, 山崎茂樹, 岸田正則, 竹橋美由紀, 石原享介: 医業収益における黒字病院の状況と当院との比較. 第52回全国自治体病院学会, 京都, 2013.10.17

#### VIII. 法人本部 経営企画室

1. 松永京子, 山崎茂樹: 地方独立行政法人と政策的医療の提供. 第52回全国自治体病院学会, 京都, 2013.10.17

## VIII. 3 西神戸医療センター

### VIII. 3. 1 内分泌糖尿内科

1. 井上貴裕, 藤原秀哉, 辻 和雄: DPP-4 阻害薬とSU剤の併用により低血糖性意識障害を来した一例. 第4回西神戸内分泌・糖尿病オープンカンファレンス, 神戸, 2013. 6 .29
2. 井上貴裕, 濱川正光, 藤原秀哉, 辻 和雄: 敗血症性ショックの治療中、虚血性腸炎を生じた糖尿病の1例. 第7回兵庫県糖尿病臨床講演会, 神戸, 2013.10. 8
3. 井上貴裕, 濱川正光, 藤原秀哉, 辻 和雄: 敗血症性ショックの治療中、虚血性腸炎を生じた糖尿病の1例. 第50回日本糖尿病学会近畿地方会, 京都, 2013.11.23
4. 竹内摩耶, 藤原秀哉, 辻 和雄: 手術前に甲状腺機能低下症が発見された橋本病の1例. 第8回糖尿病臨床フォーラム, 大阪, 2014. 2 .22
5. 辻 和雄: 糖尿病合併患者の脂質管理. 第11回西神学術連携講演会, 神戸, 2013. 7 .25
6. 濱川正光, 藤原秀哉, 辻 和雄, 大山敦嗣: シェーグレン症候群に合併した尿細管性アシドーシスによる低カリウム血症にて脱力を来した一例. 第14回日本内分泌学会近畿地方会, 京都, 2013.10.19
7. 山下暢子, 藤原秀哉, 辻 和雄: 急性骨髄性白血病に合併して中枢性尿崩症を発症した1例. 第47回兵庫内分泌研究会, 神戸, 2013. 7 . 6
8. 山下暢子, 辻 和雄, 藤原秀哉, 田中康博: 急性骨髄性白血病に合併して中枢性尿崩症を発症した1例. 第23回臨床内分泌代謝Update, 名古屋, 2014. 1 .24

### VIII. 3. 2 腎臓内科

1. 大山敦嗣, 中井雅史, 松島弘幸: 腎動脈閉塞のため血液透析が必要になった2症例. 第58回日本透析医学会学術集会, 福岡, 2013. 6 .23
2. 大山敦嗣, 児玉哲也, 井出孝夫: 透析療法のプライマリ・ケア. 日本プライマリ・ケア連合学会第27回近畿地方会, 神戸, 2013. 9 . 8
3. 大山敦嗣, 野島道生: 腎移植という選択. 兵庫県透析医会シンポジウム, 神戸, 2013.10. 5
4. 中井雅史, 大山敦嗣: 消化器症状を契機に急性腎不全を発症した23歳男性の1例. 第43回日本腎臓学会西部学術集会, 松山, 2013.10.11
5. 松島弘幸, 大山敦嗣: 血液透析患者に対する低用量フェブキソスタットの有効性と認容性の検討. 第56回日本腎臓学会学術総会, 東京, 2013. 5 .11

### VIII. 3. 3 神経内科

1. 石尾ゆきこ, 引網亮太, 和田裕子, 柳原千枝, 西村 洋: 片頭痛様の症状を伴ったFibromuscular dysplasiaの1例. 第200回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2013. 6 . 8
2. 和田裕子, 石尾ゆきこ, 柳原千枝, 西村 洋: 画像上、辺縁系脳炎の所見を呈したpossible Sweet病の1例. 第98回日本神経学会近畿地方会, 奈良, 2013. 6 .22

3. 和田裕子, 石尾ゆきこ, 柳原千枝, 西村 洋, 石原美佐, 橋本公夫, 竹之内徳博: 慢性型の成人T細胞白血病(ATL)の経過中にAcute HAMを併発した1例. 第99回日本神経学会近畿地方会, 大阪, 2013.12.21

#### VIII. 3. 4 消化器内科

1. 相田健次, 荒尾真道, 徳永英里, 吉田裕幸, 隅野有香, 荒木 理, 村上坤太郎, 佐々木綾香, 津田朋広, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: 胃の大細胞型神経内分泌細胞癌の一例. 第90回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 6 .22
2. 安達神奈: 座長 (Young Endoscopist Session). 第91回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 6 .22
3. 安達神奈, 荒尾真道, 徳永英里, 隅野有香, 吉田裕幸, 荒木 理, 村上坤太郎, 佐々木綾香, 津田朋広, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: 当院における放射線単独療法を施行した食道癌. 第21回日本消化器関連学会週間, 東京, 2013.10. 9 -12
4. 荒尾真道, 徳永英里, 吉田裕幸, 隅野有香, 村上坤太郎, 荒木 理, 佐々木綾香, 津田朋広, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: 当院におけるEpstein-Barウイルス(EBV)関連胃癌の7例. 第91回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 6 .22
5. 荒尾真道, 徳永英里, 村上坤太郎, 吉田裕幸, 隅野有香, 荒木 理, 佐々木綾香, 津田朋広, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: Epstein-Barウイルス(EBV)関連の同時多発胃癌の1例. 第99回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 9 .28
6. 荒木 理, 荒尾真道, 徳永英里, 沖重有香, 吉田裕幸, 村上坤太郎, 佐々木綾香, 津田朋広, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: 早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)施行後の異時性再発についての検討. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 2013. 5 .10-12
7. 荒木 理, 井谷智尚, 三村 純: 当院での胃瘻、食道瘻造設症例における高齢者の特徴. 第91回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 6 .22
8. 荒木 理, 荒尾真道, 徳永英里, 沖重有香, 吉田裕幸, 村上坤太郎, 佐々木綾香, 津田朋広, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: 当院で経験した膵腺扁平上皮癌の3例. 第21回日本消化器関連学会週間, 東京, 2013.10. 9 -12
9. 荒木 理, 徳永英里, 沖重有香, 村上坤太郎, 佐々木綾香, 井谷智尚: 頭頸部癌、食道癌治療における胃瘻造設症例の検討. 第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 横浜, 2014. 2 .27-28
10. 井谷智尚, 徳永英里, 沖重有香, 村上坤太郎, 荒木 理, 佐々木綾香, 後藤規弘: 当院における「PEGの適応」とその問題〈医師に対するアンケート調査からわかったこと〉. 第29回日本静脈経腸栄養学会 学術集会, 横浜, 2014. 2 .27-28
11. 沖重有香, 徳永英里, 村上坤太郎, 荒木 理, 佐々木綾香, 井谷智尚: 代謝性脳症を来たした神経性食思不振症の一例. 第29回日本静脈経腸栄養学会 学術集会, 横浜, 2014. 2 .27-28
12. 小林英里, 村上坤太郎, 荒木 理, 佐々木綾香, 津田朋広, 安達神奈, 後藤規弘, 松森友昭, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: 当院で経験した転移性大腸癌の5例. 第91回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 6 .22

13. 佐々木綾香, 荒尾真道, 徳永英里, 隅野有香, 吉田裕幸, 荒木 理, 村上坤太郎, 津田朋広, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: 当院で経験した転移性胃腫瘍10例の検討. 第21回日本消化器関連学会週間, 東京, 2013.10.9-12
14. 佐々木綾香, 徳永英里, 沖重有香, 村上坤太郎, 荒木 理, 井谷智尚: PEG-Jの有用性と限界についての検討. 第29回日本静脈経腸栄養学会 学術集会, 横浜, 2014.2.27-28
15. 島田友香里, 荒尾真道, 徳永英里, 隅野有香, 吉田裕幸, 荒木 理, 村上坤太郎, 津田朋広, 安達神奈, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: 当院での大腸ESDにおける偶発症予防の工夫~前処置を中心に~. 第85回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 2013.5.10-12
16. 島田友香里, 荒尾真道, 徳永英里, 沖重有香, 吉田裕幸, 荒木 理, 村上坤太郎, 津田朋広, 佐々木綾香, 安達神奈, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: 当院での早期消化管癌に対するアルゴンプラズマ法の検討. 第21回日本消化器関連学会週間, 東京, 2013.10.9-12
17. 隅野有香, 荒尾真道, 徳永英里, 吉田裕幸, 荒木 理, 村上坤太郎, 佐々木綾香, 津田朋広, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: Argon Plasma Coagulation (APC) を用いて治療した早期胃癌7症例の検討. 第91回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013.6.22
18. 隅野有香, 荒尾真道, 徳永英里, 吉田裕幸, 荒木 理, 村上坤太郎, 佐々木綾香, 津田朋広, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: 近年当院で経験した小腸Gastrointestinal Stromal Tumor (GIST) の2例. 第99回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2013.9.28
19. 津田朋広, 荒尾真道, 徳永英里, 吉田裕幸, 隅野有香, 村上坤太郎, 荒木 理, 佐々木綾香, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: 当院での過去3年間における大腸菌感染における大腸内視鏡像の検討. 第99回日本消化器病学会総会, 鹿児島, 2013.3.21-23
20. 津田朋広, 佐々木綾香, 井谷智尚: 大腸菌感染時における下部消化管内視鏡像の検討. 第90回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013.6.22
21. 徳永英里, 荒尾真道, 吉田裕幸, 隅野有香, 村上坤太郎, 荒木 理, 佐々木綾香, 津田朋広, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: 悪性大腸狭窄に対する大腸ステント5例の使用経験. 第90回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013.6.22
22. 徳永英里, 沖重有香, 村上坤太郎, 荒木 理, 佐々木綾香, 井谷智尚: 当院の「NSTミーティング」における『病態別グループワーク』の取り組み. 第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 横浜, 2014.2.27-28
23. 村上坤太郎, 荒尾真道, 徳永英里, 吉田裕幸, 隅野有香, 荒木 理, 佐々木綾香, 津田朋広, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: 経皮経肝胆管鏡 (PTCS) が診断に有用であった胆管内乳頭状腫瘍 (IPNB) の1例. 第91回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013.6.22
24. 村上坤太郎, 荒尾真道, 徳永英里, 荒木 理, 隅野有香, 吉田裕幸, 佐々木綾香, 津田朋広, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: Klebsiella pneumoniae肝膿瘍から敗血症性肺塞栓症と内因性眼内炎を発症した1例. 第99回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2013.9.28
25. 村上坤太郎, 荒尾真道, 徳永英里, 吉田裕幸, 隅野有香, 荒木 理, 佐々木綾香, 津田朋広, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: Ultraflex™留置後に食道気管瘻が拡大し, Dumont™ stentをstent-in-stentにて留置した進行胸部食道癌の1例. 第21回日本消化器関連学会週間, 東京, 2013.10.9-12

26. 村上坤太郎, 徳永英里, 沖重有香, 荒木 理, 佐々木綾香, 井谷智尚: 当院における経皮経食道胃管挿入術. 第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 横浜, 2014. 2 .27-28
27. 山下暢子, 吉田裕幸, 隅野有香, 荒木 理, 村上坤太郎, 佐々木綾香, 津田朋広, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: TACE無効であったがエベロリムスが有効な腓NET肝転移の1例. 第98回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 2 .16
28. 吉田裕幸, 隅野有香, 荒木 理, 村上坤太郎, 佐々木綾香, 津田朋広, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: 診断に難渋した小腸明細胞肉腫の一例. 第98回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 2 .16
29. 吉田裕幸, 荒尾真道, 徳永英里, 隅野有香, 荒木 理, 村上坤太郎, 佐々木綾香, 津田朋広, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: Ball Valve症候群を契機に発見された腺腫内癌の1例. 第91回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 6 .22
30. 吉田裕幸, 荒尾真道, 徳永英里, 荒木 理, 隅野有香, 佐々木綾香, 津田朋広, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: アルコール性肝硬変に合併したfocal nodular hyperplasia like noduleの1例. 第99回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2013. 9 .28
31. 吉田裕幸, 荒尾真道, 徳永英里, 隅野有香, 荒木 理, 村上坤太郎, 佐々木綾香, 津田朋広, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: 胆汁培養から見る当院の急性胆嚢炎治療の現状. 第21回日本消化器関連学会週間, 東京, 2013.10. 9-12

#### VIII. 3. 5 呼吸器内科

1. 井手口周平, 池田顕彦, 桜井稔泰, 多田公英, 瀬瀬力也, 松本正孝, 荻野浩嗣, 橋本公夫: 鼠径腫脹を景気に再燃し肺病変を認めたSweet病の1例. 第201回日本内科学会近畿地方会, 京都, 2013. 9 .7
2. 井手口周平, 松本正孝, 多田公英: Candida albicansによる両側尿管閉塞および気腫性腎盂腎炎をきたした1例. 第56回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 大阪, 2013.11. 7
3. 多田公英, 井手口周平, 荻野浩嗣, 松本正孝, 瀬瀬力也, 桜井稔泰, 池田顕彦: 悪性リンパ腫に併発した結核症の臨床的検討. 第111回日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7 .13
4. 古内浩司, 井手口周平, 荻野浩嗣, 松本正孝, 瀬瀬力也, 桜井稔泰, 池田顕彦: 重症市中緑膿菌肺炎の1例. 第81回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2013. 7 .13
5. 松本正孝, 井手口周平, 濱川正光, 桜井稔泰, 多田公英, 池田顕彦: イソニアジド服用患者に対するピリドキシン投与は必要か? 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2013. 4 .21

#### VIII. 3. 6 免疫血液内科

1. 河野泰秀, 田中康博, 新里偉咲, 高蓋寿朗: 好酸球増多を合併した悪性中皮腫の1例. 第202回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2013.11. 6
2. 末松佳奈, 田中康博, 新里偉咲, 高蓋寿朗, 橋本公夫: 汎血球減少で発症した芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍(BPDCN)の1例. 第100回近畿血液学地方会, 大阪, 2013.11.30
3. 田中康博, 新里偉咲: 非外傷性脾破裂をきたした血液疾患3症例. 第75回日本血液学会学術集会, 札幌, 2013.10.12

4. 田中康博, 山本 剛: 菌性感染から波及した菱形筋膿瘍の1例. 第83回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 大阪, 2013.11.7
5. 前川嵩太, 田中康博, 浅野 仁, 新里偉咲, 高蓋寿朗, 橋本公夫: 初診時に粟粒結核を併発した急性骨髄性白血病の1例. 第200回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2013.4.25

### VIII. 3. 7 精神・神経科

1. 石川慎一: 長期入院患者のアリピプラゾール単剤化と経過について. 精神科医療フォーラム, 姫路, 2013.4.4
2. 石川慎一: 相手にあわせた、新規抗うつ薬の使い方～痛みのおづきとともに. Depression Seminar in 西神, 神戸, 2013.5.7
3. 石川慎一: 大人とADHD－アトモキセチンが開いた新しい治療－. 精神科病診連携フォーラム, 神戸, 2013.5.16
4. 石川慎一: 大人とADHD－アトモキセチンが開いた新しい治療－. 精神科病診連携懇話会, 神戸, 2013.6.8
5. 石川慎一: 統合失調症の維持期を見据えた急性期におけるアリピプラゾールの使い方. 神戸DPA研究会～第3世代抗精神病薬を考える～, 神戸, 2013.6.14
6. 石川慎一: チーム医療のためのコンテクスト効果を意識した第3世代抗精神病薬の使い方. これからの統合失調症治療を考える会, 滋賀県立精神医療センター, 2013.6.21
7. 石川慎一: 最新のSSRI使用経験. 東播磨うつ病カンファレンス, 加古川, 2013.6.29
8. 石川慎一: 統合失調症の維持期を見据えた急性期におけるアリピプラゾールの使い方. UNDER 16 DSS講演会, 徳島, 2013.7.13
9. 石川慎一, 高宮静男, 河村麻美子, 上月 遥, 大谷恭平, 磯部昌憲, 植本雅治: 多角的な学校との連携. 第31回日本小児心身医学会学術集会, 米子, 2013.9.13-15
10. 石川慎一, 高宮静男, 上月 遥, 河村麻美子, 磯部昌憲, 大谷恭平, 植本雅治: 小児病棟における栄養サポートチーム(NST)への期待と児童精神科医の役割. 第54回日本児童青年精神医学会総会, 2013.10.10-12
11. 石川慎一, 島村康弘, 奥野昌宏, 鈴木愛瑠, 川口晃司, 川崎 悠, 岩田あや, 石原温子, 河村麻美子, 上月 遥, 大谷恭平, 仁紙宏之, 松原康策, 深谷 隆, 高宮静男: 神経性無食欲症患者における摂取エネルギー量と体重増加との関係 報告1. 第17回日本摂食障害学会学術集会, 神戸, 2013.11.2-3
12. 石川慎一: 大人のADHDを‘／’する. 精神科治療を考える会, 姫路, 2013.11.16
13. 石川慎一: がん患者の精神症状と治療～気持ちの対応編. 院内2013年緩和ケアチーム研修会, 地域医療大ホール, 2013.12
14. 石川慎一: レクサプロ ビデオメッセージ. ビデオ出演, 病院医局内, 2013.12
15. 石川慎一: 発達障害を持つ幼児児童生徒への支援について. 兵庫県立神戸聴覚支援学校職員研修, 兵庫県立神戸聴覚支援学校, 2014.1.10

16. 石川慎一：チーム医療と第3世代抗精神病薬. チーム医療講演会, 香良病院, 2014. 2 . 6
17. 石川慎一：エビリファイを効果的に使用するために～慢性期・急性期・置換期. 学術講演会, 松山, 2014. 2 . 21
18. 石川慎一：踏ん張る力をふまえたうつ病のケア. 神戸うつ病を考える会, 神戸, 2014. 3 . 6
19. 石川慎一, 河村麻美子, 上月 遥, 大谷恭平, 高宮静男：単科精神病院に入院中の統合失調症者の総合病院への転院導入に, 単科精神病院の医師らのアウトリーチによる協働が有効であった症例. 第9回日本統合失調症学会, 京都, 2014. 3 . 14-15
20. 植本雅治, 瀧尻明子, 磯部昌憲, 高宮静男：新来外国人中学生の心の健康に関する研究－日本語能力との関連－. 第54回児童青年精神医学会, 札幌, 2013. 10. 10-12
21. 大谷恭平：プライマリー・ケア医が行ううつ病の診察. 垂水区医師会学術講演会, 神戸, 2013. 4 . 9
22. 大谷恭平, 上月 遥, 石川慎一, 高宮静男：NST介入症例における高齢者の入院患者－せん妄を中心に－. 第28回日本老年精神医学会総会, 大阪, 2013. 6 . 4
23. 大谷恭平：グリーフケア論：複雑性悲嘆の診断と治療. がん看護インセンシティブコース研修会, 神戸市看護大学 神戸, 2013. 9 . 14
24. 大谷恭平：死別反応とうつ病の合併例に対する診断と治療. 第19回神戸精神科臨床研究会, 神戸, 2013. 10. 5
25. 大谷恭平：『せん妄』ってなあに？心理士が知っておきたい『せん妄』の知識. 西神戸心理臨床研究会, 神戸, 2013. 10. 19
26. 大谷恭平, 河村麻美子, 上月 遥, 石川慎一, 高宮静男：摂食障害に対する向精神薬の使用状況－小児を中心に－. 第23回日本臨床精神神経薬理学会／第43回日本神経精神薬理学会 合同年会, 沖縄, 2013. 10. 24
27. 大谷恭平, 川添文子, 池田芳子, 古屋有華, 河村麻美子, 上月 遥, 石川慎一, 高宮静男：精神科リエゾンチームから精神科リエゾン緩和チームへ；PCTチーム内での専門化. 第26回日本総合病院精神医学会総会, 京都, 2013. 11. 29
28. 大谷恭平：わざ学のすすめ. 同志社大学文化情報学部, 京都, 2013. 12. 17
29. 大谷恭平：プライマリー・ケア医が行う うつ病の診察. 神戸市北区学術講演会, 神戸, 2014. 1 . 18
30. 奥野昌宏, 上月 遥, 河村麻美子, 磯部昌憲, 石川慎一, 大谷恭平, 高宮静男：小児摂食障害チーム医療の中での薬剤師の役割. 第54回児童青年精神医学会, 札幌, 2013. 10. 10-12
31. 唐木美喜子, 高宮静男：摂食障害とスポーツとの関連を探る－運動部顧問と養護教諭への調査結果からの検討－. 第26回神戸心身医学会, 神戸, 2013. 4 . 20
32. 唐木美喜子, 若生 遥, 高宮静男：摂食障害とスポーツの関係を探る（その2）～運動部顧問と養護教諭への調査結果からの検討～. 第17回日本摂食障害学会学術集会, 神戸, 2013. 11. 2

33. 唐木美喜子, 高宮静男, 渡邊久美, 他: 養護教諭向けの摂食障害支援パンフレットの改訂 (その1-4). 第17回日本摂食障害学会学術集会, 神戸, 2013.11.2
34. 川添文子: グリーフケア論. 神戸市看護大学がん看護インテンシブコース研修, 神戸, 2013.9.14
35. 川添文子: こどものANに対するチーム医療-心理士の役割-. 第17回日本摂食障害学会学術集会, 神戸, 2013.11.2-3
36. 川添文子, 上月 遥, 高宮静男, 石川慎一, 大谷恭平, 他: 総合病院における他科入院患者への精神科リエゾン・コンサルテーションの現状1. 第26回日本総合病院精神医学会, 京都, 2013.11.29-30
37. 川添文子: 栄養指導に役立つ栄養心理カウンセリングの基礎知識. 西神戸臨床栄養研究会, 神戸, 2013.11.12
38. 川添文子: 身体疾患をもつ患者さんへのかかわり. 兵庫県臨床心理士会医療保健領域研修会, 神戸, 2013.12.8
39. 川添文子, 古屋有華, 白川敬子, 井戸りか, 河村麻美子, 上月 遥, 石川慎一, 大谷恭平, 高宮静男: 当院における職員の心の健康支援への取り組み. 第55回日本心身医学会近畿地方会, 神戸, 2014.2.15
40. 河村麻美子, 高宮静男, 上月 遥, 磯部昌憲, 大谷恭平, 石川慎一, 植本雅治: 小学生の摂食障害の治療経験1-向精神薬の使用経験-. 第54回日本心身医学会, 横浜, 2013.6.26-27
41. 河村麻美子, 高宮静男, 上月 遥, 磯部昌憲, 大谷恭平, 石川慎一, 植本雅治: 神経性食思不振症患者における写真を用いた食事量のとらえ方の修正法. 第31回日本小児心身医学会, 米子, 2013.9.14
42. 河村麻美子, 高宮静男, 上月 遥, 磯部昌憲, 石川慎一, 大谷恭平, 植本雅治: 西神戸医療センターにおける初診患児の変遷1-全初診患児の検討-. 第54回児童青年精神医学会, 札幌, 2013.10.10-12
43. 河村麻美子, 高宮静男, 上月 遥, 磯部昌憲, 大谷恭平, 石川慎一, 植本雅治: 神経性食思不振症に対する支援-食事の写真を用いた認知行動療法-. 第4回兵庫県総合病院精神医学会, 札幌, 2013.10.10-12
44. 河村麻美子, 高宮静男, 上月 遥, 磯部昌憲, 大谷恭平, 石川慎一, 植本雅治: 神経性食思不振症に対する食事の写真を用いた支援. 第29回日本静脈経腸栄養学会, 横浜, 2014.2.28
45. 上月 遥, 高宮静男, 河村麻美子, 磯部昌憲, 大谷恭平, 石川慎一, 植本雅治, 他: 養護教諭への支援-摂食障害支援パンフレット改訂版. 第31回日本小児心身医学会, 米子, 2013.9.14
46. 上月 遥, 高宮静男, 河村麻美子, 磯部昌憲, 石川慎一, 大谷恭平, 植本雅治: 西神戸医療センターにおける初診患児の変遷2-学校との連携例の検討-. 第54回児童青年精神医学会, 札幌, 2013.10.10-12
47. 上月 遥, 川添文子, 高宮静男, 石川慎一, 大谷恭平, 他: 総合病院における他科入院患者への精神科リエゾン・コンサルテーションの現状2. 第26回日本総合病院精神医学会, 京都, 2013.11.29-30
48. 上月 遥, 高宮静男, 河村麻美子, 磯部昌憲, 石川慎一, 大谷恭平, 植本雅治: 入院治療を要する重度の哺育障害児へのアプローチ. 第29回日本静脈経腸栄養学会, 横浜, 2014.2.28
49. 篠田美香, 高宮静男: 児童思春期精神医学の講義を受けた発達科学部学生に対するアンケート調査. 第26回神戸心身医学会, 神戸, 2013.4.20



50. 高宮静男：4回シリーズカウンセラーのためのリエゾン・コンサルテーション精神医学。大阪，2013.4.6，2013.4.13，2013.8.10，2013.8.17
51. 高宮静男：摂食障害の基礎－薬剤師にできることを考えよう－。精神科薬物療法認定薬剤師講習会，神戸，2013.6.2
52. 高宮静男，河村麻美子，上月 遥，磯部昌憲，大谷恭平，石川慎一，植本雅治：小学生の摂食障害の治療経験2，家族療法の経験。第54回日本心身医学会，横浜，2013.6.26
53. 高宮静男：AD/HDの病態と学校・病院間の連携。神戸聴覚支援学校主催の講演会，神戸，2013.8.2
54. 高宮静男：注意欠如／多動性障害（AD/HD）に関する臨床と学校連携。神戸市小児科学術講演会，神戸，2013.8.3
55. 高宮静男：透析患者の支援－基本と症例－。神戸透析交流会，神戸，2013.8.24
56. 高宮静男，上月 遥，河村麻美子，磯部昌憲，石川慎一，大谷恭平，植本雅治：西神戸医療センターにおける初診患児の変遷3－顔の見える関係作りへの試み－。第54回児童青年精神医学会，札幌，2013.10.10－12
57. 高宮静男：小児摂食障害とともに。第17回日本摂食障害学会学術集会，会長講演，神戸，2013.11.2
58. 高宮静男，佐野智子：小児病棟における治療と看護－統合的支援を目指して－。第9回摂食障害看護研修，東京，2013.11.8
59. 高宮静男：シリーズ発達科学部生のための児童青年精神医学。神戸大学発達科学部集中講義，神戸，2013.12.7，2013.12.14
60. 高宮静男：困り感のあるこどもの理解－治療現場のこどもと親の姿から－。こども教育学科研修会，神戸，2013.12.21
61. 高宮静男：発達障害を持つ幼児児童生徒への支援について。兵庫県立神戸聴覚支援学校職員研修，神戸，2014.1.10
62. 高宮静男：ひきこもり支援へ向けてのネットワーク。篠山市ひきこもり支援講演会，篠山，2014.1.11
63. 高宮静男：小児白血病における診断時からの緩和ケア。7大学連携先端のがん教育基盤創造プラン 第2回緩和ケアシンポジウム「診断時 [早期] からの緩和ケア」，大阪，2014.2.15
64. 高宮静男：自閉症スペクトラム障害児と保護者支援。要保護児童支援に関する研修会，神戸，2014.3.7
65. 中牟田若葉，菊根千秋，阪本敏子，高宮静男：小学生の摂食障害に関するセミナー。第26回神戸心身医学会，神戸，2013.4.20
66. 眞野祥子，宇野宏幸，堀内史枝，高宮静男：注意欠陥多動性障害児の母親における子どもへの愛着感。第54回児童青年精神医学会，札幌，2013.10.10－12
67. 若生 遥，唐木美喜子，高宮静男：摂食障害とスポーツの関係を探る（その1）～意識に関する調査結果からの検討～。第17回日本摂食障害学会学術集会，神戸，2013.11.2

### VIII. 3. 8 小児科

1. 石原温子, 鈴木愛瑠, 川口晃司, 川崎 悠, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策, 深谷 隆: 摂食障害における心機能の特徴. 第261回日本小児科学会兵庫県地方会, 武庫川, 2014. 2 .15
2. 一角直行, 五木田麻里, 長濱通子, 清水道生, 松原康策, 堀川達弥: 病変深部にリンパ管の増勢を伴った tufted angioma の 1 例. 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 名古屋, 2013.11. 2 - 3
3. 岩田あや, 石原温子: 小児病棟における摂食障害チーム医療. 第17回日本摂食障害学会, 神戸, 2013.11. 2 - 3
4. 織田好子, 一角直行, 堀川達弥, 川口晃司, 松原康策: 非特異的な皮疹を呈したアナフィラクトイド紫斑病の 1 例. 第442回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2014. 3 .29
5. 川口晃司, 石原温子, 高橋知男, 長谷川有紀, 山口清次, 川崎 悠, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策, 深谷 隆: 乳清蛋白質分解乳による哺育中に難治性皮膚炎を呈したビオチン欠乏症の 1 例. 第116回日本小児科学会学術集会, 広島, 2013. 4 .19-21
6. 川口晃司, 松原康策, 川崎 悠, 岩田あや, 石原温子, 仁紙宏之, 深谷 隆: 新規ELANE異常の重症先天性好中球減少症の 1 例 - 診断と治療経過 -. 第8回京都地区小児血液腫瘍研究会, 京都, 2013. 7 .20
7. 川口晃司, 鈴木愛瑠, 川崎 悠, 岩田あや, 石原温子, 仁紙宏之, 松原康策, 深谷 隆: 先天性好中球減少症の 2 例における入院契機となった感染症の検討. 第10回兵庫小児血液懇話会, 神戸, 2013.11.22
8. 川口晃司, 岩田あや, 松原康策, 宮田憲二, 斎藤敦郎, 長谷川大一郎, 小阪嘉之, 小林正夫: 新規ELANE 遺伝子変異を認め、同種骨髓移植を行った重症先天性好中球減少症の 1 例. 第55回日本小児血液・がん学会学術集会, 福岡, 2013.11.29-12. 1
9. 川崎 悠, 上月 遥, 石原温子, 鈴木愛瑠, 川口晃司, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策, 深谷 隆: 経口摂取の拒絶により長期入院を要した4歳児の 1 例. 神戸市小児科医会学術講演会, 神戸, 2013. 6 .15
10. 北澤淳一, 中館尚也, 酒井道生, 太田 茂, 笹原洋二, 高橋幸博, 前田尚子, 松原康策, 石井榮一, 岡 敏明, 藤沢康司, 今泉益栄: 先行ワクチン接種・感染を有するITP症例の臨床像の解析. 第55回日本小児血液・がん学会学術集会, 福岡, 2013.11.29-12. 1
11. 後藤良子, 鈴木愛瑠, 川口晃司, 川崎 悠, 岩田あや, 石原温子, 仁紙宏之, 松原康策, 深谷 隆: 重症貧血で出生した胎盤内絨毛癌合併胎児母体間輸血症候群の一例. 第27回近畿小児科学会, 奈良, 2013. 3 . 9
12. 後藤良子, 川崎 悠, 鈴木愛瑠, 川口晃司, 岩田あや, 石原温子, 仁紙宏之, 松原康策, 深谷 隆: 重症貧血で出生した胎盤内絨毛癌合併胎児母体間輸血症候群の一例. 第21回未熟児新生児医療研究会, 京都, 2014. 3 .15
13. 鈴木愛瑠, 川口晃司, 川崎 悠, 岩田あや, 石原温子, 仁紙宏之, 松原康策, 深谷 隆: Infantile convulsion and choreoathetosis (ICCA) の非典型例. 第260回日本小児科学会兵庫県地方会, 姫路, 2013. 9 .28
14. 鈴木愛瑠, 川口晃司, 川崎 悠, 岩田あや, 石原温子, 仁紙宏之, 松原康策, 深谷 隆: IgE RAST class 4 以上の食物経口負荷試験の実施状況について. 神戸市小児科医会学術講演会, 神戸, 2013.12.14

15. 高橋幸博, 北澤淳一, 中館尚也, 酒井道生, 太田 茂, 笹原洋二, 前田尚子, 松原康策, 石井榮一, 岡 敏明, 藤沢康司, 白幡 聡, 別所文雄, 今泉益栄: 1歳未満のITP児の臨床的解析結果. 第55回日本小児血液・がん学会学術集会, 福岡, 2013.11.29-12.1
16. 田村和世, 大石智洋, 石和田稔彦, 松原康策, 西順一郎, 常 彬, 明田幸宏, 庵原俊昭, 大石和徳: 日本におけるIPD罹患小児の7価肺炎球菌コンジュゲートワクチンへの免疫応答. 第17回日本ワクチン学会, 津, 2013.11.30-12.1
17. 前川嵩太, 岩田あや, 鈴木愛瑠, 川口晃司, 川崎 悠, 石原温子, 仁紙宏之, 松原康策, 深谷 隆: 中耳炎に合併した脳静脈洞血栓症の1例. 第259回日本小児科学会兵庫県地方会, 神戸, 2013.5.25
18. 松原康策, 保科 清, 鈴木葉子: 早発型・遅発型B群レンサ球菌感染症-2004-2010年の全国アンケート調査-. 第116回日本小児科学会学術集会, 広島, 2013.4.19-21
19. 松原康策, 川口晃司, 川崎 悠, 岩田あや, 石原温子, 仁紙宏之, 深谷 隆, 明田幸宏, 大石和徳, 常 彬: 侵襲性肺炎球菌感染症後のPCV7接種に対する免疫反応の検討. 第45回レンサ球菌感染症研究会, 東京, 2013.6.28-29
20. 松原康策, 保科 清, 鈴木葉子: 垂直感染予防ガイドラインが早発型B群レンサ球菌感染症に与える影響-2004-2010年の全国アンケート調査-. 第49回日本周産期・新生児医学会総会, 横浜, 2013.7.14-16
21. 松原康策: 小児喘息のコントロールについて. 第6回垂水区小児疾患懇話会, 神戸, 2013.10.5
22. 松原康策: 食物アレルギーの対応について、低身長について. 第1回西神戸こどもフォーラム, 神戸, 2013.10.19
23. 松原康策: 校医(小児科医、内科医)、養護教諭のための基礎セミナー1(身体面)-小児のANを中心に-. 第17回日本摂食障害学会, 神戸, 2013.11.2-3
24. 山川 勝, 富田安彦, 深谷 隆, 田中裕也, 宇都宮剛, 岡藤郁夫, 上村克徳, 鶴田 悟, 春田恒和: 遺伝子解析に基づく遺伝性致死的不整脈管理. 第259回日本小児科学会兵庫県地方会, 神戸, 2013.5.25
25. Wang RN, Yoshida K, Okuno Y, Sato-Otsubo A, Toki T, Kudo K, Kanezaki R, Shiraishi Y, Chiba K, Terui K, Sato T, Iribe Y, Ohga S, Kuramitsu M, Hamaguchi I, Ohara A, Kamimaki I, Hara J, Sugita K, Matsubara K, Koike K, Ishiguro A, Kawano Y, Kanno H, Kojima S, Sawada T, Uechi T, Kenmochi N, Miyano S, Ogawa S, Ito E: Identification of a novel causative gene, *RPL27*, in Diamond-Blackfan anemia. 第75回日本血液学会, 札幌, 2013.10.11-13

### VIII. 3. 9 皮膚科

1. 足立厚子, 堀川達弥: 難治性皮膚炎の診療における全身型もふまえた金属アレルギーの検索の意義. 第112回日本皮膚科学会総会, 教育講演, 横浜, 2013.6.14-16
2. 足立厚子, 森山達哉, 清水秀樹, 堀川達弥, 田中 昭, Sigrid Sjorander: 大豆アレルギーにおけるGly m4、Gly m5、Gly m6特異IgEの重要性およびGly m5、Gly m6サブユニット特異IgEについて. 第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会, 金沢, 2013.11.29-12.1
3. 一角直行, 五木田麻里, 長濱通子, 清水道生, 松原康策, 堀川達弥: 病変深部にリンパ管の増勢を伴った tufted angioma の1例. 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 名古屋, 2013.11.2-3

4. 一角直行, 西岡美南, 金澤典子, 小猿恒志, 佐々木祥人, 足立厚子, 山田陽三, 松浦正人: ヒドロコルチゾン注射剤によるアナフィラキシーショックおよび播種状紅斑丘疹型薬疹の1例. 第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会, 金沢, 2013.11.29-12.1
5. 織田好子, 辻本昌理子, 福永 淳, 錦織千佳子: ステロイドパルス療法が著効した寒冷誘発性コリン性蕁麻疹を合併した減汗性コリン性蕁麻疹の1例. 第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会, 金沢, 2013.11.29-12.1
6. 織田好子, 一角直行, 堀川達弥: Rippled-pattern trichoblastomaの1例. 第440回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2013.12.7
7. 織田好子, 一角直行, 堀川達弥: steatocystomaの2例. 第441回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2014.2.15
8. 織田好子, 一角直行, 堀川達弥, 川口晃司, 松原康策: 非特異的な皮疹を呈したアナフィラクトイド紫斑病の1例. 第442回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2014.3.29
9. 五木田麻里, 小猿恒志, 仲田かおり, 堀川達弥: プロピオン酸アルクロメタゾンによる接触皮膚炎の1例. 第25回日本アレルギー学会春期臨床大会, 横浜, 2013.5.11-12
10. 五木田麻里, 小猿恒志, 堀川達弥: Pseudoxanthoma elasticum-like papillary dermal elastolysisの1例. 第112回日本皮膚科学会総会, 横浜, 2013.6.14-16
11. 五木田麻里, 小猿恒志, 一角直行, 堀川達弥: Intradermal nevusと伝染性軟属腫の合併例. 第106回近畿皮膚科集談会, 大阪, 2013.7.21
12. 五木田麻里, 小猿恒志, 一角直行, 堀川達弥: Mycoplasma感染に伴う皮膚疾患. 第439回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2013.10.12
13. 小猿恒志, 五木田麻里, 田中康博, 古賀浩嗣, 橋本 隆, 堀川達弥: 多彩な皮膚粘膜症状を契機にリンパ腫が発見され、腫瘍随伴性天疱瘡が疑われた1例. 第112回日本皮膚科学会総会, 横浜, 2013.6.14-16
14. 小猿恒志, 五木田麻里, 堀川達弥: Vibratory angioedemaの1例. 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 名古屋, 2013.11.2-3
15. 堀川達弥, 五木田麻里, 小猿恒志, 近田恵里, 竹内康人, 秀 道広, 福永 淳: Breast feeding anaphylaxis. 第25回日本アレルギー学会春期臨床大会, ミニシンポジウム, 横浜, 2013.5.11-12
16. 堀川達弥: アレルギーの救急～最新の知見をふまえて～. 第112回日本皮膚科学会総会, 教育講演, 横浜, 2013.6.14-16
17. 堀川達弥: 皮膚・粘膜感作と即時型食物アレルギー. ランチョンセミナー, 平成25年度日本臨床皮膚科医会中国ブロック総会, 岡山, 2013.7.21
18. 堀川達弥: 蕁麻疹のquality indicator: 刺激誘発型の蕁麻疹. 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 名古屋, 2013.11.2-3

19. 鷺尾 健, 福永 淳, 小野寺美奈子, 畠山真弓, 田口久実子, 小倉香奈子, 堀川達弥, 錦織千佳子: コリン性蕁麻疹に随伴した血管性浮腫の8例. 第25回日本アレルギー学会春期臨床大会, ミニシンポジウム, 横浜, 2013. 5. 11-12
20. 鷺尾 健, 福永 淳, 小野寺美奈子, 畠山真弓, 田口久実子, 小倉香奈子, 堀川達弥, 錦織千佳子: 新しい疾患概念: コリン性血管性浮腫の8例. 第3回汗と皮膚の研究会, 東京, 2013. 8. 10
21. 鷺尾 健, 福永 淳, 小野寺美奈子, 畠山真弓, 田口久実子, 小倉香奈子, 堀川達弥, 錦織千佳子: 新しい疾患概念: コリン性血管性浮腫. 第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会, 金沢, 2013. 11. 29-12. 1

#### VIII. 3. 10 外科・消化器外科

1. 相田健次, 石井隆道, 小寺澤康文, 吉田真也, 住井敦彦, 安川大貴, 松浦正徒, 長井和之, 姜 貴嗣, 伊丹 淳, 京極高久: 重複胆嚢を伴う総胆管結石の1手術例. 第194回近畿外科学会, 大阪, 2013. 11. 9
2. 石井隆道, 伊丹 淳, 姜 貴嗣, 長井和之, 松浦正徒, 住井敦彦, 安川大貴, 小寺澤康文, 吉田真也, 京極高久: 巨大肝嚢胞に対する内視鏡的アプローチ. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2013. 11. 29
3. 伊丹 淳, 住井敦彦, 安川大貴, 奥村慎太郎, 松浦正徒, 肥田侯矢, 宇山直樹, 京極高久: 胸腔鏡下食道胃管吻合術の実際と蛍光色素による胃管血流描出の工夫. 第67回日本食道学会, 大阪, 2013. 6. 13
4. 伊丹 淳, 住井敦彦, 安川大貴, 奥村慎太郎, 松浦正徒, 肥田侯矢, 宇山直樹, 京極高久: 腹腔鏡下胃管作成術・胸腔鏡下食道胃管胸腔内吻合の手法とカラー蛍光画像による胃管血流描出の工夫. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7. 18
5. Atsushi Itami: The technique of intrathoracic esophagogastronomy using a linear stapler in thoracoscopic and laparoscopic esophagectomy for treatment of esophageal cancer. 2013 Clinical Congress of American College of Surgeons, Washington DC, 2013. 10. 9
6. 伊丹 淳, 吉田真也, 嶋田 裕, 小寺澤康文, 住井敦彦, 安川大貴, 松浦正徒, 長井和之, 石井隆道, 姜 貴嗣, 京極高久: Zenker憩室に対して輪状咽頭筋切離術ならびに憩室固定術を施行した一例. 第75回臨床外科学会, 名古屋, 2013. 11. 23
7. 伊丹 淳, 松浦正徒, 姜 貴嗣, 小寺澤康文, 吉田真也, 住井敦彦, 安川大貴, 長井和之, 石井隆道, 京極高久: 当科における腹腔鏡下胃全摘術の現状. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2013. 11. 28
8. 伊丹 淳, 京極高久: 消化器外科医が考える内視鏡下手術における臨床工学技士・手術室看護師の役割. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2013. 11. 29
9. 井上貴裕, 姜 貴嗣, 小寺澤康文, 吉田真也, 住井敦彦, 安川大貴, 松浦正徒, 長井和之, 石井隆道, 伊丹 淳, 京極高久: EBV関連胃癌の2例. 第194回近畿外科学会, 大阪, 2013. 11. 9
10. 宇山直樹, 住井敦彦, 安川大貴, 奥村慎太郎, 松浦正徒, 肥田侯矢, 伊丹 淳, 京極高久: 術後肺転移病変が急速に増悪した肉腫瘍様変化を伴った肝細胞癌の一切除例. 第25回日本肝胆膵外科学会, 宇都宮, 2013. 6. 13
11. 宇山直樹, 石原美佐, 橋本公夫, 住井敦彦, 安川大貴, 奥村慎太郎, 松浦正徒, 肥田侯矢, 伊丹 淳, 京極高久: 加療歴のない肉腫様肝細胞癌-一切除例の免疫組織学的検討-stem cell marker, EMT markerを中心に. 第49回日本肝癌研究会, 東京, 2013. 7. 11

12. 奥村慎太郎, 住井敦彦, 安川大貴, 松浦正徒, 肥田侯矢, 宇山直樹, 伊丹 淳, 京極高久: 当院での単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術における術中胆道造影の手法. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7 .19
13. 姜 貴嗣, 石井隆道, 長井和之, 小寺澤康文, 吉田真也, 安川大貴, 住井敦彦, 松浦正徒, 伊丹 淳, 京極高久: 当科における腹腔鏡下肝切除術の導入の現状. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2013.11.28
14. 小寺澤康文, 伊丹 淳, 安川大貴, 吉田真也, 住井敦彦, 奥村慎太郎, 松浦正徒, 肥田侯矢, 宇山直樹, 京極高久: ステント留置後遅発性穿孔を来したS状結腸癌の1例. 第193回近畿外科学会, 京都, 2013. 6 .22
15. 小寺澤康文: 胃癌術後早期に著明な横行結腸の良性狭窄を来した1例. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7 .18
16. 小寺澤康文, 住井敦彦, 安川大貴, 奥村慎太郎, 肥田侯矢, 宇山直樹, 伊丹 淳, 京極高久: 当院の急性胆嚢炎に対する治療戦略~急性胆管炎・胆嚢炎の診療ガイドラインを踏まえ~. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7 .18
17. 小寺澤康文, 長井和之, 吉田真也, 住井敦彦, 安川大貴, 松浦正徒, 石井隆道, 姜 貴嗣, 伊丹 淳, 京極高久: 胆嚢管・胆管の走行形態に破格を伴う症例に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の検討. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2013.11.29
18. 住井敦彦, 吉田真也, 小寺澤康文, 安川大貴, 奥村慎太郎, 松浦正徒, 肥田侯矢, 宇山直樹, 伊丹 淳, 京極高久: 繰り返すイレウスを契機に発見した虫垂原発杯細胞カルチノイドの一例. 第193回近畿外科学会, 京都, 2013. 6 .22
19. 住井敦彦, 京極高久, 安川大貴, 奥村慎太郎, 松浦正徒, 肥田侯矢, 宇山直樹, 伊丹 淳: 鼠径部子宮内膜症の1例. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7 .17
20. 住井敦彦: 腹腔鏡下直腸低位前方切除術. 第6回阪神外科3Kの会, 大阪, 2013.10.12
21. 住井敦彦: 横行結腸癌術後縦隔リンパ節再発の一例. 第4回進行再発大腸癌治療研究会, 神戸, 2013.11. 1
22. 田坂佳資, 松浦正徒, 肥田侯矢, 小寺澤康文, 吉田真也, 住井敦彦, 安川大貴, 奥村慎太郎, 宇山直樹, 伊丹 淳, 京極高久, 橋本公夫: 寄生虫が迷入していた虫垂炎の一例. 第193回近畿外科学会, 京都, 2013. 6 .22
23. 長井和之: 腺扁平上皮癌と腺房細胞癌が併存する組織像を呈した隣尾部癌の1切除例. 第29回R175消化器外科集団会, 明石, 2014. 2 . 7
24. 長井和之: 大腸癌多発性肝転移症例に対する肝右葉切除術. 第13回京都肝臓外科セミナー, 京都, 2014. 3 . 1
25. 濱田健輔, 伊丹 淳, 肥田侯矢, 小寺澤康文, 吉田真也, 住井敦彦, 安川大貴, 奥村慎太郎, 松浦正徒, 宇山直樹, 池田房夫, 京極高久, 橋本公夫: 腸回転異常を伴った胃癌の1例. 第193回近畿外科学会, 京都, 2013. 6 .22
26. 肥田侯矢, 山田理大, 長谷川傑, 村上哲平, 加藤 滋, 大越香江, 河田健二, 坂井義治: 腹腔鏡下直腸間膜全切除術後の男性性機能・排尿機能評価. 第113回日本外科学会定期学術集会, 福岡, 2013. 4 .12

27. 肥田侯矢, 安川大貴, 住井敦彦, 奥村慎太郎, 松浦正徒, 宇山直樹, 伊丹 淳, 京極高久: 完全内側アプローチによる肝彎曲・脾彎曲授動. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7. 19
28. 前川嵩太, 宇山直樹, 小寺澤康文, 吉田真也, 住井敦彦, 安川大貴, 松浦正徒, 石井隆道, 姜 貴嗣, 伊丹 淳, 京極高久: 術前に前区域領域を支配する右副肝管が疑われた胆石症に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した一例. 第75回臨床外科学会, 名古屋, 2013. 11. 21
29. 松浦正徒, 住井敦彦, 安川大貴, 奥村慎太郎, 肥田侯矢, 宇山直樹, 伊丹 淳, 京極高久: 両側巨大鼠径ヘルニア嵌頓整復後に待機的にUltrapro Hernia System法で治療しえた1例. 第11回日本ヘルニア学会, 仙台, 2013. 5. 11
30. 松浦正徒, 吉田真也, 小寺澤康文, 住井敦彦, 安川大貴, 長井和之, 石井隆道, 姜 貴嗣, 伊丹 淳, 京極高久: 腹腔鏡下直腸低位前方切除術で経肛門ドレーン留置後に憩室穿孔を発症した1例. 第75回臨床外科学会, 名古屋, 2013. 11. 21
31. 安川大貴, 住井敦彦, 奥村慎太郎, 肥田侯矢: 後期レジデントによる単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術手術マニュアル. 第68回日本消化器外科学会総会, 宮崎, 2013. 7. 19
32. 安川大貴: ビデオによる手術手技供覧“腹腔鏡下直腸低位前方切除術”. 第16回京都臨床外科セミナー, 京都, 2013. 9. 21
33. 安川大貴, 小寺澤康文, 吉田真也, 住井敦彦, 松浦正徒, 長井和之, 石井隆道, 姜 貴嗣, 伊丹 淳, 京極高久: 食道癌、大腸癌の重複癌に遠隔(肝・肺)転移を認め、完全切除を施行した症例. 第75回臨床外科学会, 名古屋, 2013. 11. 23
34. 安川大貴, 小寺澤康文, 吉田真也, 住井敦彦, 松浦正徒, 長井和之, 石井隆道, 姜 貴嗣, 伊丹 淳, 京極高久: 腹腔鏡下左側大腸癌手術における内側アプローチの工夫. 第26回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2013. 11. 29
35. 山下暢子, 松浦正徒, 肥田侯矢, 吉田真也, 小寺澤康文, 住井敦彦, 安川大貴, 奥村慎太郎, 宇山直樹, 伊丹 淳, 京極高久, 橋本公夫: 後腹膜浸潤および空腸に瘻孔を形成した下行結腸癌の1例. 第193回近畿外科学会, 京都, 2013. 6. 22

### VIII. 3. 11 呼吸器外科

1. 石川浩之, 大竹洋介, 田中里奈, 青木 稔: 肺悪性腫瘍切除術後に、在宅酸素療法を要した症例の検討. 第30回日本呼吸器外科学会総会, 名古屋, 2013. 5. 9
2. 石川浩之, 青木 稔, 田中里奈, 大竹洋介: 縦隔最上部を占める神経鞘腫に対し被膜内剥離による胸腔鏡下腫瘍摘出術を行った症例. 第23回日本呼吸器外科医会冬期学術集会, 越後湯沢, 2014. 1. 24
3. 大竹洋介, 青木 稔, 石川浩之, 田中里奈: Mycobacterium abscessus肺感染症の2手術例－本邦報告例32例の検討. 第30回日本呼吸器外科学会総会, 名古屋, 2013. 5. 9
4. 大竹洋介, 青木 稔, 田中里奈, 石川浩之: I期非小細胞肺癌における腫瘍内脈管侵襲の予後に与える影響. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 2013. 11. 22
5. 田中里奈, 青木 稔, 石川浩之, 大竹洋介: 若年者自然気胸の術後再発を減らすために～術後再発における手術所見の検討と胸膜被覆についての考察～. 第30回日本呼吸器外科学会総会, 名古屋, 2013. 5. 9

6. 田中里奈, 青木 稔, 石川浩之, 大竹洋介: 高齢者肺癌手術における術後せん妄. 第38回日本外科系連合学会学術集会, 東京, 2013. 6. 6
7. 田中里奈, 青木 稔, 石川浩之, 大竹洋介: 超高齢者の甲状腺癌気管浸潤による気道狭窄の1例. 第36回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, さいたま, 2013. 6. 20
8. 田中里奈, 青木 稔, 石川浩之, 大竹洋介: 肺全摘を施行したリンパ節転移陽性症例の検討 N2肺癌に肺全摘は許容されるか? 第66回日本胸部外科学会定期学術集会, 仙台, 2013.10.17
9. 田中里奈, 青木 稔, 石川浩之, 大竹洋介: 前方アプローチのみで切除した肺尖部胸壁に広汎に浸潤した左上葉原発多型癌の1例. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 2013.11.22
10. 田中里奈, 青木 稔, 石川浩之, 大竹洋介: 子宮筋腫多発肺転移の1例. 第42回京都大学呼吸器外科教室同門会冬期研究会, 京都, 2014. 2. 15
11. 田中里奈, 青木 稔, 石川浩之, 大竹洋介: 食道癌術後(後縦隔胃管再建後)の肺癌に対する胸腔鏡下右肺下葉切除と術後肺癰に対する再手術. 第30回近畿胸腔鏡研究会, 京都, 2014. 3. 15

#### VIII. 3. 12 脳神経外科

1. 木戸口慶司, 松尾和哉, 西原賢在, 巽祥太郎, 武田直也: 脳血管内手術-あんなことこんなこと-. 第28回 Neurosurgery symposium in Harima, 神戸, 2013. 4. 2
2. 木戸口慶司, 原田知明, 西原賢在, 玉木正裕, 武田直也: 線維筋異形成症による内頸動脈狭窄症に対しCASを行った1例. 熱海脳血管内治療セミナー, 熱海, 2013. 4. 8
3. 木戸口慶司, 原田知明, 西原賢在, 玉木正裕, 武田直也: スtentを併用し治療しえた、比較的可成りな脳動脈瘤の2例. 順天堂大学脳血管内治療研究会, 東京, 2013. 5. 27
4. 木戸口慶司, 原田知明, 西原賢在, 玉木正裕, 武田直也: 治療に難渋したテント部硬膜動静脈瘻の1例. 五島列島脳血管内治療カンファレンス, 長崎県五島市, 2013. 9. 14
5. 篠山隆司, 田中一寛, 水川 克, 西原賢在, 溝脇 卓, 甲村英二: 再発中枢神経悪性リンパ腫治療後の予後に関する検討. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013.10.16-18
6. 田中一寛, 篠山隆司, 西原賢在, 水川 克, 甲村英二: 天幕上low-grade glioma患者の予後規定因子について. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013.10.16-18
7. 西原賢在, 武田直也: 脳外科術後の痙攣発作. てんかん研究会, 神戸, 2013. 4. 5
8. 西原賢在, 武田直也: 脳外科術後の痙攣発作に対するレベチラセタムの有効性と忍容性. てんかん治療連携の会, 神戸, 2013. 8. 1
9. Nishihara Masamitsu, Takeda Naoya, Tatsumi Syoutarou, Kidoguchi Keiji, Tamaki Masahiro, Matsuo Kazuya, Harada Tomoaki, Sasayama Takashi, Kohmura Eiji: Evaluation of neuronavigation-guided frameless stereotactic biopsy and frame-based computed tomography-guided stereotactic biopsy. 4th International MASSIN Congress, Kobe, 2013. 9. 4 - 6
10. 西原賢在, 原田知明, 玉木正裕, 木戸口慶司, 武田直也, 篠山隆司, 甲村英二: 頭蓋内病変に対する生検手術の検討. 第72回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2013.10.16-18



11. 西原賢在, 武田直也: 再発膠芽腫に対するギリアデル・アバスチン療法. 第3回東播磨脳神経外科症例検討会, 神戸, 2014. 2. 28
12. 原田知明, 西原賢在, 山口直城, 木戸口慶司, 玉木正裕, 武田直也, 和田裕子, 西村 洋, 橋本公夫: 悪性リンパ腫と鑑別を要した神経Sweet病の一例. 第43回兵庫県脳神経外科医懇話会, 神戸, 2013. 7. 27
13. 原田知明, 木戸口慶司, 玉木正裕, 西原賢在, 武田直也: 頭蓋円蓋部硬膜動静脈瘻 (convexity dural arteriovenous fistula) の1例. 第6回播磨脳神経外科, 神戸, 2013. 7. 27
14. 原田知明, 木戸口慶司, 玉木正裕, 西原賢在, 武田直也: 高血圧性被殻出血と思われた脳動静脈奇形破裂. 第66回脳神経外科学会近畿地方会, 大阪, 2013. 9. 7
15. 松尾和哉, 西原賢在, 原田知明, 木戸口慶司, 玉木正裕, 武田直也, 巽祥太郎, 近藤 威, 今中一文: 治療に難渋した膠芽腫の1例. 東播磨脳神経外科研究会, 神戸, 2013. 2. 9
16. 松尾和哉, 西原賢在, 原田知明, 木戸口慶司, 玉木正裕, 武田直也, 巽祥太郎, 井之口豪, 雲井一夫, 岩田あや, 深谷 隆: 中耳炎に起因した頭蓋内圧亢進症の一例. 第65回脳神経外科学会近畿地方会, 大阪, 2013. 4. 6

#### VIII. 3. 13 整形外科

1. 入江太一, 阿部博男, 安倍吉則, 藤原正利: 寛骨臼後壁骨折後に異所性骨化によって生じた遅発性坐骨神経麻痺の一例. 第39回日本骨折治療学会, 久留米, 2013. 6. 28-29
2. 柴田弘太郎, 高木治樹, 高塚和孝, 高嶋 理, 藤原正利: 腸骨鼠径進入路Kloen変法を用いて整復固定した寛骨臼骨折3例の検討. 第39回日本骨折治療学会, 久留米, 2013. 6. 28-29
3. 高矢憲一, 正本和誉, 関本善啓, 藤原正利: 脛骨ACL付着部骨折の鏡視下手術の限界. 神戸, 2013. 9. 7
4. 中井一成, 藤原正利, 和田山文一郎, 吉田圭二, 関本善啓, 高矢憲一, 藪本浩光: 垂直不安定型骨盤骨折整復固定に対するspinal instrumentationの役割. 第42回脊椎脊髄病学会学術集会, 沖縄, 2013. 4. 25
5. 藤原正利: 骨盤、寛骨臼骨折治療の最近のControversy. 岡山県骨折研究会 (日本整形外科学会教育研修認定), 岡山, 2013. 3. 9
6. Fujiwara M: Hemilateral Lumbo-Iliac Fixation with double pedicle and iliac screws for unstable sacroiliac injuries. 12<sup>th</sup> Congress of AFJO, Kyoto, Japan, 2013. 5. 30-6.1
7. 藤原正利, 吉田圭二, 高矢憲一: 骨盤後方不安定性に対する固定法の変遷とSpinal instrumentationの今後の課題. 第39回日本骨折治療学会, 久留米, 2013. 6. 28-29
8. 藤原正利: 骨折シンポジウム寛骨臼骨折“保存療法と手術療法”. 第40回日本股関節学会, 広島, 2013. 11. 29
9. 藤原正利: 骨盤寛骨臼骨折にまつわるet ceteraとHealing art. 岡山県西部地区整形外科連携の会 (日本整形外科学会教育研修認定), 倉敷, 2013. 12. 6
10. 藤原正利: 骨は生きている - 今からできる骨粗鬆症対策. 兵庫県健康ライフプラザ 土曜健康セミナー, 神戸, 2014. 2. 22

11. 森實一晃, 藤林俊介, 竹本 充, 大槻文悟, 井関雅紀, 松田秀一: 腰椎固定術に合併した仙骨骨折. 第42回脊椎脊髄病学会学術集会, 沖縄, 2013. 4 .26
12. 森實一晃, 根尾昌志, 竹本 充, 井関雅紀, 松田秀一: 上位頸椎アライメントを評価する新指標EA-lineの提案. 第86回日本整形外科学会学術集会, 広島, 2013. 5 .24
13. Morizane K, Takemoto M, Matsuda S, Neo M: A new method for the evaluation of the upper cervical alignment :Proposal of a line connecting the external acoustic meatus and axis. 29<sup>th</sup>annual meeting CSRS-ES, Bordeaux France, 2013. 5 .30
14. 吉田圭二, 藤原正利, 中井一成, 和田山文一郎, 関本善啓, 高矢憲一, 正本和誉, 森實一晃: MIS-THAの術中に大腿動静脈損傷を起こした1例. 兵庫県股関節研究会, 神戸, 2014. 3 . 8

### VIII. 3. 14 産婦人科

1. 伊藤崇博, 小菊 愛, 秦さおり, 酒井理恵, 西尾美穂, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 佐原裕美子, 川北かおり, 竹内康人, 片山和明: 当院での子宮体部明細胞腺癌7例における臨床経過の検討. 第65回日本産科婦人科学会, 札幌, 2013. 5 .10-12
2. 奥杉ひとみ, 片山和明, 竹内康人, 川北かおり, 佐原裕美子, 近田恵里, 西尾美穂, 酒井理恵, 伊藤崇博, 秦さおり, 小菊 愛: 性同一性障害の患者に発生した子宮及び両側付属器摘出後の原発性腹膜癌. 第65回日本産科婦人科学会, 札幌, 2013. 5 .10-12
3. 小菊 愛, 片山和明, 伊藤崇博, 秦さおり, 酒井理恵, 西尾美穂, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 佐原裕美子, 川北かおり, 竹内康人: 過去17年間における分娩症例の年次変化を中心にした統計的解析. 第65回日本産科婦人科学会, 札幌, 2013. 5 .10-12
4. 酒井理恵, 小菊 愛, 西尾美穂, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 佐原裕美子, 川北かおり, 竹内康人, 片山和明: 卵巣原発癌肉腫の2症例. 第87回兵庫県産科婦人科学会, 神戸, 2013. 6 . 9
5. 秦さおり, 竹内康人, 小菊 愛, 伊藤崇博, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 佐原裕美子, 川北かおり, 片山和明: 卵巣原発の大細胞神経内分泌癌の1例. 第65回日本産科婦人科学会, 札幌, 2013. 5 .10-12

### VIII. 3. 15 泌尿器科

1. 伊藤哲之, 土橋一成, 牧野雄樹, 清水洋祐, 金丸聡淳: 腹腔鏡手術における腎血管結紮の際の絹糸による腎血管牽引の有用性について. 第101回日本泌尿器科学会, 札幌, 2013. 4 .26
2. 伊藤哲之: シンポジウム「泌尿器内視鏡手術の理想的な教育法、指導する立場から」泌尿器内視鏡手術の予習、実践、復習の繰り返しができる環境作り. 第27回泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋, 2013.11. 8
3. 伊藤哲之: 進行性腎がんの薬物療法の現状. 西神ファーマシーセミナー, 2014. 2 . 5
4. 金丸聡淳, 土橋一成, 牧野雄樹, 清水洋祐, 伊藤哲之: 経直腸的前立腺生検時の直腸出血に対するエコーブローベカバーを用いた簡便な止血法の有用性の検討. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌市, 2013. 4 .26
5. 金丸聡淳, 土橋一成, 牧野雄樹, 清水洋祐, 伊藤哲之: 経直腸的前立腺生検時の直腸出血に対するエコーブローベカバーを用いた簡便な止血法の有用性の検討. 西神戸泌尿器科カンファレンス, 2013. 7 .11
6. 金丸聡淳, 土橋一成, 牧野雄樹, 清水洋祐, 伊藤哲之: Candida albicansによる気腫性腎盂腎炎の1例. 第24回尿路感染症研究会, ノボテル甲子園, 2013.10. 5

7. 金丸聰淳, 土橋一成, 牧野雄樹, 清水洋祐, 伊藤哲之: 局所進行性前立腺癌のIMRT後に発生した浸潤性膀胱癌に対し腹腔鏡下膀胱全摘術を施行した1例. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋, 2013.11.7
8. 金丸聰淳: パネルディスカッションLRP. ASTRAZENECA PROSTATE CANCER WORKSHOP IN OSAKA, 大阪, 2013.11.23
9. 清水洋祐, 土橋一成, 牧野雄樹, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 術中止血に苦慮した3症例の報告. CSLペーリング研究会, 神戸, 2013.6.8
10. 清水洋祐, 土橋一成, 牧野雄樹, 金丸聰淳, 伊藤哲之: ドセタキセル投与中にドレナージを要する体液貯留を来した前立腺癌の1例. 第44回RCC研究会, 神戸, 2013.6.29
11. 清水洋祐, 土橋一成, 牧野雄樹, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 腹腔鏡下全尿路摘除術の1例. 第27回日本泌尿器内視鏡学会総会, 名古屋, 2013.11.7-9
12. 清水洋祐, 土橋一成, 牧野雄樹, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 西神戸医療センターでのBMAの使用状況及び方針. RMK泌尿器講演会, 神戸, 2013.11.14
13. 清水洋祐, 井上貴博, 神波大己, 吉村耕治, 小川 修: 京都大学におけるPRIAS study以前のActive Surveillance症例の検討. Prostate Cancer Workshop in Oasaka, 大阪, 2013.11.23
14. 土橋一成, 牧野雄樹, 清水洋祐, 金丸聰淳, 伊藤哲之, 井口 亮, 野口哲哉, 佐々木美晴: 女性の膀胱タンポナーデは高齢の膀胱炎患者が多い. 第101回日本泌尿器科学会総会, 札幌, 2013.4.28
15. 土橋一成, 牧野雄樹, 清水洋祐, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 感染性腎嚢胞の1例. 兵庫岡山RCC研究会, 2013.6.29
16. 土橋一成, 牧野雄樹, 清水洋祐, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 当院におけるアフィニトールの使用経験. アフィニトールの会, 2013.7.27
17. 土橋一成: 尿路閉塞. がん総合診療部主催 院内勉強会「がん救急」, 2013.12.4
18. 土橋一成: rhabdoid featureを呈した浸潤性膀胱癌の1例. 第241回泌尿器科マンスリーミーティング, 京都国際ホテル, 2013.12.14
19. 土橋一成, 牧野雄樹, 清水洋祐, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 両側精巣腫瘍の1例. 兵庫岡山RCC研究会, 2014.1.18

### VIII. 3. 16 眼科

1. 三河章子: 目の救急-急性緑内障発作と白内障手術-. 平成25年度(2013)前期土曜健康科学セミナー433回, 神戸, 2013.5.25
2. 三河章子: 2013年の報告~西神戸医療センター眼科の過去・現在・未来~. 第16回西神戸眼科合同カンファレンス, 神戸, 2014.2.6
3. 三輪裕子, 吉田章子, 三河章子: 角膜炎を伴う難治性ぶどう膜炎の角膜厚変化. 第64回京大眼科同窓会学会, 京都, 2013.11.10
4. 三輪裕子: ウイルス性眼疾患. 第16回西神戸眼科合同カンファレンス, 神戸, 2014.2.6

5. 三輪裕子, 吉田章子, 三河章子: 角膜炎を伴う難治性ぶどう膜炎の角膜厚変化. 第33回神戸市立医療センター中央市民病院オープンカンファレンス, 神戸, 2014. 3. 8
6. 吉田章子: Primary angle closure suspectに他の眼疾患を伴うケース. 第16回西神戸眼科合同カンファレンス, 神戸, 2014. 2. 6

#### VIII. 3. 17 耳鼻いんこう科

1. 井之口豪, 小松弘和, 藤田 岳, 堤 奈央, 澤田直樹, 雲井一夫: 乳突蜂巣内を走行するpetrosquamosal sinus. 第23回日本耳科学会総会・学術講演会, 宮崎, 2013.11.24-26
2. 雲井一夫: 耳鼻咽喉科感染症の臨床的検討. 神戸地区耳鼻咽喉科学術講演会, 神戸, 2013. 6. 22
3. 雲井一夫, 藤田 岳, 澤田直樹, 堤 奈央: 扁桃周囲膿瘍55例の臨床的検討. 第175回日耳鼻兵庫県地方部会, 西宮, 2013.12. 1
4. 小嶋康隆: 緊張部型真珠腫-手探りの手術. 第5回神戸耳手術手技研究会, 神戸, 2013.8.28
5. 小嶋康隆, 長谷川信吾, 山下大介, 井之口豪, 柴田智久, 寺菌貴浩, 澤田直樹, 丹生健一: 頭蓋内・中耳・外耳に及ぶ顆粒球肉腫の1例. 第23回日本耳科学会総会・学術講演会, 宮崎, 2013.11.24-26
6. 澤田直樹, 小松弘和, 井之口豪, 堤 奈央, 雲井一夫: Pott's puffy tumor の一例. 第114回日本耳鼻咽喉科総会・学術講演会, 札幌, 2013. 5. 15-18
7. 堤 奈央, 小嶋康隆, 大月直樹, 丹生健一: 環椎に浸潤した右副咽頭間隙腫瘍(SFT)の1例. 第114回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 北海道, 2013. 5. 15-18
8. 堤 奈央, 井之口豪, 澤田直樹, 藤田 岳, 雲井一夫: 急性中耳炎に続発した横静脈洞血栓症の1例. 第174回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸, 2013. 7. 13
9. 堤 奈央, 井之口豪, 澤田直樹, 藤田 岳, 雲井一夫: 急性中耳炎に続発した横静脈洞血栓症の1例. 第23回日本耳科学会総会・学術講演会, 宮崎, 2013.11.24-26
10. 寺菌貴浩, 長谷川信吾, 柴田智久, 小嶋康隆, 井之口豪, 山下大介, 丹生健一: 顔面神経麻痺をきたした耳下部腫脹から耳下腺癌と見間違えられた急性乳様突起炎. 第23回日本耳科学会総会・学術講演会, 宮崎, 2013.11.24-26
11. 長谷川信吾, 山下大介, 井之口豪, 小嶋康隆, 柴田智久, 丹生健一: 当科における顔面神経鞘腫症例の検討. 第23回日本耳科学会総会・学術講演会, 宮崎, 2013.11.24-26
12. 畑 裕子, 堤内亮博, 小嶋康隆, 藤田 岳, 山本沙織, 松本 有, 宇野真莉子, 桑内麻也子, 一瀬和美, 奥野妙子: 耳かきによる外傷性耳小骨離断の陳旧例2症例. 第23回日本耳科学会総会・学術講演会, 宮崎, 2013.11.24-26
13. 藤田 岳, 奥野妙子, 宇野真莉子, 堤内亮博, 畑 裕子, 栗田宣彦: 当院18年間の中耳奇形症例についての検討. 第114回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 札幌, 2013.5.6-18
14. 藤田 岳, 山下大介: 高脂肪食投与マウスの聴覚機能と蝸牛形態. 第7回内耳研究会, 京都, 2013. 8. 10

15. 藤田 岳：耳管開放のある真珠腫症例：この先どうすれば. 第5回神戸耳手術手技研究会, 神戸, 2013. 8. 28
16. Fujita T, Yamashita D, Hasegawa S, Katsunuma S, Tanimoto H, Nibu K : Hearing impairments in diet-induced obesity in mice. 50<sup>th</sup> Inner Ear Biology Workshop, Alcalá de Henares, Madrid, Spain, 2013. 9. 10-13
17. 藤田 岳, 山下大介, 小嶋康隆, 井之口豪, 長谷川信吾, 丹生健一：高脂肪食投与マウスにおける聴覚機能および内耳形態の検討. 第23回日本耳科学会総会・学術講演会, 宮崎, 2013. 11. 24-26
18. Fujita T, Yamashita D, Hasegawa S, Nibu K : High-Fat Diets Delay the Progression of Age-Related Hearing Loss in C57BL/6J Mice. 37th ARO Midwinter Meeting, San Diego, CA, U.S.A, 2014. 2. 22-23

### VIII. 3. 18 麻酔科

1. 荒木 歩, 田中 修, 伊地智和子, 飯島克博, 西山由希子, 山崎倫子, 本田真子, 横江 明：デスフルランとプロポフォールの覚醒の質における検討. 日本臨床麻酔学会第33回大会, 金沢, 2013. 11. 2
2. 西山由希子, 横江 明, 山崎倫子, 荒木 歩, 繁田麻里, 長井友紀子：産婦人科手術における術前アルギニン滋養飲料が胃内容液と患者満足度に与える影響. 日本麻酔科学会第60回学術集会, 札幌, 2013. 5. 24
3. 本田真子：巨大胎児頸部奇形腫に対してEXITを行った一症例. 日本臨床麻酔学会第33回大会, 金沢, 2013. 11. 1
4. 山崎倫子, 横江 明, 荒木 歩, 本田真子, 西山由希子, 飯島克博, 伊地智和子, 田中 修：後腹膜鏡下前立腺全摘術において著明な頸部腫脹をきたした2症例. 日本臨床麻酔学会第33回大会, 金沢, 2013. 11. 2
5. 山崎倫子, 荒木 歩, 西山由希子, 飯島克博, 伊地智和子, 田中 修：喘息治療中のpermissive hypercapniaにより脳浮腫をきたした一例. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014. 2. 27

### VIII. 3. 19 歯科口腔外科

1. 岩城 太, 片山麻梨子, 朴 成泰：下顎筋突起切除による顎関節授動術を行った両側陳旧性頬骨骨折の1例. 第44回日本口腔外科学会近畿支部学術集会, 神戸, 2013. 6. 29
2. 岩城 太, 大西正信, 片山麻梨子, 長野紀也：歯性感染により発症した深頸部膿瘍症例の臨床的検討. 第58回日本口腔外科学会総会, 福岡, 2013. 10. 11-13

### VIII. 3. 20 放射線科

1. 今中一文：がん総合診療部開設にあたって. 西神戸医療センター「がん総合診療部」開設記念講演会, 神戸, 2013. 9. 5
2. 桑田陽一郎, 隅野靖彬, 吉川俊紀, 北村ゆり, 今中一文, 安達神奈：下大静脈フィルターの脚が十二指腸に穿通した1例. 第12回神戸・兵庫アンギオIVR勉強会, 神戸, 2013. 7. 12
3. 隅野靖彬, 吉川俊紀, 北村ゆり, 桑田陽一郎, 今中一文：後腹膜脂肪肉腫の1例. 第29回播淡画像診断研究会, 明石, 2013. 8. 22
4. 隅野靖彬, 吉川俊紀, 北村ゆり, 桑田陽一郎, 今中一文：停留睾丸から発生したseminomaの1例. 第29回播淡画像診断研究会, 明石, 2014. 1. 16

### VIII. 3. 21 看護部

1. 今田まさよ：終末期看護に関わる看護師の感情～透析中止となった予後不良の患者の看護を振り返って～. 第24回日本サイコネスコロジー研究会, 宮崎, 2013. 5 .18-19
2. 今田まさよ：終末期看護の方向性. 第16回日本腎不全看護学会学術集会, 横浜, 2013.11.16-17
3. 小西千枝：コンセンサスシンポジウムABCD-Stoma<sup>®</sup>スタンダードケアの紹介. 第22回日本創傷オストミー失禁管理学会学術集会, 宮崎, 2013. 5 .24-25
4. 小柳淳子, 岡川仁子, 北脇加奈, 藤本晃代：看護補助者と取り組むチーム作り～看護補助者チームを導入して～. 平成25年固定チームナーシング全国研究集会, 神戸, 2013.10. 6
5. 櫻井三希子, 小西千枝, 佐藤琴美：当院における回腸導管造設後に生じるストーマ周囲陥凹の経過的变化. 第31回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 仙台, 2014. 2 .21-22
6. 佐藤琴美, 櫻井三希子, 小西千枝：骨髄異形成症候群で両側尿管皮膚ろうの装具貼布部に複数の潰瘍形成を認めた一症例. 第31回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 仙台, 2014. 2 .21-22
7. 佐野智子：内服困難な児への支援～アドヒアランスの低い若年シングルマザーへの関わりを通して～. 第11回近畿小児結核症例検討会, 大阪, 2014. 2 . 8
8. 瀧澤紘輝：救急病棟の看護って？～西神戸医療センター救急病棟～. 第13回クリティカルケア看護学会, 神戸, 2013. 6 . 8
9. 服部兼敏, 東山弥生：看護師が用いるオノマトペ. 人工知能学会全国大会, 富山, 2013. 6 . 6

### VIII. 3. 22 薬剤部

1. 奥野昌宏, 高柳信子, 久保嘉靖, 山崎貴之, 三浦恵理, 中田 学：摂食障害患児や親に対する薬剤指導. 第23回日本医療薬学会年会, 仙台, 2013. 9 .21-22
2. 奥野昌宏, 河村麻美子, 上月 遥, 石川慎一, 大谷恭平, 磯部昌憲, 高宮静男：小児摂食障害チーム医療の中での薬剤師の役割. 第54回日本児童青年精神医学会総会, 札幌, 2013.10.10-12
3. 奥野昌宏, 石原温子, 上月 遥, 太田黒静香, 森田真紀, 川添文子：こどものANに対するチーム医療. 第17回日本摂食障害学会・学術集会, 神戸, 2013.11. 2-3
4. 奥野昌宏：西神戸医療センターの結核病棟における薬剤指導について～恐るべしリファジンの相互作用～. 薬局DOTS研修会, 神戸, 2014. 1 .30
5. 奥野昌宏, 高柳信子, 久保嘉靖, 原田卓弥, 山崎彬史, 山崎貴之, 三浦恵理, 中田 学, 河村麻美子, 上月 遥, 石川慎一, 大谷恭平, 高宮静男, 磯部昌憲：小児摂食障害チーム医療の中での薬剤師の役割～22名の患児からの薬剤師への薬に対する質問を通して～. 第35回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 京都, 2014. 2 . 1-2
6. 奥野昌宏, 高柳信子, 久保嘉靖, 中田 学：薬剤師外来の新たな展開～外来診察を医師と共に行う薬剤師外来の運用について～. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2014, 幕張, 2014. 3 .21-22
7. 久保嘉靖, 奥野昌宏, 中田 学：感染性心内膜炎患者へ薬学的介入を行った1症例～VCM、GM、TEICのTDMを通しての処方設計提案～. 第23回日本医療薬学会年会, 仙台, 2013. 9 .21-22

8. 高柳信子, 山崎彬史, 山崎貴之, 三浦恵理, 久保嘉靖, 奥野昌宏, 中田 学, 浅野 仁, 高蓋寿朗: 抗癌剤治療患者の外来で医師の診察に同席する薬剤師の役割 (外来診察室・病棟・調剤室における処方提案を通して). 第23回日本医療薬学会年会, 仙台, 2013. 9 .21-22
9. 高柳信子, 久保嘉靖, 奥野昌宏, 原田卓弥, 山崎彬史, 山崎貴之, 三浦恵理, 中田 学, 浅野 仁, 高蓋寿朗: 抗癌剤治療患者の外来で医師の診察に同席する薬剤師の役割 (調剤室・病棟・外来診察室における処方提案を通して). 第35回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 京都, 2014. 2 . 1 - 2
10. 高柳信子, 久保嘉靖, 奥野昌宏, 中田 学, 浅野 仁, 新里偉咲: 薬剤師から医師への処方提案による抗がん剤リスクマネジメント～外来診察室と病棟と調剤室の提案内容を比較して～. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2014, 幕張, 2014. 3 .21-22
11. 山崎貴之, 山本 剛, 熊木まゆ子, 立溝江三子, 仁紙宏之: 抗緑膿菌作用を有する抗菌薬の使用動向及び緑膿菌の薬剤感受性調査. 第29回日本環境感染学会総会・学術集会, 高輪, 2014.2.14-15

### VIII. 3. 23 臨床検査技術部

1. 粟田千絵, 西田 稔, 清水理絵, 毛利衣子, 真鍋美香, 石原美佐, 勝山栄治, 橋本公夫: ラブドイド形質を伴う尿路上皮癌の1例. 第52回日本臨床細胞学会秋期大会, 大阪, 2013.11. 2 - 3
2. 大石悠香, 内田浩也, 井谷智尚, 他: 体外式超音波検査で描出しえた臍胆管合流異常の一例. 日本超音波医学会第40回関西地方会学術集会, 大阪, 2013.11. 9
3. 河月 稔, 毛利衣子: 直接抗グロブリン試験陽性時の輸血効果. 第21回兵庫県医学検査学会, 加古川, 2013. 6 .30
4. 河月 稔: 不規則抗体の症例紹介. 平成25年度兵庫県臨床検査技師会輸血部門研修会, 神戸, 2013. 8 .31
5. 河月 稔, 毛利衣子: 輸血管理システム、交差適合試験不適合を契機に発覚した自己免疫性溶血性貧血の1例. 第53回日臨技近畿支部医学検査学会, 福井, 2013.10.19-20
6. 滝井万佑子, 田中桃子, 山本 剛: 当院で2010年以降に発生した小児の侵襲性肺炎球菌感染症 (IPD) の検討. 第53回日臨技近畿支部医学検査学会, 福井, 2013.10.19-20
7. 滝井万佑子, 田中桃子, 山本 剛: 当院で2010年以降に発生した小児の侵襲性肺炎球菌感染症 (IPD) の検討. 第25回日本臨床微生物学会総会, 名古屋, 2014. 2 . 1 - 2
8. 田中桃子, 滝井万佑子, 山本 剛: グラム染色により診断できた渡航歴の無いジアルジア症の二症例. 第53回日臨技近畿支部医学検査学会, 福井, 2013.10.19-20
9. 田中桃子, 滝井万佑子, 山本 剛: GENECUBE法を用いたペロ毒素の検出について. 第25回日本臨床微生物学会総会, 名古屋, 2014. 2 . 1 - 2
10. 戸田進也, 内田浩也, 島田友香里, 他: 腹部エコーが有用であったSolid-Pseudopapillary Neoplasmの一例. 日本超音波医学会第40回関西地方会学術集会, 大阪, 2013.11. 9
11. 真鍋美香, 奥野敏隆, 登尾 薫, 他: Intraductal papilloma with DCISの2例. 第31回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 神戸, 2013. 9 .22-23

12. 毛利衣子, 河月 稔: 輸血管理システム, 自動輸血検査装置を使用した赤血球製剤血液型確認試験の運用. 第53回日臨技近畿支部医学検査学会, 福井, 2013.10.19-20
13. 山本 剛, 滝井万佑子, 田中桃子: 血液培養で5日を超えて培養して発育した菌の臨床的意義について. 第53回日臨技近畿支部医学検査学会, 福井, 2013.10.19-20
14. 山本 剛: グラム染色の匠よりの提言-菌も病気を染め分けろ-. 平成25年度日臨技中四国支部医学検査学会シンポジウム, 広島, 2013.11.9-10
15. 山本 剛: 顕微鏡検査でどこまで診断が可能か~グラム染色の限界に挑む~. 臨床病理 61:729-734, 2013
16. 山本 剛, 滝井万佑子, 長谷朋子: インフルエンザの迅速診断キット利点・欠点. 感染症内科 6:593-598, 2013
17. 山本 剛, 滝井万佑子, 田中桃子: 血液培養からProteusが検出された20例の臨床検討. 第25回日本臨床微生物学会総会, 名古屋, 2014.2.1-2
18. 山本 剛, 熊木まゆ子, 立溝江三子, 山崎貴之, 仁紙宏之: 当院における2012年度結核患者の検出状況および感染防止対策について. 第29回日本環境感染学会総会, 東京, 2014.2.14-15
19. 山本 剛: MRSAの結果報告時に考えること. 日本薬学会134年会シンポジウム, 熊本, 2014.3.29-31

#### VIII. 3. 24 放射線技術部

1. 島田隆史, 寺田晃子, 伊藤崇晃, 高橋朋子, 小形朋子, 吉原宣幸, 城野浩子, 久保 博: 肝線維化が門脈優位相の造影効果に及ぼす影響について. 日本放射線技術学会第41回秋季学術大会, 福岡, 2013.10.17
2. 鈴木順一, 山之内真也, 岩元幸雄: <sup>123</sup>I-MIBGにおける心縦隔比、洗出し率の装置間差について-ファントムと臨床例の比較-. 日本放射線技術学会第69回総会学術大会, 横浜, 2013.4.12
3. 高橋朋子, 森方大智, 中島正量, 吉原宣幸, 久保 博: PCI時のバルーン内濃度の違いがインデフレーションに与える影響. 平成25年度神戸市放射線技師会研修会, 神戸, 2013.11.9
4. 中元勝利, 末安朋雄, 城野浩子, 久保 博: 当院のIGRTが前立腺IMRTの治療計画に及ぼす影響について. 日本放射線技術学会第41回秋季学術大会, 福岡, 2013.10.16
5. 橋本強志, 好井あかね, 森 克人, 竹本幸志, 城野浩子, 久保 博: HASTEでの再収束フリップ角と画質の関係についての基礎的検討. 日本放射線技術学会第41回秋季学術大会, 福岡, 2013.10.16
6. 森方大智, 島田隆史, 久保 博: 移動型FPDにおけるポータブル撮影についての検討~ROC解析を用いた視覚的評価~. 平成25年度神戸市放射線技師会研修会, 神戸, 2013.11.9
7. 山之内真也, 鈴木順一, 久保 博: 脳血流量検査における視野外線源の影響について-脳ファントムによる検討-. 日本核医学技術学会第33回総会学術大会, 福岡, 2013.11.8

#### VIII. 3. 25 リハビリテーション技術部

1. 前川圭子: 音声障害の診断から治療へ: 音声治療の考え方と基本手技. 第58回日本音声言語医学会ポストコングレスセミナー, 高知市, 2013.10.19



2. 前川圭子：小児の構音障害について．神戸市通級指導教室 専門研修，神戸市，2013.12.12
3. 松田美穂，前川圭子，雲井一夫：声帯隆起性病変消失後も続く嗄声に対する音声治療．第58回日本音声言語医学会総会・学術講演会，高知市，2013.10.18

### VIII. 3. 26 臨床工学室

1. 井上宗紀：看護必要度を用いた新たな医療機器稼働率算出方法の検討．第20回近畿臨床工学会，奈良，2013.11.23
2. 加藤博史：CE志望者拡大委員会からの報告WS．第23回日本臨床工学会，山形，2013. 5 .18
3. 加藤博史：職場管理者に求められるスキルアップWS．第23回日本臨床工学会，山形，2013. 5 .18
4. 加藤博史：組織力向上への取り組みWS．第20回近畿臨床工学会，奈良，2013.11.24
5. 越村之貴：内視鏡外科における臨床工学技士の役割．第26回日本内視鏡外科学会総会，福岡，2013.11.29
6. 藤井清孝：医療機器安全管理情報共有支援システムのユーザフレンドリーな登録機能に関する研究．第88回日本医療機器学会大会，神奈川，2013. 6 . 7
7. 藤井清孝：医療機器の安全管理と適正使用に役立つ情報共有の研究 第3報．第42回日本医療福祉設備学会，東京，2013.10.23
8. 藤井清孝：医療機器の安全管理と適正使用に役立つ情報共有支援システム．第33回医療情報学連合会，兵庫，2013.11.24

### VIII. 3. 27 栄養管理室

1. 尾鼻俊弥，船越泰子，大音和重，奥野昌弘，鷲尾麻紀子，柳原千枝，佐々木綾香，井谷智尚，高宮静男，京極高久：多職種連携の下、NST紹介状を作成するための当院の工夫．第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会，横浜，2014. 2 .27
2. 島村康弘，石川慎一，佐野智子，鈴木愛瑠，川口晃司，川崎 悠，岩田あや，石原温子，河村麻美子，上月 遥，大谷恭平，仁紙宏之，松原康策，深谷 隆，高宮静男：神経性無食欲症における摂取エネルギー量と体重増加との関係 報告2．第17回日本摂食障害学会学術集会，兵庫，2013.11. 2
3. 寺園沙矢香，小林加奈，島村康弘，尾鼻俊弥，中林瑞保，船越泰子，岩田あや，仁紙宏之：難治性てんかんの男児に対するケトン食の取り組み．第17回日本病態栄養学会，大阪，2014. 1 .12

## VIII. 4 先端医療センター

### VIII. 4. 1 総合腫瘍科

1. Keisuke Aoe, Naoko Sueoka-Aragane, Nobuyuki Katakami, Miyako Satouchi, Soichiro Yokota, Kentaro Iwanaga, Shinya Kimura, Shunichi Negoro : Monitoring EGFR T790M with plasma DNA in lung cancer patients treated with EGFR tyrosine kinase inhibitor in prospective observational study. 15th World Conference on Lung Cancer, Sydney, Australia, 2013.10.27-31
2. S.Atagi, Y.Takeda, Y.Tomizawa, S.Kudoh, M.Harada, T.Hida, T.Tamura, H.Fukuda, T.Shibata, S.Ishikura, K.Mori, N.Nogami, K.Nakagawa, T.Sawa, N.Katakami, A.Yokoyama, T.akahashi, K.Takeda, H.Semba, Y.Ohe, H.Okamoto : Thoracic Radiotherapy With or Without Concurrent Daily Low-Dose Carboplatin in Elderly Patients With Locally Advanced Non-small Cell Lung Cancer: Updated Results of the JCOG0301 and Pooled Analysis With the JCOG9812 Trial. 15th World Conference on Lung Cancer, Sydney, Australia, 2013.10.27-31
3. Inoue A, Katakami N, Atagi S, Goto K, Hida T, Horai T, Seki Y, Sarashina A, Ebisawa R, Shahidi M, Yamamoto N : Individualized dose adjustments facilitate continuous treatment with afatinib, allowing patients (pts) with advanced NSCLC previously treated with chemotherapy and erlotinib or gefitinib to maintain clinical benefit. European Cancer Congress, Amsterdam, Netherlands, 2013. 9 .27-10. 1
4. 片上信之 : 次世代EGFR-TKIs. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 仙台, 2013. 8 .29-31
5. Toshihiko Kaneda, Akito Hata, Kosuke Tanaka, Reiko Kaji, Shiro Fujita, Hiromi Tomioka, Keisuke Tomii, Nobuyuki Katakami : Differential efficacy of EGFR-TKI according to variants of exon 19 deletional mutation in non-small cell lung cancer. 15th World Conference on Lung Cancer, Sydney, Australia, 2013.10.27-31
6. 川村卓久, 片上信之, 加藤了資, 清水亮子, 大歳丈博, 藤本大智, 玉井浩二, 松本 健, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 大塚浩二郎, 竹下純平, 秦 明登, 加地玲子, 真砂勝泰, 藤田史郎, 富井啓介 : 非小細胞肺癌 (NSCLC) に対するペメトレキセド (PEM) 単剤長期投与例の検討. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 2013.11.21-22
7. Takahisa Kawamura, Akito Hata, Takehiro Otoshi, Daichi Fujimoto, Koji Tamai, Jumpei Takeshita, Takeshi Matsumoto, Kazuya Monden, Kazuma Nagata, Kyoko Otsuka, Atsushi Nakagawa, Ryo Tachikawa, Kojiro Otsuka, Reiko Kaji, Shiro Fujita, Nobuyuki Katakami, Keisuke Tomii : High-dose erlotinib for refractory leptomeningeal metastases (LM) after failure of standard dose EGFR-TKIs. J Clin Oncol 31 (suppl; abstr 8098), 2013
8. Kishi T, Kokubo M, Shintani T, Uto M, Kosaka Y, Takayama K, Tomii K, Katakami N, Hiraoka M : Definitive concurrent chemoradiotherapy for patients over 75 years old with locally advanced non-small-cell lung cancer. European Cancer Congress, Amsterdam, Netherlands, 2013. 9 .27-10. 1
9. Masaki Kokubo, Takahiro Kishi, Megumi Uto, Takashi Shintani, Nami Ueki, Shiro Fujita, Reiko Kaji, Akito Hata, Kenji Takayama, Nobuyuki Katakami : Feasibility of stereotactic body radiation therapy with concurrent chemotherapy for patients over 75 years old with Stage I non-small-cell lung cancer. 15th World Conference on Lung Cancer, Sydney, Australia, 2013.10.27-31
10. 小久保雅樹, 松尾幸憲, 植木奈美, 藤田史郎, 高山賢二, 片上信之, 平岡真寛 : Vero4DRTを用いた導体追跡肺定位放射線治療の初期臨床経験. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 2013.11.21-22

11. Yasuhiro Kosaka, Masaki Kokubo, Kenji Takayama, Nobuyuki Katakami : Patterns of failure after stereotactic body radiotherapy for histologically proven stage I non-small-cell lung cancer. European Cancer Congress, Amsterdam, Netherlands, 2013. 9 .27 – 10. 1
12. M.Satouchi, T.Hida, M.Fukuoka, H.Semba, K.Tamura, S.Morita, Y.Tanio, S.Yokota, T.Seto, I.Okamoto, H.Yoshioka, N.Yamamoto, K.Nakagawa, K.Takeda, T.Nakano, H.Saito, N.Katakami : Phase III trial comparing carboplatin/S-1 to carboplatin/paclitaxel in treatment-naïve patients with advanced non-small cell lung cancer (NSCLC) : subgroup analysis and updated results of the LETS study (WJTOG3605). 15th World Conference on Lung Cancer, Sydney, Australia, 2013.10.27 – 31
13. 竹下純平, 片上信之, 田中広祐, 秦 明登, 加地玲子, 藤田史郎 : 肺腺癌のEGFR-TKI既治療例に対するEGFR-TKI+bevacizumab治療の成績. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2013. 4 .19 – 21
14. 竹下純平, 秦 明登, 加地玲子, 真砂勝泰, 藤田史郎, 片上信之, 高山賢二, 小久保雅樹 : 当院における動体追尾肺定位放射線治療を実施した6例に関する検討. 第98回日本肺癌学会関西支部会, 大阪, 2013. 7 .27
15. Takeshita J, Katakami N, Hata A, Kaji R, Masago K, Fujita S : Computed tomography-guided needle aspiration and biopsy of pulmonary lesions: a single-center experience on 750 biopsies in Japan. 15th World Conference on Lung Cancer, Sydney, Australia, 2013.10.27 – 31
16. 竹下純平, 秦 明登, 加地玲子, 真砂勝泰, 藤田史郎, 片上信之 : 当院におけるCTガイド下生検 (CTGB) の診断率と安全性の検討. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 2013.11.21 – 22
17. K.Takeda, T.Tamura, K.Nakagawa, Y.Fujita, I.Goto, T.Kato, M.Ando, K.Kudoh, J.Mizusawa, A.Yokoyama, T.Abe, F.Oshita, Y.Ohe, S.Kudoh, N.Katakami, S.Nakamura, Y.Ichinose, T.Shibata : Randomized phase III trial comparing weekly docetaxel (DTX) and cisplatin (CDDP) combination (DP) with tri-weekly DTX alone in elderly patients with advanced non-small cell lung cancer (NSCLC) : Results of an intergroup trial of JCOG0803/WJOG4307L. 15th World Conference on Lung Cancer, Sydney, Australia, 2013.10.27 – 31
18. Hirohito Tada, Yasuo Iwamoto, Kazuto Nishio, Takeharu Yamanaka, Tetsuya Mitsudomi, Hiroshige Yoshioka, Masahiro Yoshimura, Ichiro Yoshino, Masayuki Takeda, Shunichi Sugawara, Shinzoh Kudoh, Toshiaki Takahashi, Mitsunori Ohta, Yukito Ichinose, Shinji Atagi, Morihito Okada, Hideo Saka, Shuichi Tsukamoto, Kohei Yokoi, Nobuyuki Katakami, Kazuhiko Nakagawa, Yoichi Nakanishi : Update data of biomarker analysis of WJOG4107 (A randomized phase II trial of adjuvant chemotherapy with S-1 versus CDDP+S-1 for resected stage II-IIIa non-small cell lung cancer (NSCLC)). 15th World Conference on Lung Cancer, Sydney, Australia, 2013.10.27 – 31
19. 田中広祐, 秦 明登, 加地玲子, 藤田史郎, 片上信之 : EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌のCNS病変に対するGefitinib PD後のerlotinibの有効性. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 仙台, 2013. 8 .29 – 31
20. Tanaka K, Hata A, Takeshita J, Kaji R, Fujita S, Kokubo M, Katakami N : EGFR-TKI re-challenge with erlotinib after gefitinib for central nervous system metastases of EGFR mutated NSCLC. European Cancer Congress, Amsterdam, Netherlands, 2013. 9 .27 – 10. 1
21. 田中広祐, 小栗知世, 朴 将哲, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 吉田公秀, 樋田豊明, 矢田部恭, 古平 毅, 片上信之, 高山賢二, 小久保雅樹 : ALK, EGFR遺伝子変異陽性肺腺癌 (手術不能3期) における根治的放射線化学療法の有効性. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 2013.11.21 – 22

22. 谷岡真樹, 北尾章人, 松本光史, 柴田直子, 山口 聡, 藤原 潔, 南 博信, 片上信之, 森田智視, 根來俊一: 中等度催吐性化学療法を受ける嘔気高リスク患者でのアプレピタント: プラセボ対照無作為化第II相試験 (阪神がん研究グループ). 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 仙台, 2013. 8 .29-31
23. 西村尚志, 砂留広伸, 服部剛弘, 里内美弥子, 片上信之, 藤田史郎, 横田総一郎, 難波良信, 今村文生, 西野和美, 立原素子, 森田智視, 根來俊一: EGFR-TKI憎悪後EGFR変異陽性non-Sq-NSCLCに対するCBDCA+PTX+BEV併用の第2相試験 (阪神がん研究グループ0109). 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 2013.11.21-22
24. 秦 明登: 獲得耐性後に検出されたT790Mが一定期間後に消失し、gefitinib再投与が奏効したEGFR遺伝子変異陽性肺腺癌の一例. 第53回日本呼吸器学会, 東京, 2013. 4 .19-21
25. 秦 明登, 藤田史郎, 片上信之, 増田義雄, 岡田 裕, 蓬萊亜矢, 高取健人, 北嶋直人, 白井裕子, 三船祐佳: 化学療法起因性の難治性嘔吐に対するプロゲステロン製剤 (ヒスロンH®) の有効性の検討. 第18回日本緩和医療学会, 横浜, 2013. 6 .21-22
26. 秦 明登, 竹下純平, 加地玲子, 真砂勝泰, 藤田史郎, 片上信之: 獲得耐性後に検出されたT790Mが一定期間後に消失し、gefitinib再投与が奏効したEGFR遺伝子変異陽性肺腺癌の一例. 第98回日本肺癌学会関西支部会, 大阪, 2013. 7 .27
27. 秦 明登, 片上信之, 吉岡弘鎮, 加地玲子, 藤田史郎, 富井啓介, 石田 直: Prognostic impact of central nervous system metastases and T790M status after Acquired resistance to EGFR-TKI. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 仙台, 2013. 8 .29-31
28. Hata A, Katakami N, Yoshioka H, Fujita S, Kaji R, Nagata K, Tachikawa R, Tomii K, Iwasaku M, Ishida T: Prognostic impact of central nervous system (CNS) metastases associated with T790M status after acquired resistance to EGFR-TKI. European Cancer Congress, Amsterdam, Netherlands, 2013. 9 .27-10. 1
29. 秦 明登, 片上信之, 吉岡弘鎮, 富井啓介, 石田 直: EGFR-TKI獲得耐性後における中枢神経転移およびT790Mと予後の関連. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 2013.11.21-22
30. 藤田史郎, 竹下純平, 田中広祐, 秦 明登, 加地玲子, 高山賢二, 小久保雅樹, 片上信之: Multiple primary malignancies in Japanese patients with non-small cell lung cancer. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会, 仙台, 2013. 8 .29-31
31. 藤田史郎, 竹下純平, 田中広祐, 秦 明登, 加地玲子, 高山賢二, 小久保雅樹, 片上信之: Multiple primary malignancies in Japanese patients with non-small cell lung cancer. ERSANNUAL CONGRESS, BARCELONA, Spain, 2013. 9 . 7 -11
32. 藤田史郎, 加藤了資, 高島健司, 竹下純平, 秦 明登, 加地玲子, 真砂勝泰, 小久保雅樹, 片上信之: 非小細胞肺癌症例における多重がんの検討. 第54回日本肺癌学会総会, 東京, 2013.11.21-22
33. M.Maemondo, H.Yoshioka, T.Kozuki, T.Tamura, T.Seto, N.Ohishi, T.Hida, K.Chikamori, M.Nishio, N.Yamamoto, N.Katakami: Variability of epidermal growth factor receptor (EGFR) mutations in serum during erlotinib therapy and its clinical implications: exploratory analysis of a phase II study of erlotinib in patients with advanced non-small-cell lung cancer (NSCLC) harboring EGFR mutations. 15th World Conference on Lung Cancer, Sydney, Australia, 2013.10.27-31

34. 松本 健, 大歳丈博, 藤本大智, 川村卓久, 玉井浩二, 竹下純平, 田中広祐, 門田和也, 永田一真, 大塚今日子, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 富井啓介, 藤田史郎, 片上信之: 気管支鏡検査時の鎮静薬投与方法の違いによる患者満足度の検討. 第36回日本呼吸器内視鏡学会, 埼玉, 2013. 6 .20-21
35. Tetsuya Mitsudomi, Yasuo Iwamoto, Kazuto Nishio, Takeharu Yamanaka, Hiroshige Yoshioka, Hirohito Tada, Masahiro Yoshimura, Ichiro Yoshino, Isamu Okamoto, Shunichi Sugawara, Shinzoh Kudoh, Nobuyuki Yamamoto, Mitsunori Ohta, Yukito Ichinose, Shinji Atagi, Morihito Okada, Hideo Saka, Nobuyuki Katakami, Kazuhiko Nakagawa, Yoichi Nakanishi: Biomarker analysis of WJOG4107, a randomized phase II trial of adjuvant chemotherapy with S-1 versus CDDP+S-1 for resected stage II-IIIa non-small cell lung cancer (NSCLC). West Japan Oncology Group; J Clin Oncol 31 (suppl; abstr 7518), 2013

#### VIII. 4. 2 血管再生科

1. 大森麻美子, 小谷晋平, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹, 木下 慎, 藤田靖之, 川本篤彦: 慢性重症下肢虚血に対する血管再生治療. 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 名古屋, 2013.11. 2 - 3
2. 川上洋平, 伊井正明, 松本知之, 川本篤彦, 庄司太郎, 美船 泰, 福井友章, 黒田良祐, 浅原孝之, 黒坂昌弘: 体外培養増幅ヒト骨髓由来CD34陽性細胞を用いた難治性骨折に対する新規治療法の開発. 第86回日本整形外科学会学術総会, 広島, 2013. 5 .23-26
3. 川上洋平, 黒田知也, 松本知之, 伊井正明, 川本篤彦, 美船 泰, 庄司太郎, 福井友章, 黒田良祐, 浅原孝之, 黒坂昌弘: 血管内皮細胞におけるSDF-1/CXCR4シグナルは骨折治癒過程で血管・骨新生を制御する. 第86回日本整形外科学会学術総会, 広島, 2013. 5 .23-26
4. 川上洋平, 伊井正明, 松本知之, 川本篤彦, 美船 泰, 庄司太郎, 福井友章, 秋丸裕司, 黒田良祐, 浅原孝之, 黒坂昌弘: 細胞内アダプター蛋白Lnkの局所制御による早期の血管新生を通じた骨折治癒促進の可能性. 第86回日本整形外科学会学術総会, 広島, 2013. 5 .23-26
5. 川本篤彦: パネルディスカッション1 CLIに対する治療の対策と限界 既存治療抵抗性の慢性重症下肢虚血患者に対する下肢血管再生治療の薬事開発. 第54回日本脈管学会総会, 東京, 2013.10.10
6. 川本篤彦: スポンサーディンポジウム CLI患者の生存率と救肢率の較差をいかに縮めるか 再生医療の立場から. 第10回日本フットケア学会鎌倉セミナー, 鎌倉, 2013.10.12
7. 川本篤彦: シンポジウム1 先端医療はどこまで進んだか 慢性重症下肢虚血患者の救肢・救命を目指した下肢血管再生治療の開発. 第27回日本臨床内科医学会, 神戸, 2013.10.13
8. 馬場理江, 川本篤彦, 金子祐一郎: 下肢生理学的検査による血管再生治療の有効性評価 創傷治癒例と非治癒例の比較. 第54回日本脈管学会総会, 東京, 2013.10.11
9. Fujita Y, Kinoshita M, Furukawa Y, Nagano T, Fukushima M, Nada A, Losordo DW, Asahara T, Okita Y, Kawamoto A: A phase II clinical trial of G-CSF mobilized CD34+ cell therapy to explore endpoint selection and timing in no-option patients with critical limb ischemia. Stem Cells in Translation, Regional Forum Series 2013, Florence, Italy, 2013. 9 .15-18
10. 松本知之, 新倉隆宏, 川上洋平, 福井友章, 美船 泰, 李 相亮, 川本篤彦, 黒坂昌弘, 浅原孝之, 黒田良祐: シンポジウム8 骨関節の再生医療の現状と展望 偽関節患者を対象とした、自家末梢血CD34陽性細胞を用いた骨・血管再生治療に関する第I・II相臨床試験. 第28回日本整形外科学会基礎学術集会, 千葉, 2013.10.18

#### VIII. 4. 3 耳鼻いんこう科

1. 金沢佑治, 篠原尚吾, 菊地正弘, 藤原敬三, 山崎博司, 十名理紗, 岸本逸平, 原田博之, 角谷 聡, 宇佐美悠, 今井幸弘, 内藤 泰: 頭頸部に対する放射線照射領域内に発生した二次癌症例の検討. 第114回日本耳鼻咽喉科学会, 札幌市, 2013. 5 .15-18
2. 菊地正弘, 子安 翔, 篠原尚吾, 宇佐美悠, 今井幸弘, 十名理紗, 藤原敬三, 山崎博司, 金沢佑治, 岸本逸平, 原田博之, 内藤 泰: 中咽頭癌における治療前FDG-PET検査の有用性. 第37回日本頭頸部癌学会, 東京, 2013. 6 .13-14
3. Kishimoto I, Yamazaki H, Shinohara S, Fujiwara K, Kikuchi M, Naito Y: Etiology of 16 cases with rapidly progressive bilateral sensorineural hearing loss. 20th IFOS World Congress, Seoul, Korea, 2013. 6 . 1 - 5
4. 岸本逸平, 篠原尚吾, 藤原敬三, 十名理紗, 諸頭三郎, 山本輪子, 宇佐美真一, 吉村豪兼, 内藤 泰: 当科におけるUsher症候群例、難聴遺伝子検査の検討. 第58回日本聴覚医学会, 松本市, 2013.10.24-25
5. 岸本逸平, 篠原尚吾, 藤原敬三, 菊地正弘, 十名理紗, 金沢佑治, 原田博之, 内藤 泰: common cavity症例における拡大内耳開窓による人工内耳術後の前庭機能評価. 第23回日本耳科学会, 宮崎市, 2013.11.24-26
6. 岸本逸平, 篠原尚吾, 藤原敬三, 菊地正弘, 金沢佑治, 十名理紗, 原田博之, 内藤 泰: 術前動脈塞栓を併施し外切開による摘出を行った眼窩内孤立性繊維腺腫の一例. 第175回日耳鼻兵庫県地方部会, 西宮市, 2013.12. 1
7. 篠原尚吾, 岸本逸平, 菊地正弘, 占野尚人, 岡田明彦, 金沢佑治, 十名理紗, 原田博之, 宇佐美悠, 今井幸弘: 上部消化管同時性・異時性11重癌の一例. 第37回日本頭頸部癌学会, 東京, 2013. 6 .13-14
8. 篠原尚吾, 菊地正弘, 原田博之, 内藤 泰, 藤原敬三, 金沢佑治, 岸本逸平: 早期舌癌後発リンパ節転移症例の予後はどうして悪いのか? - T1T2pN+症例やanyTcN+症例との予後比較 -. 第175回日耳鼻兵庫県地方部会, 西宮市, 2013.12. 1
9. 篠原尚吾, 藤原敬三, 菊地正弘, 十名理紗, 金沢佑治, 岸本逸平, 原田博之: ご紹介頂いた症例呈示, 治療方針, 経過報告, 診療の話題. 第10回神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス, 神戸市, 2013.12.12
10. 篠原尚吾, 原田博之, 菊地正弘, 藤原敬三, 金沢佑治, 十名理紗, 岸本逸平, 内藤 泰: Tチューブと大胸筋皮弁により閉鎖しえた放射線性晩発性頸部遊離空腸穿孔例. 第28回近畿耳鼻咽喉科手術手技研究会, 大阪市, 2014. 1 .25
11. 塚田景大, 岩崎 聡, 茂木英明, 工 穰, 西尾信哉, 熊川孝三, 内藤 泰, 高橋晴雄, 東野哲也, 宇佐美真一: 残存聴力活用型人工内耳 (EAS: electric acoustic stimulation) の聴取能について: 低音部残存聴力との相関. 第58回日本聴覚医学会, 松本市, 2013.10.24-25
12. 十名理紗: 人工内耳手術後の中耳炎例の検討. 第27回近畿耳鼻咽喉科手術手技研究会, 大阪市, 2013. 4 .13
13. Tona R: Closing tympanic membrane perforations using atelocollagen and platelet-rich plasma (PRP). 20th IFOS World Congress, Seoul, Korea, 2013. 6 . 1 - 5
14. 十名理紗, 内藤 泰, 藤原敬三, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治, 岸本逸平, 原田博之: 人工内耳術後の中耳炎例の検討. 第75回耳鼻咽喉科臨床学会, 神戸市, 2013. 7 .11-12

15. 十名理紗, 藤原敬三, 塩見洋作, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治, 岸本逸平, 原田博之, 内藤 泰: 多血小板血漿を用いた鼓膜形成術. 第174回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸市, 2013. 7 .13
16. 十名理紗, 大西晶子:耳鼻咽喉科 人工内耳リハビリテーション. スタートアップミーティング, 神戸市(先端医療センター), 2013.11.18
17. 十名理紗, 藤原敬三, 塩見洋作, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治, 岸本逸平, 原田博之, 内藤 泰: 多血小板血漿を用いた鼓膜形成術. 第23回日本耳科学会, 宮崎市, 2013.11.24-26
18. 十名理紗: 難聴児の急性耳疾患. 第5回難聴と人工内耳に関する勉強会, 神戸市, 2014. 3 .29
19. 十名理紗, 藤原敬三, 内藤 泰, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治, 岸本逸平, 原田博之: 両側先天性外耳道閉鎖症に対して人工中耳 (MVS) 手術を行った例. 第176回日耳鼻兵庫県地方部会, 尼崎市, 2014. 3 .30
20. Naito Y : Conflict and cooperation of auditory and visual information processing in profoundly deafened subjects. 20th IFOS World Congress, Seoul, Korea, 2013. 6 . 1 - 5
21. Naito Y : Reorganization of cortical language networks in CI users. 20th IFOS World Congress, Seoul, Korea, 2013. 6 . 1 - 5
22. Naito Y : Cortical activation by speech in cochlear implant users. 20th IFOS World Congress, Seoul, Korea, 2013. 6 . 1 - 5
23. 内藤 泰: 難聴と遺伝子診断-人工内耳医療との接点 (講演). 第3回難聴と人工内耳に関する勉強会 (神戸市立医療センター中央市民病院), 神戸市, 2013. 8 .31
24. 内藤 泰: 日常外来で遭遇するめまいと難聴疾患~症例検討と最近の知見~ (講演). 奈良県耳鼻咽喉科医学会学術講演会, 奈良市, 2013.10.12
25. 内藤 泰: 脳機能からみた難聴 (ランチョンセミナー講演). 第58回日本聴覚医学会, 松本市, 2013.10.24-25
26. 内藤 泰: 大脳における前庭情報処理の意義 (教育講演). 第72回日本めまい平衡医学会, 大阪市, 2013.11.13-15
27. Naito Y: The current status of pediatric cochlear implantation in Japan (International Panel). 第23回日本耳科学会, 宮崎市, 2013.11.24-26
28. Naito Y: Update in Pediatric Otolaryngology New born hearing screening and early intervention in Japan (Symposium). The 12th Taiwan-Japan Conference on Otolaryngology Head and Neck Surgery, Taipei, 2013.12. 5 - 7
29. 内藤 泰: Cortical processing of acoustic signals and speech observed by brain imaging (講演). 熊本大学大学院セミナー 平成25年度医学・生命科学セミナー/D1 "Medicine & Life Science Seminar, 2013", 熊本市, 2013.12.11
30. 内藤 泰, 篠原尚吾: 当科診療の現況. 第10回神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス, 神戸市, 2013.12.12

31. 内藤 泰, 山崎博司, 藤原敬三, 岸本逸平, 西尾信哉, 宇佐美真一: 特異な蝸牛形態異常を呈したSCL26A4ホモ接合性変異例. 平成25年度厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業) 遺伝性難聴および外耳、中耳、内耳奇形に関する調査研究班, 東京都, 2014. 2 .11
32. 内藤 泰, 山崎博司, 藤原敬三, 岸本逸平, 西尾信哉, 宇佐美真一: 特異な蝸牛形態異常を呈したSLC26A4ホモ接合性変異例. 第176回日耳鼻兵庫県地方部会, 尼崎市, 2014. 3 .30
33. 原田博之, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治, 十名理紗, 岸本逸平: Discontinuous neck dissectionを施行したT1, T2舌癌の当科における成績. 第37回日本頭頸部癌学会, 東京, 2013. 6 .13-14
34. Harada H, Naito Y, Shinohara S, Fujiwara K, Kikuchi M, Kanazawa Y, Tona R, Kishimoto I: Analysis Of 857 Cases With In-Hospital Falls. 2nd Joint World Congress of ISPGR and Gait and Mental Function, Akita, Japan, 2013. 6 .22-26
35. 原田博之, 内藤 泰, 藤原敬三, 金沢佑治, 十名理紗, 岸本逸平: 当院における院内転倒861例の検討. 第72回日本めまい平衡医学会, 大阪市, 2013.11.13-15
36. Hiraumi H, Nagamine T, Morita T, Naito Y, Fukuyama H, Ito J: Age related cortical change in the effect of amplitude modulation of background noise on auditory-evoked fields. 20th IFOS World Congress, Seoul, Korea, 2013. 6 . 1 - 5
37. 藤原敬三, 内藤 泰, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治, 十名理紗, 岸本逸平, 原田博之: 鼻内内視鏡手術後に生じた真菌性鼻中隔膿瘍の1例. 第75回耳鼻咽喉科臨床学会, 神戸市, 2013. 7 .11-12
38. 藤原敬三, 内藤 泰, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治, 十名理紗, 岸本逸平, 原田博之: 耳科手術器具の工夫. 第23回日本耳科学会, 宮崎市, 2013.11.24-26
39. 諸頭三郎, 山本輪子, 山崎朋子, 十名理紗, 藤原敬三, 篠原尚吾, 内藤 泰: 当科における小児人工内耳術後成績. 第58回日本聴覚医学会, 松本市, 2013.10.24-25
40. 山本輪子, 諸頭三郎, 藤原敬三, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治, 十名理紗, 岸本逸平, 原田博之, 内藤 泰: 残存聴力型人工内耳(EAS: electric acoustic stimulation)の5症例の術後成績. 第174回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸市, 2013. 7 .13
41. 山本輪子, 諸頭三郎, 藤原敬三, 篠原尚吾, 十名理紗, 内藤 泰: 残存聴力活用型人工内耳(EAS: electric acoustic stimulation)の5症例の術後成績. 第58回日本聴覚医学会, 松本市, 2013.10.24-25

#### VIII. 4. 4 放射線治療科

1. Akimoto M, Nakamura M, Mukumoto N, Tanabe H, Yamada M, Matsuo Y, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Accuracy of a predictive model in IR-marker-based dynamic tumour tracking for lung cancer. 2nd European Society of Therapeutic Radiology and Oncology Forum, Geneva, 2013. 4 .19-23
2. 秋元麻未, 中村光宏, 椋本宜学, 田邊裕朗, 山田昌弘, 松尾幸憲, 門前 一, 溝脇尚志, 小久保雅樹, 平岡眞寛: Vero4DRT (MHI-TM2000)における予測モデルのベースラインドリフト補正. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013.10.18-20
3. 飯塚裕介, 松尾幸憲, 中村光宏, 宮部結城, 矢野慎輔, 山田昌弘, 溝脇尚志, 門前 一, 小久保雅樹, 平岡眞寛: 肝腫瘍に対するリアルタイムモニタリング下動体追尾照射の初期経験. 第22回日本定位放射線治療学会, 長島温泉, 2013. 5 .24-25



4. 飯塚裕介, 松尾幸憲, 中村光宏, 宮部結城, 矢野慎輔, 山田昌弘, 溝脇尚志, 門前 一, 小久保雅樹, 平岡眞寛:肝腫瘍に対するリアルタイムモニタリング下動体追尾照射の初期経験. 第49回日本肝癌研究会, 東京, 2013. 7. 11-12
5. 石原佳知, 澤田 晃, 宮部結城, 椋本宜学, 中村光宏, 植木奈美, 松尾幸憲, 溝脇尚志, 小久保雅樹, 平岡眞寛:ジンバル照射ヘッドによる動体追尾照射に対する四次元モンテカルロ線量計算手法. 第105回日本医学物理学学会, 横浜, 2013. 4. 11-14
6. Ishihara Y, Sawada A, Miyabe Y, Ono T, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Development of a four-dimensional Monte Carlo dose calculation system for intensity modulated dynamic tumor-tracking irradiation using a gimbaled x-ray head. 20th International Conference of Medical Physics, Brighton, 2013. 9. 1 - 4
7. 石原佳知, 澤田 晃, 宮部結城, 小野智博, 溝脇尚志, 小久保雅樹, 平岡眞寛:ジンバル照射ヘッドによる動体追尾強度変調照射に対する四次元モンテカルロ線量計算システムの開発. 第106回日本医学物理学学会, 大阪, 2013. 9. 16-18
8. 植木奈美, 松尾幸憲, 高山賢二, 中村光宏, 宮部結城, 田邊裕朗, 金子周史, 溝脇尚志, 門前 一, 澤田 晃, 小久保雅樹, 平岡眞寛:Vero4DRTを用いた動体追尾肺定位放射線治療の初期治療成績. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013.10.18-20
9. 植木奈美, 松尾幸憲, 高山賢二, 中村光宏, 宮部結城, 田邊裕朗, 金子周史, 溝脇尚志, 門前 一, 小久保雅樹, 平岡眞寛:Vero4DRTを用いた動体追尾肺定位放射線治療の治療成績. 第51回日本癌治療学会, 京都, 2013.10.24-26
10. 宇藤 恵, 今輩倍敏行, 小坂恭弘, 高山賢二, 新谷 堯, 君野元規, 片上信之, 小久保雅樹:当院における胸部食道癌化学放射線療法の治療成績. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013.10.18-20
11. Onimaru R, Shirato H, Shibata T, Hiraoka M, Ishikura S, Onishi H, Karasawa K, Matsuo Y, Kokubo M, Shioyama Y : A Phase I Study of Stereotactic Body Radiotherapy (SBRT) for Peripheral T2N0M0 Non-Small Cell Lung Cancer (NSCLC) : Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG0702). 55th American Society of Radiation Oncology, Atlanta, 2013. 9. 22-25
12. Ono T, Miyabe Y, Yamada M, Shiinoki T, Sawada A, Kaneko S, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Mechanical accuracy of dynamic tumor-tracking arc irradiation with a gimbaled x-ray head. 第105回日本医学物理学学会, 横浜, 2013. 4. 11-14
13. Ono T, Miyabe Y, Yamada M, Shiinoki T, Sawada A, Kaneko S, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Positioning accuracy of dynamic tumor-tracking during arc irradiation with gimbaled x-ray head. 2nd European Society of Therapeutic Radiology and Oncology Forum, Geneva, 2013. 4. 19-23
14. 小野智博, 宮部結城, 山田昌弘, 澤田 晃, 門前 一, 溝脇尚志, 小久保雅樹, 平岡眞寛:Vero4DRT (MHI-TM2000) のジンバル照射ヘッドによる照射野拡大法. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013.10.18-20
15. Ono T, Miyabe Y, Yamada M, Shiinoki T, Sawada A, Kaneko S, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Development of dynamic tumor-tracking conformal arc irradiation technique with a gimbaled x-ray head. 2nd International Symposium of Training Plan for Oncology Professionals, 大阪, 2014. 1. 18-19

16. Kishi T, Kokubo M, Shintani T, Uto M, Kosaka Y, Takayama K, Tomii K, Katakami N, Hiraoka M : Definitive concurrent chemoradiotherapy for patients over 75 years old with locally advanced non-small-cell lung cancer. 17th European Cancer Congress, Amsterdam, 2013. 9 .27 – 10. 1
17. 久保和輝, 田邊裕朗, 末岡正輝, 谷内 翔, 中井高宏, 高山賢二, 小久保雅樹 : Gafchromic EBT3を用いたIMRT線量分布検証におけるスキャン方法に関する基礎的検討. 第105回日本医学物理学会, 横浜, 2013. 4 .11 – 14
18. Kohnoike A, Moriyama M, Sawada A, Suzuki Y, Kokubo M, Hiraoka M : Improvement of collision detection simulator for Vero4DRT using software quality metrics. Asia-Oceania Conference of Medical Physics 2013, Singapore, 2013.12.12 – 14
19. Kokubo M, Kishi T, Uto M, Shintani T, Ueki N, Fujita S, Kaji R, Hata A, Takayama K, Katakami N : Feasibility of stereotactic body radiation therapy with concurrent chemotherapy for patients over 75 years old with Stage I non-small-cell lung cancer. 15th World Conference of Lung Cancer, Sydney, 2013.10.27 – 30
20. 小久保雅樹, 松尾幸憲, 植木奈美, 藤田史郎, 高山賢二, 片上信之, 平岡眞寛 : Vero4DRTを用いた動体追尾肺定位放射線治療の初期臨床経験. 第54回日本肺癌学会, 東京, 2013.11.21 – 22
21. 小坂恭弘, 小久保雅樹, 篠原尚吾, 菊地正弘, 金沢佑治 : 当院における下咽頭癌の放射線治療成績. 第37回日本頭頸部癌学会, 東京, 2013. 6 .13 – 14
22. Kosaka Y, Kokubo M, Takayama K, Katakami N : Patterns of failure after stereotactic body radiotherapy for histologically proven Stage I non-small-cell lung cancer. 17th European Cancer Congress, Amsterdam, 2013. 9 .27 – 10.1
23. 小坂恭弘, 小久保雅樹, 高山賢二, 今葦倍敏行, 宇藤 恵, 新谷 堯, 君野元規, 北 正人 : 当院における子宮頸癌の放射線治療成績. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013.10.18 – 20
24. 澤田 晃, 鴻池 輝, 森山真光, 石原佳知, 椎木健裕, 宮部結城, 鈴木保恒, 溝脇尚志, 小久保雅樹, 平岡眞寛 : 放射線治療機器における干渉検知シミュレータの開発. 第105回日本医学物理学会, 横浜, 2013. 4 .11 – 14
25. Sawada A, Kohnoike T, Moriyama M, Ishihara Y, Shiinoki T, Miyabe Y, Suzuki Y, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Development of an individual patient-specific collision detection simulator among gantry, couch, and patient for Vero4DRT. 2nd European Society of Therapeutic Radiology and Oncology Forum, Geneva, 2013. 4 .19 – 23
26. Sawada A, Kohnoike A, Moriyama M, Ishihara Y, Shiinoki T, Miyabe Y, Suzuki Y, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Development of a patient - specific collision detection simulator among gantry, couch, and patient for Vero4DRT. Asia-Oceania Conference of Medical Physics 2013, Singapore, 2013.12.12 – 14
27. 新谷 堯, 小坂恭弘, 小久保雅樹, 高山賢二, 今葦倍敏行, 宇藤 恵, 君野元規, 富井啓介 : 脳転移に対して放射線治療を施行した非小細胞肺癌患者の予後. 京都放射線腫瘍研究会, 京都, 2013. 9 .14
28. 新谷 堯, 小坂恭弘, 小久保雅樹, 高山賢二, 今葦倍敏行, 宇藤 恵, 君野元規, 富井啓介 : 脳転移に対して放射線治療を施行した非小細胞肺癌患者の予後. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013.10.18 – 20

29. Sueoka M, Sawada A, Ishihara Y, Nakai T, Tanabe H, Kubo K, Taniuchi S, Okada Y, Takayama K, Suzuki Y, Kokubo M, Hiraoka M : Development of a new hybrid dynamic tumor-tracking irradiation technique using Vero4DRT; Preliminary study. 20th International Conference of Medical Physics, Brighton, 2013. 9. 1 - 4
30. Sueoka M, Sawada A, Ishihara Y, Nakai T, Tanabe H, Kubo K, Taniuchi S, Okada Y, Suzuki Y, Okumachi H, Takayama K, Kokubo M, Hiraoka M : Development of a new hybrid dynamic tumor-tracking irradiation technique using Vero4DRT; A preliminary study. Asia-Oceania Conference of Medical Physics 2013, Singapore, 2013. 12. 12 - 14
31. Takamiya M, Nakamura M, Akimoto M, Yamada M, Matsuo Y, Mizowaki T, Monzen H, Kokubo M, Hiraoka M, Ito A : Assessment of target localization accuracy estimated from radiopaque markers in dynamic tumor tracking irradiation. American Association of Physicists in Medicine Spring Clinical Meeting, Denver, 2014. 3. 15 - 18
32. 高山賢二, 小久保雅樹, 今葦倍敏行, 小坂恭弘, 宇藤 恵, 新谷 堯, 君野元規 : 先端医療センターおよび神戸市立医療センター中央市民病院におけるIMRT. 第38回神戸放射線腫瘍懇話会, 神戸, 2013. 8. 30
33. 高山賢二, 岸 高宏, 新谷 堯, 小坂恭弘, 今葦倍敏行, 河野由香, 岡田卓也, 矢野敏史, 宇都宮紀明, 川喜田睦司, 小久保雅樹 : 連結シードによる前立腺癌 I - 125密封小線源永久挿入治療の初期経験. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013. 10. 18 - 20
34. 高山賢二 : 国産放射線治療装置Vero4DRT ~開発から臨床まで~. 第63回中国・四国放射線治療懇話会特別講演, 高松, 2013. 12. 14
35. 竹下純平, 秦 明登, 加地玲子, 真砂勝泰, 藤田史郎, 片上信之, 高山賢二, 小久保雅樹 : 当院における動体追尾肺定位放射線治療を実施した6例に関する検討. 第98回日本肺癌学会関西支部会, 大阪, 2013. 7. 27
36. 田中広祐, 小栗知世, 朴 将哲, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 吉田公秀, 樋田豊明, 矢田部恭, 古平 毅, 片上信之, 高山賢二, 小久保雅樹 : ALK, EGFR遺伝子変異陽性肺腺癌 (手術不能3期) における根治的放射線化学療法の有効性. 第54回日本肺癌学会, 東京, 2013. 11. 21 - 22
37. 田邊裕朗, 末岡正輝, 椋本宜学, 中村光宏, 久保和輝, 植木奈美, 松尾幸憲, 高山賢二, 澤田 晃, 小久保雅樹, 平岡眞寛 : 腹部表面のIRマーカーを用いた動体追尾照射におけるマーカー位置変動の追尾精度への影響. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013. 10. 18 - 20
38. 中井高宏, 澤田 晃, 田邊裕朗, 末岡正輝, 久保和輝, 谷内 翔, 椎木健裕, 石原佳知, 高山賢二, 小久保雅樹 : Vero4DRT (MHI-TM2000) を用いた動体追尾照射における皮膚被曝線量を考慮したkV透視画像の最適撮影条件に関する検討. 第105回日本医学物理学会, 横浜, 2013. 4. 11 - 14
39. Nakai T, Sawada A, Tanabe H, Sueoka M, Kubo K, Taniuchi S, Shiinoki T, Ishihara Y, Takayama K, Kokubo M : Investigation of well-balanced kV x-ray imaging conditions between skin dose and image quality for dynamic tumor-tracking irradiation using Vero4DRT. 2nd European Society of Therapeutic Radiology and Oncology Forum, Geneva, 2013. 4. 19 - 23
40. 中村 晶, 溝脇尚志, 板坂 聡, 中村光宏, 石原佳知, 椋本宜学, 秋元麻未, 松尾幸憲, 門前 一, 小久保雅樹, 平岡眞寛 : 腺癌に対する動体追尾強度変調放射線治療の実現. 第305回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪, 2013. 11. 2

41. Nakamura A, Mizowaki T, Itasaka S, Nakamura M, Ishihara Y, Mukumoto N, Akimoto M, Matsuo Y, Kokubo M, Hiraoka M : First implementation of intensity-modulated dynamic tumor-tracking RT in pancreatic cancer using a gimbaled linac. FIRST Joint International Symposium, 札幌, 2014. 2 .24
42. Nakamura M, Akimoto M, Mukumoto N, Tanabe H, Yamada M, Ueki N, Matsuo Y, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Influence of predictive modelling duration on the predictive accuracy of IR-marker-based dynamic tumour tracking. 2nd European Society of Therapeutic Radiology and Oncology Forum, Geneva, 2013. 4 .19 – 23
43. 中村光宏, 秋元麻未, 椋本宜学, 山田昌弘, 田邊裕朗, 植木奈美, 松尾幸憲, 溝脇尚志, 小久保雅樹, 平岡眞寛 : 予測モデル作成時間の違いによる予測精度への影響. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013.10.18 – 20
44. Nakamura M, Miyabe Y, Ishihara Y, Nakamura A, Matsuo Y, Itasaka S, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Realization of intensity-modulated dynamic tumor-tracking radiotherapy with real-time monitoring using the gimbaled x-ray head of Vero4DRT. 4D Treatment Planning Workshop 2013 at PSI, Villigen, Switzerland, 2013.11.28 – 29
45. Nakamura M, Mukumoto N, Yamada M, Takahashi K, Miyabe Y, Nakamura A, Itasaka S, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Dosimetric quality assurance for intensity-modulated dynamic tumor-tracking radiotherapy with Vero4DRT. FIRST Joint International Symposium, 札幌, 2014. 2 .24
46. 藤田史郎, 竹下純平, 田中広祐, 秦 明登, 加地玲子, 高山賢二, 小久保雅樹, 片上信之 : Multiple primary malignancies in Japanese patients with non-small cell lung cancer. 第11回日本臨床腫瘍学会, 仙台, 2013. 8 .29 – 31
47. 藤田史郎, 加藤了資, 高島健司, 竹下純平, 秦 明登, 加地玲子, 真砂勝泰, 小久保雅樹, 片上信之 : 非小細胞肺癌症例における多重癌の検討. 第54回日本肺癌学会, 東京, 2013.11.21 – 22
48. Matsuo Y, Ueki N, Takayama K, Nakamura M, Miyabe Y, Tanabe H, Kaneko S, Mizowaki T, Monzen H, Sawada A, Kokubo M, Hiraoka M : Dynamic Tumor Tracking Radiotherapy with Real-Time Monitoring using Vero4DRT. 15th World Conference of Lung Cancer, Sydney, 2013.10.27 – 30
49. Miyabe Y, Nakamura M, Ishihara Y, Nakamura A, Matsuo Y, Itasaka S, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Four-dimensional dose calculation in dynamic tumor tracking irradiation using the gimbaled x-ray head of Vero4DRT. 4D Treatment Planning Workshop 2013 at PSI, Villigen, Switzerland, 2013.11.28 – 29
50. Mukumoto N, Nakamura M, Yamada M, Takahashi K, Miyabe Y, Kaneko S, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Development of a four-axis moving phantom for quality assurance of surrogate signal-based dynamic tumor tracking irradiation. Asia-Oceania Conference of Medical Physics 2013, Singapore, 2013.12.12 – 14
51. Yamada M, Sawada A, Takahashi K, Mukumoto N, Ueki N, Miyabe Y, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Automatic detection of spherical gold fiducials using discrimination thresholds depending nonlinearly on background pixel intensity. 55th American Association of Physicists in Medicine, Indianapolis, 2013. 8 . 4 – 8
52. 渡邊大悟, 澤田 晃, 鴻池 輝, 末岡正輝, 小久保雅樹, 森山真光 : 光学位置センサを用いた放射線治療装置の衝突検知シミュレータの精度評価. 電子情報通信学会関西支部第19回学生会研究発表講演会, 京都, 2014. 2 .28

#### VIII. 4. 5 看護部

1. 前田待子, 藤原恵美子, 今北千里, 平岡美希, 植田奈津実, 池添絵里, 毛利京子, 藤森真理: タブレット端末を使用して移植前オリエンテーションを行うことの効果～看護師の視点から～. 第36回日本造血細胞移植学会総会, 沖縄, 2014. 3. 7

#### VIII. 4. 6 薬剤科

1. 入江 慶, 平本展大, 橋本尚子, 石川隆之, 岡田 裕: 造血幹細胞移植におけるVCM血中濃度の個体内変動に関する後ろ向き調査. 第36回日本造血細胞移植学会, 沖縄, 2014. 3. 7 - 9

#### VIII. 4. 7 臨床検査技術科

1. 宇治佑貴子, 物部真恵, 加藤真理愛, 則政文子, 馬場理江, 大塚博幸, 金子祐一郎: 深在性真菌症における $\beta$ -DグルカンとCRP同時測定の有用性. 第53回日臨技近畿支部医学検査学会, 福井, 2013.10.19-20
2. 加藤真理愛, 馬場理江, 則政文子, 物部真恵, 宇治佑貴子, 大塚博幸, 金子祐一郎: 下肢血流評価におけるパルスオキシメーター法の有用性について. 第53回日臨技近畿支部医学検査学会, 福井, 2013.10.19
3. 則政文子, 物部真恵, 宇治佑貴子, 加藤真理愛, 馬場理江, 大塚博幸, 金子祐一郎: i-densyTMIS-5310 の有用性について. 第53回日臨技近畿支部医学検査学会, 福井, 2013.10.19-20
4. 馬場理江, 川本篤彦, 金子祐一郎: 下肢生理学的検査による血管再生治療の有効性評価－創傷治癒例と非治癒例の比較－. 第54回日本脈管学会総会, 東京, 2013.10.11
5. 物部真恵, 則政文子, 宇治佑貴子, 加藤真理愛, 馬場理江, 山下映子, 大塚博幸, 金子祐一郎: 造血幹細胞移植後患者におけるサイトメガロウイルス検査の陽性化時期についての検討. 第53回日臨技近畿支部医学検査学会, 福井, 2013.10.19-20

#### VIII. 4. 8 放射線技術科

1. Akamatsu G, Taniguchi T, Kidera D, Kihara K, Mikasa S, Tsutsui Y, Sasaki M: A new method to evaluate the PET image quality based on the image noise and reproducibility of recovery coefficients. The 69th annual congress of the Japanese Society of Radiological Technology, Yokohama, 2013. 4. 11 - 14
2. Akamatsu G, Uba K, Taniguchi T, Mitsumoto K, Narisue A, Tsutsui Y, Sasaki M: A comparison of the imaging performance of 39- and 52-ring time-of-flight PET/CT scanners using a NEMA body phantom. 60th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, Vancouver, 2013. 6. 8 - 12
3. Akamatsu G, Taniguchi T, Kidera D, Kihara K, Mikasa S, Komiya I, Sasaki M: A new method to evaluate the PET image quality based on the image noise and reproducibility of recovery coefficients. 60th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, Vancouver, 2013. 6. 8 - 12
4. 赤松 剛: 再構成条件: Point spread function補正とTime of flight補正の効果. PETサマーセミナー2013, 金沢市, 2013. 8. 23-25
5. 赤松 剛, 西田広之, 西尾知之, 井狩彌彦, 谷口隆文, 木寺大輔, 三笠翔平, 筒井悠治, 奥町英世, 千田道雄, 佐々木雅之: 異なる2機種のPET/CT装置におけるpoint-spread function補正とtime-of-flight補正の効果. 第33回日本核医学技術学会総会学術大会, 福岡市, 2013.11. 8 - 10
6. 栗山 巧, 大西久美子, 酒井慎治, 奥町英世: DSA撮影による頭蓋内ステントの描出について. 第69回日本放射線技術学会学術総会, 横浜, 2013. 4. 11 - 14

7. 栗山 巧, 谷内 翔, 赤松 剛, 毛利友里恵, 酒井慎治, 奥町英世, 坂井千秋, 今村博敏, 坂井信幸: DSA撮影による頭蓋内ステントの描出について. 第29回日本脳神経血管内治療学会, 新潟, 2013.11.21-23
8. 栗山 巧: 脳血管内手術における画像支援のポイント～術前から術後までステントアシスト法に対して用いる技術として～. 第29回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 新潟, 2013.11.21-23
9. 栗山 巧, 谷内 翔, 赤松 剛, 毛利友里恵, 酒井慎治, 奥町英世: DSA画像を用いた流速の評価. 第57回日本放射線技術学会近畿部会学術大会, 滋賀, 2014.1.26
10. 栗山 巧: 脳血管領域IVRにおける読影の実際. 平成25年度近畿地域放射線技師会学術大会シンポジスト, 京都, 2014.2.16
11. 末岡正輝: 固体ファントムで測定する際におさえないといけないこと. 第116回放射線治療かたろう会一泊研修, 神戸セミナーハウス, 神戸, 2013.5.25-26
12. M.Sueoka, A.Sawada, Y.Ishihara, T.Nakai, H.Tanabe, K.Kubo, S.Taniuchi, Y.Okada, Y.Suzuki, K.Takayama, M.Kokubo, M.Hiraoka: Development of a new hybrid dynamic tumor-tracking irradiation technique using Vero4DRT; Preliminary study. The International Conference on Medical Physics (ICMP) 2013, Brighton International Centre, UK, 2013.9.1-4
13. M.Sueoka, A.Sawada, Y.Ishihara, T.Nakai, H.Tanabe, K.Kubo, S.Taniuchi, Y.Okada, Y.Suzuki, H.Okumachi, K.Takayama, M.Kokubo, M.Hiraoka: Development of a new hybrid dynamic tumor-tracking irradiation technique using Vero4DRT; A preliminary study. 13th Asia-Oceania Congress of Medical Physics (AOCMP) 2013, Health Promotion Board, Singapore, 2013.12.12-14
14. 田邊裕朗, 末岡正輝, 椋本宜学, 中村光宏, 久保和輝, 植木奈美, 松尾幸憲, 高山賢二, 澤田 晃, 小久保雅樹, 平岡真寛: IR式追尾照射における相関モデル取得時呼吸範囲外の呼吸波が予測精度に与える影響. 日本放射線腫瘍学会第26回学術大会, 青森, 2013.10.19
15. 谷内 翔, 栗山 巧, 赤松 剛, 毛利友里恵, 岡田雄基, 奥町英世: ステントアシスト法を用いた脳動脈瘤コイル塞栓術におけるDSA画像による血流速の評価について. 日本放射線技術学会近畿部会第57回学術大会, 大津, 2014.1.26
16. 谷口隆文, 木寺大輔, 三笠翔平, 赤松 剛, 光元勝彦, 筒井悠治, 佐々木雅之: TOF補正によるPET画像のノイズ低減効果の検討. 第33回日本核医学技術学会総会学術大会, 福岡市, 2013.11.8-10
17. 西田広之, 赤松 剛, 西尾知之, 井狩彌彦, 大西章仁, 千田道雄: 大きなボディファントムによるTOF+PSF画像再構成法を用いたPET画像の評価. 第53回日本核医学会学術総会, 福岡市, 2013.11.8-10
18. 毛利友里恵, 酒井慎治, 栗山 巧, 奥町英世, 三浦行矣: シミュレーションソフトを用いた肝前区域の亜区域分類の妥当性の検討-特にS5を中心に-. 第8回肝癌治療シミュレーション研究会, 東京, 2013.9.28
19. 毛利友里恵, 酒井慎治, 栗山 巧, 奥町英世, 三浦行矣: シミュレーションソフトを用いた肝前区域の亜区域分類の妥当性の検討-特にS5を中心に-. 神戸市技師会, 神戸, 2013.11.9
20. 毛利友里恵, 岡田雄基, 栗山 巧, 奥町英世, 三浦行矣: 2つの肝シミュレーションソフトを用いた肝容積の比較検討. 第25回兵庫県放射線技師会学術大会, 神戸, 2013.11.24

#### VIII. 4. 9 栄養管理科

1. 内田雅子, 笠原正登, 三浦由美子, 今本美幸, 向山政志, 上嶋健治: CKD合併脂質異常症患者を対象にしたASUCA Trialにおける栄養指導. 第58回日本透析医学会学術集会, 福岡国際会議場, 2013. 6 .22
2. 三浦由美子, 今本美幸, 内田雅子, 高木和則, 笠原正登: CKD合併脂質異常症を対象にしたASUCA Trialにおける栄養指導. 第1回日本腎不全栄養研究会学術集会, 中外製薬株式会社 横浜支店, 2013. 7 .21

## 編集後記

「世紀の発見」、「夢の万能細胞」としてSTAP細胞が華々しく登場したのは平成26年はじめでした。そして論文を執筆した若い女性研究者はリケジョの星として一躍脚光を浴びました。しかし、その11ヵ月後検証実験でSTAP論文は不正と認定され、手元に残った言葉は捏造(ねつぞう)の2文字でした。社会が科学とどう向き合うかを考えさせられましたが、今後につながる展望がないまま葬られようとしています。

病院紀要第53巻(平成26年度)には、総説2編、原著3編、症例報告1編が掲載されています。巻頭は、先端医療センター病院長の平田結喜緒先生の総説「原発性アルドステロン症(PA)診療アップデート」です。2次性高血圧のなかでも最近では最も頻度が高いと注目を集めている原発性アルドステロン症について、その病態、成因、そして診療ガイドラインに沿って、現在の課題と今後の展望を概説し、最後にリスクホルモンとしてのアルドステロンの意義について解説されています。2編目は中央市民病院医療情報部の樋口弘実氏らの総説「情報システム院内開発10年間の取組みと実際」です。2004年から院内職員による医療情報システムの院内開発に着手してきた中で、業務の効率化、医療安全、業務支援などに多くの成果を上げてきた一方で、解決すべき課題や問題点も存在し、今後ともそれらに対応していく使命を述べられています。続く原著3編には、分子標的薬「スニ

チニブの甲状腺機能に及ぼす影響」についての検討、「導出右側胸部誘導・背部誘導心電図の精度」に関する評価、「禁煙外来の治療成績」が報告されています。症例報告では、リンパ節転移で発見され、最終的に遺伝子検査で原発巣不明の悪性黒色腫と診断された予後不良症例が紹介されています。いずれも興味深い内容で読み応えのあるものです。

お忙しい中、論文や業績を投稿していただいた医師、職員の方々、膨大な編集業務にご協力いただいた事務局の皆様には心から感謝申し上げます。

神戸市立医療センター西市民病院

副院長 原田 明



## 神戸市立病院紀要投稿規程

1. 神戸市立病院紀要は、地方独立行政法人神戸市市民病院機構、西神戸医療センター及び先端医療センターに勤務する医療従事者の研究論文を掲載し、学会報告、その他の学術活動（前年度における業績）を広く記録し、年1回の発刊とする。
2. 投稿者は、地方独立行政法人神戸市市民病院機構、西神戸医療センター及び先端医療センターに勤務する医療従事者に限る（共著はさしつかえない）。編集委員会で依頼した原稿は、この限りでない。
3. 投稿論文の内容は、他誌に未発表であり、現在投稿中ではないこと。
4. 原稿の採否は、編集委員会が決定する。また、原稿の体裁、長さ、文体などについて著者に変更を求められることがある。なお、掲載済の原稿は返却しない。
5. 原稿の種類および原稿枚数
  - (1) 論文（総説）…………… 字数制限なし  
 （原著）…………… 16000字以内  
 （症例報告）…………… 8000字以内
  - (2) 医学振興事業等研究費補助による業績報告…………… 16000字以内
  - (3) 学会報告・論文発表（業績リスト）…………… 診療科ごとに提出
  - (4) C P C 報告…………… 1 症例2600字以内  
 （所定の様式を使用）

6. 執筆要領は、次による。
  - A. 論文（総説、原著、症例報告）
    - (1) 執筆様式は次の通りとする。

①	論文表題（和文）
	執筆者所属・氏名（和文）
②	要旨（400字以内）（和文）
	キーワード（5コ以内）
③	論文表題（英文）
	執筆者所属・氏名（英文）
	※英文氏名は、名を先、姓を後（フルネーム）とする。
④	Abstract（200語以内）（英文）
	Key words（5コ以内）（小文字）（英文）
⑤	本論
	はじめに（見出し番号は付けない）
	…………… 大見出し番号 I II III～を用いる。
	…………… 中 “ 1 2 3 ～ ”
	…………… 小 “ (1)(2)(3)～ ”
	おわりに（必ずしも必要ない。見出し番号は付けない）
⑥	文 献

- (2) 原稿は、A 4判用紙に34字×25行で、上下左右に約3cmの余白をとり、12ポイント以上で印字すること。数字は半角文字を用いること。  
 英文原稿も用紙はA 4判を用い、上下左右に約3cmの余白をとること。字の大きさは12ポイントを原則として、ふさわしいピッチで、行間はダブルスペースとすること。  
 また、本文についてはプリントアウトしたものと同一原稿のデータを提出すること。データの形式は、本文はWordとする。  
 原稿中所定の用紙のほか、タイプ用紙、方眼紙、図表は、すべてA 4判を使用し、写真は、手札型のものをA 4判用紙に添付する。
- (3) 英文抄録は、表題、著者名、所属及び本文で構成する。本文の行間はダブルスペースとする。
- (4) 表現法については、下記の点に留意する。
  - 1) 本文の中で文献を引用する際には、引用番号は本文の引用順とし、「三輪ら<sup>1-3)</sup>」のように右肩に番号をふる。
  - 2) 略語はできるだけ使わない。止むを得ず使う時は、初出時に正式名を記した後に（ ）内に記入する。
- (5) 図、表については、下記の点に留意する。
  - 1) 図は説明文を別紙に書くこととする。
  - 2) 図、表は説明も含め、英語とするのが望ましい。ただし、図、表が日本語の場合は説明も日本語とする。
  - 3) 挿入箇所を本文の欄外に指定する。
  - 4) 写真は白黒を原則とする。カラー写真は、編集委員会の承認したものに限る。提出方法は、Excel、

- Word等のデータも提出すること。
- 5) 電子顕微鏡写真にはスケールを入れる。
  - (6) 専門用語以外は、当用漢字、新かなづかいを用い、横書とする。
  - (7) 文献の記載方法は次の書式による。（Index Medicus、医学中央雑誌に従う）
    - 1) 雑誌の場合  
 著者名：表題、雑誌名 巻：初頁－終頁、発行年
    - 2) 単行本の場合  
 著者名：書名、版数、発行社名、発行地名、発行年
    - 3) 分担執筆による単行本の中の分担部分の引用の場合  
 著者名：分担執筆部分の表題、書名、編集者名、版数、発行社名、発行地名、初頁－終頁、発行年
    - 4) 雑誌名は、その雑誌指定の略名がある場合はそれを用い、ない場合はIndex Medicusあるいは「日本医学図書館協会編、日本医学雑誌名表」にあるものを用いること。
    - 5) 発行年は西暦を用いること。
    - 6) ページは通巻ページを用いること。
    - 7) 著者名は、3名までは全員を記載する。4名以上の場合は最初の3名を記載し、「他」あるいは外国語文献の場合は「et al」を付する。
    - 8) 実例
      - 1) Beltramin AU, Hertzog ME : Sleep and bed-time behavior in preschool-aged children. Pediatrics 71 : 153-158, 1983
      - 2) 鈴木義之：細胞生物学からみた遺伝性酵素欠損症の病態。日児誌 88 : 405-408, 1984
      - 3) Cohen MM : The child with multiple birth defects. Raven press, New York, 1982
      - 4) 松永 英：日本における遺伝性疾患の頻度。遺伝相談、日暮 眞 編、小児科Mook32, 金原出版, 東京, 1-11, 1984
      - 5) Dorken B, Moller P, Pezzuto A, et al : CDw75. Lymphocyte typing IV:white cell differentiation antigens.In: Knapp W, Dorken B, Gilks WR, et al,eds, Oxford University Press, New York, 109-110, 1989
  - (8) 執筆者は、原稿を各施設の庶務（総務）係へ提出すること。
    - B. 医学振興事業等研究費補助による業績報告
      - (1) 執筆要領は、論文(6.A参照)の執筆要領に準ずる。
      - (2) 別冊は作成しない。
    - C. 学会報告・論文発表（業績リスト）
      - (1) 以下の必要記入事項があれば提出様式は自由であるが、Word形式で提出すること。診療科ごとに提出する。  
 ≪論文発表≫
        - ①雑誌の場合  
 著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：表題、雑誌名 巻：初頁－終頁、発行年
        - ②単行本（分担執筆）の場合  
 著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：分担執筆部分の表題、書名、編集者名、版数、発行社名、発行地名、初頁－終頁、発行年
        - ③単行本（単独での執筆）の場合  
 著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：書名、版数、発行社名、発行地名、発行年
 ≪学会報告≫  
 発表者全員（筆頭演者から順番に記載）：表題、学会名、開催場所、発表年月日（※西暦で日にちまで記載）
        - (2) 学会報告等で発表した学会での研究発表、症例報告、講演などは漏れなく投稿する。
    - D. C P C 報告
      - (1)必ず所定の様式を使用する。  
 （所定の様式は各施設の庶務（総務）係へ請求する）
      - (2)図表を含めて2600字以内、原本とデータを提出する。
    - E. その他
      - (1) 初校は、著者校正とする。
      - (2) 別冊は、20部まで無料とする。これを超える場合とカラー図版の実費は原則として著者が負担するものとする。

神戸市立病院紀要編集委員

中央市民病院 副 院 長 石 原 隆 (委員長)

副 院 長 内 藤 泰

泌尿器科部長 川喜田 睦 司

循環器内科部長 古 川 裕

西市民病院 副 院 長 原 田 明

呼吸器内科部長 富 岡 洋 海

西神戸医療センター 皮 膚 科 部 長 堀 川 達 弥

小 児 科 部 長 松 原 康 策

先端医療センター 診 療 部 長 橋 本 尚 子

(平成26年12月現在)

神戸市立病院紀要第53巻

平成 27 年 3 月 31 日発行

編 集 神戸市立病院紀要編集委員会

発 行 神戸市中央区港島南町 2 丁目 1 - 11

市民病院前ビル 3 階

地方独立行政法人 神戸市民病院機構

印 刷 地方独立行政法人 神戸市民病院機構

印刷所 共栄印刷株式会社